

厚生労働科学研究費補助金
(政策科学総合研究事業 (政策科学推進研究事業))

社会構造の変化を踏まえた保健医療にかかる
施策立案に資する国際疾病分類の国内導入のため
の研究

令和4年度 総括・分担研究報告書

研究代表者 小川 俊夫
(摂南大学農学部食品衛生学科公衆衛生学教室)

令和5 (2023) 年3月

目 次

I. 総括研究報告書

社会構造の変化を踏まえた保健医療にかかる施策立案に資する国際疾病分類の国内導入のための研究	1
今村 知明 小川 俊夫	

II. 分担研究報告書

ICD-11改訂と国内導入に関する動向整理	6
小川 俊夫	

ICD-11V国内導入のための支援ツール作成 ; 採点用リファレンスガイドの更新および既存の評価尺度との比較	48
向野 雅彦 小松 雅代	

ICD-11準拠の新たな死因簡単分類の構築に関する研究	56
小川 俊夫 滝澤 雅美	

ICD-11と標準病名マスターとのマッピングに関する研究	53
今井 健	

III. 研究成果の刊行に関する一覧表	167
-------------------------------	-----

厚生労働科学研究費補助金(政策科学総合研究事業(政策科学推進研究事業))
「社会構造の変化を踏まえた保健医療にかかる施策立案に資する
国際疾病分類の国内導入のための研究」

分担研究報告書(令和4年度)

社会構造の変化を踏まえた保健医療にかかる施策立案に資する
国際疾病分類の国内導入のための研究

研究分担者 今村知明 奈良県立医科大学公衆衛生学教室

研究代表者 小川俊夫 摂南大学農学部食品栄養学科公衆衛生学教室

研究要旨

本研究は、ICD-11 の円滑な国内導入と普及・利活用に向け、ICD-11 国内導入に資する各種分析を行い、その結果を基礎資料として取りまとめ、厚労省や各学会などの意見集約と調整につなげ、情報発信を行うことを目的とする。具体的には、ICD-11 国内導入のわが国の公的統計に与える影響を考察し、ICD-11 の円滑な国内導入に資する知見を集積すること、わが国で標準的に利用されている臨床・研究を含む保健医療情報分野における ICD-11 の普及や利活用に資する基礎資料を作成すること、ICD-11 の国内導入に向けて ICD 改訂動向や各国における ICD-11 導入状況等について情報収集しわが国に適した ICD-11 の実現に資する基礎資料を作成すること、である。

研究3年目の本年度は、WHO 主催の国際会議などに参加して ICD 改訂動向に関する情報収集を行なったほか、医療情報学連合大会において ICD 改訂に関するシンポジウムを開催して、ICD 改訂に関して意見集約と発信を実施した。ICD-11 の国内導入は、わが国の医療全般に関わることからその影響は非常に大きい。わが国の実態を踏まえた適切な医療情報を将来に渡って確保するためには、ICD 改訂動向に関する情報収集と意見発信を行うほか、ICD-11 の分類体系や内容を正確に把握しわが国への影響について詳細に考察する必要がある。

研究代表者 小川俊夫(摂南大学)
研究分担者 今村知明(奈良県立医科大学)
向野雅彦(北海道大学)
今井 健(東京大学)
小松雅代(大阪大学)
滝澤雅美(国際医療福祉大学)

下記の3つの目的から構成される。

本研究の第一の目的は、ICD-11 国内導入のわが国の公的統計に与える影響を考察し、ICD-11 の円滑な国内導入に資する知見を集積することである。ICD-11 の国内導入に伴い、人口動態統計や患者調査など各種公的統計への影響が考えられる。ICD-10 から ICD-11 への変更がそれぞれの公的統計に与える影響について、分類項目粒度・実データに対する集計影響の2つの観点から検証を行い、課題を抽出する。

第二の目的は、わが国で標準的に利用されている臨床・研究を含む保健医療情報分野における ICD-11 の普及や利活用に資する基礎資料を作成

A. 研究目的

本研究は、ICD-11 の円滑な国内導入と普及・利活用に向け、ICD-11 国内導入に資する各種分析を行い、その結果を基礎資料として取りまとめ、厚労省や各学会などの意見集約と調整につなげ、情報発信を行うことを目的とする。具体的には、

することである。具体的には、従来広く用いられてきた標準病名マスターと現在進められている ICD-11 用語和訳作業結果との対応に関する基礎資料を作成する。また、ICD-11 の利活用の一環として、ICD-11V 章の実際の活用事例の作成を通じて、わが国における ICD と ICF の活用について考察を実施する。

第三の目的は、ICD-11 の国内導入に向けて ICD 改訂動向や各国における ICD-11 導入状況等について 情報収集し、わが国に適した ICD-11 の実現に資する基礎資料を作成することである。

ICD-11 の国内導入は、わが国の医療全般に関わることからその影響は非常に大きい。わが国の実態を踏まえた適切な医療情報を将来に渡って確保するためには、ICD 改訂動向に関する情報収集と情報発信を行うほか、ICD-11 の分類体系や内容を正確に把握しわが国への影響について詳細に考察する必要がある。

B. 研究方法

本研究は、(1) ICD 改訂と国内導入に関する動向調査、(2) ICD-11 の公的統計への影響分析、(3) ICD-11 導入における医学用語集の改訂に関する研究、の 3 つの研究より構成される。

(1) ICD 改訂と国内導入に関する動向調査

本研究では研究代表者、研究分担者などより構成される研究班を組織したうえで、各種会議への参加などを通じて、ICD 改訂動向、ニーズ調査を実施する。また、生活機能に関する ICD-11 V 章を詳細に分析し、また ICD-11 V 章の実際の活用事例の作成を通じ、ICD と ICF との相互利用の可能性について考察する。

研究 3 年目の本年は、WHO-FIC 年次会議への参加などにより ICD 改訂動向の調査を行ったほか、第 42 回医療情報学連合大会に参加して、ICD 国内導入に関する公募シンポジウム「ICD-11 国内適用の現状と課題」を開催した。また、ICD-11V 国内導入のための支援ツールの作成と採点リファレンスガイドの更新および既存の評価尺度との比較分析を行った。

(2) ICD-11 の公的統計への影響分析

ICD-11 導入が死亡統計（人口動態統計）、罹患統計（患者調査）など公的統計に与える影響について検証を行い、課題を抽出することを目的として実施する。

研究 3 年目の本年は、昨年度に実施した ICD-11 準拠の新たな死因簡単分類の作成の検討を用いて、ICD-11 準拠の新たな疾病分類の構築を、WHO により公開されている ICD-10・ICD-11 のマッピングテーブルを用いて試行した。また、平成 29 年度の患者調査の結果表を用いて、集計値の変化について推計を実施した。

(3) ICD-11 導入における医学用語集の改訂に関する研究

ICD-11 日本語版とわが国で広く用いられている標準病名マスターとの対応に関する分析を行い、基礎資料を作成することを目的として実施する。

本研究の初年度において、ICD-11 自体の和訳のみでは標準病名と一致させることは難しく、Post-Coordination を駆使した対応付けが必要で、国内導入にあたりこの作業が極めて重要であることを明らかにした。本研究 2 年目は、標準病名マスター中の 7 個の ICD-10 章 (1,2,4,6,9,10,13) の病名、また 2021 年度は 2 章についての追加作業と共に、新規に 12 個の章(3,5,7,8,11,12,14,15,16,17,18,19) について ICD-11 への対応付け作業を実施した。本年度は、WHO が発表した最新版の ICD-10 ⇄ ICD-11 マッピングテーブルに基づき、全章にまたがるこれまでの作業結果の見直しにより、精度向上と精緻化作業を行った。

(倫理面への配慮)

本研究は既存分類の分析と国内外の学会などでの情報収集と意見発出が研究主体であり、倫理的配慮は必要としない。

C. 結果

(1) ICD 改訂と国内導入に関する動向調査

本年度の ICD 改訂と国内導入に関する動向調査としては、昨年度に引き続き WHO-FIC ネットワーク会議に参加して最新の動向を調査した。また、第 42 回医療情報学連合大会に参加して、ICD

国内導入に関する公募シンポジウム「ICD-11 国内適用の現状と課題」を開催し、本研究班の成果を広く公表するとともに、ICD-11 の国内適用に向けた様々な課題や利点などを共有した。詳細については、本報告書「ICD 改訂と国内導入に関する動向整理」を参照されたい。

また、ICF 活用研究の一環として、前年度に修正した ICD-11V 章の項目対応に基づき、既存の単施設のデータベースの生活機能評価のデータを用いて、使用例のテストを実施した。また、ICD-11V から ICF を用いた詳細評価への移行を想定し、ICD-11V と ICF コアセットのマッピングを実施した。詳細は本報告書の向野論文「ICD-11V 国内導入のための支援ツール作成 採点用リファレンスガイドの更新および既存の評価尺度との比較」を参照されたい。

(2) ICD-11 の公的統計への影響分析

本年度は、WHO により公開されている ICD-10・ICD-11 のマッピングテーブルを用いて、ICD-11 準拠の新たな疾病分類の構築を試行した。また、平成 29 年度の患者調査の結果表を用いて、集計値の変化について推計を実施した。本研究により構築を試行した新たな分類は ICD-11 の構造に基づいているため、現行分類とは異なる部分があることを明らかにした。詳細は、本報告書「ICD-11 準拠の新たな疾病分類の構築に関する研究」を参照されたい。本研究により、ICD-11 国内導入に伴い、死因簡単分類や疾病分類など公的統計への影響があることが明らかになった。

(3) ICD-11 導入における医学用語集の改訂に関する研究

本年度は、昨年度に引き続き ICD-11 と標準病名マスターとのマッピング作業を行った。本年度研究により、標準病名マスターと ICD-11 を対応付けする際の課題を明確にすると共に、本研究班としての素案が確定された。また、病名単位で ICD-11 コーディングを行った結果と WHO のマッピングテーブルの情報を比較した結果、10%の病名について MMS コードが完全に異なることが判明したことから、ICD-11 の国内統計への影響を計る際には、ICD-10⇔ICD-11 マッピングテーブルだ

けでは不十分で、病名単位での分析が重要であることが示された。詳細は、本報告書の今井論文「ICD-11 と標準病名マスターとのマッピングに関する研究」を参照されたい。

D. 考察

ICD-11 は 2018 年 6 月に公表され、さらに 2019 年 5 月の World Health Assembly にて承認され、その後各国への導入に向けた準備が始められている。わが国においても ICD-11 の導入に向け、わが国の臨床や研究で利用されている従来分類との整合性の確保や ICD-11 の日本語化など具体的な検討が開始されている。

本年度は、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大により各種会議がキャンセルあるいはオンライン開催となり大幅に活動が制限されるなか、本研究班として WHO 主催のオンライン国際会議などに積極的に参加して ICD 改訂動向に関する情報収集を行なったほか、ICD-11 国内適用に関するシンポジウムを開催し、本研究班の成果を幅広く公表した。また、V 章の解析を行い、採点用リファレンスガイドの更新および既存の評価尺度との項目対応の検討を行った。ICD-11 国内導入の影響分析として、昨年度の死因簡単分類の構築に続き、今年度は疾病分類の構築を試行し、さらに死因統計と患者統計を用いた新旧分類の変化について試算を行った。ICD-11 導入における医学用語集の改訂に関する研究として、標準病名マスターと ICD-11 とのマッピング調査を通じて、post-coordination の必要性を確認し、ICD-11 の国内統計への影響を計る際には、ICD-10⇔ICD-11 マッピングテーブルだけでは不十分で、病名単位での分析が重要であることを明らかにしたなど、ICD-11 国内導入への課題を取りまとめた。

ICD-11 の国内導入は、わが国の医療全般に関わることからその影響は非常に大きい。わが国の実態を踏まえた適切な医療情報を将来に渡って確保するためには、ICD 改訂動向に関する情報収集と意見発信を行うほか、ICD-11 の分類体系や内容を正確に把握しわが国への影響について詳細に考察する必要がある。本研究において実施した、ICD-11 のわが国への導入に向けた動向調査、影響

分析、医学用語集の改訂分析を通じて、わが国への ICD-11 導入に向けた現状を明らかにし、課題を整理することができたと考えられる。今後も ICD-11 のわが国への円滑な導入に向けて、課題を整理して発信するとともに、導入の影響を分析して対策を講じるための基礎資料を作成し、さらに関連学会などとの連携を図ることが重要と考えられる。

E. 結論

ICD-11 の国内導入は、わが国の医療全般に関わることからその影響は非常に大きい。わが国の実態を踏まえた適切な医療情報を将来に渡って確保するためには、ICD 改訂動向に関する情報収集と意見発信を行うほか、ICD-11 の分類体系や内容を正確に把握しわが国への影響について詳細に考察する必要がある。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) 小川俊夫. ICD-11 国内適用の現状と課題. 医療情報学. 2022. Nov ; 42(Suppl.) : 441-442.
- 2) 小川俊夫、滝澤雅美、今井 健、小松雅代、向野雅彦、今村知明. わが国の公的統計への ICD-11 適用の影響に関する一考察:ICD-11 準拠の疾病分類構築の試行と影響分析. 医療情報学. 2022. Nov ; 42(Suppl.) : 450-455.
- 3) 向野雅彦, 小松雅代. 疾患統計における ICD-11 V 章の活用手法の検討. 医療情報学. 2022. Nov ; 42(Suppl.) : 456-459.
- 4) 今井 健. ICD-11 の用語集としての活用と国内用語集との整合性担保に向けた課題. 医療情報学. 2022. Nov ; 42(Suppl.) : 462-467.

2. 学会発表

- 1) 小川俊夫、滝澤雅美、今井 健、小松雅代、向野雅彦、今村知明. わが国の公的統計への ICD-11 適用の影響に関する一考察:ICD-11 準拠の疾病分類構築の試行と影響分析. 第 42 回医療情報学連合大会シンポジウム「ICD-11 国内適用の現状と課題」(2022 年 11 月 20 日、北海道札幌市、札幌コンベンションセンター).
- 2) 向野雅彦, 小松雅代. 疾患統計における ICD-11 V 章の活用手法の検討. 第 42 回医療情報学連合大会シンポジウム「ICD-11 国内適用の現状と課題」(2022 年 11 月 20 日、北海道札幌市、札幌コンベンションセンター).
- 3) 今井 健. ICD-11 の用語集としての活用と国内用語集との整合性担保に向けた課題. 第 42 回医療情報学連合大会シンポジウム「ICD-11 国内適用の現状と課題」(2022 年 11 月 20 日、北海道札幌市、札幌コンベンションセンター).

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

厚生労働科学研究費補助金(政策科学総合研究事業(政策科学推進研究事業))
「社会構造の変化を踏まえた保健医療にかかる施策立案に資する
国際疾病分類の国内導入のための研究」

分担研究報告書(令和4年度)

ICD改訂と国内導入に関する動向整理

研究代表者 小川俊夫 摂南大学農学部食品栄養学科公衆衛生学教室

研究要旨

本研究の目的は、ICD-11の国内導入に向けてICD改訂動向や各国におけるICD-11導入状況等について情報収集し、わが国に適したICD-11の実現に資する基礎資料を作成することである。研究3年目の本年度は、ICD改訂動向に関する国際会議に参加して情報収集を行なったほか、医療情報学連合大会においてICD改訂に関するシンポジウムを開催し、ICD改訂に関して意見集約と意見発信を実現した。ICD-11の国内導入は、わが国の医療全般に関わることからその影響は非常に大きい。わが国の実態を踏まえた適切な医療情報を将来に渡って確保するためには、ICD改訂動向に関する情報収集と意見発信を行うほか、ICD-11の分類体系や内容を正確に把握しわが国への影響について詳細に考察する必要がある。

研究代表者 小川俊夫(摂南大学)
研究分担者 今村知明(奈良県立医科大学)
今井 健(東京大学)
向野雅彦(藤田医科大学)
小松雅代(大阪大学)
滝澤雅美(国際医療福祉大学)

(倫理面への配慮)

本研究は国内外の学会などでの情報収集と意見発信が研究主体であり、倫理的配慮は必要としない。

C. 結果

(1) WHO-FIC ネットワーク会議出席

本年度は、WHO開催のICD改訂に関する会議としては、WHO-FIC ネットワーク会議(2022年10月18~22日オンライン開催)に出席した。

本年度のWHO-FIC ネットワーク会議は、昨年度に引き続き新型コロナ感染拡大の影響でオンライン開催となった。本年度のWHO-FIC ネットワーク会議は、10月17日から21日まで連日開催されたが、報告者が参加した会議は、10月17日のCouncilと、20日のOfficial Openingであった。

2022年のWHO-FIC ネットワーク会議はスイス・ジュネーブのWHO本部で開催され、今年のテーマは「マッピングと相互運用性」(Mapping and

A. 研究目的

本研究の目的は、ICD-11の国内導入に向けてICD改訂動向や各国におけるICD-11導入状況等について情報収集し、わが国に適したICD-11の実現に資する基礎資料を作成することである。

B. 研究方法

ICD-11改訂作業の一環として、2022年度に開催されたWHO-FIC年次会議にオンライン参加して情報収集を行ったほか、第42回医療情報学連合大会において公募シンポジウムを企画し、本研究班の研究成果と取り組むべき課題について発表を行った。

Interoperability) であった。今年度会議は新型コロナ以降、初めて対面とオンラインとのハイブリット開催となり、対面参加者も 200 名近くと報告された。

最初に、WHO-FIC ネットワークの現状について説明があり、特にネットワーク全体の 5 年計画のうち、ICD-11 の各国導入に向けた様々な支援、罹患統計と死亡統計に関する IT インフラの整備などに集中的に資源が投下され、さらに戦略的目標には、開発のみならず教育なども含まれるとの報告があった。

ICD-11 の各国導入においては、各国語への翻訳が重要となるが、この度 WHO で翻訳に関する規則を明確にした。具体的には、翻訳はすべて、WHO の指示に従って翻訳プラットフォームで作成する、あるいは既存の翻訳データをインポートすることで対応するとのことである。すなわち、既存の翻訳データを利用することも可能であるが、WHO による翻訳の契約は政府または関連公的機関とのみ締結されるため、知的財産が国に存在するという条件が付与され、また英語版または国連版と同じライセンス規則が適用されるとのことであった。

2022 年には、ICD-11 導入に向けて様々なトレーニングがオンラインで実施され、140 カ国から 1 万人以上が参加した。また、地域ごとにその地域の状況に適したトレーニングも開催された。2023 年も引き続きこのようなトレーニングが予定されているほか、様々な分野別や用途別のトレーニングも実施予定である。また、リファレンスガイドの修正も MRG メンバーにより行われているとの報告があった。

ICD の各国導入については、先進各国を中心に準備が進められている状況であるが、途上国でも導入に向けた検討が行われているなどの報告からも、幅広い利用に向けて作業が進展していることがうかがえた。また、昨年度に引き続き WHO としても他言語対応の強化や API を利用した利便性の強化などに取り組んでいるとの報告があった。また、ICD の死亡統計への活用に向けた作業など、ICD-11 各国導入に向けた準備が進展しているとの報告があった。なお、新型コロナに関連してワクチンによる死亡についてもコード化する

予定との報告があった。

ICF 改定については、ICF2020 が完成し、実用化にむけた教育プラットフォームの開発などの報告があったほか、ICHI 構築についても順調に進行しているとの報告があった。

ICD、ICF、ICHI の統合については、昨年度に公表されたコンテンツモデルを統合して実施する方法に基づき、実際に作業が進展しているとの報告があった。

ICD-11 へのゲノム情報を追加することについても MSAC で議論されており、遺伝子、遺伝子変異体、または遺伝子変異を伴う疾患などについても考慮したコーディングについて検討されているとのことである。なお、この情報は「ブルーブック」の第 5 シリーズに追加されたとの報告があった。さらに、Human Phenotype Ontology、MONDO などによる ICD-11 の拡充についても議論がなされており、新たに設立されたマッピング専門委員会において議論がスタートしているとのことである。

2023 年の WHO-FIC ネットワーク会議は、10 月 16 日から 20 日まで、ドイツ・ボンにおいて開催することが決定したとの報告があった。

(2) 医療情報学連合大会におけるシンポジウム開催

第 42 回医療情報学連合大会において公募シンポジウム「ICD-11 国内適用の現状と課題」を企画し、2022 年 11 月 20 日 (日) に札幌コンベンションセンター (札幌市) において開催した。シンポジウムのプログラムは以下のとおりである。

- 1) ICD-11 の国内適用に向けた現状と課題について (渡 三佳・厚生労働省)
- 2) 日本歯科医学会と日本口腔科学会による歯科口腔関連用語の和訳作業について (川口陽子・日本歯科医学会)
- 3) チームで取り組む ICD-11 和訳作業 (井上茂亮・神戸大学大学院)
- 4) わが国の公的統計への ICD-11 適用の影響に関する一考察 : ICD-11 準拠の疾病分類構築の試行と影響分析 (小川俊夫・摂南大学)

- 5) 疾患統計における ICD-11 V 章の活用手法の検討 (向野雅彦・北海道大学病院)
- 6) MEDIS 標準病名マスターの ICD-11 対応について (山本隆一・一般財団法人医療情報システム開発センター)
- 7) ICD-11 の用語集としての活用と国内用語集との整合性担保に向けた課題 (今井 健・東京大学大学院)

セッション全体の目的は、日本語化作業など ICD-11 の国内適用に向けた作業が現在進行しているが、ICD-11 のわが国への国内適用による様々な影響と課題をできる限り把握し対応する必要があると考えられる。また、ICD-11 のわが国での活用に向けた準備も必要であり、これらについて議論することを目的として実施した。

- 1) ICD-11 の国内適用に向けた現状と課題について (榊原崇広, 藤巻早紀, 大坪郁乃, 稲葉朋子, 中山佳保里, 渡 三佳, 吉本雅世 (厚生労働省国際分類情報管理室))

現在、改訂に向けて準備を行なっている ICD-11 には、現行の ICD-10 と比較していくつかの特徴がある。まず、ICD-10 では、主に死亡や疾病統計を報告する目的で分類項目が整理されていたが、ICD-11 ではプライマリケアやがん登録、臨床研究といった様々な使用目的を想定して用語が収載されており、それに伴い新たな章やセクションが新設されている。また、ICD-11 に導入された Foundation において統計用分類を作成するために必要なすべての情報が収容されており、Foundation を用いて目的に応じた分類が作成される。ICD-11 において ICD-10 に対応するものは、ICD-11 の死亡・疾病統計用分類 (ICD-11MMS) となると考えられ、これは Foundation から死亡・疾病統計用に切り出された分類である。

これらの変更点を踏まえ、ICD-11 に対応した統計基準の策定にあたり、MMS に新たな概念として追加された章の取り扱いについて議論する必要がある。また、Foundation 内に収載される多くの統計基準には含まれない用語についても和訳作業を行い、公表を行う方針で検討している。死因分類表、疾病分類表の作成については、WHO の

製表用リストの公表後、一定の検証の後に作成方針を定める予定である。

- 2) 日本歯科医学会と日本口腔科学会による歯科口腔関連用語の和訳作業について (川口陽子 (日本歯科医学会), 川又 均 (獨協医科大学, 日本歯科医学会, 日本口腔科学会), 宮本洋二 (徳島大学, 日本歯科医学会, 日本口腔科学会))

疾病及び関連保健問題の国際統計分類 ICD (International Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems) において、歯科医師が治療対象とする多くの疾患 (う蝕, 歯周病, 不正咬合など) は、「消化器系の疾患の章」の中に位置づけられている。また、疫学的にまとめることが適当な病態として、例えば口腔カンジダ症などは「感染症及び寄生虫症の章」に、舌がんや歯肉がんなどは「新生物の章」など、歯科口腔領域の疾患は様々な章に分散されて配置されている。そのため、歯科医師にとって ICD はどの章にどの疾患が配置されているのか理解が難しい構成となっている。

ICD-10 においては、派生分類として WHO より歯科口腔領域に関連する用語を収載した ICD-DA (Application of the International Classification of Diseases to Dentistry and Stomatology, Third Edition) が公表されており、和訳版である「国際疾病分類歯科学及び口腔科学への適用 (ICD-DA 第 3 版)」がわが国では使用されている。ICD-DA 第 3 版では、第 1 章から第 20 章までのすべての章にわたって、歯科口腔関連用語が含まれている。なお、全身疾患のうち、例えば鉄欠乏性貧血、摂食障害など、「口腔の症状発現」がみられる疾患名もこの分類に多く含まれている。患者の口腔内を診察する歯科医師は、最初に口腔内症状 (異常) に気づき、医科受診を勧めることによって診断に至る症例も決して少なくない。ICD のすべての章の中に、口腔と関連のみられる疾患が挙げられていることは、医科歯科連携の観点からも重要である。

- 3) チームで取り組む ICD-11 和訳作業 (井上茂亮 (神戸大学大学院医学研究科外科系講座災害・救急医学分野), 中原慎二 (神奈川県立保健福

社大学ヘルスイノベーション研究科), 鎌方安行 (関西医科大学救急医学講座))

国際疾病分類 (ICD) とは、世界保健機関 (World Health Organization, WHO) が作成する国際的に統一した基準で定められた死因及び疾病の分類で、わが国では、統計法に基づく統計基準として「疾病、傷害及び死因の統計分類」を告示し、公的統計 (人口動態統計等) において適用している。また、医学的分類として医療機関における診療録の管理等においても広く活用されている。2018 年、WHO は約 30 年ぶりに ICD-10 から ICD-11 への改定を公表し、わが国でも適応に向けた検討を行ってきた。

2021 年に、厚生労働省国際分類情報管理室より「疾病及び関連保健問題の国際統計分類」の第 11 回改訂版 (ICD-11) に関する和訳作業の依頼を受け、日本救急医学会用語委員会では約半年にわたり作業を実施した。本発表では、その作業過程と作業における工夫を共有する。

4) わが国の公的統計への ICD-11 適用の影響に関する一考察: ICD-11 準拠の疾病分類構築の試行と影響分析 (小川俊夫 (摂南大学), 滝澤雅美 (国際医療福祉大学), 今井 健 (東京大学), 小松雅代 (大阪大学), 向野雅彦 (北海道大学), 今村知明 (奈良県立医科大学))

わが国の公的統計に用いられている現行の死因分類や疾病分類は、ICD-10 国内適用に伴い ICD-10 準拠で構築されている。現在、わが国では ICD-11 の国内適用に向けて様々な準備が行われているが、公的統計で使用されている各種分類も、ICD-11 の国内適用に伴い ICD-11 準拠に変更する必要がある。また、前回の ICD-9 から ICD-10 への改訂時には、新たな分類準拠の死因統計分類や疾病分類の構築と新旧分類の比較分析がなされており、ICD-11 の国内導入に伴い、同様の検討が必須である。

発表者らによる先行研究によると、ICD-11 準拠の死因簡単分類を試験的に作成したところ、新たな死因簡単分類は現行より項目数が増加し、また項目ごとの死亡者数に変化が見られたことから、公的統計の継続性の視点から、今後検討が必要であることが示唆された。

本研究は、先行研究の成果を踏まえて、患者調査に用いられている疾病分類について、現行の ICD-10 準拠から ICD-11 準拠への改訂を試行し、新たな分類が患者調査に与える影響について考察することを目的として実施した。また、ICD-11 の国内適用により、わが国の公的統計に与える影響について、死亡統計と罹患統計の双方を比較分析して考察を行うことも目的として実施した。

5) 疾患統計における ICD-11 V 章の活用手法の検討 (向野雅彦 (北海道大学病院リハビリテーション科), 小松雅代 (大阪大学医学部社会医学講座環境医学))

2018 年に公表された国際疾病分類 (以下 ICD-11) において、生活機能評価に関する補助セクションとして V 章が新設された。V 章は、これまで国際生活機能分類 (ICF) で分類されてきた生活機能の情報を ICD-11 の中に取り込んだものである。具体的には、WHO で開発された生活機能のアセスメントスケールである WHO 障害評価面接基準 (WHODAS-2.0) と ICF の分類項目の抜粋版 (“一般的機能の構成要素” と呼ばれる項目群) が含まれている。ICD-11 V 章の臨床における適用を進めていく際には、場面に応じてどの項目を使用していくのかを検討し、統計でどのように活用していくのか、より具体的な検討を行うことが必要不可欠である。

本研究では、ICD-11 V 章のうち、どのような項目が臨床上で重要となるのか医療関係者を対象としたアンケートを実施し、アンケートの結果に基づいた項目セットの作成と、データベースを用いた活用方法の検討を実施した。

6) MEDIS 標準病名マスターの ICD-11 対応について (山本隆一 (一般財団法人医療情報システム開発センター))

診療情報の電子化は確実に進んでいるが、いまだにわが国では、診療報酬請求へのリンクを第一義的な目的とした診療情報の取扱に強い影響を受けている。診療現場で患者の情報を扱う目的は本来多彩であるが、例えば、新型コロナウイルス禍における HERSYS の入力負荷や、がん登録、National Clinical Database への入力など、診療報酬

請求以外の目的に利用しようと思うと再入力を強いられる場合は、健全な電子化とは言えない。人手による再入力採用されていることには合理的な理由もあり、例えば情報の粒度が異なることが多く、また電子カルテで扱われている情報が横断的な情報利用や、同一患者の情報であっても医療機関をまたがる場合は、そのコンテンツとしての比較可能性が必ずしも確保されていないという課題がある。

7) ICD-11 の用語集としての活用と国内用語集との整合性担保に向けた課題(今井 健(東京大学大学院 医学系研究科 疾患生命工学センター))

疾病及び関連保健問題の国際統計分類第 11 版 (ICD-11) は、2007 年より作業が開始され、2018 年 6 月に WHO よりリリースされた。その後 2019 年 5 月に世界保健総会にて採択され、2022 年 1 月より正式に発効されている。現在国内で適用されている ICD-10 と比較すると、ICD-11 では分類体系自体の大幅なアップデート、項目数の大幅な増加、コード体系の変更や新しい章の追加、電子的利用環境を前提としたツール群の提供など多岐に変更が加えられている。

特に、ICD-10 までは疾病及び傷病を分類するカテゴリ体系を提供することに重点が置かれ、粒度の細かい病名や病態の例示は十分に含まれていなかった。ICD-11 では、予め詳細な病名が索引語として数多く含まれており、また Post-Coordination の仕組みを併用することで、予め用意された用語概念を組み合わせて、任意の粒度での病態をコーディングできるようになっており、詳細な臨床上の疾患・病態概念をコーディングする仕組みは ICD-11 の重要な特徴の 1 つである。

2020 年 6 月時点での ICD-11 Foundation Component では約 13 万項目が存在しており、ICD-10 までと比較して大幅に増加している。この中で定義文 (約 16,800) や注記 (約 700) を除いたとしても、カテゴリやブロック名称も含めて約 11 万を超える用語項目が含まれている。その後も随時アップデートが施され、現在も項目数は増加している。この中には Post-Coordination に用いられる修飾語セット (X 章) 約 24,000 語も含まれ、これらの組み合わせで表現できる病態概念は膨大な

数に及ぶ。すなわち ICD-11 は従来の単なる分類体系から、Post-Coordination の仕組みを備えた、疾患概念を中心とした巨大臨床用語集・コード体系としての性質を帯びてきていると言える。

昨年度までに、厚生労働省が中心となり、各種関連学会などの協力のもとで 25 章 (Codes for special purposes)、V 章、X 章を除いた約 88,300 語の ICD-11 Foundation 用語 (定義文や注記以外) について和訳用語が作成されているが、用語集としての性質を帯びてきたことから、今後わが国への適用に向けては標準病名マスターなど既存の国内標準用語集との適切な統合・対応付けが必須である。

さらに、拡張用コード (X 章) には、重症度、経時的特徴、病因 (因果上の特性、感染因子、アレルギー)、位置属性、身体部位、組織病理所見、損傷の状況、外因の状況、意識レベル、物質、診断の状況、デバイス・機器などの用語が用意されている。国内でこれまで存在してこなかった領域の標準的な用語集・コードセットとして機能する可能性を秘めている重要なパートである。今後、X 章を含めたこれら全体 11 万語の Foundation Component の日本語版を整備し、利活用していく必要がある。本稿では、ICD-11 の用語集としての活用という視点から国内の既存用語集との整合性担保に向けた課題について、主に疾患用語と身体部位用語を例に述べる。

D. 考察

本研究の主な目的の一つとして、ICD-11 の国内導入に向けて ICD 改訂動向や各国における ICD-11 導入状況等について情報収集し、わが国に適した ICD-11 の実現に資する基礎資料を作成することである。本報告で示したように、昨年度に引き続き本年度も WHO-FIC 年次会議に参加して情報収集をおこなったほか、医療情報学連合大会で ICD-11 国内適用に関するシンポジウムを開催するなど、ICD-11 国内導入に向けて国内外での情報収集と基礎資料となる情報発信を実施した。

ICD-11 の国内導入は医学界全体に影響があることから、関連学会などとの調整も必要と考えられる。今後も、ICD-11 国内適用に向けて、効果的な情報収集と発信をする必要があると考えられ

る。

E. 結論

ICD-11 の国内導入は、わが国の医療全般に関わることからその影響は非常に大きい。わが国の実態を踏まえた適切な医療情報を将来に渡って確保するためには、ICD 改訂動向に関する情報収集と意見発信を行うほか、ICD-11 の分類体系や内容を正確に把握しわが国への影響について詳細に考察する必要がある。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) 小川俊夫. ICD-11 国内適用の現状と課題. 医療情報学. 2022. Nov ; 42(Suppl.) : 441-442.
- 2) 榊原崇広, 藤巻早紀, 大坪郁乃, 稲葉朋子, 中山佳保里, 渡 三佳, 吉本雅世. ICD-11 の国内適用に向けた現状と課題について. 医療情報学. 2022. Nov ; 42(Suppl.) : 443-444.
- 3) 川口陽子, 川又 均, 宮本洋二. 日本歯科医学会と日本口腔科学会による歯科口腔関連用語の和訳作業について. 医療情報学. 2022. Nov ; 42(Suppl.) : 445-447.
- 4) 井上茂亮, 中原慎二, 鉦方安行. チームで取り組む ICD-11 和訳作業. 医療情報学. 2022. Nov ; 42(Suppl.) : 448-449.
- 5) 小川俊夫, 滝澤雅美, 今井 健, 小松雅代, 向野雅彦, 今村知明. わが国の公的統計への ICD-11 適用の影響に関する一考察:ICD-11 準拠の疾病分類構築の試行と影響分析. 医療情報学. 2022. Nov ; 42(Suppl.) : 450-455.
- 6) 向野雅彦, 小松雅代. 疾患統計における ICD-11 V 章の活用手法の検討. 医療情報学. 2022. Nov ; 42(Suppl.) : 456-459.
- 7) 山本隆一. MEDIS 標準病名マスターの ICD-11 対応について. 医療情報学. 2022. Nov ; 42(Suppl.) : 460-461.
- 8) 今井 健. ICD-11 の用語集としての活用と国内用語集との整合性担保に向けた課題. 医療情報学. 2022. Nov ; 42(Suppl.) : 462-467.

2. 学会発表

- 1) 榊原崇広, 藤巻早紀, 大坪郁乃, 稲葉朋子, 中山佳保里, 渡 三佳, 吉本雅世. ICD-11 の国内適用に向けた現状と課題について. 第 42 回医療情報学連合大会シンポジウム「ICD-11 国内適用の現状と課題」(2022 年 11 月 20 日、北海道札幌市、札幌コンベンションセンター).
- 2) 川口陽子, 川又 均, 宮本洋二. 日本歯科医学会と日本口腔科学会による歯科口腔関連用語の和訳作業について. 第 42 回医療情報学連合大会シンポジウム「ICD-11 国内適用の現状と課題」(2022 年 11 月 20 日、北海道札幌市、札幌コンベンションセンター).
- 3) 井上茂亮, 中原慎二, 鉦方安行. チームで取り組む ICD-11 和訳作業. 第 42 回医療情報学連合大会シンポジウム「ICD-11 国内適用の現状と課題」(2022 年 11 月 20 日、北海道札幌市、札幌コンベンションセンター).
- 4) 小川俊夫, 滝澤雅美, 今井 健, 小松雅代, 向野雅彦, 今村知明. わが国の公的統計への ICD-11 適用の影響に関する一考察:ICD-11 準拠の疾病分類構築の試行と影響分析. 第 42 回医療情報学連合大会シンポジウム「ICD-11 国内適用の現状と課題」(2022 年 11 月 20 日、北海道札幌市、札幌コンベンションセンター).
- 5) 向野雅彦, 小松雅代. 疾患統計における ICD-11 V 章の活用手法の検討. 第 42 回医療情報学連合大会シンポジウム「ICD-11 国内適用の現状と課題」(2022 年 11 月 20 日、北海道札幌市、札幌コンベンションセンター).
- 6) 山本隆一. MEDIS 標準病名マスターの ICD-11 対応について. 第 42 回医療情報学連合大会シンポジウム「ICD-11 国内適用の現状と課題」(2022 年 11 月 20 日、北海道札幌市、札幌コンベンションセンター).
- 7) 今井 健. ICD-11 の用語集としての活用と国内用語集との整合性担保に向けた課題. 第 42 回医療情報学連合大会シンポジウム「ICD-11 国内適用の現状と課題」(2022 年 11 月 20 日、北海道札幌市、札幌コンベンションセンター).

一).

2. 実用新案登録
なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
なし

3. その他
なし



WHO-Family of International Classifications Annual Network Meeting 17-21 October 2022

‘Interoperability and mapping of health information’

Detailed Agenda

Day 1 Monday, 17 October MORNING (Times are in Geneva time UTC +2 hours) – Auditorium Z

10:00 – 11:00 WHO-FIC Council

Chairs: Mika Watari, Ulrich Vogel

Rapporteur: Maaya Kita

1. Opening *Ulrich Vogel, Mika Watari, Co-Chairs of the WHO-FIC Council*
 - a. Housekeeping (WHO)
 - b. Acceptance of the minutes of the Council call for September 2022 (*Co-chairs*)
 - c. Information on the election of *Co-Chairs of the WHO-FIC Council (WHO)*
2. State of WHO-FIC Network, *Robert Jakob, WHO*

11:00 – 11:30 Coffee break

11:30 – 13:00 WHO-FIC Council (cont.) 90 minutes

3. Linking WHO-FIC with other terminologies (20 minutes) (*Council co-chairs*)
 - a. New mapping task force in the network structure
 - i. Membership
 - ii. Lists of maps requested by countries or partners
 - b. Operational aspects
 - i. Focus groups for specific maps,
 - ii. Quality Assurance by task force on mapping initiatives by Network/others with WHO-FIC
 - iii. ICD-10 (and modifications) with ICD-11
 - iv. LOINC/SNOMED/HPO mapping
 - c. Discussion
4. Committees & Reference Group Reports, *Co-chairs of WHO-FIC Committees & Reference Group (30 minutes) (about 3 minutes each)*
CSAC (ICD & ICF), EIC, FDC, FDRG, MbRG, MRG, MSAC, ITC, TMRG, VARG
5. WHO-FIC Strategy and Work Plan, *Ulrich Vogel, Mika Watari, Co-Chairs of the WHO FIC Council (15 minutes)*

13:00 – 14:00 Lunch break (WHO Cafeteria)

Day 1 Monday, 17 October AFTERNOON		
14:00 – 15:30	Auditorium Z WHO Morbidity Ref. Group (MbrG)	Salle T WHO Verbal Autopsy Reference Group (VARG)
90 Minutes	<ol style="list-style-type: none"> 1. Welcome 2. Elections 3. Review of agenda 4. Approval of May 2, 2022 MbrG mid-year meeting minutes 5. Review of 3 action items from mid-year meeting (other action items are agenda topics) <ul style="list-style-type: none"> • Proposal #2D4Y - enhancing Coding Tool search functionality for external cause documentation • Applying a standard approach when mapping national intervention classification to ICHI (FinalDraft_V0.9) • Implementation Forum – MbrG and EIC 6. Descriptions in ICD-11 <ul style="list-style-type: none"> • Update on status of action from mid-year meeting • Presentation - Chapter 6 Descriptions / Clinical Descriptions and Diagnostic Requirements (CDDR) 7. DSM to ICD-11 mapping <ul style="list-style-type: none"> • Canadian project 8. International Case Mix tool <ul style="list-style-type: none"> • WHO/Martti provide update on status of work (Mapping group established) • Presentation - WHO poster re. DRG's <p>***continue discussion after break****</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. Opening and Introductions - Goals of the meeting 2. Review of VARG work plan 2020-2021 and key accomplishments and remaining activities: workstream updates <ul style="list-style-type: none"> • Questionnaire Improvement • Resources & Guidance • IT Developments • Cause of Death Analysis • User Engagement • Research Agenda

15:30 – 16:00 coffee break		
16:00 – 17:30	Auditorium Z Morbidity Ref. Group (MbrG)	Salle T WHO Verbal Autopsy Reference Group (VARG)
90 Minutes	<p>cont'd - International Case mix</p> <ol style="list-style-type: none"> 9. Cancer coding guidance with ICD-11 (Cancer Registry use cases) <ul style="list-style-type: none"> • Update on change of plans since mid-year meeting • Review pre-meeting work results (i.e., coding exercises) • Develop instructions for good practice cancer coding using ICD-11. 10. Quality & Safety Use Case 11. Other items <ul style="list-style-type: none"> • Tabulation list • ICHI Guide Review 12. Summary and Next Steps <ul style="list-style-type: none"> • Mid-year meeting 2023 	<ol style="list-style-type: none"> 3. Early Adoption of the 2022 WHO VA Instrument and Resources <ul style="list-style-type: none"> • Overview of instrument and resources • Experience from the field 4. Presentation and discussion of proposed VARG work plan 2022-2023 and 3-5 year strategy <ul style="list-style-type: none"> • Overview of workplan • Review of activities: feasibility, roles, resources, timeline 5. Closure

Day 2 Tuesday, 18 October MORNING		
09:30 – 11:00	Salle T	Auditorium Z
90 Minutes	Mortality Ref. Group (MRG)	Classification and Statistics Advisory Group (CSAC – ICF)
	<ol style="list-style-type: none"> 1. Summary of MRG activities in 2022 2. Feedback from ICD-11 Sunday workshop (focus on implementation and operational and strategic items for the MRG work program) 3. Feedback on ICD-11 developments including work on DORIS, mortality rule digitalisation taskforce 4. Iris-11 update 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Welcome and introductions 2. Confirmation of CSAC ICF voting members 3. Approval of agenda and minutes of 2021 CSAC ICF session 4. CSAC ICF Co-chair election 5. New ICF update platform 6. ICF update proposals 2022 7. ICF released version 8. Other

11:00 – 11:30 coffee break		
11:30 – 13:00	Salle T	Auditorium Z
90 Minutes	Mortality Ref. Group (MRG)	Education and Implementation Committee (EIC)
	<ol style="list-style-type: none"> 5. Specific agenda items relating reference guide (COVID-19 outstanding issues, SIDS, maternal mortality, sepsis, metastasis) 6. Data formats and reporting to WHO 7. Agreement on priorities for 2022/23 forward work plan 8. Co-chair elections 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Welcome and introductions <ul style="list-style-type: none"> • Review of agenda • Review and approve June Meeting Minutes 2. WHO updates: <ul style="list-style-type: none"> • WHO-FIC Implementation tools (i.e. Implementation tracker (iMINT), DORIS etc.) • Update ICD-11 and other WHO-FIC training (WHOA etc.) • ICD-11, ICF and ICHI translations (incl reference guides) 3. Education: <ul style="list-style-type: none"> • WHO Academy ICD-11 course -update on storyboard development for module on basic coding with ICD-11 • Repository of ICD-11 exercises/tests (morbidity, functioning, mortality, TM)

WHO-FIC Network Meeting 2022 Detailed Agenda Page | 5

13:00 – 14:00 lunch break (WHO Cafeteria)		
Tuesday, 18 October AFTERNOON		
14:00 – 15:30	Salle T	Auditorium Z
90 Minutes	Informatics & Terminology Committee (ITC)	Education and Implementation Committee (EIC)
	<ol style="list-style-type: none"> 1. Welcome & confirmation of mid-year meeting minutes. (5 mins) 2. Election of ITC co-chairs and discussion on how ITC should function (15 mins) 3. WHO-FIC Tooling Update (20 mins) 4. DORIS and standard MCCD format (20 mins) 5. Experiences using DORIS (15 mins) 6. Discussion (15 mins) 	<ol style="list-style-type: none"> 4. Implementation <ol style="list-style-type: none"> a. Updates from WHO FIC CC and country representatives on implementation activities b. Implementation Forum c. iMINT update d. ICHI reference guide review 5. Strategic work plan for 2023 6. Other business <ol style="list-style-type: none"> a. IFHIMA work on ICD-11 b. Mid-year meeting (TBC)
15:30 – 16:00 coffee break		
16:00 – 17:30	Salle T	Auditorium Z
90 Minutes	Informatics & Terminology Committee (ITC)	Medical and Scientific Advisory Committee (MSAC)
	<ol style="list-style-type: none"> 1. Update on Mondo and WHO-FIC Foundation (20 mins) 2. Content Alignment and Harmonization (20 mins) 3. Role of ClAML in WHO-FIC classifications (20 mins) 4. Plan for new iCAT (20 mins) 5. Wrap up, next steps (5 mins) 	<ol style="list-style-type: none"> 1. MSAC's proposal review mechanism and procedure 2. Proposals (#2A42, #2A43) 3. Genomics 4. Tumour classification and staging 5. Enrichment of the Foundation with related terminologies (e.g. Human Phenotype Ontology, MONDO) 6. Other

WHO-FIC Network Meeting 2022 Detailed Agenda Page | 6

Wednesday, 19 October MORNING		
09:30 – 11:00 90 Minutes	Auditorium Z Traditional Medicine Reference Group (TMRG) 1. Welcome and introductions (Co-Chairs) 2. Proposal review process (Co-Chairs and Secretariat) 3. Feedback ICD-11 TM1 module implementation and education (TMRG members) 4. Update on ICD-11 TM2 development (Stephane Espinoza, WHO / Kavita Garg, Ministry of AYUSH) 5. TMRG workplan and mid-year meeting 2023 (Co-Chairs) 6. Other	Salle T Family Development Committee. (FDC) 1. Welcome and introductions (Ann-Helene Almborg, Coen van Gool) 2. Co-chair election (Robert Jakob) 3. Terminologies paper/signposting discussion (Coen van Gool, Xavier Pastor, Robert Jakob) 4. Mapping Task Force (Robert Jakob, Coen van Gool) UHC (Coen van Gool, Ann-Helene Almborg)
11:00 – 11:30 coffee break		

11:30 – 13:00 90 Minutes	Auditorium Z - Classification and Statistics Advisory Group (CSAC – ICD) 1. Welcome and confirmation of country voting members (CSAC Co-chair) 2. Approval of minutes (CSAC Co-chair) 3. Number of proposals received and processed in 2022 (CSAC Co-chair)	Salle T Family Development Committee. (FDC) 6. ICHI (Nenad Kostanjsek, Megan Cumerlato) • ICHI 2022 – update on content (enrichment) • WHO update on ICHI finalization: • Other intervention related WHO classifications development 7. Content alignment and harmonization (Samson Tu, Andrea Martinuzzi, Vincenzo Della Mea, Ann-Helene Almborg, Coen van Gool) 8. Midyear meeting 2023 (Ann-Helene Almborg, Coen van Gool) 9. Strategic Work Plan FDC 2023 (Ann-Helene Almborg, Coen van Gool)
------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

WHO-FIC Network Meeting 2022 Detailed Agenda Page | 7

	4. ICD-11 proposals: Formal acceptance of unanimous voting (CSAC Co-chair) 5. ICD-11 proposals: Discussion and voting on proposals (CSAC Co-chair)	10. Closing the meeting (Ann-Helene Almborg, Coen van Gool)
13:00 – 14:00 lunch break (WHO Cafeteria)		

Wednesday, 19 October AFTERNOON		
14:00 – 15:30 90 Minutes	Auditorium Z - Classification and Statistics Advisory Group (CSAC – ICD) ICD-11 proposals: Discussion and voting on proposals – continued from Session 1	Salle T Functioning and Disability Reference Group (FDRG) 1. Welcome and introductions 1.1. Approval of minutes from midyear meeting (May 2022) 1.2. Review of agenda 1.3. SWP 2. WHO updates 3. ICF terminology 3.1. Repository of data sets functioning terms 3.2. Protocol: how to extract this information 4. Content alignment 4.1. Anatomy 4.2. Symptom description VS Body functions Example: pain, dizziness
15:30 – 16:00 coffee break		
16:00 – 17:30 90 Minutes	Auditorium Z - Classification and Statistics Advisory Group (CSAC – ICD) 6. ICD-11 proposals: Discussion and voting on proposals – continued from Session 2 7. Monkeypox update (WHO) 8. Postcoordination and extension codes in ICD-11 (WHO)	Salle T Functioning and Disability Reference Group (FDRG) 5. ICD-11 Education Tool, Unit 12 Section V a. Curricula b. WHOA coding exercises and formative assessment 6. ICF updates. Release version preparations 7. Midyear meeting 2023 8. Strategic WorkPlan FDRG 2023

WHO-FIC Network Meeting 2022 Detailed Agenda Page | 8

<p>9. Feedback received from ICD-11 translations (WHO)</p> <p>10. Digital MSAC review form (WHO)</p> <p>11. Reference guide proposal platform (WHO)</p> <p>12. CSAC-ICD work plan for 2023 (CSAC Secretariat)</p> <p>13. Other business</p> <p>14. Meeting close</p>	<p>9. Any other business</p> <p>Elections</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------

<p>Thursday, 20 October – Auditorium Z</p> <p>09:30 – 11:10 Official Opening of the WHO FIC Conference, Selected Speakers etc. (70 minutes)</p> <p><i>Chairs: Ulrich Vogel, Mika Watari</i> <i>Rapporteur: Maaya Kita</i></p> <p>Welcome Message: <i>Welcome by Samira Asma, Assistant Director-General, Division of Data, Analytics and Delivery for Impact (DDI/WHO) (10min)</i></p> <p>Formal opening & welcome: <i>Welcome by Steve Mac Feely, Director, Department of Data and Analytics (DNA/WHO) (10min)</i></p> <p>Interoperability and mapping of health information: <i>Robert Jakob, Team Leader Classifications and Terminologies Unit (CAT/WHO)</i></p> <p>11:10 – 11:25 Coffee break (15 minutes)</p> <p>11:25 – 13:00 Presentations (105 minutes)</p> <p><i>Chairs: Ulrich Vogel, Mika Watari</i></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Summary report from WHO-FIC Committees and Reference Groups (30min) <ol style="list-style-type: none"> a. CSAC (ICD & ICF), EIC, FDC, FDRG, MbRG, MRG, MSAC, ITC, TMRG, VARG 2. Reports back from Regional Advisors (30min) <ol style="list-style-type: none"> a. Benson Droti/Hillary Kipruto, WHO Regional Office for Africa a. Marcelo D'Agostino/Katri Kontio, WHO Regional Office for the Americas/Pan American Health Organization b. Amani Siyam, WHO Regional Office for South-East Asia c. Henry Doctor/Eman Aly, WHO Regional Office for the Eastern Mediterranean d. Karapet Davtyan, WHO Regional Office for Europe e. Mengjuan Duan, WHO Regional Office for the Western Pacific <p>Questions & Answers (10 min)</p> <p>13:00 – 14:00 Lunch break (WHO Cafeteria) (60 minutes)</p>

Thursday, 20 October – Auditorium Z

14:00 – 15:30 Round Table – (90 minutes)

Chair: Marcelo D'Agostino (*WHO-AMRO/PAHO*) & Chris Chute (MSAC co-chair)

Theme: Interoperability and mapping

Topics & Speakers (7 min each):

Ana Rath (Inserm, US14 - Orphanet)
Samson Tu (Stanford University - WHO-CTS Centre)
Ronald Cornet (Amsterdam Public Health research institute, Amsterdam UMC)
Alain B. Labrique (Digital Health Intelligence, Science Division, WHO)
Anne-Helen Almborg (Nordic WHO-FIC CC)

Questions & Answers

Friday, 21 October - Auditorium Z

09:30 – 10:30 Selected Poster Presentations (90 minutes) (see Annex 1 - forthcoming)

Chair: Amani Siyam WHO *Regional Office for South-East Asia*

Questions & Answers

Conference closing (WHO)

10:30 – 11:30 WHO-FIC Council (90 minutes) (closed session for CC Heads, C&RG Co-Chairs and NGOs)

Chairs: Mika Watari, Ulrich Vogel

Rapporteur: Maaya Kita

1. Confirm actions of Committees and Reference groups
 - ICD-11 updates
 - ICF updates

WHO-FIC Network Meeting 2022 Detailed Agenda Page | 11

- Other

2. WHO-FIC Strategic Framework and Work Plan
Ulrich Vogel and Mika Watari, WHO-FIC Network Advisory Council Co-Chairs

11:30 – 12:00 coffee break (30 minutes)

12:00 – 13:00 WHO-FIC Council (60 minutes) (closed session for CC Heads, C&RG Co-Chairs and NGOs)

Chairs: Mika Watari, Ulrich Vogel

Rapporteur: Maaya Kita

3. Review of Draft Meeting report
4. Meeting evaluation
 - a. Review of WHO-FIC Network Annual Meeting Design – *WHO-FIC Network Advisory Council*
 - b. Feedback from participants
 - c. Suggestions for improvement, additional comments
5. 2023 and 2024 Network Meetings
6. Communication of the mid-year meeting dates by CRGs
7. Other business

13:00 Closure

Note:

For all days, during 09:00 - 09:30 am, the link will be open for participants to test joining, audio and connection

WHO-FIC Network Meeting 2022 Detailed Agenda Page | 12

ICD-11 国内適用の現状と課題

小川俊夫*1

*1 摂南大学

Current achievements and issues to be solved for introducing ICD-11 to Japan

Toshio Ogawa*1

*1 Setsunan University

ICD-11 was officially announced by WHO in 2018 and approved at the World Health Assembly in 2019. WHO's member states including Japan have been preparing for the domestic introduction of ICD-11. For the domestic use of ICD-11 in Japan, translation of ICD-11 into Japanese is essential, which has been started led by the Ministry of Health, Labor and Welfare. In order to translate ICD-11 into Japanese, it is necessary to conduct an appropriate Japanese translation of approximately 97,000 words, which are all items of the Foundation Component of ICD-11. In addition, it is necessary to ensure consistency with the relevant classifications which are developed by the academic societies and others and are currently used in Japan so that it is important to make an agreement with the relevant academic societies.

Under these situations, this symposium will provide an overview of various achievements and issues remaining for the Japanese translation of ICD-11, and discuss how to sort out the issues for the Japanese translation as well as introduction of ICD-11 to Japan. Another purpose of this symposium is to discuss the appropriate introduction of ICD-11 to Japan.

This symposium consists of the following. First, the current status and issues of the preparation and finalization of the ICD-11 Japanese translation as well as the plan for the ICD-11 domestic introduction to Japan will be discussed. Next, we will discuss the current achievements and remaining issues to introduce ICD-11 to Japan such as; to ensure consistency between ICD-11 and the medical terminology used in Japan, to discuss the application of WHO-FIC central classifications such as ICF to Japan and the possibility of utilizing ICD-11 and those WHO-FIC classifications, to coordinate and ensure consistency with terminologies in other related fields such as HPO, which is widely used in the field of genomic medicine, and to analyse impacts of ICD-11 introduction on the official statistics such as death statistics and patient statistics. Finally, we discussed about the current achievements and issues of the domestic application of ICD-11 in Japan.

Keywords: ICD-11, domestic application, Japanese translation

1. 背景

ICD-11 は 2007 年より WHO により開発が進められ、2018 年 6 月に公表され、2019 年 5 月の WHO の World Health Assembly にて承認された。現在、わが国を含め各国において、ICD-11 導入に向けた準備が始められている。わが国においては、ICD-11 の国内適用に向け、わが国の臨床や研究で利用されている従来分類との整合性の確保や ICD-11 の日本語化など具体的な検討が実施されている。

わが国における ICD-11 の国内適用には ICD-11 の日本語化が必須であり、その日本語化作業は厚生労働省を中心に開始されている。ICD-11 の日本語化には、Foundation Component の全項目である約 97,000 語の適切な和訳案の作成が必要と考えられる。また、作成した和訳案の確定には、わが国で用いられている医学用語との整合性の確保と関連学会との同意形成が必要である。さらに、ICD-11 の国内適用により、臨床のみならず公的統計などへの様々な影響が考えられ、またさまざまな活用が期待される。すなわち、日本語化作業など ICD-11 の国内適用に向けた作業を行いつつ、国内適用による様々な影響と課題をできる限り把握し対応する必要があり、また ICD-11 活用に向けた準備をする必要があると考えられる。

2. 本シンポジウムの目的と概要

このような状況を鑑み、本シンポジウムは、ICD-11 の日本語化に向けた各種作業を概観し、ICD-11 和訳案の作成と確

定など ICD-11 日本語化に向けた課題を整理することで、ICD-11 のわが国への適切な適用について議論することを目的として実施する。また、ICD-11 国内適用の現状と課題を整理し、わが国における ICD-11 活用について議論することも目的である。

本シンポジウムは以下より構成される。最初に ICD-11 和訳案の作成と確定に向けた作業の現状と課題について概観する。次に、ICD-11 とわが国で用いられている医学用語との整合性の確保について論じ、わが国への ICD-11 適用の課題について論じる。さらに、ICF など WHO-FIC 中心分類のわが国への適用と ICD-11 との活用の可能性について、現在の取り組みを中心に解説をする。また、ゲノム医療分野で広く用いられている HPO など他の関連領域の用語集との連携や整合性の担保、さらに、法改正や告示など ICD-11 の国内適用に向けた具体的な作業と課題についても解説し、ICD-11 国内適用の現状とわが国への影響について医療情報の立場から論じる。

3. 本シンポジウムの意義

ICD-11 の国内適用に向けて、現在、日本語化作業をはじめとした様々な準備が進められおり、また様々な課題も明らかになってきている。本シンポジウムは、このような ICD-11 の国内適用に向けて、その準備状況と解決すべき課題について取りまとめ、ICD-11 国内適用に向けて議論する貴重な機会である。

ICD-11 の国内導入は、わが国の医療全般に関わることからその影響は非常に大きい。わが国の実態を踏まえた適切な医療情報を将来に渡って確保するためには、ICD 改訂動向に関する情報収集と意見発信が重要であり、また ICD-11 の分類体系や内容を正確に把握し、適切な日本語化を進めると同時に、わが国への影響について詳細に考察する必要がある。本シンポジウムにおいて議論する ICD-11 のわが国への導入に向けた動向や日本語化作業の現状と課題、ICD-11 導入の影響、医学用語集などの整合性確保に向けた検討や課題、ICD-11 活用の検討と課題などを明らかにし、関連各機関との議論を踏まえて方向性を明らかにすることは、円滑な ICD-11 国内適用に必須であり、ICD-11 の臨床や研究、政策

立案への活用に必要な不可欠である。円滑な ICD-11 国内適用には、これらの検討を踏まえ、関連学会などとの連携を図ることも重要と考えられる。

謝辞

本シンポジウムは、令和 4 年度厚生労働科学研究費補助金・政策科学総合研究事業(政策科学推進研究事業)「社会構造の変化を踏まえた保健医療にかかる施策立案に資する国際疾病分類の国内導入のための研究(20AA1002)」(研究代表者:摂南大学・小川俊夫)の一環として実施した。

ICD-11 の国内適用に向けた現状と課題について

榊原 崇広^{*1}、藤巻 早紀^{*1}、大坪 郁乃^{*1}、稲葉 朋子^{*1}、中山 佳保里^{*1}、渡 三佳^{*1}、吉本 雅世^{*1}
^{*1} 厚生労働省国際分類情報管理室

The current situation and issue for Implementation of ICD-11 in Japan

Takahiro Sakakibara^{*1}, Saki Fujimaki^{*1}, Ayano Otsubo^{*1},
 Tomoko Inaba^{*1}, Kaori Nakayama^{*1}, Mika Watari^{*1}, Masayo Yoshimoto^{*1}

^{*1} International Classification and Information Management Office,
 Ministry of Health, Labour and Welfare, Japan

In Japan, the "Statistical Classification of Diseases, Injuries, and Deaths" has been published as a statistical standard based on the Statistical Law in accordance with the ICD established by the WHO and used for official statistics. In light of the fact that ICD-11 came into effect in January 2022, ICD Advisory Committee, which met in June 2022 to discuss the implementation of ICD-11 in Japan, identified three issues: (1) positioning of chapters ("Traditional Medicine," "Life Function Assessment," and "Extension Codes") added as new concepts to the Mortality and Morbidity Statistics (MMS) of ICD-11 in statistical standards, (2) scope of Japanese translation of the Foundation, and (3) preparation of disease and death tables. The Statistical Classification of Diseases, Injuries, and Deaths based on ICD-10 is not only used in official statistics such as vital statistics and patient survey, but is also widely used in the management of medical records. ICD-11 can be used in a variety of settings, such as clinical practice and research.

Keywords: ICD-11, WHO, Implementation of ICD-11

1. はじめに

我が国では、世界保健機関（以下、「WHO」という。）が策定する疾病及び関連保健問題の国際統計分類（以下、「ICD」という。）を、国際会議で初めて採択された明治33年（1900年）当初から採用し、WHOによるICDの改訂がある度に和訳を行い、運用を行ってきた。ICDの最新版となる第11回改訂版（以下、「ICD-11」という。）は、世界保健総会が2019年5月に採択し、2022年1月に発効されている。

ICD-11への改訂にあたっては、いくつかの大きな変更点がある。第10回改訂版（以下、「ICD-10」という。）は、主に死亡や疾病統計を報告する目的で分類項目が整理されていたが、ICD-11では例えば、プライマリケアやがん登録、臨床研究といった様々な使用目的を想定して用語が収載されており、それに伴い、新たな章やセクションが新設されている。また、ICD-11はデジタル世界での使用を想定して設計されており、完全に電子化している。さらにICD-11では、「Foundation」という概念が新たに導入されている。Foundationには、統計用分類を作成するために必要なすべての情報が収容されており、ここから目的に応じた分類が作成される。ICD-11においてICD-10に対応するものは、ICD-11の死亡・疾病統計用分類（以下、「MMS」という。）となると考えられ、これはFoundationから死亡・疾病統計用に切り出された分類である。

これらの変更点を踏まえ、ICD-11の国内適用にあたっての現状を整理し、課題について考察することを目的とする。

2. 疾病、傷害及び死因の統計分類

我が国の公的統計でICD-11を適用するには、公的統計の作成及び提供に関し基本となる事項を定めている「統計法」（平成19年法律第53号）に基づき、公的統計の統一性又は総合性を確保するための技術的な基準として設定される統計基準である「疾病、傷害及び死因の統計分類」（平成27年2月13日総務省告示第35号）をICD-11に準じて告示改正する必要がある。そのため、厚生労働省では、社会保障審議会統計分科会の下に、各分野の有識者から構成される「疾病、

傷害及び死因分類専門委員会」（以下、「ICD専門委員会」という。）において個別の専門分野の議論を行うとともに、「疾病、傷害及び死因分類部会」（以下、「ICD部会」という。）においてICDの公的統計への国内適用のあり方について、医学・公衆衛生の専門的な知見を踏まえて審議を行うこととしている。その後、総務省統計委員会において統計的な視点を踏まえた審議を経て、告示改正に至ることとなる。

3. ICD-11の国内適用に向けた課題の検討

世界保健総会がICD-11を2019年5月に採択し、2022年1月にICD-11が発効されたことを踏まえ、2022年6月に開催された「第9回ICD部会」において、ICD-11の国内の公的統計への適用に向けた現状と課題が議論された。ICD-11の国内適用に向けた検討事項として、(1)ICD-11のMMSに新たな概念として追加された章（「伝統医学」、「生活機能評価」、「エクステンションコード」）の統計基準における取り扱い、(2)Foundationの和訳範囲、(3)疾病分類表及び死因分類表の作成の3点が挙げられた。

4. MMSに新たに追加された章について

ICD-11のMMSには、新たな概念として「Supplementary Chapter Traditional Medicine（伝統医学）」、「Supplementary section for functioning assessment（生活機能評価）」、「Extension Codes（エクステンションコード）」が追加された。WHOが公表しているReference Guideによると、MMS上のコードは、単独で使うことのできる「ステムコード」、ステムコードと組み合わせる「エクステンションコード」に分けられる。Chapter・Sectionの名称に「Supplementary」（補助の、追加の）、「Extension」（拡張、延長）が使われている通り、新たな概念の「伝統医学」、「生活機能評価」、「エクステンションコード」は、いずれも第1章から第25章とは異なり、任意に補足又は追加のコードとして使用することとされていることから、ICD-10に準拠する既存の統計基準の範囲にあたる章とは位置づけが異なる。そのため、ICD-11に対応した統計基準の策定にあたり、MMSに新たな概念として追加された章（「伝統医学」、「生

活機能評価」、「エクステンションコード」)の取り扱いが議論されているところである。

以下、Reference Guide における WHO の各章の説明の概略を記載する。

(1) 第 26 章:伝統医学

伝統医学は、多くの国で提供されている医療サービスの不可欠な部分であり、ICD に伝統医学を含めることによる国際標準化により、測定、集計、比較、質問の作成、長期的なモニタリングが可能となる。ICD の第 1 章から第 25 章までの西洋医学の概念と合わせて使用されるように設計されており、死因コーディングに用いないものとされている。

(2) 第 V 章:生活機能評価

生活機能の観点からの健康状態への影響を分類及び測定することを可能とするため、任意的な生活機能のセクションが ICD-11 に取り入れられている。国際生活機能分類(以下、「ICF」という。)に沿った生活機能のコーディング及び評価を可能にするものであるが、運用レベルのものであり、詳細な記録及び評価は ICF 本体を使用して行う必要がある。生活機能セクションの各項目は ICF に準拠したものであり、ICF への移行も容易にしている。

(3) 第 X 章:エクステンションコード

エクステンションコードは、分類項目をより詳細に特定したい場合に補足的又は追加的なコードとして使用するために用意されている。エクステンションコードは分類ではなく、統計目的においてはシステムコードなしで使用してはならない。臨床使用だけでなく、損傷に関する研究、医療機器安全、医薬品安全、患者安全、がん登録などのための追加コードが用意されている。

5. ICD-11 の分類項目及び Foundation の和訳

世界保健総会における ICD-11 の採択に先立って、平成 30 年(2018 年)12 月に開催された「第 21 回 ICD 専門委員会」において、和訳作業の詳細な方針が検討された後、日本医学会及び日本歯科医学会を通して和訳に当たっての基本方針、和訳の取扱に則り、学術的な観点も踏まえながら各学会へ和訳の意見照会を実施した。令和 4 年(2022 年)6 月に開催された「第 9 回 ICD 部会」において、和訳作業の現状を報告するとともに、統計基準には含まれない用語の和訳作業についての議論が行われた。また、第 V 章の分類項目については、社会保障審議会統計分科会生活機能分類専門委員会(以下、「ICF 専門委員会」という。)の下に設置された生活機能分類普及推進検討ワーキンググループ(以下、「ICFWG」という。)において和訳案が作成され、令和 2 年(2020 年)4 月に開催された「第 20 回 ICF 専門委員会」において ICFWG から提出された和訳案を審議し、ICD-11 の他章との整合性を踏まえて調整を行い ICF 専門委員会として和訳案を確定している。

既存の統計基準の範囲に加え、ICD-11 では新たな概念として MMS に追加された章や Foundation 内にも膨大な数の用語が記載されており、国内での ICD-11 の活用に向けてこれらの和訳作業などの準備が必要である。現在、日本医学会、日本歯科医学会と連携の下、関係学会の協力を得て和訳作業を行っているが、MMS 上の Chapter、Block、Category 以外の Foundation 内に記載される用語についても基本的に和訳作業を進めており、広く利用が可能な形での公表を行う方針で検討している。

6. 疾病分類表及び死因分類表の作成

我が国では、ICD に準拠した基本分類表のほか、基本分

類を集約した疾病分類表及び死因分類表を定めて、公的統計の表章で使用している。疾病分類表は推定患者数を基準に、死因分類表は死亡数及び社会的な重要度を考慮して設定されたものであり、ICD-11 の国内の公的統計への適用にあたって、ICD-11 の変更点を踏まえて、日本の疾病構造、国際比較可能性、現在の分類表との継続性のほか、横断的なデータ利用に配慮し、分類表間の整合性や公的統計で使用されているその他の統計表等を考慮することが求められる。疾病分類表と死因分類表の作成については、ICD-11 の疾病製表用リスト及び死亡製表用リストの WHO による公表を待ち、当該リストの検証後、ICD-11 に対応した日本の疾病分類表、死亡分類表についての作成方針を定める予定である。

7. おわりに

ICD-11 では、WHO がその作成にあたり、様々な場面での使用を想定し、より多様な病態や関連情報を表現できるようコード体系が整備された。この複雑なコード体系が様々な分野で活用される可能性があることを踏まえつつ、「疾病、傷害及び死因の統計分類」の改正に加え、和訳の公表方法も検討する必要がある。

なお、WHO においては、ICD-11 の発効後も ICD-11 への意見提出やそれに対する検討が随時行われている。ICD-11 公表版は、死因及び疾病統計の国際的利用のために毎年作成されるものであり、国際的な報告に影響を及ぼすような改正は 5 年毎、死亡疾病ルールに影響のある改正は 10 年毎のサイクルで行われるとされている。

ICD-11 の策定については、我が国は、WHO が指定する国際統計分類協力センターの1つとして、多くの専門家とともに WHO 関連会議に参加し、知見の提供等の協力を行った。令和元年(2019 年)9 月には第 3 期目となる日本 WHO 国際統計分類(WHO-FIC)協力センターの指定を受け、厚生労働省、国立保健医療科学院、国立がん研究センターがん対策情報センター、日本病院会日本診療情報管理学会、日本東洋医学サミット会議、国立障害者リハビリテーションセンター、国立国際医療研究センター、国立成育医療研究センターとの、8 機関による日本 WHO-FIC 協力センター協力ネットワークを組織し、今後も ICD-11 本体の改訂等についての議論に対応していくこととしている。

ICD-10 に準拠した「疾病、傷害及び死因の統計分類」は人口動態統計、患者統計といった公的統計での使用に留まらず診療録管理等に広く活用されており、ICD-11 では臨床現場や研究などのさらに様々な場面での活用が可能となっているところ、今後の活用を円滑にする基盤ともなりうる「疾病、傷害及び死因の統計分類」の改訂に向けて作業を進める必要がある。

参考文献

- 1) 渡 三佳、山口 雪子、柳川 侑子、及川 恵美子、高橋 恵介「第 40 回医療情報学連合大会(2020 年 11 月 20 日)発表資料
- 2) 第 9 回社会保障審議会統計分科会疾病、傷害及び死因分類部会。資料。政策統括官付参事官付国際分類情報管理室、2022。[<https://www.mhlw.go.jp/content/10701000/000945063.pdf>](2022 年 8 月 30 日閲覧)]
- 3) 疾病、傷害及び死因の統計分類提要 ICD-10(2013 年版)準拠
- 4) WHO. ICD-11 Reference Guide: 11-05-2022 08:00 UTC。[<https://icdcdn.who.int/icd11referenceguide/en/html/index.html>](2022 年 5 月 18 日閲覧)]

日本歯科医学会と日本口腔科学会による歯科口腔関連用語の和訳作業について

川口陽子*1、川又 均*2,1,4、宮本洋二*3,1,4

*1 日本歯科医学会、*2 獨協医科大学、*3 徳島大学、*4 日本口腔科学会

Collaborative translation work for dental/oral-health-related terms in ICD-11 by Japanese Association for Dental Science and Japanese Stomatological Society

Yoko Kawaguchi*1, Hitoshi Kawamata*2,1,4, Youji Miyamoto*3,1,4

*1 Japanese Association for Dental Science, *2 Dokkyo Medical University, *3 Tokushima University, *4 Japanese Stomatological Society

Dental/oral-health-related terms are distributed in many chapters in ICD (International Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems). For examples, main dental diseases such as dental caries, periodontal diseases and malocclusion are located in the “chapter of diseases of the digestive system”. Oral candidiasis is located in the “chapter of certain infectious and parasitic diseases”, oral cancer is located in the “chapter of neoplasms” and tooth fracture is located in the “chapter of injury, poisoning and certain other consequences of external causes”. Other chapters also had dental/oral-health-related terms, as oral manifestations are often seen in many systemic diseases. Previously two organizations, Japanese Stomatological Society (JSS) and Japanese Association for Dental Science (JADS), had been involved in the translation work for ICD dental/oral-health-related terms, separately. However, for ICD-11, JSS and JADS worked together for the translation of dental/oral-health-related terms. First 2,243 dental/oral-health-related terms were picked up from the all chapters of ICD-11. Then the committee members of JSS and JADS translated all terms from English to Japanese. After that all translation were referred to the specialized and authorized organizations of JADS. Finally, committee members had collaborative meeting to decide the Japanese translation of the dental/oral-health-related terms of ICD-11.

Keywords: Dental/Oral-health-related terms, ICD-11, Japanese Association for Dental Science, Japanese Stomatological Society

1. ICDにおける歯科口腔関連用語について

疾病及び関連保健問題の国際統計分類 ICD(International Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems) においては、歯科医師が治療対象とする多くの疾患(う蝕、歯周病、不正咬合など)は、「消化器系の疾患の章」の中に位置づけられている。また、疫学的にまとめることが適当な病態として、例えば口腔カンジダ症などは「感染症及び寄生虫症の章」に、舌がんや歯肉がんなどは「新生物の章」に、歯の破折などは「損傷、中毒及びその他の外因の影響の章」など、歯科口腔領域の疾患はさまざまな章に分散されて配置されている。そのため、歯科医師にとって中心分類である ICD はどの章にどの疾患が配置されているのか、すぐには理解しにくい構成となっている。

ICD-10 においては、歯科口腔領域に関連する用語を収集した ICD-DA (Application of the International Classification of Diseases to Dentistry and Stomatology, Third Edition) が、WHO より派生分類として公表されている。それを和訳した「国際疾病分類 歯科学及び口腔科学への適用 (ICD-DA 第 3 版)」¹⁾が、わが国では使用されている。その内容を見ると、第 1 章から第 20 章まですべての章にわたって、歯科口腔関連用語が含まれている (表 1)。もちろん、そこに示されたすべての疾患が歯科医師の治療対象というわけではなく、全身疾患のうち、「口腔の症状発現」がみられる疾患名も数多く含まれている (例: 鉄欠乏性貧血、摂食障害、シェーグレン< Sjögren > 症候群等)。患者の口腔内を診察する歯科医師は、最初に口腔内症状 (異常) に気づき、医科受診を勧めることによって診断に至る症例も決して少なくない。ICD のすべて

表 1 歯科口腔関連用語が含まれている章 (ICD-DA 第 3 版)

ICD-10 の章	
第 1 章	感染症及び寄生虫症
第 2 章	新生物
第 3 章	血液及び造血系の疾患並びに免疫機構の障害
第 4 章	内分泌、栄養及び代謝疾患
第 5 章	精神及び行動の障害
第 6 章	神経系の疾患
第 7 章	眼及び付属器の疾患
第 8 章	耳及び乳様突起の疾患
第 9 章	循環器系の疾患
第 10 章	呼吸器系の疾患
第 11 章	消化器系の疾患
第 12 章	皮膚及び皮下組織の疾患
第 13 章	筋骨格系及び結合組織の疾患
第 14 章	腎尿路生殖器系の疾患
第 15 章	妊娠、分娩及び産じよく< 褥 >
第 16 章	周産期に発生した病態
第 17 章	先天奇形、変形及び染色体異常
第 18 章	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの
第 19 章	損傷、中毒及びその他の外因の影響
第 20 章	傷病及び死亡の外因

の章の中に、口腔と関連のみられる疾患が挙げられていることは、医科歯科連携の重要性を示している。

2. 日本歯科医学会と日本口腔科学会

日本歯科医学会は、表 2 に示すように 25 の専門分科会、21 の認定分科会、計 46 の分科会から構成される歯科口腔領域のさまざまな学術団体を統括する組織である。各分科会の会員延べ人数としては約 14 万名が登録されているが、一人が複数の学会に所属している場合があるので、実質の会員数は 39,940 名 (2021 年現在) である。この日本歯科医学会の中には、常置委員会として歯科学術用語委員会 (委員長: 川又 均) が設置されており、歯科学術用語集の作成等を行っている。厚生労働省より ICD に関する和訳作業を依頼された場合には、この委員会が中心になって日本語訳を担当している。

一方、日本口腔科学会は日本医学会の分科会の一つであり、会員数は 4,364 名 (2021 年現在)、主に口腔外科、歯科放射線科、口腔病理領域の歯科医師による学術団体である。日本口腔科学会の中には ICD 委員会 (委員長: 宮本洋二) があり、ICD の和訳作業を担っている。

3. ICD の和訳作業について

3.1 これまでの和訳作業

以前は、主に日本医学会の分科会が中心になって ICD の和訳作業を分担して実施する経緯があったため、歯科口腔関連用語に関しては日本口腔科学会の ICD 委員会のもとで和訳されていた。その後、日本口腔科学会から日本歯科医学会に対して訳された日本語についての確認依頼が来ていたが、提出締め切りまでの時間が非常に短いため、日本歯科医学会から専門分科会あてに和訳を確認する時間が取れず、歯科学術用語委員会の委員が中心になって確認作業を行っていた。

3.2 ICD-11 の和訳作業の方法

ICD-11 に関しては、2018 年の最初の段階では厚生労働省から日本口腔科学会と日本歯科医学会の 2 団体あてに同時に和訳作業の依頼が来ていたため、両団体間での調整は何も行わずに、別々に歯科口腔関連用語を和訳して厚生労働省に提出していた。2 回目の翻訳依頼 (2021 年) のときはオリジナルの Excel ファイル上の「担当する関連学会」の部分で、「歯」と記載されている用語は日本歯科医学会、「口」と記載されている用語は日本口腔科学会が担当とされていたが、厳密に 2 つを分類して和訳することは困難と考え、両学会が合同で和訳作業を行うことにした。

具体的には歯科学術用語委員会 (日本歯科医学会) と ICD 委員会 (日本口腔科学会) の 2 名の委員長が中心になって合同会議を企画・運営し、厚生労働省から最初に提示された「作業ファイルの定型リスト」や説明動画等の情報を委員間で共有してから、分担して和訳作業を行った。その際、対訳がある場合は日本歯科医学会学術用語集²⁾を中心として、各分科会の用語集やガイドラインを参考とした。

その後、委員の翻訳を合同会議で検討したうえで、事務局がまとめた資料を送付して、専門・認定分科会に確認作業を依頼した。ICD の和訳作業を各分科会に依頼するときに日本語欄が空欄のまま、すなわち、和訳なしの状況での依頼は行わず、必ず委員による和訳案を書いておき、和訳の確認・修正を依頼するようにした。これは分科会に対して負担が少なくなるようにという配慮であったが、その分、委員側の負担は大

表 2 日本歯科医学会の分科会

専門分科会 (25 学会)	認定分科会 (21 学会)
歯科基礎医学会	日本口腔感染症学会
日本歯科保存学会	日本歯科心身医学会
日本補綴歯科学会	日本臨床歯周病学会
日本口腔外科学会	日本歯科審美学会
日本矯正歯科学会	日本顎口腔機能学会
日本口腔衛生学会	日本歯科東洋医学会
日本歯科理工学会	日本顎変形症学会
日本歯科放射線学会	日本顎顔面補綴学会
日本小児歯科学会	日本顎咬合学会
日本歯周病学会	日本磁気歯科学会
日本歯科麻酔学会	日本小児口腔外科学会
日本歯科史学会	日本顎顔面インプラント学会
日本歯科医療管理学会	
日本歯科薬物療法学会	日本外傷歯学会
日本障害者歯科学会	日本口腔診断学会
日本老年歯科医学会	日本口腔腫瘍学会
日本歯科医学教育学会	日本口腔
日本口腔インプラント学会	リハビリテーション学会
日本顎関節学会	日本口腔顔面痛学会
日本臨床口腔病理学会	日本口腔検査学会
日本接着歯学会	日本口腔内科学会
日本歯内療法学会	日本睡眠歯科学会
日本レーザー歯学会	日本デジタル歯科学会
日本スポーツ歯科医学会	
日本有病者歯科医療学会	

きくなった。特に、全体を統括する両委員会の委員長の負担は非常に大きかった。和訳の最終決定に関しては、分科会からの修正案やコメントをもとに、両委員会の合同会議で決定し、厚生労働省へ提出した。

3.3 和訳作業で工夫したこと

「担当する関連学会」として「歯」「口」と書かれた用語以外にも、歯科口腔領域に関連する用語が存在した。そこで、最初に、厚生労働省から提供されたオリジナルの Excel ファイルの中から、各章ごとに歯科口腔領域と関連があると思われる用語を識別する作業を行った。全身疾患の中で口腔に症状発現がみられるものは除き、歯科医師が治療対象とする疾病に関連する用語を抜き出して、和訳作業に取り組むこととした。最終的に、歯科口腔領域で和訳作業を行った用語は、表 3 に示すように 9 つの章の 2,243 語であった。消化器系の疾患の第 13 章に最も多く、1,213 語が含まれていた。

オリジナルの Excel ファイル上では、修正案を表の中いくつか書き込んだり、さまざまなコメントを自由に加えたりする作業が行いにくいいため、各章ごとに歯科口腔関連用語のみを抜き出した歯科作業用の Excel ファイルを別に作成した。そのファイルを一覧資料として使用して、委員や分科会に送信して和訳作業を行えるように工夫した。

オリジナルの Excel ファイルの表の中で自由に使える最終列の部分に「歯科口腔領域」の単語を識別できるようにしたため、歯科作業用の Excel ファイル上で最終決定した和訳を、オリジナルのファイルに転記する作業は容易に行うことができた。

表 3 ICD-11 の歯科口腔関連用語の含まれる章と用語数

	ICD-11 の章	用語数
第 1 章	感染症又は寄生虫症	40
第 2 章	新生物	462
第 4 章	免疫系の疾患	2
第 7 章	睡眠・覚醒障害	11
第13章	消化器系の疾患	1,213
第20章	先天奇形	287
第21章	症状、徴候又は臨床所見で他に分類 されないもの	56
第22章	損傷、中毒又はその他の外因の影響	152
第24章	健康状態に影響を及ぼす要因又は 保健サービスの利用	20
	計	2,243

4. 歯科口腔領域からみた ICD の課題について

最後に、歯科口腔領域からみた ICD の課題について述べたい。ICD-10 における中心分類では、1～20 のすべての章に歯や口腔と関連のみられる疾患が挙げられていた。ICD-11 においてもほとんどの章に歯科口腔関連疾患が含まれていると思われる。しかし、中心分類の ICD の中に歯科口腔疾患の

章が独立して含まれていないため、目次を見ただけでは、歯科口腔疾患は含まれていないと誤解されてしまうことがある。口腔は消化器の入り口に位置しているが、第 13 章の消化器系の疾患の中で、う蝕、歯周病、不正咬合などの三大歯科疾患が含まれる部分では、1,200 以上もの疾患名が挙げられている。歯の咀嚼機能を考えると消化器系に含まれるが、歯科口腔領域には発語(発声、構音)機能や審美性の問題もあり、国際的にみても多くの国で医師ではなく、歯科医師が治療を行っている。

ICD-10 から ICD-11 への改訂のときには、これまでの章から独立させて新たに追加された章があると報告されている。そこで、将来のことになるが、ICD-12 への改訂のときには部位別の疾患あるいは疫学的にまとめることが適当な病態として、第 13 章から歯科口腔領域の疾患・異常の部分独立させて、新しく章立てをすることを提言したい。

参考文献

- 1) 厚生労働省大臣官房統計情報部編. 国際疾病分類国際疾病分類 歯科学及び口腔科学への適用 (ICD-DA) 第 3 版. 厚生労働統計協会, 2001.
- 2) 日本歯科医学会編. 日本歯科医学会学術用語集 第 2 版. 医歯薬出版, 2018.

チームで取り組む ICD-11 和訳作業

井上茂亮*1、中原慎二*2、
鉾方安行*3

*1 神戸大学大学院医学研究科外科系講座 災害・救急医学分野、

*2 神奈川県立保健福祉大学 ヘルスイノベーション研究科、

*3 関西医科大学救急医学講座

ICD-11 Japanese translation work by a team

Shigeaki Inoue*1, Shinji Nakahara*2, Yasuyuki Kuwagata*3

*1 Dept. of Disaster and Emergency medicine, school of medicine, Kobe University,

*2 Kanagawa Prefectural University of Health and Welfare,

*3 Dep. of Emergency and Critical Care Medicine, Kansai Medical University

The International Classification of Diseases (ICD) is a classification of causes of death and diseases based on internationally standardized criteria developed by the World Health Organization (WHO). Since WHO announced the revision from ICD-10 to ICD-11 for the first time in 30 years, the Terminology Committee of the Japanese Association of Emergency Medicine translated 4369 ICD-11 entries into Japanese. 1) Mortality and Morbidity statistics (MMS): 913 terms were translated and checked by 13 members of the terminology committee. 2) Foundation version: The terminology committee judged that the 3456 entries (including 760 newly translated entries) would be too large to be shared only by the terminology committee members. Therefore, we asked each committee member to nominate 3 task force members, and 13 teams with 52 members worked on the task. Although the workload was enormous, we were able to complete the work without major problems because 1) we recruited task force members to form a team to reduce the workload per person, and 2) each committee member demonstrated leadership and execution skills.

Keywords: International Classification of Diseases, Mortality and Morbidity statistics, World Health Organization

1. 緒言

国際疾病分類 (ICD) とは 世界保健機関 (World Health Organization, WHO) が作成する国際的に統一した基準で定められた死因及び疾病の分類である。我が国では、統計法に基づく統計基準として「疾病、傷害及び死因の統計分類」を告示し、公的統計 (人口動態統計等) において適用している。また、医学的分類として医療機関における診療録の管理等においても広く活用されている。2018 年、WHO は約 30 年ぶりに ICD-10 から ICD-11 への改定を公表し、わが国でも適応に向けた検討を行ってきた(1)。

そのような中、2021 年厚生労働省国際分類情報管理室より「質病および関連保険門あいの国際統計分類」の第 11 回改訂版 (ICD-11) に関する和訳作業の依頼を受けて、日本救急医学会用語委員会では約半年にわたり作業を実施した。本発表ではその作業過程と作業における工夫を共有する。

2. 概要

1) Mortality and Morbidity statistics (MMS) 版和訳・確認作業: 対象用語数 913 項目。2021 年 6 月から 7 月まで、13 名の用語委員会委員で分担し作業を実施した。最終工程で用語の調整などを行った後に、厚生労働省に提出した。作業実

施において大きな問題は生じなかった。

2) Foundation 版和訳・確認作業: 対象用語数 3456 項目 (うち新規翻訳 760 項目) であり、用語委員会のみでは分担困難であると判断した。このため各委員に 3 名のタスクフォースメンバーを推薦してもらい、13 チーム、52 名の組織にて作業を実施した。2021 年 10 月より 1 ヶ月にわたり各チーム (委員: チームリーダー 1 名、タスクフォースメンバー 3 名) 約 266 項目の分担作業を行うこととなった。作業に先駆け、zoom にて班員全員を対象とした kick-off meeting を行い、作業工程と役割分担を説明し情報共有を行った。各メンバーの作業分配は各委員のチームに一任したが、同一作業員が新規翻訳とその部分の確認作業を行わないことをルールとした。作業実施において大きな問題は生じず、最終工程で用語の調整などを行った後に、厚生労働省に提出した。

3. 考察

約 30 年ぶりの改定となる ICD-11 の改定ポイントは、1) 最新の医学的知見が反映されており、多くの日本の医学の専門家・団体が貢献していること、2) 死亡・疾病統計の国際比較に加え、臨床現場や研究など様々な場面での使用を想定し、より多様な病態を表現できるようコード体系が整備された

こと、3) ウェブサイトでの分類の提供など、電子的環境での活用を想定した様々なツールが、WHO から提供されていること、などがあげられる。このような改定の中、各領域での和訳・確認作業は膨大なものとなった。このような大人数の組織による短期間を実施できた要因は、1) 作業工程を明確化し、それぞれの役割を明確にし共有すること、2) 各チームのリーダーがリーダーシップを発揮すること、の 2 つである。本事例では作業開始前の kick off ミーティングを WEB 上で実施し、目的と作業工程を明確に伝え、なおかつ 13 名の用語委員会委員が各チームリーダーとして実行力を発揮してくれた。

ICD-11 日本語版の一応の完成を見た後は、その有効活用方法を検討すべきである。救急集中治療領域は複数の病態有することが多いため、ICD の単一コード使用の原則を適用すると情報量が著しく欠落してしまうことがある(2)。例えば、熱傷後に敗血症を合併した症例や、頭部外傷に骨盤骨折を合併した多発外傷などが挙げられる。多発外傷コードも存在してはいるが、非常に多様な多発外傷のパターンを少数の多発外傷コードで網羅することは不可能であるうえ、最も重症度の高い損傷部位によって分類される(他部位損傷を無視する)といったことも発生する(3,4)。またそれぞれの病態のさまざまな重症度を十分に反映させることが現在の多発外傷コードではできない。今後は ICD を中心としながらも、単一コード使用の原則に拘泥せず、多病態・多疾患・多系統にまたがった病態の病名登録を柔軟に行えるシステム構築が、特に今後の DPC における ICD-11 利用において必要になってくると考える。

4. 結論

日本救急医学会 用語委員会において 4369 項目の ICD-11 和訳作業を実施した。膨大な作業量であったが、1) 一人あたりの作業負担を軽減するためにタスクフォースメンバーを募りチームを形成したこと、2) 各委員のリーダーシップと実行力を発揮してくれたことで、大きな問題なく作業を完遂することができた。

5. 引用文献

1. 森桂, 及川恵美子, 阿部幸喜, 中山佳保. WHO 国際統計分類の歴史と ICD-11 の国内適用に向けて. 保健医療科学 2018;67(5):434-42.
2. Nakahara S, Yokota J. Revision of the International Classification of Diseases to include standardized descriptions of multiple injuries and injury severity. Bull World Health Organ. 2011;89(3):238-40.
3. 中原 慎二, 内田 靖之, 織田 順, 横田 順一郎. ICD と AIS へ変換可能な新たな外傷分類の作成. 日本外傷学会雑誌. 2012;26:1340-626
4. Aharonson-Daniel L, Boyko V, Ziv A, Avitzour M, Peleg K. A new approach to the analysis of multiple injuries using data from a national trauma registry. Inj Prev. Jun 2003;9(2):156-62.

わが国の公的統計への ICD-11 適用の影響に関する一考察

- ICD-11 準拠の疾病分類構築の試行と影響分析 -

小川俊夫*1、滝澤雅美*2、今井 健*3、小松雅代*4、向野雅彦*5、今村知明*6

*1 摂南大学、*2 国際医療福祉大学、*3 東京大学、*4 大阪大学、*5 北海道大学、*6 奈良県立医科大学

A Study on the Impact of Applying ICD-11 to Japan's Official Statistics - Development and impact analysis of ICD-11-based disease classification for Japan -

Toshio Ogawa*1, Masami Takizawa*2, Takeshi Imai*3, Masayo Komatsu*4, Masahiko Mukaino*5, Tomoaki Imamura*6

*1 Setsunan University, *2 International University of Health and Welfare, *3 The University of Tokyo,

*4 Osaka University, *5 Hokkaido University, *6 Nara Medical University

As the current classifications of causes of death and disease used in Japan's official statistics are constructed in accordance with ICD-10, these classifications would be necessary to be updated in accordance with the introduction of the new classification of disease, namely ICD-11. Purpose of this study is to develop a new classification of the "the disease classification for Japan" based on the ICD-11, and to analyse the changes of the patient survey between current and new classifications. We develop a new "the disease classification for Japan" based on the ICD-11 using the ICD-10/11 mapping table developed by WHO and patient survey of Japan. We estimated the changes in the aggregated number of diseases 2021 by the current and newly developed classification. As the new classification was developed based on the structure of ICD-11, the number of patients aggregated number of diseases was estimated differently between current and new classifications. This study indicated that the introduction of ICD-11 would be influenced on the Japan's official statistics. It is necessary to conduct a further study on the impact of the ICD-11 introduction on the Japan's official statistics.

Keywords: ICD-10, ICD-11, patient survey, the disease classification for Japan

1. 背景

わが国の公的統計に用いられている現行の死因分類や疾病分類は、ICD-10 国内適用に伴い ICD-10 準拠で構築されている。現在、わが国では ICD-11 の国内適用に向けて様々な準備が行われているが、公的統計で使用されている各種分類も、ICD-11 の国内適用に伴い ICD-11 準拠に変更する必要があると考えられる。また、前回の ICD-9 から ICD-10 への改訂時には、新たな分類準拠の死因統計分類や疾病分類の構築と新旧分類の比較分析がなされており、ICD-11 の国内導入に伴い、同様の検討が必要と考えられる。

発表者らは、ICD-11 準拠の死因単純分類の作成と現行の ICD-10 準拠の死因単純分類との比較分析を実施し、2021 年度の本学会総会にて発表した²⁾。この先行研究により、ICD-11 準拠の死因単純分類は現行より項目数が増加し、また項目ごとの死亡者数に変化が見られたことから、公的統計の継続性の視点から、今後検討が必要であることが示唆された。

本研究は、先行研究の成果を踏まえて、患者調査に用いられている疾病分類について、現行の ICD-10 準拠から ICD-11 準拠への改訂を試行し、新たな分類が患者調査に与える影響について考察することを目的として実施した。また、ICD-11 の国内適用により、わが国の公的統計に与える影響について、死亡統計と罹患統計の双方を比較分析して考察を行うことも目的として実施した。

2. 方法

先行研究と同様に、WHO より作成・公開されている ICD-10/ICD-11 のマッピングテーブル (ICD-10/11 mapping tables)³⁾と 2013 年版準拠・基本分類表⁴⁾、死因単純分類表⁵⁾、人口動態調査下巻・死亡数、死因 (死因基本分類)・性別表⁶⁾、さらに令和 2 年患者調査第 119 表 (総患者数、傷病基本分類別)⁷⁾ を名寄せし、ICD-11 準拠の新たな疾病分類の構築を試行し、新旧の疾病分類の比較分析を実施した。また、先行

研究で構築した ICD-11 準拠の死因単純分類も加えて、ICD-11 国内適用が公的統計に与える影響について、多角的に考察した。

2.1 新たな ICD-11 MMS 準拠の疾病分類の作成

ICD-10/11 mapping tables、基本分類表、死因 (死因基本分類)・性別表、患者調査第 119 表 (総患者数、傷病基本分類別) を、ICD-10 コードをキー変数として名寄せした。なお、ICD-10/11 mapping tables は、先行研究で用いた 2021 年版に加え、2022 年 2 月に改訂された 2022 年版が存在するため、これらを統合して双方を利用可能としたが、本報告では最新の 2022 年版を用いた。また、ICD-10/11 mapping tables に記載された項目によっては、単一の ICD-10 コードに複数の ICD-11 MMS コードが記載されているため、ICD-10/11 mapping tables とその他のテーブルは、1 対多対応で付加した。また、基本分類表及び患者調査のみに記載され、ICD-10/11 mapping tables には存在しない主としてわが国の独自コードについても名寄せし、全ての項目を記載した「統合表」を作成した。

統合表において、わが国独自コードなど一部の項目には ICD-11 MMS コードが付加されなかったため、ICD-10 と ICD-11 MMS の項目名、ICD-10 準拠の疾病分類などを勘案し、ICD-11 MMS コードを推定し付加した。また、ICD-11 MMS コードから ICD-11 MMS の章を推定した。

次に、統合表に記載されている現行の ICD-10 準拠の疾病分類 (以下、疾病分類 10) を参考にし、ICD-11 MMS コード・章の情報をもとに、新たな ICD-11 MMS 準拠の疾病分類 (以下、疾病分類 11) の作成を試行した。なお、疾病分類には、大分類、中分類、小分類の区分があるため、それぞれについて ICD-11 準拠の分類の構築を試行したが、本研究では、そのうち大分類について検討を実施した。これらの疾病分類 11 の作成にあたり、構造は ICD-11 MMS の章に準拠し、かつ既

存の疾病分類 10 で用いられている項目をそのまま継続する方向で作成した。

疾病分類 11 のうち大分類において、新たなコード体系を作成した。作成した新たなコードは、疾病分類 10 と同様に「a-」から始まる 4 桁の数字としたが、疾病分類 10 と疾病分類 11 との差別化を図るため、疾病分類 10 には「a10-」、疾病分類 11 には「a11-」を、それぞれ付与した。

統合表において、単一の ICD-10 コードに対して複数の ICD-11 MMS コードが付与されている項目については、現行の ICD-10 コードで集計された患者数データを、それぞれの ICD-11 MMS コードに「分配」する必要がある。本研究では、先行研究と同様に、患者数を複数の ICD-11 MMS コードに分配する場合、各コードに均等配分されると仮定し分配した。

また、ICD-11 MMS の項目によっては、複数のコードの組み合わせが存在する。これらの項目については、先行研究の方法を用いた。例えば、「1A00&XN8P1」（コレラ菌によるコレラ）や「1C17.Z/GB52」（その他のジフテリア）である。このうち、「&」を用いて複数のコードが組み合わせられた項目については、最初に記載されたコードを親コードと仮定し、最初のコードで集計を実施した。「/」で複数のコードが組み合わせられた項目については、それぞれで主たるコードを判定した。

なお、ICD-11 MMS コードの項目名や章の名称は、研究実施時点ではまだ正式な日本語版が存在していないため、それぞれの項目を google translate を用いて日本語に自動翻訳した結果であり、仮訳である。

2.2 新旧の疾病分類の患者数の比較分析

上記の患者数の処理に基づき、疾病分類 11 での患者数を推計し、また現行の疾病分類 10 と疾病分類 11 の患者数の集計値の違いについて解析を行った。また、ICD-10 と ICD-11 MMS の章ごとの患者数の集計値の違いについて、解析を実施した。

3. 結果

3.1 新たな ICD-11 MMS 準拠の疾病分類の作成

ICD-10/11 mapping tables と基本分類表、死因単分類表、死亡数表、患者数表の名寄せにより「統合表」を作成した。この統合表を用いて、新たな ICD-11 MMS 準拠の疾病分類 11・大分類を作成した。また、現行の ICD-10 準拠の疾病分類 10・大分類との比較表を作成した(表1)。

現行の疾病分類 10・大分類は 70 項目であるが、疾病分類 11・大分類では 69 項目であり、1 項目減少した。なお、ICD-11 では、「26 章 伝統医学」と「V 章 身体機能」に加え、新たに「4 章 免疫系の疾患」「7 章 睡眠覚醒障害」「17 章 性的健康に関連する条件」の 3 章が追加されたが、ICD-10 の「21 章 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用」と「22 章 特殊目的用コード」の疾病分類、さらに外因の患者数がゼロであったことから、これらの章の詳細な疾病分類を統合したため 4 項目減少となったためであり、疾病分類の項目数としてはほぼ変化が見られなかった。

3.2 新旧の疾病分類の患者数の比較分析

(1) 疾病分類・大分類の比較

疾病分類 10 と疾病分類 11 を用いて、それぞれ 2021 年の患者数を集計し、比較した(表1)。各項目の患者数は、疾病分類 11・大分類の 69 項目中 34 項目は新旧で同じであったが、残りの 35 項目については増減が見られた。このうち最も大きく患者数の削減が見られたのが、「a10-0600 神経系の疾

患」で、3,689 千人から 2,717 千人と 972 千人減であった。これは、主として ICD-11 により新たに導入された「7 章 睡眠覚醒障害」に該当する患者が移動したと推計された。ついで「a10-1302 脊柱障害」が 3,832 千人から 3,068 千人と 768 千人減となったが、ICD-11 で一部の患者が「a11-0801 神経系の疾患」または「a11-2101 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの」に移動したと推計された。患者数が増加したのは、主として新たに項目として追加された「a11-0701 睡眠障害」や「a11-0401 免疫機構の障害」などであった。

(2) ICD-10/11 章の比較

次に、ICD-10 と ICD-11 MMS の章ごとに、2021 年の患者数を集計し、比較した(表2)。なお、ICD-10 と 11 では章立てが異なっており、本研究で使用した章は、それぞれ ICD-10 で 22 章、ICD-11 では対象外の X 章も含めて 26 章で、それぞれ対応する章ごとに患者数の集計値を比較した。

ICD-10 と 11 の章で集計すると、患者数が同じと推計された章はなく、全ての章で増加あるいは減少が見られた。患者数が最も大きく減少したと推計されたのは、ICD-10 の「10 章 循環器系の疾患」であり、20,386 千人から 18,771 千人と 1,615 千人減少すると推計された。これは、主として脳梗塞などが、ICD-11 の「8 章 神経系の疾患」に移動したことによると推計された。ついで、ICD-10 の「13 章 筋骨格系及び結合組織の疾患」の減少が大きく、9,972 千人から 8,770 千人と 1,202 千人減少すると推計された。これは、主としてリウマチ性多発筋痛症や全身性エリテマトーデスが ICD-11 の「4 章 免疫系の疾患」に移動したためと推計された。患者数が増加した章は、新たに追加された「7 章 睡眠覚醒障害」に加え、脳梗塞が追加された「4 章 免疫系の疾患」などであった。

4. 考察

ICD-11 は 2018 年 6 月に公表されたのち、2019 年 5 月の World Health Assembly にて承認され、その後各国への導入に向けた準備が始められている。わが国においても ICD-11 の導入に向け、わが国の臨床や研究で利用されている従来分類との整合性の確保や ICD-11 の日本語化など具体的な検討が実施されている。この検討の一環として、ICD-11 のわが国への適用に伴い、各種公的統計への影響について把握することは、わが国の公的統計の継続性と整合性を確保するために極めて重要である。

わが国で現在公示され使用されている ICD-10 (2013 年版) に準拠した「疾病、傷害及び死因」の統計分類は、(1) 基本分類表、(2) 疾病分類表(大分類、中分類、小分類)、(3) 死因分類表である。このうち、疾病分類表は、わが国の疾病罹患の状況を概括できるように推定患者数を基準にして、大分類、中分類及び小分類がそれぞれ独立し、分類表としての形式を統一したものとすることである⁸⁾。

本研究で構築を試行した疾病分類 11 は、従来の疾病分類 10 の各疾病項目を維持しつつ、また大分類、中分類、小分類それぞれも維持したものであることに加え、ICD-11 MMS の構造を併せ持つものである。そのため、統計情報の継続性を維持しつつ新たな疾病分類の概念の導入を実現できると考えられ、今後のわが国の疾病分類の構築に大きく貢献できるものと期待される。

疾病分類 11・大分類の項目数については、ICD-10 から ICD-11 MMS への構造変化があるものの、項目数自体はほとんど変化がなく、統計の継続性の維持が期待された。しかしながら、項目ごとの患者数を推計すると、約半分の項目で患

者数の増減が見られた。先行研究で実施した死因単分類の改訂の推計²⁾では、項目数が 110 項目から 116 項目に増加し、ICD-10 準拠の死因単分類項目のうち約 40%で死亡者数の変動が見られる可能性が示唆された。すなわち、死亡者数、患者数ともに ICD-11 の国内適用により変動すると推計されたことから、統計の継続性の観点から、注意が必要であることが示唆された。

また、疾病分類を集計することで、ICD の章ごとの患者数の推計が可能であるが、新旧の分類で全ての章で患者数の変動が見られた。特に、ICD-10 と 11 の章で患者数が大きく増加すると推計されたのは、ICD-10 の「6 章 神経系の疾患」などで、逆に大きく減少すると推計されたのは「13 章 筋骨格系及び結合組織の疾患」などであった。この結果は、先行研究の死亡者数の推計でも同様の傾向が見られたことから、統計の継続性の観点から、注意が必要であることが示唆された。本研究で構築を試行した疾病分類 11 については、以下の課題が存在する。第一に、疾病分類は WHO が構築公表している ICD-10/11 mapping tables を用いて作成した。しかしながら、この対応表は完成版ではなく精緻化の途中と考えられることから、今後、WHO によるアップデートなどにより、疾病分類 11 の内容や構造に影響があると考えられる。

第二に、本研究では複数の表を、ICD-10 コードをキー変数として名寄せしたが、WHO による ICD-10/11 mapping tables では、一つの ICD-10 コードに対して複数の ICD-11 MMS コードが付与されているものがあり、このような 1 対多対応については、本研究においては死亡者数を均等配分した。しかしながら、実際には特定の項目に死亡者数が集中することも想定され、今後より詳細な検討が必要である。また、複数の ICD-10 コードが複数の ICD-11 MMS コードに置換されているような、いわゆる多対多対応のケースが仮にあるとしたら、本研究の方法では対応できていない。さらに、わが国の臨床で用いられている標準病名はより詳細なコード体系であり、本研究で作成した疾病分類 11 と標準病名との対応はできていないのが現状である。今後、標準病名マスターを用いた検討を行うことで、より精緻な ICD-10 と ICD-11 MMS の対応表の作成が可能となり、その結果としてより精緻な疾病分類 11 の構築が可能と考えられる。

第三に、本研究で疾病分類 11 の作成にあたり、作成に用いたマッピングテーブルや基本分類表に記載されている項目のうち突合できない項目も見られた。これらの項目は個々に手作業で追加したほか、ICD-10 コードや ICD-11 MMS コードの一部は手作業で付加したため、今後付加したコードの妥当性の検討が必要である。

第四に、昨今の COVID-19 感染者数及び死亡者数の増加により、わが国をはじめ各国の疾病構造や死因も大きく変容していると考えられる。今般の新たな公的統計に用いる分類の構築には、最新の疾病構造を考慮する必要があると考えられるが、本研究ではこの点には充分には配慮できていない。今後 WHO や厚生労働省とも協議しつつ、本研究を進める必要があると考えられる。

最後に、WHO は死亡者数及び患者数に対して、ICD-10 準拠の特定製表用リストを公表しており、現行の疾病分類、死因分類はこれらの特定製表用リストとの整合性も考慮されている。ICD-11 についても、同様の特定製表用リストの WHO からの公表が待たれるが、本稿執筆時点では未だ公表されていない。今後、WHO より特定製表用リストが公表された場

合、構築した疾病分類や死因単分類との整合性について、再検討が必要である。

本研究及び先行研究により、ICD-10 から ICD-11 への構造変更に伴い、疾病分類及び死因単分類の項目が変化し、それにより罹患統計と死因統計の集計値が変動することで、わが国の公的統計に影響があることが示唆された。今後、わが国への ICD-11 適用が死因統計や疾病統計など公的統計に与える影響について、さらなる検討を踏まえ精査する必要がある。また、公的統計の継続性を維持しつつ、ICD-11 のわが国への円滑な導入を図る必要がある。

謝辞

本研究は、令和 4 年度厚生労働科学研究費補助金・政策科学総合研究事業(政策科学推進研究事業)「社会構造の変化を踏まえた保健医療にかかる施策立案に資する国際疾病分類の国内導入のための研究(20AA1002)」(研究代表者: 摂南大学・小川俊夫)の一環として実施した。

参考文献

- 1) 厚生労働省. 第 10 回修正死因統計分類(ICD-10)と第 9 回修正死因統計分類(ICD-9)の比較.
<https://www.mhlw.go.jp/toukei/sippe/icd.html> (2021.06.17 ダウンロード)
- 2) 小川俊夫, 滝澤雅美, 今井 健, 高橋幸恵, 坂本幸平, 小松雅代, 向野雅彦, 今村知明. わが国の公的統計への ICD-11 適用の影響に関する一考察: ICD-11 準拠の死因単分類構築の試行と影響分析. 医療情報学. 2021. Nov; 41(Suppl.): 660-664.
- 3) WHO. ICD-10/11 mapping tables.
<https://icd.who.int/browse11/Downloads/Download?fileName=mapping.zip> (2021.08.21 ダウンロード)
- 4) 厚生労働省. 基本分類表(2013 年版準拠)
<https://www.mhlw.go.jp/toukei/sippe/> (2021.06.17 ダウンロード)
- 5) 厚生労働省. 死因単分類表 人口動態調査・死因単分類と死因基本分類との対照表
<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/file-download?statInfId=000031982734&fileKind=0> (2021.06.17 ダウンロード)
- 6) 厚生労働省. 人口動態調査・結果表 人口動態調査下巻・死亡数, 死因(死因基本分類)・性別
<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/file-download?statInfId=000031982790&fileKind=1>
<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/file-download?statInfId=000031982791&fileKind=1> (2021.06.17 ダウンロード)
- 7) 厚生労働省. 患者調査第 119 表(総患者数, 傷病基本分類別)
<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/file-download?statInfId=000032212145&fileKind=1>
- 8) 厚生労働省. 平成 29 年人口動態統計・報告書

公募シンポジウム 10 : 4-C-2-04

表1 ICD-10 準拠及び ICD-11 準拠の疾病分類・大分類の比較

ICD-10 大分類	患者数 (千人)	ICD-11 大分類	患者数 (千人)
a10-0101 腸管感染症	119	a11-0101 腸管感染症	119
a10-0102 結核	19	a11-0102 結核	19
a10-0103 皮膚及び粘膜の病変を伴うウイルス性疾患	577	a11-0103 皮膚及び粘膜の病変を伴うウイルス性疾患	640
a10-0104 真菌症	590	a11-0104 真菌症	588
a10-0105 その他の感染症及び寄生虫症	506	a11-0105 その他の感染症及び寄生虫症	611
a10-0201 胃の悪性新生物<腫瘍>	281	a11-0201 胃の悪性新生物<腫瘍>	281
a10-0202 結腸及び直腸の悪性新生物<腫瘍>	486	a11-0202 結腸及び直腸の悪性新生物<腫瘍>	486
a10-0203 気管、気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍>	329	a11-0203 気管、気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍>	329
a10-0204 その他の悪性新生物<腫瘍>	2,550	a11-0204 その他の悪性新生物<腫瘍>	2,658
a10-0205 良性新生物<腫瘍>及びその他の新生物<腫瘍>	993	a11-0205 良性新生物<腫瘍>及びその他の新生物<腫瘍>	984
a10-0301 貧血	210	a11-0301 貧血	201
a10-0302 その他の血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	129	a11-0302 その他の血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	64
		a11-0401 免疫機構の障害	507
a10-0401 甲状腺障害	918	a11-0501 甲状腺障害	918
a10-0402 糖尿病	5,800	a11-0502 糖尿病	5,799
a10-0403 脂質異常症	4,010	a11-0503 脂質異常症	4,010
a10-0404 その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	763	a11-0504 その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	647
a10-0501 統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	878	a11-0601 統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	878
a10-0502 気分[感情]障害(躁うつ病を含む)	1,723	a11-0602 気分[感情]障害(躁うつ病を含む)	1,734
a10-0503 神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	1,231	a11-0603 神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	1,216
a10-0504 その他の精神及び行動の障害	1,193	a11-0604 その他の精神及び行動の障害	1,089
		a11-0701 睡眠障害	1,177
a10-0600 神経系の疾患	3,689	a11-0801 神経系の疾患	2,717
		a11-0802 脳梗塞	1,202
		a11-0803 その他の脳血管疾患	384
a10-0701 白内障	1,717	a11-0901 白内障	1,717
a10-0702 その他の眼及び付属器の疾患	6,299	a11-0902 その他の眼及び付属器の疾患	6,296
a10-0801 外耳疾患	185	a11-1001 外耳疾患	185
a10-0802 中耳炎	254	a11-1002 中耳炎	254
a10-0803 その他の中耳及び乳様突起の疾患	76	a11-1003 その他の中耳及び乳様突起の疾患	76
a10-0804 内耳疾患	178	a11-1004 内耳疾患	178
a10-0805 その他の耳疾患	276	a11-1005 その他の耳疾患	184
a10-0901 高血圧性疾患	15,112	a11-1101 高血圧性疾患	15,112
a10-0902 虚血性心疾患	1,281	a11-1102 虚血性心疾患	1,281
a10-0903 その他の心疾患	1,762	a11-1103 その他の心疾患	1,735
a10-0904 脳梗塞	1,202		
a10-0905 その他の脳血管疾患	542		
a10-0906 その他の循環器系の疾患	485	a11-1106 その他の循環器系の疾患	649
a10-1001 急性上気道感染症	851	a11-1201 急性上気道感染症	848
a10-1002 肺炎	60	a11-1202 肺炎	60
a10-1003 急性気管支炎及び急性細気管支炎	248	a11-1203 急性気管支炎及び急性細気管支炎	248
a10-1004 気管支炎及び慢性閉塞性肺疾患	378	a11-1204 気管支炎及び慢性閉塞性肺疾患	378
a10-1005 喘息	1,796	a11-1205 喘息	1,796
a10-1006 その他の呼吸器系の疾患	2,330	a11-1206 その他の呼吸器系の疾患	2,340

公募シンポジウム 10 : 4-C-2-04

表1 ICD-10 準拠及びICD-11 準拠の疾病分類・大分類の比較(続き)

ICD-11 大分類	患者数 (千人)	ICD-11 大分類	患者数 (千人)
a10-1101 う蝕	43	a11-1301 う蝕	43
a10-1102 歯肉炎及び歯周疾患	157	a11-1302 歯肉炎及び歯周疾患	157
a10-1103 その他の歯及び歯の支持組織の障害	162	a11-1303 その他の歯及び歯の支持組織の障害	258
a10-1104 胃潰瘍及び十二指腸潰瘍	234	a11-1304 胃潰瘍及び十二指腸潰瘍	234
a10-1105 胃炎及び十二指腸炎	1,076	a11-1305 胃炎及び十二指腸炎	1,055
a10-1106 肝疾患	505	a11-1306 肝疾患	508
a10-1107 その他の消化器系の疾患	2,353	a11-1307 その他の消化器系の疾患	2,240
a10-1200 皮膚及び皮下組織の疾患	5,424	a11-1401 皮膚及び皮下組織の疾患	5,339
a10-1301 炎症性多発性関節障害	1,145	a11-1501 炎症性多発性関節障害	1,149
a10-1302 脊柱障害	3,832	a11-1502 脊柱障害	3,064
a10-1303 骨の密度及び構造の障害	1,380	a11-1503 骨の密度及び構造の障害	1,380
a10-1304 その他の筋骨格系及び結合組織の疾患	3,615	a11-1504 その他の筋骨格系及び結合組織の疾患	3,226
a10-1401 糸球体疾患, 腎尿細管間質性疾患及び腎不全	849	a11-1601 糸球体疾患, 腎尿細管間質性疾患及び腎不全	820
a10-1402 乳房及び女性生殖器の疾患	1,412	a11-1602 乳房及び女性生殖器の疾患	1,475
a10-1403 その他の腎尿路生殖器系の疾患	1,891	a11-1603 その他の腎尿路生殖器系の疾患	1,880
		a11-1701 性的健康に関連する条件	62
a10-1501 流産	8	a11-1801 流産	8
a10-1502 妊娠高血圧症候群	3	a11-1802 妊娠高血圧症候群	3
a10-1503 単胎自然分娩	27	a11-1803 単胎自然分娩	27
a10-1504 その他の妊娠, 分娩及び産じょく	100	a11-1804 その他の妊娠, 分娩及び産じょく	100
a10-1600 周産期に発生した病態	40	a11-1901 周産期に発生した病態	40
a10-1700 先天奇形, 変形及び染色体異常	265	a11-2001 先天奇形, 変形及び染色体異常	396
a10-1800 症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	925	a11-2101 症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	1,651
a10-1901 骨折	703	a11-2201 骨折	985
a10-1902 その他の損傷, 中毒及びその他の外因の影響	1,224	a11-2202 その他の損傷, 中毒及びその他の外因の影響	935
a10-2101 正常妊娠及び産じょくの管理並びに家族計画	0		
a10-2102 歯の補てつ	0		
a10-2103 その他の健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	0	a11-2401 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	22,795
a10-2210 重症急性呼吸器症候群[SARS]	0		
a10-2220 その他の特殊目的用コード	19	a11-2520 その他の特殊目的用コード	19
外因	0		
—	118		
(空白)	22,931	(空白)	26
総計	112,468	総計	112,468

公募シンポジウム 10 : 4-C-2-04

表2 ICD-10とICD-11の章別の患者数比較

ICD-10章		ICD-11章	
10_01000 感染症及び寄生虫症	1,809	11_01000 特定の感染症または寄生虫症	1,973
10_02000 新生物<腫瘍>	4,642	11_02000 新生物	4,683
10_03000 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	341	11_03000 血液または造血器の疾患	271
		11_04000 免疫系の疾患	507
10_04000 内分泌、栄養及び代謝疾患	11,491	11_05000 内分泌、栄養または代謝性疾患	11,374
10_05000 精神及び行動の障害	5,018	11_06000 精神障害、行動障害、または神経発達障害	4,897
		11_07000 睡眠覚醒障害	1,178
10_06000 神経系の疾患	3,679	11_08000 神経系の疾患	4,291
10_07000 眼及び付属器の疾患	8,023	11_09000 眼及び付属器の疾患	8,023
10_08000 耳及び乳様突起の疾患	969	11_10000 耳及び乳様突起の疾患	876
10_09000 循環器系の疾患	20,386	11_11000 循環器系の疾患	18,771
10_10000 呼吸器系の疾患	5,663	11_12000 呼吸器系の疾患	5,670
10_11000 消化器系の疾患	4,410	11_13000 消化器系の疾患	4,380
10_12000 皮膚及び皮下組織の疾患	5,536	11_14000 皮膚及び皮下組織の疾患	5,344
10_13000 筋骨格系及び結合組織の疾患	9,972	11_15000 筋骨格系及び結合組織の疾患	8,770
10_14000 泌尿路生殖器系の疾患	4,152	11_16000 泌尿生殖器系の疾患	4,210
		11_17000 性的健康に関連する条件	62
10_15000 妊娠、分娩及び産じょく	138	11_18000 妊娠、分娩又は産褥	143
10_16000 周産期に発生した病態	63	11_19000 周産期に起因する特定の状態	65
10_17000 先天奇形、変形及び染色体異常	266	11_20000 発達障害	396
10_18000 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	925	11_21000 他に分類されていない症状、徴候または臨床所見	1,701
10_20000 傷病及び死亡の外因	0	11_22000 傷病及び死亡の外因	1,900
10_19000 損傷、中毒及びその他の外因の影響	2,021	11_23000 外傷、中毒、またはその他の外因	20
10_21000 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	0	11_24000 健康状態または医療サービスとの接触に影響を与える要因	2
10_22000 特殊目的用コード	19	11_25000 特殊目的用コード	19
		11_X	0
(空白)	22,945	(空白)	22,943
総計	112,468	総計	112,468

疾患統計における V 章の活用手法の検討

向野 雅彦*1、小松 雅代*2、

*1 北海道大学病院リハビリテーション科、*2 大阪大学医学部社会医学講座環境医学

Investigation of the Use of ICD-11 Chapter V in Disease Statistics

Masahiko Mukaino*1, Masayo Komatsu*2

*1 Department of Rehabilitation Medicine, Hokkaido University Hospital,

*2 Department of Social and Environmental Sciences, Osaka University

Background: Generic functioning domains of Chapter V in the 11th revision of ICD (ICD-11) is a digest version of the ICF and can be used to describe holistic picture of functioning profile of individuals with disability. The present study aimed to investigate functioning ability which is important for daily living of individuals, using Generic functioning domains of Chapter V categories, and to develop a practical model to use Chapter V in clinical practice.

Materials and Methods :Survey was conducted with psychiatrist, physical therapists, occupational therapists and speech therapists in 20 hospitals. Participants were asked which V chapter categories of functioning are important in daily living of the individuals with disability who 1) live alone, 2) live alone in daytime (with their family during night hours) or 3) live all time with their family. The ratio of the participants who answered "important" of each category was calculated. Based on the results of the survey, a rehabilitation expert panel consists of six rehabilitation specialists developed short sets of categories to be used in daily rehabilitation practice to monitor the functioning profile of the patients.

Results: In total, 169 rehabilitation specialists participated to this study. The categories in which more than half of the participants answered important reached 68.2% of all the categories in the individuals with disability who live alone, 40.9% in those who live alone in daytime and 15.9% in those live all time with their family. Urination function, toileting, eating, and mobility (walking or using equipment) were the categories that was included in the top 10 items in all conditions. Four preliminary clinical category sets were developed based on the results of the survey. The feasibility of these sets in describing the overall severity and functioning profile of the disease and age groups were tested with a ICD-11 Chapter V database that was previously developed (n=1102).

Conclusion: A preliminary model to use Chapter V of ICD-11 in the daily rehabilitation practice was developed based on the results of a clinician survey. Further studies to test the validity of these category sets should be conducted.

Keywords: ICD-11, Chapter V, functioning, rehabilitation

1. 背景

2018年に公表された国際疾病分類(以下 ICD-11)では、生活機能評価に関する補助セクションとして V 章が新設された。V 章のコードには、医学的知見を踏まえた大きな改訂がなされるとともに、疾患名に加えてさらに多様な病態を表現できるようにコード群が追加されている。V 章はその新しい追加のコード群の一つで、これまで国際生活機能分類 (ICF) で分類されてきた生活機能の情報を ICD-11 の中に取り込んだものである。具体的には WHO で開発された生活機能のアセスメントスケールである WHO 障害評価面接基準 (WHODAS-2.0) と ICF の分類項目の抜粋版 ("一般的機能の構成要素"と呼ばれる項目群) が含まれている。

ICD-11V 章については、これまでにワーキンググループや厚生労働科学研究班において、国内適用に向けた情

報収集ツールの開発と検証が進められてきた[1-3]。しかし、実際に臨床における適用を進めていく過程では、場面に応じてどの項目を使用していくのかを検討し、統計でどのように活用していくのか、より具体的な検討を行うことが必要不可欠である。

本研究では、この点を解決するため、1) ICD-11 V 章においてどのような項目が臨床上で重要となるのか、医療関係者を対象としたアンケートの実施、2) アンケートの結果に基づいた項目セットの作成、3) データベースを用いた活用方法の検討を実施した。

2. 方法

V 章は、疾病分類である ICD の中で生活機能を評価するために新設された補助セクションで、主に WHO の生活機能アセスメントツールの WHODAS2.0 と、一般的機能の構成要素と呼ばれる ICF の抜粋版の項目から構成されている。この

一般的機能の構成要素は ICF の付録 9 “理想のおよび最低限の健康情報システムまたは調査のために提案された ICF データの要件”に基づいて作成されている。これらの項目の中からどの項目が実際に臨床において重要となるか、医療者の持つ認識についてアンケート調査を行った。

アンケートは、令和 2 年度に行われた ICD-11V フィールドテストに参加した 20 病院のリハビリテーション関連職種に案内を送り、得られた回答を集計した。アンケートは、1)急性期および回復期の医療場面において生活機能評価に用いる評価セットはどのようなものが妥当か(項目数、回答形式)、2)退院後の介護者の存在状況(終日介護者あり、日中のみ介護者なし、終日介護者なし)によって 44 項目のうちどのような機能が重要となるか、について質問し、回答を集計・分析した。

リハビリテーション専門職によるパネル(医師 2 名、理学療法士 2 名、作業療法士 2 名)を形成し、アンケートの結果に基づいて、臨床で実際に用いる評価セットを作成した。

令和 2 年度厚生労働科学研究費補助金(厚生労働科学特別研究)“ICD-11 に新たに導入された生活機能評価に関する補助セクション「V 章」の活用及び普及に向けた研究(研究代表者 向野雅彦)”[3]において作成された 1102 名(脳卒中 478 名、大腿骨頸部骨折 199 名、その他 435 名)の入院患者の ICD-11V 章のデータベースを用いて、簡略化されたデータセットの活用方法について検証を行った。

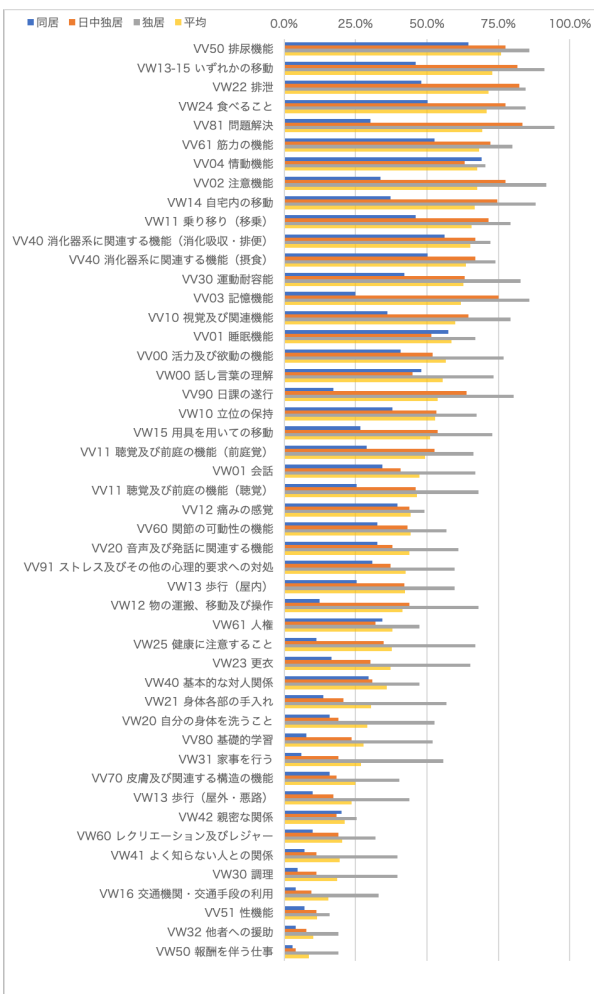
3. 結果

ICD-11V 章についてのアンケートは、169 名のリハビリテーション関連職種から回答を得た。まず評価スケールの項目数としては、急性期の評価スケールとしては 6-10 項目(54.9%)、回復期では 11-15 項目(32.0%)がよいとした回答者ももっとも多かった。

また、リハビリテーション患者の退院後の生活の中で重要な生活機能とは何か、との問いに対しては、常に介護者が存在する環境(同居)、夜間等に一部存在する環境(日中独居)、介護者がいない環境(独居)において、それぞれ異なる分布を示した(図 1)。半数以上が重要だと答えた項目は、独居の場合は全体の 68.2%、日中独居では 40.9%、同居では 15.9%であった。排尿機能、排泄、食べること、移動(歩行もしくは用具を用いての移動)の 4 項目はいずれの状態でも上位 10 項目に含まれていた。

これらの結果をベースとして、専門職パネルが評価セットの素案を作成した。まず、全ての医療・福祉対象者に共通する最低限の生活機能評価として、常に介護者が存在する環境、一部存在する環境、介護者がいない環境のいずれにおいても上位 10 項目に入った 4 項目のうち、オーバーラップする排泄と排尿機能をまとめ、排泄、食べること、移動(歩行もしくは用具を用いての移動)の 3 項目を全ての医療ステージにおいて共通して情報を集める共通評価セットとした。さらに共通セットに加え、常に介護者が存在する環境においても 50%以上が必要と回答した項目を最小評価セット、日中に患者がいないケースで 50%以上が必要とした項目を基本評価セット、一人暮らしの場合に 50%以上が必要とした項目を拡大評価セットとして 4 つの評価セットの素案を作成した。

さらにフィールドテストのデータを用いて、脳卒中と大腿骨頸部骨折の患者の重症度、生活機能プロファイルの比較を試みた。まず共通セットの 3 項目全てが自立した(軽度の問題以下)患者の割合を検討した(図 2)。脳卒中では、38.7%の患者が何らかの手段での移動、食べることおよび排泄に関



して自立していたのに対し、大腿骨頸部骨折の患者では

図 1 環境ごとに重要な生活機能
常に介護者が存在する環境(同居)、夜間等に一部存在する環境(日中独居)、介護者がいない環境(独居)それぞれにおいて重要と答えた回答者の割合(平均割合の大きい順)を示す。

52.2%が自立していた。さらに、年齢ごとの分布を見ると、大腿骨頸部骨折および脳卒中の患者においてともに 80 歳以上では自立する割合が低かったが、脳卒中患者では特にその差が著明であった。

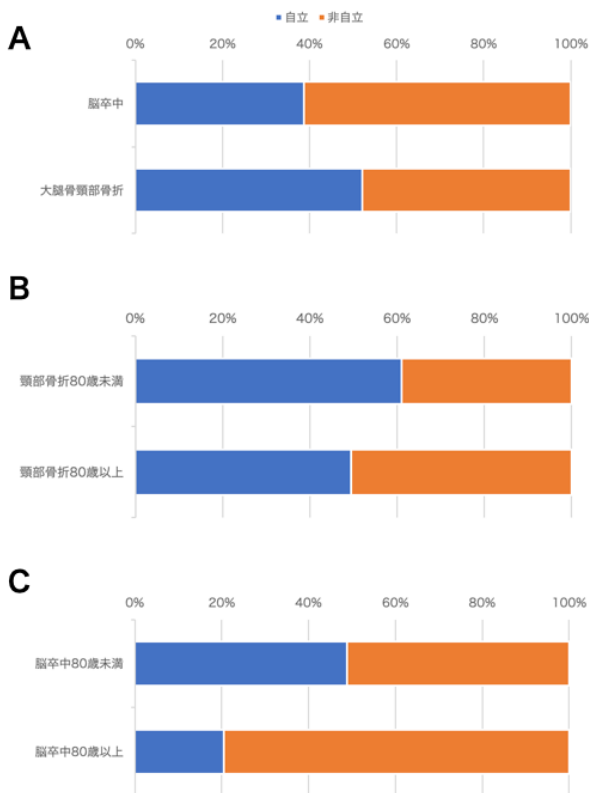


図2 食事、排泄、移動の三要素が自立した患者の割合
脳卒中と大腿骨頸部骨折の比較 (A)、大腿骨頸部骨折患者 (B) および脳卒中患者 (C) のうち 80 歳以上と 80 歳未満の患者の比較を示す。

さらに、脳卒中および大腿骨頸部骨折の患者それぞれを 80 歳以上、80 歳未満のグループに分けて基本評価セットを用いた比較を行ったところ、生活機能プロファイルにもグループごとに大きな差があることが示された(図 3)。脳卒中患者と大腿骨頸部骨折の患者の生活機能において、筋力機能をはじめとする運動機能に比較して、活力及び欲動の機能や注意機能といった認知機能に大きな差が見られたが、年齢の影響も大きく、80 歳以上の大腿骨頸部骨折の患者では、認知機能の障害も併存している傾向が認められた。80 歳以上の脳卒中患者は、特に全般的に重い生活機能の問題を抱えていることが示唆された。

4. 考察

ICD-11 の V 章は、疾病分類に新設された生活機能評価のための補助セクションで、重症度や生活機能プロファイルの表現に役立てられるとされているが[4]、具体的な活用方法についてはまだ十分にコンセンサスが得られていない。今回、地域包括ケアにおける利用を念頭に、介護者の有無による生活機能の重要度の変化を考慮した場面設定の上で、専門職へのアンケート調査を実施し、それをベースとして実際の活用方法について検討を行った。その結果、臨床場面に応じた項目セットの素案を作成する

とともに、それらを用いて疾患や年齢による生活機能をベースとした重症度、生活機能プロファイルの違いについて示すことができた。本取り組みで開発している ICD-11V 活用モデルは、生活機能に関する情報を統一的な枠組みで評価し、実際の診療に活用するための基盤となるものである。ICD-11V に基づいた統一された枠組みの中で生活機能を包括的に評価できるシステムを構築することは、ICD でコード化された様々な疾患が患者にもたらす問題についての理解を促し、患者中心の医療・福祉の実現に貢献する可能性がある。今後は、さらに実際の活用と医療関係者等のフィードバックを通じ、既存の評価スケールの情報の活用方法の検討等を含め、より臨床の実態に即した社会実装に向け、取り組みを進める予定である。

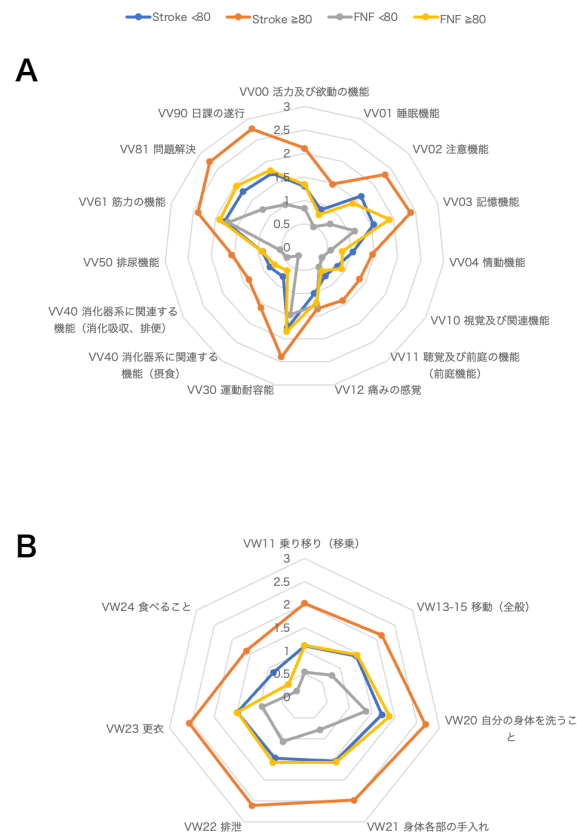


図3 脳卒中と大腿骨頸部骨折患者の生活機能プロファイルの違い

脳卒中患者 (80 歳未満: 青、80 歳以上: オレンジ) および大腿骨頸部骨折患者 (80 歳未満: グレー、80 歳以上: 黄色)

参考文献

1) Mukaino M, Proding B, Yamada S, Senju Y, Izumi SI, Sonoda S, et al. Supporting the clinical use of the ICF in Japan - development of the Japanese version of the simple, intuitive descriptions for the ICF Generic-30 set, its operationalization through a rating reference guide, and interrater reliability study.

- BMC Health Serv Res. 2020; 20:66.
- 2) 向野雅彦, 大冢賀政昭, 才藤栄一. 医療・介護連携を促進するための国際生活機能分類を用いた評価と情報共有の仕組みの構築. 令和元年度総括・分担研究報告書. 2020:1-13.
 - 3) 向野雅彦, 山田深, 大冢賀政昭. ICD-11 に新たに導入された生活機能評価に関する補助セクション「V章」の活用及び普及に向けた研究. 令和2年度総括・分担研究報告書. 2021:1-29.
 - 4) World Health Organization. ICD-11 Reference Guide. Available at: <https://icdcdn.who.int/icd11referenceguide/en/html/index.html#icd11-reference-guide>, last accessed August 31, 2022

MEDIS 標準病名マスターの ICD-11 対応について

山本 隆一*1

*1 一般財団法人医療情報システム開発センター

MEDIS Standard Disease Name Master and ICD-11

Ryuichi Yamamoto*1

*1 Medical Information System Development Center

Abstract in English comes here.

The standard disease name master of the Ministry of Health, Labor, and Welfare (MHLW) is a master maintained by the Working Group of the Study Committee on the Master of Disease Name under the Social Insurance Medical Payment Fund and is released by MEDIS as the 'Standard Disease Name Master for ICD10' and as the 'Master of Disease Name (for Receipt Computerization)' by the Social Insurance Reimbursement Fund. The two names may be indicative of the wide range of uses for this master. One of the purposes, although diverse, is directly related to the healthcare system, as evidenced by the fact that it is also released by the Payment Fund and is the master of the names of injuries and diseases that form the basis for medical fee claims in support of the universal health insurance system. The importance of this from the perspective of supporting the universal health insurance system is indisputable, but the role of the master is not the only one. In ICD-11, the number of concepts covered by the foundation components has been increased and the classification axes organized. Foundation components are described by URIs, and no codes are assigned to them. The so-called code masters are structured in such a way that they are defined by purpose as instances serialized from the foundation components, of which the MMS is a representative example. The MEDIS standard disease name master needs to be serialized from foundation components, either directly or indirectly, and should be considered, including whether it should be a single instance or be reclassified into multiple instances. We would be happy to discuss directions

Keywords: Standards, Disease Name Master, Electronic Medical Records, ICD.

1. 診療情報の横断的利用

診療情報の電子化は確実に進んでいるが、いまだに我が国では、診療報酬請求へのリンクを第一義的な目的とした診療情報の取扱に強い影響を受けている。もちろん保険診療を行う医療機関にとって診療報酬請求の重要性は論を待たず、情報を扱うシステムがその影響を受けることはやむを得ないと言える。しかし診療現場で患者の情報を扱う目的は本来多彩であり、経済的な事務処理上の利用は一部に過ぎない。せっかく電子的に輸入しても、診療報酬請求以外の目的に利用しようと思うと再入力強いられるのであれば、健全な電子化とは言えない。新型コロナウイルス禍における HERSYS の入力負荷や、がん登録、National Clinical Database への入力など、実際に課題は多い。もちろんこのような横断的情報収集に個別の電子カルテ情報をそのまま転送するのではなく、人手による再入力採用されていることが多いことには、それなりに合理的な理由もある。情報の粒度が異なることが多く、また電子カルテで扱われている情報は基本的には時間軸の比較が正確に出来れば、個々の患者の診療に大きな支障はないが、横断的な情報利用や、同一患者の情報であっても医療機関をまたがる場合は、そのコンテンツとしての比較可能性が必ずしも確保されていないことがある。

2. 粒度の問題

前述したように診療報酬請求へのリンクが重要視されているために、情報の粒度は診療報酬請求明細や DPC の請求情報を作成可能な粒度が最優先される。この粒度は制度によ

って規制され、それ以外には合理的理由がないことも多い。情報種別によっても粒度は様々で、他の用途に情報を用いようとした場合、細かい粒度を粗い粒度に変換することは可能なこともあるが、粗い粒度から細かい粒度への自動変換は基本的に不可能で、人による調査と判断が必要になることが多い。電子カルテのディクティティブな部分の意味解析ができればある程度は自動対応できる可能性もあるが、ディクティティブな部分の品質が不均一であることが問題になる。

3. コンテンツの比較可能性

患者が健康上の問題を抱え、医療機関を受診し、その医療機関で加療する場合、その医療機関内で他の患者と比較することは、その情報の解釈のために重要であり、またその患者の同じカテゴリの情報を時系列で比較することは重要である。しかしその医療機関で生じた情報を他の医療機関の他の患者と精緻に比較することは、その患者の診療に関しては積極的な意義は少ない。例えば感染症の拡大状況を把握したり、確立されていない治療法の効果を比較することは重要であるが、それによって通常は診療報酬上の違いはなく、多施設間で比較可能性を高めることはインセンティブが働きにくい。

4 電子カルテと標準化

前述のように国民皆保険制度を基礎とした保険診療を中心に行う医療機関にとって、通常の診療で生じる情報を多施設間で相互に解釈できるような標準化は、仮に必要性が理解されたとしても本質的に進みにくい。制度的な誘導は必須である。我が国の医療制度にはそのような誘導が十分とは言え

ない。その中で多少とも推進が進んでいるのが病名マスターであり、同じマスターが「ICD-10 対応標準病名マスター」¹⁾として MEDIS からリリースされており、「(レセプト電算処理用) 傷病名マスター」として社会保険診療報酬支払い基金からリリースされている。確かに診療報酬請求明細には一定の比率で未コード化病名が存在するが、大多数はこのマスターに準拠してコード化されている。「ICD-10 対応」とあるように、分類コードに対応しており、病名に関しては一定の粒度で分類することが可能になっている。残念ながら病名以外の情報カテゴリの標準化はコードマスターレベルでも普及は十分とは言えない。

5 ICD-10 と ICD-11

ICD-10 はすでに長期に渡って使われており、有用性は評価されている。しかし、先進国だけではなく、人類の疾患は病的な状態と健全な状態を移行する病期が明確な疾患から病的な状態ではあるが、多少の制限があっても日常生活を行う状況が主体の医療に移行しつつあり、生活への影響を病名分類コードとしても扱う必要性が高まっている。また医学の発展により、新たな汎用的な分類軸の必要性も表れている。ICD-11²⁾はこのような要請に対応した分類コードで、これが適切に導入されれば、十分には進んでいない、我が国の診療情報の横断的利用の改善に寄与することが期待される。

6 ICD-11 への期待

ICD-11 では分類コードは概念データベースである foundation components が基本であり、ICD-10 のような疾病分類コードは foundation components から serialization による instances として導出され、MMS がその例である。MMS は ICD-10 の拡張であるが、国際的な分類コードであり、それぞれの国の診療報酬請求の仕組みに対応するものではない。例えば我が国では、診療報酬請求用の分類コードは必須である。その一方で、複数の分類コードを持つ場合でも、それぞれの分類コードが、ICD-11 の foundation components から serialization による instance として導出されていれば、お互いのコードマスターの関連付けは容易であるようにも設計可能である。感染症登録やがん登録、手術記録登録もそれぞれの用途のコードマスターあるいは用語集を foundation components から導出される instance として定義でき、電子カルテに入力される疾病概念を、それらを下回らない粒度で記述できれば、すべての目的に比較的容易に対応可能とすることも不可能ではない。ただ現状では、例えば診療報酬請求上の分類コードの実患者の疾病概念の対応は医学上の包含関係だけでなく、制度上の置き換えなどが数は少ないがあり、まったく自動的に変換することは難しい。ICD-11 を基本とする概念と用語・分類コードの関係性の整理と平行して制度的な見直しも必要となる。

7 考察

医学上の概念データベースである foundation components を中心においた ICD-11 は様々な目的の疾病分類コードや用語集を情報処理的に変換あるいは参照可能なものにするのが期待される。しかしそのためには各学会の用語集の foundation components との対応付けだけでなく、各分類コードの再設計が必要であり、対応する電子カルテの入力サポートも必要になる。またさらなる合理化のためには診療報酬請求制度など、制度的に要求される疾病概念も見直しが必要で、体系的なロードマップの作成が急がれると考えられる。

参考文献

- 1) 医療情報システム開発センター, “ICD10 対応病名マスター”, <https://www2.medis.or.jp/stdcd/byomei/index.html>, (2022 年 8 月 1 日確認)
- 2) World Health Organization, “International Classification of Diseases 11th Revision”, <https://icd.who.int/en>, (2022 年 8 月 31 日確認)

ICD-11 の用語集としての活用と国内用語集との整合性担保に向けた課題

今井 健^{*1}

*1 東京大学大学院医学系研究科疾患生命工学センター

Utilizing ICD-11 as a clinical terminology and challenges for ensuring consistency with the domestic terminologies

Takeshi Imai^{*1}

*1 Center for Disease Biology and Integrative Medicine, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo

WHO released the International Classification of Diseases and Related Health Problem 11th revision (ICD-11) in June 2018. ICD-11 has several new features, including layered structure of foundation component and linearizations for different purposes, electronic distribution and coding tool, new chapters, and so on. Above all, one of the key features of ICD11 is the inclusion of many pre-defined disease names as index terms together with the post-coordination mechanism using stem codes and extension codes, for detailed coding. In other words, ICD11 is now becoming more of a clinical terminology than a simple classification system. From this perspective, the Japanese translation of ICD-11 needs to be appropriately integrated with existing standard clinical terminologies such as Standard Disease Name Master, for future domestic application of ICD-11 in Japan. This paper discusses the issues to ensure consistency with the domestic terminology from the viewpoint of “ICD-11 as a clinical terminology” towards its implementation in Japan.

Keywords: ICD11, Standard Disease Name Master, Clinical terminology

1. はじめに

疾病及び関連保健問題の国際統計分類(International Classification of Diseases and Related Health Problem、以下 ICD) の第 11 版改訂 (ICD-11) は、2007 年より作業が開始され、2018 年 6 月に WHO よりリリースされた。その後 2019 年 5 月に世界保健総会にて採択され、2022 年 1 月より正式に発効されている。ICD-11 では、現在国内で適用されている ICD-10 と比較すると、分類体系自体の大幅なアップデート、項目数の大幅な増加、コード体系の変更や新しい章の追加、電子的利用環境を前提としたツール群の提供、など多岐に変更が加えられている。

特に、ICD-10 までは疾病及び傷病を分類するカテゴリ体系を提供することに重点が置かれ、粒度の細かい病名や病態の例示は十分に含まれていなかった。しかし ICD-11 では予め詳細な病名が索引語として数多く含まれており、また Post-Coordination の仕組みを併用することで、予め用意された用語概念を組み合わせ、任意の粒度での病態をコーディングできるようになっている。例えば「糖尿病性腎症」は糖尿病 (5A14)、慢性腎臓病 (GB61.Z) のそれぞれの Code を組み合わせ、”GB61.Z / 5A14” と表現される。これ以外にも X 章 (拡張用コード) における修飾語を組み合わせで詳細な病態を表現することもできる。このような詳細な臨床上の疾患・病態概念をコーディングする仕組みは ICD-11 の重要な特徴の 1 つである¹⁾。

2020 年 6 月時点での ICD-11 Foundation Component では約 13 万項目が存在しており、ICD-10 までと比較して大幅に増加している。この中で定義文 (約 16,800) や注記 (約 700) を除いたとしても、カテゴリ、ブロック名称も含めて約 11 万を超える用語項目が含まれている。その後も随時アップデートが施され、現在も項目数は増加している。

この中には Post-Coordination に用いられる修飾語セット (X 章) 約 24,000 語も含まれ、これらの組み合わせで表現できる病態概念は膨大な数に及ぶ。すなわち ICD-11 は従来の単なる分類体系から、Post-Coordination の仕組みを備えた、疾患概念を中心とした巨大臨床用語集・コード体系としての性質を帯びてきていると言える。

昨年度までに、厚生労働省が中心となり、各種関連学会などの協力の下、25 章 (Codes for special purposes)、V 章、X 章を除いた約 88,300 語の ICD-11 Foundation 用語 (定義文や注記以外) について和訳用語が作成されているが、用語集としての性質を帯びてきたことから、今後我が国への適用に向けては標準病名マスターなど既存の国内標準用語集との適切な統合・対応付けが必須である。さらに、拡張用コード (X 章) には、重症度、経時的特徴、病因 (因果上の特性、感染因子、アレルゲン)、位置属性、身体部位、組織病理所見、損傷の状況、外因の状況、意識レベル、物質、診断の状況、デバイス・機器、などの用語が用意されている。国内でこれまで存在してこなかった領域の標準的な用語集・コードセットとして機能する可能性を秘めている重要なパートである。今後、X 章を含めたこれら全体 11 万語の Foundation Component の日本語版を整備し、利活用していく必要がある。本稿では、ICD-11 の用語集としての活用、という視点から国内の既存用語集との整合性担保に向けた課題について、主に疾患用語と身体部位用語を例に述べる。

2. ICD-11 MMS と Foundation

ICD-11 Foundation²⁾ は全ての ICD entity のプールであり、疾患概念のみならず、拡張用語として複数の上位概念を持つことが可能で、概念に対する URI が ID となっている。同一概念に複数の同義語が含まれることもあり、この場合個々の Term の ID は公表されていない。一方、ICD-11 MMS³⁾ は死因・罹患統計を目的として、Foundation から部分的にサブセットを切り出し、「その他の～」といった “Residual Category” を追加することで排他性と網羅性を持った分類体系としたものである。各項目には ICD-10 とは異なる 6 桁のコードが付与されている。

図1は国際標準規格 ISO17117-1²⁾ に基づき、医学医療分野の各種用語リソースの分類において、ICD-10、ICD-11 MMS、ICD-11 Foundation、また比較のため SNOMED-CT が性質上どこに位置づけられるかを示したものである。従来の ICD-10 は分類体系(Classification System) であったが、ICD-11 MMS はこれに加え構成原理(Post-Coordination)を兼

ね備えた Compositional System としての性質を持っている。また ICD-11 Foundation は逆に分類体系ではないが、構成原理と論理的形式性を兼ね備えた Formal Concept Representation System (キライトウエイトオントロジー) となっている用語体系である。しかし命名規則をもち Nomenclature である用語体系である SNOMED-CT とは位置付けと用語のカバー範囲が異なる。このように、ICD-11 MMS, ICD-11 Foundation は従来の ICD-10 とは性質の異なる Terminological Resource と位置付けられる。

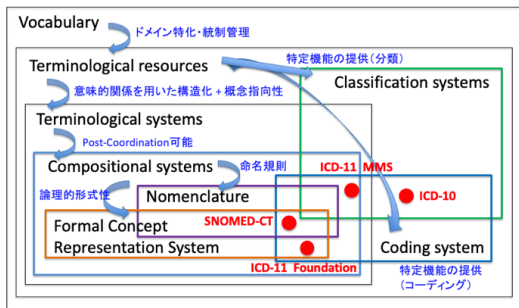


図 1 ICD-10,11, SNOMED-CT の位置付け (ISO17117-1)

2. 疾患・病態コーディングのための国内用語集との整合性

2.1 標準病名マスター中の用語と ICD-11 日本語版との重なり

ICD-11 は疾患・病態のコーディングが主要目的であるが、我が国の「ICD-10 対応標準病名マスター⁶⁾」との重なりについては 2020 年の著者らの報告⁵⁾ において既に調査を行っている。標準病名マスター (V5.04) 中の病名表記は代表表記・同義語・類義語を合わせて 107,760 語存在するが、この中にはカタカナ表記の同義語 (48,966 語) も大量に含まれており、異字体による同義語 (4,280 語) も除くと、実質的な病名は 50,042 語である。このうち、ICD-11 日本語版と完全一致したものは約 8,600 語 (18%) 程度しか存在しない⁵⁾。今後 ICD-11 の国内導入のためには、この両者を整合性を持って統合していくことが極めて重要である。

しかし、例えば標準病名「**第3足趾末節骨開放骨折**」(ICD10: S9251) は、ICD11 で直接対応する語は無いが Post-Coordination として表現されることが想定されており、ND13.5 (Fracture of other toe) に対し、XA38Q1 (Distal phalanx of third toe) と XJ7YM (Open fracture) を組み合わせ、**ND13.5 & XA38Q1 & XJ7YM** として「完全に同一概念粒度で」コーディングされる。

すなわち、標準病名マスターと、ICD-11 日本語版との単純な用語一致数を考慮してもあまり意味を持たず、現在の標準病名マスター中の用語が、ICD-11 でどのように Post-Coordination で表現されるか、を調査することが重要である。

2.2 複数レベルでの ICD-11 コーディングの必要性

Foundation 中に存在する用語であっても、MMS 上では分類項目として出現しないことがある。このような場合は、より上位の項目において、下位語として「索引語(index term)」の形で登録されており、MMS 内で検索することは可能であるが、付与されるコードは「より上位の概念に対するコード」になってしまう。例えば標準病名「**ツェルバーガー症候群** (病名管理番号: 20101076, ICD10: Q878)」は ICD-11 Foundation で

は URI: <http://id.who.int/icd/entity/226023718> と完全一致するが、MMS では **5C57.0 「ペルオキシソーム生合成の障害」** の索引語 (下位概念) としてまとめられてしまっている。これ以上の詳細は何らかの修飾語を付加しても (Post-Coordination)、表現できるものではない。このように MMS は WHO が収集する死因・罹患統計を目的としたものであり Foundation から切り出される際に MMS 項目としての採用/非採用の線引き (「Shoreline」と呼ばれる) が存在する。特に、希少疾患は Foundation においては比較的良く網羅されているが、MMS においては Shoreline の下、つまり上記のように「上位概念の索引語」となっているケースが多い。従ってより精緻な表現のためには Foundation を対象としたコーディングが必要となる⁷⁾。

また、2020 年の第 40 回日本医療情報学連合大会 (浜松) において、かつて ICD-11 Revision Steering Committee (RSG) の議長を務め、現 ICD 分類体系の Medical Scientific Advisory Committee の Co-Chair である C.G.Chute 氏により ICD-11 に関する特別講演が行われたが、その中でも「将来的にデータサイエンスに ICD-11 を活用していく観点からは MMS レベルのみでなく、Foundation レベルでのコーディングを考慮する必要がある」という考え方が示された⁸⁾。

例えば標準病名「**ファンコニー症候群**」(MMS: GB90.42, Foundation: <http://id.who.int/icd/entity/788002727>) の中で特に「**GLUT2 欠損によるグリコーゲン蓄積**」であるという疾患概念 (注:「ファンコニービッケル症候群」; 標準病名には含まれていない) を表現したい場合は、Post-Coordination として “Glycogen storage disease due to GLUT2 deficiency” (Foundation: <http://id.who.int/icd/entity/426701963>) を GB90.42 に付加する必要性が出てくると考えられる。ゲノム医療の発展など、今後の医学研究推進に必要な詳細な Phenotype 表現のために、WHO 内でもこのような「Foundation のフルパワーを活かした Post-Coordination」についても検討されている⁸⁾。

従って、国内の死因・罹患統計集計の粒度であれば MMS コードで十分であるが、より詳細な研究用途など各種ユースケースを考えると、MMS レベルのみならず、より詳細な Foundation URI レベルでも国内の用語を ICD-11 コーディング (対応付け) することが重要である。以上のような観点から、本研究においても標準病名に対する ICD-11 コーディングを、対 MMS レベル、対 Foundation レベルの双方の粒度で行うこととした。

2.3 標準病名の ICD-11 コーディング

これまで、著者らは厚労科研の枠組みにて 2020 年度より標準病名の ICD-11 コーディング作業を開始し、昨年までに一部を除くほぼ全ての ICD-10 の章に相当する標準病名について一通り作業を完了している。本年度からは、最新の ICD-11 和訳結果に対応した修正作業を行っているところである。Foundation 用語については、主要パートについては昨年までに和訳作業が一通り完了している。従って仮に標準病名がこの和訳結果に含まれていた場合は既に対応付けが為されているため作業の対象外としている。また、作業の効率化のため、標準病名のうち「代表表記」とされているものについて優先的に作業を行っている。このような作業対象は全部で 20,642 語存在した。

ICD-11 コーディングは対 MMS, Foundation 双方に対して行い、可能な限り Post-Coordination することを原則としている。また、標準病名と ICD-11 コーディング結果の概念粒度を比較し、(1)等価に表現された「=」、(2)標準病名の方が粒度が細かい「<」、(3) ICD-11 コードの方が粒度が細かい「>」という関係も付与している。

本抄録末尾の表 1 に ICD-10 2 章に該当する標準病名を ICD-11 コーディングした例 (抜粋) を示す。例えば、「**上顎歯**

「**原性肉腫**」は“Odontogenic sarcoma of upper jaw”として Foundation に完全一致した用語があり、**対 Foundation** では

= <http://id.who.int/icd/entity/1193238472>

と表現される。一方、MMS では上記用語は“Shoreline”の下にあり、**2B5J** “Malignant miscellaneous tumours of bone or articular cartilage of other or unspecified sites”の索引語とされており、図2に示す通り、Post-Coordination にて「左右性」「部位詳細」「組織病理」「症状」「重症度」を入力するように Suggest される。

そこで、「部位詳細」として **XA7VK5** “Maxilla” (上顎骨)、「組織病理」として **XH4M89** “Odontogenic tumor, malignant” を選択することになる。

しかし、**XH4M89** はその下位概念として “Primary intraosseous carcinoma”, “Odontogenic sarcoma”, “Odontogenic carcinoma”, “Ameloblastic carcinoma”, を含んだ概念で「**菌原性肉腫**」はこの下位概念の1つに過ぎない。従って、以上の Post-Coordination でも概念としては「完全一致」ではなく、標準病名の概念の方が粒度が細かい。

従って、**対 MMS** としては

< **2B5J & XH4M89 & XA7VK5**

と関係性とコードが付与されている。

研究用途等で詳細な病態のコードが必要な場合は、Foundation あるいは MMS での Post-Coordination をその概念粒度の大小(=、<、>)に注意しながら使用することが必要と考えられる。しかしながら、国レベルの公的統計や診療報酬請求などでそこまでの粒度が必要とは限らない。その場合にはこの詳細な Post-Coordination の主要なコードまでで打ち切った残りを捨象する(例: **2B5J** など)、といった処置が必要と考えられる。

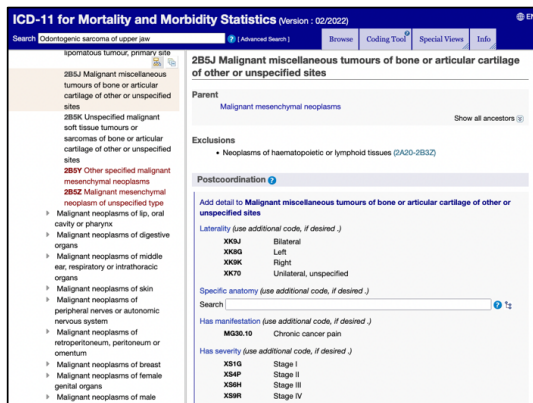


図 2 MMS: 2B5J に対する Post-Coordination

2.4 これまでに判明している課題

以下、2.3 の作業を通じてこれまでに判明した主な課題について述べる。

A) ICD-11 の粒度や分類体系として ICD-10 との考え方の違いに由来する問題

標準病名の「**大網消化管間質腫瘍**」「**腸間膜消化管間質腫瘍**」は、消化管外間質腫瘍という概念であり、GIST とは異なる EGIST と呼ばれることが報告されている。しかし、EGIST の概念自体が ICD-11 に含まれていないため、結果的に EGIST 系のコーディングが困難である。同様の事例は多く存在する。これは現状の ICD-11 の粒度でもまだ不足している領域があるという問題である。

また ICD-10 からの分類体系の変更の影響、という観点から

であるが、ICD-10 では例えば 1 型糖尿病のセクション (E10.0~E10.9) は合併症の有無にてコード分けがなされてきたため、これに対応して、「**1 型糖尿病 (E10)**」、「**1 型糖尿病・糖尿病性合併症なし (E109)**」という標準病名が存在していた。ICD-11 では 1 型糖尿病 (MMS: 5A10) はそれ以上の下位分類が存在せず、多様な合併症については Post-Coordination により表現することとなっている。そのため、上述の標準病名は両方とも **5A10** とせざるを得ない。ICD-11 では「合併症なし」を明示するコードが存在しないため、明示されていないに関わらず、両者ともコードが **5A10** になってしまうという問題が存在する。

このように現行の標準病名マスターは ICD-10 のリリースの際に親和性を持たせて作成された経緯があるため ICD-11 において新しく新設された概念や分類体系の変更により、疾患概念の ICD-11 への対応付けが困難である事例が他にも多数見られた。これらの多くは古い疾患概念に基づく病名で、非常に広範囲のものをカバーする「グループ名称」であるような病名が多い。これをいつまで標準病名に残しておくかという点も課題として挙げられた。特に精神科領域では今は使わない病名が多く残されている。このことから「現在では病名として不適切」という列を設け、領域専門家の意見を踏まえて標準病名マスター側から削除するべきと考えられる病名についてはフラグを立てている。

B) 身体部位(X 章:拡張コード)の粒度に由来する問題

標準病名「**唾液腺癌**」において、唾液腺は「**顎下腺**」と「**舌下腺**」を含む。しかし ICD-11 の **2B68.Z** は「**顎下腺または舌下腺の悪性新生物、詳細不明**」となっており、部位の Post-Coordination では「**顎下腺**」と「**舌下腺**」のどちらかしか選択できず、**両者にまたがる「部位」**ということが表現できない。このような場合、「**顎下腺**」と「**舌下腺**」の両者を選択することは誤りである。なぜならば、Post-Coordination は A&B&C と表記することで A,B,C の共通部分に絞っていく(積集合)の考え方を採っているため、「**顎下腺&舌下腺**」とすると「そのような身体部位領域は存在しない」ということになってしまうからである。このような場合は部位の Post-Coordination として「**XA5T23 Salivary gland apparatus(唾液腺装置)**」を選択するしかない。同様に複数の部位にまたがるグループ概念については「**予めそれが用意されていない限り**」Post-Coordination にて表現する手段がない。

例えば、標準病名「**上腕悪性末梢神経鞘腫**」のコーディングの際に「**悪性末梢神経鞘腫**」を MMS で検索すると、部位の Post-Coordination として細かな神経を選ぶよう提案される。しかし「**上腕部末梢神経**」という括りは存在せず、以下の 6 つの細かな神経が提示される。

- XA7K97 Medial cutaneous nerve of arm
- XA2XU7 Posterior cutaneous nerve of arm
- XA6166 Lateral cutaneous nerve of forearm
- XA26F7 Medial cutaneous nerve of forearm
- XA0KL7 Posterior cutaneous nerve of forearm
- XA6B07 Superior lateral cutaneous nerve of arm

これらをまとめた「**上腕部の末梢神経**」という概念が存在しないため、結局部位の Post-Coordination をすることができない。同様に「**頸部血管肉腫**」についても、血管は上位の方でまず動脈、静脈に分けられているため「**頸部血管**」というエンティティが存在せず、コーディングができない。血管と神経についてはこのような問題が顕著であった。

C) 表現粒度が粗い標準病名に関する問題

歴史的経緯で医学の進展により今は疾患概念が細分化されているが、昔は区分粒度が粗かった疾患概念が存在する。このような標準病名をどう取り扱うのかは大きな問題である。

例えば「純粋性腺形成異常症」(pure gonadal dysgenesis: ICD10: Q991) は、46XY, 46XX の両方のパターンがあり、ICD11 では、Foundation, MMS 共に “46,XX pure gonadal dysgenesis (MMS: LB45.1)”, “46,XY gonadal dysgenesis (MMS: LD2A.1)” に分かれてしまっており、両者を統合して表現する手段がない。もっと上位階層においては、両者はそれぞれ “Structural developmental anomalies of the female genital system” と “Structural developmental anomalies of the male genital system” の段階から分化してしまっており、これを統合したグループ概念が存在していないため、実質的にコーディングする方法が存在しない。これは現行の ICD-11 の Post-Coordination の仕組みではコードを組み合わせると論理積(AND) が表現され、論理和 (OR, XOR) を表現する手段が提供されていないためである。これは上記 B) とも共通した問題である。

「医学の進展に合わせ、細分化された概念に合わせるべきである」という考え方もあるが、一方、急に使えなくなる標準病名が出てきた場合、診療現場での利便性が損なわれるケースも考えられる。従って、このような病名については、今後「標準病名側を Obsolete として使わないことを推奨する」、もしくは「国内でマスター内に OR を表現する独自記法を導入し (“LB45.1 | LD2A.1”等)、これが選択された場合は、アプリケーション側でユーザーにさらなる選択を要求する」、などの手段が必要と考えられるが、臨床現場での使用に関する国内コンセンサス醸成に向け更なる議論が必要である。

3. 身体部位に関する国内関連用語集との整合性

海外においては、例えば HL7 FHIR の “Procedure” リソースには bodySite (処置対象部位) 要素として SNOMED-CT Body Structure に含まれる用語全てを Value-Set として用いている。一方、国内ではコードセットを伴った身体部位に関する標準用語集は存在していないのが現状であり、SNOMED-CT を用いた上記のような Value-Set 指定はできない。しかしながら ICD-11 の拡張用コード (X 章) では約 4,600 語の部位用語が含まれており、今後この和訳結果を中心に国内の身体部位標準コードセットとして利活用できる可能性がある。このような X 章用語の積極活用の観点から、既に厚労科研の枠組みで昨年度 X 章部位用語については、和訳案を作成済みである。

一方、これまで我が国では利用目的に応じてそれぞれの領域で必要十分と考えられる身体部位用語セットにコード体系を付与して用いられてきた経緯がある。

例えば一般社団法人外科系学会社会保険委員会連合 (外保連) による「外保連試案」では「操作対象部位」として手技を行う身体部位の用語セット 1,050 語が定められている。これはもちろん「手術手技の対象として記述する粒度」という観点で選定された用語である。

他にも画像検査領域では、厚生労働省標準「HS017: HIS, RIS, PACS, モダリティ間予約、会計、照射録情報連携指針 (JJ1017 指針)」が存在し、この JJ1017 の中で「身体部位」として放射線画像検査関連の部位用語 (466 語程度) が定められている。また、国内の FHIR 処方データ仕様でも参照されている薬剤の外用部位については「JAMI 用法コード表外用

部位コード表(100 語程度)」が参照されている。

身体部位については、その使用用途によって必要とされる粒度が特に大きく異なる性質があるため、このように複数の用語セットが存在している状態となっていることは現場の利便から自然と考えられる。医療文書のユースケース毎に、例えば手術記録関連の文書であれば、「外保連試案」における「操作対象部位」用語が適しているであろうし、画像検査関連の文書であれば、厚生労働省標準である「JJ1017」の部位用語が適しているであろう。このことから、HL7 FHIR JP-Core 策定過程における議論においても、SNOMED-CT の Body Structure のように全てを統合したリソースを参照するのではなく、国内の実情を鑑み、個々の領域 (文書・ユースケース) で必要とされる部位用語セットを Value Set として参照する方針となっている。

一方、後に個々の部位用語の対応付けを行うことも必要となると想像される。そこで病名と同様に、ICD-11 X 章の部位用語ブロックについて、HL7 FHIR 日本実装検討 WG にて優先検討されているリソース中で挙げられた各種部位用語セットとの対応関係調査を行った。

3.1 外保連試案操作対象部位の ICD11 対応づけ

表2に一例として外保連試案の操作対象部位セットに対する ICD-11 コーディング結果を示す。全 1,050 語のうち、Post-Coordination を含め (A) 等価で表現可能: 740 語 (70%)、残りは (B) 外保連用語側の方が粒度が細い: 190 語 (18%)、(C) 外保連用語側が粒度が粗く、ICD-11 では OR など特殊な記号を導入すれば表現可能: 111 語 (10.5%) となった。

(A) については問題はないが、(B) については ICD-11 に用語追加提案を行う必要がある。例えば「肺・右上葉 S1」など肺野領域の用語は ICD-11 側に存在しない。(C) については例えば、表2の「母指以外の手指」のようなグループ概念が挙げられ、ICD-11 コードでは OR などの特殊な記号を国内で導入し、「人差し指 OR 中指 OR ...」などとしないと表現ができない。これは 2.4 節と同様の問題である。

3.2 JJ1017 部位用語の ICD11 対応づけ

一方、JJ1017 の部位用語 (466 語) では (A) 等価で表現可能: 381 語 (82%)、(B) JJ1017 用語側の方が粒度が細かい: 33 語 (7%)、(C) JJ1017 用語の粒度が粗く、OR などの特殊記号を導入すれば表現可能: 52 語 (11%) となった。

3.3 国内統合部位リソース J-ANAT (仮) の考え方

3.1, 3.2 の結果より ICD-11 X 章の部位用語セットは約 4,600 語と、外保連試案の部位用語 (約 1,000 語)、JJ107 の部位用語 (約 460 語) より大幅に数が多く、また若干の不足用語はあるが、これらを追加することにより、基本的には両者を包含した用語セットが得られると考えられた。そこで、ICD-11 X 章の部位用語セットをベースとし、国内での基本的な身体部位用語の統合リソースとしての利用を見据え、現在「J-ANAT (仮)」を作成中である。その基本的な考え方は以下の通りである。

まず、ICD-11 身体部位用語の和訳用語セットに、「外保連試案」「JJ1017」に含まれるが ICD-11 には存在しない用語 (数百程度) を国内独自追加用語として追加する。今後必要に応じて新規の部位用語セットについては ICD-11 との対応づけを行った上で、ICD-11 側に不足がある場合には国内独自用語として追加を行う。これが基本的な用語セットとなる。

次に、これに対して国内の独自 Post-Coordination ルールを導入する。ICD-11 において、病態のコーディングに用いら

れる Post-Coordination には AND (論理積) オペレータしか用意されておらず、OR (論理和) が表現できないため、「臓器 A もしくは臓器 B」といった表現ができない。そこで AND、OR を許容した最低限のオペレータセットを用意し、国内での身体部位コーディング用に定める。この「基本用語セット x 独自 Post-Coordination」の組み合わせにより J-ANAT を構成するという考え方である。

解剖学的部位を細かな粒度で考えれば多くの不足用語が生じる可能性も考えられるが、FHIR の円滑な国内導入とそれに資する Value-Set の準備と言う観点からは、臨床現場で必要とされる粒度から徐々に網羅していくことが重要と考えられる。またこれにより、利用者は特に意識することなく、外保連試案や JJ1017 など個々の文書で用いられる部位コードセットに対し、自然と ICD-11 コードが付与されることも大きな利点である。追加用語についても、ICD-11 のどの Foundation URI の下位概念であるかが判明しているため、表現粒度を捨象することで上位概念の ICD-11 コードを得ることができる。現在、ICD-11 Foundation における用語の階層体系に対し国内での追加用語を配置し、全体を構成する作業を進めているところである。

4. まとめと今後の展望

本稿では、ICD-11 の用語集としての活用、という視点から国内の既存用語集との整合性担保に向けた課題について、疾患用語と身体部位用語を例に述べた。

標準病名マスターとの整合性担保、という観点からは、ICD-11 日本語版の多くの病名用語は現在、標準病名マスターには含まれておらず、これを病名用語として包含することが必要と考えられた。一方、ICD-11 日本語版に含まれていない標準病名についても、その大部分について本研究により ICD-11 コードを Foundation, MMS の双方のレベルで付与することが可能であった。いくつかの課題が残っているが、その問題の多くは「古い(概念粒度の粗い)疾患用語をどの程度残すか」に集約することができる。現場での利便を損なわない形で適切にこれらの用語の処置を考えていく必要がある。

WHO が ICD-11 にて目指す主要な目的の1つは「Multi-Purpose での利用を志向した適切な粒度での複数のコーディング手段を提供すること」であり、公的統計用途に集約が為される粒度はもろろのこと、より詳細な粒度が必要な研究用途のコーディングも想定されている。Foundation URI を用いた Post-Coordination は最も粒度が細かいが、これは国の公的統計(死亡・罹患)として用いられることは想定しづらく、細かな粒度が必要な研究用途に用いられると考えられる。また、MMS レベルのコーディングについても、目的に応じて必要な粒度を選定し、それ以上に細かな Post-Coordination については捨象する、という線引きが必要と考えられる。しかしながら現在のところ、用途別にどの程度詳細な Post-Coordination が必要か、という議論は十分になされておらず、今後の大きな課題である。

また、臨床現場で Post-Coordination を行う負荷は非常に高く、また膨大になるこれらの語を効率よく電子カルテ等から検索し、候補提示するための機能も大きな課題である。従って、ユースケースごとのコーディング粒度を設定した上で、使用頻度が高い用語概念は予め Pre-Coordinate した状態なるべく多く収録しておくことが、ICD-11 の円滑な導入に極めて重要である。将来的には、次世代の標準病名マスター(もしくはそれに相当するリソース)は、

- (1) Foundation レベルの Post-Coordination コーディング、
- (2) MMS レベルの Post-Coordination コーディング、
- (3) MMS レベルかつ公的統計用や診療報酬請求用など特定目的に応じて定められた粗いコーディング

(Post-Coordination の結果から、必要な主要コードのみが選択されたもの)、

といった複数の粒度を含めて、用途に応じて選択し迅速に使用することができる仕組みを備えるべきだと考えられる。その点で本研究成果は、複数のレベルでコーディングすることによって、後に研究・公的統計・診療報酬請求など様々な用途で異なる粒度のコードが選択できるようにしたものであり、極めて貴重なリソースとなると考えられる。また WHO では現在、Coding Tool の API を提供するのみならず、Docker コンテナとしての配布、他のシステムに embed するための仕組みなど、多彩なツールの充実に力を入れている。これらを日本語版環境でも適切に使えるように導入するだけでなく、ベンダー等が積極的にこれらをベースに高度な機能を開発し、臨床現場で使用しやすくする工夫も重要である。

ICD-11 では分類体系の提供から、詳細な用語・コードセットの提供に大きく舵を切った。Foundation Component における約 11 万語の用語には、拡張用コード(X 章) 約 24,000 も含まれ、重症度、時間的特徴、病因、位置関係、解剖構造、組織病理、損傷や外因の程度、意識レベル、物質・アレルギー等々の用語が用意されている。SNOMED-CT を導入していない我が国にとって、これまで我が国で標準用語集が存在していなかった領域(解剖・症状・所見、etc) に対し、WHO により管理・オーソライズされた標準的な用語・コードセットを提供できる期待は大きい。

本研究では FHIR 国内導入の動きも鑑み、身体部位用語を例にとって、現場での医療文書記録で用いられることを想定した複数の Value-Set (外保連試案の操作対象部位、あるいは JJ1017 など) と ICD-11 との対応づけを行うことで基本的な ICD-11 活用可能性を確認できた。国内での独自追加用語や論理オペレータは必要であるが、今後これを基に J-ANAT として統合部リソースを構成することにより、臨床現場での医用文書記録の際の利便性を損なわず、それぞれの身体部位用語を、ICD-11 コード(と一部の国内独自コード)、さらに Post-Coordination ルールを介して一元的に取り扱うことができるようになると思われる。

身体部位用語以外でも、いくつかの領域では X 章用語の活用可能性が考えられる。国内では SNOMED-CT Findings に相当する標準的な症状所見のコードセットは存在していないが、大幅に拡充された 21 章(症状・所見)と X 章の用語を組み合わせることで、多様な症状・所見用語をコーディングすることができる。例えば、「**右季肋部痛**」については「**MD81.10 & XK9K & XA3TD4 (上腹部痛+右+季肋部)**」と表現可能である。また X 章物質 (Substance) の下位にある「アレルギー」については粒度が十分でなく、そのまま国内で使用することは困難であるが、国内アレルギー用語集として作成が進められている J-FAGY においても、最低限 ICD-11 でのアレルギー用語については包含する方針となっている。

さらに、ゲノム医学領域で活用が進む HPO (Human Phenotype Ontology) についても、現在 ICD-11 の Foundation Layer への包含について WHO-FIC ITC (Information and Terminology Committee) を中心に議論が進められている。将来的には、これに基づいて ICD-11 と HPO の日本語版がシームレスに連携し、統合的に用いられるようになることが期待される。

ICD は世界で最も広く使用されている分類であるが、用語集として見た時の ICD11 は、これまで以上に疾患や状態を詳細にコーディングする能力を備えている。これをフル活用することで EHR データの「データサイエンス、アウトカム研究、疫学的調査のためのソース」としての価値を高め、今後の観察研究の発展に恩恵を及ぼすと考えられる。しかしながら、円滑な導入のためには国内の既存の用語リソースとの注意深い整合性担保の作業を、今後さらに進めていく必要がある。

謝辞

本研究の一部は、令和4年度厚生労働科学研究費補助金政策科学総合研究事業(政策科学推進研究事業)「社会構造の変化を踏まえた保健医療に係る施策立案に資する国際疾病分類の国内導入のための研究(20AA1002)」(研究代表者・小川俊夫)、並びに、同・地域医療基盤開発推進研究事業「医療現場や医療機関間等における情報利活用の環境整備に向けた医療用語の標準化に関する研究(21IA1020)」(研究代表者・今井 健)の一環として行われた。

参考文献

- 1) 今井 健. ICD-11 の機能からみた我が国への適用について. 医療情報学 37(Suppl.):216-218, 2018.
- 2) ICD-11 Foundation

- [https://icd.who.int/dev11/f/en (cited 2022-Aug-24)].
- 3) ICD-11 for Mortality and Morbidity Statistics. [https://icd.who.int/browse11/1-m/en#/(cited 2022-Aug-24)].
 - 4) ISO 17117-1:2018 Health informatics – Terminological resources – Part 1: Characteristics [https://www.iso.org/standard/61979.html(cited 2022-Aug-24)].
 - 5) 今井 健. 用語集として見た ICD-11 と国内適用に向けた課題. 医療情報学 40(Suppl.): 324-327, 2020.
 - 6) ICD10 対応標準病名マスター. [http://www2.medis.or.jp/stdcd/byomei/index.html (cited 2022-Aug-24)].
 - 7) Chute CG. The rendering of human phenotype and rare diseases in ICD-11. J Inher Metab Dis. 2018 May;41(3):563-569.
 - 8) Chute CG. The Potential Roles of ICD-11 in Translational Research: Architectural Features that Support Data Science. 医療情報学 40(Suppl.):98-99,

表 1 標準病名の ICD-11 コーディングの例(ICD-10 2 章病名の一部抜粋)

No	標準病名	ICD 10 コード	交換コード	マッピング情報 2022	確信度	関係	ICD11 Foundation URI	確信度	関係	MMS
4548	顔面骨悪性腫瘍	C410	SD4G	上:2B52.Z&XH8KJ8 上:2B51.Z 上:2B50.Z	1	=	http://id.who.int/icd/entity/1965082709 & http://id.who.int/icd/entity/1757281176	1	=	2B5Z & XA3Y16
4549	上顎骨骨髄性骨肉腫	C410	SLV1	上:2B52.Z&XH8KJ8 上:2B51.Z 上:2B50.Z	1	=	http://id.who.int/icd/entity/1337056966 & http://id.who.int/icd/entity/923808669 & http://id.who.int/icd/entity/573235775	1	=	2B51.Y & XH48A9 & XA7VK5
4550	上顎骨軟骨芽細胞型骨肉腫	C410	SR49	上:2B52.Z&XH8KJ8 上:2B51.Z 上:2B50.Z	1	=	http://id.who.int/icd/entity/1337056966 & http://id.who.int/icd/entity/766703063 & http://id.who.int/icd/entity/573235775	1	=	2B51.Y & XH3T03 & XA7VK5
4551	上顎幻影細胞性歯原性癌	C410	T07J	上:2B52.Z&XH8KJ8 上:2B51.Z 上:2B50.Z	1	=	http://id.who.int/icd/entity/1356922987 & http://id.who.int/icd/entity/1884885172	1	=	2B5J & XH2B2 & XA7VK5
4553	上顎原発性骨肉腫	C410	U4C4	上:2B52.Z&XH8KJ8 上:2B51.Z 上:2B50.Z	1	=	http://id.who.int/icd/entity/171850842	1	<	2B5J & XA7VK5 & XH4M89
4555	上顎歯原性肉腫	C410	UNE5	上:2B52.Z&XH8KJ8 上:2B51.Z 上:2B50.Z	1	=	http://id.who.int/icd/entity/1193238472	1	<	2B5J & XH4M89 & XA7VK5
4557	副鼻腔軟骨肉腫	C410	VFKS	上:2B52.Z&XH8KJ8 上:2B51.Z 上:2B50.Z	1	=	http://id.who.int/icd/entity/431141709 & http://id.who.int/icd/entity/2037717603	1	=	2B50.Y&XA3523
4558	下顎骨間葉性軟骨肉腫	C411	ADSB	上:2B52.Z&XH8KJ8 上:2B51.0 上:2B50.Z	1	=	http://id.who.int/icd/entity/993091882 & http://id.who.int/icd/entity/572669867	1	=	2B50.Y & XH8X47 & XA51B7
4559	下顎骨軟骨肉腫	C411	BS2A	上:2B52.Z&XH8KJ8 上:2B51.0 上:2B50.Z	1	=	http://id.who.int/icd/entity/993091882	1	=	2B50.Y & XA51B7
4560	下顎骨傍骨性骨肉腫	C411	F792	上:2B52.Z&XH8KJ8 上:2B51.0 上:2B50.Z	1	=	http://id.who.int/icd/entity/1711793747 & http://id.who.int/icd/entity/35125225	1	=	2B51.0 & XH8HG5 & XA51B7

表 2 外保連試案「操作対象部位」に対する ICD-11 コーディング例

A	L	N	O	P	Q	R	S
A6E							
A6F							
A6G							
A6H							
A71							
A72							
A73							
A74							
A75							
A76							

研究課題名：社会構造の変化を踏まえた保健医療にかかる施策立案に資する
国際疾病分類の国内導入のための研究

分担項目：ICD-11V 国内導入のための支援ツール作成 採点用リファレンス
ガイドの更新および既存の評価尺度との比較

研究分担者：向野 雅彦（北海道大学病院リハビリテーション科 教授）

研究分担者：小松 雅代（大阪大学大学院医学系研究科社会医学講座環境医学 助教）

研究要旨：

疾病に関する分類に加え、ICD-11において新しく付け加えられた分類項目として、生活機能評価に関する補助セクションである「V章」がある。

生活機能の評価を担う国際生活機能分類（ICF）のダイジェスト版ともいえるICD-11のV章は、WHOが開発した生活機能の評価スケールであるWHO障害評価面接基準（WHO-DAS2.0）、モデル障害調査（MDS）およびICFに基づく"一般的機能の構成要素"と呼ばれる項目群、の3つのパートからなる。この中で特に"一般的機能の構成要素"の項目群には質問紙が付属していないため、情報収集方法の開発が行われてきた。

本研究では、ICD11のV章の国内導入のための支援ツールとして、ICD-11V章の採点リファレンスガイドの更新、および既存の評価尺度等の項目からV章の構成分析と今後の活用方法の検討に取り組んできた。今年度は、前年度に修正したICD-11V章の項目対応に基づき、既存の単施設のデータベースの生活機能評価のデータを用いて、使用例のテストを実施した。また、ICD-11VからICFを用いた詳細評価への移行を想定し、ICD-11VとICFコアセットのマッピングを実施した。

A. 研究目的

2019年5月に世界保健総会で採択されたICD-11には、疾病に関する第1章から第26章に加え、生活機能評価に関する補助セクションである「V章」が追加されている。V章は、WHO障害評価面接基準（WHO-DAS2.0）、モデル障害調査（MDS）、一般的機能の構成要素、の三つのパートから構成されている。そのうち一般的機能の構成要素とは、国際生活機能分類（ICF）の付録9「理想的および最低限の健康情報システムまたは調査のために提案されたICFデータの要件」に基づいており、ICFのダイジェスト版としての性格を持っている。この一般的機能の構成要素の項目群には質問紙が付属していないが、その臨床活用に向けて、採点をサポートする仕組みとして生活機能分類普及推進ワーキンググループにおいて採点リファレンスガイドが作成され、その信頼性、妥当性の検証が行われてきた[1]。また、本研究においては昨年度までに、使用者のフィードバックに基づきリファレンスガイドの更新に取り組むとともに、V章の項目と、既存尺度と国内で使用されている評価指標項目を比較し、V章の利活用について検討を実施してきた。

今年度は、さらにICD-11V章の実用に向けた取り組みとして、既存のデータを用いたICD-11V章の統計活用の試行に取り組んだ。また、ICD-11V章からICFを用いた詳細の生活機能評価への発展性について検討するため、ICD-11章と代表的なICFコアセットのマッピング、に取り組んだ。

B. 研究方法

1. 既存のデータを用いた ICD-11V 章の統計活用の試行

令和4年度厚生労働科学研究費補助金（政策科学総合研究事業（統計情報総合研究））ICF研究班（課題名：地域包括ケアシステムにおいて活用可能な国際生活機能分類（ICF）による多領域にまたがる評価手法の確立に資する研究）で、ICD-11V章を臨床で活用するためのいくつかの抜粋項目群が作成されている¹⁾。本研究では、そのうちもっとも基本的な3項目（共通セット：VW22排泄、VW24食ること、VW13-15移動）について、既存のデータを用いて検証を行った。

藤田医科大学病院において、2004年から2022年までの間に入院し、リハビリテーションを施行し、上記3項目に関する生活機能情報が残さ

れている119,173例のうち、全例でリハビリテーションを実施している脳卒中（脳梗塞：8B11 [数字はICD-11コード]、脳出血：8B00、くも膜下出血：8B01）の診断で急性期治療を受けた患者のデータを抽出し、検討に用いた。これらのデータから、3項目が自立もしくは非自立であった割合を算出した。自立/非自立の判定には、データベース上のFIM（Functional Independence Measure）および関連情報を用いた。算出した割合の2004年から2012年までの9年間、2013年から2022年までの10年間の変化、年次推移について検討を行った。

2. ICD-11V章の"一般的機能の構成要素"のカバーするICFの項目群と、代表的なICFコアセットとのマッピング

ICD-11V章は生活機能評価の入り口として、ICFと組み合わせ使用することが想定されている。ICFの臨床活用に向けた先行する取り組みとしては、ICFコアセットと呼ばれる項目セットがWHO国際分類ドイツ協力センターにより作成され、広く知られている。ICD-11V章を生活機能評価の導入として用いる場合、次のステップとしてより病態に応じた詳細な評価を実施するにあたっては、ICFコアセットを活用することが想定される。

ICFコアセットは、特定の疾患や状況において重要な機能、障害、健康状態を特定し、評価するための基本的なフレームワークである²⁾。ICFコアセットは、ICFの全てのカテゴリから構成されるわけではなく、特定の疾患や状況に関連する最も重要な要素を選択し、組み合わせたものである。これにより、疾患や状況に応じた効率的かつ包括的な評価が可能となる。ICFコアセットには、以下の2つの種類がある。包括的ICFコアセットは、特定の疾患や状況に関連する機能、障害、健康状態を網羅的に評価するためのフレームワークである。これは、幅広い視点から個人の健康状態を把握し、より包括的な評価が求められる場面で使用される。簡易ICFコアセットは、特定の疾患や状況に関連する最も重要な機能、障害、健康状態を効率的に評価するために、必要最小限の要素に絞り込んだフレームワークである。これは、時間やリソースが限られている場面での迅速な評価が求められる場合に使用される。

ICD-11V章からICFへの発展性を考慮する上で、ICD-11V章とICFコアセットがそれぞれカバーする範囲にどれほどの共通項、相違があるのかについては十分に整理がされていない。そこで、本研究では、まず、ICD-11Vの対応するICF

項目のマッピングおよび、これまでに開発された ICF コアセットのうち汎用性の高い代表的なもの（一般セット 7 項目版、一般セット 30 項目版、代表的な疾患群（筋骨格系、循環器・呼吸器系、神経系疾患群）に対して作成された急性期・亜急性期簡易 ICF コアセット）と ICD-11V 章” 一般的機能の構成要素” との項目の重複について検討した。

C: 研究結果

1. 既存のデータを用いた ICD-11V 章の統計活用の試行

期間内に該当の診断となった症例データは 7,321 例であった（2004 年~2012 年 2,238 例、2013 年~2022 年 5,083 例）。平均年齢は 78±14 歳、男性 4,458 名、女性 2,863 名であった。2004 年~2012 年は入院時の自立割合が 7.6%であったのに対し、退院時は 34.5%であり、入院中に自立した患者の割合は、26.8%であった。2013 年~2022 年は入院時の自立割合が 11.9%、退院時は 47.9%であり、入院中に自立した患者の割合は、36.0%であった（資料 1）。年次推移では入院時の自立割合が 10%前後で大きな変化ない一方、退院時の自立割合は向上する傾向が得られた。

2. ICD-11V 章の”一般的機能の構成要素”のカバーする ICF の項目群と、代表的な ICF コアセットとのマッピング

ICD-11V 章は ICF の項目のうち、b 項目（心身機能項目）および d 項目（活動と参加項目）の 69 項目をカバーしていた。ICF コアセットのうち、ICF 一般セット 7 項目版は 7 項目中 6 項目（カバー率 85.7%）、ICF 一般セット 30 項目版は 30 項目中 27 項目（カバー率 90.0%）と大半の項目を含んでいた。疾患群別コアセットのカバー率は、筋骨格系疾患群用急性期/亜急性期セット 72.2%/68.0%、循環器・呼吸器系疾患群用急性期/亜急性期セット 47.6%/52.4%、神経系疾患群用急性期/亜急性期セット 56.0%/51.7% であった。

D: 考察

本研究では、ICD-11V 章の実用に向けた取り組みとして、既存のデータを活用した分析を試みた。共通セット 3 項目を用いることで、単施設における 2004 年から 2022 年までのデータを用いて、脳卒中患者において入院中に自立した患者の割合の変化を表現できることを示した。ICD-11V 章は、このように ICD-11 と組み合わせて用いることで、重症度の変化や治療効率の評価に活用できる可能性がある。今回用いたデー

タベースにおける脳卒中患者のように、リハビリテーション介入を行っているケースでは生活機能の評価が比較的实施されているものの、それ以外の場合には評価の対象となるものが少なく、ICD-11 と組み合わせることで全体像を把握することは難しいのが実情である。このような簡易な項目セットは、疾患統計の情報の充実に活用できる可能性がある。

また、ICD-11V 章の一般的機能の構成要素と代表的な ICF コアセットとのマッピングを行ったところ、ICF コアセットのカバー率は疾患群別に異なっていたものの、少ないもので半分程度をカバーしていることが明らかとなった。この結果から、ICD-11V 章ではどの疾患群においても必要な項目について一定のカバーをしているものの、詳細の評価における ICF の重要性も明らかとなった。

今後は、ICD-11V 章を用いたシンプルな項目セットを活用することで、臨床統計における評価内容の充実を図るとともに、他の項目や ICF と組み合わせた評価の拡張方法についてもさらに検証を行うことが求められる。

E: 結論

今年度は、ICD-11V 章の臨床における活用を想定し、既存のデータを用いて ICD-11V 章の活用方法の検討を行った。また、V 章と ICF コアセットについて、関連分析を行った。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1 論文発表

Leonardi M, Lee H, Kostanjsek N, Fornari A, Raggi A, Martinuzzi A, Yáñez M, Almborg AH, Fresk M, Besstrashnova Y, Shoshmin A, Castro SS, Cordeiro ES, Cuenot M, Haas C, Maart S, Maribo T, Miller J, Mukaino M, Snyman S, Trinks U, Anttila H, Paltamaa J, Saleeby P, Frattura L, Madden R, Sykes C, Gool CHV, Hrkal J, Zvolský M, Sládková P, Vikdal M, Harðardóttir GA, Foubert J, Jakob R, Coenen M, Kraus de Camargo O. 20 Years of ICF-International Classification of Functioning, Disability and Health: Uses and Applications around the World. *Int J Environ Res Public Health*. 2022 Sep 8;19(18):11321.

2 学会発表

Mukaino M, Oikawa E, Yamada S. Survey with ICD-11 Chapter V on Functioning Required for Daily Living. WHO-FIC Network Annual Meeting 2022, 18th-22nd October, Geneva.

文献

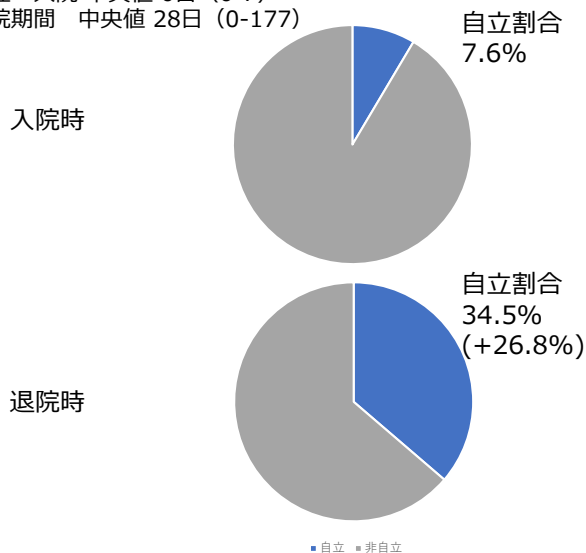
1. 令和4年度厚生労働科学研究費補助金（政策科学総合研究事業（統計情報総合研究））「地域包括ケアシステムにおいて活用可能な国際生活機能分類（ICF）による多領域にまたがる評価手法の確立に資する研究」（代表：向野雅彦）
2. Selb M, Escorpizo R, Kostanjsek N, Stucki G, Üstün B, Cieza A. A guide on how to develop an International Classification of Functioning, Disability and Health Core Set. *Eur J Phys Rehabil Med.* 2015 Feb;51(1):105-17.

脳卒中中の3項目自立割合

（脳梗塞：8B11, 脳出血：8B00、くも膜下出血：8B01）

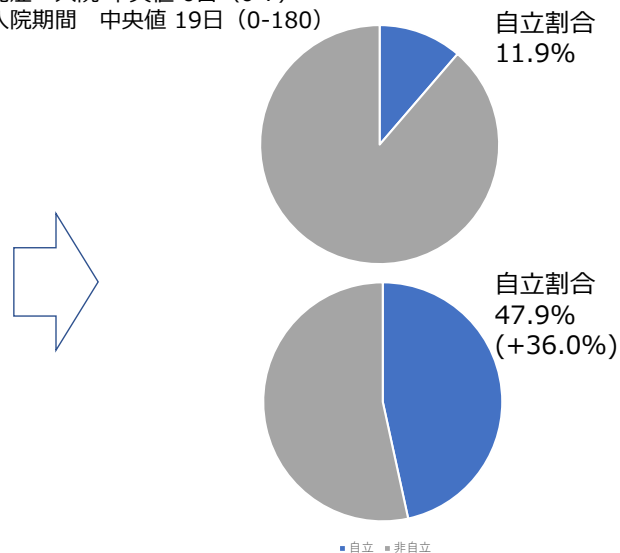
2004-2012

年齢 82±13, 男性 1338/女性 900
発症～入院 中央値 0日 (0-7)
入院期間 中央値 28日 (0-177)



2013-2022

年齢 77±13, 男性 3120/女性 1963
発症～入院 中央値 0日 (0-7)
入院期間 中央値 19日 (0-180)



項目ごとの自立割合

2004-2012

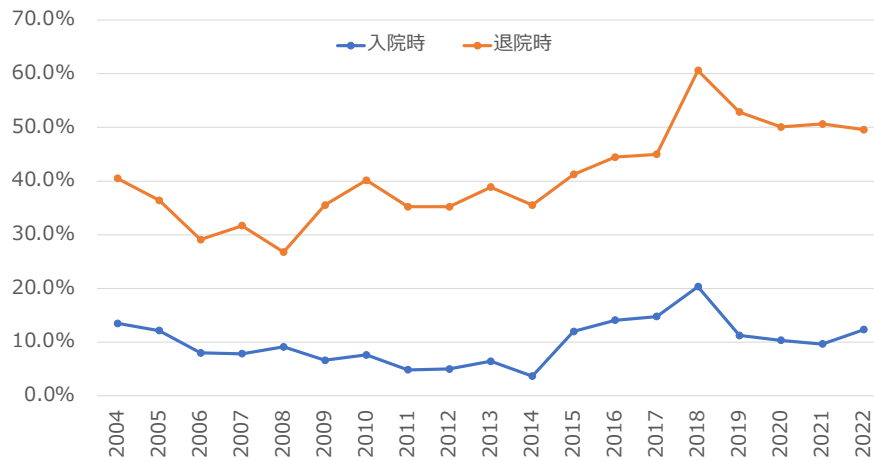
	入院時		退院時	
	自立	非自立	自立	非自立
食事	31.5%	68.5%	54.8%	45.2%
トイレ	12.7%	87.3%	41.5%	58.5%
移動	10.7%	89.3%	41.9%	58.1%

2013-2022

	入院時		退院時	
	自立	非自立	自立	非自立
食事	43.1%	56.9%	66.7%	33.3%
トイレ	16.3%	83.7%	53.2%	46.8%
移動	17.5%	82.5%	55.6%	44.4%

資料2 入院脳卒中患者の共通セット（食事、排泄、移動）3項目の自立割合の年次変化

共通セット3項目自立割合の推移



資料3 ICD-11V 章のカバー範囲と代表的な ICF コアセット

ICD-11V 章	ICF 一般セット 7 項目版	ICF 一般セット 30 項目版	筋骨格系 疾患 急性期	筋骨格系 疾患 亜急性期	循環器呼吸 器疾患 急性期	循環器呼吸 器疾患 亜急性期	神経疾患 急性期	神経疾患 亜急性期
b110					○	○	○	
b114						○		
b126								○
b130	○	○	○		○	○		○
b134	○	○		○		○		
b140	○					○	○	
b144	○							
b152	○	○	○					
b160								○
b164								○
b167							○	○
b210	○							○
b215	○						○	
b220	○							
b230	○							
b235	○						○	
b240	○						○	
b260				○		○		
b270							○	
b280	○	○		○	○			
b310	○							
b320	○							
b330	○							
b340	○							
b410						○		
b415			○		○		○	
b420					○			○
b430						○	○	
b435				○	○			
b440			○		○		○	
b445					○			
b450					○	○		○
b455	○	○	○		○			
b460					○			
b510	○				○	○		○
b515	○							
b520	○							
b525	○		○				○	
b530	○			○				○
b535	○						○	
b550								○
b620	○	○	○	○				○
b640	○	○						
b710	○	○	○				○	
b730	○	○		○				
b735			○					
b740				○				○
b755				○				
b770								○
b780				○				
b810	○					○		
b820	○					○		
b830	○							
b840	○							
b850	○							
b860	○							
s110							○	
s120							○	
s410			○					○
s430						○		
s710			○				○	
s730			○					○
s740			○					
s760			○		○			
s810			○		○			
d115								○
d130	○							
d135	○							
d140	○							
d145	○							

d150	○									
d155	○				○					○
d170										○
d175	○									○
d177					○			○		
d230	○	○		○				○		
d240	○			○		○		○		
d310	○									
d330							○			
d350	○									
d360									○	
d410				○	○	○	○	○	○	○
d415				○	○	○	○	○	○	
d4154	○									
d420	○			○	○		○	○	○	○
d430	○					○				
d435	○									
d440	○									○
d445	○					○				
d450	○	○		○	○		○	○		○
d455		○		○						
d460								○		○
d4600	○									
d465	○			○		○		○	○	○
d470	○			○						
d510	○			○	○	○	○		○	
d520	○			○	○	○	○		○	○
d530	○			○	○	○	○		○	○
d540	○			○	○	○	○	○	○	○
d550	○			○	○				○	○
d560									○	○
d570	○			○						
d630	○									
d640	○			○						
d660	○			○						
d710	○			○						
d730	○									
d760									○	
d770	○			○						
d850	○	○		○						
d910								○		
d920	○			○						
d940	○									
e110				○	○	○	○	○		○
e115					○	○	○	○		○
e120					○	○	○		○	○
e125								○		○
e155								○		
e225					○					
e245								○		
e250						○		○		
e260						○				
e310						○				
e315									○	
e355				○	○					○
e415								○		○
e420				○				○		
e450					○					
e455								○		
e465								○		
e550								○		○
e570						○		○		
e580						○				

厚生労働科学研究費補助金(政策科学総合研究事業(政策科学推進研究事業))
「社会構造の変化を踏まえた保健医療にかかる施策立案に資する
国際疾病分類の国内導入のための研究」

分担研究報告書(令和4年度)

ICD-11 準拠の新たな疾病分類の構築に関する研究

研究代表者 小川俊夫 摂南大学農学部食品栄養学科公衆衛生学教室
研究分担者 滝澤 雅美 国際医療福祉大学

研究要旨

わが国の公的統計のうち、死因統計には ICD-10 準拠の「死因簡単分類」、患者調査には「疾病分類」が用いられているが、ICD-11 のわが国での国内適用に伴い、統計情報の継続性を維持しつつ ICD-11 に基づいた新たな分類を構築する必要がある。本研究の目的は、死因統計の死因簡単分類および患者調査の疾病分類について、現行の ICD-10 準拠から ICD-11 準拠の分類への改訂を試行し、新たな分類が死因統計に与える影響について考察することである。研究3年目の本年度は、昨年度の研究成果を用いて、WHO により公開されている ICD-10・ICD-11 のマッピングテーブルを用いて、ICD-11 準拠の新たな疾病分類の構築を試行した。また、平成29年度の患者調査第119表を用いて、集計値の変化について推計を実施した。本研究により、構築を試行した新たな分類は ICD-11 の構造に基づいているため、現行分類とは異なる部分があることが明らかになった。その結果として ICD-11 準拠の新たな分類を用いることで、ICD-10 から ICD-11 への構造変更に伴い各項目の内容が変化し、それにより患者調査の集計値が変動することで、わが国の公的統計に影響があることが示唆された。今後、わが国への ICD-11 適用が死因統計や罹患統計など公的統計に与える影響について精査する必要がある。また、公的統計の継続性を維持しつつ、新たな疾病分類のわが国への円滑な導入を図る必要がある。

研究代表者 小川俊夫(摂南大学)
研究分担者 滝澤雅美(国際医療福祉大学)

A. 研究目的

わが国の公的統計のうち、死因統計や患者調査等には疾病及び関連保健問題の国際統計分類(International Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems: ICD)の第10版である ICD-10 が用いられている。ICD-9 までは約10年ごとに改訂されていたが、ICD-10 は約30年改訂されていなかった。

ICD-11 は、2007年に WHO と専門家による

改訂作業が開始され、2018年6月に公表、2019年5月の世界保健総会(World Health Assembly: WHA)にて承認され、わが国をはじめ各国では ICD-11 導入に向けた準備が進められている。

本研究班では、昨年度 ICD-11 準拠の死因簡単分類の作成と現行の ICD-10 準拠の死因簡単分類との比較分析を実施し、2021年度の医療情報学連合大会にて発表した。この先行研究により、ICD-11 準拠の死因簡単分類は現行より項目数が増加し、また項目ごとの死亡者数に変化が見られたことから、公的統計の継続性の視点から、今後検討が必要であることが示唆された。

本研究は、昨年度研究の成果を踏まえて、患

者調査に用いられている疾病分類について、現行の ICD-10 準拠から ICD-11 準拠への改訂を試行し、新たな分類が患者調査に与える影響について考察することを目的として実施した。また、ICD-11 の国内適用により、わが国の公的統計に与える影響について考察を実施した。

B. 研究方法

先行研究と同様に、WHO より作成・公開されている ICD-10/ICD-11 のマッピングテーブル (ICD-10/11 mapping tables) と 2013 年版準拠・基本分類表、死因簡単分類表、人口動態調査下巻・死亡数、死因 (死因基本分類)・性別表、さらに令和 2 年患者調査第 119 表 (総患者数、傷病基本分類別) を名寄せし、ICD-11 準拠の新たな疾病分類の構築を試行し、新旧の疾病分類の比較分析を実施した。また、先行研究で構築した ICD-11 準拠の死因簡単分類も加えて、ICD-11 国内適用が公的統計に与える影響について、多角的に考察した。

(1) ICD-11 MMS 準拠の疾病分類の作成

ICD-10/11 mapping tables、基本分類表、死因 (死因基本分類)・性別表、患者調査第 119 表 (総患者数、傷病基本分類別) を、ICD-10 コードをキー変数として名寄せした。なお、ICD-10/11 mapping tables は、先行研究で用いた 2021 年版に加え、2022 年 2 月に改訂された 2022 年版、さらに 2023 年版が存在するが、本稿では 2022 年版を用いた。また、ICD-10/11 mapping tables に記載された項目によっては、単一の ICD-10 コードに複数の ICD-11 MMS コードが記載されているため、ICD-10/11 mapping tables とその他のテーブルは、1 対多対応で付加した。また、基本分類表及び患者調査にのみに記載され、ICD-10/11 mapping tables には存在しない主としてわが国の独自コードについても名寄せし、全ての項目を収録した「統合表」を作成した。

統合表において、わが国独自コードなど一部の項目には ICD-11 MMS コードが付加されなかったため、ICD-10 と ICD-11 MMS の項目名、

ICD-10 準拠の疾病分類などを勘案し、ICD-11 MMS コードを推定し付加した。また、ICD-11 MMS コードから ICD-11 MMS の章を推定した。

次に、統合表に記載されている現行の ICD-10 準拠の疾病分類 (以下、疾病分類 10) を参考にし、ICD-11 MMS コード・章の情報をもとに、新たな ICD-11 MMS 準拠の疾病分類 (以下、疾病分類 11) の作成を試行した。なお、疾病分類には、大分類、中分類、小分類の区分があるため、それぞれについて ICD-11 準拠の分類の構築を試行したが、本稿では、そのうち大分類について検討を実施した。これらの疾病分類 11 の作成にあたり、構造は ICD-11 MMS の章に準拠し、かつ既存の疾病分類 10 で用いられている項目をそのまま継続する方向で作成した。

疾病分類 11 のうち大分類において、新たなコード体系を作成した。作成した新たなコードは、疾病分類 10 と同様に「a-」から始まる 4 桁の数字としたが、疾病分類 10 と疾病分類 11 との差別化を図るため、疾病分類 10 には「a10-」、疾病分類 11 には「a11-」を、それぞれ付与した。

統合表において、単一の ICD-10 コードに対して複数の ICD-11 MMS コードが付与されている項目については、現行の ICD-10 コードで集計された患者数データを、それぞれの ICD-11 MMS コードに「分配」する必要がある。本研究では、先行研究と同様に患者数を複数の ICD-11 MMS コードに分配する場合、各コードに均等配分されると仮定し分配した。

また、ICD-11 MMS の項目によっては、複数のコードの組み合わせが存在する。これらの項目については、先行研究の方法を用いた。例えば、「1A00&XN8P1」(コレラ菌によるコレラ) で用いられている「&」で複数のコードが組み合わせられた項目については、最初に記載されたコードを親コードと仮定し、最初のコードで集計を実施した。

表 1 ICD-11 MMS 準拠の疾病分類 (疾病分類 11) と 2019 年患者数推計

ICD-10 大分類	患者数 (千人)	ICD-11 大分類	患者数 (千人)
a10-0101 腸管感染症	119	a11-0101 腸管感染症	119
a10-0102 結核	19	a11-0102 結核	19
a10-0103 皮膚及び粘膜の病変を伴うウイルス性疾患	577	a11-0103 皮膚及び粘膜の病変を伴うウイルス性疾患	640
a10-0104 真菌症	590	a11-0104 真菌症	588
a10-0105 その他の感染症及び寄生虫症	506	a11-0105 その他の感染症及び寄生虫症	611
a10-0201 胃の悪性新生物<腫瘍>	281	a11-0201 胃の悪性新生物<腫瘍>	281
a10-0202 結腸及び直腸の悪性新生物<腫瘍>	486	a11-0202 結腸及び直腸の悪性新生物<腫瘍>	486
a10-0203 気管、気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍>	329	a11-0203 気管、気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍>	329
a10-0204 その他の悪性新生物<腫瘍>	2,550	a11-0204 その他の悪性新生物<腫瘍>	2,658
a10-0205 良性新生物<腫瘍>及びその他の新生物<腫瘍>	993	a11-0205 良性新生物<腫瘍>及びその他の新生物<腫瘍>	984
a10-0301 貧血	210	a11-0301 貧血	201
a10-0302 その他の血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	129	a11-0302 その他の血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	64
		a11-0401 免疫機構の障害	507
a10-0401 甲状腺障害	918	a11-0501 甲状腺障害	918
a10-0402 糖尿病	5,800	a11-0502 糖尿病	5,799
a10-0403 脂質異常症	4,010	a11-0503 脂質異常症	4,010
a10-0404 その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	763	a11-0504 その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	647
a10-0501 統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	878	a11-0601 統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	878
a10-0502 気分[感情]障害(躁うつ病を含む)	1,723	a11-0602 気分[感情]障害(躁うつ病を含む)	1,734
a10-0503 神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	1,231	a11-0603 神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	1,216
a10-0504 その他の精神及び行動の障害	1,193	a11-0604 その他の精神及び行動の障害	1,089
		a11-0701 睡眠障害	1,177
a10-0800 神経系の疾患	3,689	a11-0801 神経系の疾患	2,717
		a11-0802 脳梗塞	1,202
		a11-0803 その他の脳血管疾患	384
a10-0701 白内障	1,717	a11-0901 白内障	1,717
a10-0702 その他の眼及び付属器の疾患	6,299	a11-0902 その他の眼及び付属器の疾患	6,296
a10-0801 外耳疾患	185	a11-1001 外耳疾患	185
a10-0802 中耳炎	254	a11-1002 中耳炎	254
a10-0803 その他の中耳及び乳様突起の疾患	76	a11-1003 その他の中耳及び乳様突起の疾患	76
a10-0804 内耳疾患	178	a11-1004 内耳疾患	178
a10-0805 その他の耳疾患	276	a11-1005 その他の耳疾患	184
a10-0901 高血圧性疾患	15,112	a11-1101 高血圧性疾患	15,112
a10-0902 虚血性心疾患	1,281	a11-1102 虚血性心疾患	1,281
a10-0903 その他の心疾患	1,762	a11-1103 その他の心疾患	1,735
a10-0904 脳梗塞	1,202		
a10-0905 その他の脳血管疾患	542		
a10-0906 その他の循環器系の疾患	485	a11-1106 その他の循環器系の疾患	649
a10-1001 急性上気道感染症	851	a11-1201 急性上気道感染症	848
a10-1002 肺炎	60	a11-1202 肺炎	60
a10-1003 急性気管支炎及び急性細気管支炎	248	a11-1203 急性気管支炎及び急性細気管支炎	248
a10-1004 気管支炎及び慢性閉塞性肺疾患	378	a11-1204 気管支炎及び慢性閉塞性肺疾患	378
a10-1005 喘息	1,796	a11-1205 喘息	1,796
a10-1006 その他の呼吸器系の疾患	2,330	a11-1206 その他の呼吸器系の疾患	2,340

ICD-11 大分類	患者数 (千人)	ICD-11 大分類	患者数 (千人)
a10-1101 う蝕	43	a11-1301 う蝕	43
a10-1102 歯肉炎及び歯周疾患	157	a11-1302 歯肉炎及び歯周疾患	157
a10-1103 その他の歯及び歯の支持組織の障害	162	a11-1303 その他の歯及び歯の支持組織の障害	258
a10-1104 胃潰瘍及び十二指腸潰瘍	234	a11-1304 胃潰瘍及び十二指腸潰瘍	234
a10-1105 胃炎及び十二指腸炎	1,076	a11-1305 胃炎及び十二指腸炎	1,055
a10-1106 肝疾患	505	a11-1306 肝疾患	508
a10-1107 その他の消化器系の疾患	2,353	a11-1307 その他の消化器系の疾患	2,240
a10-1200 皮膚及び皮下組織の疾患	5,424	a11-1401 皮膚及び皮下組織の疾患	5,339
a10-1301 炎症性多発性関節障害	1,145	a11-1501 炎症性多発性関節障害	1,149
a10-1302 脊柱障害	3,832	a11-1502 脊柱障害	3,064
a10-1303 骨の密度及び構造の障害	1,380	a11-1503 骨の密度及び構造の障害	1,380
a10-1304 その他の筋骨格系及び結合組織の疾患	3,615	a11-1504 その他の筋骨格系及び結合組織の疾患	3,226
a10-1401 糸球体疾患、腎尿管間質性疾患及び腎不全	849	a11-1601 糸球体疾患、腎尿管間質性疾患及び腎不全	820
a10-1402 乳房及び女性生殖器の疾患	1,412	a11-1602 乳房及び女性生殖器の疾患	1,475
a10-1403 その他の腎尿路生殖系疾患	1,891	a11-1603 その他の腎尿路生殖系疾患	1,880
		a11-1701 性的健康に関連する条件	62
a10-1501 流産	8	a11-1801 流産	8
a10-1502 妊娠高血圧症候群	3	a11-1802 妊娠高血圧症候群	3
a10-1503 単胎自然分娩	27	a11-1803 単胎自然分娩	27
a10-1504 その他の妊娠、分娩及び産後	100	a11-1804 その他の妊娠、分娩及び産後	100
a10-1600 周産期に発生した病態	40	a11-1901 周産期に発生した病態	40
a10-1700 先天奇形、変形及び染色体異常	265	a11-2001 先天奇形、変形及び染色体異常	396
a10-1800 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	925	a11-2101 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	1,651
a10-1901 骨折	703	a11-2201 骨折	985
a10-1902 その他の損傷、中毒及びその他の外因の影響	1,224	a11-2202 その他の損傷、中毒及びその他の外因の影響	935
a10-2101 正常妊娠及び産後における管理並びに家族計画	0		
a10-2102 歯の補てつ	0		
a10-2103 その他の健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	0	a11-2401 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	22,795
a10-2210 重症急性呼吸器症候群[SARS]	0		
a10-2220 その他の特殊目的用コード	19	a11-2520 その他の特殊目的用コード	19
外因	0		
—	118		
(空白)	22,931	(空白)	26
総計	112,468	総計	112,468

「IC17.Z/GB52」（その他のジフテリア）で用いられている「/」で複数のコードが組み合わされた項目については、それぞれで主たるコードを判定した。なお、ICD-11 MMS コードの項目名や章の名称は、研究実施時点ではまだ正式な日本語版が存在していないため、それぞれの項目を google translate を用いて日本語に自動翻訳した結果であり、仮訳である。

（２）新旧の疾病分類の患者数の比較分析

上記の患者数の処理に基づき、疾病分類 11 での患者数を推計し、また現行の疾病分類 10 と疾病分類 11 の患者数の集計値の違いについて解析を行った。また、ICD-10 と ICD-11 MMS の章ごとの患者数の集計値の違いについて、解析を実施した。

（倫理面への配慮）

本研究においては、倫理面への配慮は必要としない。

C. 研究結果

（１）ICD-11 MMS 準拠の疾病分類の作成

ICD-10/11 mapping tables と基本分類表、死因簡単分類表、死亡数表、患者数表の名寄せにより「統合表」を作成した。この統合表を用いて、新たな ICD-11 MMS 準拠の疾病分類 11・大分類を作成した。また、現行の ICD-10 準拠の疾病分類 10・大分類との比較表を作成した（表 1）。現行の疾病分類 10・大分類は 70 項目であるが、疾病分類 11・大分類では 69 項目であり、1 項目減少した。なお、ICD-11 では、「26 章 伝統医学」と「V 章 身体機能」に加え、新たに「4 章 免疫系の疾患」「7 章 睡眠覚醒障害」「17 章 性的健康に関連する条件」の 3 章が追加されたが、ICD-10 の「21 章 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用」と「22 章 特殊目的用コード」の疾病分類、さらに外因の患者数がゼロであったことから、これらの章の詳細な疾病分類を統合したため 4 項目減少とな

ったためであり、疾病分類の項目数としてはほぼ変化が見られなかった。

（２）新旧の疾病分類の患者数の比較分析

1) 疾病分類・大分類の比較

疾病分類 10 と疾病分類 11 を用いて、それぞれ 2021 年の患者数を集計し、比較した（表 1）。各項目の患者数は、疾病分類 11・大分類の 69 項目中 34 項目は新旧で同じであったが、残りの 35 項目については増減が見られた。このうち最も大きく患者数の削減が見られたのが、「a10-0600 神経系の疾患」で、3,689 千人から 2,717 千人と 972 千人減であった。これは、主として ICD-11 により新たに導入された「7 章 睡眠覚醒障害」に該当する患者が移動したと推計された。ついで「a10-1302 脊柱障害」が 3,832 千人から 3,068 千人と 768 千人減となったが、ICD-11 で一部の患者が「a11-0801 神経系の疾患」または「a11-2101 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの」に移動したと推計された。患者数が増加したのは、主として新たに項目として追加された「a11-0701 睡眠障害」や「a11-0401 免疫機構の障害」などであった。

2) ICD-10/11 章の比較

ICD-10 と ICD-11 MMS の章ごとに、2021 年の患者数を集計し、比較した（表 2）。なお、ICD-10 と 11 では章立てが異なっており、本研究で使用した章は、それぞれ ICD-10 で 22 章、ICD-11 では対象外の X 章も含めて 26 章で、それぞれ対応する章ごとに患者数の集計値を比較した。

ICD-10 と 11 の章で集計すると、患者数が同じと推計された章はなく、全ての章で増加あるいは減少が見られた。患者数が最も大きく減少したと推計されたのは、ICD-10 の「10 章 循環器系の疾患」であり、20,386 千人から 18,771 千人と 1,615 千人減少すると推計された。これは、主として脳梗塞などが、ICD-11 の「8 章 神経系の疾患」に移動したことによると推計された。ついで、ICD-10 の「13 章 筋骨格系及び結合組織の疾患」の減少が大きく、9,972 千人から 8,770 千人と 1,202 千人減少すると推計された。これは、主としてリウ

マチ性多発筋痛症や全身性エリテマトーデスが ICD-11 の「4 章 免疫系の疾患」に移動したためと推計された。患者数が増加した章は、新たに追加された「7 章 睡眠覚醒障害」などに加え、脳梗塞が追加された「4 章 免疫系の疾患」などであった。

D. 考察

ICD-11 は 2018 年 6 月に公表されたのち、2019 年 5 月の World Health Assembly にて承認され、その後各国への導入に向けた準備が始められている。わが国においても ICD-11 の導入に向け、わが国の臨床や研究で利用されている従来分類との整合性の確保や ICD-11 の日本語化など具体的な検討が実施されている。この検討の一環として、ICD-11 のわが国への適用に伴い、各種公的統計への影響について把握することは、わが国の公的統計の継続性と整合性を確保するために極めて重

要である。

わが国で現在公示され使用されている ICD-10 (2013 年版) に準拠した「疾病、傷害及び死因」の統計分類は、(1) 基本分類表、(2) 疾病分類表 (大分類、中分類、小分類)、(3) 死因分類表である。このうち、疾病分類表は、わが国の疾病罹患の状況を概括できるように推定患者数を基準にして、大分類、中分類及び小分類がそれぞれ独立し、分類表としての形式を統一したものである。

本研究で構築を試行した疾病分類 11 は、従来の疾病分類 10 の各疾病項目を維持しつつ、また大分類、中分類、小分類それぞれも維持したものであることに加え、ICD-11 MMS の構造を併せ持つものである。そのため、統計情報の継続性を維持しつつ新たな疾病分類の概念の導入を実現できると考えられ、今後のわが国の疾病分類の構築に大きく貢献できるものと期待される。

表2 ICD-10とICD-11の章別の患者数比較

ICD-10章		ICD-11章	
10_01000 感染症及び寄生虫症	1,809	11_01000 特定の感染症または寄生虫症	1,973
10_02000 新生物<腫瘍>	4,642	11_02000 新生物	4,683
10_03000 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	341	11_03000 血液または造血器の疾患	271
		11_04000 免疫系の疾患	507
10_04000 内分泌、栄養及び代謝疾患	11,491	11_05000 内分泌、栄養または代謝性疾患	11,374
10_05000 精神及び行動の障害	5,018	11_06000 精神障害、行動障害、または神経発達障害	4,897
		11_07000 睡眠覚醒障害	1,178
10_06000 神経系の疾患	3,679	11_08000 神経系の疾患	4,291
10_07000 眼及び付属器の疾患	8,023	11_09000 眼及び付属器の疾患	8,023
10_08000 耳及び乳様突起の疾患	969	11_10000 耳及び乳様突起の疾患	876
10_09000 循環器系の疾患	20,386	11_11000 循環器系の疾患	18,771
10_10000 呼吸器系の疾患	5,663	11_12000 呼吸器系の疾患	5,670
10_11000 消化器系の疾患	4,410	11_13000 消化器系の疾患	4,380
10_12000 皮膚及び皮下組織の疾患	5,536	11_14000 皮膚及び皮下組織の疾患	5,344
10_13000 筋骨格系及び結合組織の疾患	9,972	11_15000 筋骨格系及び結合組織の疾患	8,770
10_14000 腎尿路生殖器系の疾患	4,152	11_16000 泌尿生殖器系の疾患	4,210
		11_17000 性的健康に関連する条件	62
10_15000 妊娠、分娩及び産じょく	138	11_18000 妊娠、分娩又は産褥	143
10_16000 周産期に発生した病態	63	11_19000 周産期に起因する特定の状態	65
10_17000 先天奇形、変形及び染色体異常	266	11_20000 発達障害	396
10_18000 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	925	11_21000 他に分類されていない症状、徴候または臨床所見	1,701
10_20000 傷病及び死亡の外因	0	11_22000 傷病及び死亡の外因	1,900
10_19000 損傷、中毒及びその他の外因の影響	2,021	11_23000 外傷、中毒、またはその他の外因	20
10_21000 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	0	11_24000 健康状態または医療サービスとの接触に影響を与える要因	2
10_22000 特殊目的用コード	19	11_25000 特殊目的用コード	19
		11 X	0
(空白)	22,945	(空白)	22,943
総計	112,468	総計	112,468

疾病分類 11・大分類の項目数については、ICD-10 から ICD-11 MMS への構造変化があるものの、項目数自体はほとんど変化がなく、統計の継続性の維持が期待された。しかしながら、項目ごとの患者数を推計すると、約半分の項目で患者数の増減が見られた。先行研究で実施した死因単分類の改訂の推計では、項目数が 110 項目から 116 項目に増加し、ICD-10 準拠の死因単分類項目のうち約 40%で死亡者数の変動が見られる可能性が示唆された。すなわち、死亡者数、患者数ともに ICD-11 の国内適用により変動すると推計されたことから、統計の継続性の観点から、注意が必要であることが示唆された。

また、疾病分類を集計することで、ICD の章ごとの患者数の推計が可能であるが、新旧の分類で全ての章で患者数の変動が見られた。特に、ICD-10 と 11 の章で患者数が大きく増加すると推計されたのは、ICD-10 の「6 章 神経系の疾患」などで、逆に大きく減少すると推計されたのは「13 章 筋骨格系及び結合組織の疾患」などであった。この結果は、先行研究の死亡者数の推計でも同様の傾向が見られたことから、統計の継続性の観点から、注意が必要であることが示唆された。

本研究で構築を試行した疾病分類 11 については、以下の課題が存在する。第一に、疾病分類は WHO が構築し公表している ICD-10/11 mapping tables を用いて作成した。しかしながら、この対応表は完成版ではなく精緻化の途中と考えられることから、今後、WHO によるアップデートなどにより、疾病分類 11 の内容や構造に影響があると考えられる。

第二に、本研究では複数の表を、ICD-10 コードをキー変数として名寄せしたが、WHO による ICD-10/11 mapping tables では、一つの ICD-10 コードに対して複数の ICD-11 MMS コードが付与されているものがあり、このような 1 対多対応については、本研究においては死亡者数を均等配分した。しかしながら、実際には特定の項目に死亡者数が集中することも想定され、今後より詳細な検討が必要である。また、複数の ICD-10 コードが複数の ICD-11 MMS コードに置換されているような、いわゆる多対多対応のケースが仮にあるとした

ら、本研究の方法では対応できていない。さらに、わが国の臨床で用いられている標準病名はより詳細なコード体系であり、本研究で作成した疾病分類 11 と標準病名との対応はできていないのが現状である。今後、標準病名マスターを用いた検討を行うことで、より精緻な ICD-10 と ICD-11 MMS の対応表の作成が可能となり、その結果としてより精緻な疾病分類 11 の構築が可能と考えられる。

第三に、本研究で疾病分類 11 の作成にあたり、作成に用いたマッピングテーブルや基本分類表に掲載されている項目のうち突合できない項目も見られた。これらの項目は個々に手作業で追加したほか、ICD-10 コードや ICD-11 MMS コードの一部は手作業で付加したため、今後付加したコードの妥当性の検討が必要である。

第四に、昨今の COVID-19 感染者数及び死亡者数の増加により、わが国をはじめ各国の疾病構造や死因も大きく変容していると考えられる。今般の新たな公的統計に用いる分類の構築には、最新の疾病構造を考慮する必要があると考えられるが、本研究ではこの点は充分には配慮できていない。今後 WHO や厚生労働省とも協議しつつ、本研究を進める必要があると考えられる。

最後に、WHO は死亡者数及び患者数に対して、ICD-10 準拠の特定製表用リストを公表しており、現行の疾病分類、死因分類はこれらの特定製表用リストとの整合性も考慮されている。ICD-11 についても、同様の特定製表用リストの WHO からの公表が待たれるが、本稿執筆時点では未だ公表されていない。今後、WHO より特定製表用リストが公表された場合、構築した疾病分類や死因単分類との整合性について、再検討が必要である。

本研究及び先行研究により、ICD-10 から ICD-11 への構造変更に伴い、疾病分類及び死因単分類の項目が変化し、それにより罹患統計と死因統計の集計値が変動することで、わが国の公的統計に影響があることが示唆された。今後、わが国への ICD-11 適用が死因統計や疾病統計など公的統計に与える影響について、さらなる検討を踏まえ精査する必要がある。また、公的統計の継続性を維持しつつ、ICD-11 のわが国への円滑な導入を図

る必要がある。

E. 結論

本研究では、ICD-10 と ICD-11 の構造を比較することで、ICD-11 準拠の新たな疾病分類案の作成を試行し、わが国の罹患統計における ICD-11 導入の課題を明らかにした。本研究の成果は、わが国に適した死因統計票の作成について考察するための基礎資料として、幅広く情報発信を行うなど活用したい。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

1) 小川俊夫、滝澤雅美、今井 健、小松雅代、向野雅彦、今村知明. わが国の公的統計への ICD-11 適用の影響に関する一考察: ICD-11 準拠の疾病分類構築の試行と影響分析. 医療情報学. 2022. Nov ; 42(Suppl.) : 450-455.

2. 学会発表

1) 小川俊夫、滝澤雅美、今井 健、小松雅代、向野雅彦、今村知明. わが国の公的統計への ICD-11 適用の影響に関する一考察: ICD-11 準拠の疾病分類構築の試行と影響分析. 第 42 回医療情報学連合大会シンポジウム「ICD-11 国内適用の現状と課題」(2022 年 11 月 20 日、北海道札幌市、札幌コンベンションセンター)

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)

なし

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

引用文献

参考文献

- 1) 厚生労働省. 第 10 回修正死因統計分類 (ICD-10) と第 9 回修正死因統計分類 (ICD-9) の比較. <https://www.mhlw.go.jp/toukei/sippe/icd.html> (2021.06.17 ダウンロード)
- 2) 小川俊夫、滝澤雅美、今井 健、高橋幸恵、坂本幸平、小松雅代、向野雅彦、今村知明. わが国の公的統計への ICD-11 適用の影響に関する一考察: ICD-11 準拠の死因簡単分類構築の試行と影響分析. 医療情報学. 2021. Nov ; 41(Suppl.) : 660-664.
- 3) WHO. ICD-10/11 mapping tables. <https://icd.who.int/browse11/Downloads/Download?fileName=mapping.zip> (2021.08.21 ダウンロード)
- 4) 厚生労働省. 基本分類表 (2013 年版準拠) <https://www.mhlw.go.jp/toukei/sippe/> (2021.06.17 ダウンロード)
- 5) 厚生労働省. 死因簡単分類表 人口動態調査・死因簡単分類と死因基本分類との対照表 <https://www.e-stat.go.jp/stat-search/file-download?statInfId=000031982734&fileKind=0> (2021.06.17 ダウンロード)
- 6) 厚生労働省. 人口動態調査・結果表 人口動態調査下巻・死亡数, 死因 (死因基本分類)・性別 <https://www.e-stat.go.jp/stat-search/file-download?statInfId=000031982790&fileKind=1> <https://www.e-stat.go.jp/stat-search/file-download?statInfId=000031982791&fileKind=1> (2021.06.17 ダウンロード)
- 7) 厚生労働省. 患者調査第 119 表 (総患者数、傷病基本分類別) <https://www.e-stat.go.jp/stat-search/file-download?statInfId=000032212145&fileKind=1>
- 8) 厚生労働省. 平成 29 年人口動態統計・報告書

厚生労働科学研究費補助金(政策科学総合研究事業(政策科学推進研究事業))
「社会構造の変化を踏まえた保健医療にかかる施策立案に資する
国際統計分類の国内導入のための研究」
分担研究報告書(令和4年度)

ICD-11 と標準病名マスターとのマッピングに関する研究

研究分担者 今井 健 (東京大学大学院医学系研究科)

研究要旨

疾病及び関連保険問題の国際統計分類(ICD)の第 11 版改訂(ICD-11)が WHO によりリリースされ、今後国内適用に向けた準備が急務となっている。本研究班全体の目標は ICD-11 国内導入に資する各種分析を行い基礎資料として取りまとめることであるが、本分担研究ではその中でも特に、これまで ICD-10 に準拠して構築され広く診療現場において用いられてきた標準病名マスターとどのように整合性を取るか、を検討することを目的とする。既に 2020 年度研究で、ICD-11 自体の和訳のみでは標準病名と一致させることは難しく、Post-Coordination を駆使した対応付けが必要で、国内導入にあたりこの作業が極めて重要であることが判明した。そこで 2021 年度は標準病名マスター中の 7 個の ICD-10 章 (1,2,4,6,9,10,13) の病名、また 2021 年度は 2 章についての追加作業と共に、新規に 12 個の章(3,5,7,8,11,12,14,15,16,17,18,19) について ICD-11 への対応付け作業を行ってきた。本年度は WHO が発表した最新版の ICD-10⇔ICD-11 マッピングテーブルに基づき、全章にまたがるこれまでの作業結果の見直しにより、精度向上と精緻化作業を行った。結果として標準病名マスターと ICD-11 を対応付けする際の課題を明確にすると共に、本研究班としての素案が確定された。また、病名単位で ICD-11 コーディングを行った結果と WHO のマッピングテーブルの情報を比較した結果、10%の病名について MMS コードが完全に異なることが判明したことから、ICD-11 の国内統計への影響を計る際には、ICD-10⇔ICD-11 マッピングテーブルだけでは不十分で、病名単位での分析が重要であることが示された。

本成果は ICD-11 の円滑な国内導入に向けて(1)国内標準である標準病名マスターとの整合性を担保すると共に、(2)死亡表・死亡個表、患者調査における病名を ICD-11 コーディングすることにより、より詳細に各種統計への影響を分析するための貴重な基礎資料となるものである。

研究協力者

東 尚弘

東京大学大学院医学系研究科 教授

川口陽子

東京医科歯科大学大学院

医歯学総合研究科 教授

いる。WHO が進めている ICD-10 から 11 への改訂においては我が国の医療実態を踏まえたより適切な医療情報を将来的に確保するために、我が国での適用に向けた ICD-11 の妥当性の検討を行う必要があり、研究班全体の目標は ICD-11 国内導入に資する各種の分析を行い基礎資料として取りまとめることである。これには複数の要素が含まれ、例えば公的統計への影響なども重要であるが、考慮すべきことはそれだけに止まらない。ICD-11 では (1) 分類体系の構造自体の変化 (2) 個々の分類概念の詳細化 (3) 単なる分類体系の提供から用語集の提供への変化 (4) Post-Coordination を用いた任意粒度での概念のコーディング、と言ったこれまでにない特徴があり、国内で

A. 研究目的

疾病及び関連保健問題の国際統計分類(ICD)は、我が国では死亡統計を始め患者調査、医療保険制度、診療情報管理に広く活用されて

これまで用いられてきたコーディングスキームとは大きく異なっている。国内の電子カルテ環境では厚生労働省標準ともなっている ICD-10 対応電子カルテ用標準病名マスター（以下、標準病名マスター）が広く導入されており、病名の記録と ICD-10 コードへの対応づけが行われているだけでなく、

その ICD-10 コードは DPC など診療報酬請求にも広く用いられている。一方、ICD はこれまで単なる疾患分類のためのカテゴリ体系を提供するものであったが、ICD-11 からは Foundation Component 中に約 13 万語の用語セットが含まれ、大きく拡充されると共に用語集としての性質を帯びてきた。従って、ICD-11 の日本語版を作成し国内導入する際には、これまで国内で標準的に用いられてきた用語集とのダブルスタンダードを避け、円滑な移行を促すため整合性をとる必要がある。

そこで本分担研究では、これまで国内で用いられてきた ICD-10 ベースのコーディングスキーム、特に標準病名マスターに焦点を当て、ICD-11 を国内導入した際にどのように整合性を担保するべきかを検討することを目的とする。

[昨年度までの重要な知見]

ICD-11 は疾病・傷病概念のコーディングに必要な全てのエンティティをプールする Foundation Component と、そこから死亡統計、罹患統計、プライマリ・ケアなど各種の目的に応じて適切な粒度を選択し、排他的分類体系として切り出した Linearization Component から成っている。エンドユーザーが使用するのは主に Linearization であるが、各種の Linearization の大元となるデータベースは Foundation Component であり、2020 年 6 月版では総数で 130,151 エンティティが含まれている。内訳を下記表 1 に示す。この中で定義文エンティティが 16,843、注記エンティティが 731 含まれているので、実質的な用語数は 112,577 語（カテゴリ名称約 3 万含む）である。各々の章に含まれる用語数は ICD-10 までと比べて大幅に増加し、Post-Coordination に使用される拡張用コード（X 章）も約 24,000 語を収載している。

章	内容 (略記)	全数	章	内容 (略記)	全数
1	感染症	8,174	15	筋骨格	6,696
2	新生物	8,138	16	泌尿器	4,361

3	血液	1,797	17	性保健	165
4	免疫	1,669	18	妊娠	2,370
5	内分泌	6,155	19	周産期	2,357
6	精神	3,709	20	発達異常	10,172
7	睡眠障害	250	21	症状所見	4,624
8	神経	5,588	22	損傷	7,617
9	視覚	3,759	23	外因	5,438
10	耳	663	24	保健サービス	2,996
11	循環器	4,143	25	特殊	47
12	呼吸器	2,785	26	伝統医学	1,102
13	消化器	5,921	V	生活機能	131
14	皮膚	4,902	X	拡張コード	24,422

表 1 ICD11Foundation の章ごとエンティティ数(2020/6 月)

この X 章は ICD-11 での大きな特徴であるが、臨床病態をより詳細にコーディングするために、重症度、時間的特徴、病因、位置関係、解剖構造、組織病理、損傷や外因の程度、意識レベル、物質・アレルゲン等々の用語が用意されている。21 章の症状・所見用語と合わせ、国内でこれまで存在してこなかった領域の標準的な用語集・コードセットとして機能する可能性を秘めている重要なパートである。今後、X 章を含めたこれら全体 11 万語の Foundation Component の日本語版を整備していく必要がある。この作業は厚生労働省が中心となり、各関連学会との連携のもと進められており、訳語候補の集約作業と事務局での確認作業を経て、現在最終確定作業が行われているところである。

一方、これまで我が国でも臨床現場で用いられる標準用語集やコード体系の策定が進められてきた。現在、17 の厚生労働省標準規格が定められており、その中で用語集・コード体系に関するものとしては、ICD10 対応標準病名マスター⁵⁾（以下標準病名マスター）、医薬品 HOT コードマスター、臨床検査マスター、また標準歯科病名マスターや看護実践用語標準マスターといったものが存在する。しかし臨床情報のコーディングに必要な様々な領域の用語という観点では未だカバー範囲は限定されており、症状・所見や解剖用語を始め、アレルギーや化学療法などでも標準的用语・コード体系は存在していない。その中で、電子カルテの普及に伴い、比較的国内普及が進んでいるものの 1 つが病名である。MEDIS-DC からリリースされている「ICD10 対応標準病名

マスター」は、我が国における標準病名集で、電子カルテで広く用いられている。また、事実上同じ中身のものが社会保険診療報酬支払基金からも「レセプト電算処理用傷病名マスター」としてリリースされており、レセプトの傷病名欄記載、あるいはDPCでも用いられている。

標準病名マスターは V5.04 版(2020 年 6 月)では病名基本テーブル 26,420 件、修飾語テーブル 2,393 件、索引テーブル 106,834 件の規模になっており、約 26,000 の病名代表表記と、対応する同義語・類義語、これらに Post-Coordination 用の修飾語を組み合わせることができるようになってきている。今や用語集としての色合いを濃くした ICD-11 の日本語版の国内導入を今後考えていく上では、この現在用いられている標準病名マスターとの適切な統合は必要不可欠である。

標準病名マスターでの病名表記は代表表記・同義語・類義語を合わせて 107,760 語存在するが、この中にはカタカナ表記の同義語(48,966 語)も大量に含まれており、異字体による同義語(4,280 語)も除くと、実質的な病名は 50,042 語である。これらについては適切な形で ICD-11 日本語版と対応付けられることが必要となる。

令和 2 年度の調査において、2020 年 3 月時点での ICD-11 Foundation 日本語版作成作業中間データ(「ICD-11 日本語版(仮)」)、候補用語約 10 万語と標準病名マスター中の約 5 万語とで文字列が一致するものは約 8,600 語程度であり、対応付けができなかった病名数について、ICD-10 での章の上位は以下の様であることが判明している。

- ・ 5,129 S 章 (損傷・中毒)
- ・ 4,653 T 章 (損傷・中毒)
- ・ 4,125 C 章 (新生物)
- ・ 3,488 D 章 (新生物)
- ・ 3,483 M 章 (筋骨格、結合組織の疾患)

上位を占めたのは S,T (損傷・中毒)と C,D (新生物)である。この上位 5 つは標準病名マスターにもともと収載されている語数が多い章の順位とも一致しており、自然だと考えられる。

一方、標準病名マスターのこれらの章は、詳細な部位を予め病名に含めたものが数多く収載されているという特徴を持つ。例えば「第 3 足趾末節骨開放骨折」は、ICD10 では S925 (Fracture of other toe) の .1 (open) である S9251 に分類される。ICD11 では、これ

に直接対応する語は無いが、ND13.5 Fracture of other toe に対する Post-Coordination として表現されるべきものである。従って ICD-11 の日本語版と直接の完全一致用語が存在せずとも妥当である。実際、ND13.5 Fracture of other toe では、左右性、骨折のサブタイプ、開放・閉鎖の別、詳細な解剖部位を Post-Coordination で表現するため、「第 3 足趾末節骨開放骨折」も ND13.5 と、XA38Q1 (Distal phalanx of third toe) と XJ7YM (Open fracture) を組み合わせることで「完全に同一概念粒度で」コーディングされる。(MMS: “ND13.5 & XA38Q1 & XJ7YM”)

すなわち、標準病名マスターと、ICD-11 日本語版との単純な用語一致数を考慮してもあまり意味を持たず、現在の標準病名マスター中の用語が、ICD-11 日本語版でどのように Post-Coordination で表現されるか、を調査することが重要である。

B. 研究方法

ICD-11 の国内導入に向け、2020 年度までの厚生労働省内の作業により、既に各学会から寄せられた ICD-11 Foundation の用語に対する和訳案の集約作業が終了している。その後、2021 年度において各学会での和訳確認作業が行われ、2022 年初頭にこの集計が終了したところである。まだ最終確定していないため、本研究では 2020 年までに一旦集約が行われた和訳案セットを一時的な「ICD-11 日本語版(仮)」とみなした。既に昨年度、この「ICD-11 日本語版(仮)」と標準病名マスターとのカバレッジについて調査を行い、約 5 万語の標準病名の中で文字列完全一致により ICD-11 と対応付けが行えるのは約 8600 語(約 18%)程度と判明している。

また、標準病名マスターと一致しなかった事例について調査を行い、対応づけを行うための方策について検討を行った結果、ICD-11 の Post-Coordination 機能を用いないと既存の標準病名が ICD-11 と対応付けられない事例が多数存在することが判明している。

この分析結果に基づき、昨年度までに標準病名マスター中の個々の病名について ICD-11 コーディング作業を実施し、「代表語」病名についてはほぼ完了している。本年度は精度を高めるため、2022 年に WHO から発表された新しい ICD10⇔11 マッピングテーブルを参考に全ての章に渡って見直し作業を行うと共に、約 26,000 の「同義語」病名についても可能な限りコーディング作業を行った。

また、この ICD-11 コーディングを行う上で注意すべき点や問題点について分析を行うと共に WHO のマッピングテーブルと病名単位でのコーディング結果の相違についても分析を行った。

尚、本研究では倫理面への配慮は必要としない。

C. 研究結果

C-1) 標準病名マスター中の病名の ICD-11 コーディング

昨年度に引き続き標準病名マスターの個々の病名に対し、必要に応じて Post-Coordination を用い、ICD-11 コードにて表現する作業(ICD-11 コーディング)を行った。全体としては非常に膨大な作業であり、昨年度までは効率化のため標準病名約5万語のうち、同義語を除く「代表表記」と区分されている約2万語について優先的に作業を行ってきた。今年度は質向上のため、昨年度までの作業結果の見直し作業を行うと共に、未作業であった「同義語」についても可能な限り作業を行った。

本報告書末尾の「表2：標準病名の Foundation コーディング作業結果」並びに「表3：標準病名の MMS コーディング作業結果」に ICD-10 章ごとの作業完了数一覧を示す。

標準病名全体は 52,894 語で代表語 26,149、同義語 26,745 語から成る。ICD-11 Foundation に対するコーディングでは代表語 97.4%、同義語 80.7%の作業を完了した(全体 88.9%)。

MMS に対するコーディングでは代表語 97.3%、同義語 80.6%の作業を完了した(全体 88.8%)。

代表語についてはほぼ全てについて見直し作業が完了したが、第11章(消化器)について歯科病名の検討が十分に行えていないため、97.4%に留まっている。

また**同義語**については、病名数が多い第2章(新生物)ならびに第19章(損傷)については作業が完了しなかったため、80.7%程度に留まっている。

しかし上記の例外、並びに 20~22 章(外因、保健サービス、特殊目的)といった補足的な章を除いては、全ての章に渡りほぼ全ての標準病名の ICD-11 コーディングと見直しが完了した。

本年度作業では、研究期間中に WHO が公表している ICD10 ⇄ ICD11 のマッピングテーブルが更新されたため、見直し作業の際にはその

修正内容も加味した。表2・3にマッピングテーブル情報の更新が成された ICD10 コードに関係した標準病名の数を示す。全体として 3,647 の病名が影響を受けた。

また、ICD-11 では ICD-10 導入後の医学の発展を反映し、分類体系構造が大きく変わっている。従って現代では古くなってしまった病名概念については、ICD-11 の階層構造では表現が困難な事例が存在する。このようなものは表2・表3において「現代では病名として不適切」として集計されている。全体として 205 の標準病名については削除する、あるいは使用しないようにすべきであることが判明した。具体的事例については考察にて述べる。

C-2) 2種類の ICD-11 コーディング

コーディング作業においては、各々の標準病名に対し以下の2種類の対応付けを行った。

- (1) Foundation 中のエンティティの URI (固有の ID) との対応付け
- (2) MMS (Mortality and Morbidity Statistics Linearization) の粒度における対応付け

MMS は Foundation の中の限られた概念のみが選択されており、粒度としては粗いものである。従って、仮にある標準病名が Foundation 中のある用語と一致したとしても、それが MMS に含まれていなければ、より粗い粒度の MMS 用語と対応付けざるを得ず、もしその標準病名の概念を完全に MMS で表現しようとするならば、Post-Coordination を利用する必要がある。

例えば、

「**A群連鎖球菌敗血症**」(標準病名) は Foundation 中の用語としては **“Sepsis due to Streptococcus, group A without mention of septic shock”** (<http://id.who.int/icd/entity/126483251>) と完全一致している。()内は URI である。しかし、MMS ではこの語は採用されておらず、**1G40 “Sepsis without septic shock”** の粒度までしか存在しない。従ってこの標準病名を MMS の粒度レベルで表現しようとする **XN6LP “Streptococcus, group A”** という X 章における修飾語と組み合わせて、**1G40 & XN6LP** という Post-coordination 表現にする必要がある。

つまり、**A群連鎖球菌敗血症**は、

A群連鎖球菌敗血症 (ICD10: A400)
= <http://id.who.int/icd/entity/126483251>
(ICD-11 Foundation レベル)
= **1G40 & XN6LP**
(ICD-11 MMS レベル)

の2通りのコーディングとして表現される。元来この病名に付与されている ICD-10 コード A400 はこの病名概念が含まれる「より粒度の粗いカテゴリ」のコードであるが、ICD-11 になることにより、もっと詳細な病名自体が持つ概念粒度と等価なコーディングを行うことができる。ただしこの方法が **Foundation レベルと MMS レベルで2通りある**、ということである。

一方、MMS レベルの Post-coordination、あるいは粒度の細かい Foundation の用語を用いても、標準病名の意味粒度の方が細かく、対応付けできない事例も存在した。このような場合は ICD-11 の表現力をもって等価な表現はできず、病名より粒度が粗い表現に留めざるを得なかった。

例えば、**痛風発作 (ICD10: M1009)** は

(ICD-11 Foundation レベル)
<http://id.who.int/icd/entity/526468865>
(ICD-11 MMS レベル)
FA25.2Y Other specified gout without specification whether primary or secondary

までとの対応付けが限界であり、これ以上細かなコーディングは行えない。このような事例も多く存在した。

以上のように、本作業においては **(A) Foundation レベル、MMS レベルのそれぞれに対しコーディングを行う**と共に、**(B) 標準病名と ICD-11 コーディング結果の「概念としての包含関係」**、さらに **(C) 対応付けの確信度**についてもアノテーションを行った。

(B) は、可能な限りの Post-Coordination を行った結果、概念として完全に等価となったかどうか、を示すものであり、

「標準病名 (包含関係) ICD-11 コード表現」
として、包含関係を

< : 標準病名の方が粒度が細かい
= : 完全に意味的に等価である
> : 標準病名の方が粒度が粗い

として表現したものである。

例えば、標準病名である「膵内胆管癌 (ICD10:C240)」は、X 章の詳細な部位コードを用いても、膵内胆管という区分が存在しないため、

「胆道・遠位胆管の悪性新生物」
(ICD-11 Foundation レベル)
<http://id.who.int/icd/entity/1707654227>
(ICD-11 MMS レベル)
2C15.Z Malignant neoplasms of biliary tract, distal bile duct, unspecified

以上の詳細な Post-coordination は困難であり、「病名 < ICD-11 コード表現」

(病名の方が概念粒度が細かい)

として表現されている。

また、(C) 確信度については、1: 完全に自信あり、2: 少々の疑義がある、3: 自信なし、後で見直す際の参考情報、というように数字が大きいほど確信度が少なくなるような仕様となっている。

本報告書末尾の「表4: Foundation コーディング内訳」「表5: MMS コーディング内訳」に確信度と病名⇔コーディング結果の概念の包含関係についての集計を示す。

確信度については Foundation、MMS 共に「1」が99%を超えており、「2・3」のものは1%未満である。

包含関係については、Foundation では「=」が81%、「<」が18%、「>」が0.1%であったが、MMS では「=」は54.5%、「<」が44.8%、「>」が0.1%であった。MMS では Foundation に比べ「=」である割合が大幅に低下し、「<」つまり標準病名の方が意味的な粒度が細かい (ICD-11 では粗い概念粒度でしか表現できない) 割合が大幅に増加している。これは、Foundation は詳細な病名が数多く含まれているのに対し、MMS ではそれらをまとめたカテゴリのみになっているため、表現力が小さいことに起因するものである。

尚、MMS については Post-Coordination の記法が定められており、“STEM/STEM”, “STEM & Extension” と “/” や “&” を用いて表現する

ことが可能である。一方、Foundation については、WHO は Post-Coordination の記法を定めていない。しかし標準病名の概念となるべく同じように近づけるためには Foundation 中の概念についても Post-Coordination を用いる必要があった。そこで本研究では、MMS と同様の記法を用いて、Foundation 粒度のコーディングにおいても Post-Coordination を採用している。

これらの詳細な作業結果については、「【別添資料 1】標準病名の ICD-11 コーディング結果」を参照されたい。

(各章の先頭 5 ページのみを抜粋して示している。)

C-3) WHO マッピングテーブルとコーディング結果の相違

ICD-11 の MMS コードについては、WHO はこれまで ICD-10⇔ICD-11 の対応を示したマッピングテーブルを公表し、度々改訂を行っている。これは ICD-10 のカテゴリコードと ICD-11 の MMS コードの多対多の対応付を示したものである。これを用いれば、標準病名では既に ICD-10 コードが付与されているため、容易に ICD-11 コード (MMS) が得られると思われるが、実際にはそうではない。

なぜならば、上記のマッピングテーブルはカテゴリ間の大まかな対応を示したもので、各カテゴリに含まれる細かな病名について考えると ICD-11 での構造の変化に伴い、全く別なカテゴリに対応付けられるケースも多く存在するためである。また多対多のマッピングも存在し、ある ICD-10 カテゴリが ICD-11 では複数の対応先 (MMS) にまたがるケースもある。この場合は個々の病名ごとに判断しないと、どの ICD-11 カテゴリにマッピングするべきかが決定できない。

このため、本作業では WHO マッピングテーブルを参考にはするものの、あくまで個々の標準病名の概念をベースに MMS との対応付けを行っている。そのコーディング結果を元に、WHO マッピングテーブルとの相違についても分析を行った結果を本報告書末尾の表 6 に示す。

WHO のマッピングテーブルにより示された ICD-11 MMS コードと、標準病名の ICD-11 MMS コーディング結果が完全一致したのは 74.4%、Post-Coordination の STEM コード部分のみが一致したのは 15.4%、全く異なる MMS コードへ対応した

(不一致)ものは 10.3%存在した。

つまり標準病名の数ベースで考えると、WHO マッピングテーブルを用いても、約 10%の病名については正しい MMS コードが得られないことを意味する。 またマッピングテーブルでは MMS の Post-Coordination については考慮していないが、15%の病名についてはマッピングテーブル以上の詳細な表現 (Post-Coordination) が可能であったことを意味している。(これらは部分一致としてカウントされている)

D. 考察

[標準病名との対応付け]

標準病名の ICD-11 コーディングについては、一部の例外を除き、ほぼ全ての標準病名について Foundation、MMS 双方の粒度でのコーディング作業と見直しが完了している。これまで様々な観点から ICD-11 に関する分析研究がなされているが、既に国内に標準用語集を有する場合にそれとの整合性を分析するという観点での研究は十分に行われていない。我が国においては、電子カルテ環境にて広く普及が進む厚生労働省標準規格である標準病名マスターとの整合性を取ることは ICD-11 導入のため必須の課題であり、その意味でも本研究の成果は極めて貴重なリソースである。

ICD-11 コーディングは Post-coordination の柔軟性のため、慣れていないと同一概念に対するコーディング方法が複数あるように見えてしまい、作業結果にブレが生じやすい。今年度を通じて、作業グループとの度重なるミーティングにて作業方針の擦り合わせを行ったが、作業者の理解の進展に従い以前に作業した結果の修正が必要になったケースも多数存在した。本年度全章に渡って見直し作業を行ったが、今後も最新の Foundation・MMS の発表に合わせ、継続的作業結果の見直しによる質向上作業が必須であると考えられた。

国内の電子カルテにて広く利用されている標準病名マスターと ICD-11 との対応付けが完了すれば、ICD-11 の国内導入に向けて大きく前進すると考えられる。ただし、現状検討しているのは標準病名マスターから ICD-11 への対応付けであり、逆方向、すなわち ICD-11 Foundation の和

訳(約10万)の中で、標準病名マスター(約5万)に含まれない疾患用語も大量に存在する。これをどのように標準病名マスターに取り込み、統合していくかについては別途継続的な検討課題である。

[ICD-11 コーディングを行う際の知見]

本年度までの研究を通じ、具体的な事例を元に作業協力者と共に議論を行ったことにより、標準病名と ICD-11 との対応付けを行う際の知見が集積された。以下、ポイントをまとめる。

① ICD-11 の粒度や分類体系として ICD-10 との考え方の違いに由来する問題

標準病名の「大網消化管間質腫瘍」「腸間膜消化管間質腫瘍」は、消化管外間質腫瘍という概念であり、GIST とは異なる EGIST と呼ばれることが報告されている。GIST を頼りに Post-Coordination を行おうとしても、部位として選択ができない。消化管の外であるためこれは自然である。しかし、EGIST の概念自体が ICD-11 に含まれていないため、結果的に EGIST 系のコーディングが困難である。同様の事例は多く存在する。

また現行の標準病名マスターは ICD-10 のリリースの際に親和性を持たせて作成された経緯があるため ICD-11 において新しく新設された概念や分類体系の変更により、疾患概念の ICD-11 への対応付けが困難である事例が多数見られた。これらの多くは古い疾患概念に基づく病名で、非常に広範囲のものをカバーする「グループ名称」であるような病名が多い。これをいつまで標準病名に残しておくかという点も課題として挙げられた。特に精神科領域では今は使わない病名が多く残されている。このことから「現在では病名として不適切」という列を設け、標準病名マスター側から削除すべき病名についてはフラグを立てている。

② 身体部位(X章:拡張コード)の粒度に由来する問題

標準病名「唾液腺癌」において、唾液腺は「顎下腺」と「舌下腺」を含む。しかし ICD-11 の 2B68.Z は「顎下腺または舌下腺の悪性新生物、

詳細不明」となっており、部位の Post-Coordination では「顎下腺」と「舌下腺」のどちらかしか選択できず、両者にまたがる「部位」ということが表現できない。このような場合、「顎下腺」と「舌下腺」の両者を選択することは誤りである。なぜならば、Post-Coordination は A&B&C と表記することで A, B, C の共通部分に絞っていく(積集合)の考え方を採っているため、「顎下腺&舌下腺」とすると「そのような身体部位領域は存在しない」ということになってしまうからである。このような場合は部位の Post-Coordination として「XA5T23 Salivary gland apparatus(唾液腺装置)」を選択するしかない。同様に複数の部位にまたがるグループ概念については「予めそれが用意されていない限り」Post-Coordination にて表現する手段がない。

例えば、標準病名「上腕悪性末梢神経鞘腫」のコーディングの際に「悪性末梢神経鞘腫」を MMS で検索すると、部位の Post-Coordination として細かな神経を選ぶよう Suggest される。しかし「上腕部抹消神経」という括りは存在せず、以下の6つの細かな神経が提示される。

XA7K97 Medial cutaneous nerve of arm
XA2XU7 Posterior cutaneous nerve of arm
XA6166 Lateral cutaneous nerve of forearm
XA26F7 Medial cutaneous nerve of forearm
XA0KL7 Posterior cutaneous nerve of forearm
XA6B07 Superior lateral cutaneous nerve of arm

これらをまとめた「上腕部の末梢神経」という概念が存在しないため、結局部位の Post-Coordination をすることができない。

同様に「頸部血管肉腫」についても、血管は上位の方でまず動脈、静脈に分けられているため「頸部血管」というエンティティが存在せず、コーディングができない。血管と神経についてはこのような問題が顕著であった。

③ ICD-11 の Post-Coordination の記法の限界に由来する問題

上記の②と関係する問題であるが、現行 ICD-11 での Post-Coordination の記法では「/」や「&」を用いても論理的には AND の表現のみが許されており、OR が表現できない。そのため複数

の ICD-11 エンティティにまたがる概念や複数のエンティティをまとめたグループ概念を表現する病名についてはコーディングが原理的に困難である。

歴史的経緯で今は細分化されているが、昔は区分粒度がもっと粗かった疾患も存在する。ある程度古いものは、obsolete にするべきと思われるが、いきなり変更するのが難しい、あるいは古い病名も現場で用いられることが多い領域ではある程度古い病名を残す必要もある。

例えば、「純粋性腺形成異常症」(pure gonadal dysgenesis、標準病名：20064340, ICD10: Q991) は、46XY, 46XX の両方のパターンがある。しかし、ICD11 では、Foundation, MMS 共に 46, XX pure gonadal dysgenesis (LB45.1) , 46, XY gonadal dysgenesis (LD2A.1) に分かれてしまっており、両者を統合して表現する手段がない。

(これらをまとめる上位概念も存在していない) 同様の事例は多数あり、LB45.1 | LD2A.1 など OR を表現する手段が現状の Post-Coordination の仕組みにないことが原因である。

このような対象は、表 4・5においては「関係」列の中の「特殊」という項目で集計されている。Foundation、MMS 共に全体の 0.7%程度存在していた。

このような標準病名については、国内で OR の独自記法を導入しておき、臨床現場でのコーディング時にどちらかかを選択してもらう、あるいは古い病名については標準病名マスターから削除する、といった対応が必要と考えられ、実際の導入時には課題と考えられた。

[ユースケースによる粒度の使い分け]

1つの標準病名に対する ICD-11 コーディングが複数レベルで行える、ということの重要性は特定の目的(例えば、公的な死亡統計という特定の目的)のみを論じている場合には軽視されがちである。しかしながら、WHO が ICD-11 にて目指す主要な目的の1つは「Multi-Purpose での利用を志向した適切な粒度での複数のコーディング手段を提供すること」であり、公的統計用途に粗い集約が為される粒度はもちろんのこと、より詳細な粒度が必要な研究用途のコーディングも想定されている。

実際、本年度の研究成果から、標準病名を対象とした場合であっても、Post-Coordination(コードの合成)を用いて Foundation レベル、MMS レベルと複数の表現が可能であった。このような複数のレベル・粒度のコーディングはその目的に応じて使い分けられるべきであり、今後ユースケースに基づいた粒度設定の議論が必要と考えられる。

例えば、Foundation レベルの (URI を用いた) Post-Coordination コーディングは最も粒度が細かいが、これは国の公的統計(死亡・罹患)として用いられることは想定しづらく、細かな粒度が必要な研究用途に用いられると考えられる。また、MMS レベルのコーディングについても、目的に応じて必要な粒度を選定し、それ以上に細かな Post-Coordination については捨象する、という線引きが必要と考えられる。

例えば、「**第 3 足趾末節骨開放骨折**」は、ICD-10 では **S9251**(その他の趾<足ゆび>の骨折・開放骨折)というカテゴリに属するものであった。これが今や ICD-11 では病名自身が持つ概念粒度を、**ND13.5 & XA38Q1 & XJ7YM** (Fracture of other toe & Distal phalanx of third toe & Open fracture) として Post-Coordination により完全に等価に表現可能である。しかし、国の公的統計(死亡・罹患)においてここまでの粒度は必ずしも必要ではないと考えられ、その場合は例えば **ND13.5** 程度に丸めて集計する、という方針になると考えられる。しかしながら研究用途において、**"ND13.5 & XA38Q1 & XJ7YM"** というコーディングが有用な場面も多数あるであろう。

このように、ユースケースごとのコーディング粒度設定は、今後 ICD-11 を我が国に導入する際には非常に重要である。将来的には、次世代の標準病名マスターは、(1) Foundation レベルの Post-Coordination コーディング、(2) MMS レベルの Post-Coordination コーディング、(3) MMS レベルの公的統計用の粗いコーディング (Post-Coordination の結果から、必要な主要コードが選択された結果)、の全ての粒度を含め、用途に応じて必要な粒度を選択して出力する仕組みを

備えるべきだと考えられる。

その点で本研究では、複数のレベルでコーディングすることによって、後に研究・公的統計・診療報酬請求など様々な用途で異なる粒度のコードが選択できるようにしている点で極めて貴重なリソースとなると考えられる。

また本年度の結果より Post-Coordination を用いても完全に疾患概念と ICD-11 コードが対応付けられなかった標準病名は、表 4・5 より Foundation では 18.8%、MMS では 45.5%存在していた。これらは大部分が「<」の包含関係、つまり病名の方が意味的粒度が細かく Post-Coordination を用いても ICD-11 では完全に表現できなかったものである。

Foundation については、WHO になるべく多くの病名を収載する方針であることから、これら表 4 の約 8,500 語については今後 WHO に ICD-11 Foundation への収載提案を行っていくことが望ましい。

MMS については、研究用途の場合は 45.5%の病名については Post-Coordination を用いてもある程度の粒度でしか表現ができていないことに注意が必要である。一方、公的統計へ用いる場合では、実際には粒度の粗い上位のコードにまとめて集計されると考えられるため、「<」となっていることは実質的な問題とはならないと考えられる。

[公的統計への影響分析への応用]

本厚労科研班全体の目標は、公的統計への影響分析である。ICD-10 と ICD-11 のカテゴリは必ずしも 1 対 1 対応ではなく、多対多対応であることも多い。従って、ICD-10 ベースで集計された統計データが ICD-11 ベースでどのように変化するか、を分析するためには カテゴリベースの集計分析では不十分で、病名単位の粒度での解析が必要である。実際、結果の章でも示した通り、WHO のマッピングテーブルにより示された ICD-11 MMS コードと、標準病名の ICD-11 MMS コーディング結果が完全一致したのは 74.4%、Post-Coordination の STEM コード部分のみが一致したのは 15.4%、全く異なる MMS コードへ対応した（不一致）ものは 10.3%存在した。

部分一致である 15.4%については少なくとも MMS の STEM コードは一致しているため、公的統計（死亡・罹患）の収集粒度では問題にならないが、不一致である約 10%の病名については、WHO マッピングテーブルを用いても、正しい MMS コードが得られない。従って ICD10⇔ICD11 マッピングテーブルを用いて、ICD11 導入による公的統計への影響分析を行うとこの部分の誤差が発生することは注意が必要である。

その場面においても、本分担研究の成果は活用可能である。本研究期間では時間が足りず十分な解析が行えなかったが、「死亡票中の自由入力病名が全て標準病名マスターにてコーディングできるもの」（これまでの筆者の知見では全体の 8 割である）を対象とし、原死因として選択されたと考えられる病名について本研究結果で既に付与された ICD-11 コードを適用すれば、従来 ICD-10 コードで集計されていた死亡統計を ICD-11 コードベースに変換することが可能である。これによりマッピングテーブルに依存しない詳細な病名単位での公的統計への影響分析が可能となる。

このように本研究成果は、ICD-11 の国内診療現場への導入を円滑化するために必要不可欠なリソースであるのみならず、研究班全体の目標の効率化にも活用可能な基盤となるものであり、今後このリソースに基づく詳細な公的統計への影響分析が望まれる。

E. 結論

本年度研究では、ICD-11 の国内導入における既存標準用語集との整合性確保のため、標準病名マスターと ICD-11 とのマッピングをほぼ全章の病名に対し完了した。標準病名と ICD-11 日本語版（仮）と完全一致するものは少数であったが、一致しないものを対象に Post-Coordination を用いた ICD-11 コーディングを行った。結果として一部の同義語病名を除くほぼ全ての標準病名について、MMS レベル、Foundation レベルなど複数の表現レベルでのマッピング作業が完了した。本研究により標準病名マスターの ICD11 化に向けた重要な知見が得られただけでなく、その成果は公的統計への影響分析を病名単位で行い

精緻化するためにも重要な基盤リソースである。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 今井 健. ICD-11 の用語集としての活用と国内用語集との整合性担保に向けた課題.

医療情報学 42 (Suppl.): 462-467, 2022.

2. 小川俊夫, 滝澤雅美, 今井 健, 小松雅代, 向野雅彦, 今村知明. わが国の公的統計への ICD-11 適用の影響に関する一考察～ICD-11 準拠の疾病分類構築の施行と影響分析～. 医療情報学 42 (Suppl.): 450-455, 2022.

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

表2 標準病名の Foundation コーディング作業結果

ICD-10 章	標準病名マスター 病名			Mapping テーブル情報 の更新数 (2020→22)	現代では 病名とし て不適切	Foundation コーディング作業結果				
	病名数					作業数	疑義 要再検	作業完了数		
		代表語	同義語						代表語	同義語
1	3,278	1,696	1,582	199	2	3,276	1,696	1,580	0	3,276
2	7,292	3,443	3,849	826	2	6,293	3,328	2,965	3	6,290
3	1,233	498	735	67	1	1,233	498	735	0	1,233
4	3,095	1,292	1,803	33	3	3,095	1,292	1,803	0	3,095
5	1,740	777	963	180	98	1,603	756	847	1	1,602
6	2,238	936	1,302	216	5	2,238	936	1,302	0	2,238
7	1,880	1,128	752	109	13	1,880	1,128	752	0	1,880
8	506	287	219	16	2	503	287	216	0	503
9	2,225	1,099	1,126	230	1	2,220	1,098	1,122	0	2,220
10	1,226	675	551	37	1	1,219	674	545	1	1,218
11	3,590	1,809	1,781	191	2	2,468	1,375	1,093	0	2,468
12	1,687	842	845	119	12	1,687	842	845	0	1,687
13	3,854	1,928	1,926	1	5	3,851	1,926	1,925	1	3,850
14	1,637	862	775	158	0	1,636	862	774	0	1,636
15	917	604	313	22	0	917	604	313	0	917
16	637	389	248	50	0	637	389	248	0	637
17	3,417	1,640	1,777	625	0	3,417	1,640	1,777	2	3,415
18	1,953	1,291	662	44	30	1,929	1,277	652	0	1,929
19	10,489	4,953	5,536	524	28	6,942	4,861	2,081	0	6,942
計	52,894	26,149	26,745	3,647	205	47,044	25,469	21,575	8	47,036
						88.9%	97.4%	80.7%		88.9%

表3 標準病名のMMSコーディング作業結果

ICD-10章	標準病名マスター 病名			Mapping テーブル情報 の更新数 (2020→22)	現代では 病名とし て不適切	MMSコーディング作業結果				
	病名数					作業数			疑義 要再検	作業完了数
		代表語	同義語				代表語	同義語		
1	3,278	1,696	1,582	199	2	3,276	1,696	1,580	0	3,276
2	7,292	3,443	3,849	826	2	6,281	3,323	2,958	5	6,276
3	1,233	498	735	67	1	1,233	498	735	0	1,233
4	3,095	1,292	1,803	33	3	3,092	1,289	1,803	0	3,092
5	1,740	777	963	180	98	1,601	754	847	5	1,596
6	2,238	936	1,302	216	5	2,238	936	1,302	0	2,238
7	1,880	1,128	752	109	13	1,877	1,125	752	0	1,877
8	506	287	219	16	2	502	286	216	4	498
9	2,225	1,099	1,126	230	1	2,218	1,096	1,122	0	2,218
10	1,226	675	551	37	1	1,215	670	545	0	1,215
11	3,590	1,809	1,781	191	2	2,463	1,373	1,090	1	2,462
12	1,687	842	845	119	12	1,687	842	845	2	1,685
13	3,854	1,928	1,926	1	5	3,853	1,927	1,926	0	3,853
14	1,637	862	775	158	0	1,637	862	775	0	1,637
15	917	604	313	22	0	917	604	313	0	917
16	637	389	248	50	0	637	389	248	0	637
17	3,417	1,640	1,777	625	0	3,414	1,639	1,775	2	3,412
18	1,953	1,291	662	44	30	1,929	1,277	652	1	1,928
19	10,489	4,953	5,536	524	28	6,943	4,870	2,073	21	6,922
計	52,894	26,149	26,745	3,647	205	47,013	25,456	21,557	41	46,972
						88.9%	97.3%	80.6%		88.8%

表4 Foundation コーディング内訳

ICD-10 章	標準病名 マスター 病名数	Foundation コーディング								
		作業完了数		確信度			関係			
			割合	1	2	3	=	<	>	特殊
1	3,278	3,276	99.9%	3,268	8	0	3,156	103	5	12
2	7,292	6,290	86.3%	6,220	64	6	5,914	352	6	21
3	1,233	1,233	100.0%	1,220	13	0	1,093	127	0	13
4	3,095	3,095	100.0%	3,093	2	0	2,859	203	18	15
5	1,740	1,602	92.1%	1,471	123	8	999	568	5	31
6	2,238	2,238	100.0%	2,235	2	1	1,904	304	2	28
7	1,880	1,880	100.0%	1,880	0	0	1,377	469	0	34
8	506	503	99.4%	503	0	0	382	117	0	4
9	2,225	2,220	99.8%	2,218	2	0	1,905	282	0	33
10	1,226	1,218	99.3%	1,217	1	0	1,040	179	0	0
11	3,590	2,468	68.7%	2,468	0	0	2,004	449	1	14
12	1,687	1,687	100.0%	1,683	4	0	1,341	342	0	4
13	3,854	3,850	99.9%	3,847	3	0	3,385	443	2	21
14	1,637	1,636	99.9%	1,633	3	0	1,450	178	0	8
15	917	917	100.0%	916	1	0	766	151	0	0
16	637	637	100.0%	637	0	0	602	33	2	0
17	3,417	3,415	99.9%	3,346	69	0	2,895	508	2	10
18	1,953	1,929	98.8%	1,928	1	0	1,471	457	0	1
19	10,489	6,942	66.2%	6,937	5	0	3,631	3,220	3	88
計	52,894	47,036	88.9%	46,720	301	15	38,174	8,485	46	337
				99.3%	0.6%	0.0%	81.2%	18.0%	0.1%	0.7%

表5 MMS コーディング内訳

ICD-10 章	標準病名 マスター 病名数	MMS コーディング								
		作業完了数		確信度			関係			
			割合	1	2	3	=	<	>	特殊
1	3,278	3,276	99.9%	3,271	5	0	2,043	1,228	0	5
2	7,292	6,276	86.1%	6,211	61	4	5,574	674	11	21
3	1,233	1,233	100.0%	1,220	13	0	493	727	0	13
4	3,095	3,092	99.9%	3,091	1	0	1,642	1,418	22	10
5	1,740	1,596	91.7%	1,569	25	2	502	1,067	1	31
6	2,238	2,238	100.0%	2,236	2	0	1,257	954	0	27
7	1,880	1,877	99.8%	1,877	0	0	594	1,251	0	32
8	506	498	98.4%	498	0	0	238	260	0	4
9	2,225	2,218	99.7%	2,216	2	0	1,413	779	0	26
10	1,226	1,215	99.1%	1,215	0	0	545	670	0	0
11	3,590	2,462	68.6%	2,462	0	0	975	1,472	1	14
12	1,687	1,685	99.9%	1,684	1	0	952	731	0	4
13	3,854	3,853	100.0%	3,850	3	0	2,638	1,198	2	15
14	1,637	1,637	100.0%	1,634	3	0	696	933	0	8
15	917	917	100.0%	916	1	0	448	469	0	0
16	637	637	100.0%	637	0	0	472	165	0	0
17	3,417	3,412	99.9%	3,344	68	0	1,544	1,862	0	6
18	1,953	1,928	98.7%	1,927	1	0	1,096	832	0	1
19	10,489	6,922	66.0%	6,916	6	0	2,495	4,356	3	89
計	52,894	46,972	88.8%	46,774	192	6	25,617	21,046	40	306
				99.6%	0.4%	0.0%	54.5%	44.8%	0.1%	0.7%

表6 MMSコード (Mappingテーブルとコーディング結果) の一致

章	MMSコーディング 作業完了数	MappingテーブルとMMSコーディング 結果の一致・不一致		
		一致／部分一致		不一致
		完全一致	STEMのみ一致	
1	3,276	2,811	443	22
2	6,276	4,547	1,680	49
3	1,233	1,172	22	39
4	3,092	2,670	386	36
5	1,596	1,491	85	20
6	2,238	2,039	98	101
7	1,877	1,749	122	6
8	498	428	57	13
9	2,218	1,853	328	37
10	1,215	1,094	90	31
11	2,462	2,242	157	63
12	1,685	1,374	189	122
13	3,853	806	176	2,871
14	1,637	1,535	88	14
15	917	835	82	0
16	637	535	93	9
17	3,412	3,268	99	45
18	1,928	1,523	296	109
19	6,922	2,963	2,722	1,237
計	46,972	34,935	7,213	4,824
		74.4%	15.4%	10.3%

【別添資料1】：標準病名のICD-11コーディング作業結果
 ～ 第1章 標準病名 ～ (5ページのみ抜粋)

No	ICD10 章	標準病名	代 表・ 同義	ICD10 コード	交換 コード (旧)	マップ 情報 (旧)	マップ 情報 2022	病名と シテ現 代では 不適切	確 信 度	関 係	ICD11 Foundation URI	確 信 度	関 係	MMS	備 考
1	1	アジアカコレラ	L	A000	G03B	=: 1A00&XN8	=: 1A00&XN8P 1		1 =		http://id.who.int/icd/entity/257068234 & http://id.who.int/icd/entity/19448391	1 =	1A00 & XN8P1	ditto	ditto
2	1	アジアカコレラ	S1	A000	G03B	=: 1A00&XN8 P1	=: 1A00&XN8P 1		1 =		http://id.who.int/icd/entity/257068234 & http://id.who.int/icd/entity/19448391	1 =	1A00 & XN8P1	asiatic choleraは古典型 O1コレラ菌の1つと分類される。したがって、コレラ菌&Vibrio cholera O1	
3	1	古典型コレラ	S1	A000	G03B	=: 1A00&XN8 P1	=: 1A00&XN8P 1		1 =		http://id.who.int/icd/entity/257068234 & http://id.who.int/icd/entity/19448391	1 =	1A00 & XN8P1	ditto	ditto
4	1	真性コレラ	L	A000	NV/RU P1	=: 1A00&XN8 P1	=: 1A00&XN8P 1		1 =		http://id.who.int/icd/entity/257068234	1 =	1A00 & XN8P1	1A00&XN8P1 標準病名からは一致せず。XN8P1 Vibrio cholera O1, biovar cholerae の synonyms、classical choleraは「真性」とみなす	
5	1	エルトルコレラ	L	A001	PMGD 2R	=: 1A00&XN6 R	=: 1A00&XN62 R		1 =		http://id.who.int/icd/entity/581614179	1 =	1A00 & XN62R	1A00&XN62R、Cholera due to Vibrio cholerae O1, biovar eltor	
6	1	エルトル型コレラ	S1	A001	PMGD 2R	=: 1A00&XN6 R	=: 1A00&XN62 R		1 =		http://id.who.int/icd/entity/581614179	1 =	1A00 & XN62R	MMSで検索すると、1A00&XN62R Cholera & Cholera & XN62R Vibrio cholera O1, biovar eltor が提案される。	
7	1	コレラ	L	A009	AEIG	=:1A00	=:1A00		1 =		http://id.who.int/icd/entity/257068234	1 =	1A00	1A22 偽性を仮性とみなした。昔はこう呼んでいたが、後に口タウエルと感染症/胃腸炎/下痢症と呼ばれるようになった。(旧：上位の1A00コレラを選択、1A00&XY7Z (Provisional diagnosis))	
8	1	偽性コレラ	L	A009	JDNQ	=:1A00	=:1A00		1 =		http://id.who.int/icd/entity/840750347	1 =	1A22		
9	1	腸チフス	L	A010	EDG9	=:1A07 Z	=:1A07 Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1528414070	1 =	1A07 Y	1A07 Y&XA9A21 (Other specified typhoid fever & Nasopharynx 鼻咽頭) → pharyngotyphoid / tonsillitis	
10	1	扁担チフス	L	A010	J6FN	=:1A07 Z	=:1A07 Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/260431605	1 =	1A07 Y / CA03 Z	Typhoid myocarditis、1A07 Y/BC42 (Other specified typhoid fever / Myocarditis)	
11	1	腸チフス性心筋炎	L	A010	JROA	=:1A07 Z	=:1A07 Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1405318202	1 =	1A07 Y / BC42.1	Typhoid pneumonia、1A07 Y/CA40.0 (Other specified typhoid fever / Bacterial pneumonia)	
12	1	チフス性胆のう炎	L	A010	JUMN	=:1A07 Z	=:1A07 Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/786251500	1 =	1A07 Z / DC12 Z	→Typhoid fever, unspecified / 胆のう炎	
13	1	チフス性胆嚢炎	S1	A010	JUMN	=:1A07 Z	=:1A07 Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/786251500	1 =	1A07 Z / DC12 Z	Other specified typhoid fever / Other specified cholecystitis	
14	1	咽頭チフス	L	A010	N89L	=:1A07 Z	=:1A07 Z		2 <		http://id.who.int/icd/entity/1528414070	1 <	1A07 Y	1A07 Y&XA9A21 (Other specified typhoid fever & Nasopharynx 鼻咽頭)	
15	1	イーペルト病	L	A010	QDNJ	=:1A07 Z	=:1A07 Z		1 <		http://id.who.int/icd/entity/1528414070	1 <	1A07 Y	Other specified typhoid fever、詳細不明イーペルトは腸チフス菌の発見者	
16	1	腸チフス性肺炎	L	A010	T4JE	=:1A07 Z	=:1A07 Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1890032609	1 =	1A07 Y / CA40.0	Typhoid pneumonia、1A07 Y/CA40.0 (Other specified typhoid fever / Bacterial pneumonia)	
17	1	腸チフス肺炎	S1	A010	T4JE	=:1A07 Z	=:1A07 Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1528414070	1 =	1A07 Y / BC42	Typhoid pneumonia	
18	1	腸チフス性髄膜炎	L	A010	TNFR	=:1A07 Z	=:1A07 Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1631651468	1 =	1A07 Y / ID01.0Y & XNA4M	Typhoid meningitis、1A07 Y/ID01.0Y (Other specified typhoid fever/Other specified bacterial meningitis) & XNA4M Salmonella Typhi	
19	1	腸チフス髄膜炎	S1	A010	TNFR	=:1A07 Z	=:1A07 Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1631651468	1 =	1A07 Y / ID01.0Y & XNA4M	Other specified typhoid fever/Other specified bacterial meningitis) & XNA4M Salmonella Typhi	二重分類 腸チフスを軸にするか、髄膜炎を軸にするか

No	ICD10 標準病名	代表・同義	ICD10 コード	交換コード	ワッピング情報(旧)	ワッピング情報2022	病名とシテ強度では不適切	確信度	関係	ICD11 Foundation URI	確信度	関係	MMS	備考
20	1 腸チフス性関節炎	L	A010	U334	=:1A07.Z	=:1A07.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/55112941	1 =	=	1A07Y / FA11	Typhoid arthritis、1A07Y/FA11 (Other specified typhoid fever/Reactive arthropathies、反応性関節症)
21	1 腸チフス関節炎	S1	A010	U334	=:1A07.Z	=:1A07.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/55112941	1 =	=	1A07Y / FA11	Typhoid arthritis、1A07Y/FA11 (Other specified typhoid fever/Reactive arthropathies、反応性関節症)
22	1 腸チフス性心内膜炎	L	A010	VDHN	=:1A07.Z	=:1A07.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/425206566	1 =	=	1A07Y / Bp40	Typhoid endocarditis、1A07Y/BB40 (Other specified typhoid fever / Acute or subacute infectious endocarditis)
23	1 パラチフスA	L	A011	A341	=:1A08	=:1A08		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1045590756	1 =	=	1A08 & XN1K5	Paratyphoid fever A、Synonyms、paratyphoid A、1A08&XN1K5 (Paratyphoid fever&Salmonella paratyphi A)
24	1 パラチフスA	S0	A011	A341	=:1A08	=:1A08		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1045590756	1 =	=	1A08 & XN1K5	Paratyphoid fever B、Synonyms、paratyphoid B、1A08&XN322 (Paratyphoid fever&Salmonella paratyphi B)
25	1 パラチフスB	L	A012	S87P	=:1A08	=:1A08		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1258234397	1 =	=	1A08 & XN322	Paratyphoid fever B、Synonyms、paratyphoid B、1A08&XN322 (Paratyphoid fever&Salmonella paratyphi B)
26	1 パラチフスB	S0	A012	S87P	=:1A08	=:1A08		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1258234397	1 =	=	1A08 & XN322	Paratyphoid fever B、Synonyms、paratyphoid B、1A08&XN322 (Paratyphoid fever&Salmonella paratyphi B)
27	1 パラチフスC	L	A013	J2LF	=:1A08	=:1A08		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/800386953	1 =	=	1A08 & XN5TR	Paratyphoid fever C、Synonyms、paratyphoid C、1A08&XN5TR (Paratyphoid fever&Salmonella paratyphi C)
28	1 パラチフスC	S0	A013	J2LF	=:1A08	=:1A08		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/800386953	1 =	=	1A08 & XN5TR	Paratyphoid fever C、Synonyms、paratyphoid C、1A08&XN5TR (Paratyphoid fever&Salmonella paratyphi C)
29	1 パラチフス	L	A014	LSB7	=:1A08	=:1A08		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1780040028	1 =	=	1A08	Paratyphoid fever、Synonyms、infection due to Salmonella paratyphi、1A08&XN1K5&XA9A75 (Paratyphoid fever & Salmonella paratyphi A & joints and ligaments)
30	1 パラチフス熱関節炎	L	A014	LU2	=:1A08	=:1A08		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1780040028	1 =	=	1A08 / FA11	Paratyphoid fever、Synonyms、infection due to Salmonella paratyphi、1A08&XN1K5&XA9A75 (Paratyphoid fever & Salmonella paratyphi A & joints and ligaments)
31	1 パラチフス性関節炎	S1	A014	LU2	=:1A08	=:1A08		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1780040028	1 =	=	1A08 / FA11	Paratyphoid fever、Synonyms、infection due to Salmonella paratyphi、1A08&XN1K5&XA9A75 (Paratyphoid fever & Salmonella paratyphi A & joints and ligaments)
32	1 サルモネラ腸炎	L	A020	CK13	=:1A09.0	=:1A09.0		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1370972705	1 =	=	1A09.0	salmonella gastroenteritis
33	1 サルモネラ胃腸炎	L	A020	FHE2	=:1A09.0	=:1A09.0		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1520312138	1 =	=	1A09.0	salmonella gastroenteritis
34	1 ノズミチフス菌腸炎	L	A020	LI3E	=:1A09.0	=:1A09.0		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1520312138	1 =	=	1A09.0	1A09 (ノズミチフス菌腸炎=Salmonella Typhimurium、サルモネラ腸炎の一種と判断)
35	1 サルモネラ症	L	A020	TRK6	=:1A09.0	=:1A09.0		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1520312138	1 =	=	1A09.0	salmonellosis
36	1 サルモネラ敗血症	L	A021	G16H	=:1A09.0	=:1A09.0		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1070977756	1 =	=	1C41 & XN00E / 1G40	Salmonella sepsis(=Sepsis due to Salmonella without mention of septic shockのSynonyms)
37	1 サルモネラ髄膜炎	L	A022	B6TM	=:1A09.Z/FA10.01	=:1A09.Z/FA10.01		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/971069309	1 =	=	1A09Y	Salmonella meningitis infections due to other Salmonella in other organs / Bacterial meningitis
38	1 サルモネラ感染性髄膜炎	S1	A022	B6TM	=:1A09.Z/FA10.01	=:1A09.Z/FA10.01		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/971069309	1 =	=	1A09Y	Salmonella infection-unspecified / Infectious meningitis not elsewhere classified-unspecified → Salmonella meningitis
39	1 サルモネラ胆のう炎	L	A022	DE29	=:1A09.Z/FA10.01	=:1A09.Z/FA10.01		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/786251500	1 =	=	1A09Y / DC12.Y	Infections due to other Salmonella in other organs / Other specified cholecystitis
40	1 サルモネラ胆嚢炎	S1	A022	DE29	=:1A09.Z/FA10.01	=:1A09.Z/FA10.01		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/786251500	1 =	=	1A09Y / DC12.Y	Infections due to other Salmonella in other organs / Other specified cholecystitis

No	ICD10 標準病名	代表・同義	ICD10 コード	交換コード	マッピング情報(旧)	マッピング情報2022	病名として現れ代では不適切	確信度	関係	ICD11 Foundation URI	確信度	関係	MMS	備考
41	1 サルモネラ骨髄炎	L	A022 GAD2		E: 1A09 Z/FA1 1A09/FA10 01上: 1A02&XN0 1A0Z OE	E: 1A09 Z/FA1 1A09/FA10 01上: 1A02&XN0 1A0Z OE		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1410885722	1 =	1A09 Y / FB84.Z	Salmonella osteomyelitis infections due to other Salmonella in other organs / Osteomyelitis or osteitis, unspecified	
42	1 サルモネラ肺炎	L	A022 RUJF		E: 1A09 Z/FA1 1A09/FA10 01上: 1A02&XN0 1A0Z OE	E: 1A09 Z/FA1 1A09/FA10 01上: 1A02&XN0 1A0Z OE		1 =		http://id.who.int/icd/entity/62253959Z	1 =	1A09 Y / CA40.0	Salmonella pneumonia infections due to other Salmonella in other organs / Bacterial pneumonia	
43	1 ネズミチチクス菌腹膜炎	L	A022 SKFH		E: 1A09 Z/FA1 1A09/FA10 01上: 1A02&XN0 1A0Z OE	E: 1A09 Z/FA1 1A09/FA10 01上: 1A02&XN0 1A0Z OE		1 =		http://id.who.int/icd/entity/515117475/ http://id.who.int/icd/entity/775356002	1 =	1A09 Y / DC50	1A09/DC50 (サルモネラチチクス菌/腹膜炎) (ネズミチチクス菌=サルモネラ菌の一種と判断)	
44	1 サルモネラ関節炎	L	A022 T5RU		E: 1A09 Z/FA1 1A09/FA10 01上: 1A02&XN0 1A0Z OE	E: 1A09 Z/FA1 1A09/FA10 01上: 1A02&XN0 1A0Z OE		1 =		http://id.who.int/icd/entity/113855390	1 =	1A09 Y / FA10.0	Salmonella arthritis infections due to other Salmonella in other organs / Bacterial infection of joint	
45	1 サルモネラ血管炎	L	A022 T6CL		E: 1A09 Z/FA1 1A09/FA10 01上: 1A02&XN0 1A0Z OE	E: 1A09 Z/FA1 1A09/FA10 01上: 1A02&XN0 1A0Z OE		1 =		http://id.who.int/icd/entity/515117475/ http://id.who.int/icd/entity/572581721	1 =	1A09 Y / 4A44.Z	Infections due to other Salmonella in other organs / Vasculitis, unspecified	
46	1 サルモネラ感染性腎盂腎炎	L	A022 V4F5		E: 1A09 Z/FA1 1A09/FA10 01上: 1A02&XN0 1A0Z OE	E: 1A09 Z/FA1 1A09/FA10 01上: 1A02&XN0 1A0Z OE		1 =		http://id.who.int/icd/entity/515117475/ http://id.who.int/icd/entity/151554551Z	1 =	1A09 Y / G854	1A09/G854 (感染症/泌尿器の疾患) (腎盂腎炎を特定するコードなし) 単なる感染症のコードではなく、サルモネラ菌による感染症のコード1A09を採った infections due to other Salmonella in other organs / Pyonephritis	
47	1 サルモネラ感染症	L	A029 H0BG		E: 1A09 Z/FA1 1A09/FA10 01上: 1A02&XN0 1A0Z OE	E: 1A09 Z/FA1 1A09/FA10 01上: 1A02&XN0 1A0Z OE		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1561949126	1 =	1A09 Y & XN0QE	Other specified bacterial intestinal infections Parent & Salmonellae infections due to other Salmonella in other organs / Localised distribution	
48	1 局所的サルモネラ感染症	S2	A029 H0BG		F: 1C41 F: 1C41	F: 1C41 F: 1C41		1 =		http://id.who.int/icd/entity/515117475/ http://id.who.int/icd/entity/108658876	1 =	1A09.Z & XK9A	Parent & Salmonellae infections due to other Salmonella in other organs / Localised distribution	
49	1 サルモネラ食中毒	L	A029 KFYA		F: 1C41 F: 1C41	F: 1C41 F: 1C41		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1520312138	1 =	1A09.0	salmonella food poisoning	
50	1 サルモネラ中毒	S2	A029 KFYA		F: 1C41 F: 1C41	F: 1C41 F: 1C41		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1520312138	1 =	1A09.0	salmonella poisoning	
51	1 志賀菌赤痢	L	A030 L4SG		E: 1A02 E: 1A02	E: 1A02 E: 1A02		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1181145033	1 <	1A02	shiga dysentery 1A02 Intestinal infections due to Shigella の同義語	
52	1 フレクサー菌赤痢	L	A031 CIUJ		E: 1A02 E: 1A02	E: 1A02 E: 1A02		1 =		http://id.who.int/icd/entity/590158429	1 <	1A02	Flexner dysentery 1A02 Intestinal infections due to Shigella の同義語	
53	1 ボイド菌赤痢	L	A032 V62A		E: 1A02 E: 1A02	E: 1A02 E: 1A02		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1468025508	1 <	1A02	Boyd dysentery 1A02 Intestinal infections due to Shigella の同義語	
54	1 ソンネ菌赤痢	L	A033 KTLJ		E: 1A02 E: 1A02	E: 1A02 E: 1A02		1 =		http://id.who.int/icd/entity/852199222	1 <	1A02	1A02 (ソンネ菌赤痢=Shigellosis due to Shigella sonnei) 1A02 Intestinal infections due to Shigella の同義語	
55	1 赤痢	L	A039 T1AQ		E: 1A02 E: 1A02	E: 1A02 E: 1A02		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1688127370	1 <	1A40	Gastroenteritis or colitis without specification of infectious agentの同義語	
56	1 細菌性赤痢	S1	A039 T1AQ		E: 1A02 E: 1A02	E: 1A02 E: 1A02		1 =		http://id.who.int/icd/entity/2080365623	1 <	1A02	shigellosis 1A02 Intestinal infections due to Shigella の同義語	
57	1 小児赤痢	S2	A039 T1AQ		E: 1A02 E: 1A02	E: 1A02 E: 1A02		1 <		http://id.who.int/icd/entity/1688127370	1 <	1A40	1A02 Intestinal infections due to Shigella の同義語 dysentery	
58	1 病原性大腸菌感染症	L	A040 AMKE		E: 1A03.0 E: 1A03.0	E: 1A03.0 E: 1A03.0		1 >		http://id.who.int/icd/entity/2099226249	1 =	1A03.0	1A03.0 (病原性大腸菌感染症=腸管病原性大腸菌感染症 ほぼ同義と判断)	
59	1 腸管病原性大腸菌感染症	S1	A040 AMKE		E: 1A03.0 E: 1A03.0	E: 1A03.0 E: 1A03.0		1 =		http://id.who.int/icd/entity/209922624	1 =	1A03.0	Enteropathogenic Escherichia coli infection	

No	ICD10 章	標準病名	代 表・ 同義	ICD10 コード	交換 コード	マッピング 情報 (旧)	マッピング 情報2022	病名と 代では 不適切	確 信 度	関 係	ICD11 Foundation URI	確 信 度	関 係	MMS	備 考
60	1	腸管毒素原性大腸菌感染症	L	A041	Q2A5	=:1A03.1	=:1A03.1		1 =		http://id.who.int/icd/enthy/408185629	1 =	1A03.1	1A03.1 (腸管毒素原性大腸菌感染症=Enterotoxigenic Escherichia coli infection)	
61	1	腸管組織侵襲性大腸菌感染症	L	A042	U31R	=:1A03.2	=:1A03.2		1 =		http://id.who.int/icd/enthy/18282723122	1 =	1A03.2	1A03.2 (腸管組織侵襲性大腸菌感染症=Enteroinvasive Escherichia coli infection) 単独にURIが関連していた	
62	1	腸管組織侵入性大腸菌感染症	S1	A042	U31R	=:1A03.2	=:1A03.2		1 =		http://id.who.int/icd/enthy/18282723122	1 =	1A03.2	Enteroinvasive Escherichia coli infection	
63	1	腸管出血性大腸菌感染症	L	A043	TL0A	=:1A03.3	=:1A03.3		1 =		http://id.who.int/icd/enthy/1292092042	1 =	1A03.3	Enterohaemorrhagic Escherichia coli infection	
64	1	大腸菌性腸炎	L	A044	E1N3	=:1A03.2	=:1A03.2		1 =		http://id.who.int/icd/enthy/1301112226	1 <	1A03.2	1A03.2 (大腸菌性腸炎=Escherichia coli enteritis)	
65	1	大腸菌食中毒	L	A044	R4K1	=:1A03.2	=:1A03.2		1 =		http://id.who.int/icd/enthy/1834648119 & http://id.who.int/icd/enthy/1301112226	1 =	1A1Z & XN6P4	1A03.2 (大腸菌食中毒は、大腸菌性腸炎に包含されると判断) → Bacterial foodborne intoxications, unspecified & Escherichia coli ばないか	
66	1	カンピロバクター腸炎	L	A045	LNM3	=:1A06	=:1A06		1 =		http://id.who.int/icd/enthy/521644150	1 =	1A06	1A06 (カンピロバクター腸炎=Campylobacter enteritis) → 胃腸炎の下位に腸炎があるのでそのURIとした	
67	1	キランピロバクター腸炎	S1	A045	LNM3	=:1A06	=:1A06		1 =		http://id.who.int/icd/enthy/521644150	1 =	1A06		
68	1	エルシニア腸炎	L	A046	BGN6	=:1A05	=:1A05		1 =		http://id.who.int/icd/enthy/180741433	1 =	1A05	1A05 (エルシニア腸炎=Yersinia enterocolitica)	
69	1	偽膜性腸炎	L	A047	KF15	=:1A04	=:1A04		1 =		http://id.who.int/icd/enthy/2114593305	1 <	1A04	1A04 (偽膜性腸炎は、偽膜性大腸炎=Pseudomembranous colitis とほぼ同義と判断)	
70	1	クロストリジウム・デイレイシル腸炎	L	A047	RGP4	=:1A04	=:1A04		1 =		http://id.who.int/icd/enthy/250688797	1 <	1A04		
71	1	クロストリジウム・デイレイシル関連性腸炎	S1	A047	RGP4	=:1A04	=:1A04		1 =		http://id.who.int/icd/enthy/250688797	1 =	1A04	Intestinal infections due to Clostridioides difficile	
72	1	クロストリジウム・デイレイシル関連下痢症	S1	A047	RGP4	=:1A04	=:1A04		1 =		http://id.who.int/icd/enthy/250688797	1 =	1A04	Clostridium difficile diarrhoea	
73	1	偽膜性大腸炎	L	A047	RSWV	=:1A04	=:1A04		1 =		http://id.who.int/icd/enthy/2114593305	1 <	1A04		
74	1	MRSA腸炎	L	A048	FPJH	=:1A0Z	=:1A0Z & XN9		1 =		http://id.who.int/icd/enthy/1681048785 & http://id.who.int/icd/enthy/1367265331	1 =	1A0Y & XN6M	1A0Y (MRSA腸炎=MRSA大腸炎と判断) colitis due to MRSA - [methicillin-resistant Staphylococcus aureus]	
75	1	MRSA腸炎	S0	A048	FPJH	=:1A0Z	=:1A0Z & XN9		1 =		http://id.who.int/icd/enthy/1681048785 & http://id.who.int/icd/enthy/1367265331	1 =	1A0Y & XN6M		
76	1	緑膿菌性腸炎	L	A048	H1K7	=:1A0Z	=:1A0Z & XN9		1 =		http://id.who.int/icd/enthy/36782675	1 =	1A0Y & XN5L6	1A0Y (緑膿菌性腸炎=Pseudomonas aeruginosa enteritis) XN5L6 Pseudomonas aeruginosa	
77	1	クレブシエラ腸炎	L	A048	Q7JU	=:1A0Z	=:1A0Z & XN9		1 =		http://id.who.int/icd/enthy/135352227 & http://id.who.int/icd/enthy/1889951404	1 =	1A0Z & XN620	1A0Z & XN620 Bacterial intestinal infections, unspecified & Klebsiella (細菌性腸管感染症&クレブシエラ)	
78	1	クロストリジウム・ウエリシユ腸炎	L	A048	VV9L	=:1A0Z	=:1A0Z & XN9		1 =		http://id.who.int/icd/enthy/135352227 & http://id.who.int/icd/enthy/789302389	1 =	1A0Z & XN7J5	1A0Z & XN7J5 (細菌性腸管感染症&クロストリジウム・ウエリシユ=Clostridium welchii)	
79	1	腸内細菌性脊椎炎	L	A049	DK25	=:1A0Z	=:1A0Z		1 =		http://id.who.int/icd/enthy/868468606	1 <	FA90.Z	enterobacterial spondylitis FA90.Z Infection of vertebra, unspecified	
80	1	細菌性腸炎	L	A049	GMM17	=:1A0Z	=:1A0Z		1 =		http://id.who.int/icd/enthy/135352227	1 <	1A0Z	1A0Z (細菌性腸炎=Bacterial enteritis)	
81	1	急性細菌性腸炎	S1	A049	GMM17	=:1A0Z	=:1A0Z		1 =		http://id.who.int/icd/enthy/135352227 & http://id.who.int/icd/enthy/786106375	1 =	1A0Z & XT5R	Bacterial enteritis & Acute	
82	1	伝染性細菌性腸炎	S2	A049	GMM17	=:1A0Z	=:1A0Z		1 =		http://id.who.int/icd/enthy/135352227	1 =	1A0Z	Bacterial intestinal infections	
83	1	細菌性大腸炎	L	A049	HTUT	=:1A0Z	=:1A0Z		1 <		http://id.who.int/icd/enthy/208056563	1 <	1A0Z	Bacillary colitis	
84	1	細菌性胃腸炎	L	A049	MO3B	=:1A0Z	=:1A0Z		1 =		http://id.who.int/icd/enthy/135352227	1 <	1A0Z	1A0Z (細菌性腸炎=Bacterial enteritis、胃腸炎=腸炎と判断) 1A0Z (細菌性下痢症=Bacterial diarrhoea) (細菌性腸炎の下、下痢症は、腸炎に含まれると判断)	
85	1	細菌性下痢症	L	A049	R4EL	=:1A0Z	=:1A0Z		1 <		http://id.who.int/icd/enthy/135352227	1 <	1A0Z		

No	ICD10 標準病名	代表・同義	ICD10 コード	交換コード	マッピング情報(旧)	マッピング情報2022	病名と代替では不適切	確信度	関係	ICD11 Foundation URI	確信度	関係	MMS	備考
86	1 細菌性下痢	S1	A049	R4E1	=:1A02	=:1A02		1 <		http://id.who.int/icd/enthy/13535222Z	1 <		1A0Z	
87	1 細菌性下痢(症)	S1	A049	R4E1	=:1A02	=:1A02		1 <		http://id.who.int/icd/enthy/13535222Z	1 <		1A0Z	1A0Z Bacterial intestinal infections, unspecified
88	1 ぶどう球菌食中毒	L	A050	NA56	=:1A10	=:1A10		1 =		http://id.who.int/icd/enthy/1642556956	1 =		1A10	1A10 (ぶどう球菌食中毒=Foodborne staphylococcal intoxication)
89	1 ブドウ球菌食中毒	S1	A050	NA56	=:1A10	=:1A10		1 =		http://id.who.int/icd/enthy/1642556956	1 =		1A10	staphylococcal food poisoning
90	1 ぶどう球菌性食中毒	S1	A050	NA56	=:1A10	=:1A10		1 =		http://id.who.int/icd/enthy/1642556956	1 =		1A10	
91	1 ブドウ球菌性食中毒	S1	A050	NA56	=:1A10	=:1A10		1 =		http://id.who.int/icd/enthy/1642556956	1 =		1A10	
92	1 乳児ポツリクス又症	L	A051	EKL	=:1A11Z	=:1A11Z		1 <		http://id.who.int/icd/enthy/2113104711	1 <		1A11.1	Infant intestinal botulism
93	1 乳児ポツリクス又症	S1	A051	EKL	=:1A11Z	=:1A11Z		1 =		http://id.who.int/icd/enthy/2113104711	1 =		1A11.1	Infant intestinal botulism
94	1 ポツリクス又中毒	L	A051	PKDP	=:1A11Z	=:1A11Z		1 =		http://id.who.int/icd/enthy/78422942	1 =		1A11.2	
95	1 ポツリクス又中毒	S1	A051	PKDP	=:1A11Z	=:1A11Z		1 =		http://id.who.int/icd/enthy/78422942	1 =		1A11.2	
96	1 ポツリクス又症	S1	A051	PKDP	=:1A11Z	=:1A11Z		1 =		http://id.who.int/icd/enthy/78422942	1 =		1A11.2	
97	1 ポツリクス又食中毒	S1	A051	PKDP	=:1A11Z	=:1A11Z		1 =		http://id.who.int/icd/enthy/78422942	1 =		1A11.2	
98	1 ウェルシュ菌食中毒	L	A052	LG15	=:1A12	=:1A12		1 =		http://id.who.int/icd/enthy/1879176095	1 =		1A12	foodborne Clostridium welchii intoxication
99	1 壊死性腸炎	L	A052	Q81F	=:1A12	=:1A12		1 =		http://id.who.int/icd/enthy/1688127370	1 =		1A40.Z	gangrenous enteritis は Gastroenteritis or colitis without specification of infectious agent の Synonyms
100	1 腸炎ピロリ才食中毒	L	A053	FQUT	=:1A01	=:1A12		1 =		http://id.who.int/icd/enthy/357187319	1 =		1A1Y & XN1AA	Other specified bacterial foodborne intoxications & Vibrio parahaemolyticus
101	1 腸炎ピロリ才感染症	L	A053	GMGQ	=:1A01	=:1A12		1 =		http://id.who.int/icd/enthy/59746265 & http://id.who.int/icd/enthy/1860930306	1 =		1A01&XN1AA	1A01 (腸炎ピロリ才感染症=Vibrio parahaemolyticus infection)
102	1 セリウス菌食中毒	L	A054	T98K	=:1A13	=:1A13		1 =		http://id.who.int/icd/enthy/1722068323	1 =		1A13	&N1AA Vibrio parahaemolyticus
103	1 セリウス食中毒	S1	A054	T98K	=:1A13	=:1A13		1 =		http://id.who.int/icd/enthy/1722068323	1 =		1A13	Foodborne Bacillus cereus intoxication
104	1 連鎖球菌食中毒	L	A058	E1VS	=:1A12	=:1A12		1 =		http://id.who.int/icd/enthy/1834648119 & http://id.who.int/icd/enthy/1997317917	1 =		1A1Y&XN3MA	
105	1 れんご球菌食中毒	S1	A058	E1VS	=:1A12	=:1A12		1 =		http://id.who.int/icd/enthy/1834648119 & http://id.who.int/icd/enthy/1997317917	1 =		1A1Y&XN3MA	Bacterial foodborne intoxications & Streptococcus
106	1 シンチ球菌食中毒	S1	A058	E1VS	=:1A12	=:1A12		1 =		http://id.who.int/icd/enthy/1834648119 & http://id.who.int/icd/enthy/1997317917	1 =		1A1Y&XN3MA	
107	1 エルシニア菌食中毒	L	A058	E4JE	=:1A12	=:1A12		1 =		http://id.who.int/icd/enthy/1834648119 & http://id.who.int/icd/enthy/1542213496	1 =		1A1Y&XN4QG	Bacterial foodborne intoxications & Yersinia
108	1 細菌性食中毒	L	A059	LE9M	=:1A12	=:1A12		1 =		http://id.who.int/icd/enthy/1834648119	1 =		1A1Z	Bacterial foodborne intoxications
109	1 急性アメーバ症	L	A060	AD9P	=:1A36.00	=:1A36.00		1 =		http://id.who.int/icd/enthy/1616956984	1 =		1A36.00	1A36.00 Acute amoebiasis
110	1 急性赤痢アメーバ症	S1	A060	AD9P	=:1A36.00	=:1A36.00		1 =		http://id.who.int/icd/enthy/1616956984	1 =		1A36.00	Acute amoebiasis のSynonym : dysentery due to Entamoeba histolytica
111	1 急性アメーバ赤痢	L	A060	CDDE	=:1A36.00	=:1A36.00		1 =		http://id.who.int/icd/enthy/1616956984	1 =		1A36.00	急性アメーバ赤痢の類義語 Acute amoebiasis
112	1 急性アメーバ腸炎	S1	A060	CDDE	=:1A36.00	=:1A36.00		1 =		http://id.who.int/icd/enthy/1616956984	1 =		1A36.00	
113	1 腸アメーバ症	L	A060	HOFN	=:1A36.00	=:1A36.00		1 =		http://id.who.int/icd/enthy/349019849	1 =		1A36.01	amoeba of intestine

標準病名のICD-11コーディング作業結果

～ 第2章 標準病名 ～ (5ページのみ抜粋)

No	ICD10 標準病名	代 表・ 同義	ICD10 コー ド	交換 コード	マッピング 情報(旧)	マッピング 情報2022	病名と して現 代では 不適切	確 信 度	関 係	ICD11 Foundation URI	確 信 度	確 信 度	関 係	MMS	備 考
3279	2 上唇赤唇部癌	L	C000	NE1H	下:2B60.Z	下:2B60.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/304997495	1 =	1 =	=	2B60.Y & XA7550	Malignant neoplasms of lip, unspecified(唇の悪性新生物、詳細不明)上唇赤唇部を追加。 foundationの同義語に、上唇赤唇部癌があるので、赤唇のURIの追記は不要
3280	2 上唇赤唇部がん	S1	C000	NE1H	下:2B60.Z	下:2B60.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/304997495	1 =	1 =	=	2B60.Z & XA7550	
3281	2 上唇赤唇部悪性腫瘍	S1	C000	NE1H	下:2B60.Z	下:2B60.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/304997495	1 =	1 =	=	2B60.Z & XA7550	
3282	2 下唇赤唇部癌	L	C001	RP6K	下:2B60.Z	下:2B60.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/304997495	1 =	1 =	=	2B60.Y & XA7H02	XA7H02 (&Vermilion of lower lip) (下唇の朱色) foundationの同義語に、下唇赤唇部癌があるので、赤唇のURIの追記は不要
3283	2 下唇赤唇部悪性腫瘍	S1	C001	RP6K	下:2B60.Z	下:2B60.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/304997495	1 =	1 =	=	2B60.Z & XA7H02	
3284	2 下唇赤唇部がん	S1	C001	RP6K	下:2B60.Z	下:2B60.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/304997495	1 =	1 =	=	2B60.Z & XA7H02	
3285	2 口唇赤唇部癌	L	C002	TPK4	下:2B60.Z	下:2B60.Z		1 ★	=	http://id.who.int/icd/entity/1258739502 http://id.who.int/icd/entity/1695934880 OR http://id.who.int/icd/entity/1258739502	1 ★	1 ★	=	2B60.Y & (XA7550 or XA7H02)	XA81D4 (&lip) (リッパ) 赤唇部は上・下に分かれ、口唇赤唇部のコードがないため、上位概念のリッパとする⇒ORを用いた表現に修正
3286	2 口唇赤唇部悪性腫瘍	S1	C002	TPK4	下:2B60.Z	下:2B60.Z		1 ★	=	http://id.who.int/icd/entity/1258739502 http://id.who.int/icd/entity/1695934880 OR http://id.who.int/icd/entity/1258739502	1 ★	1 ★	=	2B60.Z & (XA7550 or XA7H02)	★(XA7550 or XA7H02) 上唇の赤唇部 OR 下唇の赤唇部
3287	2 口唇赤唇部がん	S1	C002	TPK4	下:2B60.Z	下:2B60.Z		1 ★	=	http://id.who.int/icd/entity/1258739502 http://id.who.int/icd/entity/1695934880 OR http://id.who.int/icd/entity/1258739502	1 ★	1 ★	=	2B60.Z & (XA7550 or XA7H02)	
3288	2 上唇腺様嚢胞癌	L	C003	F1UG	下:2B60.Z	下:2B60.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/304997495 http://id.who.int/icd/entity/2127202862	1 =	1 =	=	2B60.Y & XA7VQ4 & XH4302	XA7VQ4 (&Upper lip) (上唇) XH4302 (&Adenoid cystic carcinoma) (腺様嚢胞癌) foundationの同義語に、上唇癌があるので、上唇のURIの追記は不要
3289	2 上唇腺様嚢胞がん	S1	C003	F1UG	下:2B60.Z	下:2B60.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/304997495 http://id.who.int/icd/entity/2127202862	1 =	1 =	=	2B60.Y & XA7VQ4 & XH4302	
3290	2 上唇腺様嚢胞癌	S1	C003	F1UG	下:2B60.Z	下:2B60.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/304997495 http://id.who.int/icd/entity/2127202862	1 =	1 =	=	2B60.Y & XA7VQ4 & XH4302	
3291	2 上唇腺様嚢胞がん	S1	C003	F1UG	下:2B60.Z	下:2B60.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/304997495 http://id.who.int/icd/entity/2127202862	1 =	1 =	=	2B60.Y & XA7VQ4 & XH4302	
3292	2 上唇腺房細胞癌	L	C003	S1GT	下:2B60.Z	下:2B60.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/304997495 http://id.who.int/icd/entity/1322159869	1 =	1 =	=	2B60.Y & XA7VQ4 & XH3P69	XA7VQ4 (&Upper lip) (上唇) XH3P69 (&Achnar cell carcinoma) (腺房細胞がん) foundationの同義語に、上唇癌があるので、上唇のURIの追記は不要
3293	2 上唇腺房細胞がん	S1	C003	S1GT	下:2B60.Z	下:2B60.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/304997495 http://id.who.int/icd/entity/1322159869	1 =	1 =	=	2B60.Y & XA7VQ4 & XH3P69	
3294	2 上唇粘表皮癌	L	C003	USD5	下:2B60.Z	下:2B60.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/304997495 http://id.who.int/icd/entity/287052516	1 =	1 =	=	2B60.Y & XA7VQ4 & XH1J36	XA7VQ4 (&Upper lip) (上唇) XH1J36 (&Mucoepidermoid carcinoma) (粘表皮癌) foundationの同義語に、上唇癌があるので、上唇のURIの追記は不要
3295	2 上唇粘表皮がん	S1	C003	USD5	下:2B60.Z	下:2B60.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/304997495 http://id.who.int/icd/entity/287052516	1 =	1 =	=	2B60.Y & XA7VQ4 & XH1J36	
3296	2 上唇癌	L	C003	V45N	下:2B60.Z	下:2B60.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/304997495	1 =	1 =	=	2B60.Z & XA7VQ4	XA7VQ4 (&Upper lip) (上唇) foundationの同義語に、上唇癌があるので、上唇のURIの追記は不要
3297	2 上唇内側面の悪性腫瘍	S1	C003	V45N	下:2B60.Z	下:2B60.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/304997495	1 =	1 =	=	2B60.Z & XA7VQ4	

No	ICD10 標準病名	代 表・ 同義	ICD10 コー ド	交換 コード	マツピング 情報(旧)	マツピング 情報2022	病名と して現 代では 不適切	確 信 度	関 係	ICD11 Foundation URI	確 信 度	関 係	MMS	備 考
3298	2 上唇がん		C003	V45N	下:2B60.Z	下:2B60.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/304997495	1 =	=	2B60.Z & XA7VQ4	【漢字の腫/ひらがなのがん問題】 同義語にmalignant neoplasm/cancer/tumorのいずれもある(同一とみなしている)
3299	2 下唇粘表皮癌		C004	FL8A	下:2B60.Z	下:2B60.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/304997495 & http://id.who.int/icd/entity/287052516	1 =	=	2B60.Y & XA15W6 & XH1J36	XA15W6 (&Lower lip)(下唇) XH1J36 (&Mucoepithelioid carcinoma)(粘表皮癌) →foundationの同義語に、下唇癌があるので、下唇のURIの追記は不要
3300	2 下唇粘表皮がん		C004	FL8A	下:2B60.Z	下:2B60.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/304997495 & http://id.who.int/icd/entity/287052516	1 =	=	2B60.Y & XA15W6 & XH1J36	XA15W6 (&Lower lip)(下唇) XH3PG9 (&Achtar cell carcinoma)(腺房細胞がん) →foundationの同義語に、下唇癌があるので、下唇のURIの追記は不要
3301	2 下唇腺房細胞癌		C004	H2QE	下:2B60.Z	下:2B60.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/304997495 & http://id.who.int/icd/entity/1322159869	1 =	=	2B60.Y & XA15W6 & XH 3PG9	XA15W6 (&Lower lip)(下唇) XH3PG9 (&Achtar cell carcinoma)(腺房細胞がん) →foundationの同義語に、下唇癌があるので、下唇のURIの追記は不要
3302	2 下唇腺房細胞がん		C004	H2QE	下:2B60.Z	下:2B60.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/304997495 & http://id.who.int/icd/entity/1322159869	1 =	=	2B60.Y & XA15W6 & XH 3PG9	XA15W6 (&Lower lip)(下唇)→foundationの同義語に、下唇癌があるので、下唇のURIの追記は不要
3303	2 下唇癌		C004	JBP7	下:2B60.Z	下:2B60.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/304997495	1 =	=	2B60.Z & XA15W6	XA15W6 (&Lower lip)(下唇) XA72W2 (inner aspect of lower lip) XA15W6 (&Lower lip)(下唇) XA72W2 (inner aspect of lower lip) XA15W6 (&Lower lip)(下唇) XA72W2 (inner aspect of lower lip) XA15W6 (&Lower lip)(下唇) XA72W2 (inner aspect of lower lip)
3304	2 下唇内側面の悪性腫瘍		C004	JBP7	下:2B60.Z	下:2B60.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/304997495	1 =	=	2B60.Z & XA15W6	XA15W6 (&Lower lip)(下唇) XA72W2 (inner aspect of lower lip) XA15W6 (&Lower lip)(下唇) XA72W2 (inner aspect of lower lip)
3305	2 下唇がん		C004	JBP7	下:2B60.Z	下:2B60.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/304997495	1 =	=	2B60.Z & XA15W6	XA15W6 (&Lower lip)(下唇) XA72W2 (inner aspect of lower lip) XA15W6 (&Lower lip)(下唇) XA72W2 (inner aspect of lower lip)
3306	2 下唇腺様の上胞癌		C004	TAL7	下:2B60.Z	下:2B60.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/304997495 & http://id.who.int/icd/entity/2127202862	1 =	=	2B60.Y & XA15W6 & XH4302	XA15W6 (&Lower lip)(下唇) XH4302 (&Adenoid cystic carcinoma)(腺様嚢胞癌) →foundationの同義語に、下唇癌があるので、下唇のURIの追記は不要
3307	2 下唇腺様嚢胞癌		C004	TAL7	下:2B60.Z	下:2B60.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/304997495 & http://id.who.int/icd/entity/2127202862	1 =	=	2B60.Y & XA15W6 & XH4302	XA15W6 (&Lower lip) & XH4302(Adenoid cystic carcinoma)
3308	2 下唇腺様の上胞がん		C004	TAL7	下:2B60.Z	下:2B60.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/304997495 & http://id.who.int/icd/entity/2127202862	1 =	=	2B60.Y & XA15W6 & XH4302	XA15W6 (&Lower lip) & XA15W6 & XH4302
3309	2 下唇腺様嚢胞がん		C004	TAL7	下:2B60.Z	下:2B60.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/304997495 & http://id.who.int/icd/entity/2127202862	1 =	=	2B60.Y & XA15W6 & XH4302	XA15W6 (&Lower lip) & XA15W6 & XH4302
3310	2 唇交連癌		C006	L96G	下:2B60.Z	下:2B60.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/304997495	1 =	=	2B60.Z & XA1EF8	XA1EF8 (&labial commissure)(唇交連)→foundationの同義語に、唇交連の癌があるので、「唇交連」のURIの追記は不要
3311	2 口角癌		C006	L96G	下:2B60.Z	下:2B60.Z		1 <	<	http://id.who.int/icd/entity/304997495	1 <	<	2B60.Z & XA1EF8	口角 (Angulus oris) が無いので、XA1EF8 (labial commissure) とはほぼ同義とみなした。関係性は、< とした
3312	2 唇交連がん		C006	L96G	下:2B60.Z	下:2B60.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/304997495	1 =	=	2B60.Z & XA1EF8	【漢字の腫/ひらがなのがん問題】 同義語にmalignant neoplasm/cancer/tumorのいずれもある(同一とみなしている)
3313	2 口角がん		C006	L96G	下:2B60.Z	下:2B60.Z		1 <	<	http://id.who.int/icd/entity/304997495	1 <	<	2B60.Z & XA1EF8	口角 (Angulus oris) が無いので、XA1EF8 (labial commissure) とはほぼ同義とみなした。関係性は、< とした
3314	2 唇交連の悪性腫瘍		C006	L96G	下:2B60.Z	下:2B60.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/304997495	1 =	=	2B60.Z & XA1EF8	
3315	2 口唇境界部癌		C008	MF0F	下:2B60.Z	下:2B60.Z 下:2B65.Z 下:2B60.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/304997495	1 =	=	2B60.Z & XA3K27	XA3K27 (&External lip)(外部リッ プ)(朱色の境界線唇の NOS)→Vermilion border of lip NOS

No	ICD10 標準病名	代 表・ ト 同義	ICD10 コー ド	交換 コー ド	マツペンダ 情報(旧)	マツペンダ 情報2022	病名と して現 代では 不適切	確 信 度	関 係	ICD11 Foundation URI	確 信 度	関 係	MMS	備 考
3316	2 口唇境界部がん		S1	C008	MFOF	下:2B62.Z 下:2B62.ZI		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/304997495	1 =	=	2B60.Z & XA3K27	XA3K27 (Vermilion border of lip NOS)
3317	2 口唇境界部悪性腫瘍		S1	C008	MFOF	下:2B60.Z 下:2B60.ZI 下:2B60.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/304997495	1 =	=	2B60.Z & XA3K27	
3318	2 口唇癌		L	C009	RQHB	下:2B60.Z 下:2B60.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/304997495	1 =	=	2B60.Z & XA81D4	XA81D4 (lip)
3319	2 口唇悪性新生物		S1	C009	RQHB	下:2B60.Z 下:2B60.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/304997495	1 =	=	2B60.Z & XA81D4	【漢字の癌/ひらがなのがん問題】 同義語にmalignant neoplasm/cancer/tumourのいずれもある(同一とみなしている)
3320	2 口唇がん		S1	C009	RQHB	下:2B60.Z 下:2B60.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/304997495	1 =	=	2B60.Z & XA81D4	【漢字の癌/ひらがなのがん問題】 同義語にmalignant neoplasm/cancer/tumourのいずれもある(同一とみなしている)
3321	2 口唇悪性腫瘍		S1	C009	RQHB	下:2B60.Z 下:2B60.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/304997495	1 =	=	2B60.Z & XA81D4	
3322	2 舌根部癌		L	C01	BFAF	=:2B61.Z =:2B61.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/2003184099	1 =	=	2B61.Z & XA25G3	XA25G3 (&Base of tongue)(舌の付け根)
3323	2 舌根部悪性腫瘍		S1	C01	BFAF	=:2B61.Z =:2B61.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/2003184099	1 =	=	2B61.Z & XA25G3	XA25G3 (Base of tongue)
3324	2 舌根部がん		S1	C01	BFAF	=:2B61.Z =:2B61.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/2003184099	1 =	=	2B61.Z & XA25G3	【漢字の癌/ひらがなのがん問題】 同義語にmalignant neoplasm/cancer/tumourのいずれもある(同一とみなしている)
3325	2 舌背癌		L	C020	GHV5	2B61.Z&XA0 HQ3 下: 2B62.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/579964392	1 =	=	2B61.Z & XA0H03	XA1V27 (&Dorsal surface of tongue)(舌の背面) マツペンダ情報と不一致→2022年のmapping 情報で修正されている。foundationの同義語に、(dorsal surface tongue cancer)(背面舌癌)があるので、「舌の背面」のURIの追記は不要
3326	2 舌背面の悪性腫瘍		S1	C020	GHV5	2B61.Z&XA0 HQ3 下: 2B62.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/579964392	1 =	=	2B61.Z & XA0H03	post-cordinationの指示により、XA0H03 (Dorsal surface of base of tongue)
3327	2 舌背がん		S1	C020	GHV5	2B61.Z&XA0 HQ3 下: 2B62.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/579964392	1 =	=	2B61.Z & XA0H03	post-cordinationの指示による。XA0H03 (Dorsal surface of base of tongue)
3328	2 舌の前3分の2の悪性腫瘍		S2	C020	GHV5	=: 2B61.Z&XA0 HQ3 下: 2B62.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/579964392	1 =	=	2B61.Z & XA0H03	malignant neoplasm of anterior two-thirds of tongue, dorsal surface(舌の前3分の2、背面の悪性新生物)
3329	2 舌縁癌		L	C021	EF5R	下:2B62.Z 下:2B62.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/63666460&http://id.who.int/icd/entity/445803026	1 =	=	2B62.Z & XA49C6	XA49C6 (&lateral margin of tongue)(舌の外側縁)
3330	2 舌縁がん		S1	C021	EF5R	下:2B62.Z 下:2B62.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/63666460&http://id.who.int/icd/entity/445803026	1 =	=	2B62.Z & XA49C6	【漢字の癌/ひらがなのがん問題】 同義語にmalignant neoplasm/cancer/tumourのいずれもある(同一とみなしている)
3331	2 舌縁の悪性腫瘍		S1	C021	EF5R	下:2B62.Z 下:2B62.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/63666460&http://id.who.int/icd/entity/445803026	1 =	=	2B62.Z & XA49C6	XA49C6 (lateral margin of tongue)
3332	2 舌尖癌		L	C021	K9BE	下:2B62.Z 下:2B62.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/63666460	1 =	=	2B62.Z & XA1WZ8	XA1WZ8 (&Tip of tongue) → foundationの同義語に、舌尖癌があるので、舌尖のURIの追記は不要
3333	2 舌尖がん		S1	C021	K9BE	下:2B62.Z 下:2B62.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/63666460	1 =	=	2B62.Z & XA1WZ8	【漢字の癌/ひらがなのがん問題】 同義語にneoplasm/cancer/tumourのいずれもある(同一とみなしている)
3334	2 舌尖悪性腫瘍		S1	C021	K9BE	下:2B62.Z 下:2B62.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/63666460	1 =	=	2B62.Z & XA1WZ8	XA1WZ8 (Tip of tongue)

No	ICD10 標準病名	代 表・ 同義 ト	ICD10 コー ド	交換 コード	マツペンダ 情報(旧)	マツペンダ 情報2022	病名と して現 代では 不適切	確 信 度	関 係	ICD11 Foundation URI	確 信 度	確 信 度	関 係	MMS	備 考
3335	2 舌下面癌		C022	F6UU	下:2B62.Z	下:2B62.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/359540510	1 =	1 =	=	2B64.Z	舌下面とは舌の裏側?→舌下面は、舌下としてとらえた sublingual cancer
3336	2 舌下面の悪性腫瘍		C022	F6UU	下:2B62.Z	下:2B62.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/359540510	1 =	1 =	=	2B64.Z	【漢字の癌/ひらがなのがん問題】 同義語にmalignant neoplasm/cancer/tumourのいずれもある(同一とみなしている)
3337	2 舌下面がん		C022	F6UU	下:2B62.Z	下:2B62.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/359540510	1 =	1 =	=	2B64.Z	【漢字の癌/ひらがなのがん問題】 同義語にneoplasm/cancer/tumourのいずれもある(同一とみなしている)
3338	2 舌脂肪肉腫		C029	G0H5	下:2B62.Z	下:2B62.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1991400753&http://id.who.int/icd/entity/1769856759	1 =	1 =	=	2B59.Y&XA11T19	XA11T19 (&tongue タン)
3339	2 舌癌		C029	JGK2	下:2B62.Z	下:2B62.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/63666460	1 =	1 =	=	2B62.Z & XA8Q87	Malignant neoplasms of other or unspecified parts of tongue(その他または特定できない舌の部分の悪性新生物) & XA8Q87 (Body of tongue)
3340	2 舌の悪性腫瘍		C029	JGK2	下:2B62.Z	下:2B62.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/63666460	1 =	1 =	=	2B62.Z & XA8Q87	【漢字の癌/ひらがなのがん問題】 同義語にneoplasm/cancer/tumourのいずれもある(同一とみなしている)
3341	2 舌がん		C029	JGK2	下:2B62.Z	下:2B62.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/63666460	1 =	1 =	=	2B62.Z & XA8Q87	【漢字の癌/ひらがなのがん問題】 同義語にneoplasm/cancer/tumourのいずれもある(同一とみなしている)
3342	2 上顎歯肉癌		C030	RT6M	下:2B63.Z	下:2B63.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1719710858	1 =	1 =	=	2B63.Z & XA6743	XA6743 (&Upper gingiva 上部歯肉)→foundationの同義語に、upper gum cancerがあるので、「上部歯肉」のURIの追記は不要
3343	2 上歯肉がん		C030	RT6M	下:2B63.Z	下:2B63.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1719710858	1 =	1 =	=	2B63.Z & XA6743	【漢字の癌/ひらがなのがん問題】 同義語にneoplasm/cancer/tumourのいずれもある(同一とみなしている)
3344	2 上歯肉癌		C030	RT6M	下:2B63.Z	下:2B63.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1719710858	1 =	1 =	=	2B63.Z & XA6743	【漢字の癌/ひらがなのがん問題】 同義語にneoplasm/cancer/tumourのいずれもある(同一とみなしている)
3345	2 上顎歯肉がん		C030	RT6M	下:2B63.Z	下:2B63.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1719710858	1 =	1 =	=	2B63.Z & XA6743	【漢字の癌/ひらがなのがん問題】 同義語にneoplasm/cancer/tumourのいずれもある(同一とみなしている)
3346	2 上顎歯肉の悪性腫瘍		C030	RT6M	下:2B63.Z	下:2B63.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1719710858	1 =	1 =	=	2B63.Z & XA6743	XA6743 (Upper gingiva)
3347	2 下顎歯肉癌		C031	FK6G	下:2B63.Z	下:2B63.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1719710858	1 =	1 =	=	2B63.Z & XA9303	XA9303 (&Lower gingiva 下歯肉)→foundationの同義語に、lower gum cancerがあるので、「下歯肉」のURIの追記は不要
3348	2 下顎歯肉がん		C031	FK6G	下:2B63.Z	下:2B63.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1719710858	1 =	1 =	=	2B63.Z & XA9303	【漢字の癌/ひらがなのがん問題】 同義語にneoplasm/cancer/tumourのいずれもある(同一とみなしている)
3349	2 下歯肉癌		C031	FK6G	下:2B63.Z	下:2B63.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1719710858	1 =	1 =	=	2B63.Z & XA9303	XA9303 (lower gingiva)
3350	2 下歯肉がん		C031	FK6G	下:2B63.Z	下:2B63.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1719710858	1 =	1 =	=	2B63.Z & XA9303	【漢字の癌/ひらがなのがん問題】 同義語にneoplasm/cancer/tumourのいずれもある(同一とみなしている)
3351	2 下顎歯肉の悪性腫瘍		C031	FK6G	下:2B63.Z	下:2B63.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1719710858	1 =	1 =	=	2B63.Z & XA9303	XA9303 (Mandibular gingiva)
3352	2 歯肉癌		C039	H01T	下:2B63.Z	下:2B63.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1719710858	1 =	1 =	=	2B63.Z & XA54T3	XA54T3 (Gingivae)
3353	2 歯肉悪性腫瘍		C039	H01T	下:2B63.Z	下:2B63.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1719710858	1 =	1 =	=	2B63.Z & XA54T3	XA54T3 (Gingivae)
3354	2 歯肉悪性新生物		C039	H01T	下:2B63.Z	下:2B63.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1719710858	1 =	1 =	=	2B63.Z & XA54T3	XA54T3 (Gingivae)
3355	2 歯肉がん		C039	H01T	下:2B63.Z	下:2B63.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1719710858	1 =	1 =	=	2B63.Z & XA54T3	【漢字の癌/ひらがなのがん問題】 同義語にneoplasm/cancer/tumourのいずれもある(同一とみなしている)

No	ICD10 標準病名	代 表・ 同義	ICD10 コード	交換 コード	マッピング 情報(旧)	マッピング 情報2022	病名と して現 代では 不適切	確 信 度	関 係	ICD11 Foundation URI	確 信 度	確 信 度	関 係	MMS	備 考
3356	2 正中型口底癌		C040	Q0NJ	下:2B64.Z	下:2B64.Z		1 <		http://id.who.int/icd/entity/359540510	1 <	1 <		2B64.Z & XA8EY7	XA8EY7 (& Floor of mouth)(口の床) 口の床に口の前床(正中型)を含む→foundationに「口底」のURIは不要 正中型は、表現できないので関係性は、<となる
3357	2 正中型口底癌		C040	Q0NJ	下:2B64.Z	下:2B64.Z		1 <		http://id.who.int/icd/entity/359540510	1 <	1 <		2B64.Z & XA8EY7	XA8EY7 (& Floor of mouth)(口の床) 口の床に口の前床(正中型)を含む→foundationに「口底」のURIは不要 正中型は、表現できないので関係性は、<となる
3358	2 正中型口底がん		C040	Q0NJ	下:2B64.Z	下:2B64.Z		1 <		http://id.who.int/icd/entity/359540510	1 <	1 <		2B64.Z & XA8EY7	正中型は表現できない。
3359	2 正中型口底がん		C040	Q0NJ	下:2B64.Z	下:2B64.Z		1 <		http://id.who.int/icd/entity/359540510	1 <	1 <		2B64.Z & XA8EY7	正中型は表現できない。 XA8EY7 (& Floor of mouth)(口の床) 口の床に口の横床(側方型)を含む →foundationに「口底」のURIは不要 側方型は、表現できないので関係性は、<となる
3360	2 側方型口底癌		C041	PNBJ	下:2B64.Z	下:2B64.Z		1 <		http://id.who.int/icd/entity/359540510	1 <	1 <		2B64.Z & XA8EY7	XA8EY7 (& Floor of mouth)(口の床) 口の床に口の横床(側方型)を含む →foundationに「口底」のURIは不要 側方型は、表現できないので関係性は、<となる
3361	2 側方型口底癌		C041	PNBJ	下:2B64.Z	下:2B64.Z		1 <		http://id.who.int/icd/entity/359540510	1 <	1 <		2B64.Z & XA8EY7	側方型は表現できない。 側方型は表現できない。
3362	2 側方型口底がん		C041	PNBJ	下:2B64.Z	下:2B64.Z		1 <		http://id.who.int/icd/entity/359540510	1 <	1 <		2B64.Z & XA8EY7	側方型は表現できない。
3363	2 側方型口底がん		C041	PNBJ	下:2B64.Z	下:2B64.Z		1 <		http://id.who.int/icd/entity/359540510	1 <	1 <		2B64.Z & XA8EY7	側方型は表現できない。
3364	2 口底癌		C049	V0LV	下:2B64.Z	下:2B64.Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/359540510	1 <	1 <		2B64.Z & XA8EY7	→MMSにpost-ordination XA8EY7 (口底) は必要
3365	2 口底癌		C049	V0LV	下:2B64.Z	下:2B64.Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/359540510	1 =	1 =		2B64.Z & XA8EY7	【漢字の癌/ひらがなのがん問題】 同義語にneoplasm/cancer/tumourのいずれもある(同一とみなしている)
3366	2 口底がん		C049	V0LV	下:2B64.Z	下:2B64.Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/359540510	1 =	1 =		2B64.Z & XA8EY7	→境界部は表現できない。
3367	2 口底境界部の悪性腫瘍		C049	V0LV	下:2B64.Z	下:2B64.Z		1 <		http://id.who.int/icd/entity/359540510	1 <	1 <		2B64.Z & XA8EY7	【漢字の癌/ひらがなのがん問題】 同義語にneoplasm/cancer/tumourのいずれもある(同一とみなしている)
3368	2 口底がん		C049	V0LV	下:2B64.Z	下:2B64.Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/359540510	1 =	1 =		2B64.Z & XA8EY7	【漢字の癌/ひらがなのがん問題】 同義語にneoplasm/cancer/tumourのいずれもある(同一とみなしている)
3369	2 口底悪性腫瘍		C049	V0LV	下:2B64.Z	下:2B64.Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/359540510	1 =	1 =		2B64.Z & XA8EY7	
3370	2 硬口蓋癌		C050	P6R8	下:2B65.Z	下:2B65.Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1881533064	1 =	1 =		2B65.Z & XA4527	XA4527 (& Hard palate)(硬口蓋)のURIは不要
3371	2 硬口蓋がん		C050	P6R8	下:2B65.Z	下:2B65.Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1881533064	1 =	1 =		2B65.Z & XA4527	【漢字の癌/ひらがなのがん問題】 同義語にneoplasm/cancer/tumourのいずれもある(同一とみなしている)
3372	2 硬口蓋の悪性腫瘍		C050	P6R8	下:2B65.Z	下:2B65.Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1881533064	1 =	1 =		2B65.Z & XA4527	XA4527 (& Hard palate)(硬口蓋)のURIは不要
3373	2 硬口蓋粘表皮癌		C050	S5Q9	下:2B65.Z	下:2B65.Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1881533064 & http://id.who.int/icd/entity/287052516	1 =	1 =		2B65.Y & XA4527 & XH1J36	XA4527 (& Hard palate)(硬口蓋)のURIは不要 XH1J36 (& Mucoepidermoid carcinoma)(粘表皮癌)→同義語に硬口蓋がんがあるので、foundationに「硬口蓋」のURIは不要
3374	2 硬口蓋粘表皮がん		C050	S5Q9	下:2B65.Z	下:2B65.Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1881533064 & http://id.who.int/icd/entity/287052516	1 =	1 =		2B65.Y & XA4527 & XH1J36	XA4527 (& Hard palate)(硬口蓋)のURIは不要 XH1J36 (& Mucoepidermoid carcinoma)(粘表皮癌)→同義語に硬口蓋がんがあるので、foundationに「硬口蓋」のURIは不要
3375	2 硬口蓋腺房細胞癌		C050	U3NS	下:2B65.Z	下:2B65.Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1881533064 & http://id.who.int/icd/entity/1322159869	1 =	1 =		2B65.Y & XA4527 & XH3PG9	XA4527 (& Hard palate)(硬口蓋)のURIは不要 XH3PG9 (& Adenoid cystic carcinoma)(腺房細胞がん)→同義語に硬口蓋がんがあるので、foundationに「硬口蓋」のURIは不要

No	ICD10 標準病名	代 表・ 同義	ICD10 コー ド	交換 コー ド	マップング 情報(旧)	マップング 情報2022	病名と して規 定では 不適切	確 信 度	関 係	ICD11 Foundation URI	確 信 度	関 係	MMS	備 考
10571	3 出血性貧血		D500	LU1T	=:3A00.0Z	=:3A00.0Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1942744561	1 =	<	3A00.0Z	3A00.0Z Acquired iron deficiency anaemia due to blood loss, unspecified 失血による鉄欠乏性貧血、未指定
10572	3 出血後貧血		D500	LU1T	=:3A00.0Z	=:3A00.0Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1942744561	1 =	=	3A00.0Z	3A00.0Z Acquired iron deficiency anaemia due to blood loss, unspecified
10573	3 俵群 プラムマー・ヴィンソン症候		D501	FE9U	=:3A00.2	=:3A00.2		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1568337509	1 <	<	3A00.Y	Plummer-Vinson syndrome
10574	3 俵群 プラムマー・ヴィンソン症候		D501	FE9U	=:3A00.2	=:3A00.2		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1568337509	1 <	<	3A00.Y	Plummer-Vinson syndrome
10575	3 パターソン・クリー症候群		D501	FE9U	=:3A00.2	=:3A00.2		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1568337509	1 <	<	3A00.Y	3A00.Y Other specified iron deficiency anaemia その他の鉄欠乏性貧血
10576	3 PLUMMER-VINSON症候群		D501	FE9U	=:3A00.2	=:3A00.2		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1568337509	1 <	<	3A00.Y	3A00.Y Other specified iron deficiency anaemia その他の鉄欠乏性貧血
10577	3 ケリー・パターソン症候群		D501	FE9U	=:3A00.2	=:3A00.2		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1568337509	1 <	<	3A00.Y	3A00.Y Other specified iron deficiency anaemia その他の鉄欠乏性貧血
10578	3 小球性低色素性貧血		D508	DV1N	F:3A00.Z	F:3A00.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1932238346	1 <	<	3A00.Y	Microcytic hypochromic anaemia
10579	3 小球性貧血		D508	G53D	F:3A00.Z	F:3A00.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1380406043	1 <	<	3A00.Y	Microcytic anaemia
10580	3 鉄欠乏性貧血		D509	A4P4	=:3A00.2	=:3A00.2		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1577750667	1 =	=	3A00.Z	3A00.Z Iron deficiency anaemia, unspecified 鉄欠乏性貧血、未指定
10581	3 鉄欠乏性貧血		D509	A4P4	=:3A00.2	=:3A00.2		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1577750667	1 =	=	3A00.Z	3A00.Z Iron deficiency anaemia, unspecified 鉄欠乏性貧血
10582	3 胃液欠乏性萎黄貧血		D509	A4P4	=:3A00.2	=:3A00.2		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1577750667	1 =	=	3A00.Z	3A00.Z Iron deficiency anaemia, unspecified (萎黄病=鉄欠乏貧血) 3A00.Z Iron deficiency anaemia, unspecified 鉄欠乏性貧血、未指定
10583	3 萎黄貧血		D509	A4P4	=:3A00.2	=:3A00.2		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1577750667	1 =	=	3A00.Z	3A00.Z Iron deficiency anaemia, unspecified (萎黄病=鉄欠乏貧血) 3A00.Z Iron deficiency anaemia, unspecified 鉄欠乏性貧血、未指定
10584	3 胃液欠乏性萎黄貧血		D509	A4P4	=:3A00.2	=:3A00.2		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1577750667	1 =	=	3A00.Z	3A00.Z Iron deficiency anaemia, unspecified 3A00.Y Other specified iron deficiency anaemia その他の鉄欠乏性貧血
10585	3 萎黄病		D509	A4P4	=:3A00.2	=:3A00.2		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1577750667	1 <	<	3A00.Y	3A00.Y Other specified iron deficiency anaemia
10586	3 低色素性貧血		D509	LM1P	=:3A00.Z	=:3A00.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/84542709	1 <	<	3A00.Y	Acquired iron deficiency anaemia 3A00.Y Other specified iron deficiency anaemia
10587	3 低色素性貧血		D509	LM1P	=:3A00.Z	=:3A00.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/84542709	1 <	<	3A00.Y	Acquired iron deficiency anaemia 3A00.Y Other specified iron deficiency anaemia
10588	3 悪性貧血		D510	CU56	上:3A01.3 上:3A01.Z	上:3A01.3 上:3A01.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1493613976	1 =	=	3A01.30	3A01.30 Pernicious anaemia / 悪性貧血はしばしばピタミン B12欠乏症と同義で使用される。しかしながら、悪性貧血とは特に内因子を喪失した自己免疫性胃炎により起るピタミン B12欠乏症を指す。 http://id.who.int/icd/entity/1514924129 Acquired vitamin B12 deficiency anaemia の同義語で Addison anaemia があるがどこにあるべき同義語でいいのか疑問である Addison anaemia = pernicious anaemia (MeSH) なのでこれを選んだ
10589	3 アジソン・ビールメル貧血		D510	CU56	上:3A01.3 上:3A01.Z	上:3A01.3 上:3A01.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1493613976	1 =	=	3A01.30	Biemer-Addison disease
10590	3 ADDISON BIEMER貧血		D510	CU56	上:3A01.3 上:3A01.Z	上:3A01.3 上:3A01.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1493613976	1 =	=	3A01.30	Biemer-Addison disease

No	ICD10 標準病名	代 表・ 同義	ICD10 コー ド	交換 コー ド	マッピング 情報 (旧)	マッピング 情報2022	病名と して現 代では 不適切	確 信 度	関 係	ICD11 Foundation URI	確 信 度	関 係	MMS	備 考
10591	3 アジソン病		S1	CU56	上:3A01.3 上:3A01.Z	上:3A01.3 上:3A01.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1493613976	1 =	3A01.30	3A01.30 Pernicious anaemia / 悪性貧血はしばしばビタミンB12欠乏症と同義で使用される。しかしながら、悪性貧血とは特に内因子を喪失した自己免疫性胃炎により起るビタミンB12欠乏症を指す。 http://id.who.int/icd/entity/1614924129 Acquired vitamin B12 deficiency anaemia の同義語でAddison anaemiaがあるがここにあるべき同義語ではないのか疑問である Addison anaemia = pernicious anaemia (MeSH) なのだからこれを選んだ	
10592	3 ハンター舌炎		L	H7U9	上:3A01.3 上:3A01.Z	上:3A01.3 上:3A01.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/889434421	1 =	DA03.2	DA03.2 Atrophy of tongue papillae と同義語 MMSはHunter glossitis 乳頭の萎縮 Hunter glossitisを選んだ	
10593	3 HUNTER舌炎		S1	H7U9	上:3A01.3 上:3A01.Z	上:3A01.3 上:3A01.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/889434421	1 =	DA03.2	Atrophy of tongue papillae と同義語 MMSはHunter glossitis と同義となっていたのでDA03.2 Atrophy of tongue papillae 舌乳頭の萎縮 Hunter glossitisを選んだ	
10594	3 先天性悪性貧血		L	VPUB	上:3A01.3 上:3A01.Z	上:3A01.3 上:3A01.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1528646449	1 <	3A01.Y	Vitamin B12 deficiency anaemia due to congenital intrinsic factor deficiency と同義 3A01.Y Other specified megaloblastic anaemia due to vitamin B12 deficiency ベトナムB12欠乏症によるその他の特定性巨芽球性貧血	
10595	3 先天性内因子欠乏症		S1	VPUB	上:3A01.3 上:3A01.Z	上:3A01.3 上:3A01.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1463520192	1 =	3A01.0	Hereditary Vitamin B12 deficiency anaemia と同義 3A01.0 Hereditary Vitamin B12 deficiency anaemia	
10596	3 先天性内因子欠乏症		S1	VPUB	上:3A01.3 上:3A01.Z	上:3A01.3 上:3A01.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1463520192	1 =	3A01.0	Hereditary Vitamin B12 deficiency anaemia と同義 3A01.0 Hereditary Vitamin B12 deficiency anaemia	
10597	3 イマーヌルンド・グレスベック症候群		L	UKFT	上:3A01.Z	上:3A01.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/375969525	1 <	3A01.Y	3A01.Y Other specified megaloblastic anaemia due to vitamin B12 deficiency	
10598	3 IMERSLUND-GRASBECK症候群		S1	UKFT	上:3A01.Z	上:3A01.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/375969525	1 <	3A01.Y	3A01.Y Other specified megaloblastic anaemia due to vitamin B12 deficiency	
10599	3 IMERSLUND症候群		S1	UKFT	上:3A01.Z	上:3A01.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/375969525	1 <	3A01.Y	3A01.Y Other specified megaloblastic anaemia due to vitamin B12 deficiency	
10600	3 遺伝性巨赤芽球性貧血		L	VF95	上:3A01.Z	上:3A01.Z		1 ★	=	http://id.who.int/icd/entity/1312508751 OR http://id.who.int/icd/entity/1463520192	1 ★	3A02.0 or 3A01.0	遺伝性巨赤芽球性貧血にはビタミンB12欠乏のほか葉酸欠乏性も含まれるのでこれを選んだ	
10601	3 トランスコバラミンII欠乏症		L	D512	上:3A01.0	上:3A01.0		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/892302875	1 <	3A01.0	transcobalamin II deficiency	
10602	3 トランスコバラミンII欠乏症		S0	R6QT	上:3A01.0	上:3A01.0		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/892302875	1 <	3A01.0	transcobalamin II deficiency	
10603	3 トランスコバラミンII欠乏症		S1	R6QT	上:3A01.0	上:3A01.0		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/892302875	1 <	3A01.0	transcobalamin II deficiency	
10604	3 葉食主義者貧血		L	D513	上:3A01.2	上:3A01.2		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/654588844	1 <	3A01.2	3A01.2 Vitamin B12 deficiency	
10605	3 クローン病によるビタミンB12欠乏性貧血		L	D518	上:3A01.Z 上:3A01.0	上:3A01.Z 上:3A01.0		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1470734867 http://id.who.int/icd/entity/1267652425	1 =	3A01.4/ DD70.Z	Vitamin B12 deficiency anaemia due to intestinal disease / Crohn disease	
10606	3 クローン病によるビタミンB12欠乏性貧血		S0	D6FU	上:3A01.Z 上:3A01.0	上:3A01.Z 上:3A01.0		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1470734867 http://id.who.int/icd/entity/1267652425	1 =	3A01.4/ DD70.Z	Vitamin B12 deficiency anaemia due to intestinal disease / Crohn disease	
10607	3 クローン病によるビタミンB12欠乏性貧血		S1	D6FU	上:3A01.0	上:3A01.0		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1470734867 http://id.who.int/icd/entity/1267652425	1 =	3A01.4/ DD70.Z	Vitamin B12 deficiency anaemia due to intestinal disease / Crohn disease	
10608	3 Crohn病によるビタミンB12欠乏性貧血		S1	D518	上:3A01.Z 上:3A01.0	上:3A01.Z 上:3A01.0		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1267652425	1 =	3A01.4/ DD70.Z	Vitamin B12 deficiency anaemia due to intestinal disease / Crohn disease	
10609	3 小腸切除によるビタミンB12欠乏性貧血		L	D518	上:3A01.Z 上:3A01.0	上:3A01.Z 上:3A01.0		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1470734867	1 <	3A01.4	Vitamin B12 deficiency anaemia due to intestinal disease & 小腸→今井リコ小姐：小腸抜いてくどする。→修正しました。	

No	ICD10 標準病名	代 表・ 同義	ICD10 コー ド	交換 コー ド	ソッピンズ 情報 (旧)	ソッピンズ 情報2022	病名と して現 代では 不適切	確 信 度	関 係	ICD11 Foundation URI	確 信 度	関 係	MMS	備 考
10610	3 小腸切除によるピタミンB12 欠乏性貧血	S0	D518	HHRF	上:3A01.Z1 上:3A01.0	上:3A01.Z1 上:3A01.0		1 =	<	http://id.who.int/icd/entity/1470734867	1 <	<	3A01.4	
10611	3 小腸切除によるピタミンB12 欠乏性貧血	S1	D518	HHRF	上:3A01.Z1 上:3A01.0	上:3A01.Z1 上:3A01.0		1 =	<	http://id.who.int/icd/entity/1470734867	1 <	<	3A01.4	胃の切除による巨赤芽球性貧血はピタミンB12欠乏と葉酸欠乏があるのでこれを選んだ 巨赤芽球性貧血はその他にもあるようなら複数にまたがるので 機械的にやるなら3A03.Y
10612	3 胃切除後巨赤芽球性貧血	L	D518	L84L	上:3A01.Z1 上:3A01.0	上:3A01.Z1 上:3A01.0		1 ★	<	http://id.who.int/icd/entity/623613402 OR http://id.who.int/icd/entity/918183131	1 ★	<	3A01 OR 3A02.Z	
10613	3 胃切除後悪性貧血	S2	D518	L84L	上:3A01.Z1 上:3A01.0	上:3A01.Z1 上:3A01.0		1 <	<	http://id.who.int/icd/entity/1965715576	1 <	<	3A01.3Y	3A01.3Y Other specified vitamin B12 deficiency anaemia due to intrinsic factor deficiency
10614	3 胃全摘後巨赤芽球性貧血	S2	D518	L84L	上:3A01.Z1 上:3A01.0	上:3A01.Z1 上:3A01.0		1 ★	<	http://id.who.int/icd/entity/918183131 OR http://id.who.int/icd/entity/1526938195	1 ★	<	3A01 OR 3A02.Z	3A01.3Y Other specified vitamin B12 deficiency anaemia due to intrinsic factor deficiency
10615	3 胃切除後ピタミンB12欠乏性巨赤芽球性貧血	S2	D518	L84L	上:3A01.Z1 上:3A01.0	上:3A01.Z1 上:3A01.0		1 <	<	http://id.who.int/icd/entity/1965715576	1 <	<	3A01.3Y	3A01.3Y Other specified vitamin B12 deficiency anaemia due to intrinsic factor deficiency
10616	3 胃切除後ピタミンB12欠乏性巨赤芽球性貧血	S2	D518	L84L	上:3A01.Z1 上:3A01.0	上:3A01.Z1 上:3A01.0		1 <	<	http://id.who.int/icd/entity/1965715576	1 <	<	3A01.3Y	3A01.3Y Other specified vitamin B12 deficiency anaemia due to intrinsic factor deficiency
10617	3 吸収不良症候群によるピタミンB12欠乏性貧血	L	D518	RR8P	上:3A01.Z1 上:3A01.0	上:3A01.Z1 上:3A01.0		1 =	<	http://id.who.int/icd/entity/1470734867	1 =	<	3A01.4/DA96.0Z	Vitamin B12 deficiency anaemia due to intestinal disease / Intestinal malabsorption, unspecified
10618	3 吸収不良症候群によるピタミンB12欠乏性貧血	S0	D518	RR8P	上:3A01.Z1 上:3A01.0	上:3A01.Z1 上:3A01.0		1 =	<	http://id.who.int/icd/entity/1526938195	1 =	<	3A01.4/DA96.0Z	Vitamin B12 deficiency anaemia due to intestinal disease / Intestinal malabsorption, unspecified
10619	3 吸収不良症候群によるピタミンB12欠乏性貧血	S1	D518	RR8P	上:3A01.Z1 上:3A01.0	上:3A01.Z1 上:3A01.0		1 =	<	http://id.who.int/icd/entity/1526938195	1 =	<	3A01.4/DA96.0Z	Vitamin B12 deficiency anaemia due to intestinal disease / Intestinal malabsorption, unspecified
10620	3 ピタミンB12欠乏性貧血	L	D519	U00T	上:3A01.Z 上:3A01.2	上:3A01.Z 上:3A01.2		1 =	<	http://id.who.int/icd/entity/1614924129	1 <	<	3A01.Y	Acquired vitamin B12 deficiency anaemia
10621	3 ピタミンB12欠乏性貧血	S0	D519	U00T	上:3A01.Z 上:3A01.2	上:3A01.Z 上:3A01.2		1 =	<	http://id.who.int/icd/entity/1614924129	1 <	<	3A01.Y	vitamin b 12 deficiency anaemia
10622	3 ピタミンB12欠乏性貧血	S1	D519	U00T	上:3A01.Z 上:3A01.2	上:3A01.Z 上:3A01.2		1 =	<	http://id.who.int/icd/entity/1614924129	1 <	<	3A01.Y	vitamin b 12 deficiency anaemia
10623	3 食事性葉酸欠乏性貧血	L	D520	KLKU	上:3A02.1 上:3A02.1	上:3A02.1 上:3A02.1		1 =	<	http://id.who.int/icd/entity/625888080	1 =	<	3A02.1	3A02.1 Folate deficiency anaemia due to low intake
10624	3 食事性葉酸欠乏性貧血	S1	D520	KLKU	上:3A02.1 上:3A02.1	上:3A02.1 上:3A02.1		1 =	<	http://id.who.int/icd/entity/625888080	1 =	<	3A02.1	3A02.1 Folate deficiency anaemia due to low intake
10625	3 栄養性巨赤芽球性貧血	L	D520	LKNH	上:3A02.1 上:3A02.1	上:3A02.1 上:3A02.1		1 =	<	http://id.who.int/icd/entity/993393172	1 <	<	3A02.1	3A02.1 Folate deficiency anaemia due to low intake
10626	3 栄養性大赤血球性貧血	S2	D520	LKNH	上:3A02.1 上:3A02.1	上:3A02.1 上:3A02.1		1 =	<	http://id.who.int/icd/entity/993393172	1 <	<	3A02.1	3A02.1 Folate deficiency anaemia due to low intake
10627	3 薬剤性葉酸欠乏性貧血	L	D521	HAGB	上:3A02.4 上:3A02.4	上:3A02.4 上:3A02.4		1 =	<	http://id.who.int/icd/entity/1074104026	1 =	<	3A02.4	Drug-induced folate deficiency anaemia
10628	3 薬剤性葉酸欠乏性貧血	S1	D521	HAGB	上:3A02.4 上:3A02.4	上:3A02.4 上:3A02.4		1 =	<	http://id.who.int/icd/entity/1074104026	1 =	<	3A02.4	Drug-induced folate deficiency anaemia
10629	3 溶血性貧血に伴う葉酸欠乏症	L	D528	SLOP	上:3A02.01 上:3A02.2 上:3A02.Z	上:3A02.01 上:3A02.2 上:3A02.Z		1 =	<	http://id.who.int/icd/entity/1737161311	1 <	<	3A02.2	Drug-induced folate deficiency anaemia http://id.who.int/icd/entity/2065122896/ http://id.who.int/icd/entity/162762794/ / Foundationは巨赤芽球性貧血の獲得
10630	3 溶血性貧血に伴う葉酸欠乏症	S1	D528	SLOP	上:3A02.01 上:3A02.2 上:3A02.Z	上:3A02.01 上:3A02.2 上:3A02.Z		1 =	<	http://id.who.int/icd/entity/1737161311	1 <	<	3A02.2	3A02.2 Folate deficiency anaemia due to increased requirements
10631	3 先天性葉酸吸収不全	L	D528	TAU7	上:3A02.01 上:3A02.2 上:3A02.Z	上:3A02.01 上:3A02.2 上:3A02.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1131250875.1	1 =	=	3A02.0	Hereditary folate deficiency anaemia

No	ICD10 章	標準病名	代 表・ 同義	ICD10 コード	交換 コード	マッピング 情報(旧)	マッピング 情報2022	病名と して現 代では 不適切	確 信 度	関 係	ICD11 Foundation URI	確 信 度	関 係	MMS	備 考
10632	3	先天性葉酸吸収不全症	S1	D528	TAU7	上:3A02.0 上:3A02.2 上:3A02.Z	上:3A02.0 上:3A02.2 上:3A02.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1312508751	1 =	=	3A02.0	Hereditary folate deficiency anaemia
10633	3	葉酸欠乏性貧血	L	D529	DD13	=:3A02.Z	=:3A02.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/918183131	1 =	=	3A02	3A02 Folate deficiency anaemia
10634	3	葉酸欠乏性貧血	S1	D529	DD13	=:3A02.Z	=:3A02.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/918183131	1 =	=	3A02	3A02 Folate deficiency anaemia
10635	3	高色素性貧血	L	D529	M2AE	=:3A02.Z	=:3A02.Z		1 ★	=	http://id.who.int/icd/entity/623613402 OR http://id.who.int/icd/entity/918183131	1 ★	=	3A01.Z or 3A04	Folate deficiency anaemia, unspecified 欠乏症による巨赤芽球性貧血も高色素性貧血に入ると思われるのでFoundationは OR http://id.who.int/icd/entity/523613402 MMSは & 3A01.Z になるのでは。機械的にやるならば、3A03.Y Folate deficiency anaemia, unspecified / 吉野ピタミンB12 欠乏症による巨赤芽球性貧血も大球性貧血に入ると思われ るのFoundationは & http://id.who.int/icd/entity/623613402 MMSは & 3A01.Z になるのでは。複数の箇所にまたがっている。左に書いた もの以外にもあるかも。機械的にやるならば、3A03.Y
10636	3	大球性貧血	L	D529	PLGT	=:3A02.Z	=:3A02.Z		1 ★	=	http://id.who.int/icd/entity/623613402 OR http://id.who.int/icd/entity/918183131	1 ★	=	3A01.Z or 3A04	複数の箇所にまたがっている。左に書いたもの以外にもあるかも。機械的にやるならば、3A03.Y
10637	3	大赤血球性貧血	S1	D529	PLGT	=:3A02.Z	=:3A02.Z		1 ★	=	http://id.who.int/icd/entity/623613402 OR http://id.who.int/icd/entity/918183131	1 ★	=	3A01.Z or 3A04	複数の箇所にまたがっている。左に書いたもの以外にもあるかも。機械的にやるならば、3A03.Y
10638	3	大球性高色素性貧血	S2	D529	PLGT	=:3A02.Z	=:3A02.Z		1 ★	=	http://id.who.int/icd/entity/918183131	1 ★	=	3A01.Z or 3A04	複数の箇所にまたがっている。左に書いたもの以外にもあるかも。機械的にやるならば、3A03.Y
10639	3	フミノ酸欠乏性貧血	L	D530	BA9N	上:3A03.1 上:3A03.0	=:3A03.1		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/261912453	1 =	=	3A03.1	3A03.1 Protein deficiency anaemia タンパク質欠乏性貧血
10640	3	フミノ酸欠乏性貧血	S1	D530	BA9N	上:3A03.1 上:3A03.0	=:3A03.1		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/261912453	1 =	=	3A03.1	3A03.1 Protein deficiency anaemia タンパク質欠乏性貧血
10641	3	オロチン酸尿性貧血	L	D530	ROGL	上:3A03.1 上:3A03.0	=:3A03.1		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/449856959	1 =	=	3A03.0	Hereditary orotic aciduria
10642	3	蛋白欠乏性貧血	L	D530	VGCP	上:3A03.1 上:3A03.0	=:3A03.1		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/261912453	1 =	=	3A03.1	Protein deficiency anaemia
10643	3	低蛋白性貧血	S1	D530	VGCP	上:3A03.1 上:3A03.0	=:3A03.1		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/261912453	1 =	=	3A03.1	Protein deficiency anaemia
10644	3	蛋白欠乏性貧血	S1	D530	VGCP	上:3A03.1 上:3A03.0	=:3A03.1		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/261912453	1 =	=	3A03.1	Protein deficiency anaemia
10645	3	巨赤芽球性貧血	L	D531	BM77	下:3A03	下:3A03		1 ★	=	http://id.who.int/icd/entity/623613402 OR http://id.who.int/icd/entity/918183131	1 ★	=	3A01.Z or 3A02.Z	巨赤芽球性貧血はその他にもあるようなら複数のまたがるので 機械的にやるなら3A03.Y
10646	3	症候性巨赤芽球性貧血	L	D531	LK66	下:3A03	下:3A03		1 ★	=	http://id.who.int/icd/entity/623613402 OR http://id.who.int/icd/entity/918183131	1 ★	=	3A01.Z or 3A02.Z	Other and unspecified nutritional or metabolic anaemia http://id.who.int/icd/entity/31556424 → 巨赤芽球性貧血 はその他にもあるようなら複数のまたがるので 機械的に やるなら3A03.Y
10647	3	壞血病性貧血	L	D532	QNGS	=:3A03.2	=:3A03.2		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/676339366	1 =	=	3A03.2	3A03.2 Scurbutic anaemia

No	ICD10 標準病名	代 表・ 同義	ICD10 コー ド	交換 コー ド	マップ ピン グ 情報 (旧)	マップ ピン グ 情報 2022	病名と して規 定では 不適切	確 信 度	関 係	ICD11 Foundation URI	確 信 度	関 係	MMS	備 考
10648	3 亜鉛欠乏性貧血	L	D538	KKG	下:3A03 上: 3A03.40 上: 3A03.40 上: 3A03.31 上: 3A03.42 上: 3A03.42 上: 3A03.51 上: 3A03.41 上: 3A03.41 上: 3A03.6	下:3A03 上: 3A03.40 上: 3A03.40 上: 3A03.31 上: 3A03.42 上: 3A03.42 上: 3A03.51 上: 3A03.41 上: 3A03.41 上: 3A03.6		1 <	http://id.who.int/icd/entity/31556424/ http://id.who.int/icd/entity/5077021772/	1 <	<	3A03.Y /585K.2	Other and unspecified nutritional or metabolic anaemia / Zinc deficiency	
10649	3 銅欠乏性貧血	L	D538	S73F	下:3A03 上: 3A03.40 上: 3A03.40 上: 3A03.31 上: 3A03.42 上: 3A03.51 上: 3A03.41 上: 3A03.41 上: 3A03.6	下:3A03 上: 3A03.40 上: 3A03.40 上: 3A03.31 上: 3A03.42 上: 3A03.51 上: 3A03.41 上: 3A03.41 上: 3A03.6		1 =	http://id.who.int/icd/entity/1207626305/	1 =	=	3A03.3	3A03.3 Copper deficiency anaemia	
10650	3 銅欠乏性貧血	S1	D538	S73F	下:3A03 上: 3A03.40 上: 3A03.40 上: 3A03.31 上: 3A03.42 上: 3A03.51 上: 3A03.41 上: 3A03.41 上: 3A03.6	下:3A03 上: 3A03.40 上: 3A03.40 上: 3A03.31 上: 3A03.42 上: 3A03.51 上: 3A03.41 上: 3A03.41 上: 3A03.6		1 <	http://id.who.int/icd/entity/31556424/ http://id.who.int/icd/entity/1207626305/	1 <	<	3A03 / 3A03.3	3A03 Other nutritional or metabolic anaemias 3A03.3 Copper deficiency anaemia	
10651	3 微量元素欠乏性貧血	L	D538	UD14	下:3A03 上: 3A03.40 上: 3A03.40 上: 3A03.31 上: 3A03.42 上: 3A03.51 上: 3A03.41 上: 3A03.41 上: 3A03.6	下:3A03 上: 3A03.40 上: 3A03.40 上: 3A03.31 上: 3A03.42 上: 3A03.51 上: 3A03.41 上: 3A03.41 上: 3A03.6		1 <	http://id.who.int/icd/entity/31556424/	1 <	<	3A03.Y	Other and unspecified nutritional or metabolic anaemia	
10653	3 慢性貧血	L	D539	E61N	下:3A03 上: 3A03.40 上: 3A03.40 上: 3A03.31 上: 3A03.42 上: 3A03.51 上: 3A03.41 上: 3A03.41 上: 3A03.6	下:3A03 上: 3A03.40 上: 3A03.40 上: 3A03.31 上: 3A03.42 上: 3A03.51 上: 3A03.41 上: 3A03.41 上: 3A03.6		1 =	http://id.who.int/icd/entity/833635149/	1 <	<	3A03.Y	Chronic simple anaemia	
10654	3 単純性慢性貧血	S2	D539	E61N	下:3A03	下:3A03		1 =	http://id.who.int/icd/entity/833635149/	1 <	<	3A03.Y	Chronic simple anaemia	
10655	3 小児食事性貧血	L	D539	GHK8	下:3A03	下:3A03		1 <	http://id.who.int/icd/entity/31556424/	1 <	<	3A03.Y	Other and unspecified nutritional or metabolic anaemia	
10656	3 ビタミン欠乏性貧血	L	D539	P0LQ	下:3A03	下:3A03		1 =	http://id.who.int/icd/entity/963670118/ http://id.who.int/icd/entity/1927722434/	1 =	=	3A03.Y / 5B7Y	Other and unspecified nutritional or metabolic anaemia http://id.who.int/icd/entity/31556424/ → ビタミン欠乏症を加えた	

No	ICD10 標準病名	代 表・ 表・ 同義	ICD10 コード	交換 コード	旧 ICD10 コード	新 ICD11 コード	病名とし て現 代で は不適切	確 信 度	関 係	ICD11 Foundation URI	確 信 度	関 係	MMS	備 考
11804	4 神経型先天性ヨード欠乏症候群	L	E000	M20F	=:5A00.04	=:5A00.04		1 =	=	http://id.who.int/icd/entiv/209316576	1 <	<	5A00.04	Congenital iodine-deficiency syndrome, neurological type
11805	4 神経型先天性ヨード欠乏症候群	S1	E000	M20F	=:5A00.04	=:5A00.04		1 =	=	http://id.who.int/icd/entiv/209316576	1 <	<	5A00.04	
11806	4 神経型地方病性クシチン病	S2	E000	M20F	=:5A00.04	=:5A00.04		1 =	=	http://id.who.int/icd/entiv/209316576	1 <	<	5A00.04	
11807	4 粘液水腫型先天性ヨード欠乏症	L	E001	SBMR	=:5A00.04	=:5A00.04		1 =	=	http://id.who.int/icd/entiv/1764894538	1 <	<	5A00.04	Congenital iodine-deficiency syndrome, myxoedematous type
11808	4 粘液水腫型先天性ヨード欠乏症候群	S1	E001	SBMR	=:5A00.04	=:5A00.04		1 =	=	http://id.who.int/icd/entiv/1764894538	1 <	<	5A00.04	
11809	4 粘液水腫型地方病性クシチン病	S2	E001	SBMR	=:5A00.04	=:5A00.04		1 =	=	http://id.who.int/icd/entiv/1764894538	1 <	<	5A00.04	
11810	4 混合型先天性ヨード欠乏症候群	L	E002	N3MK	=:5A00.04	=:5A00.04		1 =	=	http://id.who.int/icd/entiv/496990133	1 <	<	5A00.04	Congenital iodine-deficiency syndrome, mixed type
11811	4 混合型先天性ヨード欠乏症候群	S1	E002	N3MK	=:5A00.04	=:5A00.04		1 =	=	http://id.who.int/icd/entiv/496990133	1 <	<	5A00.04	
11812	4 混合型地方病性クシチン病	S2	E002	N3MK	=:5A00.04	=:5A00.04		1 =	=	http://id.who.int/icd/entiv/496990133	1 <	<	5A00.04	
11813	4 クシチン病	L	E009	B1MU	=:5A00.04	=:5A00.04		1 =	=	http://id.who.int/icd/entiv/900488632	1 =	=	5A00.04	Congenital hypothyroidism due to iodine deficiency E00.9 先天性ヨード欠乏症候群、詳細不明の下位分類として、20051691 クシチン病、20070357 地方病性クシチン病の病名が使われています。どうやらそのため、わが国の代表的な辞書(広辞苑、大辞林、日本語大辞典など)にはすべて「クシチン症」ではなく「クシチン病」として記載されているようです。 クシチン症も正式には、「先天性甲状腺機能低下症」
11814	4 クシチン症	S1	E009	B1MU	=:5A00.04	=:5A00.04		1 =	=	http://id.who.int/icd/entiv/900488632	1 =	=	5A00.04	
11815	4 先天性ヨード欠乏症候群	L	E009	CCS8	=:5A00.04	=:5A00.04		1 =	=	http://id.who.int/icd/entiv/900488632	1 =	=	5A00.04	
11816	4 先天性ヨード欠乏症候群	S1	E009	CCS8	=:5A00.04	=:5A00.04		1 =	=	http://id.who.int/icd/entiv/900488632	1 =	=	5A00.04	
11817	4 先天性ヨード欠乏性甲状腺機能低下症	S2	E009	CCS8	=:5A00.04	=:5A00.04		1 =	=	http://id.who.int/icd/entiv/900488632	1 =	=	5A00.04	
11818	4 先天性ヨード欠乏性甲状腺機能低下症	S2	E009	CCS8	=:5A00.04	=:5A00.04		1 =	=	http://id.who.int/icd/entiv/900488632	1 =	=	5A00.04	
11819	4 地方病性クシチン病	L	E009	L1IE	=:5A00.04	=:5A00.04		1 =	=	http://id.who.int/icd/entiv/1764894538	1 =	=	5A00.04	hypothyroid endemic cretinism Congenital iodine-deficiency syndrome, myxoedematous typeのSynonym
11820	4 地方病性甲状腺腫	L	E012	LG07	=:5A00.12	=:5A00.12		1 =	=	http://id.who.int/icd/entiv/276898399	1 =	=	5A00.10	hypothyroid endemic cretinism → iodine-deficiency-related diffuse endemic goitre
11821	4 脱ヨード化障害	L	E018	GGQL	=:5A00.12	=:5A00.12		1 <	<	http://id.who.int/icd/entiv/1357352994	1 <	<	5A00.12	iodine-deficiency-related thyroid disorders or allied conditions, unspecified (ヨウ素欠乏症に関連する甲状腺障害または関連症候、詳細不明)
11822	4 ヨード欠乏性甲状腺機能低下症	L	E018	QT66	=:5A00.12	=:5A00.12		1 <	<	http://id.who.int/icd/entiv/1357352994	1 <	<	5A00.12	iodine-deficiency-related thyroid disorders or allied conditions → iodine-deficiency-related thyroid disorders or allied conditions, unspecified
11823	4 ヨード欠乏性甲状腺機能低下症	S1	E018	QT66	=:5A00.12	=:5A00.12		1 <	<	http://id.who.int/icd/entiv/1357352994	1 <	<	5A00.12	
11824	4 ヨード欠乏性甲状腺機能低下症	S2	E018	QT66	=:5A00.12	=:5A00.12		1 <	<	http://id.who.int/icd/entiv/1357352994	1 <	<	5A00.12	
11825	4 ひまん性先天性甲状腺腫	L	E030	DOVC	=:5A00.00	=:5A00.00		1 =	=	http://id.who.int/icd/entiv/234769120	1 =	=	5A00.00	congenital diffuse goitre
11826	4 甲状腺無形成	L	E031	CTGP	=:5A00.01	=:5A00.01		1 =	=	http://id.who.int/icd/entiv/1090587977	1 =	=	5A00.22	athyroidism : Acquired hypothyroidismのSynonym
11827	4 先天性甲状腺欠損	S1	E031	CTGP	=:5A00.01	=:5A00.01		1 =	=	http://id.who.int/icd/entiv/508421438	1 <	<	5A00.01	congenital absence of thyroid : Thyroid agenesisのSynonym
11828	4 甲状腺欠損・先天性	S1	E031	CTGP	=:5A00.01 =:5A00.02 =:5A00.03 =:5A00.04 =:5A61.41	=:5A00.01		1 =	=	http://id.who.int/icd/entiv/508421438	1 <	<	5A00.01	

No	ICD10 標準病名	代 表・ 同義	ICD10 コード	交換 コード	旧バージョン が	新バージョン が2022	病名とし て現代で は不適切	確 信 度	関 係	ICD11 Foundation URI	確 信 度	関 係	MMS	備 考
11829	4 無甲状腺症		E031	CTGP	上:5A00.01 上:5A00.03 上:5A00.02 上:5A61.41	=:5A00.01		1 =		http://id.who.int/icd/entitv/1090587977	1 =		5A00.22	athyroidism : Acquired hypothyroidismのSynonym
11830	4 先天性甲状腺萎縮		E031	J25A	上:5A00.01 上:5A00.03 上:5A00.02 上:5A61.41	=:5A00.01		1 =		http://id.who.int/icd/entitv/17562727158	1 =		5A00.01	Congenital atrophy of thyroid : Permanent congenital hypothyroidism without gottreのSynonym
11831	4 先天性甲状腺機能低下症		E031	N1J4	上:5A00.01 上:5A00.03 上:5A00.02 上:5A61.41	=:5A00.01		1 =		http://id.who.int/icd/entitv/602450215	1 =		5A00.02	Congenital hypothyroidism
11832	4 先天性甲状腺機能低下(症)		E031	N1J4	上:5A00.01 上:5A00.03 上:5A00.02 上:5A61.41	=:5A00.01		1 =		http://id.who.int/icd/entitv/602450215	1 =		5A00.02	
11833	4 先天性甲状腺機能低下		E031	N1J4	上:5A00.01 上:5A00.03 上:5A00.02 上:5A61.41	=:5A00.01		1 =		http://id.who.int/icd/entitv/602450215	1 =		5A00.02	
11834	4 放射線甲状腺機能低下症		E032	J1HC	=:5A00.20	=:5A00.20		1 <		http://id.who.int/icd/entitv/471390091	1 =		5A00.20 / P10Z & XE60C	(試験または他の外因性物質による甲状腺機能低下症/治療用途における傷害または危害に関連する物質、詳細不明放射線暴露)
11835	4 放射線甲状腺機能低下症		E032	J1HC	=:5A00.20	=:5A00.20		1 <		http://id.who.int/icd/entitv/471390091	1 =		5A00.20 / P10Z & XE60C	Hypothyroidism due to medications or other exogenous substances
11836	4 薬剤性甲状腺機能低下症		E032	T1PR	=:5A00.20	=:5A00.20		1 =		http://id.who.int/icd/entitv/471390091	1 =		5A00.20	
11837	4 感染後甲状腺機能低下症		E033	Q83D	下:5A00.22	下:5A00.22		1 <		http://id.who.int/icd/entitv/1090587977	1 <		5A00.22	5A00.2Y Other specified acquired hypothyroidism → Acquired hypothyroidism, unspecified
11838	4 後天性甲状腺萎縮		E034	D1NS	下:5A0Z	下:5A0Z		1 =		http://id.who.int/icd/entitv/1827568994	1 <		5A00.Y	Atrophy of thyroid < (甲状腺機能低下症、詳細不明:)
11839	4 甲状腺萎縮		E034	D1NS	下:5A0Z	下:5A0Z		1 =		http://id.who.int/icd/entitv/1827568994	1 <		5A00.Z	Atrophy of thyroid < (甲状腺機能低下症、詳細不明:)
11840	4 甲状腺切除性悪液質		E034	ERKS	下:5A0Z	下:5A0Z		1 <		http://id.who.int/icd/entitv/1907280211	1 <		5A00.Z	甲状腺機能低下症、詳細不明)
11841	4 粘液水腫性昏睡		E035	NSC6	=:5A00.21	=:5A00.21		1 =		http://id.who.int/icd/entitv/1878410271	1 =		5A00.21	myxoedematous coma : Myxoedema comaのaSynonym
11842	4 発熱性甲状腺機能低下症		E038	B3RC	下:5A00.Z	下:5A00.Z		1 =		http://id.who.int/icd/entitv/1919411043	1 <		5A61.40	Acquired central hypothyroidism (発熱性を後天性と読んだ)
11843	4 発熱性粘液水腫		E038	B3RC	下:5A00.Z	下:5A00.Z		1 =		http://id.who.int/icd/entitv/1919411043	1 <		5A61.40	Acquired central hypothyroidism due to pituitary disorders
11844	4 下垂体性甲状腺機能低下症		E038	KDK8	下:5A00.Z	下:5A00.Z		1 =		http://id.who.int/icd/entitv/758484435	1 <		5A61.40	Acquired central hypothyroidism (二次性を後天性と読んだ)
11845	4 二次性甲状腺機能低下症		E038	KDK8	下:5A00.Z	下:5A00.Z		1 =		http://id.who.int/icd/entitv/1919411043	1 <		5A61.40	Acquired central hypothyroidism (二次性を後天性と読んだ) 別の原因によって生じた疾患に関連した病気や障害、症状を言い続発性または二次性疾患
11846	4 一過性甲状腺機能低下症		E038	M1G5	下:5A00.Z	下:5A00.Z		1 =		http://id.who.int/icd/entitv/592246939	1 =		5A00.03	Transient congenital hypothyroidism
11847	4 視床下部性甲状腺機能低下症		E038	TCPH	下:5A00.Z	下:5A00.Z		1 <		http://id.who.int/icd/entitv/1750740082	1 <		5A61.40	Acquired central hypothyroidism due to hypothalamic disorders
11848	4 三次性甲状腺機能低下症		E038	TCPH	下:5A00.Z	下:5A00.Z		1 =		http://id.who.int/icd/entitv/106831911	1 <		5A51.Y	Tertiary hyperparathyroidism
11849	4 甲状腺機能低下に伴う貧血		E039	AAVK	=:5A00.Z	=:5A00.Z		1 <		http://id.who.int/icd/entitv/1090587977	1 <		5A00.2Z	5A00.2Z (後天性甲状腺機能低下症、詳細不明)
11850	4 低T3症候群		E039	BN1J	=:5A00.Z	=:5A00.Z		1 =		http://id.who.int/icd/entitv/99843478	1 =		5A06	5A06 (甲状腺機能正常症候群: Low-T3 syndrome) : Sick-euthyroid syndromeのSynonym
11851	4 低T3症候群		E039	BN1J	=:5A00.Z	=:5A00.Z		1 =		http://id.who.int/icd/entitv/99843478	1 =		5A06	ESS - [euthyroid sick syndrome] : Sick-euthyroid syndromeのSynonym
11852	4 若年性甲状腺機能低下症		E039	F3CU	=:5A00.Z	=:5A00.Z		1 <		http://id.who.int/icd/entitv/1722092622	1 <		5A00.Z	Hypothyroidism, unspecified
11853	4 原発性甲状腺機能低下症		E039	J0E	=:5A00.Z	=:5A00.Z		1 =		http://id.who.int/icd/entitv/1090587977	1 =		5A00.2Z	athyroidosis : Acquired hypothyroidismのSynonym

No	ICD10 標準病名	代 表・ 同義	ICD10 コード	交換 コード	旧ソッピン タグ	新ソッピン タグ2022	病名とし て現代で は不適切	確 信 度	関 係	ICD11 Foundation URI	確 信 度	関 係	MMS	備 考
11854	4 特発性甲状腺機能低下症		E039	J02E	=:5A00.Z	=:5A00.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/10990587977	1 =	=	5A00.2Z	
11855	4 ホルモン症候群		E039	SROS	=:5A00.Z	=:5A00.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/567222004	1 =	<	5A00.2Y	Hoffmann syndrome
11856	4 甲状腺性ミオパチー		E039	SROS	=:5A00.Z	=:5A00.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1070616198	1 =	<	5A00.2Y	
11857	4 HOFFMANN症候群		E039	SROS	=:5A00.Z	=:5A00.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/567222004	1 =	<	5A00.2Y	
11858	4 粘液水腫性ミオパチー		E039	SROS	=:5A00.Z	=:5A00.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1246726171	1 =	<	5A00.2Y	
11859	4 甲状腺機能低下症ミオパチー		E039	SROS	=:5A00.Z	=:5A00.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1070616198	1 =	<	5A00.2Y	
11860	4 粘液水腫性ミオパチー		E039	SROS	=:5A00.Z	=:5A00.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1246726171	1 =	<	5A00.2Y	Myxoedema myopathy
11861	4 甲状腺機能低下症ミオパチー		E039	SROS	=:5A00.Z	=:5A00.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1070616198	1 =	<	5A00.2Y	
11862	4 甲状腺性ミオパチー		E039	SROS	=:5A00.Z	=:5A00.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1070616198	1 =	<	5A00.2Y	
11863	4 甲状腺機能低下症ミオパチー		E039	SROS	=:5A00.Z	=:5A00.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1070616198	1 =	<	5A00.2Y	hypothyroid myopathy
11864	4 粘液水腫		E039	T3Q8	=:5A00.Z	=:5A00.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/10990587977	1 =	=	5A00.2Z	myxoedema : Acquired hypothyroidismのSynonym
11865	4 甲状腺機能低下症		E039	VA89	=:5A00.Z	=:5A00.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1722092627	1 =	=	5A00.Z	athyroidosis: Acquired hypothyroidismのSynonym
11866	4 甲状腺機能低下症		E039	VA89	=:5A00.Z	=:5A00.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1722092627	1 =	=	5A00.Z	
11867	4 甲状腺機能不全(症)		E039	VA89	=:5A00.Z	=:5A00.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1722092627	1 =	=	5A00.Z	
11868	4 甲状腺機能不全(症)		E039	VA89	=:5A00.Z	=:5A00.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1722092627	1 =	=	5A00.Z	
11869	4 後天性甲状腺機能低下症(症)		E039	VA89	=:5A00.Z	=:5A00.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/999187106	1 =	<	5A00.2Y	
11870	4 後天性甲状腺機能低下症		E039	VA89	=:5A00.Z	=:5A00.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/999187106	1 =	<	5A00.2Y	
11871	4 後天性甲状腺機能低下症		E039	VA89	=:5A00.Z	=:5A00.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/999187106	1 =	<	5A00.2Y	Primary acquired hypothyroidism
11872	4 後天性甲状腺機能低下症の認知症		E039	VA89	=:5A00.Z	=:5A00.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/999187106	1 =	<	5A00.2Y	
11873	4 後天性甲状腺機能低下症の痴呆		E039	VA89	=:5A00.Z	=:5A00.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/987674172	1 =	<	6B85.Y	Dementia due to acquired hypothyroidism
11874	4 甲状腺機能不全症		E039	VA89	=:5A00.Z	=:5A00.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/10990587977	1 =	=	5A00.2Z	thyroid gland insufficiency : Acquired hypothyroidismのSynonym
11875	4 甲状腺機能不全		E039	VA89	=:5A00.Z	=:5A00.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/10990587977	1 =	=	5A00.2Z	thyroid deficiency : Acquired hypothyroidismのSynonym
11876	4 単純性結節性甲状腺腫		E040	FDP	=:5A01.0	=:5A01.0		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/914832290	1 =	=	5A01.0	5A01.0 simple goitre
11877	4 単純性甲状腺腫		E040	Q690	=:5A01.0	=:5A01.0		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/185382638	1 =	=	5A01.0	simple goitre : Nontoxic diffuse goitreのSynonym
11878	4 非中毒性びまん性甲状腺腫		E040	QNER	=:5A01.0	=:5A01.0		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/185382638	1 =	=	5A01.0	nontoxic colloid goitre : Nontoxic diffuse goitreのSynonym
11879	4 甲状腺のう胞		E041	GSQR	=:5A01.1	=:5A01.1		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1405941300	1 =	=	5A01.1	cyst of the thyroid gland : Nontoxic single thyroid noduleのSynonym
11880	4 囊腫性甲状腺腫		E041	GSQR	=:5A01.1	=:5A01.1		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1405941300	1 =	=	5A01.1	
11881	4 囊腫性甲状腺		E041	GSQR	=:5A01.1	=:5A01.1		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1405941300	1 =	=	5A01.1	
11882	4 のう胞性甲状腺		E041	GSQR	=:5A01.1	=:5A01.1		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1405941300	1 =	=	5A01.1	
11883	4 甲状腺嚢腫		E041	GSQR	=:5A01.1	=:5A01.1		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1405941300	1 =	=	5A01.1	
11884	4 甲状腺嚢胞		E041	GSQR	=:5A01.1	=:5A01.1		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1405941300	1 =	=	5A01.1	cyst of the thyroid gland : Nontoxic single thyroid noduleのSynonym
11885	4 甲状腺のう胞		E041	GSQR	=:5A01.1	=:5A01.1		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1405941300	1 =	=	5A01.1	
11886	4 嚢胞性甲状腺腫		E041	GSQR	=:5A01.1	=:5A01.1		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/660711115	1 =	=	5A01.2	cystic goitre : Nontoxic multinodular goitreのSynonym
11887	4 のう腫性甲状腺腫		E041	GSQR	=:5A01.1	=:5A01.1		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/660711115	1 =	=	5A01.2	
11888	4 のう胞性甲状腺腫		E041	GSQR	=:5A01.1	=:5A01.1		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/660711115	1 =	=	5A01.2	
11889	4 非中毒性単結節性甲状腺腫		E041	T857	=:5A01.1	=:5A01.1		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1405941300	1 =	=	5A01.1	nontoxic uninodular goitre : Nontoxic single thyroid noduleのSynonym
11890	4 非中毒性単発性甲状腺結節		E041	T857	=:5A01.1	=:5A01.1		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1405941300	1 =	=	5A01.1	nontoxic thyroid nodule : Nontoxic single thyroid noduleのSynonym
11891	4 多結節性甲状腺腫		E042	F574	=:5A01.2	=:5A01.2		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/660711115	1 =	=	5A01.2	multiple thyroid nodules: Nontoxic multinodular goitreのSynonym
11892	4 多発性結節性甲状腺腫		E042	F574	=:5A01.2	=:5A01.2		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/660711115	1 =	=	5A01.2	
11893	4 非中毒性多結節性甲状腺腫		E042	F24	=:5A01.2	=:5A01.2		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/660711115	1 =	=	5A01.2	non-toxic multinodular goitre : Nontoxic multinodular goitreのSynonym
11894	4 多発性甲状腺のう胞		E042	LATR	=:5A01.2	=:5A01.2		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/660711115	1 =	=	5A01.2	5A01.2 Nontoxic multinodular goitre
11895	4 多発性甲状腺嚢胞		E042	LATR	=:5A01.2	=:5A01.2		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/660711115	1 =	=	5A01.2	

No	ICD10 標準病名	代 表・ 同義	ICD10 コード	交換 コード	旧ワッピン グラフ	新ワッピン グラフ2022	病名とし て現代で は不適切	確信 度	関係	ICD11 Foundation URI	確信 度	関係	MMS	備考
11896	4 多発性のう胞性甲状腺腫	S1	E042	L4TR	=:5A01.2	=:5A01.2		1 =	=	http://id.who.int/icd/entitv/660711115	1 =	=	5A01.2	
11897	4 多発性嚢胞性甲状腺腫	S1	E042	L4TR	=:5A01.2	=:5A01.2		1 =	=	http://id.who.int/icd/entitv/660711115	1 =	=	5A01.2	
11898	4 結節性非中毒性甲状腺腫	L	E049	D7AL	=:5A01.2	=:5A01.2		1 =	=	http://id.who.int/icd/entitv/854564573	1 =	=	5A01.2	nontoxic nodular goitre : Nontoxic goitreのSynonym
11899	4 腺腫様甲状腺腫	L	E049	GVVK	=:5A01.2	=:5A01.2		1 =	=	http://id.who.int/icd/entitv/854564573	1 =	=	5A01.2	Adenomatous goitre : Nontoxic goitreのSynonym
11900	4 結節性甲状腺腫	L	E049	H17D	=:5A01.2	=:5A01.2		1 =	=	http://id.who.int/icd/entitv/1405941300	1 =	=	5A01.1	struma nodosa (in part) : Nontoxic single thyroid noduleのSynonym
11901	4 甲状腺結節	S1	E049	H17D	=:5A01.2	=:5A01.2		1 =	=	http://id.who.int/icd/entitv/1405941300	1 =	=	5A01.1	thyroid nodule : Nontoxic single thyroid noduleのSynonym
11902	4 舌根部甲状腺腫	L	E049	HB84	=:5A01.2	=:5A01.2		1 =	=	http://id.who.int/icd/entitv/854564573	1 =	=	5A01.1 &XA25G3	5A01.2 &XA25G3 (struma of thyroid&舌根)
11903	4 非中毒性甲状腺腫	L	E049	JU5	=:5A01.2	=:5A01.2		1 =	=	http://id.who.int/icd/entitv/1405941300	1 =	=	5A01.1	euthyroid goitre : Nontoxic single thyroid noduleのSynonym
11904	4 縦隔甲状腺腫	L	E049	K2U2	=:5A01.2	=:5A01.2		1 =	=	http://id.who.int/icd/entitv/854564573	1 =	=	5A01.2	substernal goitre : Nontoxic goitreのSynonym
11905	4 甲状腺過形成	L	E049	K888	=:5A01.2	=:5A01.2		1 =	=	http://id.who.int/icd/entitv/854564573	1 =	=	5A01.2	
11906	4 異所性甲状腺腫	L	E049	LV4	=:5A01.2	=:5A01.2		1 =	=	http://id.who.int/icd/entitv/458251984	1 =	<	5A00.01	Thyroid ectopia
11907	4 ひまん性甲状腺腫	L	E049	QBC7	=:5A01.2	=:5A01.2		1 =	=	http://id.who.int/icd/entitv/914832290	1 =	=	5A01.0	diffuse goitre : Nontoxic diffuse goitreのSynonym
11908	4 甲状腺腫大	L	E049	S277	=:5A01.2	=:5A01.2		1 =	=	http://id.who.int/icd/entitv/854564573	1 =	=	5A01.2	goitre struma : Nontoxic goitreのSynonym
11909	4 甲状腺腫大	S1	E049	S277	=:5A01.2	=:5A01.2		1 =	=	http://id.who.int/icd/entitv/854564573	1 =	=	5A01.2	thyromegaly : Nontoxic goitreのSynonym
11910	4 甲状腺腫大	S1	E049	S277	=:5A01.2	=:5A01.2		1 =	=	http://id.who.int/icd/entitv/854564573	1 =	=	5A01.2	
11911	4 甲状腺腫大	S2	E049	S277	=:5A01.2	=:5A01.2		1 =	=	http://id.who.int/icd/entitv/854564573	1 =	=	5A01.2	
11912	4 悪寒期甲状腺腫	L	E049	UHJ	=:5A01.2	=:5A01.2		1 <	=	http://id.who.int/icd/entitv/854564573	1 <	=	5A01.2	5A01.2
11913	4 中毒性甲状腺腫	L	E050	CPN	=:5A02.0	=:5A02.0		1 =	=	http://id.who.int/icd/entitv/713028385	1 =	=	5A02.0	toxic goitre: Thyrototoxicosis with diffuse goitreのSynonym
11914	4 甲状腺腫	L	E050	LDTP	=:5A02.0	=:5A02.0		1 <	=	http://id.who.int/icd/entitv/713028385	1 <	=	5A02.0	5A02.0 Basedow disease
11915	4 BASEDOW病術後再発	S1	E050	MD2	=:5A02.0	=:5A02.0		1 =	=	http://id.who.int/icd/entitv/713028385	1 =	=	5A02.0	5A02.0 Thyrototoxicosis with diffuse goitre
11916	4 ひまん性中毒性甲状腺腫	L	E050	MD2	=:5A02.0	=:5A02.0		1 =	=	http://id.who.int/icd/entitv/713028385	1 =	=	5A02.0	Basedow disease
11917	4 甲状腺腫	L	E050	PPA7	=:5A02.0	=:5A02.0		1 =	=	http://id.who.int/icd/entitv/713028385	1 =	=	5A02.0	Graves disease : Thyrototoxicosis with diffuse goitreのSynonym
11918	4 グレーブス病	L	E050	PPA7	=:5A02.0	=:5A02.0		1 =	=	http://id.who.int/icd/entitv/713028385	1 =	=	5A02.0	
11919	4 GRAMES病	S1	E050	PPA7	=:5A02.0	=:5A02.0		1 =	=	http://id.who.int/icd/entitv/713028385	1 =	=	5A02.0	Graves disease : Thyrototoxicosis with diffuse goitreのSynonym
11920	4 甲状腺腫	S1	E050	PPA7	=:5A02.0	=:5A02.0		1 =	=	http://id.who.int/icd/entitv/713028385	1 =	=	5A02.0	
11921	4 BASEDOW病	S1	E050	PPA7	=:5A02.0	=:5A02.0		1 =	=	http://id.who.int/icd/entitv/713028385	1 =	=	5A02.0	
11922	4 眼球突出性甲状腺腫	S1	E050	PPA7	=:5A02.0	=:5A02.0		1 =	=	http://id.who.int/icd/entitv/713028385	1 =	=	5A02.0	exophthalmic goitre : Thyrototoxicosis with diffuse goitreのSynonym
11923	4 バテドウ病眼症	L	E050	RARF	=:5A02.0	=:5A02.0		1 =	=	http://id.who.int/icd/entitv/713028385	1 =	=	5A02.0	thyroid eye disease : Thyrototoxicosis with diffuse goitreのSynonym
11924	4 BASEDOW病眼症	S1	E050	RARF	=:5A02.0	=:5A02.0		1 =	=	http://id.who.int/icd/entitv/713028385	1 =	=	5A02.0	
11925	4 甲状腺機能正常型グレーブス病	L	E050	U71D	=:5A02.0	=:5A02.0		1 =	=	http://id.who.int/icd/entitv/713028385	1 <	=	5A02.0	Graves disease : Thyrototoxicosis with diffuse goitreのSynonym
11926	4 中毒性単結節性甲状腺腫	L	E051	B2G8	=:5A02.1	=:5A02.1		1 =	=	http://id.who.int/icd/entitv/132882999	1 =	=	5A02.1	toxic unimodular goitre : Thyrototoxicosis with toxic single thyroid noduleのSynonym
11927	4 中毒性多結節性甲状腺腫	L	E052	CKR8	=:5A02.2	=:5A02.2		1 =	=	http://id.who.int/icd/entitv/999910988	1 =	=	5A02.2	
11928	4 フラウマー病	L	E052	FL88	=:5A02.2	=:5A02.2		1 =	=	http://id.who.int/icd/entitv/999910988	1 =	=	5A02.2	Plummer disease : Thyrototoxicosis with toxic multinodular goitreのSynonym
11929	4 PLUMMER病	S1	E052	FL88	=:5A02.2	=:5A02.2		1 =	=	http://id.who.int/icd/entitv/999910988	1 =	=	5A02.2	
11930	4 異所性中毒性甲状腺腫	L	E053	LE29	=:5A02.3	=:5A02.3		1 =	=	http://id.who.int/icd/entitv/1590867814	1 =	=	5A02.3	5A02.3 異所性甲状腺組織からの甲状腺中毒症
11931	4 人為的甲状腺中毒症	L	E054	NDAG	=:5A02.4	=:5A02.4		1 =	=	http://id.who.int/icd/entitv/758919242	1 =	=	5A02.4	Thyrototoxicosis factitia
11932	4 甲状腺中毒性昏睡	L	E055	AI3V	=:5A02.5	=:5A02.5		1 =	=	http://id.who.int/icd/entitv/1215823328	1 =	=	5A02.5 / MB20.1	5A02.5 / MB20.1 Thyroid crisis/coma
11933	4 甲状腺クラーゼ	L	E055	S3PA	=:5A02.5	=:5A02.5		1 =	=	http://id.who.int/icd/entitv/1215823328	1 =	=	5A02.5	Thyroid crisis
11934	4 バテドウクラーゼ	S1	E055	S3PA	=:5A02.5	=:5A02.5		1 =	=	http://id.who.int/icd/entitv/1215823328	1 =	=	5A02.5	
11935	4 甲状腺中毒性クラーゼ	S1	E055	S3PA	=:5A02.5	=:5A02.5		1 =	=	http://id.who.int/icd/entitv/1215823328	1 =	=	5A02.5	
11936	4 BASEDOWクラーゼ	S1	E055	S3PA	=:5A02.5	=:5A02.5		1 =	=	http://id.who.int/icd/entitv/1215823328	1 =	=	5A02.5	
11937	4 二次性甲状腺機能亢進症	L	E058	GRD1	=:5A02.2	=:5A02.2		1 =	=	http://id.who.int/icd/entitv/355116695	1 =	=	5A02.6	Secondary hyperthyroidism

No	ICD10 標準病名	代 表・ 同義	ICD10 コード	交換 コード	旧 バージョン が	新 バージョン が2022	病名とし て現代で は不適切	確 信 度	関 係	ICD11 Foundation URI	確 信 度	関 係	MMS	備 考
11938	4 下垂体性甲状腺機能亢進症		E058	GPDJ	=:5A02.Z	=:5A02.Z		1 <	1 <	http://id.who.int/icd/entitv/147038701Z	1 <	1 <	5A02.Z	5A02.Z (甲状腺機能亢進症、下垂体性のコードがわかればつ けたい)
11939	4 下垂体性 TSH 分泌亢進症		E058	HLN6	=:5A02.Z	=:5A02.Z		1 <	1 <	http://id.who.int/icd/entitv/1044853294	1 <	1 <	5A02.Y	5A02.Y (TSH - [thyroid stimulating hormone] hypersecretion & 下垂体性のコードがわかればつけたい)
11940	4 下垂体性 TSH 分泌亢進症		E058	HLN6	=:5A02.Z	=:5A02.Z		1 <	1 <	http://id.who.int/icd/entitv/1044853294	1 <	1 <	5A02.Y	
11941	4 甲状腺中毒性周期性四肢麻痺		E059	BRNK	下:5A02.Z	下:5A02.Z		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entitv/1457837313	1 <	1 <	5A02.Y	Thyrotoxic periodic paralysis
11942	4 甲状腺中毒性筋無力症候群		E059	BNN0	下:5A02.Z	下:5A02.Z		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entitv/127010022Z	1 =	1 =	5A02.Z / 8C60	5A02.Z/8C60 (甲状腺中毒症、詳細不明 / Myasthenia gravis)
11943	4 甲状腺中毒性心不全		E059	C4E	下:5A02.Z	下:5A02.Z		1 <	1 <	http://id.who.int/icd/entitv/1292923779	1 =	1 =	5A02.Z / BD12	Thyrotoxic heart disease / Heart failure, unspecified
11944	4 甲状腺中毒性心疾患		E059	C4E	下:5A02.Z	下:5A02.Z		1 <	1 <	http://id.who.int/icd/entitv/1292923779	1 =	1 =	5A02.Z / BD12	
11945	4 甲状腺機能亢進症		E059	D1DU	下:5A02.Z	下:5A02.Z		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entitv/147038701Z	1 =	1 =	5A02.Z	hyperthyroidism
11946	4 甲状腺機能亢進症		E059	D1DU	下:5A02.Z	下:5A02.Z		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entitv/147038701Z	1 =	1 =	5A02.Z	hyperactive thyroid gland
11947	4 甲状腺機能亢進症		E059	D1DU	下:5A02.Z	下:5A02.Z		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entitv/147038701Z	1 =	1 =	5A02.Z	
11948	4 甲状腺眼症		E059	DMB0	下:5A02.Z	下:5A02.Z		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entitv/1315709319	1 <	1 <	5A02.0	Thyroid eye disease
11949	4 甲状腺異常性眼症		E059	DMB0	下:5A02.Z	下:5A02.Z		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entitv/1315709319	1 <	1 <	5A02.0	
11950	4 甲状腺機能異常性眼症		E059	DMB0	下:5A02.Z	下:5A02.Z		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entitv/210468458Z	1 =	1 =	5A02.0 / 9A20.00	dysthyroid exophthalmos MMS: thyroid exophthalmos / Outward displacement of eyeball
11951	4 偽性甲状腺機能亢進症		E059	DS4L	下:5A02.Z	下:5A02.Z		1 <	1 <	http://id.who.int/icd/entitv/147038701Z	1 <	1 <	5A02.Z	5A02.Z (甲状腺中毒症、詳細不明) Pseudothyrotoxicism
11952	4 甲状腺中毒性眼球突出症		E059	GN6	下:5A02.Z	下:5A02.Z		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entitv/147038701Z	1 =	1 =	5A02.Z / 9A20.00	5A02.Z/9A20.00 (甲状腺中毒症、詳細不明 / Exophthalmos)
11953	4 甲状腺機能異常性眼球突出症		E059	GN6	下:5A02.Z	下:5A02.Z		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entitv/178194243Z	1 =	1 =	9A20.00	
11954	4 内分泌性眼球突出症		E059	GN6	下:5A02.Z	下:5A02.Z		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entitv/147038701Z	1 =	1 =	5A02.Z / 9A20.00	Thyrototoxicosis
11955	4 甲状腺中毒症		E059	GIBS	下:5A02.Z	下:5A02.Z		1 <	1 <	http://id.who.int/icd/entitv/147038701Z	1 <	1 <	5A02.Z	
11956	4 甲状腺中毒症		E059	GIBS	下:5A02.Z	下:5A02.Z		1 <	1 <	http://id.who.int/icd/entitv/147038701Z	1 <	1 <	5A02.Z	
11957	4 甲状腺中毒症		E059	GIBS	下:5A02.Z	下:5A02.Z		1 <	1 <	http://id.who.int/icd/entitv/147038701Z	1 <	1 <	5A02.Z	
11958	4 原発性甲状腺機能亢進症		E059	H6U	下:5A02.Z	下:5A02.Z		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entitv/583743726	1 <	1 <	5A02.Y	Primary hyperthyroidism
11959	4 甲状腺中毒性ミオパチー		E059	PQH9	下:5A02.Z	下:5A02.Z		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entitv/147038701Z	1 =	1 =	5A02.Z / 8C7Y	5A02.Z/8C7Y (甲状腺中毒症、詳細不明 / myopathy)
11960	4 甲状腺中毒性ミオパチー		E059	PQH9	下:5A02.Z	下:5A02.Z		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entitv/147038701Z	1 =	1 =	5A02.Z / 8C7Y	
11961	4 慢性甲状腺中毒性ミオパチー		E059	PQH9	下:5A02.Z	下:5A02.Z		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entitv/1870184184	1 =	1 =	5A02.Z / 8C7Y	
11962	4 甲状腺中毒性筋障害		E059	PQH9	下:5A02.Z	下:5A02.Z		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entitv/147038701Z	1 =	1 =	5A02.Z / 8C7Y	
11963	4 慢性甲状腺中毒性ミオパチー		E059	PQH9	下:5A02.Z	下:5A02.Z		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entitv/147038701Z	1 =	1 =	5A02.Z / 8C7Y	
11964	4 甲状腺中毒性四肢麻痺		E059	R0PL	下:5A02.Z	下:5A02.Z		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entitv/147038701Z	1 =	1 =	5A02.Z / M850.Z	5A02.Z/M850.Z (甲状腺中毒症、詳細不明 / Tetraplegia, unspecified)
11965	4 甲状腺中毒性関節障害		E059	SOR4	下:5A02.Z	下:5A02.Z		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entitv/147038701Z	1 =	1 =	5A02.Z / FA5Z	5A02.Z/FA5Y (甲状腺中毒症、詳細不明 / その他の特定の関 節症)
11966	4 一過性甲状腺機能亢進症		E059	SCT0	下:5A02.Z	下:5A02.Z		1 <	1 <	http://id.who.int/icd/entitv/152579297Z	1 <	1 <	5A02.Z	5A02.Z (甲状腺中毒症、詳細不明)
11967	4 甲状腺中毒性心筋症		E059	UMR	下:5A02.Z	下:5A02.Z		1 <	1 <	http://id.who.int/icd/entitv/1292923779	1 =	1 =	5A02.Z / BC43.Z	(甲状腺中毒症 / 心筋症、詳細不明)
11968	4 急性化膿性甲状腺炎		E060	PTM0	=:5A03.0	=:5A03.0		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entitv/1420160451	1 <	1 <	5A03.0	Acute suppurative thyroiditis
11969	4 化膿性甲状腺炎		E060	PTM0	=:5A03.0	=:5A03.0		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entitv/1493057396	1 <	1 <	5A03.0	Pyogenic thyroiditis
11970	4 細菌性甲状腺炎		E060	PTM0	=:5A03.0	=:5A03.0		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entitv/1493057396	1 <	1 <	5A03.0	
11971	4 甲状腺腫瘍		E060	PTM0	=:5A03.0	=:5A03.0		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entitv/347282868	1 <	1 <	5A03.0	Abscess of thyroid
11972	4 急性甲状腺炎		E060	QADR	=:5A03.0	=:5A03.0		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entitv/737694495	1 =	1 =	5A03.0	Acute thyroiditis

標準病名のICD-11コーディング作業結果

～ 第5章 標準病名 ～ (5 ページのみ抜粋)

No	ICD10 章	標準病名	代 表・ 同義	ICD10 コード	交換 コード	マップ 情報 (旧)	マップ 情報 2022	病名と して現 代では 不適切	確 信 度	関 係	ICD11 Foundation URI	確 信 度	関 係	MMS	備考
14899	5	急性発症の血管性認知症		F010	GJBP	F:6D81	F:6D81		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1365258270&http://id.who.int/icd/entity/1385443355	1 =	1 =	6D81&XT3Z	6D81&XT3Z Rapid onset
14901	5	C A R A S I L		F011	ESGR	=:6D81	=:6D81		1 =		http://id.who.int/icd/entity/984450655	1 =	1 =	8822.C1	
14905	5	皮質認知症		F011	RG8F	=:6D81	=:6D81		1 =		http://id.who.int/icd/entity/645643099	1 <	1 <	6D81	Cortical dementia
14907	5	C A D A S I L		F011	T756	=:6D81	=:6D81		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1621899838	1 =	1 =	8822.C0	
14911	5	多発梗塞性認知症		F011	TK8A	=:6D81	=:6D81		1 =		http://id.who.int/icd/entity/645643099	1 <	1 <	6D81	multi-infarct dementia
14913	5	皮質下認知症		F012	CLFQ	=:6D81	=:6D81		1 =		http://id.who.int/icd/entity/2078986772	1 <	1 <	6D81	Dementia due to subcortical vascular encephalopathy
14915	5	血管性認知症		F019	D5F4	=:6D81	=:6D81		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1365258270	1 =	1 =	6D81	Vascular dementia→MMSの不等号を等号に修正
14921	5	動脈硬化性認知症		F019	D5F4	=:6D81	=:6D81		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1365258270	1 =	1 =	6D81	arteriosclerotic dementia
14923	5	老年期認知症妄想型		F03	CC70	F:6D82	F:6D82		1 =		http://id.who.int/icd/entity/759326836/ http://id.who.int/icd/entity/932028588	1 <	1 <	6D8Z / MB26.0	* Old age dementia + 妄想(Delusion)→不等号を等号に修正
14927	5	初老期認知症		F03	DSMU	F:6D82	F:6D82		1 =		http://id.who.int/icd/entity/133826396	1 <	1 <	6D8Z	Presenile dementia : Presenile dementia not otherwise specified
14928	5	初老期痴呆		F03	DSMU	F:6D82	F:6D82		1 =						
14929	5	二次性認知症		F03	F208	F:6D82	F:6D82		1 ★		http://id.who.int/icd/entity/1468768235 or http://id.who.int/icd/entity/235421675	1 ★	1 ★	6D85.Y or 6E67	* Dementia due to diseases classified elsewhere or Secondary neurocognitive syndrome
14931	5	老年期認知症		F03	MSD4	F:6D82	F:6D82		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1038351310	1 <	1 <	6D8Z	Senile dementia
14935	5	老年認知症		F03	MSD4	F:6D82	F:6D82		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1038351310	1 <	1 <	6D8Z	Senile dementia
14938	5	初老期精神病		F03	P04F	F:6D82	F:6D82		1 =		http://id.who.int/icd/entity/2084912553	1 <	1 <	6D8Z	Presenile psychotic mental disorder
14939	5	初老期精神障害		F03	P04F	F:6D82	F:6D82		1 =						
14940	5	老年精神病		F03	PP2M	F:6D82	F:6D82		1 =		http://id.who.int/icd/entity/546689346	1 <	1 <	6D8Z	Senile psychosis : 認知症 (Dementia) の類義語にある。
14948	5	老年期妄想状態		F03	PTGI	F:6D82	F:6D82		1 ★		http://id.who.int/icd/entity/1468768235 or http://id.who.int/icd/entity/235421675	1 ★	1 ★	6D85.Y or 6E67	* Dementia due to diseases classified elsewhere or Secondary neurocognitive syndrome
14950	5	初老期妄想状態		F03	RC2N	F:6D82	F:6D82		1 <		http://id.who.int/icd/entity/2084912553	1 <	1 <	6D8Z	Presentile psychotic mental disorder
14951	5	老年期うつ病		F03	RPRU	F:6D82	F:6D82		1 =		http://id.who.int/icd/entity/546689346	1 =	1 =	6D8Z	senile depression
14953	5	原発性認知症		F03	S5RU	F:6D82	F:6D82		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1722135299	1 <	1 <	6D8Z	Primary dementia
14954	5	原発性変性認知症		F03	S5RU	F:6D82	F:6D82		1 =						
14955	5	原発性変性痴呆		F03	S5RU	F:6D82	F:6D82		1 =						
14956	5	脳器質性認知症		F03	S5RU	F:6D82	F:6D82		1 =						
14957	5	脳器質性痴呆		F03	S5RU	F:6D82	F:6D82		1 =						
14958	5	老年期認知症抑うつ型		F03	USUQ	F:6D82	F:6D82		1 =						
14959	5	老年期痴呆抑うつ型		F03	USUQ	F:6D82	F:6D82		1 =						
14960	5	抑うつ型老年期痴呆		F03	USUQ	F:6D82	F:6D82		1 =						
14961	5	抑うつ型老年期認知症		F03	USUQ	F:6D82	F:6D82		1 =						
14962	5	認知症		F03	V828	F:6D82	F:6D82		1 =		http://id.who.int/icd/entity/546689346	1 <	1 <	6D8Z	Senile dementia depressed type (ICD-10) 認知症 + Depressed mood
14968	5	非アルコー性アルコール中毒		F04	GLNN	=:6D72.0	=:6D72.0		1 =						
14969	5	非アルコー性KORSAKOFF精神		F04	GLNN	=:6D72.0	=:6D72.0		1 =						

不適切に分類

Korsakov psychosis, nonalcoholic (ICD-10)

No	ICD10 標準病名	代 表・ 同義	ICD10 コード	交換 コード	マップ 情報 (旧)	マップ 情報 2022	病名と して現 代では 不適切	確 信 度	関 係	ICD11 Foundation URI	確 信 度	関 係	MMS	備考
14970	5 非アルコーリ性アルコール症候群		F04	N9TN	=:6D72.0	=:6D72.0	1							Korsakov syndrome, nonalcoholic (ICD-10)
14971	5 非アルコーリ性KORSAKOFF症候群	S1	F04	N9TN	=:6D72.0	=:6D72.0	1							不適切に分類
14972	5 器質性健忘症候群・精神作用物質によらないもの		F04	R20S	=:6D72.0	=:6D72.0	1	1 =	http://id.who.int/icd/entity/862469859	1 <	6D72.0		Organic amnesic syndrome, not induced by psychoactive substances (ICD-10) 「器質性物質によらない」は考慮していない	
14973	5 認知症に重ならないせん妄		F050	LVR2	F:6D70.2	F:6D70.2		1 <	http://id.who.int/icd/entity/897917531	1 <	6D70.2		「認知症に重ならない」を表現できないので、せん妄のみとした。 Delirium not superimposed on dementia, so described (ICD-10) =を<に修正	
14975	5 認知症に重なったせん妄		F051	LVRQ	F:6D70.2	F:6D70.2		1 =	http://id.who.int/icd/entity/897917531/ http://id.who.int/icd/entity/546689346	1 =	6D70.2 / 6D8Z		認知症+せん妄 Delirium superimposed on dementia (ICD-10)	
14977	5 急性感染性精神病		F058	AHBS	E:6D70.0 E:6D70.2	E:6D70.0 E:6D70.2		1 <	http://id.who.int/icd/entity/897917531	1 <	6D70.2		acute infective psychosis (ICD-10)	
14978	5 急性錯乱状態		F058	BRFB	E:6D70.0 E:6D70.2	E:6D70.0 E:6D70.2		1 =	http://id.who.int/icd/entity/897917531	1 <	6D70.2		acute confusional state : せん妄 (Delirium) のsynonymsに acute confusional state NOSがある。	
14979	5 亜急性脳症候群		F058	CGGT	E:6D70.0 E:6D70.2	E:6D70.0 E:6D70.2		1 <	http://id.who.int/icd/entity/897917531	1 <	6D70.2		subacute brain syndrome (ICD-10)	
14980	5 非アルコーリ性急性錯乱状態		F058	ERN8	E:6D70.0 E:6D70.2	E:6D70.0 E:6D70.2		1 <	http://id.who.int/icd/entity/897917531	1 <	6D70.2		acute confusional state (nonalcoholic) (ICD-10)	
14981	5 急性器質性反応		F058	KAV9	E:6D70.0 E:6D70.2	E:6D70.0 E:6D70.2		1 <	http://id.who.int/icd/entity/897917531	1 <	6D70.2		acute organic reaction (ICD-10)	
14982	5 亜急性器質性反応		F058	L3S1	E:6D70.0 E:6D70.2	E:6D70.0 E:6D70.2		1 <	http://id.who.int/icd/entity/897917531	1 <	6D70.2		subacute organic reaction (ICD-10)	
14983	5 急性器質精神症候群		F058	N2HS	E:6D70.0 E:6D70.2	E:6D70.0 E:6D70.2		1 <	http://id.who.int/icd/entity/897917531	1 <	6D70.2		acute psycho-organic syndrome (ICD-10)	
14984	5 急性脳症候群		F058	N6LC	E:6D70.0 E:6D70.2	E:6D70.0 E:6D70.2		1 <	http://id.who.int/icd/entity/897917531	1 <	6D70.2		acute brain syndrome (ICD-10)	
14985	5 亜急性感染性精神病		F058	QNSL	E:6D70.0 E:6D70.2	E:6D70.0 E:6D70.2		1 <	http://id.who.int/icd/entity/897917531	1 <	6D70.2		subacute infective psychosis (ICD-10)	
14986	5 亜急性器質精神症候群		F058	UIJN	E:6D70.0 E:6D70.2	E:6D70.0 E:6D70.2		1 <	http://id.who.int/icd/entity/897917531	1 <	6D70.2		subacute psycho-organic syndrome (ICD-10)	
14987	5 老人性夜間せん妄		F059	G08N	=:6D70.3	F:6D70.2		1 <	http://id.who.int/icd/entity/897917531	1 <	6D70		CDDGで該当する記載員つからず。老人性についてはXT13.19が該当	
14988	5 夜間せん妄		F059	P8CP	=:6D70.3	F:6D70.2		1 <	http://id.who.int/icd/entity/897917531	1 <	6D70		CDDGで該当する記載員つからず。Nocturnal コーディングできず。	
14989	5 せん妄		F059	S9U9	=:6D70.3	F:6D70.2		1 =	http://id.who.int/icd/entity/897917531	1 =	6D70		delirium 6D70 Delirium	
14990	5 非アルコーリ性器質性幻覚状態		F060	KG76	=:6E61.0	=:6E61.0		1 =	http://id.who.int/icd/entity/2018051983	1 =	6E61.0		F06.0 Incl. organic hallucinatory state (nonalcoholic) 6E61 Secondary Psychotic Syndrome	
14991	5 器質性幻覚症		F060	S5OE	=:6E61.0	=:6E61.0		1 =	http://id.who.int/icd/entity/2018051983	1 =	6E61.0		6E61.0 Secondary psychotic syndrome, with hallucinations	
14993	5 器質性緊張病性障害		F061	FE0L	=:6A4Z	=:6A4Z		1 ★	http://id.who.int/icd/entity/289492002 or http://id.who.int/icd/entity/518305574	1 ★	6A41 OR 6E69		Organic catatonic disorder (ICD-10) ICD-11では、物質または薬物によって誘発される緊張病 (Catatonia induced by substances or medications) と二次緊張病 (Secondary catatonia syndrome) の2つのURIのいずれかによる表現となる。	
14994	5 器質性の妄想状態および幻覚妄想状態		F062	PJ1N	F:6E6Z F:6E6Z	=:6E61.1 F:6E6Z		1 =	http://id.who.int/icd/entity/200321643	1 =	6E61.2		Secondary psychotic syndrome, with hallucinations and delusions	
14995	5 器質性妄想性障害		F062	QQMH	F:6E6Z	F:6E6Z		1 =	http://id.who.int/icd/entity/566524918	1 =	6E61.1		Secondary psychotic syndrome, with delusions	

No	ICD10 標準病名	代 表・ 同義	ICD10 コード	交換 コード	ソッピン ク情報 (旧)	ソッピン ク情報 2022	病名と して現 在では 不適切	確 信 度	関 係	ICD11 Foundation URI	確 信 度	関 係	MMS	備考
14997	5 動脈硬化性うつ病		F063	DKMT	=:6E62	=:6E62	1	1 <		http://id.who.int/icd/entity/216291184	1 <	6E62	Secondary mood syndrome	
14998	5 器質性混合性感情障害		F063	EPF3	=:6E62	=:6E62	1	1 =		http://id.who.int/icd/entity/1899175158	1 <	6E62.2	Secondary mood syndrome, with mixed symptoms	
14999	5 器質性躁病性障害		F063	FQ46	=:6E62	=:6E62	1	1 =		http://id.who.int/icd/entity/880462195	1 =	6E62.1	Secondary mood syndrome, with manic symptoms	
15000	5 器質性うつ病性障害		F063	HEOC	=:6E62	=:6E62	1	1 =		http://id.who.int/icd/entity/241382885	1 =	6E62.0	Secondary mood syndrome, with depressive symptoms	
15001	5 器質性双極性障害		F063	LCIL	=:6E62	=:6E62	1	1 <		http://id.who.int/icd/entity/216291184	1 <	6E62	Index termに記載ある対象範囲異なる	
15002	5 感染症後うつ病		F063	UFC	=:6E62	=:6E62	1	1 <		http://id.who.int/icd/entity/216291184	1 <	6E62	Secondary mood syndrome	
15003	5 器質性気分障害		F063	MQ7N	=:6E62	=:6E62	1	1 =		http://id.who.int/icd/entity/216291184	1 =	6E62	Secondary mood syndrome	
15012	5 多幸症		F068	N9VU	下:6E62	下:6E62	1	1 =		http://id.who.int/icd/entity/451608306	1 =	MB2.4.9	euphoria	
15023	5 子宮全摘術後愁訴		F069	FM3V	下:6E62	下:6E62	1	2 <		http://id.who.int/icd/entity/302122526	1 <	6E62	Secondary mental or behavioural syndrome	
15024	5 子宮全摘術後愁訴		F069	FM3V	下:6E62	下:6E62	1	2 <		http://id.who.int/icd/entity/302122526	1 <	6E62	Secondary mental or behavioural syndrome	
15029	5 動脈硬化性精神障害		F069	R87U	下:6E62	下:6E62	1	2 <		http://id.who.int/icd/entity/302122526	1 <	6E62	Secondary mental or behavioural syndrome	
15030	5 動脈硬化性精神病		F069	R87U	下:6E62	下:6E62	1	1			1 <		Secondary mental or behavioural syndrome	
15031	5 脳動脈硬化性精神病		F069	R87U	下:6E62	下:6E62	1	1			1 <		Secondary mental or behavioural syndrome	
15032	5 脳動脈硬化性精神障害		F069	R87U	下:6E62	下:6E62	1	1			1 <		Secondary mental or behavioural syndrome	
15039	5 口ボトニニ症候群		F070	A9TE	下:6E62	=:6E68 下:6E62	1	1			1		lobotomy syndrome (ICD-10)	
15040	5 白質切除術後症候群		F070	A9TE	下:6E62	=:6E68 下:6E62	1	1		http://id.who.int/icd/entity/1324394161	2 <	6E62	器質性人格障害の下位概念?	
15050	5 発動性障害		F070	N816	下:6E62	=:6E68 下:6E62	1	2 <		http://id.who.int/icd/entity/1324394161	2 <	6E62	器質性人格障害の下位概念?	
15051	5 発動性欠乏		F070	N816	下:6E62	=:6E68 下:6E62	1	1 =			2 <	6E62	器質性人格障害の下位概念?	
15052	5 自発性欠乏		F070	N816	下:6E62	=:6E68 下:6E62	1	1			1		器質性人格障害の下位概念?	
15053	5 初老期性パーソナリティ障害		F070	R8HG	下:6E62	=:6E68 下:6E62	1	1 =		http://id.who.int/icd/entity/941859884 & http://id.who.int/icd/entity/1133780743	1 =	6D10.2 & XT19	パーソナリティ障害+初老期 = XT19 Early Geriatric	
15054	5 初老期性人格障害		F070	R8HG	下:6E62	=:6E68 下:6E62	1	1			1 =		パーソナリティ障害+初老期 = XT19 Early Geriatric	
15055	5 器質性偽運滞性人格		F070	TO6T	下:6E62	=:6E68 下:6E62	1	2 =		http://id.who.int/icd/entity/302122526	2 <	6E62	organic pseudoretarded personality (ICD-10) : Secondary mental or behavioural syndrome	
15056	5 器質性偽運滞性パーソナリティ		F070	TO6T	下:6E62	=:6E68 下:6E62	1	1			1		organic pseudoretarded personality (ICD-10) : Secondary mental or behavioural syndrome	
15057	5 辺縁系てんかん人格症候群		F070	UROE	下:6E62	=:6E68 下:6E62	1	1 <		http://id.who.int/icd/entity/1324394161	1 <	6E68	limbic epilepsy personality syndrome (ICD-10)	
15059	5 脳炎後症候群		F071	H01J	下:6E62	下:6E62	1	1 =		http://id.who.int/icd/entity/302122526	1 <	6E62	Postencephalitic syndrome (ICD-10) : =Secondary mental or behavioural syndromes associated with disorders or diseases classified elsewhere	
15064	5 脳震盪後症候群		F072	J1UG	=:6D71	=:6D71	1	1 =		http://id.who.int/icd/entity/196866599Z	1 =	6D71	Postconcussional syndrome	
15065	5 非精神病性外傷後脳症候群		F072	L8LD	=:6D71	=:6D71	1	1 =		http://id.who.int/icd/entity/196866599Z	1 <	6D71	Post-traumatic brain syndrome, nonpsychotic : Postconcussional syndrome (脳震盪後症候群) のsynonymsにある。	
15071	5 脳局所性精神症候群		F078	B6RE	下:6E62	下:6E62	2	2 <		http://id.who.int/icd/entity/302122526	2 <	6E62	Diencephalic syndrome	
15072	5 間脳症		F078	D6HL	下:6E62	下:6E62	1	1 =		http://id.who.int/icd/entity/879659089	1 <	5A61V	Diencephalic syndrome	

No	ICD10 章	標準病名	代 表・ 同義	ICD10 コード	交換 コード	マッピン グ情報 (旧)	マッピン グ情報 2022	病名と して現 代では 不適切	確 信 度	関 係	ICD11 Foundation URI	確 信 度	関 係	MMS	備考
15074	5	側頭葉症候群		F078	GM61	下:6E62	下:6E62		2 <		http://id.who.int/icd/entity/302122526	2 <	6E62	Secondary mental or behavioural syndrome, unspecified	
15075	5	器質性人格行動障害		F078	J620	下:6E62	下:6E62		2 <		http://id.who.int/icd/entity/302122526	2 <	6E62		
15076	5	右半球器質性感情障害		F078	NM26	下:6E62	下:6E62		2 <		http://id.who.int/icd/entity/302122526	2 <	6E62	Right hemispheric organic affective disorder (CD-10)	
15078	5	クリューパー・ビュシー症 候群		F078	NTD3	下:6E62	下:6E62		2 <		http://id.who.int/icd/entity/302122526	2 <	6E62		
15080	5	失語・失行・失認症候群		F078	QKR7	下:6E62	下:6E62		2 <		http://id.who.int/icd/entity/302122526	2 <	6E62	Organic psychosyndrome (CD-10)	
15081	5	器質性精神症候群		F079	RLDC	下:6E62	下:6E62	1							
15082	5	器質精神症候群		F079	RLDC	下:6E62	下:6E62	1							
15083	5	器質性精神病		F09	JUT5	下:6E82	下:6E02		2 =		http://id.who.int/icd/entity/69696921	1 <	6E82		
15087	5	症状精神病		F09	M9KG	下:6E82	下:6E02		2 <		http://id.who.int/icd/entity/302122526	2 <	6E62	Mental, behavioural or neurodevelopmental disorders, unspecified : 症状精神病とは、頭（脳）を除くさまざまな身体の病気が原因で精神症状をおこす病気で、らしいので、意味合いとしてはsecondary...が相当すると思われる。	
15090	5	病的酩酊		F100	A4UA	下:6C40.3	下:6C40.3		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1339202943	1 =	6C40.3	アルコール中毒(alcohol intoxication) : 病的酩酊= Pathological alcohol intoxicationはSynonymsにある。 →MMSの不等号を等号に修正	
15091	5	宿酔		F100	FAB0	下:6C40.3	下:6C40.3	1	1 =		http://id.who.int/icd/entity/1339202943	1 <	6C40.3	アルコール中毒(alcohol intoxication) : 宿酔= alcohol hangoverはSynonymsにある。 →MMSの不等号を等号に修正	
15093	5	急性アルコール中毒		F100	GPD7	下:6C40.3	下:6C40.3		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1339202943	1 =	6C40.3	アルコール中毒(alcohol intoxication) : 急性アルコール中毒= acute alcohol intoxicationが類義語にある。 →MMSの不等号を等号に修正	
15095	5	単純酩酊		F100	H4HU	下:6C40.3	下:6C40.3		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1339202943	1 =	6C40.3	アルコール中毒(alcohol intoxication) : 酩酊= DrunkennessはSynonymsにある。 →MMSの不等号を等号に修正	
15096	5	アルコール中毒せん妄		F100	UTJU	下:6C40.3	下:6C40.3		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1217486356	1 =	6C40.5	アルコール中毒せん妄= alcohol induced delirium) : アルコール中毒せん妄= alcohol deliriumはSynonymsにある。 →MMSの不等号を等号に修正	
15097	5	複雑酩酊		F100	VM7A	下:6C40.3	下:6C40.3		2 <		http://id.who.int/icd/entity/1339202943	1 <	6C40.3	アルコール中毒 : 複雑酩酊= Complex drunkennessは、ICD-11に無い。	
15098	5	アルコール乱用		F101	H4VK	下:6C40.12	下:6C40.12		1 =		http://id.who.int/icd/entity/714690795	1 =	6C40.12	アルコールの有害な使用パターン(Harmful pattern of use of alcohol) : アルコール乱用= alcohol abuseはSynonymsにある。 →MMSの不等号を等号に修正	
15099	5	アルコール依存症		F102	HQV9	下:6C40.21 上:8D44.2	下:6C40.21 上:8D44.2		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1580466198	1 =	6C40.22	アルコール依存症(Alcohol dependence) : アルコール依存症= Alcohol addictionが類義語にある。 →MMSの不等号を等号に修正	
15111	5	アルコール離脱状態		F103	L95F	下:6C40.42	下:6C40.42		1 =		http://id.who.int/icd/entity/998231424	1 =	6C40.42	アルコール離脱(Alcohol withdrawal) : アルコール離脱状態= alcohol withdrawal stateがはSynonymsにある。 →MMSの不等号を等号に修正	
15113	5	アルコール離脱せん妄		F104	AMMU	下:6C40.5	下:6C40.5		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1217486356	1 =	6C40.5	アルコール離脱せん妄(Alcohol withdrawal state with delirium) : アルコール離脱せん妄= alcohol withdrawal state with deliriumが類義語にある。 →MMSの不等号を等号に修正	
15119	5	アルコール性妄想		F105	FTL4	下:6C40.6Z	下:6C40.6Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1767310182	1 =	6C40.61	妄想を伴うアルコール誘発性精神病性障害(Alcohol-induced psychotic disorder with hallucinations) : アルコール性妄想= Alcoholic delusion → foundation、MMSともに幻覚 → 妄想のコードに修正。	

No	ICD10 標準病名	代 表・ 同義	ICD10 コード	交換 コード	マッピング 情報 (旧)	マッピング 情報 2022	病名と して現 代では 不適切	確 信 度	関 係	ICD11 Foundation URI	確 信 度	関 係	MMS	備考
15122	5 アルコール性嫉妬		F105	H2C6	=:6C40.6Z	=:6C40.6Z		1 =		http://id.who.int/icd/entry/1484332320	1 <		6C40.6Z	アルコール性嫉妬 = Alcoholic jealousy 幻覚を伴うアルコール誘発性精神病性障害(Alcohol-induced psychotic disorder with hallucinations)：アルコール幻覚症 = Alcoholic hallucinosisはSynonymsにある。 →MMSの不等号を等号に修正
15124	5 アルコール幻覚症		F105	SLA8	=:6C40.6Z	=:6C40.6Z		1 =		http://id.who.int/icd/entry/226414625	1 =		6C40.60	アルコール誘発性精神病性障害(Alcohol-induced psychotic disorder)：アルコール性精神病 = alcoholism with psychosisはSynonymicにある。 →MMSの不等号を等号に修正
15125	5 アルコール性精神病		F105	VE91	=:6C40.6Z	=:6C40.6Z		1 =		http://id.who.int/icd/entry/769299330	1 =		6C40.6Z	アルコール誘発性精神病性障害(Alcohol-induced psychotic disorder)：アルコール性精神病 = alcoholism with psychosisはSynonymicにある。 →MMSの不等号を等号に修正
15127	5 アルコール性コルサコフ症候群		F106	DBDF	=:6D72.10	=:6D72.10		1 <		http://id.who.int/icd/entry/11001737902	1 <		6D72.10	アルコール性コルサコフ症候群 = Alcoholic Korsakoff Syndromeは、アルコール関連の神経障害になる。アルコール性多発性神経炎性精神病 = Alcoholic polyneuritis psychosis?は、ICD-11に無いが、アルコール関連の神経障害の下位と判断した。
15132	5 アルコール性多発性神経炎性精神病		F106	P4TH	=:6D72.10	=:6D72.10	1	2 <		http://id.who.int/icd/entry/11001737902	1 <		6D72.10	アルコール性多発性神経炎性精神病 = Alcoholic polyneuritis psychosis?は、ICD-11に無いが、アルコール関連の神経障害の下位と判断した。
15139	5 アルコール性躁病		F107	HD8T	=:6C40.Z1 E:6D84.0	=:6C40.Z1 F:6D84.0		1 =		http://id.who.int/icd/entry/769299330	1 =		6C40.6Z	アルコール性躁病 = Alcoholic mania：アルコール誘発性精神病性障害のSynonymsにある。 →MMSのコードを修正
15140	5 慢性アルコール性脳症候群		F107	K4R9	=:6C40.Z1 E:6D84.0	=:6C40.Z1 F:6D84.0		1 =		http://id.who.int/icd/entry/1619582852	1 =		6D84.0	慢性アルコール性脳症候群 = Chronic alcoholic brain syndrome：アルコール使用による認知症(Dementia due to use of alcohol)のSynonymsにある。 →MMSの不等号を等号に修正
15141	5 アルコール性持続性認知障害		F107	LK6F	=:6C40.Z1 E:6D84.0	=:6C40.Z1 F:6D84.0	1	2 <		http://id.who.int/icd/entry/11001737902	1 <		6D72.10	アルコール性持続性認知障害 = persisting impairment of cognitive functions?は(ICD-11に無い)。
15142	5 アルコール性フラッシュバック		F107	POCB	=:6D84.0	=:6D84.0		1 <		http://id.who.int/icd/entry/1676588433	1 <		6C40.Z	アルコール性フラッシュバック = Alcoholic flashbacks?はICD-11に無い。
15143	5 アルコール性遷発性精神病性障害		F107	P8L1	=:6C40.Z1 E:6D84.0	=:6C40.Z1 F:6D84.0		1 =		http://id.who.int/icd/entry/1619582852	1 =		6D84.0	アルコール性遷発性精神病性障害 = late onset alcoholic psychosis：アルコール使用による認知症(Dementia due to use of alcohol)のSynonymsにある。 →MMSの不等号を等号に修正
15144	5 アルコール性遷発性パーソナリティ障害		F107	PH76	=:6C40.Z1 E:6D84.0	=:6C40.Z1 F:6D84.0		1 =		http://id.who.int/icd/entry/1324394161 & http://id.who.int/icd/entry/1991751314	1 =		6E68 & XM6U34	Secondary personality change + アルコール
15146	5 アルコール性認知症		F107	PMMA	=:6C40.Z1 E:6D84.0	=:6C40.Z1 F:6D84.0		1 =		http://id.who.int/icd/entry/1619582852	1 =		6D84.0	アルコール性認知症 = Alcoholic dementia：アルコール使用による認知症(Dementia due to use of alcohol)のSynonymsにある。 →MMSの不等号を等号に修正
15148	5 うつ状態アルコール中毒		F107	RGH8	=:6C40.Z1 E:6D84.0	=:6C40.Z1 F:6D84.0		1 =		http://id.who.int/icd/entry/1619582852	1 =		6D84.0	うつ状態アルコール中毒 = Depressed alcoholism → MMSの不等号を等号に修正
15149	5 アルコール性脳症候群		F107	SRNU	=:6C40.Z1 E:6D84.0	=:6C40.Z1 F:6D84.0		1 =		http://id.who.int/icd/entry/1619582852	1 =		6D84.0	アルコール性脳症候群 = Alcoholic brain syndrome：アルコール使用による認知症(Dementia due to use of alcohol)のSynonymsにある。 →MMSの不等号を等号に修正
15150	5 アルコール性残遺性感情障害		F107	UU07	=:6C40.Z1 E:6D84.0	=:6C40.Z1 F:6D84.0		1 =		http://id.who.int/icd/entry/216291184 & http://id.who.int/icd/entry/1991751314	1 =		6E62 & XM6U34	Secondary mood syndrome + アルコール
15151	5 アヘン類使用による急性精神・行動障害		F110	OK01	=:6C43.3	=:6C43.3		1 =		http://id.who.int/icd/entry/1395283456	1 =		6C43.3	アヘン類使用による精神・行動障害 = Mental and behavioural disorders due to use of opioids、急性使用 = Acute intoxication：アヘン類中毒 = opioid intoxication → MMSの不等号を等号に修正
15152	5 モルヒネ乱用		F111	LGUM	=:6C43.1Z	=:6C43.1Z		1 =		http://id.who.int/icd/entry/506198470	1 <		6C43.Y	モルヒネ乱用 = Disorders due to abuse of morphine：モルヒネの使用による障害(Disorders due to use of morphine)のSynonymsにある。
15153	5 モルヒネ依存		F112	JO84	=:6C43.2Z	=:6C43.2Z		1 =		http://id.who.int/icd/entry/337142707	1 <		6C43.2Z	モルヒネ依存 = Morphine dependence
15154	5 モルヒネ型薬物依存		F112	MJ3D	=:6C43.2Z	=:6C43.2Z		1 =		http://id.who.int/icd/entry/2143971168 & http://id.who.int/icd/entry/1715406755	1 =		6C43.2Z & XM1K25	モルヒネ型薬物依存 = 薬物依存(drug dependence) + モルヒネ + した。

No	ICD10 章	標準病名	代表	ICD10 コード	交換コード	旧バージョン	新バージョン2022	病名として現 代では不適切	確 信 度	関 係	ICD11 Foundation URI	確 信 度	関 係	MMS	備考
16639	6	インフルエンザウイルス性髄膜炎	L	G000	AK53	=:1D01.00	=:1D01.00		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1005770900	1 =	1D01.00	1D01.00	1D01.00 Meningitis due to Haemophilus influenzae
16640	6	インフルエンザウイルス性髄膜炎	S1	G000	AK53	=:1D01.00	=:1D01.00		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1005770900	1 =	1D01.00	1D01.00	
16641	6	インフルエンザウイルス性髄膜炎	S1	G000	AK53	=:1D01.00	=:1D01.00		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1005770900	1 =	1D01.00	1D01.00	
16642	6	肺炎球菌性髄膜炎	L	G001	BAT2	=:1B53	=:1B53		1 =		http://id.who.int/icd/entity/879178398	1 <	1B53	1B53	1B53 Meningitis due to Streptococcus
16643	6	肺炎球菌性髄膜炎	S1	G001	BAT2	=:1B53	=:1B53		1 =		http://id.who.int/icd/entity/879178398	1 <	1B53	1B53	
16644	6	連鎖球菌性髄膜炎	L	G002	G2LM	=:1B53	=:1B53		1 =		http://id.who.int/icd/entity/705971711	1 =	1B53	1B53	1B53 Meningitis due to Streptococcus
16645	6	れんさ球菌性髄膜炎	S1	G002	G2LM	=:1B53	=:1B53		1 =		http://id.who.int/icd/entity/705971711	1 =	1B53	1B53	
16646	6	ぶどう球菌性髄膜炎	L	G003	G6UH	=:1B54	=:1B54		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1331660907	1 =	1B54	1B54	1B54 (ぶどう球菌性髄膜炎=Staphylococcal meningitis) → 単純ミス修正：黄色ブドウ球菌のURIになっていた。
16647	6	ブドウ球菌性髄膜炎	S1	G003	G6UH	=:1B54	=:1B54		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1331660907	1 =	1B54	1B54	1B54 → Bacterial meningitis due to methicillin resistant Staphylococcus aureus で検索すると、1D01.0Yその他の特定の細菌性髄膜炎が提示され、指示に従って入力すると、1B54 & XN68M / 1D01.0Y
16648	6	MRSA 髄膜炎	L	G003	J644	=:1B54	=:1B54		1 =		http://id.who.int/icd/entity/578705533	1 =	1B54 & XN68M / 1D01.0Y	1B54 & XN68M / 1D01.0Y	
16649	6	MRSA 髄膜炎	S0	G003	J644	=:1B54	=:1B54		1 =		http://id.who.int/icd/entity/578705533	1 =	1B54 & XN68M / 1D01.0Y	1B54 & XN68M / 1D01.0Y	
16650	6	緑膿菌髄膜炎	L	G008	NQ88	=:1D01.0Z	=:1D01.0Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/684930313	1 =	1D01.0Y & XN516	1D01.0Y & XN516	1D01.0Y & XN516 (細菌性髄膜炎 & 緑膿菌)
16651	6	大腸菌髄膜炎	L	G008	PR6V	=:1D01.0Z	=:1D01.0Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1811342866	1 =	1D01.0Y & XN6F4	1D01.0Y & XN6F4	1D01.0Y その他の特定の細菌性髄膜炎 & Escherichia coli
16652	6	クレブシエラ性髄膜炎	L	G008	R5B5	=:1D01.0Z	=:1D01.0Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/684930313	1 =	1D01.0Y & XN620	1D01.0Y & XN620	1D01.0Y & XN620 (細菌性髄膜炎 & クレブシエラ)
16653	6	フリートバクテラ菌性髄膜炎	L	G008	VH78	=:1D01.0Z	=:1D01.0Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/26099274	1 <	1D01.0Y & XN9ZE	1D01.0Y & XN9ZE	1D01.0Y & XN9ZE Bacillus (細菌性髄膜炎 & 桿菌) → フリートバクテラ菌性髄膜炎 = Friedlander bacillus meningitis の foundation に修正。MMS にすると、フリートバクテラ菌はなく、桿菌を選択し、関係性は、「<」とした。
16654	6	細菌性髄膜炎	L	G009	D3R	=:1D01.0Z	=:1D01.0Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/684930313	1 =	1D01.0Z	1D01.0Z	1D01.0Z 細菌性髄膜炎、詳細不明 (index terms にある)
16655	6	細菌性軟膜炎	S2	G009	D3R	=:1D01.0Z	=:1D01.0Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/684930313	1 =	1D01.0Z	1D01.0Z	1D01.0Z 細菌性髄膜炎、詳細不明 (index terms にある)
16656	6	細菌性くも膜炎	S2	G009	D3R	=:1D01.0Z	=:1D01.0Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/684930313	1 =	1D01.0Z	1D01.0Z	1D01.0Z 細菌性髄膜炎、詳細不明 (index terms にある)
16657	6	急性細菌性髄膜炎	L	G009	HA9C	=:1D01.0Z	=:1D01.0Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/786106375	1 =	1D01.0Y & XT5R	1D01.0Y & XT5R	1D01.0Y & XT5R (細菌性髄膜炎 & 急性)
16658	6	化膿性髄膜炎	S2	G009	HA9C	=:1D01.0Z	=:1D01.0Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/786106375	1 =	1D01.0Y & XT5R	1D01.0Y & XT5R	
16659	6	急性化膿性髄膜炎	S2	G009	HA9C	=:1D01.0Z	=:1D01.0Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/684930313	1 =	1D01.0Y & XT5R	1D01.0Y & XT5R	
16660	6	細菌性硬膜炎	L	G009	NGH8	=:1D01.0Z	=:1D01.0Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/736106375	1 =	1D01.0Z	1D01.0Z	1D01.0Z 細菌性髄膜炎、詳細不明 (index terms にある)
16661	6	原因不明髄膜炎	L	G009	TVFH	=:1D01.0Z	=:1D01.0Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/684930313	1 <	1D01.0Z	1D01.0Z	1D01.0Z (細菌性髄膜炎、詳細不明)
16662	6	無菌性髄膜炎	L	G030	V95N	=:8FA0.Z	=:8FA0.Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/453360366	1 <	1D01.Y	1D01.Y	1D01.Y 他に分類されていないその他の特定の感染性髄膜炎 (Aseptic meningitis)
16663	6	非細菌性髄膜炎	S1	G030	V95N	=:8FA0.Z	=:8FA0.Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/453360366	1 <	1D01.Y	1D01.Y	
16664	6	非化膿性髄膜炎	S2	G030	V95N	=:8FA0.Z	=:8FA0.Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/453360366	1 <	1D01.Y	1D01.Y	
16665	6	慢性髄膜炎	L	G031	VQ59	=:8FA0.Z	=:8FA0.Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1597945150	1 <	1D01.Y	1D01.Y	1D01.Y (慢性髄膜炎=Chronic meningitis)
16666	6	モラシ髄膜炎	L	G032	B01D	=:1D01.31	=:1D01.31		1 =		http://id.who.int/icd/entity/731112897	1 =	1D01.3	1D01.3	1D01.3 慢性再発性髄膜炎 (同義語にある)
16667	6	慢性再発性髄膜炎	S2	G032	B01D	=:1D01.31	=:1D01.31		1 =		http://id.who.int/icd/entity/731112897	1 =	1D01.3	1D01.3	1D01.3 慢性再発性髄膜炎
16668	6	癒着性くも膜炎	L	G039	D19T	=:8FA0.Z	=:8FA0.Z		1 <		http://id.who.int/icd/entity/414817254	1 <	8E40.3	8E40.3	8E40.3 (くも膜炎=Arachnoiditis)
16669	6	癒着性髄膜炎	S2	G039	D19T	=:8FA0.Z	=:8FA0.Z		1 <		http://id.who.int/icd/entity/414817254	1 <	8E40.3	8E40.3	
16670	6	癒着性脊髄膜炎	S2	G039	D19T	=:8FA0.Z	=:8FA0.Z		1 <		http://id.who.int/icd/entity/414817254	1 <	8E40.3	8E40.3	
16671	6	視神経髄膜炎	L	G039	E8RQ	=:8FA0.Z	=:8FA0.Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/703043937	1 =	8E40.Y & XA1E00	8E40.Y & XA1E00	8E40.Y & XA1E00 (髄膜炎の障害 & 視神経)

No	ICD10 標準病名	代表・同義	ICD10 コード	交換コード	旧バージョン	新バージョン2022	病名として現代では不適切	確信度	関係	ICD11 Foundation URI	確信度	関係	MMS	備考
16672	6 肥厚性硬膜炎	L	G039	E04Q	下:8E40.Z	下:8E40.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1561437485	1 <	=	8E40.Y	8E40.Y 感染を除く髄膜炎の他の特定の障害 (hypertrophic duralitis)
16673	6 髄膜炎	L	G039	G3CA	下:8E40.Z	下:8E40.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/106596694	1 =	=	8E40.Z	8E40.Z 感染を除く髄膜炎の障害、詳細不明 (Noninfectious meningitis) 注: meningitis nos だけでは、感染症に分類になるが、神経の章としては、非感染性の髄膜炎と判断した。
16674	6 脳脊髄膜炎	S1	G039	G3CA	下:8E40.Z	下:8E40.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/106596694	1 =	=	8E40.Z	
16675	6 脳髄膜炎	S2	G039	G3CA	下:8E40.Z	下:8E40.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/106596694	1 =	=	8E40.Z	
16676	6 髄膜炎	S2	G039	G3CA	下:8E40.Z	下:8E40.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/106596694	1 =	=	8E40.Z	
16677	6 軟膜炎	L	G039	H4P5	下:8E40.Z	下:8E40.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1336989688	1 <	<	1D01.Y	1D01.Y Other specified infectious meningitis not elsewhere classified (Leptomeningitis)
16678	6 偽性髄膜炎	L	G039	H67J	下:8E40.Z	下:8E40.Z		1 <	<	http://id.who.int/icd/entity/703043937	1 <	<	8E40.Z	8E40.Y 詳細不明に修正
16679	6 くも膜炎	L	G039	K2RC	下:8E40.Z	下:8E40.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/414817254	1 =	=	8E40.3	8E40.3 くも膜炎
16680	6 脊髄膜炎	L	G039	S31N	下:8E40.Z	下:8E40.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/703043937	1 =	=	1D01.Y & XA5AH0	1D01.Y Other specified infectious meningitis not elsewhere classified (脊髄髄膜炎 = spinal meningitis)
16681	6 脊髄性 くも膜炎	S2	G039	S31N	下:8E40.Z	下:8E40.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/703043937	1 =	=	1D01.Y & XA0382	1D01.Y Other specified infectious meningitis not elsewhere classified (脊髄 くも膜炎 = spinal arachnoid)
16682	6 閉塞性髄膜炎	L	G039	TG9A	下:8E40.Z	下:8E40.Z		1 <	<	http://id.who.int/icd/entity/703043937	1 <	<	8E40.Z	8E40.Y 8E40.Z 詳細不明に修正
16683	6 環状癒着性脊髄膜炎	S1	G039	TG9A	下:8E40.Z	下:8E40.Z		1 <	<	http://id.who.int/icd/entity/703043937	1 <	<	8E40.Z	
16684	6 閉鎖性髄膜炎	S1	G039	TG9A	下:8E40.Z	下:8E40.Z		1 <	<	http://id.who.int/icd/entity/703043937	1 <	<	8E40.Z	
16685	6 環状癒着性脊髄膜炎	S1	G039	TG9A	下:8E40.Z	下:8E40.Z		1 <	<	http://id.who.int/icd/entity/703043937	1 <	<	8E40.Z	
16686	6 硬膜炎	L	G039	UD25	下:8E40.Z	下:8E40.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/592562777	1 =	=	8E41.Z	8E41.Z Pachymeningitis, unspecified
16687	6 予防接種後脳炎	L	G040	CMFC	下:8A42.Z	下:8A42.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1229845027	1 <	<	8A42.Y	8A42.Y (予防接種後脳炎 = Encephalitis postimmunization)
16688	6 免疫処置後脳炎	S2	G040	CMFC	下:8A42.Z	下:8A42.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1229845027	1 <	<	8A42.Y	
16689	6 種痘後脳炎	S2	G040	CMFC	下:8A42.Z	下:8A42.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1390433308	1 <	<	8A42.Y	8A42.Z Acute disseminated encephalomyelitis, unspecified
16690	6 急性散在性脳脊髄炎	L	G040	F456	下:8A42.Z	下:8A42.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1390433308	1 =	=	8A42.Z	
16691	6 播種性脳脊髄炎	S1	G040	F456	下:8A42.Z	下:8A42.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1390433308	1 =	=	8A42.Z	
16692	6 急性播種性脳炎	S1	G040	F456	下:8A42.Z	下:8A42.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1390433308	1 =	=	8A42.Z	
16693	6 ADEM	S1	G040	F456	下:8A42.Z	下:8A42.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1390433308	1 =	=	8A42.Z	
16694	6 予防接種後脳脊髄炎	L	G040	S772	下:8A42.Z	下:8A42.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1229845027	1 <	<	8A42.Y	8A42.Y その他の特定の急性散在性脳脊髄炎
16695	6 フクチン接種後脳炎	S1	G040	S772	下:8A42.Z	下:8A42.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1229845027	1 <	<	8A42.Y	
16696	6 フクチン接種後脳脊髄炎	S1	G040	S772	下:8A42.Z	下:8A42.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1229845027	1 <	<	8A42.Y	8A42.Y その他の特定の急性散在性脳脊髄炎
16697	6 種痘後脳脊髄炎	S2	G040	S772	下:8A42.Z	下:8A42.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1229845027	1 <	<	8A42.Y	
16698	6 種痘後脳脊髄炎	S2	G040	S772	下:8A42.Z	下:8A42.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1229845027	1 <	<	8A42.Y	
16699	6 化膿性脊髄炎	L	G042	J1AS	上:1D01.0Z1 上:1D00.01 上:1D02.0	上:1D01.0Z1 上:1D00.01 上:1D02.0		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/392898612	1 <	<	1D02.Y	1D01.Y 1D02.Y 他に分類されていないその他の特定の感染性脊髄炎、化膿性は、表現できない。
16700	6 化膿性脳髄膜炎	L	G042	NRRF	上:1D01.0Z1 上:1D00.01 上:1D02.0	上:1D01.0Z1 上:1D00.01 上:1D02.0		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/976163179	1 <	<	1D01.Y & XA6HA2	1D01.Y (脳髄膜炎は、髄膜炎 = meningoencephalitis と同義と判断) 1D01.Y 脳髄膜炎 = cerebral meningitis. post-coordination で脳髄膜炎を追加。化膿性は表現できない。
16701	6 抗NMDA受容体脳炎	L	G048	A01K	上:8E4A.1 上:8E4A.01 上:1D00.Z1 上:8E4A.1	上:8E4A.1 上:8E4A.01 上:1D00.Z1 上:8E4A.1		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1568915618	1 <	<	8E4A.0	8E4A.0
16702	6 抗NMDA受容体脳炎	S0	G048	A01K	上:1D00.Z1 上:8E4A.1	上:1D00.Z1 上:8E4A.1		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1568915618	1 <	<	8E4A.0	

No	ICD10 章	標準病名	代表・同義	ICD10 コード	交換コード	旧ツグビ ツグ	新ツグビ ツグ2022	病名として現 代では不適切	確 信 度	関 係	ICD11 Foundation URI	確 信 度	関 係	MMS	備考
16703	6	急性小脳性失調症	L	G048	ELFK	U:8E4A1 U:8E4A.0 E:1D00.Z1 U:8E4A.1	U:8E4A1 U:8E4A.0 E:1D00.Z1 U:8E4A.1		1 =	<	http://id.who.int/icd/entity/385351156	1 =	=	8E4A.0 / 1D00.Z	8A03.16 (小脳性失調症＝脊髄性小脳失調症 Spino cerebellar ataxia と判断) →急性小脳失調症 (acute cerebellar ataxia/ACA) は、2〜4歳児に多く見られ、先行感染やワクチン接種後、一定期間をおいて、突然、体幹失調、失調歩行、測定障害、企図振戦、眼振、構音障害などの小脳症状で発症。ところから、感染後脳炎に修正。
16704	6	自己免疫性辺縁系脳炎	L	G048	GFR8	U:8E4A1 U:8E4A.0 E:1D00.Z1 U:8E4A.1	U:8E4A1 U:8E4A.0 E:1D00.Z1 U:8E4A.1		1 =	<	http://id.who.int/icd/entity/1254443511	1 <	<	8E4A.0	8E4A.0 (自己免疫性辺縁系脳炎＝Autoimmune limbic encephalitis)
16705	6	感染後脳炎	L	G048	HVPA	U:8E4A1 U:8E4A.0 E:1D00.Z1 U:8E4A.1	U:8E4A1 U:8E4A.0 E:1D00.Z1 U:8E4A.1		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/385351156	1 =	=	8E4A.0 / 1D00.Z	
16706	6	感染後脳脊髄炎	L	G048	JUG	U:8E4A1 U:8E4A.0 E:1D00.Z1 U:8E4A.1	U:8E4A1 U:8E4A.0 E:1D00.Z1 U:8E4A.1		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/680294872	1 <	<	8A42.Y	8A42.Y
16707	6	ラヌムツェン脳炎	L	G048	KFAM	U:8E4A1 U:8E4A.0 E:1D00.Z1 U:8E4A.1	U:8E4A1 U:8E4A.0 E:1D00.Z1 U:8E4A.1		1 <	<	http://id.who.int/icd/entity/62637936	1 <	<	8E48	8E48 →1. 「ラヌムツェン脳炎」 とは ラヌムツェン (Rasmussen) 症候群と呼ばれることも多く、慢性進行性の神経疾患です。健康者に何らかの先行感染症があった後などに、脳の限られた領域に免疫反応による炎症がおこり、てんかん発作で発病します。その後、てんかん発作が難治に経過し、次第に片麻痺・知的障害などが出現し、左右どちらかの脳萎縮が始まります。(指定難病151)
16708	6	RASMUSSEN症候群	S1	G048	KFAM	U:8E4A1 U:8E4A.0 E:1D00.Z1 U:8E4A.1	U:8E4A1 U:8E4A.0 E:1D00.Z1 U:8E4A.1		1 <	<	http://id.who.int/icd/entity/62637936	1 <	<	8E48	
16709	6	ラヌムツェン症候群	S1	G048	KFAM	U:8E4A1 U:8E4A.0 E:1D00.Z1 U:8E4A.1	U:8E4A1 U:8E4A.0 E:1D00.Z1 U:8E4A.1		1 <	<	http://id.who.int/icd/entity/62637936	1 <	<	8E48	
16710	6	RASMUSSEN脳炎	S1	G048	KFAM	U:8E4A1 U:8E4A.0 E:1D00.Z1 U:8E4A.1	U:8E4A1 U:8E4A.0 E:1D00.Z1 U:8E4A.1		1 <	<	http://id.who.int/icd/entity/62637936	1 <	<	8E48	
16711	6	アトピー性脊髄炎	L	G048	M1MA	U:8E4A1 U:8E4A.0 E:1D00.Z1 U:8E4A.1	U:8E4A1 U:8E4A.0 E:1D00.Z1 U:8E4A.1		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1993728609/ http://id.who.int/icd/entity/215767047	1 =	=	8B41 / EAB0	8B41/ EAB0 →アトピー性脊髄炎とは、アトピー性皮膚炎、気管支喘息、アレルギー性鼻炎・結膜炎などのアトピー素因を有する患者で見られる脊髄炎である。1997年に吉良らから4例の高βHDL血症とアトピー性皮膚炎を伴った、四肢の異常感覚(じんじん感)を呈し頸髄後索を主病変とする脊髄炎を報告し、アトピー性脊髄炎と命名した。(指定難病116)
16712	6	圧迫性脊髄炎	L	G049	A08G	U:8E4Z U:8E4A.0 E:1D00.Z1	U:8E4Z U:8E4A.0 E:1D00.Z1		1 <	<	http://id.who.int/icd/entity/1993728609	1 <	<	8B41	8E4Z (圧迫性脊髄炎＝Compressive myelitis) →8E4Zのコードは削除されていたので、8B41脊髄炎とした。圧迫性は表現できず。
16713	6	脳炎	L	G049	BA38	U:8E4Z	U:8E4Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/62637936	1 =	=	1D00.Z	1D00.Z (同義語に、脳炎＝encephalitis)

No	ICD10 章	標準病名	代表・同義	ICD10 コード	交換コード	旧バージョン	新バージョン2022	病名として現は不適切	確信度	関係	ICD11 Foundation URI	確信度	関係	MMS	備考
16714	6	辺縁系脳炎		G049	B1M4	F: 8E4Z	F:		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1058231555	1 <	8E4A.Y	8E4A.Y	8E48 (辺縁系脳炎は、脳炎の一種と判断) ⇒ https://www.nips.ac.jp/release/2013/11/ig11.htm の研究結果「てんかん関連分子IgG1に対する自己抗体がシナプス機能異常を引き起こし、辺縁系脳炎を惹起している可能性が極めて高いことを突き止めました。」から、8E4A.Yその他の特定の神経系の腫瘍随伴腫瘍または自己免疫疾患とした。
16715	6	辺縁系脳症		G049	B1M4	F: 8E4Z	F:		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1058231555	1 <	8E4A.Y	8E4A.Y	
16716	6	急性上行性脊髄炎		G049	COAN	F: 8E4Z	F:		1 =		http://id.who.int/icd/entity/392898612	1 <	1D02.Z	1D02.Z	1C81 (急性上行性脊髄炎= Acute ascending myelitis) ⇒ 感染性脊髄炎の原因菌は、梅毒、イソプレノキサクテンなどであり、当初作業で考えたボリオによる脊髄炎だけではないので、修正。 1D00.Z (続発性脳炎= Secondary encephalitis) 8B41 (多発性神経障害の1種と判断 polymyalgic neuritis) ⇒ 神経根脊髄炎+XA2330 複数の神経とした。
16717	6	続発性脳炎		G049	CVAN	F: 8E4Z	F:		1 <		http://id.who.int/icd/entity/62632936	1 <	1D00.Z	1D00.Z	
16718	6	多発性脊髄神経根炎		G049	F11	F: 8E4Z	F:		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1993728609 & http://id.who.int/icd/entity/5919770	1 =	MB41 & XA2330	MB41 & XA2330	
16719	6	多発性脊髄根神経根炎		G049	F11	F: 8E4Z	F:		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1993728609 & http://id.who.int/icd/entity/5919770	1 =	MB41 & XA2330	MB41 & XA2330	
16720	6	慢性脊髄炎		G049	HAVT	F: 8E4Z	F:		1 =		http://id.who.int/icd/entity/717041349	1 <	FB84.Y	FB84.Y	FB84.Y (慢性脊髄炎= Chronic myelitis) 1D01.Y
16721	6	脊髄髄膜炎		G049	HRFC	F: 8E4Z	F:		1 =		http://id.who.int/icd/entity/703043937	1 <	1D01.Y	1D01.Y	
16722	6	急性脊髄炎		G049	K4PC	F: 8E4Z	F:		1 =		http://id.who.int/icd/entity/392898612	1 <	1D02.Z	1D02.Z	1D02.Z (同義語に、Acute myelitis)
16723	6	慢性脳炎		G049	L4B3	F: 8E4Z	F:		1 =		http://id.who.int/icd/entity/62632936 & http://id.who.int/icd/entity/490003542	1 =	1D00.Z & XT8W	1D00.Z & XT8W	1D00.Z & XT8W (脳炎&慢性) 1D00.Z (髄膜炎= meningomyelitis)
16724	6	髄膜炎脊髄炎		G049	N1JF	F: 8E4Z	F:		1 =		http://id.who.int/icd/entity/62637936	1 <	1D00.Z	1D00.Z	1D00.Z (同義語に、脳室炎= Ventriculitis (cerebral)) ⇒ 2022年の英語を参照して1D0Yに修正。 8B41
16725	6	慢性脊髄炎		G049	NUOD	F: 8E4Z	F:		1 <		http://id.who.int/icd/entity/1993728609	1 <	8B41	8B41	
16726	6	脳室炎		G049	P67M	F: 8E4Z	F:		1 =		http://id.who.int/icd/entity/650157499	1 <	1D0Y	1D0Y	8E4Z (脳脊髄炎= encephalomyelitis) ⇒ 2022年の英語を参照して1D1Yに修正。
16727	6	脳脊髄炎		G049	S3C2	F: 8E4Z	F:		1 =		http://id.who.int/icd/entity/703043937	1 <	1D01.Y	1D01.Y	
16728	6	脊髄炎		G049	TBRH	F: 8E4Z	F:		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1993728609	1 =	8B41	8B41	
16729	6	髄膜炎		G049	VD10	F: 8E4Z	F:		1 =		http://id.who.int/icd/entity/703043937	1 <	1D01.Y	1D01.Y	1D01.Y (同義語に、髄膜炎= Meningoencephalitis) 1D03.3Z & XA2001 (腫瘍&頭部) ⇒ 1D03.3Y その他の特定の頭蓋内腫瘍 (前頭葉腫瘍) : 前頭部脳腫瘍と前頭葉腫瘍は同義と判断した。
16730	6	前頭部脳腫瘍		G060	A01D	1D03.3Z 上: 1D04.1Z	1D03.3Z 上: 1D04.1Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1869337295	1 <	1D03.3Y	1D03.3Y	1D03.3Z & XA2001 (腫瘍&頭部) ⇒ 1D03.3Y その他の特定の頭蓋内腫瘍 (側頭葉腫瘍) : 側頭部脳腫瘍と側頭葉腫瘍は同義と判断した。
16731	6	側頭部脳腫瘍		G060	BE9P	1D03.3Z 上: 1D04.1Z	1D03.3Z 上: 1D04.1Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1881104788	1 <	1D03.3Y	1D03.3Y	1D03.3Z & XA2001 (腫瘍&頭部) ⇒ 1D03.3Y その他の特定の頭蓋内腫瘍 (側頭葉腫瘍) : 側頭部脳腫瘍と側頭葉腫瘍は同義と判断した。
16732	6	脳腫瘍		G060	DF8T	1D03.3Z 上: 1D04.1Z	1D03.3Z 上: 1D04.1Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1128677700	1 =	1D03.3Z	1D03.3Z	1D03.3Z 頭蓋内腫瘍、詳細不明
16733	6	後頭部脳腫瘍		G060	E9S3	1D03.3Z 上: 1D04.1Z	1D03.3Z 上: 1D04.1Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1386001399	1 <	1D03.3Y	1D03.3Y	1D03.3Z & XA2001 (腫瘍&頭部) ⇒ 1D03.3Y その他の特定の頭蓋内腫瘍 (後頭部脳腫瘍と後頭葉腫瘍は同義と判断し) : 後頭部脳腫瘍と後頭葉腫瘍は同義と判断した。
16734	6	頭頂部脳腫瘍		G060	FMFF	1D03.3Z 上: 1D04.1Z	1D03.3Z 上: 1D04.1Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1200373998	1 <	1D03.3Y	1D03.3Y	1D03.3Z & XA2001 (腫瘍&頭部) ⇒ 1D03.3Y その他の特定の頭蓋内腫瘍 (頭頂葉腫瘍) : 頭頂部脳腫瘍と頭頂葉腫瘍は同義と判断した。
16735	6	硬膜下肉芽腫		G060	KM33	1D03.3Z 上: 1D04.1Z	1D03.3Z 上: 1D04.1Z		1 <		http://id.who.int/icd/entity/629126866	1 <	1D04.1Y	1D04.1Y	1D04.3 ⇒ 1D04.1Y その他の特定の頭蓋内肉芽腫 : 硬膜下は表現できず。
16736	6	頭蓋内腫瘍		G060	NOGM	1D03.3Z 上: 1D04.1Z	1D03.3Z 上: 1D04.1Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1128677700	1 =	1D03.3Z	1D03.3Z	1D03.3Z 頭蓋内腫瘍、詳細不明

No	ICD10 章	標準病名	代表・同義	ICD10 コード	交換コード	旧バージョン	新バージョン2022	病名として現 代では不適切	確 信 度	関 係	ICD11 Foundation URI	確 信 度	関 係	MMS	備考
16737	6	大脳性膿瘍	S2	G060	NOGM	上: 1D03.3Z1 上:1D04.1Z	上: 1D03.3Z1 上:1D04.1Z		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1128677700	1 =	1D03.3Z		
16738	6	側頭葉膿瘍	S2	G060	NOGM	上: 1D03.3Z1 上:1D04.1Z	上: 1D03.3Z1 上:1D04.1Z		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1881104788	1 <	1D03.3Y	foundation では、側頭葉膿瘍<大葉性大脳半球膿瘍<頭蓋内膿瘍という関係性になる。	
16739	6	小脳脳膿瘍	L	G060	U31K	上: 1D03.3Z1 上:1D04.1Z	上: 1D03.3Z1 上:1D04.1Z		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1656744891	1 <	1D03.3Y	1D03.3Y (小脳脳膿瘍 = cerebellar Abscess)	
16740	6	小脳膿瘍	S1	G060	U31K	上: 1D03.3Z1 上:1D04.1Z	上: 1D03.3Z1 上:1D04.1Z		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1656744891	1 <	1D03.3Y		
16741	6	小脳性膿瘍	S1	G060	U31K	上: 1D03.3Z1 上:1D04.1Z	上: 1D03.3Z1 上:1D04.1Z		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1656744891	1 <	1D03.3Y		
16742	6	硬膜外肉芽腫	L	G060	VB5C	上: 1D03.3Z1 上:1D04.1Z	上: 1D03.3Z1 上:1D04.1Z		1 <	1 <	http://id.who.int/icd/entity/629126866	1 <	1D04.1Y	1D04.3 → 1D04.1Y その他の特定の頭蓋内肉芽腫：硬膜外は表現できず。	
16743	6	脊椎管内肉芽腫	L	G061	DG6T	上:1D03.Z1 上:1D04.Z	上:1D03.Z1 上:1D04.Z		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/2017227771	1 =	1D04.2	脊椎管内は、脊髄内と判断	
16744	6	脊髄膿瘍	L	G061	F3C	上:1D03.Z1 上:1D04.Z	上:1D03.Z1 上:1D04.Z		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/486617244	1 =	1D03.5	1D03.5 脊髄膿瘍	
16745	6	髄内膿瘍	S1	G061	F3C	上:1D03.Z1 上:1D04.Z	上:1D03.Z1 上:1D04.Z		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/293905246	1 <	1D03.3Y	1D03.3Y その他の特定の頭蓋内膿瘍	
16746	6	脊髄伝染膿瘍	S2	G061	F3C	上:1D03.Z1 上:1D04.Z	上:1D03.Z1 上:1D04.Z		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/293905246	1 <	1D03.3Y		
16747	6	脊髄伝染膿	S2	G061	F3C	上:1D03.Z1 上:1D04.Z	上:1D03.Z1 上:1D04.Z		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/293905246	1 <	1D03.3Y		
16748	6	脊髄硬膜外膿瘍	L	G061	R88S	上:1D03.Z1 上:1D04.Z	上:1D03.Z1 上:1D04.Z		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1299705786	1 =	1D03.4	1D03.4 脊髄内硬膜外膿瘍	
16749	6	脊柱管内膿瘍	S2	G061	R88S	上:1D03.Z1 上:1D04.Z	上:1D03.Z1 上:1D04.Z		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1299705786	1 =	1D03.4		
16750	6	脊柱管内膿瘍	S2	G061	R88S	上:1D03.Z1 上:1D04.Z	上:1D03.Z1 上:1D04.Z		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1299705786	1 =	1D03.4		
16751	6	硬膜下膿瘍	L	G062	LSK1	上:1D03.Z 上:	上:1D03.Z&XA08F7		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/613341872	1 =	1D03.1	1D03.1 (硬膜下膿瘍 = Subdural abscess)	
16752	6	くも膜下膿瘍	L	G062	QPAF	上:1D03.Z 上:	上:1D03.Z&XA08F7		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1913657904	1 <	1D03.Y	1D03.Y 中枢神経系の感染性膿瘍の他の特定の部位	
16753	6	硬膜内膿瘍	L	G062	SC5T	上:1D03.Z 上:	上:1D03.Z&XA08F7		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/52701557	1 =	1D03.Y & XA08F7	1D03.Y 中枢神経系の感染性膿瘍 & 頭蓋硬膜) → 1D03.Y 中枢神経系の感染性膿瘍 + XA08F7 頭蓋内部位。他に分類されていないに修正。	
16754	6	硬膜外膿瘍	L	G062	VF8R	上:1D03.Z 上:	上:1D03.Z&XA08F7		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1299705786	1 =	1D03.4	1D03.4 (硬膜外膿瘍 = Epidural abscess)	
16755	6	脳静脈血栓症	L	G08	AU63	上:8822.1 上:8822.1	上:8822.1 上:8822.1		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1655658429	1 =	8822.1	8822.1 (脳静脈血栓症 = Cerebral venous thrombosis)	
16756	6	頭蓋内静脈血栓症	S1	G08	AU63	上:8822.1 上:8822.1	上:8822.1 上:8822.1		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1655658429	1 =	8822.1		
16757	6	脳静脈血栓症	S1	G08	AU63	上:8822.1 上:8822.1	上:8822.1 上:8822.1		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1655658429	1 =	8822.1		
16758	6	頭蓋静脈血栓症	S1	G08	AU63	上:8822.1 上:8822.1	上:8822.1 上:8822.1		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1655658429	1 =	8822.1		
16759	6	頭蓋内静脈洞炎	S2	G08	AU63	上:8822.1 上:8822.1	上:8822.1 上:8822.1		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1655658429	1 =	8822.1		
16760	6	頭蓋静脈洞炎	S2	G08	AU63	上:8822.1 上:8822.1	上:8822.1 上:8822.1		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1655658429	1 =	8822.1		

標準病名のICD-11コーディング作業結果

～ 第7章 標準病名 ～ (5ページのみ抜粋)

No	ICD10 標準病名	ICD11 和訳 との 一致	代 表・ 同義	ICD10 コー ド	交換 コー ド	マッピング 情報(旧)	マッピング 情報2022	病名 とし て現 代で	修正 の有 無	確 信 度	関 係	ICD11 Foundation URI	確 信 度	関 係	NIMS	備考
18877	7 麦粒腫	1 L		H000	BH69	=:9A01.2Z1 上:9A01.0I 上:9A01.1	=:9A01.2Z1 上:9A01.0I 上:9A01.1			1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1259721852	1 =	=	9A01.2Z	Stye Hordeolum
18878	7 眼瞼麦粒腫	0 S1		H000	BH69	=:9A01.2Z1 上:9A01.0I 上:9A01.1	=:9A01.2Z1 上:9A01.0I 上:9A01.1			1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1259721852	1 =	=	9A01.2Z	眼瞼：まぶた
18879	7 ものもらい	0 S1		H000	BH69	=:9A01.2Z1 上:9A01.0I 上:9A01.1	=:9A01.2Z1 上:9A01.0I 上:9A01.1			1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1259721852	1 =	=	9A01.2Z	
18880	7 眼瞼膿瘍	1 S2		H000	BH69	=:9A01.2Z1 上:9A01.0I 上:9A01.1	=:9A01.2Z1 上:9A01.0I 上:9A01.1			1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/247839673	1 =	=	9A01.1	lid abscess
18881	7 上眼瞼部せつ	0 S2		H000	BH69	=:9A01.2Z1 上:9A01.0I 上:9A01.1	=:9A01.2Z1 上:9A01.0I 上:9A01.1			1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1921810289	1 =	=	9A01.1&XA9K79	Abscess of upper eyelid
18882	7 眼瞼せつ	0 S2		H000	BH69	=:9A01.2Z1 上:9A01.0I 上:9A01.1	=:9A01.2Z1 上:9A01.0I 上:9A01.1			1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/247839673	1 =	=	9A01.1	
18883	7 下眼瞼蜂巣炎	0 L		H000	DE51	=:9A01.2Z1 上:9A01.0I 上:9A01.1	=:9A01.2Z1 上:9A01.0I 上:9A01.1			1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1435390252 & http://id.who.int/icd/entity/1468820019 / http://id.who.int/icd/entity/214474073	1 <	=	9A01.Y & XA01V9 / 1B70.Z	Infectious disorders of eyelid & lower eyelids / cellulitis NOS auto_awesome まぶたの感染症&下まぶた/蜂窩織炎 NOS
18884	7 下眼瞼蜂窩織炎	0 S1		H000	DE51	=:9A01.2Z1 上:9A01.0I 上:9A01.1	=:9A01.2Z1 上:9A01.0I 上:9A01.1			1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1435390252 & http://id.who.int/icd/entity/1468820019 / http://id.who.int/icd/entity/214474073	1 <	=	9A01.Y & XA01V9 / 1B70.Z	
18885	7 下イボー△腺炎	0 L		H000	FKFM	=:9A01.2Z1 上:9A01.0I 上:9A01.1	=:9A01.2Z1 上:9A01.0I 上:9A01.1			1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1435390252 & http://id.who.int/icd/entity/1223272140	1 =	=	9A01.Y&XA9D80	Infectious disorders of eyelid & Meibomian gland
18886	7 睑板腺炎	0 S1		H000	FKFM	=:9A01.2Z1 上:9A01.0I 上:9A01.1	=:9A01.2Z1 上:9A01.0I 上:9A01.1			1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1435390252 & http://id.who.int/icd/entity/1223272140	1 =	=	9A01.Y&XA9D80	
18887	7 下イボー△腺膿瘍	1 S2		H000	FKFM	=:9A01.2Z1 上:9A01.0I 上:9A01.1	=:9A01.2Z1 上:9A01.0I 上:9A01.1			1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1804498472	1 =	=	9A01.21	Meibomian gland abscess
18888	7 眼瞼蜂巣炎	0 L		H000	GF5G	=:9A01.2Z1 上:9A01.0I 上:9A01.1	=:9A01.2Z1 上:9A01.0I 上:9A01.1		1	1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1435390252 / http://id.who.int/icd/entity/214474073	1 <	=	9A01.Y/1B70.Z	Infectious disorders of eyelid / cellulitis NOS
18889	7 眼瞼シラゲモーネ	0 S1		H000	GF5G	=:9A01.2Z1 上:9A01.0I 上:9A01.1	=:9A01.2Z1 上:9A01.0I 上:9A01.1			1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1435390252 / http://id.who.int/icd/entity/214474073	1 <	=	9A01.Y/1B70.Z	蜂窩織炎(シラゲモーネ)
18890	7 眼瞼蜂窩織炎	0 S1		H000	GF5G	=:9A01.2Z1 上:9A01.0I 上:9A01.1	=:9A01.2Z1 上:9A01.0I 上:9A01.1			1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1435390252 / http://id.who.int/icd/entity/214474073	1 <	=	9A01.Y/1B70.Z	
18891	7 内麦粒腫	1 L		H000	N2TV	=:9A01.2Z1 上:9A01.0I 上:9A01.1	=:9A01.2Z1 上:9A01.0I 上:9A01.1			1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1804498472	1 =	=	9A01.21	Internal hordeolum Hordeolum internum
18892	7 外麦粒腫	1 L		H000	N1CK	=:9A01.2Z1 上:9A01.0I 上:9A01.1	=:9A01.2Z1 上:9A01.0I 上:9A01.1			1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/522397394	1 =	=	9A01.20	Hordeolum externum External hordeolum

No	ICD10 章	標準病名	ICD11 和訳 との 一致	代 表・ 同義	ICD10 コー ド	交換 コー ド	マッピング 情報(旧)	マッピング 情報2022	病名 とし て現 代で	修正 の有 無	確 信 度	関 係	ICD11 Foundation URI	確 信 度	関 係	MMS	備考
18893	7	上眼瞼蜂巣炎	0 L		H000	T6M	=:9A01.2Z1 上:9A01.0I 上:9A01.1	=:9A01.2Z1 上:9A01.0I 上:9A01.1			1 =	<	http://id.who.int/icd/entity/1435390252/ http://id.who.int/icd/entity/2144747073/ & http://id.who.int/icd/entity/844452979	1 <		9A01.Y/1B70.Z&XA9K79 & upper eyelids	Infectious disorders of eyelid / cellulitis NOS
18894	7	上眼瞼蜂窩織炎	0 S1		H000	T6M	=:9A01.2Z1 上:9A01.0I 上:9A01.1	=:9A01.2Z1 上:9A01.0I 上:9A01.1			1 =	<	http://id.who.int/icd/entity/1435390252/ http://id.who.int/icd/entity/2144747073/ & http://id.who.int/icd/entity/844452979	1 <		9A01.Y/1B70.Z&XA9K79	
18895	7	急性霰粒腫	0 L		H001	GAN8	=:9A02.0Z	=:9A02.0Z			1 <	<	http://id.who.int/icd/entity/777918741/ & http://id.who.int/icd/entity/786106575	1 <		9A02.OZ & XT5R	Chalazion & Acute
18896	7	上尖性霰粒腫	0 L		H001	J7F	=:9A02.0Z	=:9A02.0Z			1 <	<	http://id.who.int/icd/entity/777918741/	1 <		9A02.OZ	
18897	7	霰粒腫	1 L		H001	MENL	=:9A02.0Z	=:9A02.0Z			1 =	<	http://id.who.int/icd/entity/777918741/	1 <		9A02.OZ	
18898	7	眼瞼肉芽腫	0 S1		H001	MENL	=:9A02.0Z	=:9A02.0Z			1 =	<	http://id.who.int/icd/entity/777918741/	1 <		9A02.OZ	
18899	7	慢性霰粒腫	0 S1		H001	MENL	=:9A02.0Z	=:9A02.0Z			1 =	<	http://id.who.int/icd/entity/777918741/ & http://id.who.int/icd/entity/490003542	1 <		9A02.OZ & XT8W	霰粒腫とは、眼瞼（まぶた）にある「イ ホーム腺（涙の脂分を分泌する腺）が詰 まることによって生じる慢性肉芽腫疾患 慢性
18900	7	眼瞼霰粒腫	0 S1		H001	MENL	=:9A02.0Z	=:9A02.0Z			1 =	<	http://id.who.int/icd/entity/777918741/	1 <		9A02.OZ	
18901	7	眼瞼腺栓塞	0 S2		H001	MENL	=:9A02.0Z	=:9A02.0Z			1 <	<	http://id.who.int/icd/entity/2113471999	1 <		9A02.4	Melbomian gland dysfunction
18902	7	ホリーニチ霰粒腫	0 S2		H001	MENL	=:9A02.0Z	=:9A02.0Z			1 =	<	http://id.who.int/icd/entity/777918741/	1 <		9A02.OZ	
18903	7	化膿性霰粒腫	0 L		H001	Q47S	=:9A02.0Z	=:9A02.0Z			1 <	<	http://id.who.int/icd/entity/777918741/	1 <		9A02.OZ	
18904	7	下尖性霰粒腫	0 L		H001	RQTF	=:9A02.0Z	=:9A02.0Z			1 <	<	http://id.who.int/icd/entity/777918741/	1 <		9A02.OZ	
18905	7	睫毛性眼瞼炎	0 L		H010	CG8A	=:9A01.3I 下:9A02	=:9A01.3I 下:9A02			1 =	<	http://id.who.int/icd/entity/14751569944	1 =		9A01.3	ciliary blepharitis
18906	7	しゅさ性眼瞼炎	0 L		H010	D2AV	=:9A01.3I 下:9A02	=:9A01.3I 下:9A02			1 <	<	http://id.who.int/icd/entity/1475156994	1 <		9A01.3	Infectious blepharitis 赤みやぼてりが生 じる病気
18907	7	酒さ性眼瞼炎	0 S1		H010	D2AV	=:9A01.3I 下:9A02	=:9A01.3I 下:9A02			1 <	<	http://id.who.int/icd/entity/1475156994	1 <		9A01.3	
18908	7	毒物性眼瞼炎	0 L		H010	ERHA	=:9A01.3I 下:9A02	=:9A01.3I 下:9A02			1 <	<	http://id.who.int/icd/entity/1475156994	1 <		9A01.3	Infectious blepharitis
18909	7	眼角部眼瞼炎	0 L		H010	FMNJ	=:9A01.3I 下:9A02	=:9A01.3I 下:9A02			1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1475156994 & http://id.who.int/icd/entity/2044502963	1 =		9A01.3 & XA0403	Infectious blepharitis & Lateral canthus
18910	7	眼瞼炎	0 L		H010	JUUR	=:9A01.3I 下:9A02	=:9A01.3I 下:9A02		1	1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1475156994	1 =		9A01.3	Infectious blepharitis
18911	7	眼瞼発赤	0 S2		H010	JUUR	=:9A01.3I 下:9A02	=:9A01.3I 下:9A02			1 <	<	http://id.who.int/icd/entity/1475156994	1 <		9A01.3	
18912	7	湿疹性眼瞼炎	0 L		H010	K8A2	=:9A01.3I 下:9A02	=:9A01.3I 下:9A02			1 <	<	http://id.who.int/icd/entity/1475156994	1 <		9A01.3	Infectious blepharitis
18913	7	眼瞼縁炎	1 L		H010	L822	=:9A01.3I 下:9A02	=:9A01.3I 下:9A02			1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1475156994	1 =		9A01.3	marginal blepharitis
18914	7	眼瞼周囲炎	0 S1		H010	L822	=:9A01.3I 下:9A02	=:9A01.3I 下:9A02			1 <	<	http://id.who.int/icd/entity/1475156994	1 <		9A01.3	
18915	7	毛包眼瞼炎	0 L		H010	MQND	=:9A01.3I 下:9A02	=:9A01.3I 下:9A02			1 <	<	http://id.who.int/icd/entity/1475156994	1 <		9A01.3	Infectious blepharitis
18916	7	毛のう眼瞼炎	0 S1		H010	MQND	=:9A01.3I 下:9A02	=:9A01.3I 下:9A02			1 <	<	http://id.who.int/icd/entity/1475156994	1 <		9A01.3	
18917	7	毛嚢眼瞼炎	0 S1		H010	MQND	=:9A01.3I 下:9A02	=:9A01.3I 下:9A02			1 <	<	http://id.who.int/icd/entity/1475156994	1 <		9A01.3	

No	ICD10 標準病名	ICD11 和訳との一致	代 表・ 同義	ICD10 コー ド	交換 コー ド	マップング 情報(旧)	マップング 情報2022	病名 とし て現 代で	修正 の有 無	確 信 度	関 係	ICD11 Foundation URI	確 信 度	関 係	NIMS	備考
18918	7 脂漏性眼瞼炎	1 L		H010	R8TH	=:9A01.31 下:9A02	=:9A01.31 下:9A02			1 =		http://id.who.int/icd/entity/1420272543	1 =		9A06.71	Seborrheic blepharitis
18919	7 脂肪性眼瞼炎	0 S1		H010	R8TH	=:9A01.31 下:9A02	=:9A01.31 下:9A02			1 =		http://id.who.int/icd/entity/1420272543	1 =		9A06.71	
18920	7 潰瘍性眼瞼炎	0 L		H010	RSQV	=:9A01.31 下:9A02	=:9A01.31 下:9A02			1 =		http://id.who.int/icd/entity/1475156994	1 <		9A01.3	blepharitis, nonulcerative
18921	7 フビドウ球菌性眼瞼炎	0 L		H010	SC21	=:9A01.31 下:9A02	=:9A01.31 下:9A02			1 =		http://id.who.int/icd/entity/1475156994 & http://id.who.int/icd/entity/4289565900	1 =		9A01.3 & XN9Z6	Infectious blepharitis & Staphylococcus
18922	7 フドウ球菌性眼瞼炎	0 S1		H010	SC21	=:9A01.31 下:9A02	=:9A01.31 下:9A02			1 =		http://id.who.int/icd/entity/1475156994 & http://id.who.int/icd/entity/4289565900	1 =		9A01.3 & XN9Z6	
18923	7 薬物性眼瞼炎	0 L		H010	UR8B	=:9A01.31 下:9A02	=:9A01.31 下:9A02			1 <		http://id.who.int/icd/entity/1475156994	1 <		9A01.3	
18924	7 接触性眼瞼皮膚炎	0 L		H011	BE6G	下:9A06	下:9A06			1 =		http://id.who.int/icd/entity/2083171222	1 <		9A06.Y	Contact dermatitis of eyelid
18925	7 眼瞼乾皮症	0 L		H011	P136	下:9A06	下:9A06			1 =		http://id.who.int/icd/entity/144401595	1 <		9A06.Y	Xeroderma of eyelid
18926	7 眼瞼皮膚炎	0 L		H011	R863	下:9A06	下:9A06			1 =		http://id.who.int/icd/entity/849793428	1 <		9A06.Y	eyelid dermatitis
18927	7 眼瞼の非感染性皮膚症	0 S2		H011	R863	下:9A06	下:9A06			1 =		http://id.who.int/icd/entity/849793428	1 <		9A06.Y	Noninfectious dermatoses of eyelid
18928	7 アレルギー性眼瞼縁炎	0 L		H011	U511	下:9A06	下:9A06			1 =		http://id.who.int/icd/entity/394493841	1 <		9A06.Y	Allergic dermatitis of eyelid
18929	7 アレルギー性眼瞼炎	1 L		H011	VQU3	下:9A06	下:9A06			1 =		http://id.who.int/icd/entity/394493841	1 <		9A06.Y	allergic blepharitis
18930	7 アトピー性眼瞼皮膚炎	0 S1		H011	VQU3	下:9A06	下:9A06			1 =		http://id.who.int/icd/entity/1979385529	1 =		9A06.70	Atopic eczema of eyelids
18931	7 アレルギー性眼瞼皮膚炎	0 S1		H011	VQU3	下:9A06	下:9A06			1 =		http://id.who.int/icd/entity/394493841	1 <		9A06.Y	
18932	7 湿疹性眼瞼皮膚炎	0 L		H011	VRBV	下:9A06	下:9A06			1 =		http://id.who.int/icd/entity/1226494092	1 <		9A06.Y	Eczematous dermatitis of eyelids
18933	7 眼瞼湿疹	1 S2		H011	VRBV	下:9A06	下:9A06			1 =		http://id.who.int/icd/entity/1226494092	1 <		9A06.Y	Eyelid eczema
18934	7 眼瞼びらん	0 L		H018	TU0D	下:9A02	下:9A02			1 <		http://id.who.int/icd/entity/1504678744	1 <		9A02.Y	Other specified inflammatory disorders of eyelid
18935	7 眼瞼嚢孔	0 L		H018	V58B	下:9A02	下:9A02			1 <		http://id.who.int/icd/entity/1504678744	1 <		9A02.Y	Other specified inflammatory disorders of eyelid
18936	7 眼瞼内反症	1 L		H020	CO1U	上:9A03.12I 上:9A04.0	上:9A03.12I 上:9A04.0			1 =		http://id.who.int/icd/entity/1516023078	1 =		9A03.1Z	Entropion of eyelid
18937	7 眼瞼内反(症)	0 S1		H020	CO1U	上:9A03.12I 上:9A04.0	上:9A03.12I 上:9A04.0			1 =		http://id.who.int/icd/entity/1516023078	1 =		9A03.1Z	
18938	7 眼瞼内反	0 S1		H020	CO1U	上:9A03.12I 上:9A04.0	上:9A03.12I 上:9A04.0			1 =		http://id.who.int/icd/entity/1516023078	1 =		9A03.1Z	
18939	7 癩性眼瞼内反症	0 L		H020	EC4E	上:9A03.12I 上:9A04.0	上:9A03.12I 上:9A04.0			1 =		http://id.who.int/icd/entity/1058496888	1 =		9A03.10	Cicatricial entropion of eyelid
18940	7 睫毛乱生症	0 L		H020	F56H	上:9A03.12I 上:9A04.0	上:9A03.12I 上:9A04.0			1 =		http://id.who.int/icd/entity/945071067	1 <		9A03.1Z	Entropion of eyelid
18941	7 睫毛乱生(症)	0 S1		H020	F56H	上:9A03.12I 上:9A04.0	上:9A03.12I 上:9A04.0			1 =		http://id.who.int/icd/entity/945071067	1 <		9A03.1Z	
18942	7 睫毛乱生	0 S1		H020	F56H	上:9A03.12I 上:9A04.0	上:9A03.12I 上:9A04.0			1 =		http://id.who.int/icd/entity/945071067	1 <		9A03.1Z	
18943	7 眼瞼睫毛乱生症	0 S1		H020	F56H	上:9A03.12I 上:9A04.0	上:9A03.12I 上:9A04.0			1 =		http://id.who.int/icd/entity/945071067	1 <		9A03.1Z	
18944	7 老人性眼瞼内反症	0 L		H020	L45T	上:9A03.12I 上:9A04.0	上:9A03.12I 上:9A04.0			1 =		http://id.who.int/icd/entity/787611099	1 =		9A03.1Z	Senile entropion of eyelid

No	ICD10 標準病名	ICD11 和訳との一致	代 表・ 同義	ICD10 コー ド	交換 コー ド	マップング 情報(旧)	マップング 情報2022	病名 とし て現 代で	修正 の有 無	確 信 度	関 係	ICD11 Foundation URI	確 信 度	関 係	MMS	備考
18945	7 睫毛内反症	0 L		H020	S09K	上:9A03.12 上:9A04.0	上:9A03.12 上:9A04.0		1 =	1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/945071067	1 =	1 =	9A03.12	Entropion of eyelid
18946	7 痙性眼瞼内反症	0 L		H020	UGEU	上:9A03.12 上:9A04.0	上:9A03.12 上:9A04.0		1 =	1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1562340943	1 =	1 =	9A03.13	Spastic entropion of eyelid
18947	7 痙性眼瞼外反症	0 L		H021	BAER	=:9A03.22	=:9A03.22		1 <	1 <	1 <	http://id.who.int/icd/entity/857829804	1 <	1 <	9A03.22	Ectropion of eyelid, unspecified
18948	7 痙性外反症	0 S1		H021	BAER	=:9A03.22	=:9A03.22		1 =	1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1758603433	1 <	1 <	9A03.22	Ccatriarial ectropion of eyelid
18949	7 痙性眼瞼外反症	0 L		H021	BHNB	=:9A03.22	=:9A03.22		1 =	1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1758603433	1 =	1 =	9A03.20	Ectropion of eyelid
18950	7 眼瞼外反症	1 L		H021	G381	=:9A03.22	=:9A03.22		1 =	1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/857829804	1 =	1 =	9A03.22	Ectropion of eyelid
18951	7 眼瞼外反(症)	0 S1		H021	G381	=:9A03.22	=:9A03.22		1 =	1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/857829804	1 =	1 =	9A03.22	
18952	7 眼瞼外反	0 S1		H021	G381	=:9A03.22	=:9A03.22		1 =	1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/857829804	1 =	1 =	9A03.22	
18953	7 老人性眼瞼外反症	0 L		H021	J110	=:9A03.22	=:9A03.22		1 =	1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/2033497540	1 =	1 =	9A03.22	Senile ectropion of eyelid
18954	7 痙性眼瞼外反症	0 L		H021	J5SS	=:9A03.22	=:9A03.22		1 =	1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/182068824	1 =	1 =	9A03.23	Spastic ectropion of eyelid
18955	7 痙性内反症	1 L		H022	HGKI	=:9A03.42	=:9A03.42		1 =	1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/2122617367	1 =	1 =	9A03.42	Paralytic lagophthalmos
18956	7 顔面神経痙性内反症	0 S1		H022	HGKI	=:9A03.42	=:9A03.42		1 =	1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/2122617367	1 =	1 =	9A03.42	
18957	7 内反症	1 L		H022	HK50	=:9A03.42	=:9A03.42		1 =	1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1200365909	1 =	1 =	9A03.42	Lagophthalmos
18958	7 内反(症)	0 S1		H022	HK50	=:9A03.42	=:9A03.42		1 =	1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1200365909	1 =	1 =	9A03.42	
18959	7 内眼	0 S1		H022	HK50	=:9A03.42	=:9A03.42		1 =	1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1200365909	1 =	1 =	9A03.42	
18960	7 眼瞼皮膚弛緩症	1 L		H023	AHV	=:9A06.8	=:9A06.8		1 =	1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/45565998	1 =	1 =	9A03.5	9A03.5 Dermatochalasis of eyelid
18961	7 偽性眼瞼下垂症	0 L		H023	GN4V	=:9A06.8	=:9A06.8		1 <	1 <	1 <	http://id.who.int/icd/entity/1361674069	1 <	1 <	9A03.02	Blepharochalasis lower eyelid
18962	7 偽眼瞼下垂	0 S1		H023	GN4V	=:9A06.8	=:9A06.8		1 <	1 <	1 <	http://id.who.int/icd/entity/1361674069	1 <	1 <	9A03.02	
18963	7 不全眼瞼下垂症	0 S2		H023	GN4V	=:9A06.8	=:9A06.8		1 <	1 <	1 <	http://id.who.int/icd/entity/1361674069	1 <	1 <	9A03.02	
18964	7 筋無力性眼瞼下垂症	0 L		H024	ACV9	=:9A03.02	=:9A03.02		1 =	1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1361674069/	1 =	1 =	9A03.0Y / 8C60.Z	Blepharoptosis, unspecified / Myasthenia gravis
18965	7 眼瞼下垂症	1 L		H024	BMH5	=:9A03.02	=:9A03.02		1 =	1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1361674069	1 =	1 =	9A03.02	
18966	7 眼瞼下垂	1 S1		H024	BMH5	=:9A03.02	=:9A03.02		1 =	1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1361674069	1 =	1 =	9A03.02	
18967	7 眼瞼下垂(症)	0 S1		H024	BMH5	=:9A03.02	=:9A03.02		1 =	1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1361674069	1 =	1 =	9A03.02	Paralytic ptosis of eyelid
18968	7 痙性眼瞼下垂症	0 L		H024	F99M	=:9A03.02	=:9A03.02		1 =	1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1433019392	1 =	1 =	9A03.03	Myogenic ptosis of eyelid
18969	7 筋原性眼瞼下垂症	0 L		H024	GPD8	=:9A03.02	=:9A03.02		1 =	1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/807528854	1 =	1 =	9A03.02	Blepharoptosis, unspecified
18970	7 交感神経性眼瞼下垂症	0 L		H024	JR90	=:9A03.02	=:9A03.02		1 <	1 <	1 <	http://id.who.int/icd/entity/1361674069	1 <	1 <	9A03.02	Mechanical ptosis of eyelid
18971	7 機械性眼瞼下垂症	0 L		H024	LHGT	=:9A03.02	=:9A03.02		1 =	1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1150073195	1 =	1 =	9A03.01	Blepharoptosis, unspecified / muscle atrophy
18972	7 筋萎縮性眼瞼下垂	0 L		H024	PDT3	=:9A03.02	=:9A03.02		1 <	1 <	1 <	http://id.who.int/icd/entity/1361674069/	1 <	1 <	9A03.0Y / F832.Y	Blepharoptosis, unspecified / muscle atrophy
18973	7 痙攣性眼瞼下垂症	0 L		H024	TFCK	=:9A03.02	=:9A03.02		1 =	1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1433019392	1 =	1 =	9A03.03	Paralytic ptosis of eyelid
18974	7 眼裂異常	0 L		H025	AJAN	下:9A06.1上: 9A03.3	下:9A06.1上: 9A03.3		1 <	1 <	1 <	http://id.who.int/icd/entity/1361674069	1 <	1 <	9A03.0Z	Blepharoptosis, unspecified
18975	7 眼瞼縮小	0 L		H025	EMGM	下:9A06.1上: 9A03.3	下:9A06.1上: 9A03.3		1 <	1 <	1 <	http://id.who.int/icd/entity/1837552146	1 <	1 <	9A03.3	Eyelid retraction unspecified eye, unspecified lid
18976	7 眼瞼萎縮	0 S2		H025	EMGM	下:9A06.1上: 9A03.3	下:9A06.1上: 9A03.3		1 =	1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1837552146	1 =	1 =	9A03.3	Eyelid retraction unspecified eye, unspecified lid
18977	7 眼瞼癒着	0 L		H025	F46F	下:9A06.1上: 9A03.3	下:9A06.1上: 9A03.3		1 <	1 <	1 <	http://id.who.int/icd/entity/136743240	1 <	1 <	9A06.Y	Other specified disorders of eyelid

No	ICD10 標準病名 章	ICD11 和訳 との 一致	代 表・ 同義	ICD10 コー ド	交換 コー ド	マッピング 情報(旧)	マッピング 情報2022	病名 とし て現 代で	修正 の有 無	確 信 度	関 係	ICD11 Foundation URI	確 信 度	関 係	MMS	備考
18978	7 眼瞼後退症	0 L		H025	G10U	下:9A061上: 9A03.3	下:9A061上: 9A03.3		1	1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/45050905	1 =	=	9A03.3	9A03.3 Eyelid retraction 交感神経の緊張による「ミューラー筋」の緊張と、「上眼瞼挙筋」の炎症 眼瞼裂(かんげんれつ)とは上まぶたと下まぶたの裂け目の部分
18979	7 眼裂後退	0 S1		H025	G10U	下:9A061上: 9A03.3	下:9A061上: 9A03.3		1	1 <	<	http://id.who.int/icd/entity/1837552146	1 <	<	9A03.3	Other specified disorders of eyelid Blepharophimosis ptosis epi canthus inversus syndrome : BPE5)
18980	7 眼瞼狭窄	0 L		H025	HERS	下:9A061上: 9A03.3	下:9A061上: 9A03.3		1	1 <	<	http://id.who.int/icd/entity/1837552146	1 <	<	9A03.3	Congenital eyelid retraction
18981	7 眼裂狭小	0 L		H025	NPLL	下:9A061上: 9A03.3	下:9A061上: 9A03.3		1	1 <	<	http://id.who.int/icd/entity/1837552146	1 <	<	9A03.3	Traumatic scar of eyelid
18982	7 眼瞼瘢痕	0 L		H025	RLJ7	下:9A061上: 9A03.3	下:9A061上: 9A03.3		1	1 <	<	http://id.who.int/icd/entity/829235056	1 <	<	9A06.3	
18983	7 瞼裂縮小	0 L		H025	RCE9	下:9A061上: 9A03.3	下:9A061上: 9A03.3		1	1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1837552146	1 =	=	9A03.3	Eyelid retraction unspecified eye, unspecified lid
18984	7 眼瞼黄色腫	1 L		H026	M6AA	=:9A06.4	=:9A06.4		1	1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1087365696	1 =	=	9A06.4	Xanthelasma palpebrarum Xanthelasma of eyelid
18985	7 眼瞼黄色板症	0 S1		H026	M6AA	=:9A06.4	=:9A06.4		1	1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1087365696	1 =	=	9A06.4	
18986	7 眼瞼扁平黄色腫	0 S1		H026	M6AA	=:9A06.4	=:9A06.4		1	1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1087365696	1 =	=	9A06.4	
18987	7 睫毛脱毛	0 L		H027	HRU	下:9A061上: 9A03.5上: 9A04.1	下:9A061上: 9A03.5上: 9A04.1		1	1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/932302401	1 =	=	9A04.1	Madarosis of eyelid or perocular area
18988	7 眼瞼睫毛禿	0 S1		H027	HRU	下:9A061上: 9A03.5上: 9A04.1	下:9A061上: 9A03.5上: 9A04.1		1	1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/932302401	1 =	=	9A04.1	
18989	7 睫毛脱落	0 S1		H027	HRU	下:9A061上: 9A03.5上: 9A04.1	下:9A061上: 9A03.5上: 9A04.1		1	1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/932302401	1 =	=	9A04.1	
18990	7 睫毛脱落症	1 S1		H027	HRU	下:9A061上: 9A03.5上: 9A04.1	下:9A061上: 9A03.5上: 9A04.1		1	1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1920274373	1 <	<	9A04.1	
18991	7 眼瞼白斑	0 L		H027	MDDV	下:9A061上: 9A03.5上: 9A04.1	下:9A061上: 9A03.5上: 9A04.1		1	1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1390019541	1 <	<	9A06.1	Vitiligo of eyelid or perocular area
18992	7 睫毛白毛	0 L		H027	TGQK	下:9A061上: 9A03.5上: 9A04.1	下:9A061上: 9A03.5上: 9A04.1		1	1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/469605305	1 <	<	9A04.Y	Acquired poliosis of eyelashes
18993	7 眼瞼肝斑	0 L		H027	V3E8	下:9A061上: 9A03.5上: 9A04.1	下:9A061上: 9A03.5上: 9A04.1		1	1 <	<	http://id.who.int/icd/entity/136743240/ http://id.who.int/icd/entity/101755595	1 <	<	9A06.Y / ED60.1	Other specified disorders of eyelid / Melasma
18994	7 眼瞼異物残留	0 L		H028	AN99	下:9A061上: 9A05.Z	9A061上: 9A03.Z1上: 9A05.Z		1	1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/324130117	1 =	=	NA06.03	Retained foreign body in eyelid
18995	7 眼瞼内異物残留	0 S1		H028	AN99	下:9A061上: 9A05.Z	9A061上: 9A03.Z1上: 9A05.Z		1	1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/324130117	1 =	=	NA06.03	

No	ICD10 章	標準病名	代 表・ 同義	ICD10 コード	交換 コード	マッピング 情報 (旧)	マッピング 情報2022	病名と して現 代では 不適切	確 信 度	関 係	ICD11 Foundation URI	確 信 度	関 係	MMS	備 考
20757	8	外耳道膿瘍	L	H600	M9NA	=:AA00	=:AA00		1 =	=	http://id.who.int/icd/enthy/63405569	1 <	<	AA00	Abscess of external auditory canal
20758	8	耳せつ	S2	H600	M9NA	=:AA00	=:AA00		1 =	=	http://id.who.int/icd/enthy/726212135	1 =	=	AA00	Abscess of pinna
20759	8	耳介せつ	S2	H600	M9NA	=:AA00	=:AA00		1 =	=	http://id.who.int/icd/enthy/259296782	1 <	<	AA00	Abscess of pinna
20760	8	耳介よう	S2	H600	M9NA	=:AA00	=:AA00		1 =	=	http://id.who.int/icd/enthy/259296782	1 <	<	AA00	Abscess of pinna
20761	8	外耳道よう	S2	H600	M9NA	=:AA00	=:AA00		1 =	=	http://id.who.int/icd/enthy/63405569	1 <	<	AA00	Abscess of pinna
20762	8	耳膿瘍	S2	H600	M9NA	=:AA00	=:AA00		1 =	=	http://id.who.int/icd/enthy/726212135	1 <	<	AA00	外耳の膿瘍と同じとみなした
20763	8	耳介膿瘍	S2	H600	M9NA	=:AA00	=:AA00		1 =	=	http://id.who.int/icd/enthy/726212135	1 <	<	AA00	Abscess of pinna
20764	8	外耳道せつ	S2	H600	M9NA	=:AA00	=:AA00		1 =	=	http://id.who.int/icd/enthy/63405569	1 <	<	AA00	外耳の膿瘍と同じとみなした
20765	8	外耳の膿瘍	S2	H600	M9NA	=:AA00	=:AA00		1 =	=	http://id.who.int/icd/enthy/726212135	1 <	<	AA00	外耳の膿瘍と同じとみなした
20766	8	耳介蜂巣炎	L	H601	CCAS	=:AA01	=:AA01		1 =	=	http://id.who.int/icd/enthy/484945214	1 <	<	AA01	Cellulitis of pinna Cellulitis of auricle
20767	8	耳介蜂巣膿瘍	S1	H601	CCAS	=:AA01	=:AA01		1 =	=	http://id.who.int/icd/enthy/484945214	1 <	<	AA01	Cellulitis of external auditory canal
20768	8	外耳道蜂巣炎	L	H601	KSPF	=:AA01	=:AA01		1 =	=	http://id.who.int/icd/enthy/9391742	1 <	<	AA01	Cellulitis of external auditory canal
20769	8	外耳道蜂巣膿瘍	S1	H601	KSPF	=:AA01	=:AA01		1 =	=	http://id.who.int/icd/enthy/9391742	1 <	<	AA01	Cellulitis of external auditory canal
20770	8	外耳の蜂巣炎	S1	H601	KSPF	=:AA01	=:AA01		1 =	=	http://id.who.int/icd/enthy/1308808115	1 =	=	AA01	Cellulitis of external ear
20771	8	壊死性外耳炎	L	H602	GBSA	=:AA02	=:AA02		1 =	=	http://id.who.int/icd/enthy/984580942	1 =	=	AA02	Necrotising otitis externa
20772	8	え死性外耳炎	S1	H602	GBSA	=:AA02	=:AA02		1 =	=	http://id.who.int/icd/enthy/984580942	1 <	<	AA02	Necrotising otitis externa
20773	8	緑膿菌性外耳炎	L	H602	L815	=:AA02	=:AA02		1 =	=	http://id.who.int/icd/enthy/984580942	1 <	<	AA02 & XN5L6	Malignant otitis externa & 緑膿菌 : Pseudomonas aeruginosa
20774	8	悪性外耳炎	L	H602	S74V	=:AA02	=:AA02		1 =	=	http://id.who.int/icd/enthy/1811342866	1 =	=	AA02	Malignant otitis externa
20775	8	悪性外耳道炎	S1	H602	S74V	=:AA02	=:AA02		1 =	=	http://id.who.int/icd/enthy/984580942	1 =	=	AA02	Malignant otitis externa
20776	8	感染性外耳炎	L	H603	B3K1	=:AA0Z/ & XA6Z Y6	=:AA0Z/ & XA6ZY 6		1 =	=	http://id.who.int/icd/enthy/2035326404	1 =	=	AA0Y & XA6ZY6	Infectious diseases of external ear, unspecified
20777	8	スイマーズスイヤー	S2	H603	B3K1	=:AA0Z/ & XA6Z Y6	=:AA0Z/ & XA6ZY 6		1 =	=	http://id.who.int/icd/enthy/837295519	1 =	=	AA0Y & XA6ZY6	Swimmer's ear / 細菌性外耳炎&外耳
20778	8	耳部感染症	S2	H603	B3K1	=:AA0Z/ & XA6Z Y6	=:AA0Z/ & XA6ZY 6		1 =	=	http://id.who.int/icd/enthy/2035326404	1 =	=	AA0Z	Infectious diseases of external ear, unspecified
20779	8	外耳道感染症	S2	H603	B3K1	=:AA0Z/ & XA6Z Y6	=:AA0Z/ & XA6ZY 6		1 =	=	http://id.who.int/icd/enthy/2035326404	1 <	<	AA0Z	Infectious diseases of external ear
20780	8	びまん性外耳炎	L	H603	FU1H	=:AA0Z/ & XA6Z Y6	=:AA0Z/ & XA6ZY 6		1 <	<	http://id.who.int/icd/enthy/2035326404 & http://id.who.int/icd/enthy/1265853763	1 <	<	AA0Z & XK31	Infectious diseases of external ear, unspecified & Diffuse distribution
20781	8	びまん性外耳道炎	S1	H603	FU1H	=:AA0Z/ & XA6Z Y6	=:AA0Z/ & XA6ZY 6		1 <	<	http://id.who.int/icd/enthy/1608797912 & http://id.who.int/icd/enthy/1265853763	1 <	<	AA0Z & XK31	Infectious diseases of external ear, unspecified & Diffuse distribution
20782	8	出血性外耳炎	L	H603	GBFA	=:AA0Z/ & XA6Z Y6	=:AA0Z/ & XA6ZY 6		1 <	<	http://id.who.int/icd/enthy/2035326404 / http://id.who.int/icd/enthy/940081636	1 <	<	AA0Z / MG27	Infectious diseases of external ear, unspecified & Bleeding

No	ICD10 標準病名	代 表・ 同義	ICD10 コード	交換 コード	アッペン 情報 (旧)	アッペン 情報2022	病名と しては 不適切	確 信 度	関 係	ICD11 Foundation URI	確 信 度	関 係	MMS	備 考
20783	8 急性化膿性外耳炎		H603	V9NU	≡: AA0Z&XA6Z	≡: AA0Z&XA6ZY		1 =		http://id.who.int/icd/entiv/499437681	1 <	AA0Z	AA3Z & XA3UC1	Acute bacterial inflammation of external ear (外耳の急性細菌性炎症)
20784	8 外耳道真菌腫		H604	C4NQ	≡:AA40.2	≡:AA40.2		1 =		http://id.who.int/icd/entiv/738909516	1 =	AA40.2	AA4Y	Cholesteatoma of external auditory canal
20785	8 外耳道閉塞性角化症		H604	EER1	≡:AA40.2	≡:AA40.2		1 =		http://id.who.int/icd/entiv/634950675	1 <	AA4Y	AA4Y	Keratosis obturans / Keratosis obturans of external Auditory Canal Cholesteatoma
20786	8 閉塞性角化症		H604	EER1	≡:AA40.2	≡:AA40.2		1 =		http://id.who.int/icd/entiv/634950675	1 <	AA4Y	AA4Y	Keratosis obturans
20787	8 急性外耳炎		H605	BHJU	≡:AA11	≡:AA11		1 <		http://id.who.int/icd/entiv/786106375	1 <	AA3Z & XT5R	AA3Z & XT5R	Otitis externa, unspecified & Acute
20788	8 急性外耳道炎		H605	BHJU	≡:AA11	≡:AA11		1 <		http://id.who.int/icd/entiv/786106375	1 <	AA3Z & XT5R	AA3Z & XT5R	Otitis externa, unspecified & Acute
20789	8 急性光線性外耳炎		H605	BMD2	≡:AA11	≡:AA11		1 <		http://id.who.int/icd/entiv/1296312490	1 <	AA3Z & XT5R	AA3Z & XT5R	Otitis externa, unspecified & Acute
20790	8 急性接触性外耳炎		H605	FG2K	≡:AA11	≡:AA11		1 =		http://id.who.int/icd/entiv/1229000922	1 =	EK02.10	AA11	Irritant contact dermatitis of external ear
20791	8 化学性急性外耳炎		H605	GKJ5	≡:AA11	≡:AA11		1 <		http://id.who.int/icd/entiv/1229000922	1 <	AA11	AA11	Acute noninfectious otitis externa
20792	8 急性反応性外耳炎		H605	KP9Q	≡:AA11	≡:AA11		1 <		http://id.who.int/icd/entiv/786106375	1 <	AA3Z & XT5R	AA3Z & XT5R	Otitis externa, unspecified & Acute
20793	8 アレルギー性外耳道炎		H605	KQRD	≡:AA11	≡:AA11		1 =		http://id.who.int/icd/entiv/94282662	1 =	EG40.0	AA11	Allergic contact dermatitis of external ear
20794	8 非感染性急性外耳炎		H605	RLD8	≡:AA11	≡:AA11		1 =		http://id.who.int/icd/entiv/1303990434	1 =	AA11	AA11	non-infective acute otitis externa
20795	8 耳介周囲湿疹		H605	S2FC	≡:AA11	≡:AA11		1 <		http://id.who.int/icd/entiv/203079671	1 <	AA3Z&XA4E71	AA3Z&XA4E71	Otitis externa, unspecified & Pinna
20796	8 耳介周囲湿疹		H605	S2FC	≡:AA11	≡:AA11		1 <		http://id.who.int/icd/entiv/1303990434	1 <	AA3Z&XA4E71	AA3Z&XA4E71	Otitis externa, unspecified & Pinna
20797	8 耳介部皮膚炎		H605	S2TV	≡:AA11	≡:AA11		1 <		http://id.who.int/icd/entiv/203079671	1 <	AA3Z&XA4E71	AA3Z&XA4E71	Otitis externa, unspecified & Pinna
20798	8 耳介湿疹		H605	S2TV	≡:AA11	≡:AA11		1 <		http://id.who.int/icd/entiv/1303990434	1 <	AA3Z&XA4E71	AA3Z&XA4E71	Otitis externa, unspecified & Pinna
20799	8 外耳湿疹		H605	TAGV	≡:AA11	≡:AA11		1 =		http://id.who.int/icd/entiv/1229000922	1 <	AA11	AA11	eczematous otitis externa
20800	8 外耳道湿疹		H605	TAGV	≡:AA11	≡:AA11		1 <		http://id.who.int/icd/entiv/1229000922	1 <	AA11	AA11	eczema of external auditory canal
20801	8 外耳道耳介湿疹		H605	TAGV	≡:AA11	≡:AA11		1 <		http://id.who.int/icd/entiv/1303990434	1 <	AA3Z&XA4E71	AA3Z&XA4E71	eczematous otitis externa
20802	8 急性湿疹性外耳炎		H605	VG44	≡:AA11	≡:AA11		1 =		http://id.who.int/icd/entiv/1229000922	1 <	AA11	AA11	acute eczematoid otitis externa
20803	8 慢性外耳炎		H608	GT97	≡:AA13	≡:AA13		1 =		http://id.who.int/icd/entiv/634296561	1 =	AA13	AA13	Chronic otitis externa
20804	8 外耳道肉芽腫		H609	CEAM	≡:AA3Z	≡:AA3Z		1 <		http://id.who.int/icd/entiv/1303990434	1 <	AA3Z & XA3UC1	AA3Z & XA3UC1	Otitis externa& External auditory canal
20805	8 限局性外耳道炎		H609	LDLG	≡:AA3Z	≡:AA3Z		1 <		http://id.who.int/icd/entiv/1303990434	1 <	AA3Z & XA3UC1 & XK9A	AA3Z & XA3UC1 & XK9A	Otitis externa& External auditory canal & Localised distribution
20806	8 外耳炎		H609	QPG2	≡:AA3Z	≡:AA3Z		1 =		http://id.who.int/icd/entiv/1303990434	1 =	AA3Z	AA3Z	external otitis Otitis externa
20807	8 外耳道皮膚炎		H609	QPG2	≡:AA3Z	≡:AA3Z		1 =		http://id.who.int/icd/entiv/1296498321	1 =	AA3Z & XA9E26	AA3Z & XA9E26	Otitis externa, unspecified & Skin of auricle
20808	8 外耳道炎		H609	QPG2	≡:AA3Z	≡:AA3Z		1 =		http://id.who.int/icd/entiv/1303990434	1 =	AA3Z	AA3Z	Otitis externa, unspecified
20809	8 外耳道耳介炎		H609	QPG2	≡:AA3Z	≡:AA3Z		1 =		http://id.who.int/icd/entiv/1303990434	1 =	AA3Z & XA3UC1	AA3Z & XA3UC1	Otitis externa, unspecified & 外耳道

No	ICD10 章	標準病名	代 表・ 同義	ICD10 コード	交換 コード	アップ 情報 (旧)	アップ 情報2022	病名と して現 代では 不適切	確 信 度	関 係	ICD11 Foundation URI	確 信 度	関 係	MMS	備 考
20810	8	外耳道周囲炎		H609	QP62	下:AA3Z	下:AA3Z		1 <		http://id.who.int/icd/entiv/1303990434	1 <	AA3Z		Otitis externa (外耳炎) MG3Z Pain, unspecified
20811	8	外耳道痛		H609	V571	下:AA3Z	下:AA3Z		1 <		http://id.who.int/icd/entiv/1303990434 / http://id.who.int/icd/entiv/66122217	1 <	AA3Z / MG3Z		Otitis externa (外耳炎) MG3Z Pain, unspecified
20812	8	外耳道軟骨炎		H610	AQF9	=:AA04	=:AA04		1 =		http://id.who.int/icd/entiv/934401704	1 =	AA04		Perichondritis of external auditory canal
20813	8	外耳の軟骨膜炎		H610	AQF9	=:AA04	=:AA04		1 =		http://id.who.int/icd/entiv/934401704	1 =	AA04		Perichondritis of external ear
20814	8	耳介軟骨膜炎		H610	S08P	=:AA04	=:AA04		1 =		http://id.who.int/icd/entiv/934401704	1 =	AA04		Perichondritis of pinna Perichondritis of auricle
20815	8	耳介周囲炎		H610	S08P	=:AA04	=:AA04		1 =		http://id.who.int/icd/entiv/934401704	1 =	AA04		Perichondritis of pinna Perichondritis of auricle
20816	8	慢性結節性耳輪軟骨皮 膚炎		H610	S08P	=:AA04	=:AA04		1 <		http://id.who.int/icd/entiv/934401704	1 <	AA04		External ear fistula (外耳瘻)
20817	8	耳介瘻		H611	KD3L	=:AA41	=:AA41		1 ★		http://id.who.int/icd/entiv/1685830948 or http://id.who.int/icd/entiv/1652337667	1 ★	AA4Y or LA21.Y		External ear fistula (外耳瘻)
20818	8	耳介腫孔		H611	KD3L	=:AA41	=:AA41		1 ★		http://id.who.int/icd/entiv/1685830948 or http://id.who.int/icd/entiv/1652337667	1 ★	AA4Y or LA21.Y		Auricular pit
20819	8	耳介非感染性障害		H611	KD3L	=:AA41	=:AA41		1 =		http://id.who.int/icd/entiv/2031277350	1 =	AA4Y		Noninflammatory disorders of the external ear
20820	8	耳垢栓塞		H612	JM3P	=:AA42	=:AA42		1 =		http://id.who.int/icd/entiv/643255245	1 =	AA42		Impacted cerumen Impacted wax in ear 影響を受けた耳垢は、外耳道に閉塞性耳垢が存 在すること
20821	8	耳垢栓		H612	JM3P	=:AA42	=:AA42		1 =		http://id.who.int/icd/entiv/643255245	1 =	AA42		Impacted cerumen
20822	8	耳垢栓塞(症)		H612	JM3P	=:AA42	=:AA42		1 =		http://id.who.int/icd/entiv/643255245	1 =	AA42		Impacted cerumen
20823	8	耳垢症		H612	JM3P	=:AA42	=:AA42		1 =		http://id.who.int/icd/entiv/643255245	1 =	AA42		Impacted cerumen
20824	8	耳垢(症)		H612	JM3P	=:AA42	=:AA42		1 =		http://id.who.int/icd/entiv/643255245	1 =	AA42		Impacted cerumen
20825	8	耳垢栓塞症		H612	JM3P	=:AA42	=:AA42		1 =		http://id.who.int/icd/entiv/643255245	1 =	AA42		Impacted cerumen
20826	8	耳垢		H612	JM3P	=:AA42	=:AA42		1 =		http://id.who.int/icd/entiv/643255245	1 =	AA42		Impacted cerumen
20827	8	みみあか		H612	JM3P	=:AA42	=:AA42		1 =		http://id.who.int/icd/entiv/643255245	1 =	AA42		Impacted cerumen
20828	8	複雑耳垢		H612	MV14	=:AA42	=:AA42		1 =		http://id.who.int/icd/entiv/643255245	1 =	AA42		* ヲツピンガ表によると、Impacted cerumen (耳垢栓塞) 複雑耳垢：complication of cerumen (はICD-11に見 当たらず)
20829	8	軟耳垢		H612	QA5V	=:AA42	=:AA42		1 <		http://id.who.int/icd/entiv/643255245	1 <	AA42		AA42 Impacted cerumen
20830	8	後天性外耳道狭窄		H613	U8EL	=:AA40.1	=:AA40.1		1 =		http://id.who.int/icd/entiv/1125942873	1 =	AA40.1		Acquired stenosis of external auditory canal acquired stricture of external auditory canal
20831	8	外傷性外耳道狭窄症		H613	V2R5	=:AA40.1	=:AA40.1		1 <		http://id.who.int/icd/entiv/1125942873 & http://id.who.int/icd/entiv/1036139204	1 <	AA40.1 & X82G		AA40.1 Acquired stenosis of external auditory canal & Post-traumatic
20832	8	耳瘻孔		H618	BDPl	上:EG4Z 上: AA40.0	上:EG4Z 上: AA40.0		1 ★		http://id.who.int/icd/entiv/1652337667	1 ★	AA4Y or LA21.Y		External ear fistula (外耳瘻) or Auricular pit
20833	8	耳瘻		H618	BDPl	上:AA40.0	上:EG4Z 上: AA40.0		1 ★		http://id.who.int/icd/entiv/1652337667 or http://id.who.int/icd/entiv/1046187143 & http://id.who.int/icd/entiv/2030796271 / http://id.who.int/icd/entiv/1844086508	1 ★	AA4Y or LA21.Y		Diseases of external ear, unspecified & pinna / tumour mass NOS
20834	8	耳介部腫瘍		H618	E716	上:EG4Z 上: AA40.0	上:EG4Z 上: AA40.0		1 <		http://id.who.int/icd/entiv/2030796271 / http://id.who.int/icd/entiv/1844086508	1 <	AA6Z & XA4E71 / 219Z		Diseases of external ear, unspecified & External ear surface of pinna / Oedema, unspecified
20835	8	耳介後部腫脹		H618	E7RK	上:AA40.0	上:EG4Z 上: AA40.0		1 <		http://id.who.int/icd/entiv/1046187143 & http://id.who.int/icd/entiv/1847793367 / http://id.who.int/icd/entiv/826220775	1 <	AA6Z & XA3547 / MG29.2		Diseases of external ear, unspecified & External ear surface of pinna / Oedema, unspecified

No	ICD10 章	標準病名	代 表・ 同義	ICD10 コード	交換 コード	アツペンゾ 情報 (旧)	アツペンゾ 情報2022	病名と しては 不適切	確 信 度	関 係	ICD11 Foundation URI	確 信 度	関 係	MMS	備 考
20836	8	サーフォーナーズイヤー	L	H618	KH18	上:AA40.0	上:EG42 上:AA40.0		1 =		http://id.who.int/icd/entiv/1/204993220	1 <	AA4Y	AA4Y	Swimmer's exostosis surfer's ear
20837	8	サーフォーナーズイヤ	S1	H618	KH18	上:AA40.0	上:EG42 上:AA40.0		1 =		http://id.who.int/icd/entiv/1/204993220	1 <	AA4Y	AA4Y	外耳道にできる骨質の腫瘍 (外骨腫) の一般的な言い方
20838	8	サーフォーナーズ・イヤ	S1	H618	KH18	上:AA40.0	上:EG42 上:AA40.0		1 =		http://id.who.int/icd/entiv/1/204993220	1 <	AA4Y	AA4Y	
20839	8	外耳道外骨腫	S1	H618	KH18	上:AA40.0	上:EG42 上:AA40.0		1 =		http://id.who.int/icd/entiv/1/305314739	1 =	AA40.0	AA40.0	Exostosis of external auditory canal Exostosis of external ear canal
20840	8	外耳道腫瘍	L	H618	M8AD	上:AA40.0	上:EG42 上:AA40.0		1 =		http://id.who.int/icd/entiv/1/305314739	1 =	AA40.0	AA40.0	Diseases of external ear, unspecified & External auditory canal / tumour mass NOS
20841	8	外耳道掻創	L	H618	MU1	上:AA40.0	上:EG42 上:AA40.0		1 <		http://id.who.int/icd/entiv/1/046187143 & http://id.who.int/icd/entiv/1/296498321 / http://id.who.int/icd/entiv/1/212937040	1 <	AA6Z & XA3UC1 / ND56.0	AA6Z & XA3UC1 / ND56.0	Diseases of external ear, unspecified & External auditory canal / Superficial injury of unspecified body region:scratch NOS
20842	8	外耳道掻傷	S1	H618	MU1	上:AA40.0	上:EG42 上:AA40.0		1 <		http://id.who.int/icd/entiv/1/046187143 & http://id.who.int/icd/entiv/1/296498321 / http://id.who.int/icd/entiv/1/212937040	1 <	AA6Z & XA3UC1 / ND56.0	AA6Z & XA3UC1 / ND56.0	Diseases of external ear, unspecified & Posterior surface of pinna / tumour mass NOS
20843	8	外耳道掻傷	S1	H618	MU1	上:AA40.0	上:EG42 上:AA40.0		1 <		http://id.who.int/icd/entiv/1/046187143 & http://id.who.int/icd/entiv/1/296498321 / http://id.who.int/icd/entiv/1/212937040	1 <	AA6Z & XA3UC1 / ND56.0	AA6Z & XA3UC1 / ND56.0	Diseases of external ear, unspecified & Posterior surface of pinna / tumour mass NOS
20844	8	耳介後部腫瘍	L	H618	OSTN	上:AA40.0	上:EG42 上:AA40.0		1 <		http://id.who.int/icd/entiv/1/847793967 / http://id.who.int/icd/entiv/1/844086508	1 <	AA6Z & XA3S47 / 219Z	AA6Z & XA3S47 / 219Z	Diseases of external ear, unspecified & Posterior surface of pinna / tumour mass NOS
20845	8	急性滲出性中耳炎	L	H650	F81U	=:AA80	=:AA80		1 =		http://id.who.int/icd/entiv/2/23283162	1 =	AA80	AA80	Acute serous or mucoid otitis media (急性滲出性もししくは粘液性中耳炎)
20846	8	急性カタル性中耳炎	S1	H650	F81U	=:AA80	=:AA80		1 =		http://id.who.int/icd/entiv/2/23283162	1 =	AA80	AA80	滲出性中耳炎(中耳カタル・耳管カタル)
20847	8	急性非化膿性中耳炎	L	H651	D123	=:AA81	=:AA81		1 =		http://id.who.int/icd/entiv/1/745144396	1 <	AA81	AA81	Acute nonserous nonsuppurative otitis media (急性非漿液性非化膿性中耳炎) * ただし漿液性急性非化膿性中耳炎 NOS : acute nonsuppurative otitis media NOS が類義語にある
20848	8	急性耳管鼓室カタル	S2	H651	D123	=:AA81	=:AA81		1 =		http://id.who.int/icd/entiv/1/745144396 & http://id.who.int/icd/entiv/9/87893786	1 <	AA81 & XA7Y6	AA81 & XA7Y6	急性非化膿性中耳炎 NOS & XA7Y6 Eustachian tube
20849	8	亜急性ムコイド中耳炎	L	H651	EE8H	=:AA81	=:AA81		1 =		http://id.who.int/icd/entiv/1/868355332	1 <	AA81	AA81	Subacute mucoid otitis media
20850	8	急性ムコイド中耳炎	L	H651	FGMS	=:AA81	=:AA81		1 =		http://id.who.int/icd/entiv/2/22283162	1 <	AA81	AA81	Acute serous or mucoid otitis media (急性漿液性またはムコイド中耳炎)
20851	8	急性アレルギー性中耳炎	L	H651	PS1T	=:AA81	=:AA81		1 =		http://id.who.int/icd/entiv/3/25703106	1 <	AA81	AA81	Acute and subacute allergic otitis media (急性および亜急性アレルギー性中耳炎)
20852	8	急性血性中耳炎	L	H651	R8FR	=:AA81	=:AA81		1 =		http://id.who.int/icd/entiv/1/282929571	1 <	AA81	AA81	Acute and subacute sanguinous otitis media (急性および亜急性血性中耳炎)
20853	8	急性漿液ムコ性中耳炎	L	H651	S20F	=:AA81	=:AA81		1 =		http://id.who.int/icd/entiv/4/20562692	1 <	AA81	AA81	Acute or subacute seromucinous otitis media (急性または亜急性の漿液ムコ性中耳炎)
20854	8	亜急性アレルギー性中耳炎	L	H651	SDTE	=:AA81	=:AA81		1 =		http://id.who.int/icd/entiv/3/25703106	1 <	AA81	AA81	Acute and subacute allergic otitis media (急性および亜急性アレルギー性中耳炎)
20855	8	亜急性血性中耳炎	L	H651	TNQE	=:AA81	=:AA81		1 =		http://id.who.int/icd/entiv/1/282929571	1 <	AA81	AA81	Acute and subacute sanguinous otitis media (急性および亜急性血性中耳炎)
20856	8	亜急性漿液ムコ性中耳炎	L	H651	UQKR	=:AA81	=:AA81		1 =		http://id.who.int/icd/entiv/4/20562692	1 <	AA81	AA81	Acute or subacute seromucinous otitis media (急性または亜急性の漿液ムコ性中耳炎)

No	ICD10 章	標準病名	代 表・ 同義	ICD10 コード	交換 コード	ツツピン 情報 (旧)	ツツピン 情報2022	病名と して現 不適切	確 信 度	関 係	ICD11 Foundation URI	確 信 度	関 係	MMS	備 考
20857	8	慢性漿液性中耳炎	L	H652	ALKN	下:AA82	下:AA82		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/480877235	1 =	=	AA82	Chronic serous or mucoid otitis media (慢性漿液性または粘液性中耳炎)
20858	8	慢性滲出性中耳炎	L	H652	MLSM	下:AA82	下:AA82		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1057901659	1 <	<	AA82	Chronic otitis media with effusion Chronic transudative otitis media Chronic secretory otitis media Exudative chronic otitis media
20859	8	慢性中耳カタル	S1	H652	MLSM	下:AA82	下:AA82		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/612655644	1 <	<	AA82	Catarrhal chronic otitis media
20860	8	慢性カタル性中耳炎	S1	H652	MLSM	下:AA82	下:AA82		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/612655644	1 <	<	AA82	chronic tubotympanic catarrh
20861	8	慢性耳管鼓室カタル	L	H652	NLC9	下:AA82	下:AA82		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/612655644	1 <	<	AA82	Glue ear
20862	8	グルーイーヤー	L	H653	CTG5	下:AA82	下:AA82		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1461200242	1 <	<	AA82	Chronic mucoid otitis media
20863	8	慢性ムコイド中耳炎	L	H653	GPMV	下:AA82	下:AA82		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/2044876583	1 <	<	AA82	Chronic mucinous otitis media Chronic mucoid otitis media
20864	8	慢性粘液性中耳炎	S2	H653	GPMV	下:AA82	下:AA82		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/2044876583	1 <	<	AA82	chronic mucinous otitis media
20865	8	慢性ムチン性中耳炎	S2	H653	GPMV	下:AA82	下:AA82		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/2044876583	1 <	<	AA82	chronic mucinous otitis media
20866	8	慢性滲出性中耳炎	S2	H653	GPMV	下:AA82	下:AA82		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/2044876583	1 <	<	AA82	chronic mucinous otitis media
20867	8	慢性漿液ムチン性中耳炎	L	H654	A933	下:AA82	下:AA82		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/480877235	1 =	=	AA82	seromucinous chronic otitis media
20868	8	好酸球性中耳炎	L	H654	HNJD	下:AA82	下:AA82		1 <	<	http://id.who.int/icd/entity/800153181	1 <	<	AA82 & XA0V82	Nonsuppurative otitis media (非化膿性中耳炎) & Eosinophils
20869	8	慢性アシルギー性中耳炎	L	H654	JJOF	下:AA82	下:AA82		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/2130317284	v		AA82	Allergic chronic otitis media
20870	8	慢性非化膿性中耳炎	L	H654	UOLK	下:AA82	下:AA82		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/168608947	1 <	<	AA82	nonsuppurative chronic otitis media, NOS
20871	8	アシルギー性中耳炎	L	H659	D2LC	下:AA82	下:AA82		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/800153181	1 <	<	AA82	Ilgergic otitis media NOS
20872	8	非化膿性中耳炎	L	H659	EP5N	下:AA82	下:AA82		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/800153181	1 <	<	AA82	Nonsuppurative otitis media
20873	8	ムコイド中耳炎	L	H659	GU2	下:AA82	下:AA82		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/529326892	1 <	<	AB0Y	Otitis media due to Streptococcus pneumoniae ムコイド中耳炎：ムコイド型肺炎球菌を起 炎菌とする急性中耳炎
20874	8	滲出性中耳炎	L	H659	LQPR	下:AA82	下:AA82		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/800153181	1 <	<	AA82	transudative otitis media
20875	8	耳カタル	S1	H659	LQPR	下:AA82	下:AA82		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/800153181	1 <	<	AA82	
20876	8	湿性中耳炎	S1	H659	LQPR	下:AA82	下:AA82		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/800153181	1 <	<	AA82	
20877	8	カタル性中耳炎	S1	H659	LQPR	下:AA82	下:AA82		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/800153181	1 <	<	AA82	catarrhal otitis media NOS
20878	8	中耳カタル	S1	H659	LQPR	下:AA82	下:AA82		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1079654421	1 =	=	AB0Z	middle ear catarrh
20879	8	中耳耳管カタル	S1	H659	LQPR	下:AA82	下:AA82		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1079654421 & http://id.who.int/icd/entity/987893786	1 =	=	AB0Z & XA7XV6	middle ear catarrh & XA7XV6 Eustachian tube
20880	8	漿液性中耳炎	S1	H659	LQPR	下:AA82	下:AA82		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/800153181	1 <	<	AA82	
20881	8	滲出性中耳カタル	S1	H659	LQPR	下:AA82	下:AA82		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/800153181	1 <	<	AA82	
20882	8	漏出性中耳炎	S2	H659	LQPR	下:AA82	下:AA82		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/800153181	1 <	<	AA82	
20883	8	漿液ムチン性中耳炎	S2	H659	LQPR	下:AA82	下:AA82		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/480877235	1 =	=	AA82	Seromucinous otitis media
20884	8	耳管鼓室炎	L	H659	RDG9	下:AA82	下:AA82		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1588903131	1 =	=	AB10.2	tubotympanitis
20885	8	ムコイド中耳炎	L	H659	S733	下:AA82	下:AA82		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/800153181	1 <	<	AA82	mucoid otitis media

標準病名のICD-11コーディング作業結果

～ 第9章 標準病名～ (5 ページのみ抜粋)

No	ICD10 標準病名	代表・同義	ICD10 コード	交換コード	旧バージョン	新バージョン 2022	病名として現 代不適切	確信 度	関係	ICD11 Foundation URI	確信 度	関係	MMS	備考
21263	9 急性リウマチ熱		L 100	E3UR	上:1B40.0 上:1B40.Z	上:1B40.0 E:1B40.Z/CA40.08		1 =		http://id.who.int/icd/entity/871612151	1 =		1B40.Z	1B40.Z Acute rheumatic fever without mention of heart involvement, unspecified
21264	9 急性リウマチ		S1 100	E3UR	上:1B40.0 上:1B40.Z	上:1B40.0 E:1B40.Z/CA40.08		1 =		http://id.who.int/icd/entity/871612151	1 =		1B40.Z	
21265	9 リウマチ熱		L 100	E923	上:1B40.0 上:1B40.Z	上:1B40.0 E:1B40.Z/CA40.08		1 =		http://id.who.int/icd/entity/2058300982	1 <		1B40.Y	Rheumatic fever without mention of heart involvement
21266	9 慢性リウマチ熱		S2 100	E923	上:1B40.0 上:1B40.Z	上:1B40.0 E:1B40.Z/CA40.08		1 =		http://id.who.int/icd/entity/2058300982	1 <		1B40.Y	
21267	9 心臓併発症の記載のないリウマチ熱		S2 100	E923	上:1B40.0 上:1B40.Z	上:1B40.0 E:1B40.Z/CA40.08		1 =		http://id.who.int/icd/entity/2058300982	1 <		1B40.Y	Rheumatic fever without mention of heart involvement
21268	9 急性リウマチ熱性輪状虹膜炎		L 100	HMDN	上:1B40.0 上:1B40.Z	上:1B40.0 E:1B40.0 1B40.Z/CA40.08		1 <		http://id.who.int/icd/entity/1249305608	1 <		1B40.Y	1B40.Y Rheumatic fever without mention of heart involvement
21269	9 リウマチ性心膜炎		L 1010	A63P	上:1B41.0	上:1B41.0		1 =		http://id.who.int/icd/entity/869759708	1 =		FA20.Z	FA20.Z Rheumatoid arthritis, serology unspecified
21270	9 急性リウマチ性心膜炎		L 1010	GBRF	上:1B41.0	上:1B41.0		1 =		http://id.who.int/icd/entity/869759708	1 =		1B41.0	Acute rheumatic pericarditis
21271	9 活動性リウマチ性心膜炎		S1 1010	GBRF	上:1B41.0	上:1B41.0		1 =		http://id.who.int/icd/entity/869759708	1 =		1B41.0	active rheumatic pericarditis (Synonymsにあり)
21272	9 亜急性リウマチ性心膜炎		S2 1010	GBRF	上:1B41.0	上:1B41.0		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1453111118	1 =		1B41.1Z	
21273	9 急性リウマチ性心膜炎		L 1011	ENLB	上:1B41.1Z	上:1B41.1Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1453111118	1 =		1B41.1Z	Acute rheumatic endocarditis
21274	9 急性リウマチ性心弁膜炎		S1 1011	ENLB	上:1B41.1Z	上:1B41.1Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1453111118	1 =		1B41.1Z	
21275	9 急性リウマチ性心筋炎		L 1011	ENLB	上:1B41.1Z	上:1B41.1Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/573695921	1 =		1B41.1Z	
21276	9 急性リウマチ性心筋炎		L 1012	ALHQ	上:1B41.2	上:1B41.2		1 =		http://id.who.int/icd/entity/573695921	1 =		1B41.2	Acute rheumatic myocarditis 同義語にあり
21277	9 活動性リウマチ性心筋炎		S1 1012	ALHQ	上:1B41.2	上:1B41.2		1 =		http://id.who.int/icd/entity/573695921	1 =		1B41.2	1B41.Y Other specified acute rheumatic heart disease foundation のAcute
21278	9 急性リウマチ性心筋炎		L 1018	A69A	上:1B41.2	上:1B41.2		1 =		http://id.who.int/icd/entity/269178969	1 <		1B41.Y	1B41.Y Other acute rheumatic heart disease foundation のAcute rheumatic carditisの同義語にあり
21279	9 フライヨ一症候群		L 1018	A16B	上:1B41.2	上:1B41.2		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1319454762	1 <		1B41.Y	1B41.Y Other acute rheumatic heart disease foundation のAcute rheumatic carditisの同義語にあり
21280	9 リウマチ性冠状動脈炎		L 1018	RG00	上:1B41.2	上:1B41.2		1 ★		http://id.who.int/icd/entity/620302664 OR http://id.who.int/icd/entity/238897859	1 ★		1B41.Y OR BC20.Y	1B41.1Y Other specified acute rheumatic endocarditis acute と chronicはそれぞれあります。どちらでもない場合は項目見つけられませんでした←急性OR慢性で記載しました。
21281	9 急性リウマチ性心疾患		L 1019	N1PH	上:1B41.Z	上:1B41.Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/535094176	1 =		1B41.Z	1B41.Z Acute rheumatic heart disease, unspecified
21282	9 リウマチ性舞蹈病		L 1029	FPVJ	上:1B42	上:1B42		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1799992159	1 =		1B42	Rheumatic chorea
21283	9 僧帽弁狭窄症		L 1050	EHAN	上:BB60.0 上:BB60.Z	上:BB60.0 E:BB60.Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/2115139779	1 =		BB60.Z	Mitral valve stenosis
21284	9 僧帽弁狭窄症(症)		S1 1050	EHAN	上:BB60.0 上:BB60.Z	上:BB60.0 E:BB60.Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/2115139779	1 =		BB60.Z	
21285	9 僧帽弁狭窄		S1 1050	EHAN	上:BB60.0 上:BB60.Z	上:BB60.0 E:BB60.Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/2115139779	1 =		BB60.Z	Mitral valve stenosis
21286	9 MS		S1 1050	EHAN	上:BB60.0 上:BB60.Z	上:BB60.0 E:BB60.Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/2115139779	1 =		BB60.Z	
21287	9 僧帽弁口狭窄症		S1 1050	EHAN	上:BB60.0 上:BB60.Z	上:BB60.0 E:BB60.Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/2115139779	1 =		BB60.Z	
21288	9 リウマチ性僧帽弁閉鎖不全症		L 1051	L1UP	上:BB61.0	上:BB61.0		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1818388016	1 =		BB61.0	Rheumatic mitral valve insufficiency
21289	9 リウマチ性僧帽弁逆流症		S1 1051	L1UP	上:BB61.0	上:BB61.0		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1818388016	1 =		BB61.0	
21290	9 僧帽弁狭窄閉鎖不全症		L 1052	RRAP	上:BB63.0 上:BB63.Z	上:BB63.0 E:BB63.Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/2043723510	1 =		BB63.Z	
21291	9 僧帽弁狭窄閉鎖不全(症)		S1 1052	RRAP	上:BB63.0 上:BB63.Z	上:BB63.0 E:BB63.Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/2043723510	1 =		BB63.Z	

No	ICD10 標準病名	代表・同義	ICD10 コード	交換コード	旧バージョン	新バージョン 2022	病名として現 代では不適切	確信 度	関係	ICD11 Foundation URI	確信 度	関係	MMS	備考
21292	9 MS+MR		1052	RRAP	≒:BB63.0 下: BB63.2	≒:BB63.0 下: BB63.2		1 =		http://id.who.int/icd/entity/2043723510	1 =		BB63.Z	
21293	9 僧帽弁狭窄閉鎖不全症		1052	RRAP	≒:BB63.0 下: BB63.2	≒:BB63.0 下: BB63.2		1 =		http://id.who.int/icd/entity/2043723510	1 =		BB63.Z	
21294	9 僧帽弁狭窄閉鎖不全		1052	RRAP	≒:BB63.0 下: BB63.2	≒:BB63.0 下: BB63.2		1 =		http://id.who.int/icd/entity/2043723510	1 =		BB63.Z	
21295	9 僧帽弁口狭窄閉鎖不全		1052	RRAP	≒:BB63.0 下: BB63.2	≒:BB63.0 下: BB63.2		1 =		http://id.who.int/icd/entity/2043723510	1 =		BB63.Z	
21296	9 僧帽弁乳頭筋不全		1058	QFR	下:BB62	下:BB62		1 =		http://id.who.int/icd/entity/637470326&http://id.who.int/icd/entity/1697151268	1 =		BB61 & XA2DC8	Mitral valve insufficiency&Papillary muscle
21297	9 乳頭筋機能低下症		1058	QFR	下:BB62	下:BB62		2 <		http://id.who.int/icd/entity/637470326	2 <		BE2Y	
21298	9 僧帽弁不全症		1058	QPM4	下:BB62	下:BB62		1 =		http://id.who.int/icd/entity/637470326	1 =		BB61	Mitral valve insufficiency
21299	9 僧帽弁膜不全症		1058	QPM4	下:BB62	下:BB62		1 =		http://id.who.int/icd/entity/637470326	1 =		BB61	
21300	9 僧帽弁心内膜炎		1059	CA2N	下:BB62 上: BC01	下:BB62 上: BC01		1 =		http://id.who.int/icd/entity/637470326&http://id.who.int/icd/entity/1350243387	1 =		BB61 & XA3227	Mitral valve insufficiency&Endocardium
21301	9 慢性僧帽弁心内膜炎		1059	CA2N	下:BB62 上: BC01	下:BB62 上: BC01		1 =		http://id.who.int/icd/entity/637470326&http://id.who.int/icd/entity/490003542	1 =		BB61 & XA3227 & XT8W	
21302	9 慢性僧帽弁障害		1059	CA2N	下:BB62 上: BC01	下:BB62 上: BC01		1 =		http://id.who.int/icd/entity/637470326&http://id.who.int/icd/entity/490003542	1 =		BB61 & XT8W	
21303	9 リウマチ性僧帽弁疾患		1059	GHH7	下:BB62 上: BC01	下:BB62 上: BC01		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1997348476	1 =		BB62	BB60.0 Rheumatic mitral valve stenosis ⇒stenosisではないので疾患に変更
21304	9 僧帽弁疾患		1059	K7KN	下:BB62 上: BC01	下:BB62 上: BC01		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1997348476	1 =		BB62	BB60.Z—Mitral valve stenosis—unspecified
21305	9 僧帽弁膜症		1059	S8QN	下:BB62 上: BC01	下:BB62 上: BC01		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1997348476	1 =		BB62	BB71.Y Other specified nonrheumatic aortic valve insufficiency
21306	9 僧帽弁膜症		1059	S8QN	下:BB62 上: BC01	下:BB62 上: BC01		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1997348476	1 =		BB62	BB60.Z—Mitral valve stenosis—unspecified
21307	9 リウマチ性大動脈弁狭窄症		1060	IFA0	≒:BB70.0	≒:BB70.0		1 =		http://id.who.int/icd/entity/145623962	1 =		BB70.0	BB71.Y Other specified nonrheumatic aortic valve insufficiency → BB70.0 Rheumatic aortic valve stenosis
21308	9 リウマチ性大動脈狭窄症		1060	IFA0	≒:BB70.0	≒:BB70.0		1 =		http://id.who.int/icd/entity/145623962	1 =		BB70.0	
21309	9 リウマチ性大動脈弁閉鎖不全症		1061	HQF	≒:BB71.0	≒:BB71.0		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1843774992	1 =		BB61.0	Rheumatic mitral valve insufficiency
21310	9 リウマチ性大動脈弁逆流症		1061	HQF	≒:BB71.0	≒:BB71.0		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1843774992	1 =		BB61.0	
21311	9 リウマチ性大動脈弁狭窄兼閉鎖不全症		1062	G4I2	≒:BB72.0	≒:BB72.0		1 =		http://id.who.int/icd/entity/424187633	1 =		BB72.0	
21312	9 リウマチ性大動脈弁疾患		1069	D7G9	下:BB72 上: BC01	下:BB72 上: BC01		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1609206873	1 =		BB72	Other specified aortic valve disease → rheumatic aortic valve disease
21313	9 リウマチ性大動脈弁心内膜炎		1069	D7G9	下:BB72 上: BC01	下:BB72 上: BC01		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1609206873&http://id.who.int/icd/entity/43307387	1 =		BB72 & XA3227	
21314	9 三尖弁狭窄症		1070	C3B4	≒:BB80.0	≒:BB80.0		1 =		http://id.who.int/icd/entity/442626161	1 =		BB80.Z	Tricuspid valve stenosis → Zまで下りました
21315	9 三尖弁狭窄		1070	C3B4	≒:BB80.0	≒:BB80.0		1 =		http://id.who.int/icd/entity/442626161	1 =		BB80.Z	Tricuspid valve stenosisの同義語にあり → Zまで下りました
21316	9 TS		1070	C3B4	≒:BB80.0	≒:BB80.0		1 =		http://id.who.int/icd/entity/442626161	1 =		BB80.Z	
21317	9 三尖弁狭窄(症)		1070	UPP	≒:BB80.0	≒:BB80.0		1 =		http://id.who.int/icd/entity/341230363	1 =		BB80.Z	Rheumatic tricuspid valve stenosis
21318	9 リウマチ性三尖弁狭窄症		1071	K3I0	≒:BB81.0	≒:BB81.0		1 =		http://id.who.int/icd/entity/70887951	1 =		BB81.Z	Tricuspid valve insufficiency, unspecified
21319	9 三尖弁逆流		1071	K3I0	≒:BB81.0	≒:BB81.0		1 =		http://id.who.int/icd/entity/70887951	1 =		BB81.Z	Tricuspid valve insufficiency → Zまで下りました
21320	9 三尖弁閉鎖不全症		1071	K3I0	≒:BB81.0	≒:BB81.0		1 =		http://id.who.int/icd/entity/70887951	1 =		BB81.Z	
21321	9 三尖弁閉鎖不全(症)		1071	K3I0	≒:BB81.0	≒:BB81.0		1 =		http://id.who.int/icd/entity/70887951	1 =		BB81.Z	
21322	9 TR		1071	K3I0	≒:BB81.0	≒:BB81.0		1 =		http://id.who.int/icd/entity/70887951	1 =		BB81.Z	
21323	9 三尖弁閉鎖不全		1071	K3I0	≒:BB81.0	≒:BB81.0		1 =		http://id.who.int/icd/entity/70887951	1 =		BB81.Z	
21324	9 リウマチ性三尖弁閉鎖不全症		1071	N67F	≒:BB81.0	≒:BB81.0		1 =		http://id.who.int/icd/entity/189722679	1 =		BB81.0	Rheumatic tricuspid valve insufficiency

No	ICD10 標準病名	代表・同義	ICD10 コード	交換コード	旧バージョン	新バージョン 2022	病名として現 代では不適切	確信度	関係	ICD11 Foundation URI	確信度	関係	MMIS	備考
21325	9 三尖弁狭窄兼閉鎖不全症	L	1072	KPFB	=:BB82.0	=:BB82.0		1 =		http://id.who.int/icd/entity/259064684	1 =		BB82.Z	
21326	9 TS+TR	S1	1072	KPFB	=:BB82.0	=:BB82.0		1 =		http://id.who.int/icd/entity/259064684	1 =		BB82.Z	B880.Z&XA3227 Tricuspid valve stenosis, unspecified&Endocardium ⇒炎症なので、stenosis じゃないかむしろませんが、正しいものではないとTricuspid prosthetic valve failureがいうとTricuspid prosthetic valve failureがあります。正しいものではないと局所的になつてる気がして、飛ばしました
21327	9 三尖弁心内膜炎	L	1078	F2FJ	下:BB8Z	下:BB8Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1843615838 & http://id.who.int/icd/entity/1350243387	1 =		BB8Z & XA3227	
21328	9 慢性三尖弁心内膜炎	S2	1078	F2FJ	下:BB8Z	下:BB8Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1843615838 & http://id.who.int/icd/entity/1350243387 & http://id.who.int/icd/entity/490003542	1 =		BB8Z & XA3227 & XT8W	
21329	9 三尖弁不全	L	1078	V0I3	下:BB8Z	下:BB8Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1843615838	1 =		BB8Z	B880.Z Tricuspid valve stenosis, unspecified ⇒炎症なので、stenosis じゃないと思うのですが、正しいものか決められません。近いものではないとTricuspid prosthetic valve failureがあります。正しいものではないと局所的になつてる気がして、飛ばしました
21330	9 リウマチ性三尖弁狭窄	L	1079	A90H	下:BB8Z	下:BB8Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1843615838 / http://id.who.int/icd/entity/2113186970	1 =		BB8Z / ME83	B880.Y Other specified nonrheumatic tricuspid valve stenosis ⇒炎症なので、stenosis じゃないと思うのですが、正しいものか決められません。近いものではないとTricuspid prosthetic valve failureがあります。正しいものではないと局所的になつてる気がして、飛ばしました
21331	9 三尖弁疾患	L	1079	L0HC	下:BB8Z	下:BB8Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1843615838	1 =		BB8Z	
21332	9 三尖弁障害	S1	1079	L0HC	下:BB8Z	下:BB8Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1843615838	1 =		BB8Z	
21333	9 僧帽弁狭窄兼閉鎖不全症兼大動脈弁狭窄症	L	1080	AAQP	=:BC00	=:BC00		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1777223428 / http://id.who.int/icd/entity/956813047	1 =		BC00 / BB63 / BB70	BC00 Multiple valve disease/BB60 Mitral valve stenosis/BB70 Aortic valve stenosis/BB61 Mitral valve insufficiency⇒電話会議後修正 URL(http://id.who.int/icd/entity/1548485475 (aortic insufficiency) & http://id.who.int/icd/entity/2115139779 (Mitral valve stenosis)⇒BC00 / BB63 / BB71
21334	9 MS+MR+AS	S1	1080	AAQP	=:BC00	=:BC00		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1777223428 / http://id.who.int/icd/entity/956813047	1 =		BC00 / BB63 / BB70	BC00 Multiple valve disease / BB60 Mitral valve stenosis / BB70 Aortic valve stenosis/BB71 Aortic valve insufficiency⇒BC00 / BB63 / BB71
21335	9 大動脈弁閉鎖不全症兼僧帽弁狭窄症	L	1080	CAF1	=:BC00	=:BC00		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1297046422 / http://id.who.int/icd/entity/1548485475	1 =		BC00 / BB63 / BB71	BC00 Multiple valve disease / BB60 Mitral valve stenosis / BB70 Aortic valve stenosis/BB71 Aortic valve insufficiency⇒BC00 / BB63 / BB71
21336	9 AR+MS	S1	1080	CAF1	=:BC00	=:BC00		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1297046422 / http://id.who.int/icd/entity/1548485475	1 =		BC00 / BB63 / BB71	BC00 Multiple valve disease / BB60 Mitral valve stenosis / BB70 Aortic valve stenosis/BB71 Aortic valve insufficiency⇒BC00 / BB63 / BB71
21337	9 僧帽弁狭窄兼閉鎖不全症兼大動脈弁閉鎖不全症	L	1080	CRQR	=:BC00	=:BC00		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1777223428 / http://id.who.int/icd/entity/1548485475	1 =		BC00 / BB63 / BB71	BC00 Multiple valve disease / BB60 Mitral valve stenosis / BB70 Aortic valve stenosis/BB71 Aortic valve insufficiency⇒BC00 / BB63 / BB71
21338	9 MS+MR+AR	S1	1080	CRQR	=:BC00	=:BC00		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1777223428 / http://id.who.int/icd/entity/1548485475	1 =		BC00 / BB63 / BB71	BC00 Multiple valve disease / BB60 Mitral valve stenosis / BB70 Aortic valve stenosis/BB71 Aortic valve insufficiency⇒BC00 / BB63 / BB71
21339	9 大動脈弁狭窄兼閉鎖不全症兼僧帽弁閉鎖不全症	L	1080	EL8V	=:BC00	=:BC00		1 =		http://id.who.int/icd/entity/685855644 / http://id.who.int/icd/entity/637470926	1 =		BC00 / BB72 / BB61	BC00 Multiple valve disease / BB60 Mitral valve stenosis / BB70 Aortic valve stenosis/BB71 Aortic valve insufficiency⇒BC00 / BB63 / BB71
21340	9 AS+AR+MR	S1	1080	EL8V	=:BC00	=:BC00		1 =		http://id.who.int/icd/entity/685855644 / http://id.who.int/icd/entity/637470926	1 =		BC00 / BB72 / BB61	BC00 Multiple valve disease / BB60 Mitral valve stenosis / BB70 Aortic valve stenosis/BB71 Aortic valve insufficiency⇒BC00 / BB63 / BB71
21341	9 大動脈弁閉鎖不全症兼僧帽弁閉鎖不全症	L	1080	F9PA	=:BC00	=:BC00		1 =		http://id.who.int/icd/entity/682457885 / http://id.who.int/icd/entity/637470926	1 =		BC00 / BB71 / BB61	BC00 Multiple valve disease / BB60 Mitral valve stenosis / BB70 Aortic valve stenosis & BB61 Mitral valve insufficiency⇒BC00 / BB71 / BB61
21342	9 AR+MR	S1	1080	F9PA	=:BC00	=:BC00		1 =		http://id.who.int/icd/entity/682457885 / http://id.who.int/icd/entity/637470926	1 =		BC00 / BB71 / BB61	BC00 Multiple valve disease / BB60 Mitral valve stenosis / BB70 Aortic valve stenosis & BB61 Mitral valve insufficiency⇒BC00 / BB71 / BB61
21343	9 大動脈弁狭窄症兼僧帽弁狭窄症	L	1080	GFMF	=:BC00	=:BC00		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1297046422 / http://id.who.int/icd/entity/956813047	1 =		BC00 / BB70 / BB60	BB70 Aortic valve stenosis & BB60 Mitral valve stenosis⇒BC00 / BB70 / BB60
21344	9 AS+MS	S1	1080	GFMF	=:BC00	=:BC00		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1297046422 / http://id.who.int/icd/entity/956813047	1 =		BC00 / BB70 / BB60	BB70 Aortic valve stenosis & BB60 Mitral valve stenosis⇒BC00 / BB70 / BB60
21345	9 大動脈弁狭窄兼閉鎖不全症兼僧帽弁狭窄症	L	1080	HDLT	=:BC00	=:BC00		1 =		http://id.who.int/icd/entity/956813047	1 =		BC00 / BB72 / BB60	BC00 Multiple valve disease & BB72 Aortic valve stenosis with insufficiency & BB60 Mitral valve stenosis

No	ICD10 標準病名	代表・同義	ICD10 コード	交換コード	旧バージョン	新バージョン 2022	病名として現行ではない適切な	確信度	関係	ICD11 Foundation URI	確信度	関係	MMS	備考
21346	9 AS+AR+MS	S1	1080	HDI1	=:BC00	=:BC00		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1297046422/ http://id.who.int/icd/entity/956813047/	1 =	=	BC00 / BB72 / BB60	
21347	9 大動脈弁狭窄症兼僧帽弁閉鎖不全症	L	1080	O61C	=:BC00	=:BC00		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1757120902/	1 =	=	BC00 / BB70 / BB61	Bb70 Aortic valve stenosis & Bb61 Mitral valve insufficiency→BC00 / BB70 / BB61
21348	9 AS+MR	S1	1080	O61C	=:BC00	=:BC00		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1757120902/ http://id.who.int/icd/entity/1494292210/ http://id.who.int/icd/entity/2115139779/	1 =	=	BC00 / BB70 / BB61	BC00 / BB80 / BB60
21349	9 僧帽弁狭窄症兼三尖弁狭窄症	L	1081	GG89	=:BC00	=:BC00		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1494292210/ http://id.who.int/icd/entity/2115139779/	1 =	=	BC00 / BB80 / BB60	BC00 / BB80 / BB60
21350	9 MS+TS	S1	1081	GG89	=:BC00	=:BC00		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1959180667/ http://id.who.int/icd/entity/738206451/ http://id.who.int/icd/entity/2115139779/	1 =	=	BC00 / BB60 / BB81	BC00 / BB60 / BB81
21351	9 僧帽弁狭窄症兼三尖弁閉鎖不全症	L	1081	JUF1	=:BC00	=:BC00		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/738206451/ http://id.who.int/icd/entity/2115139779/	1 =	=	BC00 / BB60 / BB81	BC00 / BB60 / BB81
21352	9 MS+TR	S1	1081	JUF1	=:BC00	=:BC00		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/738206451/ http://id.who.int/icd/entity/2115139779/	1 =	=	BC00 / BB60 / BB81	BC00 / BB60 / BB81
21353	9 僧帽弁閉鎖不全症兼三尖弁狭窄症	L	1081	NSFQ	=:BC00	=:BC00		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1959180667/ http://id.who.int/icd/entity/637470326/	1 =	=	BC00 / BB61 / BB80	BC00 / BB61 / BB80
21354	9 MR+TS	S1	1081	NSFQ	=:BC00	=:BC00		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1959180667/ http://id.who.int/icd/entity/637470326/	1 =	=	BC00 / BB61 / BB80	BC00 / BB61 / BB80
21355	9 僧帽弁閉鎖不全症兼三尖弁閉鎖不全症	L	1081	VAP1	=:BC00	=:BC00		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/738206451/ http://id.who.int/icd/entity/637470326/	1 =	=	BC00 / BB61 / BB81	BC00 / BB61 / BB81
21356	9 MR+TR	S1	1081	VAP1	=:BC00	=:BC00		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/738206451/ http://id.who.int/icd/entity/637470326/	1 =	=	BC00 / BB61 / BB81	BC00 / BB61 / BB81
21357	9 大動脈弁狭窄症兼三尖弁閉鎖不全症	L	1082	FUSA	=:BC00	=:BC00		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1062905150/ http://id.who.int/icd/entity/956813047/	1 =	=	BC00 / BB70 / BE	BC00 / BB70 / BB81
21358	9 AS+TR	S1	1082	FUSA	=:BC00	=:BC00		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1062905150/ http://id.who.int/icd/entity/956813047/	1 =	=	BC00 / BB70 / BE	BC00 / BB70 / BB81
21359	9 大動脈弁閉鎖不全症兼三尖弁閉鎖不全症	L	1082	LHH8	=:BC00	=:BC00		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1062905150/ http://id.who.int/icd/entity/1548485475/	1 =	=	BC00 / BB71 / BB81	BC00 / BB71 / BB81
21360	9 AR+TR	S1	1082	LHH8	=:BC00	=:BC00		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1062905150/ http://id.who.int/icd/entity/1548485475/	1 =	=	BC00 / BB71 / BB81	BC00 / BB71 / BB81
21361	9 大動脈弁閉鎖不全症兼三尖弁狭窄症	L	1082	S1B6	=:BC00	=:BC00		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1900590907/ http://id.who.int/icd/entity/1548485475/	1 =	=	BC00 / BB71 / BB	BC00 / BB71 / BB80
21362	9 AR+TS	S1	1082	S1B6	=:BC00	=:BC00		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1900590907/ http://id.who.int/icd/entity/1548485475/	1 =	=	BC00 / BB71 / BB	BC00 / BB71 / BB80
21363	9 大動脈弁狭窄症兼三尖弁狭窄症	L	1082	VA7J	=:BC00	=:BC00		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1900590907/ http://id.who.int/icd/entity/956813047/	1 =	=	BC00 / BB70 / BE	BC00 / BB70 / BB80
21364	9 AS+TS	S1	1082	VA7J	=:BC00	=:BC00		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1900590907/ http://id.who.int/icd/entity/956813047/	1 =	=	BC00 / BB70 / BE	BC00 / BB70 / BB80
21365	9 大動脈弁狭窄症兼僧帽弁閉鎖不全症兼三尖弁閉鎖不全症	L	1083	D1HC	=:BC00	=:BC00		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1364475287/ http://id.who.int/icd/entity/956813047/ http://id.who.int/icd/entity/770887951/	1 =	=	BC00 / BB70 / BB61 / BB81	BC00 / BB70 / BB61 / BB81
21366	9 AS+MR+TR	S1	1083	D1HC	=:BC00	=:BC00		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1627300577/ http://id.who.int/icd/entity/956813047/ http://id.who.int/icd/entity/2115139779/	1 =	=	BC00 / BB70 / BB61 / BB81	BC00 / BB70 / BB61 / BB81
21367	9 大動脈弁狭窄症兼僧帽弁狭窄症兼三尖弁閉鎖不全症	L	1083	ENJ	=:BC00	=:BC00		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1627300577/ http://id.who.int/icd/entity/956813047/ http://id.who.int/icd/entity/2115139779/	1 =	=	BC00 / BB70 / BE	BC00 / BB70 / BB60 / BB81
21368	9 AS+MS+TR	S1	1083	ENJ	=:BC00	=:BC00		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1627300577/ http://id.who.int/icd/entity/956813047/ http://id.who.int/icd/entity/2115139779/	1 =	=	BC00 / BB70 / BE	BC00 / BB70 / BB60 / BB81
21369	9 大動脈弁閉鎖不全症兼僧帽弁狭窄症兼三尖弁閉鎖不全症	L	1083	LC8	=:BC00	=:BC00		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/780091480/ http://id.who.int/icd/entity/1548485475/ http://id.who.int/icd/entity/2115139779/ http://id.who.int/icd/entity/770887951/	1 =	=	BC00 / BB71 / BB60 / BB81	BC00 / BB71 / BB60 / BB81

No	ICD10 標準病名	代表・同義	ICD10 コード	交換コード	旧バージョン	新バージョン 2022	病名として現代表は不適切	確信度	関係	ICD11 Foundation URI	確信度	関係	MMS	備考
21370	9 AR+MS+TR	S1	1083	LK C8	=:BC00	=:BC00		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1548485475/ http://id.who.int/icd/entity/2115139779/ http://id.who.int/icd/entity/70887951/	1 =		BC00 / BB71 / BB60 / BB81	BC00 / BB71 / BB60 / BB81
21371	9 大動脈弁閉鎖不全症兼僧帽弁閉鎖不全症兼三尖弁閉鎖不全症	L	1083	V4J9	=:BC00	=:BC00		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1548485475/ http://id.who.int/icd/entity/637470326/ http://id.who.int/icd/entity/1541065297/	1 =		BC00 / BB71 / BE BC00 / BB71 / BB81	BC00 / BB71 / BB81
21372	9 AR+MR+TR	S1	1083	V4J9	=:BC00	=:BC00		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1548485475/ http://id.who.int/icd/entity/637470326/	1 =		BC00 / BB71 / BE BC00 / BB71 / BB61 / BB81	BC00 / BB71 / BB61 / BB81
21373	9 大動脈弁閉鎖不全症兼肺動脈弁閉鎖不全症	L	1088	Df62	下:BC00	下:BC00		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1548485475/ http://id.who.int/icd/entity/1093889988/	1 =		BC00 / BB71 / BB91	BB71/BB90 Aortic valve insufficiency/Pulmonary valve insufficiency: 大動脈弁閉鎖不全症/肺動脈弁閉鎖不全症→BC00 / BB71 / BB91
21374	9 AR+PR	S1	1088	Df62	下:BC00	下:BC00		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1548485475/ http://id.who.int/icd/entity/1093889988/	1 =		BC00 / BB71 / BB91	
21375	9 三尖弁狭窄症兼肺動脈弁閉鎖不全症	L	1088	DK18	下:BC00	下:BC00		1 =		http://id.who.int/icd/entity/442626161/ http://id.who.int/icd/entity/442626161/ http://id.who.int/icd/entity/1093889988/	1 =		BC00 / BB80 / BB91	BB80/BB91 Tricuspid valve stenosis/Pulmonary valve insufficiency: 三尖弁狭窄症/肺動脈弁閉鎖不全症→BC00 / BB80 / BB91
21376	9 TS+PR	S1	1088	DK18	下:BC00	下:BC00		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1093889988/	1 =		BC00 / BB81 / BB91	BC00 / BB81 / BB91
21377	9 三尖弁閉鎖不全症兼肺動脈弁閉鎖不全症	L	1088	DTDM	下:BC00	下:BC00		1 =		http://id.who.int/icd/entity/70887951/ http://id.who.int/icd/entity/1093889988/	1 =		BC00 / BB81 / BB91	
21378	9 TR+PR	S1	1088	DTDM	下:BC00	下:BC00		1 =		http://id.who.int/icd/entity/70887951/ http://id.who.int/icd/entity/1093889988/	1 =		BC00 / BB81 / BB91	
21379	9 大動脈弁閉鎖不全症兼肺動脈弁閉鎖不全症	L	1088	FKC7	下:BC00	下:BC00		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1548485475/ http://id.who.int/icd/entity/611886666/	1 =		BC00 / BB71 / BB90	BB71/BB90 Aortic valve insufficiency/Pulmonary valve stenosis: 大動脈弁閉鎖不全症/肺動脈弁狭窄症→BC00 / BB71 / BB90
21380	9 AR+PS	S1	1088	FKC7	下:BC00	下:BC00		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1548485475/ http://id.who.int/icd/entity/611886666/	1 =		BC00 / BB71 / BB90	
21381	9 僧帽弁閉鎖不全症兼肺動脈弁閉鎖不全症	L	1088	HOEG	下:BC00	下:BC00		1 =		http://id.who.int/icd/entity/637470326/ http://id.who.int/icd/entity/611886666/	1 =		BC00 / BB61 / BB90	BB61/BB90 Mitral valve insufficiency/Pulmonary valve stenosis: 僧帽弁閉鎖不全症/肺動脈弁狭窄症→BC00 / BB61 / BB90
21382	9 MR+PS	S1	1088	HOEG	下:BC00	下:BC00		1 =		http://id.who.int/icd/entity/637470326/ http://id.who.int/icd/entity/611886666/	1 =		BC00 / BB61 / BB90	
21383	9 僧帽弁閉鎖不全症兼肺動脈弁閉鎖不全症	L	1088	P497	下:BC00	下:BC00		1 =		http://id.who.int/icd/entity/637470326/ http://id.who.int/icd/entity/1093889988/	1 =		BC00 / BB61 / BB91	BB61/BB91 Mitral valve insufficiency/Pulmonary valve insufficiency: 僧帽弁閉鎖不全症/肺動脈弁閉鎖不全症→BC00 / BB61 / BB91
21384	9 MR+PR	S1	1088	P497	下:BC00	下:BC00		1 =		http://id.who.int/icd/entity/637470326/ http://id.who.int/icd/entity/1093889988/	1 =		BC00 / BB61 / BB91	
21385	9 三尖弁閉鎖不全症兼肺動脈弁閉鎖不全症	L	1088	QK4T	下:BC00	下:BC00		1 =		http://id.who.int/icd/entity/70887951/ http://id.who.int/icd/entity/611886666/	1 =		BC00 / BB81 / BB90	BC00 Tricuspid insufficiency with stenosis and aortic disease: 狭窄および大動脈疾患を伴う三尖弁閉鎖不全症→BC00 / BB81 / BB90
21386	9 TR+PS	S1	1088	QK4T	下:BC00	下:BC00		1 =		http://id.who.int/icd/entity/70887951/ http://id.who.int/icd/entity/611886666/	1 =		BC00 / BB81 / BB90	
21387	9 僧帽弁狭窄症兼肺動脈弁閉鎖不全症	L	1088	QUFC	下:BC00	下:BC00		1 =		http://id.who.int/icd/entity/2115139779/ http://id.who.int/icd/entity/1093889988/	1 =		BC00 / BB60 / BB91	BB60/BB91 Mitral valve stenosis/Pulmonary valve insufficiency: 僧帽弁狭窄症/肺動脈弁閉鎖不全症→BC00 / BB60 / BB91
21388	9 MS+PR	S1	1088	QUFC	下:BC00	下:BC00		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1093889988/ http://id.who.int/icd/entity/2115139779/	1 =		BC00 / BB60 / BB91	
21389	9 大動脈弁狭窄症兼肺動脈弁閉鎖不全症	L	1088	UMG6	下:BC00	下:BC00		1 =		http://id.who.int/icd/entity/956813047/ http://id.who.int/icd/entity/1093889988/	1 =		BC00 / BB70 / BB91	BB70/BB90 Aortic valve stenosis/Pulmonary valve stenosis: 大動脈弁閉鎖不全症/肺動脈弁狭窄症→BC00 / BB70 / BB91
21390	9 AS+PR	S1	1088	UMG6	下:BC00	下:BC00		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1942372791/ http://id.who.int/icd/entity/1172412968/	1 =		BC00 / BB70 / BB91	
21391	9 連合弁膜症	L	1089	TCE3	下:BC00	下:BC00		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1172412968/	1 =		BC00	Multiple valve disease
21392	9 リウマチ性心筋炎	L	1090	RN43	=:BC42.3	=:BC42.3		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1172412968/	1 =		BC42.3	Rheumatic myocarditis
21393	9 慢性リウマチ性心筋炎	S2	1090	RN43	=:BC42.3	=:BC42.3		1 =		http://id.who.int/icd/entity/291726710/	1 =		BC02.Z	

標準病名のICD-11コーディング作業結果

～ 第10章 標準病名 ～ (5ページのみ抜粋)

No	ICD10 章	標準病名	代 表・ 同義	ICD10 コード	交換 コード	旧 ソフ ツワ ビ	新 ソフ ツワ 2022	病名と して現 在では 不適切	確 信 度	確 信 係 数	ICD11 Foundation URI	確 信 度	確 信 係 数	MMS	備考
23488	10	急性鼻炎	L	J00	EM3T	=:CA00	=:CA00		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/2066255370	1 =	1 =	CA00	cold acute rhinitis
23489	10	急性鼻カタル	S2	J00	EM3T	=:CA00	=:CA00		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/2066255370	1 =	1 =	CA00	acute nasal catarrh
23490	10	急性鼻咽頭炎	L	J00	FO78	=:CA00	=:CA00		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/2066255370	1 =	1 =	CA00	Acute nasopharyngitis
23491	10	鼻咽頭炎	S1	J00	FO78	=:CA00	=:CA00		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/2066255370	1 =	1 =	CA00	Rhinopharyngitis
23492	10	亜急性鼻咽頭炎	S2	J00	FO78	=:CA00	=:CA00		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/2066255370 & http://id.who.int/icd/entity/2058324694	1 =	1 =	CA00 & XT1L	
23493	10	感染性鼻咽頭炎	S2	J00	FO78	=:CA00	=:CA00		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/2066255370	1 =	1 =	CA00	infective nasopharyngitis
23494	10	感冒	L	J00	FULM	=:CA00	=:CA00		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/2066255370	1 =	1 =	CA00	cold common cold coryza acute coryza
23495	10	かぜ	L	J00	FULM	=:CA00	=:CA00		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/2066255370	1 =	1 =	CA00	cold common cold acute coryza coryza
23496	10	かぜ症候群	S1	J00	FULM	=:CA00	=:CA00		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/2066255370	1 =	1 =	CA00	common cold
23497	10	風邪	S1	J00	FULM	=:CA00	=:CA00		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/2066255370	1 =	1 =	CA00	common cold cold
23498	10	夏カゼ症候群	S2	J00	FULM	=:CA00	=:CA00		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/2066255370	1 =	1 =	CA00	
23499	10	感染性鼻炎	L	J00	P1LQ	=:CA00	=:CA00		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/2066255370	1 =	1 =	CA00	infective rhinitis
23500	10	急性鼻かぜ	S1	J00	P1LQ	=:CA00	=:CA00		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/2066255370	1 =	1 =	CA00	
23501	10	鼻かぜ	S2	J00	P1LQ	=:CA00	=:CA00		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1617309258	1 =	1 =	CA00	head cold coryza
23502	10	急性上顎洞炎	L	J010	H5UV	=:CA01	=:CA01		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1617309258	1 <	1 <	CA01	Acute maxillary sinusitis acute maxilla sinusitis
23503	10	急性前頭洞炎	L	J011	FG7Q	=:CA01	=:CA01		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/86893536	1 <	1 <	CA01	Acute frontal sinusitis
23504	10	急性篩骨洞炎	L	J012	NR8Q	=:CA01	=:CA01		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1904259873	1 <	1 <	CA01	Acute ethmoidal sinusitis acute ethmoid sinusitis
23505	10	急性蝶形骨洞炎	L	J013	RQ6F	=:CA01	=:CA01		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/348880565	1 <	1 <	CA01	Acute sphenoidal sinusitis
23506	10	急性副鼻腔炎	L	J014	NK32	=:CA01	=:CA01		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/173058785	1 <	1 <	CA01	Acute pansinusitis
23507	10	急性副鼻腔炎	L	J019	J6SS	=:CA01	=:CA01		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/509821856	1 =	1 =	CA01	Acute sinusitis Acute antritis Acute infection of accessory sinus
23508	10	急性鼻副鼻腔炎	S1	J019	J6SS	=:CA01	=:CA01		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/509821856	1 =	1 =	CA01	acute rhinosinusitis
23509	10	急性副鼻腔蓄膿症	L	J019	TO6D	=:CA01	=:CA01		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/509821856	1 =	1 =	CA01	副鼻腔炎と蓄膿症は同義
23510	10	急性副鼻腔膿瘍	S2	J019	TO6D	=:CA01	=:CA01		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1237790399	1 <	1 <	CA01	acute accessory sinus abscess
23511	10	急性副鼻腔感染症	S2	J019	TO6D	=:CA01	=:CA01		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1237790399	1 <	1 <	CA01	
23512	10	急性副鼻腔化膿症	S2	J019	TO6D	=:CA01	=:CA01		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1237790399	1 <	1 <	CA01	acute suppuration of nasal sinus
23513	10	連鎖球菌性アノギナ	L	J020	F6J	=:1B51	=:1B51		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1642172022	1 =	1 =	1B51	streptococcal angina
23514	10	れんさ球菌性アノギナ	S1	J020	F6J	=:1B51	=:1B51		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1642172022	1 =	1 =	1B51	
23515	10	連鎖球菌性口峡炎	S1	J020	F6J	=:1B51	=:1B51		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1642172022	1 =	1 =	1B51	
23516	10	レンサ球菌性アノギナー	S1	J020	F6J	=:1B51	=:1B51		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1642172022	1 =	1 =	1B51	

No	ICD10 章	標準病名	代 表・ 同義	ICD10 コード	交換 コード	旧 ソグ ピ	新 ソグ ピ 2022	病名と して現 代では 不適切	確 信 度	関 係	ICD11 Foundation URI	確 信 度	関 係	MMS	備考
23517	10	れんさ球菌性アノ ギーナ	S1	J020	F6J	=:1B51	=:1B51		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1642172022	1 =		1B51	
23518	10	れんさ球菌性口峡炎	S1	J020	F6J	=:1B51	=:1B51		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1642172022	1 =		1B51	
23519	10 ナ	連鎖球菌性アノギー ナ	S1	J020	F6J	=:1B51	=:1B51		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1642172022	1 =		1B51	
23520	10	連鎖球菌性咽頭炎	L	J020	JNCE	=:1B51	=:1B51		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1642172022	1 =		1B51	Streptococcal pharyngitis strept throat Streptococcal sore throat
23521	10	溶連菌性咽頭炎	S1	J020	JNCE	=:1B51	=:1B51		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1642172022	1 =		1B51	
23522	10	れんさ球菌性咽頭炎	S1	J020	JNCE	=:1B51	=:1B51		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1642172022	1 =		1B51	
23523	10	レンサ球菌性咽頭炎	S1	J020	JNCE	=:1B51	=:1B51		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1642172022	1 =		1B51	
23524	10	敗血症性咽頭炎	L	J020	ULK5	=:1B51	=:1B51		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1642172022	1 =		1B51	septic sore throat septic pharyngitis
23525	10	敗血症性咽頭炎	S1	J020	ULK5	=:1B51	=:1B51		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1642172022	1 =		1B51	
23526	10	敗血症性アノギーナ	S2	J020	ULK5	=:1B51	=:1B51		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1642172022	1 =		1B51	
23527	10	敗血症性アノギーナ	S2	J020	ULK5	=:1B51	=:1B51		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1642172022	1 =		1B51	septic angina
23528	10	偽膜性咽頭炎	L	J028	DC8C	=:CA02.0	=:CA02.0		1 <		http://id.who.int/icd/entity/1791890273	1 <		CA02.Z	infection of pharynx ウイルス感染症により発生する気管と 喉頭の炎症で、せきと、高いキュー キューという呼吸音（吸気性喘鳴）が起 こり、ときに息を吸う（吸気）のが難 しくなります →急性ではないので、CA02.Z pharyngitis NOS & Haemophilus influenzae
23529	10	アノフルエンザ菌性 咽頭炎	L	J028	FO20	=:CA02.0	=:CA02.0		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1791890273 http://id.who.int/icd/entity/675811104	1 =		CA02.Z & XN1P6	→pneumococcal pharyngitis
23530	10	肺炎球菌性咽頭炎	L	J028	KQ0H	=:CA02.0	=:CA02.0		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1474425113	1 <		CA02.0	
23531	10	膜性咽頭炎	L	J028	LNN	=:CA02.0	=:CA02.0		1 <		http://id.who.int/icd/entity/1791890273	1 <		CA02.Z	
23532	10	ウイルス性咽頭炎	L	J028	PM6M	=:CA02.0	=:CA02.0		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1758486982	1 =		CA02.1Z	咽頭炎は、急性咽頭炎の同義語にある と解釈し、Acute viral pharyngitisとした ぶどう球菌性咽頭炎は、急性ぶどう球 菌性咽頭炎の同義語
23533	10	ぶどう球菌性咽頭炎	L	J028	T4TM	=:CA02.0	=:CA02.0		1 =		http://id.who.int/icd/entity/411186052	1 <		CA02.0	staphylococcal pharyngitis
23534	10	ブドウ球菌性咽頭炎	S1	J028	T4TM	=:CA02.0	=:CA02.0		1 =		http://id.who.int/icd/entity/411186052	1 <		CA02.0	
23535	10 炎	アデノウイルス咽頭 炎	L	J028	VA4K	=:CA02.0	=:CA02.0		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1956341906	1 =		CA02.10	
23536	10	アデノウイルス性咽 頭炎	S1	J028	VA4K	=:CA02.0	=:CA02.0		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1956341906	1 =		CA02.10	
23537	10	潰瘍性咽頭炎	L	J029	B2AD	下:CA02.Z	下:CA02.Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/2028159831	1 <		CA02.Y	ulcerative pharyngitis ulcerated sore throat
23538	10	咽頭炎	L	J029	BAIQ	下:CA02.Z	下:CA02.Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1791890273	1 =		CA02.Z	fever sore throat inflammation infection of pharynx pharyngeal inflammation inflammation of the throat
23539	10	咽頭側索炎	S2	J029	BAIQ	下:CA02.Z	下:CA02.Z		1 <		http://id.who.int/icd/entity/1791890273	1 <		CA02.Z	

No	ICD10 章	標準病名	代 表・ 同義	ICD10 コード	交換 コード	旧サビ ング	新サビ ング2022	病名と して現 代では 不適切	確 信 度	確 信 係 数	ICD11 Foundation URI	確 信 度	確 信 係 数	MMS	備考
23540	10	咽頭周囲炎	S2	J029	BAIQ	下:CA02.Z	下:CA02.Z		1 <	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1791890273	1 <	1 =	CA02.Z	
23541	10	下咽頭炎	L	J029	ETAR	下:CA02.Z	下:CA02.Z		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1528782604	1 =	1 =	CA04	hypopharyngitis
23542	10	アノギナ	L	J029	EVF7	下:CA02.Z	下:CA02.Z		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/260431605	1 =	1 =	CA03.Z	= Acute Tonsillitis to
23543	10	アノギーナ	S1	J029	EVF7	下:CA02.Z	下:CA02.Z		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/260431605	1 =	1 =	CA03.Z	
23544	10	口喉炎	S1	J029	EVF7	下:CA02.Z	下:CA02.Z		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/407800318	1 <	1 =	CA02.Y	Faucitis
23545	10	上咽頭炎	L	J029	HUAM	下:CA02.Z	下:CA02.Z		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/2066255370	1 =	1 =	CA00	hypopharyngitis epipharyngitis
23546	10	急性咽頭炎	L	J029	JAKQ	下:CA02.Z	下:CA02.Z		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1791890273	1 =	1 =	CA02.Z	acute pharyngeal inflammation Acute pharyngitis acute throat inflammation
23547	10	カタリ性咽頭炎	L	J029	L18G	下:CA02.Z	下:CA02.Z		1 <	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1791890273	1 <	1 =	CA02.Z	
23548	10	壊疽性咽頭炎	L	J029	MP10	下:CA02.Z	下:CA02.Z		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/43485318	1 <	1 =	CA02.Y	gangrenous pharyngitis
23549	10	腐敗性咽頭炎	S2	J029	MP10	下:CA02.Z	下:CA02.Z		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1791890273	1 =	1 =	CA02.Z	putrid pharyngitis
23550	10	感染性咽頭炎	L	J029	NFMB	下:CA02.Z	下:CA02.Z		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1791890273	1 =	1 =	CA02.Z	infective pharyngitis
23551	10	特殊感染性咽頭炎	S2	J029	NFMB	下:CA02.Z	下:CA02.Z		1 <	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1791890273	1 <	1 =	CA02.Z	
23552	10	咽頭痛	L	J029	P6DD	下:CA02.Z	下:CA02.Z		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1354622301	1 <	1 =	CA0Y	pharyngeal pain throat pain Pain in the pharynx Pain in throat
23553	10	急性化膿性咽頭炎	L	J029	TRUD	下:CA02.Z	下:CA02.Z		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/591459080	1 <	1 =	CA02.Y	Acute suppurative pharyngitis
23554	10	化膿性咽頭炎	S1	J029	TRUD	下:CA02.Z	下:CA02.Z		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/591459080	1 <	1 =	CA02.Y	purulent pharyngitis suppurative pharyngitis
23555	10	連鎖球菌性扁桃炎	L	J030	S9H5	=:CA03.0	=:CA03.0		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/2098808565	1 =	1 =	CA03.0	Streptococcal tonsillitis
23556	10	れんさ球菌性扁桃炎	S1	J030	S9H5	=:CA03.0	=:CA03.0		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/2098808565	1 =	1 =	CA03.0	
23557	10	リンパ球菌性扁桃炎	S1	J030	S9H5	=:CA03.0	=:CA03.0		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/2098808565	1 =	1 =	CA03.0	
23558	10	溶連菌性扁桃炎	S1	J030	S9H5	=:CA03.0	=:CA03.0		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/2098808565	1 =	1 =	CA03.0	
23559	10	ウイルス性扁桃炎	L	J038	AVB	=:CA03.Z	=:CA03.Z		1 <	1 =	http://id.who.int/icd/entity/260431605	1 <	1 =	CA03.Z	ウイルスのコードがないので、扁桃炎とした
23560	10	ぶどう球菌性扁桃炎	L	J038	HML5	=:CA03.Z	=:CA03.Z		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/392955595	1 =	1 =	CA03.Y & XN9ZG	ぶどう球菌
23561	10	ブドウ球菌性扁桃炎	S1	J038	HML5	=:CA03.Z	=:CA03.Z		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/392955595	1 =	1 =	CA03.Y & XN9ZG	
23562	10	アデノウイルス扁桃炎	L	J038	HUDF	=:CA03.Z	=:CA03.Z		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/260431605 & http://id.who.int/icd/entity/1075681120	1 =	1 =	CA03.Y & XN000	Other specified acute tonsillitis (CA03→CA03.Y)&アデノウイルス
23563	10	アデノウイルス性扁桃炎	S1	J038	HUDF	=:CA03.Z	=:CA03.Z		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/260431605 & http://id.who.int/icd/entity/1075681120	1 =	1 =	CA03.Y & XN000	
23564	10	舌扁桃炎	L	J039	ACEG	下:CA03.Z	下:CA03.Z		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/2014424158	1 <	1 =	CA03.Y	Acute lingual tonsillitis
23565	10	急性潰瘍性扁桃炎	L	J039	ALPP	下:CA03.Z	下:CA03.Z		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/2097987918	1 <	1 =	CA03.Y	Acute ulcerative tonsillitis
23566	10	潰瘍性扁桃炎	S1	J039	ALPP	下:CA03.Z	下:CA03.Z		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/2097987918	1 <	1 =	CA03.Y	ulcerative tonsillitis
23567	10	急性化膿性扁桃炎	L	J039	ETT6	下:CA03.Z	下:CA03.Z		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1452724767	1 <	1 =	CA03.Y	Suppurative tonsillitis と同義とみなした
23568	10	急性化膿性扁桃腺炎	S1	J039	ETT6	下:CA03.Z	下:CA03.Z		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1452724767	1 <	1 =	CA03.Y	

No	ICD10 章	標準病名	代 表・ 同義	ICD10 コード	交換 コード	旧サビ ソング	新サビ ソング2022	病名と して現 代では 不適切	確 関 係 度	ICD11 Foundation URI	確 信 度	確 信 関 係	MMS	備考
23569	10	化膿性扁桃腺炎	S1	J039	ETT6	下:CA03.Z	下:CA03.Z		1 =	http://id.who.int/icd/entity/1152724767	1 <	CA03.Y		
23570	10	化膿性扁桃炎	S1	J039	ETT6	下:CA03.Z	下:CA03.Z		1 =	http://id.who.int/icd/entity/1152724767	1 <	CA03.Y		Suppurative tonsillitis
23571	10	急性感染性扁桃炎	S2	J039	ETT6	下:CA03.Z	下:CA03.Z		1 =	http://id.who.int/icd/entity/1752991130	1 <	CA03.Y		Acute infective tonsillitis
23572	10	感染性扁桃炎	S2	J039	ETT6	下:CA03.Z	下:CA03.Z		1 =	http://id.who.int/icd/entity/1752991130	1 <	CA03.Y		infective tonsillitis
23573	10	急性アデノイド扁桃炎	L	J039	FRAV	下:CA03.Z	下:CA03.Z		1 =	http://id.who.int/icd/entity/1354689145	1 <	CA03.Y		Acute adenoiditis
23574	10	偽膜性扁桃炎	L	J039	HIA5	下:CA03.Z	下:CA03.Z		1 =	http://id.who.int/icd/entity/1515159967	1 <	1C1H.0		pseudomembranous anginaはVincent anginaのSynonym 急性偽膜性扁桃炎（重症）
23575	10	急性アデノイド咽頭炎	L	J039	KN3N	下:CA03.Z	下:CA03.Z		1 <	http://id.who.int/icd/entity/1791890273	1 <	CA03.Y		
23576	10	急性壊疽性扁桃炎	L	J039	LA14	下:CA03.Z	下:CA03.Z		1 =	http://id.who.int/icd/entity/1986254320	1 <	CA03.Y		Acute gangrenous tonsillitis
23577	10	壊疽性扁桃炎	S1	J039	LA14	下:CA03.Z	下:CA03.Z		1 =	http://id.who.int/icd/entity/1986254320	1 <	CA03.Y		gangrenous tonsillitis
23578	10	壊疽性扁桃腺炎	S1	J039	LA14	下:CA03.Z	下:CA03.Z		1 =	http://id.who.int/icd/entity/1986254320	1 <	CA03.Y		
23579	10	急性腺窩性扁桃炎	L	J039	MQ44	下:CA03.Z	下:CA03.Z		1 <	http://id.who.int/icd/entity/448377708	1 <	CA03.Y		扁桃腺に白い膿のついた扁桃炎
23580	10	濾胞性扁桃炎	S1	J039	MQ44	下:CA03.Z	下:CA03.Z		1 =	http://id.who.int/icd/entity/968321593	1 <	CA03.Y		follicular tonsillitis
23581	10	陰窩性扁桃炎	S1	J039	MQ44	下:CA03.Z	下:CA03.Z		1 =	http://id.who.int/icd/entity/968321593	1 <	CA03.Y		
23582	10	腺窩性扁桃炎	S1	J039	MQ44	下:CA03.Z	下:CA03.Z		1 =	http://id.who.int/icd/entity/968321593	1 <	CA03.Y		
23583	10	急性濾胞性扁桃炎	S1	J039	MQ44	下:CA03.Z	下:CA03.Z		1 =	http://id.who.int/icd/entity/968321593	1 <	CA03.Y		Acute follicular tonsillitis
23584	10	腺窩性扁桃腺炎	S1	J039	MQ44	下:CA03.Z	下:CA03.Z		1 =	http://id.who.int/icd/entity/968321593	1 <	CA03.Y		
23585	10	習慣性扁桃炎	L	J039	NSIG	下:CA03.Z	下:CA03.Z		1 =	http://id.who.int/icd/entity/1790351975	1 <	CA0FY		慢性扁桃炎Chronic tonsillitisには慢性単 純性扁桃炎、習慣性扁桃炎、扁桃病巣 感染症の3つが含まれています（関西 医科大学より）
23586	10	反復性扁桃症	S1	J039	NSIG	下:CA03.Z	下:CA03.Z		1 =	http://id.who.int/icd/entity/1790351975	1 <	CA0FY		
23587	10	反復性扁桃炎	S1	J039	NSIG	下:CA03.Z	下:CA03.Z		1 =	http://id.who.int/icd/entity/1790351975	1 <	CA0FY		
23588	10	腺窩性アングーナ	L	J039	Q1B4	下:CA03.Z	下:CA03.Z		1 =	http://id.who.int/icd/entity/260431605	1 <	CA03.Y		
23589	10	腺窩性アングーナ	S1	J039	Q1B4	下:CA03.Z	下:CA03.Z		1 =	http://id.who.int/icd/entity/260431605	1 <	CA03.Y		
23590	10	習慣性アングーナ	L	J039	Q7R4	下:CA03.Z	下:CA03.Z		1 =	http://id.who.int/icd/entity/1790351975	1 <	CA0FY		アングーナ急性扁桃炎
23591	10	習慣性アングーナ	S1	J039	Q7R4	下:CA03.Z	下:CA03.Z		1 =	http://id.who.int/icd/entity/1790351975	1 <	CA0FY		
23592	10	扁桃炎	L	J039	R3N1	下:CA03.Z	下:CA03.Z		1 =	http://id.who.int/icd/entity/260431605	1 =	CA03.Z		Acute tonsillitis, unspecified
23593	10	扁桃腺炎	S1	J039	R3N1	下:CA03.Z	下:CA03.Z		1 =	http://id.who.int/icd/entity/260431605	1 =	CA03.Z		
23594	10	舌根扁桃炎	S2	J039	R3N1	下:CA03.Z	下:CA03.Z		1 <	http://id.who.int/icd/entity/260431605	1 <	CA03.Z		
23595	10	扁桃性アングーナ	L	J039	RTRR	下:CA03.Z	下:CA03.Z		1 =	http://id.who.int/icd/entity/260431605	1 =	CA03.Z		
23596	10	扁桃性アングーナ	S1	J039	RTRR	下:CA03.Z	下:CA03.Z		1 =	http://id.who.int/icd/entity/260431605	1 =	CA03.Z		
23597	10	急性扁桃炎	L	J039	TEW6	下:CA03.Z	下:CA03.Z		1 =	http://id.who.int/icd/entity/260431605	1 =	CA03.Z		Acute tonsillitis

No	ICD10 章	標準病名	代 表・ 同義	ICD10 コード	交換 コード	旧 ソング ソング	新 ソング ソング2022	病名と して現 在では 不適切	確 信 度	確 信 度	ICD11 Foundation URI	確 信 度	確 信 度	確 信 度	確 信 度	MMS	備考
23598	10	急性扁桃腺炎	S1	J039	TEM6	下:CA03.2	下:CA03.2		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/260431605	1 =	1 =	1 =	CA03.2		
23599	10	亜急性扁桃炎	S2	J039	TEM6	下:CA03.2	下:CA03.2		1 <	1 <	http://id.who.int/icd/entity/260431605	1 <	1 <	1 =	CA03.2		
23600	10	喉頭炎	L	J040	ALAD	=:CA05.0	=:CA05.0		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1180710837	1 =	1 =	1 =	CA05.0		laryngeal inflammation
23601	10	声門特殊炎症	S2	J040	ALAD	=:CA05.0	=:CA05.0		1 <	1 <	http://id.who.int/icd/entity/1180710837	1 <	1 <	1 <	CA05.0		声門炎と同じととらえた
23602	10	急性声帯炎	L	J040	GBVH	=:CA05.0	=:CA05.0		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1349869019	1 <	1 <	1 <	CA05.0		Glottitis
23603	10	声門炎	S2	J040	GBVH	=:CA05.0	=:CA05.0		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1329578797	1 <	1 <	1 <	CA05.0		suppurative laryngitis
23604	10	化膿性喉頭炎	L	J040	GILF	=:CA05.0	=:CA05.0		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1042125712	1 <	1 <	1 <	CA05.0		hemophilus influenzae laryngitis
23605	10	インフルエンザ菌喉頭炎	L	J040	HBT8	=:CA05.0	=:CA05.0		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1180710837	1 <	1 <	1 <	CA05.0		Acute laryngitis
23606	10	急性喉頭炎	L	J040	HPS5	=:CA05.0	=:CA05.0		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1180710837	1 =	1 =	1 =	CA05.0		Acute laryngitis
23607	10	偽膜性喉頭炎	L	J040	HTMR	=:CA05.0	=:CA05.0		1 <	1 <	http://id.who.int/icd/entity/1180710837	1 <	1 <	1 <	CA05.0		
23608	10	急性声門下喉頭炎	L	J040	J033	=:CA05.0	=:CA05.0		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1957660283	1 <	1 <	1 <	CA05.0		Acute subglottic laryngitis
23609	10	癒性クルーズ	S1	J040	J033	=:CA05.0	=:CA05.0		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/958541208	1 <	1 <	1 <	CA0H.4		Spasmodic croup
23610	10	仮性クルーズ	S1	J040	J033	=:CA05.0	=:CA05.0		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1651812453	1 <	1 <	1 <	CA0H.4		pseudocroup False croup
23611	10	偽性クルーズ	S1	J040	J033	=:CA05.0	=:CA05.0		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1651812453	1 <	1 <	1 <	CA0H.4		False croup pseudocroup
23612	10	声門下喉頭炎	S1	J040	J033	=:CA05.0	=:CA05.0		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1957660283	1 <	1 <	1 <	CA05.0		subglottic laryngitis
23613	10	喉頭周囲炎	L	J040	MTDM	=:CA05.0	=:CA05.0		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1180710837	1 =	1 =	1 =	CA05.0		
23614	10	連鎖球菌性喉頭炎	L	J040	R3C8	=:CA05.0	=:CA05.0		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1957660283	1 <	1 <	1 <	CA0H.4		Streptococcal laryngitis
23615	10	リンパ球菌性喉頭炎	S1	J040	R3C8	=:CA05.0	=:CA05.0		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1957660283	1 <	1 <	1 <	CA0H.4		
23616	10	れんざ球菌性喉頭炎	S1	J040	R3C8	=:CA05.0	=:CA05.0		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1957660283	1 <	1 <	1 <	CA0H.4		
23617	10	急性壊疽性喉頭炎	L	J040	RFJ7	=:CA05.0	=:CA05.0		1 <	1 <	http://id.who.int/icd/entity/1528782604 http://id.who.int/icd/entity/188156827	1 <	1 <	1 <	CA04/ MC85		急性咽頭炎/壊疽とした
23618	10	急性浮腫性喉頭炎	L	J040	VNFQ	=:CA05.0	=:CA05.0		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1367810857	1 <	1 <	1 <	CA05.0		Acute oedematous laryngitis
23619	10	浮腫性喉頭炎	S1	J040	VNFQ	=:CA05.0	=:CA05.0		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1367810857	1 <	1 <	1 <	CA05.0		oedematous laryngitis
23620	10	急性潰瘍性喉頭炎	L	J040	VSAG	=:CA05.0	=:CA05.0		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/270656844	1 <	1 <	1 <	CA05.0		Acute ulcerative laryngitis
23621	10	潰瘍性喉頭炎	S1	J040	VSAG	=:CA05.0	=:CA05.0		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/270656844	1 <	1 <	1 <	CA05.0		ulcerative laryngitis
23622	10	ウイルス性気管炎	L	J041	AF4S	=:CA05.1	=:CA05.1		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/449267760	1 <	1 <	1 <	CA05.1		viral tracheitis
23623	10	急性気管炎	L	J041	GQGS	=:CA05.1	=:CA05.1		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/590084641	1 =	1 =	1 =	CA05.1		Acute tracheitis
23624	10	気管うつ血	S2	J041	GQGS	=:CA05.1	=:CA05.1		1 <	1 <	http://id.who.int/icd/entity/590084641	1 <	1 <	1 <	CA05.1		tracheitis
23625	10	気管炎	S2	J041	GQGS	=:CA05.1	=:CA05.1		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/590084641	1 =	1 =	1 =	CA05.1		Acute catarrhal tracheitis
23626	10	急性カタル性気管炎	L	J041	LE67	=:CA05.1	=:CA05.1		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1883280793	1 <	1 <	1 <	CA05.1		catarrhal tracheitis
23627	10	カタル性気管炎	S1	J041	LE67	=:CA05.1	=:CA05.1		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/590084641 http://id.who.int/icd/entity/940081636	1 <	1 <	1 <	CA05.1		catarrhal tracheitis
23628	10	出血性気管炎	L	J041	PEIQ	=:CA05.1	=:CA05.1		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/940081636	1 =	1 =	1 =	CA05.1/ MG27		

標準病名の ICD-11 コーディング作業結果
 ～ 第 1 1 章 標準病名 ～

標準病名の ICD-11 コーディング作業結果

No	ICD10 標準病名	ICD 11 代 義・ 同義 と	ICD10 コー ド	交換 コー ド	マッピング 情報 (旧)	マッピング 情報 2022	病名 とし て現 在で は不	確 信 度	関 係	ICD11 Foundation URI	確 信 度	関 係	MMS	備考
26139	11 カタル性舌炎	0 L	K140	ED9J	=:DA03.0	=:DA03.0		1	<	http://id.who.int/icd/entity/843084384	1	<	DA03.0	Glossitis
26140	11 リファ・フェーゾ病	0 L	K140	H37S	=:DA03.0	=:DA03.0		1	<	http://id.who.int/icd/entity/304004834	1	<	DA03.Y	Tongue haemorrhage, not elsewhere classified
26143	11 舌膿瘍	0 L	K140	MK13	=:DA03.0	=:DA03.0		1	<	http://id.who.int/icd/entity/1405733502	1	<	DA01.30	Sublingual abscess
26144	11 悪液質アフト	0 L	K140	QSR2	=:DA03.0	=:DA03.0		1	<	http://id.who.int/icd/entity/304004834	1	<	DA03.Y	Tongue haemorrhage, not elsewhere classified
26145	11 硬化性舌炎	0 L	K140	QDCA	=:DA03.0	=:DA03.0		1	<	http://id.who.int/icd/entity/843084384	1	<	DA03.0	Glossitis
26146	11 舌炎	1 L	K140	QU50	=:DA03.0	=:DA03.0		1	=	http://id.who.int/icd/entity/843084384	1	=	DA03.0	DA03.0 Glossitis
26148	11 ヌラ一舌炎	0 L	K140	VNM8	=:DA03.0	=:DA03.0		1	<	http://id.who.int/icd/entity/843084384	1	<	DA03.0	Glossitis
26149	11 地図状舌	1 L	K141	DVNF	=:DA03.1	=:DA03.1		1	=	http://id.who.int/icd/entity/1460387786	1	=	DA01.02	DA01.02 Wandering rash of the mouth
26150	11 剥離性限局性舌炎	1 L	K141	QXBU	=:DA03.1	=:DA03.1		1	<	http://id.who.int/icd/entity/843084384	1	<	DA03.0	Glossitis
26151	11 良性移動性舌炎	1 L	K141	U4T4	=:DA03.1	=:DA03.1		1	=	http://id.who.int/icd/entity/1460387786	1	=	DA03.1	DA03.1 Geographic tongue
26153	11 剥離性舌炎	0 L	K141	VEV0	=:DA03.1	=:DA03.1		1	<	http://id.who.int/icd/entity/843084384	1	<	DA03.0	Glossitis
26154	11 正中菱形舌炎	1 L	K142	LFPE	=:DA03.3	=:DA03.3		1	=	http://id.who.int/icd/entity/598142773	1	=	DA03.3	DA03.3 Median rhomboid glossitisの同義語にある
26155	11 舌苔	1 L	K143	LA0R	=:DA03.4	=:DA03.4		1	=	http://id.who.int/icd/entity/1805011071	1	<	DA03.4	DA03.4 Hypertrophy of tongue papillae
26156	11 舌乳頭肥大	0 L	K143	PC7L	=:DA03.4	=:DA03.4		1	=	http://id.who.int/icd/entity/1189946017	1	=	DA03.4	Hypertrophy of tongue papillae
26157	11 黒毛舌	1 L	K143	SM9T	=:DA03.4	=:DA03.4		1	=	http://id.who.int/icd/entity/2118237401	1	<	DA03.4	DA03.4 Hypertrophy of tongue papillaeの索引語
26159	11 舌乳頭萎縮	1 L	K144	VR0N	=:DA03.2	=:DA03.2		1	=	http://id.who.int/icd/entity/889434421	1	=	DA03.2	Atrophy of tongue papillae
26161	11 亀裂舌	0 L	K145	Q60A	=:DA03	=:DA03		1	<	http://id.who.int/icd/entity/699700094	1	<	DA03.Y	Fissured tongue
26162	11 溝状舌	1 L	K145	SQKQ	=:DA03	=:DA03		1	=	http://id.who.int/icd/entity/699700094	1	<	DA03.Y	Fissured tongue
26166	11 舌痛症	1 L	K146	UJ87	=:DA0F.0	=:DA0F.0		1	=	http://id.who.int/icd/entity/1155751917	1	<	DA0F.0	Burning mouth syndrome
26171	11 舌根腫瘍	0 L	K148	A5EK	=:DA03	=:DA03		1	<	http://id.who.int/icd/entity/1844086508 & http://id.who.int/icd/entity/1769856759	1	<	2F90 & XA1T19	tumour mass NOS & Tongue
26172	11 舌腫瘍	0 L	K148	AGAL	=:DA03	=:DA03		1	<	http://id.who.int/icd/entity/304004834	1	<	2F90 & XA1T19	tumour mass NOS & Tongue
26174	11 舌根部粘膜下出血	0 L	K148	FIQV	=:DA03	=:DA03		1	<	http://id.who.int/icd/entity/1950612208	1	<	DA03.Y	Tongue haemorrhage, not elsewhere classified
26175	11 舌肥大	0 L	K148	GG61	=:DA03	=:DA03		1	=	http://id.who.int/icd/entity/2121324516	1	<	DA03.Y	Hypertrophy of tongue
26177	11 鋸歯状舌	1 L	K148	N5F6	=:DA03	=:DA03		1	=	http://id.who.int/icd/entity/928435705	1	<	DA03.Y	DA03.Y Other specified diseases of tongue
26178	11 舌色素沈着症	0 L	K148	S30A	=:DA03	=:DA03		1	<	http://id.who.int/icd/entity/889434421	1	<	DA03.Y	Other specified diseases of tongue
26181	11 舌萎縮	0 L	K148	TU0M	=:DA03	=:DA03		1	<	http://id.who.int/icd/entity/928435705	1	<	DA03.2	Atrophy of tongue papillae
26182	11 舌ポリープ	0 L	K149	NOQT	=:DA03	=:DA03		1	<	http://id.who.int/icd/entity/1181391407	1	<	DA03.Y	Other specified diseases of tongue
26183	11 感染性食道炎	1 L	K20	A6GB	=:DA24.Z	=:DA24.Z		1	=	http://id.who.int/icd/entity/1917562684	1	=	DA24.OZ	Infectious oesophagitis
26184	11 食道膿瘍	1 L	K20	D68K	=:DA24.Z	=:DA24.Z		1	=	http://id.who.int/icd/entity/1706110169	1	=	DA24.O0	Abscess of oesophagus
26185	11 アルカリ性食道炎	1 L	K20	E5IE	=:DA24.Z	=:DA24.Z		1	=	http://id.who.int/icd/entity/1657035780	1	<	DA24.20	Alkaline oesophagitis
26186	11 放射線食道炎	1 L	K20	FN7Q	=:DA24.Z	=:DA24.Z		1	=	http://id.who.int/icd/entity/525875405	1	<	DA24.22	Radiation oesophagitis
26188	11 術後食道炎	1 L	K20	K6FB	=:DA24.Z	=:DA24.Z		1	=	http://id.who.int/icd/entity/1540965840	1	<	DA24.Y	Postoperative oesophagitis
26189	11 剥離性食道炎	0 L	K20	LUNM	=:DA24.Z	=:DA24.Z		1	<	http://id.who.int/icd/entity/21457081	1	<	DA24.Y	Other specified oesophagitis
26190	11 壊死性食道炎	1 L	K20	P49R	=:DA24.Z	=:DA24.Z		1	=	http://id.who.int/icd/entity/417695496	1	<	DA24.Y	Necrotic oesophagitis necrotising oesophagitis
26191	11 消化性食道炎	1 L	K20	S7B1	=:DA24.Z	=:DA24.Z		1	=	http://id.who.int/icd/entity/417695496	1	=	DA22.1	peptic esophagitis Peptic oesophagitis

No	ICD10 標準病名	ICD 11 和訳	代義・コード	ICD10 コード	交換コード	マップニング情報 (旧)	マップニング情報 2022	病名として現代では不	確信度	関係	ICD11 Foundation URI	確信度	関係	MMS	備考
26192	11 好酸球性食道炎	1 L	K20	SG70		=:DA24.Z	=:DA24.Z		1	=	http://id.who.int/icd/entity/21063503	1	=	DA24.1	Eosinophilic oesophagitis
26193	11 腐食性食道炎	1 L	K20	U5T7		=:DA24.Z	=:DA24.Z		1	=	http://id.who.int/icd/entity/1540965840/ http://id.who.int/icd/entity/1438820135	1	<	DA24.Y / NE11	Other specified oesophagitis / Corrosion of unspecified body region, unspecified degree 腐食性食道炎は、酸やアルカリ農薬、重金属、などの組織傷害性の強い薬剤の飲用により発生する食道炎
26194	11 食道炎	1 L	K20	URCS		=:DA24.Z	=:DA24.Z		1	★	http://id.who.int/icd/entity/1867116562 or http://id.who.int/icd/entity/1540965840	1	★	DA21 or DA24.Z	Oesophagitis DA21 食道運動障害 と DA24.Z Diseases of oesophagus の2つCodeをもつ
26195	11 化学性食道炎	1 L	K20	VE5F		=:DA24.Z	=:DA24.Z		1	=	http://id.who.int/icd/entity/210807649	1	=	DA24.20	Chemical oesophagitis
26196	11 維持療法が必要な術後難治性逆流性食道炎	0 L	K210	JGER		上:DA24.Z 上:DA22.Z	上:DA24.Z 上:DA22.Z		1	<	http://id.who.int/icd/entity/1391387859 & http://id.who.int/icd/entity/182265087	1	<	DA22.Z & XY7V	GORD - [gastro-oesophageal reflux disease] & Postoperative
26197	11 難治性逆流性食道炎	0 L	K210	KQV9		上:DA24.Z 上:DA22.Z	上:DA24.Z 上:DA22.Z		1	=	http://id.who.int/icd/entity/1391387859	1	<	DA22.Z	GORD - [gastro-oesophageal reflux disease]
26198	11 維持療法が必要な難治性逆流性食道炎	0 L	K210	LLVP		上:DA24.Z 上:DA22.Z	上:DA24.Z 上:DA22.Z		1	<	http://id.who.int/icd/entity/1391387859	1	<	DA22.Z	GORD - [gastro-oesophageal reflux disease]
26199	11 術後難治性逆流性食道炎	0 L	K210	M54E		上:DA24.Z 上:DA22.Z	上:DA24.Z 上:DA22.Z		1	<	http://id.who.int/icd/entity/182265087	1	<	DA22.Z & XY7V	GORD - [gastro-oesophageal reflux disease] & Postoperative
26200	11 術後逆流性食道炎	0 L	K210	PKA		上:DA24.Z 上:DA22.Z	上:DA24.Z 上:DA22.Z		1	=	http://id.who.int/icd/entity/1391387859 & http://id.who.int/icd/entity/182265087	1	=	DA22.Z & XY7V	GORD - [gastro-oesophageal reflux disease] & Postoperative
26203	11 逆流性食道炎	1 L	K210	RVUN		上:DA24.Z 上:DA22.Z	上:DA24.Z 上:DA22.Z		1	=	http://id.who.int/icd/entity/1391387859	1	=	DA22.Z	regurgitant oesophagitis Reflux oesophagitis
26204	11 非びらん性胃食道逆流症	1 L	K219	BL6S		下:DA22.Z	下:DA22.Z		1	=	http://id.who.int/icd/entity/348407164	1	=	DA22.0	Non-erosive gastro-oesophageal reflux disease
26206	11 胃食道逆流症	1 L	K219	RQ8C		下:DA22.Z	下:DA22.Z		1	=	http://id.who.int/icd/entity/1391387859	1	=	DA22.Z	gastroesophageal reflux disease Gastro-oesophageal reflux disease
26208	11 巨大食道	1 L	K220	GE1B		=:DA21.0	=:DA21.0		1	=	http://id.who.int/icd/entity/1317163164	1	<	DA21.Y	megalo-oesophagus NOS Megaesophagus
26209	11 食道アカラシア	1 L	K220	QAMA		=:DA21.0	=:DA21.0		1	=	http://id.who.int/icd/entity/656464846	1	=	DA21.0	oesophagus achalasia oesophageal achalasia
26215	11 食道潰瘍	1 L	K221	GNH		=:DA25.Z	=:DA25.Z		1	=	http://id.who.int/icd/entity/1084515160	1	=	DA25.Z	Oesophageal ulcer
26216	11 消化性食道潰瘍	1 L	K221	ELVK		=:DA25.Z	=:DA25.Z		1	=	http://id.who.int/icd/entity/1084515160	1	=	DA25.Z	peptic oesophageal ulcer
26217	11 薬剤性食道潰瘍	0 L	K221	F6EG		=:DA25.Z	=:DA25.Z		1	=	http://id.who.int/icd/entity/20414404971	1	=	DA25.31	Drug-induced oesophageal ulcer
26219	11 真菌性食道潰瘍	1 L	K221	FECF		=:DA25.Z	=:DA25.Z		1	=	http://id.who.int/icd/entity/147423406	1	=	DA25.11	Fungal oesophageal ulcer
26220	11 食道びらん	1 L	K221	N574		=:DA25.Z	=:DA25.Z		1	=	http://id.who.int/icd/entity/2140708241	1	=	DA25.0	Oesophageal erosion
26221	11 バレット潰瘍	1 L	K221	NHTC		=:DA25.Z	=:DA25.Z		1	=	http://id.who.int/icd/entity/900292816	1	=	DA23.2	Barrett ulcer
26223	11 噴門部潰瘍	1 L	K221	SKK0		=:DA25.Z	=:DA25.Z		1	=	http://id.who.int/icd/entity/1084515160	1	=	DA25.Z	cardia ulcer
26224	11 腐食性食道狭窄	0 L	K222	AHRD		=:DA20.0 下:ME24.2	=:DA20.0 下:ME24.2		1	=	http://id.who.int/icd/entity/1684319314/ http://id.who.int/icd/entity/1438820135	1	<	DA20.0 / NE11	Constriction of oesophagus / Corrosion of unspecified body region, unspecified degree
26225	11 食道圧迫症	0 L	K222	EB5Q		=:DA20.0 下:ME24.2	=:DA20.0 下:ME24.2		1	=	http://id.who.int/icd/entity/1507731999	1	<	DA20.0	Compression of oesophagus
26228	11 食道閉塞症	0 L	K222	EESA		=:DA20.0 下:ME24.2	=:DA20.0 下:ME24.2		1	=	http://id.who.int/icd/entity/873018279	1	=	DA20.0	Oesophageal obstruction
26230	11 食道狭窄	1 L	K222	HVGG		=:DA20.0 下:ME24.2	=:DA20.0 下:ME24.2		1	=	http://id.who.int/icd/entity/873018279	1	=	DA20.0	oesophageal stricture oesophageal constriction

No	ICD10 章	標準病名	ICD 11 和 訳 と	代 差・ 同義	ICD10 コード	交換 コード	マッピング 情報 (旧)	マッピング 情報2022	病名 として 現 代で は不	確 信 度	関 係	ICD11 Foundation URI	確 信 度	関 係	MMS	備考
26232	11	噴門狹窄	1 L		K222	LQUC	=:DA20.0 下:ME24.2	=:DA20.0 下:ME24.2		1	=	http://id.who.int/icd/entity/143391264	1	<	DA20.0	cardia stenosis cardia stricture
26233	11	食道瘰癧	0 L		K222	NC7Q	=:DA20.0 下:ME24.2	=:DA20.0 下:ME24.2		1	<	http://id.who.int/icd/entity/1594312948/ http://id.who.int/icd/entity/782258967	1	<	DA2Z / ME2Y	Diseases of oesophagus, unspecified / Other specified clinical findings in the digestive system
26234	11	食道良性狹窄	0 L		K222	UKDT	=:DA20.0 下:ME24.2	=:DA20.0 下:ME24.2		1	<	http://id.who.int/icd/entity/1684319314	1	<	DA20.0	Constriction of oesophagus
26235	11	特発性食道破裂	1 L		K223	LF3L	=:DA20.3Z 上:DA20.30	=:DA20.3Z 上:DA20.30		1	=	http://id.who.int/icd/entity/1363344947	1	=	DA20.30	Spontaneous rupture of oesophagus
26238	11	食道穿孔	1 L		K223	NTRM	=:DA20.3Z 上:DA20.30	=:DA20.3Z 上:DA20.30		1	=	http://id.who.int/icd/entity/1522101892	1	=	DA20.3Z	Perforation of oesophagus oesophagus perforated oesophageal perforation oesophageal perforated
26240	11	螺旋状食道	0 L		K224	AN2B	=:DA21.2Z 上:DA21.21 上:DA21.2Z 上:DA21.20 上:DA21.3	=:DA21.2Z 上:DA21.21 上:DA21.2Z 上:DA21.20 上:DA21.3		1	=	http://id.who.int/icd/entity/220915819	1	<	DA21.20	Corkscrew Esophagus
26241	11	びまん性食道痙攣	1 L		K224	J76	=:DA21.2Z 上:DA21.22 上:DA21.1 上:DA21.2Z 上:DA21.20 上:DA21.3	=:DA21.2Z 上:DA21.22 上:DA21.1 上:DA21.2Z 上:DA21.20 上:DA21.3		1	=	http://id.who.int/icd/entity/483548056	1	=	DA21.2Z	Diffuse oesophageal spasm
26242	11	食道痙攣	1 L		K224	J7V1	=:DA21.2Z 上:DA21.21 上:DA21.2Z 上:DA21.20 上:DA21.3	=:DA21.2Z 上:DA21.21 上:DA21.2Z 上:DA21.20 上:DA21.3		1	=	http://id.who.int/icd/entity/483548056	1	=	DA21.2Z	oesophageal spasm oesophagospasm oesophagismus Oesoph agism
26245	11	後天性食道憩室	1 L		K225	KRP4	=:DA20.1	=:DA20.1		1	=	http://id.who.int/icd/entity/1206362163	1	=	DA20.1	acquired oesophageal diverticulum acquired oesophagus diverticulum
26248	11	咽頭食道憩室	1 L		K225	NOQP	=:DA20.1	=:DA20.1		1	★	http://id.who.int/icd/entity/42183618 or http://id.who.int/icd/entity/1884416826	1	★	LB12.4 or DA20.1	Pharyngo-oesophageal diverticulum pharyngo-oesophageal diverticula 先天性 LB12.4 後天性 DA20.1 と2つコードあり
26251	11	ロキタンスキー憩室	1 L		K225	RKT9	=:DA20.1	=:DA20.1		1	=	http://id.who.int/icd/entity/1206362163	1	=	DA20.1	Rokitansky diverticulum
26253	11 群	フロリ・ライズ症候	0 L		K226	FCVV	=:DA26.3	=:DA26.3		1	=	http://id.who.int/icd/entity/860549324	1	=	DA26.3	Mallory-Weiss syndrome
26258	11	バレット食道	1 L		K227	KSPH	=:DA23.Z	=:DA23.Z		1	=	http://id.who.int/icd/entity/1442921818	1	=	DA23.Z	Barrett oesophagus
26260	11	食道拡張症	0 L		K228	BHE1	=:DA20.2 上:DA22 上: DA26.2 上: DA26.1	=:DA20.2 上:DA22 上: DA26.2 上: DA26.1		1	=	http://id.who.int/icd/entity/1930006689	1	<	DA2Y	Dilatation of oesophagus
26263	11	食道弛緩症	0 L		K228	BJ21	=:DA20.2 上:DA22 上: DA26.2 上: DA26.1	=:DA20.2 上:DA22 上: DA26.2 上: DA26.1		1	=	http://id.who.int/icd/entity/636464846	1	=	DA21.0	oesophageal achalasia

No	ICD10 章	標準病名	ICD 11 和 訳 と	代 義・ 同義	ICD10 コー ド	交換 コー ド	マッピング 情報 (旧)	マッピング 情報2022	病名 と し て 現 在 代 で は 不	確 信 度	関 係	ICD11 Foundation URI	確 信 度	関 係	MMS	備考
26266	11	食道粘膜下腫瘍	0 L		K228	DCCP	上:DA20.2 上:DA21.1 上:DA26.2 上:DA26.1	上:DA20.2 上:DA21.1 上:DA26.2 上:DA26.1		1	<	http://id.who.int/icd/entity/157263579	1	<	2E87	Benign gastrointestinal stromal tumour of oesophagus GIST (ジスト : Gastrointestinal Stromal Tumor) は、胃や腸の消化管壁の粘膜下にある未熟な間葉系細胞に由来する「肉腫」の一種とされ、いわゆる「がん」とは異なります
26267	11	食道のう胞	0 L		K228	DM1A	上:DA20.2 上:DA21.1 上:DA26.2 上:DA26.1	上:DA20.2 上:DA21.1 上:DA26.2 上:DA26.1		1	=	http://id.who.int/icd/entity/558017605	1	<	DA2Y	Oesophageal cyst
26269	11	食道軟化症	1 L		K228	E9JP	上:DA20.2 上:DA21.1 上:DA26.2 上:DA26.1	上:DA20.2 上:DA21.1 上:DA26.2 上:DA26.1		1	=	http://id.who.int/icd/entity/794550265	1	<	DA2Y	Oesophagomata
26270	11	食道ポリープ	0 L		K228	EP95	上:DA20.2 上:DA21.1 上:DA26.2 上:DA26.1	上:DA20.2 上:DA21.1 上:DA26.2 上:DA26.1		1	=	http://id.who.int/icd/entity/1617510698	1	<	2E92.0	Hyperplastic polyp of oesophagus
26271	11	食道出血	1 L		K228	JV6B	上:DA20.2 上:DA21.1 上:DA26.2 上:DA26.1	上:DA20.2 上:DA21.1 上:DA26.2 上:DA26.1		1	=	http://id.who.int/icd/entity/752713197	1	=	ME24.A2	Oesophageal haemorrhage
26272	11	食道腫瘍	0 L		K228	KS19	上:DA20.2 上:DA21.1 上:DA26.2 上:DA26.1	上:DA20.2 上:DA21.1 上:DA26.2 上:DA26.1		1	<	http://id.who.int/icd/entity/1827459816	1	<	2E92.0	Benign neoplasm of oesophagus
26273	11	食道通過障害	0 L		K228	RGTB	上:DA20.2 上:DA21.1 上:DA26.2 上:DA26.1	上:DA20.2 上:DA21.1 上:DA26.2 上:DA26.1		1	=	http://id.who.int/icd/entity/1594312948 http://id.who.int/icd/entity/923782542	1	<	DA2Z / VV40	Diseases of oesophagus / impairments in oesophageal passage of substances
26274	11	食道瘻	0 L		K228	V3SC	上:DA20.2 上:DA21.1 上:DA26.2 上:DA26.1	上:DA20.2 上:DA21.1 上:DA26.2 上:DA26.1		1	=	http://id.who.int/icd/entity/994564735	1	<	DA2Y	oesophageal fistula
26275	11	食道障害	0 L		K229	QSC1	下:DA22	下:DA22		1	=	http://id.who.int/icd/entity/1594312948	1	=	DA2Z	oesophageal disorder
26276	11	デュラフオイ潰瘍	0 L		K250	BE6L	下:DA60.2	下:DA60.2		1	=	http://id.who.int/icd/entity/915551573 http://id.who.int/icd/entity/1202109372	1	<	DA43.2 / ME24.5	Dieulafoy vascular malformation of stomach / ME24.5 Digestive system ulcer
26279	11	急性出血性胃潰瘍	1 L		K250	F81L	下:DA60.2	下:DA60.2		1	=	http://id.who.int/icd/entity/1328952003	1	<	DA60Y	Acute haemorrhagic gastric ulcer
26281	11	急性胃粘膜病変	0 L		K250	MVSS	下:DA60.2	下:DA60.2		1	=	http://id.who.int/icd/entity/1368763406	1	<	DA42.72	AGML - [acute gastric mucosal lesion]
26285	11	ストロエ性胃潰瘍	0 L		K250	QCC5	下:DA60.2	下:DA60.2		1	=	http://id.who.int/icd/entity/387848341	1	=	DA60.3	Stress ulcer of stomach
26289	11	術後胃潰瘍	0 L		K250	S38A	下:DA60.2	下:DA60.2		1	=	http://id.who.int/icd/entity/1001757676 http://id.who.int/icd/entity/219265087	1	=	DA60.6Y & XY7V	Gastric ulcer due to external causes & Postoperative
26290	11	急性胃潰瘍穿孔	0 L		K251	G2CA	下:DA60.2	下:DA60.2		1	=	http://id.who.int/icd/entity/275405892	1	<	DA60Y	Acute perforated gastric ulcer
26291	11	急性出血性胃潰瘍穿孔	0 L		K252	N3TB	下:DA60.2	下:DA60.2		1	=	http://id.who.int/icd/entity/940081636	1	<	DA60Y / MG27	Acute perforated gastric ulcer / Haemorrhage, not elsewhere classified
26292	11	急性胃潰瘍	1 L		K253	JGK	下:DA60.2	下:DA60.2		1	=	http://id.who.int/icd/entity/2100064846	1	<	DA60Y	acute gastric ulcer
26293	11	ステロイド潰瘍	0 L		K254	JEPV	下:DA60.2	下:DA60.2		1	=	http://id.who.int/icd/entity/1437411258 http://id.who.int/icd/entity/765024126	1	<	DA60Y & XM81Y6	Gastric ulcer & steroid

No	ICD10 章	標準病名	ICD 11 和訳	代差・同義	ICD10 コード	交換コード	マッピング情報 (旧)	マッピング情報 2022	病名として現代では不	確信度	関係	ICD11 Foundation URI	確信度	関係	MMS	備考
26295	11	多発性出血性胃潰瘍	0 L	K254	LE22		下:DA60.Z	下:DA60.Z		1	<	http://id.who.int/icd/entity/939323099	1	<	DA60.Y	Haemorrhagic stomach ulcer
26298	11	出血性胃潰瘍	1 L	K254	MMTB		下:DA60.Z	下:DA60.Z		1	=	http://id.who.int/icd/entity/939323099	1	<	DA60.Y	Haemorrhagic stomach ulcer
26300	11	胃穿孔	1 L	K255	ADS2		下:DA60.Z	下:DA60.Z		1	=	http://id.who.int/icd/entity/819812005	1	<	ME24.3Y	Perforation of stomach
26301	11	穿通性胃潰瘍	0 L	K255	DLE2		下:DA60.Z	下:DA60.Z		1	<	http://id.who.int/icd/entity/1437411258	1	<	DA60.Z	Gastric ulcer
26305	11	ステロイド潰瘍穿孔	0 L	K255	FB3T		下:DA60.Z	下:DA60.Z		1	<	http://id.who.int/icd/entity/765024126	1	<	DA60.Z / ME24.3Z	Gastric ulcer & steroid
26306	11	穿孔性胃潰瘍	0 L	K255	QP9A		下:DA60.Z	下:DA60.Z		1	=	http://id.who.int/icd/entity/1437411258	1	<	DA60.Z / ME24.3Y	Gastric ulcer / Perforation of stomach
26311	11	出血性胃潰瘍穿孔	0 L	K256	UI43		下:DA60.Z	下:DA60.Z		1	=	http://id.who.int/icd/entity/819812005	1	<	DA60.Y / ME24.3Y	Haemorrhagic stomach ulcer / Perforation of stomach
26313	11	再発性胃潰瘍	0 L	K257	OC97		下:DA60.Z	下:DA60.Z		1	=	http://id.who.int/icd/entity/1437411258	1	=	DA60.Z & XT8W	Gastric ulcer & Recurrent
26316	11	慢性胃潰瘍活動期	0 L	K257	UP08		下:DA60.Z	下:DA60.Z		1	<	http://id.who.int/icd/entity/1437411258	1	<	DA60.Y & XT8W	Gastric ulcer & Chronic & Active → 活動期が表現できない
26321	11	胃潰瘍瘢痕	0 L	K257	VDON		下:DA60.Z	下:DA60.Z		1	=	http://id.who.int/icd/entity/490003542	1	<	DA60.Y & XT8W	Ulcer scar of the stomach
26325	11	慢性胃潰瘍	0 L	K257	VF21		下:DA60.Z	下:DA60.Z		1	<	http://id.who.int/icd/entity/1437411258	1	<	DA60.Y & XT8W	Gastric ulcer & Chronic
26326	11	胃潰瘍	1 L	K259	C1B1		下:DA60.Z	下:DA60.Z		1	=	http://id.who.int/icd/entity/1437411258	1	=	DA60.Z	Gastric ulcer stomach ulcer
26327	11	多発胃潰瘍	0 L	K259	E91M		下:DA60.Z	下:DA60.Z		1	<	http://id.who.int/icd/entity/1437411258	1	<	DA60.Y	Gastric ulcer
26329	11	残胃潰瘍	0 L	K259	NSUT		下:DA60.Z	下:DA60.Z		1	=	http://id.who.int/icd/entity/1844182634	1	<	DA60.Y / QF01.Y	Gastric ulcer & gastroecomy status 残胃潰瘍とは、外科的胃切除術後の残胃に生じる潰瘍を示す病態
26331	11	NSAID s 胃潰瘍	0 L	K259	NKMR		下:DA60.Z	下:DA60.Z		1	=	http://id.who.int/icd/entity/1750844488	1	<	DA60.6Z	Ulcer of the stomach due to NSAID - [non-steroidal anti-inflammatory drug]
26334	11	胃びらん	1 L	K259	PQ7D		下:DA60.Z	下:DA60.Z		1	=	http://id.who.int/icd/entity/1634855479	1	=	DA60.0	Gastric erosion
26336	11	難治性胃潰瘍	0 L	K259	SDEK		下:DA60.Z	下:DA60.Z		1	<	http://id.who.int/icd/entity/1437411258	1	<	DA60.Y	Gastric ulcer
26337	11	薬剤性胃潰瘍	0 L	K259	VP9F		下:DA60.Z	下:DA60.Z		1	=	http://id.who.int/icd/entity/1486914773	1	=	DA60.6Z	Drug-induced gastric ulcer
26339	11	ストレス性十二指腸潰瘍	0 L	K260	ED4K		下:DA63.Z	下:DA63.Z		1	=	http://id.who.int/icd/entity/2144907019	1	=	DA63.3	Stress ulcer of duodenum
26341	11	術後十二指腸潰瘍	0 L	K260	F05V		下:DA63.Z	下:DA63.Z		1	=	http://id.who.int/icd/entity/553678663	1	<	DA63.Z & XY7V	Duodenal ulcer, unspecified & Postoperative
26342	11	急性出血性十二指腸潰瘍	1 L	K260	TJ0F		下:DA63.Z	下:DA63.Z		1	=	http://id.who.int/icd/entity/182265087	1	<	DA63.Y	Acute haemorrhagic duodenal ulcer
26343	11	急性十二指腸潰瘍穿孔	0 L	K261	BSLP		下:DA63.Z	下:DA63.Z		1	=	http://id.who.int/icd/entity/1744453229	1	<	DA63.Y	Acute perforated duodenal ulcer
26346	11	急性出血性十二指腸潰瘍穿孔	0 L	K262	BNJA		下:DA63.Z	下:DA63.Z		1	=	http://id.who.int/icd/entity/313082510	1	<	DA63.Y	Acute perforated duodenal ulcer
26347	11	急性十二指腸潰瘍	1 L	K263	TSES		下:DA63.Z	下:DA63.Z		1	=	http://id.who.int/icd/entity/1731626003	1	<	DA63.Y	Acute duodenal ulcer
26348	11	出血性十二指腸潰瘍	0 L	K264	GG3R		下:DA63.Z	下:DA63.Z		1	=	http://id.who.int/icd/entity/351301964	1	<	DA63.Z / ME24.9Z	Duodenal ulcer / Gastrointestinal bleeding
26351	11	穿孔性十二指腸潰瘍	1 L	K265	J3UR		下:DA63.Z	下:DA63.Z		1	=	http://id.who.int/icd/entity/553678663	1	<	DA63.Y	Perforated duodenal ulcer
26353	11	十二指腸穿孔	1 L	K265	LPFT		下:DA63.Z	下:DA63.Z		1	=	http://id.who.int/icd/entity/2044414353	1	<	DA63.Y	Perforation of duodenum
26354	11	穿通性十二指腸潰瘍	0 L	K265	LR50		下:DA63.Z	下:DA63.Z		1	=	http://id.who.int/icd/entity/1982276025	1	<	DA63.Y	Perforated duodenal ulcer

標準病名のICD-11コーディング作業結果

～ 第12章 標準病名 ～

(5ページのみ抜粋)

No	ICD10 標準病名	代 表・ 同義	ICD10 コード	交換 コード	マッピング 情報(旧)	マッピング 情報 2022	病名と して現 代では 不適切	確信 度	関係	ICD11 Foundation URI	確信 度	関係	MMS	備考
28304	12 水疱性膿痂疹	L	L00	K842	=:EA50.2	=:EA50.2		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1398484288	1 =		1872.0	
28305	12 ふびと球菌性熱傷様皮膚 症候群	L	L00	PT1P	=:EA50.2	=:EA50.2		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1554593739	1 =		EA50.2	Staphylococcal scalded skin syndrome
28306	12 SSSS	S1	L00	PT1P	=:EA50.2	=:EA50.2		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1554593739	1 =		EA50.2	
28307	12 リッター型中毒性表皮え 死症	S1	L00	PT1P	=:EA50.2	=:EA50.2		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1554593739	1 =		EA50.2	Ritter disease
28308	12 RITTER病	S1	L00	PT1P	=:EA50.2	=:EA50.2		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1554593739	1 =		EA50.2	
28309	12 リッター-新生児剥脱状皮 膚炎	S1	L00	PT1P	=:EA50.2	=:EA50.2		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1554593739	1 =		EA50.2	
28310	12 リッター病	S1	L00	PT1P	=:EA50.2	=:EA50.2		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1554593739	1 =		EA50.2	
28311	12 プドウ球菌性熱傷様皮膚 症候群	S1	L00	PT1P	=:EA50.2	=:EA50.2		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1554593739	1 =		EA50.2	Staphylococcal scalded skin syndrome
28312	12 新生児天疱瘡	L	L00	RRLV	=:EA50.2	=:EA50.2		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1613800402	1 =		KA07.1	
28313	12 膿痂疹外耳炎	L	L010	ABV8	重:1872.0 重:1872.1 重:1872.2	重:1872.0 重:1872.1 重:1872.2		1 =		http://id.who.int/icd/entity/188082376	1 =		AA3Y / 1872	Otitis externa in impetigo
28314	12 膿痂疹	L	L010	AQD0	重:1872.0 重:1872.1 重:1872.2	重:1872.0 重:1872.1 重:1872.2		1 =		http://id.who.int/icd/entity/971176543	1 =		1872.2	
28315	12 下肢伝染性膿痂疹	L	L010	DJ15	重:1872.0 重:1872.1 重:1872.2	重:1872.0 重:1872.1 重:1872.2		1 =		http://id.who.int/icd/entity/971176543 & http://id.who.int/icd/entity/2093217246	1 =		1872.Y & XA45A6	伝染性膿痂疹 & XA45A6 Lower extremity
28316	12 痂皮性膿痂疹	L	L010	E5H8	重:1872.0 重:1872.1 重:1872.2	重:1872.0 重:1872.1 重:1872.2		1 =		http://id.who.int/icd/entity/25824900	1 =		1872.1	膿痂疹には、水疱性と痂皮性性の2種類があり、水疱性とそれ以外に分けられている。痂皮性は、Non-bullous impetigo → MMS 1 = でのよいのでは?
28317	12 外耳膿痂疹	L	L010	ERM0	重:1872.0 重:1872.1 重:1872.2	重:1872.0 重:1872.1 重:1872.2		1 =		http://id.who.int/icd/entity/188082376	1 =		AA3Y / 1872	外耳膿痂疹(Otitis externa in impetigo)
28318	12 白色ぶどう球菌性膿痂 疹	L	L010	F76P	重:1872.0 重:1872.1 重:1872.2	重:1872.0 重:1872.1 重:1872.2		1 =		http://id.who.int/icd/entity/971176543 & http://id.who.int/icd/entity/428956900	1 =		1872.Y & XN9ZG	白色ぶどう球菌性膿痂疹 & XN9ZG Staphylococcus → 現在は、水疱性膿痂疹という
28319	12 白色ブドウ球菌性膿痂 疹	S1	L010	F76P	重:1872.0 重:1872.1 重:1872.2	重:1872.0 重:1872.1 重:1872.2		1 =		http://id.who.int/icd/entity/971176543 & http://id.who.int/icd/entity/428956900	1 =		1872.Y & XN9ZG	→現在は、水疱性膿痂疹という
28320	12 白色葡萄球菌性膿痂疹	S1	L010	F76P	重:1872.0 重:1872.1 重:1872.2	重:1872.0 重:1872.1 重:1872.2		1 =		http://id.who.int/icd/entity/971176543 & http://id.who.int/icd/entity/428956900	1 =		1872.Y & XN9ZG	→現在は、水疱性膿痂疹という
28321	12 新生児膿痂疹	L	L010	G297	重:1872.0 重:1872.1 重:1872.2	重:1872.0 重:1872.1 重:1872.2		1 =		http://id.who.int/icd/entity/971176543 & http://id.who.int/icd/entity/1352518340	1 =		1872.Y & XT16	伝染性膿痂疹 & XT16 Neonatal
28322	12 連鎖球菌性膿痂疹	L	L010	GR1H	重:1872.0 重:1872.1 重:1872.2	重:1872.0 重:1872.1 重:1872.2		1 =		http://id.who.int/icd/entity/971176543 & http://id.who.int/icd/entity/1997317917	1 =		1872.Y & XN3NM	伝染性膿痂疹 & XN3NM Streptococcus

No	ICD10 章	標準病名	代 表・ 同義	ICD10 コード	交換 コード	マッピング 情報 (旧)	マッピング 情報 2022	病名と して現 代では 不適切	確信 度	関係	ICD11 Foundation URI	確信 度	関係	MMS	備考
28323	12	リンパ球菌性膿疱疹	S1	L010	GPLH	重:1872.01 重:1872.11 重:1872.2	重:1872.01 重:1872.11 重:1872.2		1 =		http://id.who.int/icd/entity/971176543 & http://id.who.int/icd/entity/199731917	1 =		1872.Y & XN3NM	
28324	12	連鎖球菌性膿疱疹	S1	L010	GPLH	重:1872.01 重:1872.11 重:1872.2	重:1872.01 重:1872.11 重:1872.2		1 =		http://id.who.int/icd/entity/971176543 & http://id.who.int/icd/entity/199731917	1 =		1872.Y & XN3NM	
28325	12	上肢伝染性膿疱疹	L	L010	HJLF	重:1872.01 重:1872.11 重:1872.2	重:1872.01 重:1872.11 重:1872.2		1 =		http://id.who.int/icd/entity/971176543 & http://id.who.int/icd/entity/986233688	1 =		1872.Y & XA4BA8	伝染性膿疱疹 & 上肢→XA4BA8 Upper extremity
28326	12	好酸球性膿疱性毛包炎	L	L010	NE9U	重:1872.01 重:1872.11 重:1872.2	重:1872.01 重:1872.11 重:1872.2		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1653155576	1 <		ED9Y	Eosinophilic pustular folliculitis
28327	12	好酸球性膿疱性毛包炎	S1	L010	NE9U	重:1872.01 重:1872.11 重:1872.2	重:1872.01 重:1872.11 重:1872.2		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1653155576	1 <		ED9Y	
28328	12	全身伝染性膿疱疹	L	L010	P4JA	重:1872.01 重:1872.11 重:1872.2	重:1872.01 重:1872.11 重:1872.2		1 <		http://id.who.int/icd/entity/971176543	1 <		1872.Z	伝染性膿疱疹=膿疱疹、全身性は無し。
28329	12	外陰部膿疱疹	L	L010	QRV4	重:1872.01 重:1872.11 重:1872.2	重:1872.01 重:1872.11 重:1872.2		1 =		http://id.who.int/icd/entity/971176543 & http://id.who.int/icd/entity/986233688	1 =		1872.Y & XA78U5	伝染性膿疱疹 & XA78U5 Vulva
28330	12	躯幹伝染性膿疱疹	L	L010	QTMU	重:1872.01 重:1872.11 重:1872.2	重:1872.01 重:1872.11 重:1872.2		1 =		http://id.who.int/icd/entity/971176543 & http://id.who.int/icd/entity/986233688	1 =		1872.Y & XA3FR3	伝染性膿疱疹 & XA3FR3 Trunk
28331	12	伝染性膿疱疹	L	L010	T14B	重:1872.01 重:1872.11 重:1872.2	重:1872.01 重:1872.11 重:1872.2		1 =		http://id.who.int/icd/entity/971176543	1 =		1872.Z	伝染性膿疱疹=膿疱疹→MMSを等号に修正
28332	12	とびひ	S1	L010	T14B	重:1872.01 重:1872.11 重:1872.2	重:1872.01 重:1872.11 重:1872.2		1 =		http://id.who.int/icd/entity/971176543	1 =		1872.Z	
28333	12	ボツクリムト膿疱疹	L	L010	T89A	重:1872.01 重:1872.11 重:1872.2	重:1872.01 重:1872.11 重:1872.2		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1929235891	1 =		1874.0	Follicular impetigo of Bochart
28334	12	顔面膿疱疹	L	L010	TBCD	重:1872.01 重:1872.11 重:1872.2	重:1872.01 重:1872.11 重:1872.2		1 =		http://id.who.int/icd/entity/971176543 & http://id.who.int/icd/entity/968129184	1 =		1872.Y & XA86S4	伝染性膿疱疹 & XA86S4 Face
28335	12	顔面膿疱疹性湿疹	L	L011	A4UF	重:1872.2	重:1872.2		1 =		http://id.who.int/icd/entity/25824900 & http://id.who.int/icd/entity/968129184	1 =		1872.2 & XA86S4	皮膚の二次刺激 & XA86S4 Face→MMSを等号に修正
28336	12	全身膿疱疹性湿疹	L	L011	F121	重:1872.2	重:1872.2		1 <		http://id.who.int/icd/entity/25824900	1 <		1872.Z	皮膚の二次刺激、全身は無し。
28337	12	躯幹膿疱疹性湿疹	L	L011	J2QQ	重:1872.2	重:1872.2		1 =		http://id.who.int/icd/entity/25824900 & http://id.who.int/icd/entity/947150833	1 =		1872.2 & XA3FR3	皮膚の二次刺激 & XA3FR3 Trunk→MMSを等号に修正
28338	12	股部膿疱疹性湿疹	L	L011	JMAR	重:1872.2	重:1872.2		1 =		http://id.who.int/icd/entity/25824900 & http://id.who.int/icd/entity/1894266247	1 =		1872.2 & XA3VA7	皮膚の二次刺激 & XA3VA7 Buttock→MMSを等号に修正
28339	12	頭部膿疱疹性湿疹	L	L011	LANH	重:1872.2	重:1872.2		1 =		http://id.who.int/icd/entity/25824900 & http://id.who.int/icd/entity/1357976561	1 =		1872.2 & XA20Q1	皮膚の二次刺激 & XA20Q1 Head【頭部：head】→MMSを等号に修正
28340	12	膿疱疹性湿疹	L	L011	PPAN	重:1872.2	重:1872.2		1 =		http://id.who.int/icd/entity/25824900	1 =		1872.2	皮膚の二次刺激→MMSを等号に修正
28341	12	膿疱疹様発疹	S1	L011	PPAN	重:1872.2	重:1872.2		1 =		http://id.who.int/icd/entity/25824900	1 =		1872.2	

No	ICD10 標準病名	代表・同義	ICD10 コード	交換コード	マッピング情報(旧)	マッピング情報 2022	病名として現用して不適切	確信度	関係	ICD11 Foundation URI	確信度	関係	MMS	備考
28342	12 膿疱疹様湿疹	S1	L011	PAN	=:1872.2	=:1872.2		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/25824900	1 =	=	1872.2	
28343	12 膿疱疹性皮膚炎	S1	L011	PAN	=:1872.2	=:1872.2		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/25824900	1 =	=	1872.2	
28344	12 上肢膿疱疹性湿疹	L	L011	VH75	=:1872.2	=:1872.2		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/25824900 & http://id.who.int/icd/entity/968233688	1 =	=	1872.2 & XA4BA8	皮膚の二次刺激 & XA4BA8 Upper extremity 【上肢: upper limb】 ⇒ MMSを等号に修正
28345	12 頬部膿瘍	L	L020	L1U8	重:1875.01 重:1875.21 重:1875.31 重:1875.1	重:1875.01 重:1875.21 重:1875.31 重:1875.1		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1324834502 & http://id.who.int/icd/entity/1286369458	1 =	=	1875.3 & XA7MK8	*皮膚の化膿性膿瘍【膿瘍=abscess】は類義語。 & 頬部=Cheek
28346	12 頬部皮下膿瘍	S1	L020	L1U8	重:1875.01 重:1875.21 重:1875.31 重:1875.1	重:1875.01 重:1875.21 重:1875.31 重:1875.1		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1324834502 & http://id.who.int/icd/entity/1286369458	1 =	=	1875.3 & XA7MK8	
28347	12 下顎部膿瘍	L	L020	NADD	重:1875.01 重:1875.21 重:1875.31 重:1875.1	重:1875.01 重:1875.21 重:1875.31 重:1875.1		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1324834502 & http://id.who.int/icd/entity/1535382642	1 =	=	1875.3 & XA8KA2	*【膿瘍=abscess】 & XA2C62 Chin : ICD-11 X章において、皮膚として考えると下顎部は「顎」に含まれると判断した。 ⇒ 下顎部 XA8KA2 Mandibular region 医学用語ではlower jawの部分は、mandible と言い Chinは下顎の一部、また、upper jaw は maxilla という。 ⇒ 下顎部 XA8KA2 Mandibular region 医学用語ではlower jawの部分は、mandible と言い Chinは下顎の一部、また、upper jaw は maxilla という。
28348	12 下顎皮下膿瘍	S1	L020	NADD	重:1875.01 重:1875.21 重:1875.31 重:1875.1	重:1875.01 重:1875.21 重:1875.31 重:1875.1		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1324834502 & http://id.who.int/icd/entity/1535382642	1 =	=	1875.3 & XA8KA2	
28349	12 下顎部皮下膿瘍	S1	L020	NADD	重:1875.01 重:1875.21 重:1875.31 重:1875.1	重:1875.01 重:1875.21 重:1875.31 重:1875.1		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1324834502 & http://id.who.int/icd/entity/1535382642	1 =	=	1875.3 & XA8KA2	
28350	12 顔面よう	L	L020	PD20	重:1875.01 重:1875.21 重:1875.31 重:1875.1	重:1875.01 重:1875.21 重:1875.31 重:1875.1		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1456834066 & http://id.who.int/icd/entity/968129184	1 =	=	1875.1 & XA8654	*【よう=Carbuncle】 & XA8654 Face
28351	12 前額部膿瘍	L	L020	PNSP	重:1875.01 重:1875.21 重:1875.31 重:1875.1	重:1875.01 重:1875.21 重:1875.31 重:1875.1		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1324834502 & http://id.who.int/icd/entity/862454798	1 =	=	1875.3 & XA6TR8	*皮膚の化膿性膿瘍【膿瘍=abscess】は類義語。 & 前額部=Forehead
28352	12 顔面せつ	L	L020	SLOP	重:1875.01 重:1875.21 重:1875.31 重:1875.1	重:1875.01 重:1875.21 重:1875.31 重:1875.1		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1081137172 & http://id.who.int/icd/entity/968129184	1 =	=	1875.0 & XA8654	*【せつ=Furuncle】 & XA8654 Face
28353	12 面疔	S1	L020	SLOP	重:1875.01 重:1875.21 重:1875.31 重:1875.1	重:1875.01 重:1875.21 重:1875.31 重:1875.1		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1081137172 & http://id.who.int/icd/entity/968129184	1 =	=	1875.0 & XA8654	
28354	12 顔面ツルツクローズ	S2	L020	SLOP	重:1875.01 重:1875.21 重:1875.31 重:1875.1	重:1875.01 重:1875.21 重:1875.31 重:1875.1		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1081137172 & http://id.who.int/icd/entity/968129184	1 =	=	1875.0 & XA8654	

No	ICD10 章	標準病名	代 表・ 同義	ICD10 コード	交換 コード	マッピング 情報(旧)	マッピング 情報 2022	病名と して現 在では 不適切	確信 度	関係	ICD11 Foundation URI	確信 度	関係	MMS	備考
28355	12	顔面膿瘍	L	L020	V3U3	重:1875.01 重:1875.21 重:1875.31 重:1875.1	重:1875.01 重:1875.21 重:1875.31 重:1875.1		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1324834502 & http://id.who.int/icd/entity/968129184	1 =	=	1875.3 & XA86S4	*【膿瘍=abscess】 & XA86S4 Face ☆(L020)の項目に共通する整理せつ(おでき)は、プロ球菌感染により生じる皮膚膿瘍であり、毛包とその周囲の組織を侵す。ようは複数のせつが皮下でつなかってできる病変であり、せつよりも化膿が深く、癒着化を来す。それらは皮下膿瘍よりは小さく浅在性である。診断は病変の外観による。
28356	12	顔面皮下膿瘍	S1	L020	V3U3	重:1875.01 重:1875.21 重:1875.31 重:1875.1	重:1875.01 重:1875.21 重:1875.31 重:1875.1		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1324834502 & http://id.who.int/icd/entity/968129184	1 =	=	1875.3 & XA86S4	
28357	12	頸部よう	L	L021	BC2L	重:1875.01 重:1875.21 重:1875.31 重:1875.1	重:1875.01 重:1875.21 重:1875.31 重:1875.1		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1456834066 & http://id.who.int/icd/entity/956558826	1 =	=	1875.1 & XA7AA6	*【よう=Carbuncle】 & XA7AA6 Neck
28358	12	頸部カルブナクル	S1	L021	BC2L	重:1875.01 重:1875.21 重:1875.31 重:1875.1	重:1875.01 重:1875.21 重:1875.31 重:1875.1		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1456834066 & http://id.who.int/icd/entity/956558826	1 =	=	1875.1 & XA7AA6	
28359	12	頸部カルブナクル	S1	L021	BC2L	重:1875.01 重:1875.21 重:1875.31 重:1875.1	重:1875.01 重:1875.21 重:1875.31 重:1875.1		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1456834066 & http://id.who.int/icd/entity/956558826	1 =	=	1875.1 & XA7AA6	
28360	12	頸部よう	S1	L021	BC2L	重:1875.01 重:1875.21 重:1875.31 重:1875.1	重:1875.01 重:1875.21 重:1875.31 重:1875.1		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1456834066 & http://id.who.int/icd/entity/956558826	1 =	=	1875.1 & XA7AA6	
28361	12	頸部膿瘍	L	L021	MGDG	重:1875.01 重:1875.21 重:1875.31 重:1875.1	重:1875.01 重:1875.21 重:1875.31 重:1875.1		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1324834502 & http://id.who.int/icd/entity/956558826	1 =	=	1875.3 & XA7AA6	*皮膚の化膿性膿瘍【膿瘍=abscess】は類義語。 & 頸部=Neck
28362	12	頸部膿瘍	S1	L021	MGDG	重:1875.01 重:1875.21 重:1875.31 重:1875.1	重:1875.01 重:1875.21 重:1875.31 重:1875.1		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1324834502 & http://id.who.int/icd/entity/956558826	1 =	=	1875.3 & XA7AA6	
28363	12	頸部皮下膿瘍	S1	L021	MGDG	重:1875.01 重:1875.21 重:1875.31 重:1875.1	重:1875.01 重:1875.21 重:1875.31 重:1875.1		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1324834502 & http://id.who.int/icd/entity/956558826	1 =	=	1875.3 & XA7AA6	
28364	12	頸部せつ	L	L021	Q2GL	重:1875.01 重:1875.21 重:1875.31 重:1875.1	重:1875.01 重:1875.21 重:1875.31 重:1875.1		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1081137172 & http://id.who.int/icd/entity/956558826	1 =	=	1875.0 & XA7AA6	*【せつ=Furuncle】 & XA7AA6 Neck
28365	12	頸部フルンクル	S1	L021	Q2GL	重:1875.01 重:1875.21 重:1875.31 重:1875.1	重:1875.01 重:1875.21 重:1875.31 重:1875.1		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1081137172 & http://id.who.int/icd/entity/956558826	1 =	=	1875.0 & XA7AA6	

No	ICD10 章	標準病名	代 表・ 同義	ICD10 コード	交換 コード	マッピング 情報 (旧)	マッピング 情報 2022	病名と して現 代では 不適切	確信 度	関係	ICD11 Foundation URI	確信 度	関係	MMS	備考
28366	12	頸部ワルツェル	S1	L021	Q26L	重:1875.01 重:1875.21 重:1875.31 重:1875.1	重:1875.01 重:1875.21 重:1875.31 重:1875.1		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1081137172 & http://id.who.int/icd/entity/956558826	1 =	=	1875.0 & YA7AA6	
28367	12	頸部せつ	S1	L021	Q26L	重:1875.01 重:1875.21 重:1875.31 重:1875.1	重:1875.01 重:1875.21 重:1875.31 重:1875.1		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1081137172 & http://id.who.int/icd/entity/956558826	1 =	=	1875.0 & YA7AA6	
28368	12	鼠径部膿瘍	L	L022	A61A	重:1875.01 重:1875.21 重:1875.31 重:1875.1	重:1875.01 重:1875.21 重:1875.31 重:1875.1		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1324834502 & http://id.who.int/icd/entity/1206407267	1 =	=	1875.3 & YA0GN7	*皮膚の化膿性膿瘍【膿瘍=abscess】は類義語。 & 【鼠径部=Inguinal region】
28369	12	鼠径部膿瘍	S1	L022	A61A	重:1875.01 重:1875.21 重:1875.31 重:1875.1	重:1875.01 重:1875.21 重:1875.31 重:1875.1		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1324834502 & http://id.who.int/icd/entity/1206407267	1 =	=	1875.3 & YA0GN7	
28370	12	鼠径部皮下膿瘍	S1	L022	A61A	重:1875.01 重:1875.21 重:1875.31 重:1875.1	重:1875.01 重:1875.21 重:1875.31 重:1875.1		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1324834502 & http://id.who.int/icd/entity/1206407267	1 =	=	1875.3 & YA0GN7	
28371	12	肋骨周囲膿瘍	L	L022	B4BK	重:1875.01 重:1875.21 重:1875.31 重:1875.1	重:1875.01 重:1875.21 重:1875.31 重:1875.1		2 <	<	http://id.who.int/icd/entity/1324834502 & http://id.who.int/icd/entity/650081113	2 <	<	1875.3 & YA5D93	*皮膚の化膿性膿瘍【膿瘍=abscess】は類義語。肋骨周囲膿瘍=Pericostal abscessは、無い。肋骨周囲=around the ribsも無い。そのため、胸郭=YA5D93 Thoraxの下位とした。
28372	12	下腹部膿瘍	L	L022	D5HT	重:1875.01 重:1875.21 重:1875.31 重:1875.1	重:1875.01 重:1875.21 重:1875.31 重:1875.1		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1324834502 & http://id.who.int/icd/entity/2105593940	1 =	=	1875.3 & YA4TC0	*皮膚の化膿性膿瘍【膿瘍=abscess】は類義語。 & 下腹部=Lower abdomen
28373	12	下腹部皮下膿瘍	S1	L022	D5HT	重:1875.01 重:1875.21 重:1875.31 重:1875.1	重:1875.01 重:1875.21 重:1875.31 重:1875.1		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1324834502 & http://id.who.int/icd/entity/2105593940	1 =	=	1875.3 & YA4TC0	
28374	12	背部せつ	L	L022	D15Q	重:1875.01 重:1875.21 重:1875.31 重:1875.1	重:1875.01 重:1875.21 重:1875.31 重:1875.1		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1081137172 & http://id.who.int/icd/entity/1187030	1 =	=	1875.0 & YA2P90	*【せつ=Furuncle】 & 背部=Back
28375	12	側胸部膿瘍	L	L022	E9R4	重:1875.01 重:1875.21 重:1875.31 重:1875.1	重:1875.01 重:1875.21 重:1875.31 重:1875.1		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1324834502 & http://id.who.int/icd/entity/691256124	1 =	=	1875.3 & YA7884	*皮膚の化膿性膿瘍【膿瘍=abscess】は類義語。 & 側胸部=横胸部領域
28376	12	側胸部皮下膿瘍	S1	L022	E9R4	重:1875.01 重:1875.21 重:1875.31 重:1875.1	重:1875.01 重:1875.21 重:1875.31 重:1875.1		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1324834502 & http://id.who.int/icd/entity/691256124	1 =	=	1875.3 & YA7884	
28377	12	胸部せつ	L	L022	G7PN	重:1875.01 重:1875.21 重:1875.31 重:1875.1	重:1875.01 重:1875.21 重:1875.31 重:1875.1		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1081137172 & http://id.who.int/icd/entity/650081113	1 =	=	1875.0 & YA5D93	*【せつ=Furuncle】 & 【胸部=Thorax】

標準病名のICD-11コーディング作業結果

～ 第13章 標準病名 ～

(5ページのみ抜粋)

No	ICD10 標準病名	代表・同義	ICD10 コード	交換コード	旧ICD10	新ICD10	病名と見代ではない	修正	確信度	関係	ICD11 Foundation URI	確信度	関係	MMS	備考
29991	13 M R S A 肩関節炎	L	M0001	PJ71				1	1 =	http://id.who.int/icd/entity/494376064/	1 =	=	FA10.0 & XA0517 / MGS1.00	FA10.0 (関節の細菌感染) & XA0517 (肩関節) / MGS1.00 (MRSA)	
29992	13 MRSA 肩関節炎	S0	M0001	PJ71				1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/494376064/	1 =	=	FA10.0 & XA0517 / MGS1.00		
29993	13 エチシリン耐性黄色ブドウ球菌肩関節炎	S1	M0001	PJ71				1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/494376064/	1 =	=	FA10.0 & XA0517 / MGS1.00		
29994	13 M R S A 肘関節炎	L	M0002	JUMM				1	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1592823611/	1 =	=	FA10.0 & XA69H4 / MGS1.00	FA10.0 (関節の細菌感染) & XA69H4 (肘関節) / MGS1.00 (MRSA)	
29995	13 MRSA 肘関節炎	S0	M0002	JUMM				1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1592823611/	1 =	=	FA10.0 & XA69H4 / MGS1.00		
29996	13 エチシリン耐性黄色ブドウ球菌肘関節炎	S1	M0002	JUMM				1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1592823611/	1 =	=	FA10.0 & XA69H4 / MGS1.00		
29997	13 M R S A 股関節炎	L	M0005	EO9T				1	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1710270895/	1 =	=	FA10.0 & XA4X54 / MGS1.00	FA10.0 (関節の細菌感染) & XA4X54 (股関節) / MGS1.00 (MRSA)	
29998	13 MRSA 股関節炎	S0	M0005	EO9T				1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1710270895/	1 =	=	FA10.0 & XA4X54 / MGS1.00		
29999	13 エチシリン耐性黄色ブドウ球菌股関節炎	S1	M0005	EO9T				1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1710270895/	1 =	=	FA10.0 & XA4X54 / MGS1.00		
30000	13 エチシリン耐性黄色ブドウ球菌性股関節炎	L	M0005	J9FD				1	1 =	http://id.who.int/icd/entity/663286612/	1 =	=	FA10.0 & XA4X54 & XN9ZG	FA10.0 (関節の細菌感染) & XA4X54 (股関節) / MGS1.00 (MRSA) → FA10.0 (関節の細菌感染) & XA4X54 (股関節) & XN9ZG (ぶどう球菌)	
30001	13 エチシリン耐性黄色ブドウ球菌性膝関節炎	L	M0006	FEHV				1	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1127484090/	1 =	=	FA10.0 & XA8R1L & XN9ZG	FA10.0 (関節の細菌感染) & XA8R1L (膝関節) & XN9ZG (ぶどう球菌)	
30002	13 M R S A 膝関節炎	L	M0006	NP3				1	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1127484090/	1 =	=	FA10.0 & XA8R1L / MGS1.00	FA10.0 (関節の細菌感染) & XA8R1L (膝関節) / MGS1.00 (MRSA)	
30003	13 MRSA 膝関節炎	S0	M0006	NP3				1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1127484090/	1 =	=	FA10.0 & XA8R1L / MGS1.00		
30004	13 エチシリン耐性黄色ブドウ球菌膝関節炎	S1	M0006	NP3				1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1127484090/	1 =	=	FA10.0 & XA8R1L / MGS1.00		
30005	13 エチシリン耐性黄色ブドウ球菌性股関節炎	L	M0009	RRKV				1	1 =	http://id.who.int/icd/entity/44406497/	1 =	=	FA10.0 & XA8R1L / MGS1.00	FA10.0 (関節の細菌感染) & XA9A75 (関節及び軟帯) / MGS1.00 (MRSA) → FA10.0 (関節の細菌感染) & XN9ZG (ぶどう球菌)	
30006	13 エチシリン耐性黄色ブドウ球菌性股関節炎	S1	M0009	RRKV				1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/782978104/	1 =	=	FA10.0 & XN9ZG		
30007	13 M R S A 股関節炎	L	M0009	SR4				1	1 =	http://id.who.int/icd/entity/216184590/	1 =	=	FA10.0 / MGS1.00	FA10.0 (関節の細菌感染) & XA4X54 (股関節) / MGS1.00 (MRSA)	
30008	13 MRSA 股関節炎	S0	M0009	SR4				1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/216184590/	1 =	=	FA10.0 / MGS1.00		
30009	13 肺炎球菌性股関節炎	L	M0019	RO39				1 =	1 <	http://id.who.int/icd/entity/33350376/	1 <	=	FA10.0		
30010	13 B 群溶連菌性化膿性股関節炎	L	M0025	B7MF				1	1 =	http://id.who.int/icd/entity/6522473950/	1 =	=	FA10.Z & XA4X54 & XN2M1	FA10.0 & XA4X54 (Hip joint) & XN2M1 (Streptococcus, group B) → FA10.Z (化膿性関節炎) & XA4X54 (Hip joint) & XN2M1 (Streptococcus, group B)	
30011	13 B 群溶連菌性化膿性股関節炎	S0	M0025	B7MF				1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/6522473950/	1 =	=	FA10.Z & XA4X54 & XN2M1		
30012	13 GGS 化膿性股関節炎	S1	M0025	B7MF				1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1188078244/	1 =	=	FA10.Z & XA4X54 & XN2M1		
30013	13 連鎖球菌性関節炎	L	M0029	C9PL				1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1997317917/	1 =	=	FA10.0 & XN3NM	FA10.0 & XN3NM Streptococcus	
30014	13 んんさ球菌性関節炎	S1	M0029	C9PL				1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1997317917/	1 =	=	FA10.0 & XN3NM		
30015	13 エンテロコッカス性関節炎	L	M0089	P5SA				1	1 =	http://id.who.int/icd/entity/216184590/	1 =	=	FA10.0 & XN1P6	FA10.0 + XN1P6 (エンテロコッカス)	
30016	13 化膿性関節炎・肩関節	L	M0091	SLR				1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/6522473950/	1 =	=	FA10.Z & XA0517	FA10.Z & XA0517 Shoulder joint	
30017	13 化膿性肩関節炎	S1	M0091	SLR				1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/719727487/	1 =	=	FA10.Z & XA0517		
30018	13 化膿性関節炎・胸鎖関節	L	M0091	VOTG				1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/6522473950/	1 =	=	FA10.Z & XA0CH1	FA10.Z & XA0CH1 Sternoclavicular joint	
30019	13 化膿性胸鎖関節炎	S1	M0091	VOTG				1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/845271451/	1 =	=	FA10.Z & XA0CH1		

No	ICD10 標準病名	代表・同義	ICD10 コード	交換コード	旧ICD10	新ICD10 2022	病名 と 親 代 は 不 修 正 有 無	確 信 度	ICD11 Foundation URI	確 信 度	関係	MMIS	備考
30020	13 化膿性関節炎・肘関節	L	M0092	GGIN				1 =	http://id.who.int/icd/entity/622473950&http://id.who.int/icd/entity/1364152594	1 =	FA10.Z & XA69H4	FA10.Z&XA69H4 Elbow joint	
30021	13 化膿性肘関節炎	S1	M0092	GGIN				1 =	http://id.who.int/icd/entity/622473950&http://id.who.int/icd/entity/1364152594	1 =	FA10.Z & XA69H4		
30022	13 化膿性関節炎・手関節	L	M0093	A7QC				1 =	http://id.who.int/icd/entity/622473950&http://id.who.int/icd/entity/1676501535	1 =	FA10.Z & XA62V5	FA10.Z&XA62V5 Joints of the hand	
30023	13 化膿性手関節炎	S1	M0093	A7QC				1 =	http://id.who.int/icd/entity/622473950&http://id.who.int/icd/entity/1676501535	1 =	FA10.Z & XA62V5		
30024	13 化膿性関節炎・指関節	L	M0094	UE5P				1 =	http://id.who.int/icd/entity/622473950&http://id.who.int/icd/entity/2008478303	1 =	FA10.Z & XA3T43	FA10.Z&XA3T43 Knuckles	
30025	13 化膿性関節炎・股関節	L	M0095	SMSK				1 =	http://id.who.int/icd/entity/622473950&http://id.who.int/icd/entity/1188078244	1 =	FA10.Z & XA4X54	FA10.Z&XA4X54 Hip joint	
30026	13 化膿性股関節炎	S1	M0095	SMSK				1 =	http://id.who.int/icd/entity/622473950&http://id.who.int/icd/entity/1188078244	1 =	FA10.Z & XA4X54		
30027	13 化膿性関節炎・仙腸関節	L	M0095	TT8P				1 =	http://id.who.int/icd/entity/622473950&http://id.who.int/icd/entity/428919892	1 =	FA10.Z & XA3T32	FA10.Z&XA3T32 Sacroiliac joint	
30028	13 化膿性仙腸関節炎	S1	M0095	TT8P				1 =	http://id.who.int/icd/entity/622473950&http://id.who.int/icd/entity/428919892	1 =	FA10.Z & XA3T32		
30029	13 化膿性関節炎・膝関節	L	M0096	SN24				1 =	http://id.who.int/icd/entity/622473950&http://id.who.int/icd/entity/1574110781	1 =	FA10.Z & XA8R11	FA10.Z&XA8R11 Knee joint	
30030	13 化膿性膝関節炎	S1	M0096	SN24				1 =	http://id.who.int/icd/entity/622473950&http://id.who.int/icd/entity/1574110781	1 =	FA10.Z & XA8R11		
30031	13 化膿性関節炎・足関節	L	M0097	7987				1 =	http://id.who.int/icd/entity/622473950&http://id.who.int/icd/entity/2000483733	1 =	FA10.Z & XA27P3	FA10.Z&XA27P3 Ankle joint	
30032	13 化膿性足関節炎	S1	M0097	7987				1 =	http://id.who.int/icd/entity/622473950&http://id.who.int/icd/entity/2000483733	1 =	FA10.Z & XA27P3		
30033	13 化膿性関節炎・趾関節	L	M0097	VK11				1 =	http://id.who.int/icd/entity/622473950&http://id.who.int/icd/entity/355147270	1 =	FA10.Z & XA27T0	FA10.Z&XA27T0 Joint of the foot	
30034	13 化膿性趾関節炎	L	M0099	DH8H				1 =	http://id.who.int/icd/entity/622473950	1 =	FA10.Z	FA10.Z Direct infections of joint, unspecified	
30035	13 関節化膿症	S1	M0099	DH8H				1 =	http://id.who.int/icd/entity/622473950	1 =	FA10.0		
30036	13 関節腫瘍	L	M0099	F3R5				1 =	http://id.who.int/icd/entity/622473950	1 =	FA10.Z	FA10.Z Direct infections of joint, unspecified	
30037	13 関節周囲腫瘍	S2	M0099	F3R5				1 <	http://id.who.int/icd/entity/622473950	1 <	FA10.Z		
30038	13 感染性関節炎	L	M0099	JCA8				1 =	http://id.who.int/icd/entity/622473950	1 =	FA10.Z	FA10.Z Direct infections of joint, unspecified	
30039	13 赤痢後関節障害	L	M0219	TK5L				1 =	http://id.who.int/icd/entity/478382681	1 <	FA12.Y	FA12.Y (Postdysenteric arthropathy)	
30040	13 予防接種後関節障害	L	M0229	R7Q1				1 =	http://id.who.int/icd/entity/1747901096	1 =	FA11.1		
30041	13 反応性関節炎	L	M0239	SVPV				1 =	http://id.who.int/icd/entity/594689864	1 =	FA11.2	FA11.2 (過去には、ライター-リョー病と呼ばれていた)	
30042	13 ライター-リョー症候群	S1	M0239	SVPV				1 =	http://id.who.int/icd/entity/594689864	1 =	FA11.2		
30043	13 REITER症候群	S1	M0239	SVPV				1 =	http://id.who.int/icd/entity/594689864	1 =	FA11.2		
30044	13 反応性関節障害	L	M0299	ENNB				1 =	http://id.who.int/icd/entity/13709272705	1 =	FA11.Z		
30045	13 フェルテラー症候群	L	M0500	ATMM				1 =	http://id.who.int/icd/entity/1118910093	1 <	FA20.0	FA20.0 (フェルテラー症候群=Fely syndrome)	
30046	13 フェルテラー症候群	S1	M0500	ATMM				1 =	http://id.who.int/icd/entity/1118910093	1 <	FA20.0		
30047	13 FELTY症候群	S1	M0500	ATMM				1 =	http://id.who.int/icd/entity/1282210072	1 <	FA20.0		
30048	13 脾腫性多発性関節炎	S2	M0500	ATMM				1 =	http://id.who.int/icd/entity/396939646 http://id.who.int/icd/entity/1282210072	1 =	FA27.Y / ME10.01		
30049	13 リウマチ性肺疾患	L	M0510	AUHR				1 =	http://id.who.int/icd/entity/2000006803	1 =	CB05.1 / FA20		
30050	13 関節リウマチ性間質性肺炎	L	M0510	EB0H				1 =	http://id.who.int/icd/entity/2000006803	1 =	CB05.1 / FA20	CB05.1 (Interstitial lung diseases associated with connective tissue diseases)	
30051	13 リウマチ性間質性肺炎	S1	M0510	EB0H				1 =	http://id.who.int/icd/entity/2000006803	1 =	CB05.1 / FA20		
30052	13 リウマチイノド肺	S1	M0510	EB0H				1 =	http://id.who.int/icd/entity/2000006803	1 =	CB05.1 / FA20		
30053	13 関節リウマチによる間質性肺炎	S1	M0510	EB0H				1 =	http://id.who.int/icd/entity/2000006803	1 =	CB05.1 / FA20		
30054	13 リウマチ肺	S1	M0510	EB0H				1 =	http://id.who.int/icd/entity/2000006803 http://id.who.int/icd/entity/1355167773	1 =	CB05.1 / FA20		
30055	13 カラフトン症候群	L	M0510	R829				1 =	http://id.who.int/icd/entity/2000006803 http://id.who.int/icd/entity/1355167773	1 =	CB05.1 / CA60.1	CB05.1/CA60.1 Coal worker pneumoconiosis	

No	ICD10 標準病名	代表・同義	ICD10 コード	交換コード	旧ICD10コード	新ICD10コード	病名として規定代用は	修正有無	確信度	関係	ICD11 Foundation URI	確信度	関係	MMIS	備考
30056	13 CAPAN症候群	S1	M0510	R829					1 =		http://id.who.int/icd/entity/2000006803/ http://id.who.int/icd/entity/1355167773	1 =		CB05.1 / CA60.1	
30057	13 リウマトイド血管炎	L	M0520	GMH					1 =		http://id.who.int/icd/entity/1398254566	1 <		4A44.Y	
30058	13 リウマチ性血管炎	S1	M0520	GMH					1 =		http://id.who.int/icd/entity/1398254566	1 <		4A44.Y	
30059	13 リウマチ性胸膜炎	L	M053	BA2Q	FA20.0	FA20.Z			1 =		http://id.who.int/icd/entity/576319925/ http://id.who.int/icd/entity/317852053	1 =		FA20 / MD31	FA20/MD31 Pleurisy
30060	13 関節リウマチ性心炎	L	M0530	EIMP					1 =		http://id.who.int/icd/entity/1249305608	1 <		FA20.Z	FA20.Z(rheumatoid carditis)
30061	13 慢性関節リウマチ性心炎	S1	M0530	EIMP					1 =		http://id.who.int/icd/entity/1249305608	1 <		FA20.Z	
30062	13 関節リウマチ性ミオパチー	L	M0530	MARE					1 =		http://id.who.int/icd/entity/576319925/ http://id.who.int/icd/entity/1870184184	1 =		FA20.Z / 8C7Y	FA20.Z/8C7Y
30063	13 慢性関節リウマチ性ミオパチー	S1	M0530	MARE					1 =		http://id.who.int/icd/entity/576319925/ http://id.who.int/icd/entity/1870184184	1 =		FA20.Z / 8C7Y	
30064	13 関節リウマチ性ミオパチー	S1	M0530	MARE					1 =		http://id.who.int/icd/entity/576319925/ http://id.who.int/icd/entity/1870184184	1 =		FA20.Z / 8C7Y	
30065	13 慢性関節リウマチ性ミオパチー	S1	M0530	MARE					1 =		http://id.who.int/icd/entity/576319925/ http://id.who.int/icd/entity/1870184184	1 =		FA20.Z / 8C7Y	
30066	13 関節リウマチ性心膜炎	L	M0530	NOUB					1 =		http://id.who.int/icd/entity/1249305608	1 <		FA20.Z	FA20.Z(rheumatoid pericarditis)
30067	13 慢性関節リウマチ性心膜炎	S1	M0530	NOUB					1 =		http://id.who.int/icd/entity/1249305608	1 <		FA20.Z	
30068	13 関節リウマチ性心筋炎	L	M0530	PAE8					1 =		http://id.who.int/icd/entity/1177212868	1 <		FA20.Z	BC42.3 (関節リウマチ性とリウマチ性は同義と判断、Rheumatic myocarditis)
30069	13 慢性関節リウマチ性心筋炎	S1	M0530	PAE8					1 =		http://id.who.int/icd/entity/1177212868	1 <		FA20.Z	
30070	13 悪性関節リウマチ	L	M0530	SQ14					1 <		http://id.who.int/icd/entity/1698769251	1 <		FA20.Z	FA20.Z
30071	13 血清反応陽性関節リウマチ・合併症なし	L	M0580	Q45R					1 <		http://id.who.int/icd/entity/1698769251	1 <		FA20.0	FA20.0 (血清反応陽性関節リウマチ = Seropositive rheumatoid arthritis)
30072	13 血清反応陽性関節リウマチ・肩関節・合併症なし	L	M0581	ISN1					1 <		http://id.who.int/icd/entity/1698769251 & http://id.who.int/icd/entity/171912748/	1 <		FA20.0 & XA05J7	FA20.0&XA05J7 Shoulder joint
30073	13 血清反応陽性関節リウマチ・肘関節・合併症なし	L	M0582	M2M1					1 <		http://id.who.int/icd/entity/1698769251 & http://id.who.int/icd/entity/1384152994	1 <		FA20.0 & XA69H4	FA20.0&XA69H4 Elbow joint
30074	13 血清反応陽性関節リウマチ・手関節・合併症なし	L	M0583	P28V					1 <		http://id.who.int/icd/entity/1698769251 & http://id.who.int/icd/entity/1675501535	1 <		FA20.0 & XA62V5	FA20.0&XA62V5 Joints of the hand
30075	13 血清反応陽性関節リウマチ・指関節・合併症なし	L	M0584	DMC					1 <		http://id.who.int/icd/entity/1698769251 & http://id.who.int/icd/entity/20008478303	1 <		FA20.0 & XA3T43	FA20.0&XA3T43 Knuckles
30076	13 血清反応陽性関節リウマチ・股関節・合併症なし	L	M0585	P3VN					1 <		http://id.who.int/icd/entity/1698769251 & http://id.who.int/icd/entity/1574110781	1 <		FA20.0 & XA4XS4	FA20.0&XA4XS4 Hip joint
30077	13 血清反応陽性関節リウマチ・膝関節・合併症なし	L	M0586	JEH					1 <		http://id.who.int/icd/entity/1698769251 & http://id.who.int/icd/entity/1735902769	1 <		FA20.0 & XA8RL1	FA20.0&XA8RL1 Knee joint
30078	13 血清反応陽性関節リウマチ・趾関節・合併症なし	L	M0587	PAUK					1 <		http://id.who.int/icd/entity/1698769251 & http://id.who.int/icd/entity/20000483733	1 <		FA20.0 & XA4LC9	FA20.0&XA4LC9 Toes
30079	13 血清反応陽性関節リウマチ・足関節・合併症なし	L	M0587	Q207					1 <		http://id.who.int/icd/entity/1698769251 & http://id.who.int/icd/entity/20000483733	1 <		FA20.0 & XA27P3	FA20.0&XA27P3 Ankle joint
30080	13 血清反応陽性関節リウマチ・頸椎・合併症なし	L	M0588	FEON					1 <		http://id.who.int/icd/entity/1698769251 & http://id.who.int/icd/entity/53291568	1 <		FA20.0 & XA9ZW8	FA20.0&XA9ZW8 Cervical vertebra
30081	13 血清反応陽性関節リウマチ・頸椎・合併症なし	S1	M0588	FEON					1 <		http://id.who.int/icd/entity/1698769251 & http://id.who.int/icd/entity/53291568	1 <		FA20.0 & XA9ZW8	
30082	13 血清反応陽性関節リウマチ・背椎・合併症なし	L	M0588	UVA					1 <		http://id.who.int/icd/entity/1698769251 & http://id.who.int/icd/entity/405704375	1 <		FA20.0 & XA5J55	FA20.0 & XA5J55 Vertebral column
30083	13 血清反応陽性関節リウマチ・胸椎・合併症なし	L	M0588	LNCC					1 <		http://id.who.int/icd/entity/1698769251 & http://id.who.int/icd/entity/335892208	1 <		FA20.0 & XA6E88	FA20.0&XA6E88 Thoracic vertebra
30084	13 血清反応陽性関節リウマチ・骶関節・合併症なし	L	M0588	QIVP					1 <		http://id.who.int/icd/entity/1698769251 & http://id.who.int/icd/entity/614677372	1 <		FA20.0 & XA2SM2	FA20.0&XA2SM2 Temporomandibular joint
30085	13 血清反応陽性関節リウマチ・腰椎・合併症なし	L	M0588	VOK2					1 <		http://id.who.int/icd/entity/1698769251 & http://id.who.int/icd/entity/929981680	1 <		FA20.0 & XA0D60	FA20.0&XA0D60 Lumbar vertebra
30086	13 血清反応陽性関節リウマチ	L	M0590	SC85					1 =		http://id.who.int/icd/entity/1698769251	1 =		FA20.0	
30087	13 血清反応陽性慢性関節リウマチ	S1	M0590	SC85					1 =		http://id.who.int/icd/entity/1698769251	1 =		FA20.0	

No	ICD10 標準病名	代表・同義	ICD10 コード	交換コード	旧ICD10コード	新ICD10コード2022	病名と見代ではない	修正有無	確信度	関係	ICD11 Foundation URI	確信度	関係	MMIS	備考
30088	13 血清反応陽性関節リウマチ・肩関節	L	M0591	V7U					1 =	=	http://dx.doi.org/10.1186/1698769251&http://id.who.int/icd/entity/719127487	1 =	=	FA20.0 & XA05J7	FA20.0&XA05J7 Shoulder joint
30089	13 血清反応陽性関節リウマチ・肘関節	L	M0592	KCBH					1 =	=	http://dx.doi.org/10.1186/1698769251&http://id.who.int/icd/entity/1364152594	1 =	=	FA20.0 & XA69H4	FA20.0&XA69H4 Elbow joint
30090	13 血清反応陽性関節リウマチ・手関節	L	M0593	VAE9					1 =	=	http://dx.doi.org/10.1186/1698769251&http://id.who.int/icd/entity/1675501335	1 =	=	FA20.0 & XA62V5	FA20.0&XA62V5 Joints of the hand
30091	13 血清反応陽性関節リウマチ・指関節	L	M0594	G5N1					1 =	=	http://dx.doi.org/10.1186/1698769251&http://id.who.int/icd/entity/2008428303	1 =	=	FA20.0 & XA3T43	FA20.0&XA3T43 Knuckles
30092	13 血清反応陽性関節リウマチ・投関節	L	M0595	G1KK					1 =	=	http://dx.doi.org/10.1186/1698769251&http://id.who.int/icd/entity/1188078244	1 =	=	FA20.0 & XA4X54	FA20.0&XA4X54 Hip joint
30093	13 血清反応陽性関節リウマチ・膝関節	L	M0596	F7EU					1 =	=	http://dx.doi.org/10.1186/1698769251&http://id.who.int/icd/entity/1574110781	1 =	=	FA20.0 & XA8R11	FA20.0&XA8R11 Knee joint
30094	13 血清反応陽性関節リウマチ・足関節	L	M0597	BLSK					1 =	=	http://dx.doi.org/10.1186/1698769251&http://id.who.int/icd/entity/2000483733	1 =	=	FA20.0 & XA27P3	FA20.0&XA27P3 Ankle joint
30095	13 血清反応陽性関節リウマチ・趾関節	L	M0597	R0N9					1 =	=	http://dx.doi.org/10.1186/1698769251&http://id.who.int/icd/entity/555147270	1 =	=	FA20.0 & XA22T0	FA20.0&XA22T0 Joint of the foot
30096	13 血清反応陽性関節リウマチ・胸椎	L	M0598	G2BH					1 =	=	http://dx.doi.org/10.1186/1698769251&http://id.who.int/icd/entity/335892208	1 =	=	FA20.0 & XA6E88	FA20.0&XA6E88 Thoracic vertebra
30097	13 血清反応陽性関節リウマチ・頸椎	L	M0598	LP0M					1 =	=	http://dx.doi.org/10.1186/1698769251&http://id.who.int/icd/entity/53291568	1 =	=	FA20.0 & XA9ZW8	FA20.0&XA9ZW8 Cervical vertebra
30098	13 血清反応陽性関節リウマチ・頸椎	L	M0598	LP0M					1 =	=	http://dx.doi.org/10.1186/1698769251&http://id.who.int/icd/entity/53291568	1 =	=	FA20.0 & XA9ZW8	FA20.0&XA9ZW8 Cervical vertebra
30099	13 血清反応陽性関節リウマチ・腰椎	L	M0598	PU09					1 =	=	http://dx.doi.org/10.1186/1698769251&http://id.who.int/icd/entity/405704375	1 =	=	FA20.0 & XA5J55	FA20.0&XA5J55 Vertebral column
30100	13 血清反応陽性関節リウマチ・頸関節	L	M0598	Q16P					1 =	=	http://dx.doi.org/10.1186/1698769251&http://id.who.int/icd/entity/614673722	1 =	=	FA20.0 & XA2SM2	FA20.0&XA2SM2 Temporomandibular joint
30101	13 血清反応陽性関節リウマチ・脊椎	L	M0598	R5DU					1 =	=	http://dx.doi.org/10.1186/1698769251&http://id.who.int/icd/entity/929081680	1 =	=	FA20.0 & XA0D60	FA20.0&XA0D60 Lumbar vertebra
30102	13 R S 3 P E 症候群	L	M0600	D302					1 =	1 <	http://dx.doi.org/10.1186/1698769251&http://id.who.int/icd/entity/46662605	1 <	=	FA27.Y	FA27.Y (R S 3 P E 症候群 = remitting seronegative symmetrical synovitis with pitting edema)
30103	13 R S 3 P 症候群	S0	M0600	D302					1 =	1 <	http://dx.doi.org/10.1186/1698769251&http://id.who.int/icd/entity/46662605	1 <	=	FA27.Y	FA27.Y (R S 3 P E 症候群 = remitting seronegative symmetrical synovitis with pitting edema)
30104	13 血清反応陽性関節リウマチ	L	M0600	PE1N					1 =	=	http://dx.doi.org/10.1186/1698769251&http://id.who.int/icd/entity/1108009158	1 =	=	FA20.1	
30105	13 血清反応陽性関節リウマチ	S1	M0600	PE1N					1 =	=	http://dx.doi.org/10.1186/1698769251&http://id.who.int/icd/entity/1108009158	1 =	=	FA20.1	
30106	13 血清反応陽性関節リウマチ・肩関節	L	M0601	TEED					1 =	=	http://dx.doi.org/10.1186/1698769251&http://id.who.int/icd/entity/719727487	1 =	=	FA20.1 & XA05J7	FA20.1&XA05J7
30107	13 血清反応陽性関節リウマチ・肘関節	L	M0602	G0SS					1 =	=	http://dx.doi.org/10.1186/1698769251&http://id.who.int/icd/entity/1364152594	1 =	=	FA20.1 & XA69H4	FA20.1&XA69H4
30108	13 血清反応陽性関節リウマチ・手関節	L	M0603	SKV5					1 =	=	http://dx.doi.org/10.1186/1698769251&http://id.who.int/icd/entity/1108009158	1 =	=	FA20.1 & XA62V5	FA20.1&XA62V5 Joints of the hand
30109	13 血清反応陽性関節リウマチ・指関節	L	M0604	R0E9					1 =	=	http://dx.doi.org/10.1186/1698769251&http://id.who.int/icd/entity/2008428303	1 =	=	FA20.1 & XA3T43	FA20.1&XA3T43
30110	13 血清反応陽性関節リウマチ・投関節	L	M0605	H4T0					1 =	=	http://dx.doi.org/10.1186/1698769251&http://id.who.int/icd/entity/1188078244	1 =	=	FA20.1 & XA4X54	FA20.1&XA4X54
30111	13 血清反応陽性関節リウマチ・膝関節	L	M0606	TE8S					1 =	=	http://dx.doi.org/10.1186/1698769251&http://id.who.int/icd/entity/1574110781	1 =	=	FA20.1 & XA8R11	FA20.1&XA8R11
30112	13 血清反応陽性関節リウマチ・足関節	L	M0607	A44L					1 =	=	http://dx.doi.org/10.1186/1698769251&http://id.who.int/icd/entity/2000483733	1 =	=	FA20.1 & XA27P3	FA20.1&XA27P3
30113	13 血清反応陽性関節リウマチ・趾関節	L	M0607	TM0G					1 =	=	http://dx.doi.org/10.1186/1698769251&http://id.who.int/icd/entity/555147270	1 =	=	FA20.1 & XA22T0	FA20.1&XA22T0 Joint of the foot
30114	13 血清反応陽性関節リウマチ・頸椎	L	M0608	DK0H					1 =	=	http://dx.doi.org/10.1186/1698769251&http://id.who.int/icd/entity/53291568	1 =	=	FA20.1 & XA9ZW8	FA20.1&XA9ZW8
30115	13 血清反応陽性関節リウマチ・頸椎	S1	M0608	DK0H					1 =	=	http://dx.doi.org/10.1186/1698769251&http://id.who.int/icd/entity/53291568	1 =	=	FA20.1 & XA9ZW8	FA20.1&XA9ZW8
30116	13 血清反応陽性関節リウマチ・頸関節	L	M0608	INPQ					1 =	=	http://dx.doi.org/10.1186/1698769251&http://id.who.int/icd/entity/614673722	1 =	=	FA20.1 & XA2SM2	FA20.1&XA2SM2
30117	13 血清反応陽性関節リウマチ・腰椎	L	M0608	NKFJ					1 =	=	http://dx.doi.org/10.1186/1698769251&http://id.who.int/icd/entity/405704375	1 =	=	FA20.1 & XA5J55	FA20.1&XA5J55

No	ICD10 標準病名	代表・同義	ICD10 コード	交換コード	旧ICD10	新ICD10	病名として現代的には不適切	修正有無	確信度	関係	ICD11 Foundation URI	確信度	関係	MMIS	備考
30118	13 血清反応陰性関節リウマチ・脊椎	L	M0608	PIBH					1 =		http://id.who.int/icd/entity/11080009158&http://id.who.int/icd/entity/979081680	1 =		FA20.1 & XA0D60	FA20.1&XA0D60
30119	13 血清反応陰性関節リウマチ・胸椎	L	M0608	TLF3					1 =		http://id.who.int/icd/entity/11080009158&http://id.who.int/icd/entity/335892208	1 =		FA20.1 & XA6E88	FA20.1&XA6E88
30120	13 成人スチル病	L	M0610	TR9V					1 =		http://id.who.int/icd/entity/549009522	1 =		FA23	FA23 Adult-onset Still disease
30121	13 成人発症スチル病	S1	M0610	TR9V					1 =		http://id.who.int/icd/entity/549009522	1 =		FA23	
30122	13 成人型スチル病	S1	M0610	TR9V					1 =		http://id.who.int/icd/entity/549009522	1 =		FA23	
30123	13 成人発症スチル病	S1	M0610	TR9V					1 =		http://id.who.int/icd/entity/549009522	1 =		FA23	
30124	13 成人発症スチル病	S1	M0610	TR9V					1 =		http://id.who.int/icd/entity/549009522	1 =		FA23	
30125	13 リウマチ性滑液包炎	L	M0620	JTRP					1 =		http://id.who.int/icd/entity/1984620329/	1 =		FB50 / FA20.Z	FB50 / FA20.Z Rheumatoid burstitis
30126	13 リウマチ性皮下結節	L	M0630	KOUP					1 =		http://id.who.int/icd/entity/823351769	1 <		FA20.0	FA20.0(r) リウマチ性皮下結節 (= Rheumatoid nodule)
30127	13 炎症性多発性関節障害	L	M0640	EO31					1 =		http://id.who.int/icd/entity/336939646	1 =		FA20.Z	FA20.Z(rheumatoid arthritis) 炎症性多発性関節障害が含まれると判断)
30128	13 ハチランス変形	L	M0680	FG53					1 =		http://id.who.int/icd/entity/576319925	1 =		FA20.Z	FA20.Z (関節リウマチの変形の一種として尺側偏位・スワンネック変形・ボタネック変形・Z型変形・ハチランス変形があります。)
30129	13 ハチランス様変形	S1	M0680	FG53					1 =		http://id.who.int/icd/entity/576319925	1 =		FA20.Z	
30130	13 ハチランス型関節リウマチ	S1	M0680	FG53					1 =		http://id.who.int/icd/entity/576319925	1 =		FA20.Z	
30131	13 ハチランス型RA	S1	M0680	FG53					1 =		http://id.who.int/icd/entity/576319925	1 =		FA20.Z	
30132	13 ハチランス型リウマチ	S1	M0680	FG53					1 =		http://id.who.int/icd/entity/576319925	1 =		FA20.Z	
30133	13 多発性リウマチ性関節炎・合併症なし	L	M0680	J96V					1 <		http://id.who.int/icd/entity/576319925	1 <		FA20.Z	FA20.Z(rheumatoid arthritis)
30134	13 リウマチ性関節炎・合併症なし	L	M0680	JG4M					1 <		http://id.who.int/icd/entity/576319925	1 <		FA20.Z	FA20.Z(rheumatoid arthritis)
30135	13 関節リウマチ・合併症なし	L	M0680	KU3					1 <		http://id.who.int/icd/entity/576319925	1 <		FA20.Z	FA20.Z(rheumatoid arthritis)
30136	13 関節リウマチ・肩関節・合併症なし	L	M0681	UI7Q					1 <		http://id.who.int/icd/entity/576319925&http://id.who.int/icd/entity/179227487	1 <		FA20 & XA0S17	FA20&XA0S17 Shoulder joint
30137	13 関節リウマチ・肘関節・合併症なし	L	M0682	HA0					1 <		http://id.who.int/icd/entity/576319925&http://id.who.int/icd/entity/1364152894	1 <		FA20 & XA69H4	FA20&XA69H4 Elbow joint
30138	13 関節リウマチ・手関節・合併症なし	L	M0683	ATUC					1 <		http://id.who.int/icd/entity/676501535	1 <		FA20 & XA62V5	FA20&XA62V5 Joints of the hand
30139	13 尺側偏位	L	M0684	A31V					1 <		http://id.who.int/icd/entity/2008478302	1 <		FA20 & XA3T43	FA20&XA3T43 Knuckles (尺側偏位とは手の指が流れるように小指側に傾く変形で、腕のある二本の骨のうち小指側の骨を尺骨と呼ぶためこのように呼ばれます。)
30140	13 関節リウマチ・指関節・合併症なし	L	M0684	BD5H					1 <		http://id.who.int/icd/entity/576319925&http://id.who.int/icd/entity/2008478302	1 <		FA20 & XA3T43	FA20&XA3T43 Knuckles
30141	13 関節リウマチ・股関節・合併症なし	L	M0685	L3VE					1 <		http://id.who.int/icd/entity/576319925&http://id.who.int/icd/entity/1188078244	1 <		FA20 & XA4S4	FA20&XA4S4 Hip joint
30142	13 関節リウマチ・膝関節・合併症なし	L	M0686	GSV					1 <		http://id.who.int/icd/entity/576319925&http://id.who.int/icd/entity/1514110781	1 <		FA20 & XA8RL1	FA20&XA8RL1 Knee joint
30143	13 関節リウマチ・足関節・合併症なし	L	M0687	KBR					1 <		http://id.who.int/icd/entity/576319925&http://id.who.int/icd/entity/2000483733	1 <		FA20 & XA27P3	FA20&XA27P3 Ankle joint
30144	13 関節リウマチ・趾関節・合併症なし	L	M0687	TEPO					1 <		http://id.who.int/icd/entity/576319925&http://id.who.int/icd/entity/1735902769	1 <		FA20 & XA4L09	FA20&XA4L09 Toes
30145	13 関節リウマチ・腰椎・合併症なし	L	M0688	E9KQ					1 <		http://id.who.int/icd/entity/576319925&http://id.who.int/icd/entity/929081680	1 <		FA20 & XA0D60	FA20&XA0D60 Lumbar vertebra
30146	13 関節リウマチ・脊椎・合併症なし	L	M0688	GCOA					1 <		http://id.who.int/icd/entity/576319925&http://id.who.int/icd/entity/405704375	1 <		FA20 & XA5J55	FA20&XA5J55 Vertebral column
30147	13 関節リウマチ・頸椎・合併症なし	L	M0688	HM7V					1 <		http://id.who.int/icd/entity/576319925&http://id.who.int/icd/entity/53291568	1 <		FA20 & XA9ZW8	FA20&XA9ZW8 Cervical vertebra
30148	13 関節リウマチ・頸椎・合併症なし	S1	M0688	HM7V					1 <		http://id.who.int/icd/entity/576319925&http://id.who.int/icd/entity/53291568	1 <		FA20 & XA9ZW8	
30149	13 関節リウマチ・胸椎・合併症なし	L	M0688	NAEF					1 <		http://id.who.int/icd/entity/335892208	1 <		FA20 & XA6E88	FA20&XA6E88 Thoracic vertebra

標準病名のICD-11コーディング作業結果

～ 第14章 標準病名 ～

(5ページのみ抜粋)

No	ICD10 章	標準病名	ICD11 和訳との一致	代表表・同義	ICD10 コード	交換コード	マップング情報 (旧)	マップング情報 2022	病名と現用名との不一致	確信度	関係	ICD11 Foundation URI	確信度	関係	MMS	備考
33846	14	急性びまん性膜性糸球体腎炎	0 L		N002	AFCH	F:MF8Z	F:GB40		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1932151457/	1 <		GB40 / MF8Y	Acute nephritic syndrome / diffuse membranous glomerulonephritis
33847	14	急性びまん性ネフロン増殖性糸球体腎炎	0 L		N003	MEA4	F:GB40	F:GB40		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1932151457/	1 <		GB40 / MF8Y	Acute nephritic syndrome / glomerular disease with diffuse mesangial proliferation
33848	14	急性びまん性腎内増殖性糸球体腎炎	0 L		N004	PNQ7	F:GB40	F:GB40		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1817105154/	1 <		GB40 / MF8Y	Acute nephritic syndrome : diffuse endocapillary proliferative glomerulonephritis
33849	14	急性デンプンデポジット病	0 L		N006	COJQ	F:GB40	F:GB40		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1932151457/	1 <		GB40 / MF8Y	Acute nephritic syndrome : dense deposit disease
33850	14	急性びまん性半月体形成性糸球体腎炎	0 L		N007	QNP P	F:GB40	F:GB40		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1932151457/	1 <		GB40 / MF8Y	Acute nephritic syndrome : diffuse crescentic glomerulonephritis
33851	14	急性糸球体腎炎	1 L		N009	LNNL	=:GB40	=:GB40		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1783829886/	1 <		GB40	acute glomerulonephritis
33852	14	急性腎炎	1 S1		N009	LNNL	=:GB40	=:GB40		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1932151457/	1 =		GB40	acute nephritis
33853	14	急性腎炎症候群	1 S2		N009	LNNL	=:GB40	=:GB40		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1932151457/	1 <		GB40	Acute nephritic syndrome
33854	14	溶連菌感染後急性糸球体腎炎	0 L		N009	NBHS	=:GB40	=:GB40		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1783829886/	1 <		GB40 / 1C41 & XN3NM1	Acute glomerulonephritis / streptococcal infection
33855	14	溶連菌感染後急性腎炎	0 S1		N009	NBHS	=:GB40	=:GB40		1 =		http://id.who.int/icd/entity/520429137/	1 =		GB40 / 1C41 & XN3NM1	
33856	14	溶連菌感染後糸球体腎炎	0 S1		N009	NBHS	=:GB40	=:GB40		1 =		http://id.who.int/icd/entity/199731791/	1 <		GB40 / 1C41 & XN3NM1	
33857	14	急速進行性びまん性膜性糸球体腎炎	0 L		N012	THJH	F:MF8Z	F:GB40		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1084292542/	1 <		GB40 / MF8Y	Rapidly progressive nephritic syndrome : diffuse membranous glomerulonephritis
33858	14	急速進行性びまん性腎内増殖性糸球体腎炎	0 L		N014	J7JN	F:GB40	F:GB40		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1817105154/	1 <		GB40 / MF8Y	Rapidly progressive nephritic syndrome : Diffuse endocapillary proliferation
33859	14	急速進行性デンプンデポジット病	0 L		N016	H3JU	F:GB40	F:GB40		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1041399919/	1 <		GB40 / MF8Y	Rapidly progressive nephritic syndrome : dense deposit disease
33860	14	抗糸球体基底膜腎炎	0 L		N017	LBA6	F:GB40	F:GB40		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1783829886/	1 <		GB40 / MF85	Anti-glomerular basement membrane antibody mediated disease
33861	14	抗糸球体基底膜抗体型急速進行性糸球体腎炎	0 S1		N017	LBA6	F:GB40	F:GB40		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1084292542/	1 <		GB40 / MF85	Rapidly progressive nephritic syndrome / Anti-glomerular basement membrane antibody mediated disease
33862	14	抗GBM抗体型腎炎	0 S1		N017	LBA6	F:GB40	F:GB40		1 =		http://id.who.int/icd/entity/591736785/	1 <		GB40 / MF85	腎炎 NOS / 抗基底膜抗体(抗GBM抗体) Anti-glomerular basement membrane antibody disease
33863	14	抗GBM抗体型急速進行性糸球体腎炎	0 S1		N017	LBA6	F:GB40	F:GB40		1 =		http://id.who.int/icd/entity/591736785/	1 <		GB40 / MF85	
33864	14	特発性半月体形成性糸球体腎炎	0 L		N017	LMVR	F:GB40	F:GB40		1 <		http://id.who.int/icd/entity/894194405/	1 <		GB40&XB5F	Idiopathic Crescent glomerulonephritis
33865	14	特発性壊死性半月体形成性糸球体腎炎	0 S1		N017	LMVR	F:GB40	F:GB40		1 <		http://id.who.int/icd/entity/1164920904/	1 <		GB40&XB5F/MF8Y	crescentic glomerulonephritis&Idiopathic / Glomerular disease with capillary necrosis
33866	14	特発性壊死性半月体形成性腎炎	0 S1		N017	LMVR	F:GB40	F:GB40		1 <		http://id.who.int/icd/entity/894194405/	1 <		GB40&XB5F/MF8Y	毛細血管の一部が壊死(壊死)、血管内の炎症がポーン囊まで及びポーン囊の細胞が刺激されて糸球体とポーン囊の隙間に半月型や三日月型に増殖
33867	14	A N C A 関連腎炎	0 L		N017	NQ7G	F:GB40	F:GB40		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1783829886/	1 <		GB40 / 4A44,AZ	Nephritic syndrome/ANCA - [Antineutrophil cytoplasmic antibodies] associated vasculitis
33868	14	ANCA関連腎炎	0 S0		N017	NQ7G	F:GB40	F:GB40		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1404622826/	1 <		GB40 / 4A44,AZ	

No	ICD10 章	標準病名	ICD11 1和訳との一致	代表・同義	ICD10 コード	交換コード	マップング情報 (旧)	マップング情報 2022	病名として現在不適切	確信度	関係	ICD11 Foundation URI	確信度	関係	MMS	備考
33869	14	ANCA関連糸球体腎炎	0 S1	N017	N07G		F:GB40	F:GB40		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1783829886/	1 <		GB40 / 4A44 AZ	
33870	14	急速進行性びまん性半月体形成性糸球体腎炎	0 L	N017	VLOK		F:GB40	F:GB40		1 =		http://id.who.int/icd/entity/140462826/	1 <		M87Y	Glomerular disease with acute cellular crescentic glomerulonephritis
33871	14	急速進行性半月体形成性糸球体腎炎	0 S1	N017	VLOK		F:GB40	F:GB40		1 =		http://id.who.int/icd/entity/2129549609/	1 <		M87Y	
33872	14	急速進行性糸球体腎炎	1 L	N019	F825		F:GB40	F:GB40		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1084292542/	1 <		GB40	rapidly progressive glomerulonephritis
33873	14	RPGN	0 S1	N019	F825		F:GB40	F:GB40		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1084292542/	1 <		GB40	急速進行性糸球体腎炎 (RPGN)
33874	14	急速進行性腎炎	1 S1	N019	F825		F:GB40	F:GB40		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1084292542/	1 <		GB40	rapidly progressive nephritis
33875	14	亜急性腎炎	0 S1	N019	F825		F:GB40	F:GB40		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1783829886/	1 =		GB40&XT1L	Subacute nephritis
33876	14	急速進行性腎炎症候群	1 S2	N019	F825		F:GB40	F:GB40		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1084292542/	1 <		GB40	Rapidly progressive nephritic syndrome
33877	14	I G A腎症	0 L	N028	E1K8		F:MF8Z	F:GB4Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1084292542/	1 <		M87Y	Glomerular disease with Iga disease
33878	14	IGA腎症	0 S0	N028	E1K8		F:MF8Z	F:GB4Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/303721100/	1 <		M87Y	
33879	14	糸球体性血尿	0 L	N029	B5RN		F:MF8Z	F:GB4Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1345372703/	1 <		GB4Y	Recurrent or persistent glomerular haematuria
33880	14	良性家族性血尿	0 L	N029	B839		F:MF8Z	F:GB4Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1891259612/	1 <		GB4Y	benign familial hematuria
33881	14	菲薄基底膜症候群	0 S1	N029	B839		F:MF8Z	F:GB4Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/376110430/	1 <		M87Y	Basement membrane splitting and changes consistent with Alport syndrome 確立された疾患における糸球体基底膜の特徴的な不規則な薄化
33882	14	菲薄基底膜病	0 S1	N029	B839		F:MF8Z	F:GB4Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/376110430/	1 <		M87Y	
33883	14	家族性良性血尿	0 S1	N029	B839		F:MF8Z	F:GB4Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1891259612/	1 <		GB4Y	Benign familial haematuria
33884	14	良性血尿	1 L	N029	E1NP		F:MF8Z	F:GB4Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1345372703/	1 <		GB4Y	benign haematuria
33885	14	持続性血尿	1 L	N029	K79M		F:MF8Z	F:GB4Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1972271910/	1 <		GB4Y	Persistent haematuria
33886	14	持続性血尿症候群	0 S2	N029	K79M		F:MF8Z	F:GB4Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1972271910/	1 <		GB4Y	
33887	14	血症症候群	1 L	N029	L3AA		F:MF8Z	F:GB4Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1345372703/	1 <		GB4Y	Recurrent or persistent glomerular haematuria
33888	14	良性反復性血尿	1 L	N029	L4I3		F:MF8Z	F:GB4Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/13068665/	1 <		GB4Y	benign recurrent haematuria
33889	14	反復性血尿	0 L	N029	NH0J		F:MF8Z	F:GB4Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/713068665/	1 <		GB4Y	recurrent hematuria
33890	14	腎性血尿	0 L	N029	QTDH		F:MF8Z	F:GB4Z		1 <		http://id.who.int/icd/entity/1783829886/	1 <		GB40/MF50.4	haematuria
33891	14	良性反復性血尿症候群	0 S1	N029	QTDH		F:MF8Z	F:GB4Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/2016050353/	1 <		GB4Y	Recurrent or persistent glomerular haematuria
33892	14	腎前性血尿	0 S2	N029	QTDH		F:MF8Z	F:GB4Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1345372703/	1 <		GB4Y	出血の部位から腎前性血尿と腎後性血尿
33893	14	軽症慢性腎炎症候群	0 L	N030	DSUN		F:GB40	F:GB40		1 =		http://id.who.int/icd/entity/713068665/	1 <		GB40	GB40 Chronic nephritic syndrome : minor glomerular abnormality
33894	14	慢性びまん性慢性糸球体腎炎	0 L	N032	V7VN		F:MF8Z	F:GB40		1 =		http://id.who.int/icd/entity/61079735/	1 <		GB40	GB40 Chronic nephritic syndrome : diffuse membranous glomerulonephritis
33895	14	慢性びまん性メサンギウム増殖性糸球体腎炎	0 L	N033	TIA9		F:GB40	F:GB40		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1110215459/	1 <		GB40	GB40 Chronic nephritic syndrome : diffuse mesangial proliferative glomerulonephritis
33896	14	慢性びまん性管内増殖性糸球体腎炎	0 L	N034	SEUV		F:GB40	F:GB40		1 =		http://id.who.int/icd/entity/834803895/	1 <		GB40	GB40 Chronic nephritic syndrome : diffuse endocapillary proliferative glomerulonephritis
33897	14	慢性びまん性メサンギウム病	0 L	N036	LAED		F:GB40	F:GB40		1 =		http://id.who.int/icd/entity/539264478/	1 <		GB40	GB40 Chronic nephritic syndrome : dense deposit disease
33898	14	慢性びまん性半月体形成性糸球体腎炎	0 L	N037	NH3R		F:GB40	F:GB40		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1164920904/	1 <		GB40	GB40 Chronic nephritic syndrome : diffuse crescentic glomerulonephritis
33899	14	慢性糸球体腎炎	1 L	N039	J4F2		F:MF8Z F:GB40	F:GB40 F:MF8Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/897257355/	1 <		GB40	Chronic glomerulonephritis

No	ICD10 標準病名	ICD11 1和訳との一致	ICD10 コード	交換コード	マッピング情報 (旧)	マッピング情報 2022	病名として現在では不適切	確信度	関係	ICD11 Foundation URI	確信度	関係	MMS	備考
33900	14 慢性腎炎	1 S1	N039	J4F2	=MFR8Z1 F:GB40	=GB401 =MFR8Z		1 =	http://id.who.int/icd/entity/897257355	1 <	1 <	GB40	nephritis specified as chronic chronic: nephritis	
33901	14 慢性糸球体性腎炎	0 S1	N039	J4F2	=MFR8Z1 F:GB40	=GB401 =MFR8Z		1 =	http://id.who.int/icd/entity/897257355	1 <	1 <	GB40	chronic glomerular disease	
33902	14 慢性腎炎症候群	1 L	N039	MAU5	=MFR8Z1 F:GB40	=GB401 =MFR8Z		1 =	http://id.who.int/icd/entity/897257355	1 <	1 <	GB40	Chronic nephritic syndrome	
33903	14 微小変化型ネフローゼ症候群	0 L	N040	MA95	F:GB41	F:GB41		1 =	http://id.who.int/icd/entity/1629260860	1 <	1 <	GB41	Minimal change glomerulonephritis	
33904	14 微小変化型ネフローゼ症候群	0 S1	N040	MA95	F:GB41	F:GB41		1 =	http://id.who.int/icd/entity/1629260860	1 <	1 <	GB41		
33905	14 微小変化群ネフローゼ	0 S1	N040	MA95	F:GB41	F:GB41		1 =	http://id.who.int/icd/entity/1629260860	1 <	1 <	GB41		
33906	14 微小変化群	0 S1	N040	MA95	F:GB41	F:GB41		1 =	http://id.who.int/icd/entity/1629260860	1 <	1 <	GB41		
33907	14 リポイドネフローゼ	1 S1	N040	MA95	F:GB41	F:GB41		1 =	http://id.who.int/icd/entity/1642749578	1 <	1 <	GB41	lipoid nephrosis	
33908	14 微小変化ネフローゼ	0 S1	N040	MA95	F:GB41	F:GB41		1 =	http://id.who.int/icd/entity/1629260860	1 <	1 <	GB41		
33909	14 軽微糸球体変化ネフローゼ症候群	0 S1	N040	MA95	F:GB41	F:GB41		1 =	http://id.who.int/icd/entity/1629260860	1 <	1 <	GB41		
33910	14 微小変化群ネフローゼ	0 S1	N040	MA95	F:GB41	F:GB41		1 =	http://id.who.int/icd/entity/1629260860	1 <	1 <	GB41		
33911	14 莫状分節性糸球体硬化症ネフローゼ症候群	0 L	N041	HRFC	F:GB41	F:GB41		1 =	http://id.who.int/icd/entity/1184209951/	1 <	1 <	GB41 / MFR8Y	Nephrotic syndrome / Hilary glomerular disease with focal and segmental sclerosis	
33912	14 ひまん性膜性糸球体腎炎ネフローゼ症候群	0 L	N042	UHG8	F:GB41	F:GB41		1 =	http://id.who.int/icd/entity/1184209951/	1 <	1 <	GB41 / MFR8Y	Nephrotic syndrome / Diffuse membranous glomerulonephritis	
33913	14 ひまん性管内増殖性糸球体腎炎ネフローゼ症候群	0 L	N044	UR21	F:GB41	F:GB41		1 =	http://id.who.int/icd/entity/817733606	1 <	1 <	GB41 / MFR8Y	Nephrotic syndrome / Glomerular disease with membranoproliferative glomerular changes	
33914	14 デンズデポジット病ネフローゼ症候群	0 L	N046	K31S	F:GB41	F:GB41		1 =	http://id.who.int/icd/entity/1184209951/	1 <	1 <	GB41 / MFR8Y	Nephrotic syndrome / dense deposit disease	
33915	14 ひまん性メサンギオ硬化症	0 L	N048	MA1J	F:GB41	F:GB41		1 =	http://id.who.int/icd/entity/1184209951/	1 <	1 <	GB41 / MFR80	Nephrotic syndrome/Diffuse mesangial sclerosis	
33916	14 フォンランド型先天性ネフローゼ症候群	1 L	N049	ASE1	F:GB41	F:GB41		1 =	http://id.who.int/icd/entity/2134488194	1 <	1 <	GB41	Finnish congenital nephrotic syndrome	
33917	14 頻回再発型ネフローゼ症候群	0 L	N049	BO56	F:GB41	F:GB41		1 <	http://id.who.int/icd/entity/1184209951_&http://id.who.int/icd/entity/1721353160	1 =	1 =	GB41 & XT44	Nephrotic syndrome&再発	
33918	14 ネフローゼ症候群	1 L	N049	PFJ3	F:GB41	F:GB41		1 =	http://id.who.int/icd/entity/1184209951	1 =	1 =	GB41	Nephrotic syndrome nephrosis syndrome	
33919	14 ネフローゼ	0 S1	N049	PFJ3	F:GB41	F:GB41		1 =	http://id.who.int/icd/entity/1184209951	1 =	1 =	GB41		
33920	14 先天性ネフローゼ症候群	1 L	N049	E285	F:GB41	F:GB41		1 =	http://id.who.int/icd/entity/714324575	1 <	1 <	GB41	Congenital nephrotic syndrome	
33921	14 先天性ネフローゼ	1 S1	N049	E285	F:GB41	F:GB41		1 =	http://id.who.int/icd/entity/714324575	1 <	1 <	GB41		
33922	14 二次性ネフローゼ症候群	0 L	N049	F32T	F:GB41	F:GB41		1 <	http://id.who.int/icd/entity/1184209951	1 =	1 =	GB41	GB41 Nephrotic syndrome	
33923	14 病発性ネフローゼ症候群	0 S1	N049	F32T	F:GB41	F:GB41		1 <	http://id.who.int/icd/entity/1184209951	1 <	1 <	GB41		
33924	14 一次性ネフローゼ症候群	0 L	N049	GD0K	F:GB41	F:GB41		1 =	http://id.who.int/icd/entity/1184209951	1 =	1 =	GB41	Nephrotic syndrome/明らかな原因疾患がないものが一次性ネフローゼ症候群	
33925	14 難治性ネフローゼ症候群	0 L	N049	HCKE	F:GB41	F:GB41		1 <	http://id.who.int/icd/entity/1184209951	1 <	1 <	GB41	GB41 Nephrotic syndrome	
33926	14 小児ネフローゼ症候群	0 L	N049	J5T1	F:GB41	F:GB41		1 <	http://id.who.int/icd/entity/1184209951	1 <	1 <	GB41	GB41 Nephrotic syndrome	
33927	14 ステロイド依存性ネフローゼ症候群	0 L	N049	LASS	F:GB41	F:GB41		1 <	http://id.who.int/icd/entity/1184209951/	1 <	1 <	GB41 / 6C4HY	nephritic syndrome/ Steroid dependence	
33928	14 ステロイド抵抗性ネフローゼ症候群	1 L	N049	MAD7	F:GB41	F:GB41		1 =	http://id.who.int/icd/entity/1647994026	1 =	1 =	GB41	Steroid resistant nephrotic syndrome	
33929	14 微小糸球体変化	0 L	N050	RID4	=MFR8Z1 F:GB40	F:GB40		1 =	http://id.who.int/icd/entity/1629260860	1 <	1 <	GB40	Minimal change glomerulonephritis	

No	ICD10 章	標準病名	ICD11 1和 訳と の	代 表・ 同義	ICD10 コード	交換 コード	マッピング 情報 (旧)	マッピング 情報 2022	病名と して現 代では 不適切	確信 度	関係	ICD11 Foundation URI	確信 度	関係	MMS	備考
33930	14	軽微糸球体変化	0 S1	N050	R1D4		=MFR8Z1 F:GB40	F:GB40		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1629260860	1 <		GB40	
33931	14	巣状分節性糸球体硬化症	1 L	N051	H81V		=MFR8Z F:GB40	F:GB40		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1623933120	1 <		MFR8Y	focal segmental glomerulosclerosis
33932	14	巣状糸球体硬化症	0 S1	N051	H81V		=MFR8Z F:GB40	F:GB40		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1623933120	1 <		MFR8Y	
33933	14	巣状糸球体腎炎	1 L	N051	Q88K		=MFR8Z F:GB40	F:GB40		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1623933120	1 <		MFR8Y	focal glomerulonephritis
33934	14	膿性腎症	0 L	N052	J7A1		=MFR8Z E:MFR8Z	E:MFR8Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/817733606	1 <		MFR8Y	Diffuse membranous glomerulonephritis
33935	14	膿性糸球体腎炎	0 S1	N052	J7A1		=MFR8Z E:MFR8Z	E:MFR8Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/817733606	1 <		MFR8Y	
33936	14	膿性腎炎	0 S1	N052	J7A1		=MFR8Z E:MFR8Z	E:MFR8Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/817733606	1 <		MFR8Y	
33937	14	びまん性膿性糸球体腎炎	1 S2	N052	J7A1		=MFR8Z E:MFR8Z	E:MFR8Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/817733606	1 <		MFR8Y	Diffuse membranous glomerulonephritis
33938	14	メサンギウム増殖性糸球体腎炎	0 L	N053	FR53		=MFR8Z E:MFR8Z	E:MFR8Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1110215459	1 <		GB40	Chronic nephritic syndrome : diffuse mesangial proliferative glomerulonephritis 慢性糸球体腎炎の1つ
33939	14	びまん性メサンギウム増殖性糸球体腎炎	0 S2	N053	FR53		=MFR8Z E:MFR8Z	E:MFR8Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1110215459	1 <		GB40	
33940	14	管内性増殖性糸球体腎炎	0 L	N054	TU0H		=MFR8Z E:MFR8Z	E:MFR8Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/834803895	1 <		GB40	Chronic nephritic syndrome : diffuse endocapillary proliferative glomerulonephritis
33941	14	びまん性管内性増殖性糸球体腎炎	0 S2	N054	TU0H		=MFR8Z E:MFR8Z	E:MFR8Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/834803895	1 <		GB40	Chronic nephritic syndrome : diffuse endocapillary proliferative glomerulonephritis
33942	14	膿性増殖性糸球体腎炎3型	0 L	N055	GC96		F:GB40	F:GB40		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1418319139	1 <		GB40	Membranoproliferative glomerulonephritis, types 1 and 3, or NOS
33943	14	膿性増殖性糸球体腎炎3型	0 S0	N055	GC96		F:GB40	F:GB40		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1418319139	1 <		GB40	
33944	14	一次性膿性増殖性糸球体腎炎	0 L	N055	MOET		F:GB40	F:GB40		1 =		http://id.who.int/icd/entity/721580916	1 <		GB40	Membranoproliferative glomerulonephritis
33945	14	膿性増殖性糸球体腎炎	1 L	N055	T46M		F:GB40	F:GB40		1 =		http://id.who.int/icd/entity/721580916	1 <		MFR8Y	membranoproliferative glomerulonephritis
33946	14	膿性増殖性腎炎	0 S1	N055	T46M		F:GB40	F:GB40		1 =		http://id.who.int/icd/entity/721580916	1 <		MFR8Y	
33947	14	膿性増殖性糸球体腎炎1型	0 L	N055	V80D		F:GB40	F:GB40		1 =		http://id.who.int/icd/entity/14183191399	1 <		GB40	Membranoproliferative glomerulonephritis, types 1 and 3, or NOS
33948	14	膿性増殖性糸球体腎炎1型	0 S0	N055	V80D		F:GB40	F:GB40		1 =		http://id.who.int/icd/entity/14183191399	1 <		GB40	
33949	14	膿性増殖性糸球体腎炎第1型	0 S1	N055	V80D		F:GB40	F:GB40		1 =		http://id.who.int/icd/entity/14183191399	1 <		GB40	
33950	14	膿性増殖性糸球体腎炎2型	0 L	N056	KMKK		=MFR8Z E:MFR8Z	E:MFR8Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/539264478	1 <		GB40	Membranoproliferative glomerulonephritis, type 2
33951	14	膿性増殖性糸球体腎炎2型	0 S0	N056	KMKK		=MFR8Z E:MFR8Z	E:MFR8Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/539264478	1 <		GB40	
33952	14	ランズデボット病	0 S1	N056	KMKK		=MFR8Z E:MFR8Z	E:MFR8Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/539264478	1 <		GB40	
33953	14	半月体形成性糸球体腎炎	0 L	N057	VDNN		=MFR8Z E:MFR8Z	E:MFR8Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1164920904	1 <		GB40	Chronic nephritic syndrome : diffuse crescentic glomerulonephritis
33954	14	壊死性半月体形成性糸球体腎炎	0 S1	N057	VDNN		=MFR8Z E:MFR8Z	E:MFR8Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1677729549	1 <		MFR8Y	Chronic nephritic syndrome : diffuse crescentic glomerulonephritis 毛細血管の一部が壊死 (壊死) し、血管内の炎症がボーン嚢まで及びボーン嚢の細胞が刺激されて糸球体とボーン嚢の隙間に半月型や三日型に増殖
33955	14	びまん性半月体形成性糸球体腎炎	0 S1	N057	VDNN		=MFR8Z E:MFR8Z	E:MFR8Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1290243376	1 <		MFR8Y	Glomerular disease with diffuse crescentic, less than 50% glomerulonephritis
33956	14	半月体形成性腎炎	0 S1	N057	VDNN		=MFR8Z E:MFR8Z	E:MFR8Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1290243376	1 <		MFR8Y	
33957	14	増殖性糸球体腎炎	0 L	N058	VEHE		F:GB40	F:GB40		1 =		http://id.who.int/icd/entity/939941130	1 <		GB40	GB40 Proliferative glomerulonephritis NOS
33958	14	増殖性腎炎	0 S1	N058	VEHE		F:AMFR8Z F:GB40	F:GB40		1 =		http://id.who.int/icd/entity/939941130	1 <		GB40	
33959	14	腎炎	0 L	N059	LM7		=GB40	=GB40		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1783829886	1 =		GB40	Nephritic syndrome

No	ICD10 章	標準病名	ICD11 1和訳との一致	代表・ICD10コード	交換コード	マッピング情報(旧)	マッピング情報 2022	病名として現在不適切	確信度	関係	ICD11 Foundation URI	確信度	関係	MMS	備考
33960	14	糸球体腎炎	0 L	N059	STM2	=:GB40	=:GB40		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/658360080	1 =	=	GB42	Glomerular diseases, unspecified
33961	14	糸球体性蛋白尿症	0 L	N069	RN8U	下:GB42.2	下:GB42.2		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/518091080	1 <	<	GB42.Z	Glomerular disease associated with proteinuria or nephrotic syndrome, unspecified
33962	14	糸球体性蛋白尿	0 S1	N069	RN8U	下:GB42.2	下:GB42.2		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/518091080	1 <	<	GB42.Z	Fibronectin glomerulopathy
33963	14	ライフノクネチン腎症	1 L	N078	H30D	重:GB42	重:GB42		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1877494378	1 =	=	MF81	Lipoprotein glomerulopathy
33964	14	リボタン/ペグ糸球体症	1 L	N078	J04A	重:GB42	重:GB42		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/697787202	1 =	=	MF82	Lipoprotein glomerulopathy
33965	14	リボタン糸球体症	1 S1	N078	J04A	重:GB42	重:GB42		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/697787202	1 =	=	MF82	Lipoprotein glomerulopathy
33966	14	家族性腎炎	0 L	N079	CHNT	=:MF82	=:MF82		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/361014416	1 <	<	GB42	Glomerular disease associated with genetic or familial disease
33967	14	遺伝性家族性腎炎	0 S1	N079	CHNT	=:MF82	=:MF82		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/361014416	1 <	<	GB42	Glomerular disease associated with genetic or familial disease
33968	14	遺伝性腎症	0 S1	N079	CHNT	=:MF82	=:MF82		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/361014416	1 <	<	GB42	Glomerular disease associated with genetic or familial disease
33969	14	家族性遺伝性腎炎	0 S1	N079	CHNT	=:MF82	=:MF82		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/361014416	1 <	<	GB42	Glomerular disease associated with genetic or familial disease
33970	14	家族性遺伝性腎症	0 S1	N079	CHNT	=:MF82	=:MF82		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/361014416	1 <	<	GB42	Glomerular disease associated with genetic or familial disease
33971	14	L M X 1 B 関連腎症	0 L	N079	GV0M	=:MF82	=:MF82		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1121867410	1 =	=	LD24.J0	ネーリル/ネーリ症候群 (爪膝蓋骨症候群) Nail-patella syndrome / LMX1B関連腎症
33972	14	LMX1B関連腎症	0 S0	N079	GV0M	=:MF82	=:MF82		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1121867410	1 =	=	LD24.J0	ネーリル/ネーリ症候群 (爪膝蓋骨症候群) Nail-patella syndrome / LMX1B関連腎症
33973	14	急性腎盂腎炎	1 L	N10	AMDE	上:GB50 上:GB51	上:GB50 上:GB51		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/441183088	1 =	=	GB51	Acute pyelonephritis
33974	14	急性腎盂炎	1 S1	N10	AMDE	上:GB50 上:GB51	上:GB50 上:GB51		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/535438854	1 <	<	GB90.Y	Acute pyelitis
33975	14	急性尿管間質性腎炎	1 L	N10	FRPH	上:GB50 上:GB51	上:GB50 上:GB51		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/370349933	1 =	=	GB50	Acute tubulo-interstitial nephritis
33976	14	急性間質性腎炎	0 S1	N10	FRPH	上:GB50 上:GB51	上:GB50 上:GB51		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/370349933	1 =	=	GB50	Acute tubulo-interstitial nephritis
33977	14	気腫性腎盂腎炎	0 L	N10	GTAC	上:GB50 上:GB51	上:GB50 上:GB51		1 <	<	http://id.who.int/icd/entity/441183088	1 <	<	GB51	emphysematous pyelonephritis (EPN) 腎実質や腎周囲にガス発生像を認める重篤な壊死性尿路感染症
33978	14	急性壊死性腎盂炎	0 S1	N10	GTAC	上:GB50 上:GB51	上:GB50 上:GB51		1 <	<	http://id.who.int/icd/entity/441183088	1 <	<	GB51	emphysematous pyelonephritis (EPN) 腎実質や腎周囲にガス発生像を認める重篤な壊死性尿路感染症
33979	14	急性巣状細菌性腎炎	0 L	N10	MNEV	上:GB50 上:GB51	上:GB50 上:GB51		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/403411521	1 =	=	GB51	GB51 Acute bacterial pyelonephritis
33980	14	単純性腎盂腎炎	0 L	N10	NS22	上:GB50 上:GB51	上:GB50 上:GB51		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/441183088	1 =	=	GB51	急性 (単純性) 腎盂腎炎 全身の病変や尿路の異常などがない腎盂腎炎を単純性腎盂腎炎といいます。急性に発症する急性腎盂腎炎の多くは単純性
33981	14	単純性腎盂炎	0 S1	N10	NS22	上:GB50 上:GB51	上:GB50 上:GB51		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/441183088	1 =	=	GB51	急性 (単純性) 腎盂腎炎 全身の病変や尿路の異常などがない腎盂腎炎を単純性腎盂腎炎といいます。急性に発症する急性腎盂腎炎の多くは単純性
33982	14	逆流性腎症	0 L	N110	QL6F	下:GB55.2	下:GB55.2		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1656637330	1 =	=	GB56.Z	Obstructive or reflux nephropathy, unspecified
33983	14	逆流腎症	0 S1	N110	QL6F	下:GB55.2	下:GB55.2		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1656637330	1 =	=	GB56.Z	Obstructive or reflux nephropathy, unspecified
33984	14	逆流性腎盂腎炎	0 S1	N110	QL6F	下:GB55.2	下:GB55.2		1 <	<	http://id.who.int/icd/entity/1656637330	1 <	<	GB56.Z	Obstructive or reflux nephropathy, unspecified
33985	14	非閉塞性逆流性慢性腎盂腎炎	0 S2	N110	QL6F	下:GB55.2	下:GB55.2		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/416405628	1 =	=	GB55.Z / GB54	Refluxive chronic pyelonephritis, not otherwise specified / Nonobstructive pyelonephritis
33986	14	慢性閉塞性腎盂腎炎	0 L	N111	US08	下:GB55.2	下:GB55.2		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1214692275	1 <	<	GB55.Z	Obstructive chronic pyelonephritis, not otherwise specified
33987	14	非閉塞性慢性腎盂腎炎	0 L	N118	GR3F	下:GB55.2	下:GB55.2		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1297257549	1 <	<	GB55.Z	Nonobstructive chronic pyelonephritis not otherwise specified
33988	14	慢性尿管間質性腎炎	1 L	N119	DH1T	下:GB55.2	下:GB55.2		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1935203065	1 =	=	GB55.Z	Chronic tubulo-interstitial nephritis
33989	14	慢性間質性腎炎	0 S1	N119	DH1T	下:GB55.2	下:GB55.2		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1935203065	1 =	=	GB55.Z	Chronic tubulo-interstitial nephritis

No	ICD10 標準病名	代 表・ 同義	ICD10 コード	交換 コード	マップ 情報 (旧)	マップ 情報2022	病名と して現 在では 不適切	確 信 度	関 係	ICD11 Foundation URI	確 信 度	関 係	MMS	備 考
35483	15 膈膜妊娠		0000	LD9M	=:JA01.0	=:JA01.0		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1396448570	1 =	=	JA01.0	Abdominal pregnancy
35484	15 膈腔内妊娠		0000	LD9M	=:JA01.0	=:JA01.0		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1396448570	1 =	=	JA01.0	
35485	15 膈腔妊娠		0000	LD9M	=:JA01.0	=:JA01.0		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1396448570	1 =	=	JA01.0	
35486	15 卵管膨大部妊娠		0001	GGD4	=:JA01.1	=:JA01.1		1 =		http://id.who.int/icd/entity/913821868	1 =	=	JA01.1	
35487	15 卵管狭部妊娠		0001	HA45	=:JA01.1	=:JA01.1		1 =		http://id.who.int/icd/entity/913821868	1 =	=	JA01.1	A condition characterised by implantation of the embryo within the fallopian tube (ampullary, isthmus, interstitium) during pregnancy.
35488	15 卵管狭窄妊娠		0001	HA45	=:JA01.1	=:JA01.1		1 =		http://id.who.int/icd/entity/913821868	1 =	=	JA01.1	
35489	15 卵管妊娠破裂		0001	NMDL	=:JA01.1	=:JA01.1		1 =		http://id.who.int/icd/entity/913821868	1 =	=	JA01.1	Rupture of fallopian tube due to pregnancy
35490	15 卵管妊娠		0001	NCS	=:JA01.1	=:JA01.1		1 =		http://id.who.int/icd/entity/913821868	1 =	=	JA01.1	
35491	15 卵管間質部妊娠		0001	PN4J	=:JA01.1	=:JA01.1		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1560155880	1 <	<	JA01.Y	cornual pregnancy
35492	15 子宮卵管間質部妊娠		0001	PN4J	=:JA01.1	=:JA01.1		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1560155880	1 <	<	JA01.Y	
35493	15 卵管流産		0001	U52U	=:JA01.1	=:JA01.1		1 =		http://id.who.int/icd/entity/913821868	1 =	=	JA01.1	Tubal abortion
35494	15 卵巣妊娠		0002	HBR1	=:JA01.2	=:JA01.2		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1121615955	1 =	=	JA01.2	Ovarian pregnancy
35495	15 子宮頸管妊娠		0008	HF55	=:JA01.2	=:JA01.2		1 =		http://id.who.int/icd/entity/514389732	1 <	<	JA01.Y	Cervical pregnancy
35496	15 頸管妊娠		0008	HF55	=:JA01.2	=:JA01.2		1 =		http://id.who.int/icd/entity/514389732	1 <	<	JA01.Y	Cervical pregnancy pregnancy in cervix
35497	15 頸管妊娠		0008	HF55	=:JA01.2	=:JA01.2		1 =		http://id.who.int/icd/entity/514389732	1 <	<	JA01.Y	pregnancy uterine cervix
35498	15 子宮頸管妊娠		0008	HF55	=:JA01.2	=:JA01.2		1 =		http://id.who.int/icd/entity/514389732	1 <	<	JA01.Y	intrauterine pregnancy mural pregnancy
35499	15 子宮筋層内妊娠		0008	M5L0	=:JA01.2	=:JA01.2		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1759864548	1 =	=	JA01.Y	Pregnancy in broad ligament
35500	15 子宮広間膜内妊娠		0008	R41G	=:JA01.2	=:JA01.2		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1036098211	1 =	=	JA01.Y	Rudimentary horn pregnancy
35501	15 副角妊娠		0008	SGK1	=:JA01.2	=:JA01.2		1 =		http://id.who.int/icd/entity/42419141	1 <	<	JA01.Y	
35502	15 子宮副角妊娠		0008	SGK1	=:JA01.2	=:JA01.2		1 =		http://id.who.int/icd/entity/42419141	1 <	<	JA01.Y	
35503	15 副角子宮妊娠		0008	SGK1	=:JA01.2	=:JA01.2		1 =		http://id.who.int/icd/entity/42419141	1 <	<	JA01.Y	
35504	15 異所性妊娠		0009	RSVW	=:JA01.2	=:JA01.2		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1563334645	1 =	=	JA01.2	Ectopic pregnancy
35505	15 外妊		0009	RSVW	=:JA01.2	=:JA01.2		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1563334645	1 <	<	JA01.2	
35506	15 異所妊娠		0009	RSVW	=:JA01.2	=:JA01.2		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1563334645	1 <	<	JA01.2	
35507	15 子宮外妊娠		0009	RSVW	=:JA01.2	=:JA01.2		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1563334645	1 <	<	JA01.2	extruterine gestation or pregnancy extruterine pregnancy
35508	15 非侵入全奇胎		0010	D756	=:JA02.0	=:JA02.0		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1338299833	1 =	=	JA02.0	Complete hydatidiform mole
35509	15 胎児共存奇胎		0010	JDOK	=:JA02.0	=:JA02.0		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1338299833	1 =	=	JA02.0	「正常妊娠 + 全奇胎」から成る双胎
35510	15 全胞状奇胎		0010	VCDV	=:JA02.0	=:JA02.0		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1338299833	1 =	=	JA02.0	Complete hydatidiform mole
35511	15 全奇胎		0010	VCDV	=:JA02.0	=:JA02.0		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1338299833	1 =	=	JA02.0	
35512	15 非侵入部分奇胎		0011	DVC5	=:JA02.1	=:JA02.1		1 =		http://id.who.int/icd/entity/714020909	1 =	=	JA02.1	Incomplete or partial hydatidiform mole
35513	15 部分胞状奇胎		0011	KRBV	=:JA02.1	=:JA02.1		1 =		http://id.who.int/icd/entity/714020909	1 =	=	JA02.1	partial hydatidiform mole
35514	15 部分性胞状奇胎		0011	KRBV	=:JA02.1	=:JA02.1		1 =		http://id.who.int/icd/entity/714020909	1 =	=	JA02.1	

No	ICD10 標準病名章	代 表・ 同義	ICD10 コード	交換 コード	マッピング 情報 (旧)	マッピング 情報2022	病名と して現 代では 不適切	確 信 度	関 係	ICD11 Foundation URI	確 信 度	関 係	MMS	備 考
35515	15 部分奇胎	S1	O011	KRBV	=:JA02.1	=:JA02.1		1 =		http://id.who.int/icd/entity/714020909	1 =		JA02.1	
35516	15 絨毛性疾患	L	O019	C06J	下:JA02.Z	下:JA02.Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/946166369	1 <		JA02.Z	trophoblastic disease
35517	15 絨毛性腫瘍	S1	O019	C06J	下:JA02.Z	下:JA02.Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/946166369	1 <		JA02.Z	
35518	15 胎状奇胎	L	O019	RHG	下:JA02.Z	下:JA02.Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/946166369	1 <		JA02.Z	vesicular mole
35519	15 枯死卵	L	O020	RHM7	=:JA04	=:JA04		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1313043847	1 =		JA04	blighted ovum
35520	15 稽留流産	L	O021	MH2A	=:JA03	=:JA03		1 =		http://id.who.int/icd/entity/721991699	1 =		JA03	Missed abortion silent miscarriage missed miscarriage
35521	15 絨毛血管腫	L	O028	AESU	下:JA02	下:JA02		1 =		http://id.who.int/icd/entity/588453442	1 <		JA02	Chorioangioma
35522	15 胎盤血管腫	S1	O028	AESU	下:JA02	下:JA02		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1330705568	1 <		JA8A.1	placental anglioma
35523	15 絨毛膜血管腫	S1	O028	AESU	下:JA02	下:JA02		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1330705568	1 <		JA8A.1	
35524	15 塞栓症併発不全流産	L	O032	OK1R	=:JA00.02	=:JA00.02		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1130176621	1 =		JA00.02	Spontaneous abortion, incomplete, complicated by embolism
35525	15 不全流産	L	O034	U3CA	=:JA00.04	=:JA00.04		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1442348553	1 =		JA00.04	Spontaneous abortion, incomplete, without complication (胎芽あるいは胎児および附属物が完全に排出されず、一部が子宮内に残り、子宮が十分に収縮せず、子宮口も閉鎖しない、出血などの症状が持続している状態。)
35526	15 流産	L	O039	B2OC	下:JA00.0	=:JA00.09		1 =		http://id.who.int/icd/entity/2036729570	1 =		JA02	Abortion
35527	15 自然流産	L	O039	CEV	下:JA00.0	=:JA00.09		1 =		http://id.who.int/icd/entity/696502028	1 =		JA00.0	spontaneous miscarriage
35528	15 完全流産	L	O039	Q13S	下:JA00.0	=:JA00.09		1 =		http://id.who.int/icd/entity/964163142	1 =		JA00.09	Spontaneous abortion, complete or unspecified, without complication 胎芽あるいは胎児とその附属物が完全に排出された状態、完全流産の多くの場合、子宮は十分に収縮し、子宮口は閉鎖する。
35529	15 進行流産	L	O039	UEIB	下:JA00.0	=:JA00.09		1 =		http://id.who.int/icd/entity/964163142	1 =		JA00.09	Spontaneous abortion, complete or unspecified, without complication 胎芽あるいは胎児とその附属物が子宮外に排出されてきている状態、「完全流産」と「不全流産」にわけられる。
35530	15 進行性流産	S1	O039	UEIB	下:JA00.0	=:JA00.09		1 =		http://id.who.int/icd/entity/964163142	1 =		JA00.09	Induced abortion, incomplete, complicated by embolism
35531	15 塞栓症合併不全人工流産	L	O042	PV3P	下:JA00.12	下:JA00.12		1 =		http://id.who.int/icd/entity/2015645997	1 =		JA00.12	therapeutic abortion
35532	15 治療的流産	L	O049	DMQ	下:JA00.1	=:JA00.19		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1517114528	1 =		JA00.1	abortion induced for legal indications
35533	15 母胎保護法による人工妊娠中絶	S2	O049	DMQ	下:JA00.1	=:JA00.19		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1517114528	1 =		JA00.1	medical abortion
35534	15 医学的流産	S2	O049	DMQ	下:JA00.1	=:JA00.19		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1451039589	1 =		JA00.19	Induced abortion
35535	15 人工妊娠中絶	L	O049	ERF	下:JA00.1	=:JA00.19		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1451039589	1 =		JA00.19	
35536	15 人工流産	S1	O049	ERF	下:JA00.1	=:JA00.19		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1451039589	1 =		JA00.19	
35537	15 妊娠中絶	S2	O049	ERF	下:JA00.1	=:JA00.19		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1451039589	1 =		JA00.19	

No	ICD10 標準病名章	代 表・ 同義	ICD10 コード	交換 コード	マップ 情報 (旧)	マップ 情報2022	病名と して現 代では 不適切	確 信 度	関 係	ICD11 Foundation URI	確 信 度	関 係	MMS	備 考
35538	15 非医学的人工妊娠中絶	L	O059	KULF	=:JA00.39	上:JA00.19		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1517114528	1 =	=	JA00.1	Nonmedical induced abortion
35539	15 非合法的妊娠中絶	L	O059	N53V	=:JA00.39	上:JA00.19		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1517114528	1 =	=	JA00.1	Illegal abortion
35540	15 感染性流産	L	O068	P523	=:JA00.28	=:JA00.28		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/650231750	1 =	=	JA05.0	infective abortion NOS
35541	15 人工妊娠中絶の不成功	L	O074	HLCV	=:JA00.34	=:JA00.34		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/784335969	1 =	=	JA00.3	failure of attempted induction of abortion
35542	15 人工流産の不成功	S2	O074	HLCV	=:JA00.34	=:JA00.34		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/784335969	1 =	=	JA00.3	failure of attempted induction of abortion
35543	15 流産後卵巣炎	L	O080	BFN6	=:JA05.0	=:JA05.0		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/50436307/	1 <	=	JA05.0 / GA07.2	Salpingo-oophoritis following pregnancy with abortive outcome /卵巣炎
35544	15 流産後敗血症性ショック	L	O080	BLKM	=:JA05.0	=:JA05.0		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/650231750/	1 =	=	JA05.0/1G40	Genital tract or pelvic infection following abortion, ectopic or molar pregnancy / Sepsis without septic shock
35545	15 流産後子宮傍結合組織炎	L	O080	CD11	=:JA05.0	=:JA05.0		1 <	=	http://id.who.int/icd/entity/650231750	1 <	=	JA05.0	Genital tract or pelvic infection following abortion, ectopic or molar pregnancy
35546	15 流産後卵管炎	L	O080	GKIK	=:JA05.0	=:JA05.0		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1628929313	1 <	=	JA05.0 / GA07.2	Oophoritis following pregnancy with abortive outcome
35547	15 流産後子宮内膜炎	L	O080	K8PG	=:JA05.0	=:JA05.0		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/650231750/	1 <	=	JA05.0 / GA01.2	Genital tract or pelvic infection following abortion, ectopic or molar pregnancy / endometritis
35548	15 流産後卵管卵巣炎	L	O080	P25B	=:JA05.0	=:JA05.0		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/50436307	1 <	=	JA05.0	Salpingo-oophoritis following pregnancy with abortive outcome
35549	15 流産後卵管卵巣炎	S1	O080	P25B	=:JA05.0	=:JA05.0		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/50436307	1 <	=	JA05.0	Salpingo-oophoritis following pregnancy with abortive outcome
35550	15 流産後敗血症	L	O080	S0TH	=:JA05.0	=:JA05.0		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1486595936	1 <	=	JA05.0	Sepsis following abortion
35551	15 流産後DIC	L	O081	AUEN	=:JA05.1	=:JA05.1		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/539671670	1 <	=	JA05.1	Intravascular coagulation following pregnancy with abortive outcome
35552	15 流産後DIC	S0	O081	AUEN	=:JA05.1	=:JA05.1		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/539671670	1 <	=	JA05.1	Disseminated intravascular coagulation following pregnancy with abortive outcome
35553	15 流産後無フイブリノーゲン血症	L	O081	VOPM	=:JA05.1	=:JA05.1		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1727231880	1 <	=	JA05.1	Afibrinogenemia following pregnancy with abortive outcome
35554	15 流産後無尿	L	O084	ARKN	=:JA05.4	=:JA05.4		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/562199722/	1 =	=	JA05.4 / MF51	Renal failure following abortion, ectopic or molar pregnancy / Anuria
35555	15 流産後乏尿	L	O084	L4B9	=:JA05.4	=:JA05.4		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/438465102	1 <	=	JA05.4	Oliguria following pregnancy with abortive outcome
35556	15 流産後尿管細管壊死	L	O084	NCP1	=:JA05.4	=:JA05.4		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/312201574	1 <	=	JA05.4	Renal tubular necrosis following pregnancy with abortive outcome
35557	15 流産後尿毒症	L	O084	QUV2	=:JA05.4	=:JA05.4		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1397149747	1 <	=	JA05.4	Uræmia following pregnancy with abortive outcome
35558	15 妊娠・分娩・産褥の既存の本態性高血圧症	L	O100	QA8R	=:JA20.0	=:JA20.0		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1126579721	1 =	=	JA20.0	Pre-existing essential hypertension complicating pregnancy, childbirth or the puerperium
35559	15 妊娠・分娩・産褥の既存の高血圧性心疾患	L	O101	U281	=:JA20.1	=:JA20.1		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/644739997	1 =	=	JA20.1	Pre-existing hypertensive heart disease complicating pregnancy, childbirth or the puerperium

No	ICD10 標準病名章	標準病名	代 表・ 同義	ICD10 コード	交換 コード	マップ 情報 （旧）	マップ 情報2022	病名と して現 代では 不適切	確 信 度	関 係	ICD11 Foundation URI	確 信 度	関 係	MMS	備 考
35560	15	妊娠・分娩・産褥の既存の高血圧性腎疾患	L	O102	QV48	=:JA20.2	=:JA20.2		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1388356450	1 =		JA20.2	Pre-existing hypertensive renal disease complicating pregnancy, childbirth or the puerperium
35561	15	妊娠・分娩・産褥の既存の高血圧性心腎疾患	L	O103	UB6U	=:JA20.3	=:JA20.3		1 =		http://id.who.int/icd/entity/931884792	1 =		JA20.3	Pre-existing hypertensive heart and renal disease complicating pregnancy, childbirth or the puerperium
35562	15	妊娠・分娩・産褥の既存の二次性高血圧症	L	O104	J9B1	=:JA20.4	=:JA20.4		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1147534692	1 =		JA20.4	Pre-existing secondary hypertension complicating pregnancy, childbirth or the puerperium
35563	15	加重型妊娠高血圧腎症	L	O11	JH2G	=:JA21	=:JA21		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1872761464	1 =		JA21	Superimposed pre-eclampsia
35564	15	混合型妊娠高血圧症候群	S1	O11	JH2G	=:JA21	=:JA21		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1872761464	1 =		JA21	
35565	15	過重型妊娠高血圧腎症	S1	O11	JH2G	=:JA21	=:JA21		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1872761464	1 =		JA21	
35566	15	混合型妊娠中毒症	S1	O11	JH2G	=:JA21	=:JA21		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1872761464	1 =		JA21	
35567	15	妊娠浮腫	L	O120	A5BK	=:JA22.1	=:JA22.1		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1582913208	1 =		JA22.1	oedema of pregnancy
35568	15	妊娠蛋白尿	L	O121	TNGI	=:JA22.0	=:JA22.0		1 <		http://id.who.int/icd/entity/991075106	1 <		JA22	puerperal albuminuria
35569	15	妊娠中一過性高血圧症	L	O13	BIQ3	=:JA23	=:JA23		1 <		http://id.who.int/icd/entity/2118553363	1 <		JA23	Gestational hypertension
35570	15	妊娠高血圧症	L	O13	VELE	=:JA23	=:JA23		1 =		http://id.who.int/icd/entity/2118553363	1 =		JA23	Gestational hypertension
35571	15	軽症妊娠高血圧腎症	L	O140	CPQT	=:JA24.0	=:JA24.0		1 =		http://id.who.int/icd/entity/690705840	1 =		JA24.0	Mild pre-eclampsia
35572	15	軽度子癇前症	S1	O140	CPQT	=:JA24.0	=:JA24.0		1 =		http://id.who.int/icd/entity/690705840	1 =		JA24.0	
35573	15	軽症妊娠高血圧症候群	L	O140	ND4J	=:JA24.0	=:JA24.0		1 =		http://id.who.int/icd/entity/690705840	1 =		JA24.0	Mild to moderate pre-eclampsia
35574	15	軽症妊娠中毒症	S1	O140	ND4J	=:JA24.0	=:JA24.0		1 =		http://id.who.int/icd/entity/690705840	1 =		JA24.0	
35575	15	重症妊娠高血圧症候群	L	O141	BB6G	=:JA24.1	=:JA24.1		1 =		http://id.who.int/icd/entity/479404771	1 =		JA24.1	Severe pre-eclampsia
35576	15	重症妊娠中毒症	S1	O141	BB6G	=:JA24.1	=:JA24.1		1 =		http://id.who.int/icd/entity/479404771	1 =		JA24.1	
35577	15	妊娠高血圧症候群重症	S1	O141	BB6G	=:JA24.1	=:JA24.1		1 =		http://id.who.int/icd/entity/479404771	1 =		JA24.1	
35578	15	重症妊娠高血圧腎症	L	O141	RGB2	=:JA24.1	=:JA24.1		1 =		http://id.who.int/icd/entity/479404771	1 =		JA24.1	severe pre-eclamptic toxæmia severe PET - [pre-eclamptic toxæmia] Severe pre-eclampsia
35579	15	HELLP症候群	L	O142	G58R	=:JA24.2	=:JA24.2		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1748922908	1 =		JA24.2	HELLP syndrome
35580	15	HELLP症候群	S0	O142	G58R	=:JA24.2	=:JA24.2		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1748922908	1 =		JA24.2	
35581	15	へル子症候群	S1	O142	G58R	=:JA24.2	=:JA24.2		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1748922908	1 =		JA24.2	
35582	15	妊娠高血圧腎症	L	O149	B46A	下:JA24.Z	下:JA24.Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/229121159	1 =		JA24.Z	
35583	15	子癇前症	S1	O149	B46A	下:JA24.Z	下:JA24.Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/229121159	1 =		JA24.Z	
35584	15	早発型妊娠高血圧症候群	L	O149	F56K	下:JA24.Z	下:JA24.Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/2118553363	1 =		JA23 & XT2Q	Gestational hypertension & Early onset
35585	15	遅発型妊娠高血圧症候群	L	O149	MTU5	下:JA24.Z	下:JA24.Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1393648567	1 =		JA23 & XT3R	Gestational hypertension & Late onset
35586	15	後期妊娠中毒症	S1	O149	MTU5	下:JA24.Z	下:JA24.Z		1 <		http://id.who.int/icd/entity/1696606198	1 <		JA25.0 &	

No	ICD10 標準病名章	標準病名	代 表・ 同義	ICD10 コード	交換 コード	マップ 情報 (旧)	マップ 情報2022	病名と して現 代では 不適切	確 信 度	関 係	ICD11 Foundation URI	確 信 度	関 係	MMS	備 考
35587	15	晩期妊娠中毒	S1	O149	MTU5	下:JA24.Z	下:JA24.Z		1 <		http://id.who.int/icd/entity/1696606198	1 <	JA25.0 &		妊娠初期とは、妊娠0週0日から妊娠15週6日まで 妊娠中期とは、妊娠16週0日から妊娠27週6日まで 妊娠後期とは妊娠28週0日から妊娠39週6日まで 日本の晩期を表現できない XT41 妊娠期間 26-33 週 XT84 妊娠期間 34-36 週 XT6G 36週以上の妊娠期間
35588	15	妊娠高血圧症候群	L	O149	PSDA	下:JA24.Z	下:JA24.Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/2118553363	1 =	JA23		Gestational hypertension NOS
35589	15	純粋型妊娠中毒症	S1	O149	PSDA	下:JA24.Z	下:JA24.Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1696606198	1 =	JA25.0		
35590	15	純粋型妊娠高血圧症候群	S1	O149	PSDA	下:JA24.Z	下:JA24.Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1696606198	1 =	JA25.0		
35591	15	妊娠中毒症	S1	O149	PSDA	下:JA24.Z	下:JA24.Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1696606198	1 =	JA25.0		
35592	15	妊娠子癇	L	O150	EJUF	=:JA25.0	=:JA25.0		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1696606198	1 =	JA25.0		
35593	15	分娩子癇	L	O151	CGR7	=:JA25.1	=:JA25.1		1 =		http://id.who.int/icd/entity/7072356	1 =	JA25.1		
35594	15	産褥子癇	L	O152	SEJ9	=:JA25.2	=:JA25.2		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1959180957	1 =	JA25.2		
35595	15	子癇	L	O159	LAQM	=:JA25.3	=:JA25.3		1 =		http://id.who.int/icd/entity/250375350	1 =	JA25.3		
35596	15	子癇発作	L	O159	PA1N	=:JA25.3	=:JA25.3		1 <		http://id.who.int/icd/entity/250375350	1 <	JA25.3		Eclampsia, time period unspecified
35597	15	産後高血圧症	L	O16	F5E1	下:JA2Z	下:JA2Z		1 <		http://id.who.int/icd/entity/1042184245	1 <	JA2Z		Oedema, proteinuria, or hypertensive disorders in pregnancy, childbirth, or the puerperium, unspecified
35598	15	切迫流産	L	O200	NA68	=:JA40.0	=:JA40.0		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1929927516	1 =	JA40.0		Threatened abortion threatened miscarriage
35599	15	絨毛膜下血腫	L	O208	S9T7	下:JA40	下:JA40.Z		1 <		http://id.who.int/icd/entity/224131129	1 <	JA40.Z		Haemorrhage in early pregnancy, unspecified
35600	15	妊娠初期の出血	L	O209	DR8J	下:JA40	下:JA40.Z		1 <		http://id.who.int/icd/entity/224131129	1 <	JA40.Z		Haemorrhage in early pregnancy, unspecified
35601	15	軽症妊娠悪阻	L	O210	C68A	=:JA60.0	=:JA60.0		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1878037467	1 =	JA60.0		Mild hyperemesis gravidarum
35602	15	悪阻	L	O210	NOK7	=:JA60.0	=:JA60.0		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1878037467	1 =	JA60.0		hyperemesis gravidarum NOS
35603	15	つわり	S1	O210	NOK7	=:JA60.0	=:JA60.0		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1878037467	1 =	JA60.0		hyperemesis
35604	15	妊娠悪阻	S1	O210	NOK7	=:JA60.0	=:JA60.0		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1878037467	1 =	JA60.0		hyperemesis
35605	15	妊娠嘔吐	S1	O210	NOK7	=:JA60.0	=:JA60.0		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1878037467	1 =	JA60.0		
35606	15	婦人悪阻	S1	O210	NOK7	=:JA60.0	=:JA60.0		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1878037467	1 =	JA60.0		
35607	15	脱水を伴う妊娠悪阻	L	O211	BK41	=:JA60.1	=:JA60.1		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1924579879	1 <	JA60.1 /587Y		Hyperemesis gravidarum with dehydration
35608	15	ビタミン不足症を伴う妊娠悪阻	L	O211	CGB5	=:JA60.1	=:JA60.1		1 =		http://id.who.int/icd/entity/180051535/ http://id.who.int/icd/entity/1927722434	1 =	JA60.1 /587Y		Hyperemesis gravidarum with metabolic disturbance / Vitamin deficiencies
35609	15	ビタミン不足症を伴う妊娠悪阻	S1	O211	CGB5	=:JA60.1	=:JA60.1		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1927722434	1 =	JA60.1 /587Y		

標準病名のICD-11コーディング作業結果

～ 第16章 標準病名 ～

(5 ページのみ抜粋)

No	ICD10 標準病名	代表・同義	ICD10 コード	交換コード	マッピング情報(旧)	マッピング情報2022	病名とマッピング情報2022との相違	確信度	関係	ICD11 Foundation URI	確信度	関係	MMS	備考
36400	16 高血圧性腫瘍のある母体より出生した児		P000	GIAT	=K:A00.0	=K:A00.0		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/691510326	1 =	1 =	KA00.0	Fetus or newborn affected by maternal hypertensive disorders
36401	16 B型肝炎ウイルス感染母体より出生した児		P002	AP7Q	=K:A00.3	=K:A00.3		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/953221469&http://id.who.int/icd/entity/592762674	1 =	1 =	KA00.3 & XN0GA	Fetus or newborn affected by maternal infectious diseases/K:A00.3 「母体の感染症により影響を受けた胎児または新生児」 「Hepatitis B virus (B型肝炎ウイルス)」 + XN0GA Hepatitis B virus
36402	16 B型肝炎ウイルス感染母体より出生した児		P002	AP7Q	=K:A00.3	=K:A00.3		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/953221469&http://id.who.int/icd/entity/592762674	1 =	1 =	KA00.3 & XN0GA	
36403	16 HBV感染母体より出生した児		P002	AP7Q	=K:A00.3	=K:A00.3		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/953221469&http://id.who.int/icd/entity/592762674	1 =	1 =	KA00.3 & XN0GA	
36404	16 HBV感染母体より出生した児		P002	AP7Q	=K:A00.3	=K:A00.3		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/953221469&http://id.who.int/icd/entity/592762674	1 =	1 =	KA00.3 & XN0GA	
36405	16 B型肝炎ウイルス感染母体より出生した児		P002	AP7Q	=K:A00.3	=K:A00.3		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/953221469&http://id.who.int/icd/entity/592762674	1 =	1 =	KA00.3 & XN0GA	
36406	16 ヒトパルボウイルスB19感染母体より出生した児		P002	B74A	=K:A00.3	=K:A00.3		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/953221469&http://id.who.int/icd/entity/3527375140	1 =	1 =	KA00.3 / F04	Fetus or newborn affected by maternal infectious diseases/K:A00.3 「母体の感染症により影響を受けた胎児または新生児」 「(Human) Parvovirus B19 infection (ヒトパルボウイルスB19)」 + 1F04 Erythema infectiosum (index termにある)
36407	16 ヒトパルボウイルスB19感染母体より出生した児		P002	B74A	=K:A00.3	=K:A00.3		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/953221469&http://id.who.int/icd/entity/3527375140	1 =	1 =	KA00.3 / F04	
36408	16 ヒトパルボウイルスB19感染母体より出生した児		P002	B74A	=K:A00.3	=K:A00.3		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/953221469&http://id.who.int/icd/entity/3527375140	1 =	1 =	KA00.3 / F04	
36409	16 成人T細胞白血病ウイルス感染母体より出生した児		P002	B5SE	=K:A00.3	=K:A00.3		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/953221469&http://id.who.int/icd/entity/430573082	1 =	1 =	KA00.3 & XH6TEZ	Fetus or newborn affected by maternal infectious diseases/K:A00.3 「母体の感染症により影響を受けた胎児または新生児」 「Adult T-cell leukaemia (成人T細胞白血病)」 + XH6TEZ Adult T-cell leukaemia/lymphoma (HTLV-1 positive)
36410	16 成人T細胞白血病ウイルス感染母体より出生した児		P002	B5SE	=K:A00.3	=K:A00.3		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/953221469&http://id.who.int/icd/entity/430573082	1 =	1 =	KA00.3 & XH6TEZ	
36411	16 ATLウイルス感染母体より出生した児		P002	B5SE	=K:A00.3	=K:A00.3		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/953221469&http://id.who.int/icd/entity/430573082	1 =	1 =	KA00.3 & XH6TEZ	
36412	16 HTLV-1感染母体より出生した児		P002	B5SE	=K:A00.3	=K:A00.3		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/953221469&http://id.who.int/icd/entity/430573082	1 =	1 =	KA00.3 & XH6TEZ	
36413	16 HTLV-1感染母体より出生した児		P002	B5SE	=K:A00.3	=K:A00.3		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/953221469&http://id.who.int/icd/entity/430573082	1 =	1 =	KA00.3 & XH6TEZ	
36414	16 成人T細胞白血病ウイルス感染母体より出生した児		P002	B5SE	=K:A00.3	=K:A00.3		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/953221469&http://id.who.int/icd/entity/430573082	1 =	1 =	KA00.3 & XH6TEZ	
36415	16 HTLV感染母体より出生した児		P002	B5SE	=K:A00.3	=K:A00.3		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/953221469&http://id.who.int/icd/entity/430573082	1 =	1 =	KA00.3 & XH6TEZ	
36416	16 ATLウイルス感染母体より出生した児		P002	B5SE	=K:A00.3	=K:A00.3		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/953221469&http://id.who.int/icd/entity/430573082	1 =	1 =	KA00.3 & XH6TEZ	
36417	16 HTLV感染母体より出生した児		P002	B5SE	=K:A00.3	=K:A00.3		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/953221469&http://id.who.int/icd/entity/430573082	1 =	1 =	KA00.3 & XH6TEZ	
36418	16 真菌感染母体より出生した児		P002	C2UC	=K:A00.3	=K:A00.3		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/953221469&http://id.who.int/icd/entity/1939815950	1 =	1 =	KA00.3 / F1ZZ	Fetus or newborn affected by maternal infectious diseases/K:A00.3 「母体の感染症により影響を受けた胎児または新生児」 「Mycosis (真菌)」 + F1ZZ Mycoses, unspecified (all index termにある)
36419	16 真菌感染母体より出生した児		P002	C2UC	=K:A00.3	=K:A00.3		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/953221469&http://id.who.int/icd/entity/1939815950	1 =	1 =	KA00.3 / F1ZZ	
36420	16 水痘・帯状疱疹ウイルス感染母体より出生した児		P002	C1TQ	=K:A00.3	=K:A00.3		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/953221469&http://id.who.int/icd/entity/213097968	1 =	1 =	KA00.3 & XN07A	Fetus or newborn affected by maternal infectious diseases/K:A00.3 「母体の感染症により影響を受けた胎児または新生児」 「Varicella Zoster virus (水痘・帯状疱疹ウイルス)」 + XN07A Varicella zoster virus
36421	16 水痘・帯状疱疹ウイルス母体より出生した児		P002	C1TQ	=K:A00.3	=K:A00.3		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/953221469&http://id.who.int/icd/entity/213097968	1 =	1 =	KA00.3 & XN07A	
36422	16 水痘・帯状疱疹ウイルス妊婦より出生した児		P002	C1TQ	=K:A00.3	=K:A00.3		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/953221469&http://id.who.int/icd/entity/213097968	1 =	1 =	KA00.3 & XN07A	
36423	16 サイトメガロウイルス感染母体より出生した児		P002	DQF2	=K:A00.3	=K:A00.3		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/953221469&http://id.who.int/icd/entity/1786174656	1 =	1 =	KA00.3 & XN35Q	Fetus or newborn affected by maternal infectious diseases/K:A00.3 「母体の感染症により影響を受けた胎児または新生児」 「Cytomegalovirus (サイトメガロウイルス)」 + XN35Q Cytomegalovirus

No	ICD10 章	標準病名	代表・同義	ICD10 コード	交換コード	マッピング情報(旧)	マッピング情報2022	病名として規定不適切	確信度	関係	ICD11 Foundation URI	確信度	関係	MMS	備考
36424	16	サイトメガロウイルス感染妊婦より出生した児		P002	DQF2	=:KA00.3	=:KA00.3		1 =		http://id.who.int/icd/entity/953221469 & http://id.who.int/icd/entity/1786174656	1 =		KA00.3 & XN35Q	Fetus or newborn affected by maternal infectious diseases/KA00.3
36425	16	ヒトパピローウイルス感染母体より出生した児		P002	E51Q	=:KA00.3	=:KA00.3		1 =		http://id.who.int/icd/entity/953221469 & http://id.who.int/icd/entity/871564532	1 =		KA00.3 & XN81Y	Fetus of the infection by maternal infectious diseases/KA00.3 「Human papillomavirus (ヒトパピローウイルス)」 + XN81Y Human papillomavirus
36426	16	HPV感染母体より出生した児		P002	E51Q	=:KA00.3	=:KA00.3		1 =		http://id.who.int/icd/entity/953221469 & http://id.who.int/icd/entity/871564532	1 =		KA00.3 & XN81Y	ヒトパピローウイルス (HPV)
36427	16	ヒトパピローウイルス感染妊婦より出生した児		P002	E51Q	=:KA00.3	=:KA00.3		1 =		http://id.who.int/icd/entity/953221469 & http://id.who.int/icd/entity/871564532	1 =		KA00.3 & XN81Y	Fetus or newborn affected by maternal infectious diseases/KA00.3
36428	16	HPV感染妊婦より出生した児		P002	E51Q	=:KA00.3	=:KA00.3		1 =		http://id.who.int/icd/entity/953221469 & http://id.who.int/icd/entity/871564532	1 =		KA00.3 & XN81Y	Syphilis complicating pregnancy, childbirth or puerperium, affecting fetus or newborn (胎児または新生児に影響を与える、妊娠、分娩もしくは産後)に合併する梅毒 ⇒index term における
36429	16	梅毒感染母体より出生した児		P002	F4GD	=:KA00.3	=:KA00.3		1 =		http://id.who.int/icd/entity/33279384	1 <		KA00.3	
36430	16	梅毒感染妊婦より出生した児		P002	F4GD	=:KA00.3	=:KA00.3		1 =		http://id.who.int/icd/entity/33279384	1 <		KA00.3	Fetus or newborn affected by maternal infectious diseases/KA00.3
36431	16	カンジタ感染母体より出生した児		P002	H2AT	=:KA00.3	=:KA00.3		1 =		http://id.who.int/icd/entity/953221469 / http://id.who.int/icd/entity/2055968951	1 =		KA00.3 / 1F23	Fetus of the infection by maternal infectious diseases/KA00.3 「Candidosis (カンジタ)」 + 1F23 Candidosis
36432	16	カンジタ感染妊婦より出生した児		P002	H2AT	=:KA00.3	=:KA00.3		1 =		http://id.who.int/icd/entity/953221469 / http://id.who.int/icd/entity/2055968951	1 =		KA00.3 / 1F23	Fetus or newborn affected by maternal infectious diseases/KA00.3
36433	16	H1V感染母体より出生した児		P002	H93	=:KA00.3	=:KA00.3		1 =		http://id.who.int/icd/entity/953221469 & http://id.who.int/icd/entity/779750023	1 =		KA00.3 & XN487	Fetus of the infection by maternal infectious diseases/KA00.3 「HIV (H I V)」 + XN487 Human immunodeficiency virus
36434	16	HIV感染母体より出生した児		P002	H93	=:KA00.3	=:KA00.3		1 =		http://id.who.int/icd/entity/953221469 & http://id.who.int/icd/entity/779750023	1 =		KA00.3 & XN487	
36435	16	HIV感染妊婦より出生した児		P002	H93	=:KA00.3	=:KA00.3		1 =		http://id.who.int/icd/entity/953221469 & http://id.who.int/icd/entity/779750023	1 =		KA00.3 & XN487	
36436	16	ヒト免疫不全ウイルス感染妊婦より出生した児		P002	H93	=:KA00.3	=:KA00.3		1 =		http://id.who.int/icd/entity/953221469 & http://id.who.int/icd/entity/779750023	1 =		KA00.3 & XN487	
36437	16	ヒト免疫不全ウイルス感染母体より出生した児		P002	H93	=:KA00.3	=:KA00.3		1 =		http://id.who.int/icd/entity/953221469 & http://id.who.int/icd/entity/779750023	1 =		KA00.3 & XN487	
36438	16	ヒト免疫不全ウイルス感染母体より出生した児		P002	H93	=:KA00.3	=:KA00.3		1 =		http://id.who.int/icd/entity/953221469 & http://id.who.int/icd/entity/779750023	1 =		KA00.3 & XN487	
36439	16	ヒト免疫不全ウイルス感染母体より出生した児		P002	H93	=:KA00.3	=:KA00.3		1 =		http://id.who.int/icd/entity/953221469 & http://id.who.int/icd/entity/779750023	1 =		KA00.3 & XN487	
36440	16	単純ヘルペスウイルス感染母体より出生した児		P002	JBET	=:KA00.3	=:KA00.3		1 =		http://id.who.int/icd/entity/953221469 & http://id.who.int/icd/entity/1399966925 & http://id.who.int/icd/entity/1228337687	1 =		KA00.3 & XN41T & XN5V1	KA00.3Fetus or newborn affected by maternal infectious diseases/KA00.3 (母体の感染症により影響を受けた胎児または新生児) 「Herpes simplex virus (単純ヘルペスウイルス)」単独ヘルペスウイルス又は、1と2があるの、両方を付加
36441	16	単純ヘルペスウイルス感染妊婦より出生した児		P002	JBET	=:KA00.3	=:KA00.3		1 =		http://id.who.int/icd/entity/953221469 & http://id.who.int/icd/entity/1399966925 & http://id.who.int/icd/entity/1228337687	1 =		KA00.3 & XN41T & XN5V1	
36442	16	風疹ウイルス感染母体より出生した児		P002	KQFT	=:KA00.3	=:KA00.3		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1410567029	1 <		KA00.3	Fetus or newborn affected by maternal infectious diseases/KA00.3 (母体の感染症により影響を受けた胎児または新生児) 「Rubella virus (風疹ウイルス)」 + XN2WF Rubella virus → Maternal rubella affecting fetus or newborn (胎児または新生児に影響を与える母体の風疹) MMSは Maternal rubella affecting fetus or newborn ⇒
36443	16	風疹ウイルス感染妊婦より出生した児		P002	KQFT	=:KA00.3	=:KA00.3		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1410567029	1 <		KA00.3	
36444	16	日群溶連菌感染母体より出生した児		P002	LHJF	=:KA00.3	=:KA00.3		1 =		http://id.who.int/icd/entity/953221469 & http://id.who.int/icd/entity/942223947	1 =		KA00.3 & XN2W1	Fetus or newborn affected by maternal infectious diseases/KA00.3 (母体の感染症により影響を受けた胎児または新生児) 「Streptococcal infection, Group B (日群溶連菌感染症)」 + XN2W1 Streptococcus, group B

No	ICD10 章	標準病名	代表・同義	ICD10 コード	交換コード	マッピング情報(旧)	マッピング情報2022	病名として規定されていない	確信度	確信関係	ICD11 Foundation URI	確信度	確信関係	MMS	備考
36445	16	B群溶連菌感染母体より出生した児		P002	LHIF	=KA00.3	=KA00.3		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/953221469 & http://id.who.int/icd/entity/942223947	1 =	1 =	KA00.3 & XN2M1	
36446	16	B群溶血性連鎖球菌感染母体より出生した児		P002	LHIF	=KA00.3	=KA00.3		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/953221469 & http://id.who.int/icd/entity/942223947	1 =	1 =	KA00.3 & XN2M1	
36447	16	G8S感染母体より出生した児		P002	LHIF	=KA00.3	=KA00.3		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/953221469 & http://id.who.int/icd/entity/942223947	1 =	1 =	KA00.3 & XN2M1	
36448	16	B群溶血性連鎖球菌感染母体より出生した児		P002	LHIF	=KA00.3	=KA00.3		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/953221469 & http://id.who.int/icd/entity/942223947	1 =	1 =	KA00.3 & XN2M1	
36449	16	B群溶血性連鎖球菌感染母体より出生した児		P002	LHIF	=KA00.3	=KA00.3		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/953221469 & http://id.who.int/icd/entity/942223947	1 =	1 =	KA00.3 & XN2M1	
36450	16	G8S感染母体より出生した児		P002	LHIF	=KA00.3	=KA00.3		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/953221469 & http://id.who.int/icd/entity/942223947	1 =	1 =	KA00.3 & XN2M1	
36451	16	大腸菌感染母体より出生した児		P002	PT56	=KA00.3	=KA00.3		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/953221469 & http://id.who.int/icd/entity/129209202	1 =	1 =	KA00.3 & XN6P4	Fetus or newborn affected by maternal infectious diseases (母体の感染症により影響を受けた胎児または新生児) 「Escherchia coli (大腸菌)」 + XN6P4 Escherchia coli
36452	16	大腸菌感染母体より出生した児		P002	PT56	=KA00.3	=KA00.3		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/953221469 & http://id.who.int/icd/entity/129209202	1 =	1 =	KA00.3 & XN6P4	Fetus or newborn affected by maternal infectious diseases (母体の感染症により影響を受けた胎児または新生児) 「Coxsackievirus (コクサッキーウイルス)」 + XN3MC Coxsackievirus
36453	16	コクサッキーウイルス感染母体より出生した児		P002	QPUF	=KA00.3	=KA00.3		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/953221469 & http://id.who.int/icd/entity/110725874	1 =	1 =	KA00.3 & XN3MC	Fetus or newborn affected by maternal infectious diseases (母体の感染症により影響を受けた胎児または新生児) 「Tokoplasma (トキソプラズマ)」 + XN7HC Tokoplasma
36454	16	コクサッキーウイルス感染母体より出生した児		P002	QPUF	=KA00.3	=KA00.3		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/953221469 & http://id.who.int/icd/entity/110725874	1 =	1 =	KA00.3 & XN3MC	Fetus or newborn affected by maternal infectious diseases (母体の感染症により影響を受けた胎児または新生児) 「Tokoplasma (トキソプラズマ)」 + XN7HC Tokoplasma
36455	16	トキソプラズマ感染母体より出生した児		P002	RIS9	=KA00.3	=KA00.3		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/953221469 & http://id.who.int/icd/entity/13484522	1 =	1 =	KA00.3 & XN7HC	Fetus or newborn affected by maternal infectious diseases (母体の感染症により影響を受けた胎児または新生児) 「Chlamydia trachomatis (クラミジアトラコマティス)」 + XN4Q4 Chlamydia trachomatis
36456	16	トキソプラズマ感染母体より出生した児		P002	RIS9	=KA00.3	=KA00.3		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/953221469 & http://id.who.int/icd/entity/13484522	1 =	1 =	KA00.3 & XN7HC	Fetus or newborn affected by maternal infectious diseases (母体の感染症により影響を受けた胎児または新生児) 「Chlamydia trachomatis (クラミジアトラコマティス)」 + XN4Q4 Chlamydia trachomatis
36457	16	クラミジア感染母体より出生した児		P002	SSOU	=KA00.3	=KA00.3		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/953221469 & http://id.who.int/icd/entity/1065383727	1 =	1 =	KA00.3 & XN27H	Fetus or newborn affected by maternal infectious diseases (母体の感染症により影響を受けた胎児または新生児) 「Chlamydia (クラミジア)」 は入っていない + XN27H Chlamydia
36458	16	クラミジア感染母体より出生した児		P002	SSOU	=KA00.3	=KA00.3		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/953221469 & http://id.who.int/icd/entity/1526491884	1 =	1 =	KA00.3 & XN4Q4	Fetus or newborn affected by maternal infectious diseases (母体の感染症により影響を受けた胎児または新生児) 「Chlamydia trachomatis (クラミジアトラコマティス)」 + XN4Q4 Chlamydia trachomatis
36459	16	クラミジア・トラコマティス感染母体より出生した児		P002	SSOU	=KA00.3	=KA00.3		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/953221469 & http://id.who.int/icd/entity/1526491884	1 =	1 =	KA00.3 & XN4Q4	Fetus or newborn affected by maternal infectious diseases (母体の感染症により影響を受けた胎児または新生児) 「Chlamydia trachomatis (クラミジアトラコマティス)」 + XN4Q4 Chlamydia trachomatis
36460	16	クラミジア感染母体より出生した児		P002	SSOU	=KA00.3	=KA00.3		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/953221469 & http://id.who.int/icd/entity/1065383727	1 =	1 =	KA00.3 & XN27H	Fetus or newborn affected by maternal infectious diseases (母体の感染症により影響を受けた胎児または新生児) 「Chlamydia (クラミジア)」 は入っていない + XN27H Chlamydia
36461	16	トキソプラズマ感染母体より出生した児		P002	SSOU	=KA00.3	=KA00.3		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/953221469 & http://id.who.int/icd/entity/1526491884	1 =	1 =	KA00.3 & XN4Q4	Fetus or newborn affected by maternal infectious diseases (母体の感染症により影響を受けた胎児または新生児) 「Chlamydia trachomatis (クラミジアトラコマティス)」 + XN4Q4 Chlamydia trachomatis
36462	16	クラミジア・トラコマティス感染母体より出生した児		P002	SSOU	=KA00.3	=KA00.3		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/953221469 & http://id.who.int/icd/entity/1526491884	1 =	1 =	KA00.3 & XN4Q4	Fetus or newborn affected by maternal infectious diseases (母体の感染症により影響を受けた胎児または新生児) 「Chlamydia trachomatis (クラミジアトラコマティス)」 + XN4Q4 Chlamydia trachomatis
36463	16	トキソプラズマ感染母体より出生した児		P002	SSOU	=KA00.3	=KA00.3		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/953221469 & http://id.who.int/icd/entity/1526491884	1 =	1 =	KA00.3 & XN4Q4	Fetus or newborn affected by maternal infectious diseases (母体の感染症により影響を受けた胎児または新生児) 「Chlamydia trachomatis (クラミジアトラコマティス)」 + XN4Q4 Chlamydia trachomatis
36464	16	クラミジア・トラコマティス感染母体より出生した児		P002	SSOU	=KA00.3	=KA00.3		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/953221469 & http://id.who.int/icd/entity/1526491884	1 =	1 =	KA00.3 & XN4Q4	Fetus or newborn affected by maternal infectious diseases (母体の感染症により影響を受けた胎児または新生児) 「Chlamydia trachomatis (クラミジアトラコマティス)」 + XN4Q4 Chlamydia trachomatis
36465	16	C型肝炎ウイルス感染母体より出生した児		P002	VHLP	=KA00.3	=KA00.3		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/953221469 & http://id.who.int/icd/entity/1932463745	1 =	1 =	KA00.3 & XN1EZ	Fetus or newborn affected by maternal infectious diseases (母体の感染症により影響を受けた胎児または新生児) 「Hepatitis C virus (C型肝炎ウイルス)」 + XN1EZ Hepatitis C virus
36466	16	C型肝炎ウイルス感染母体より出生した児		P002	VHLP	=KA00.3	=KA00.3		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/953221469 & http://id.who.int/icd/entity/1932463745	1 =	1 =	KA00.3 & XN1EZ	Fetus or newborn affected by maternal infectious diseases (母体の感染症により影響を受けた胎児または新生児) 「Hepatitis C virus (C型肝炎ウイルス)」 + XN1EZ Hepatitis C virus
36467	16	HCV感染母体より出生した児		P002	VHLP	=KA00.3	=KA00.3		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/953221469 & http://id.who.int/icd/entity/1932463745	1 =	1 =	KA00.3 & XN1EZ	Fetus or newborn affected by maternal infectious diseases (母体の感染症により影響を受けた胎児または新生児) 「Hepatitis C virus (C型肝炎ウイルス)」 + XN1EZ Hepatitis C virus
36468	16	C型肝炎ウイルス感染母体より出生した児		P002	VHLP	=KA00.3	=KA00.3		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/953221469 & http://id.who.int/icd/entity/1932463745	1 =	1 =	KA00.3 & XN1EZ	Fetus or newborn affected by maternal infectious diseases (母体の感染症により影響を受けた胎児または新生児) 「Hepatitis C virus (C型肝炎ウイルス)」 + XN1EZ Hepatitis C virus
36469	16	HCV感染母体より出生した児		P002	VHLP	=KA00.3	=KA00.3		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/953221469 & http://id.who.int/icd/entity/1932463745	1 =	1 =	KA00.3 & XN1EZ	Fetus or newborn affected by maternal infectious diseases (母体の感染症により影響を受けた胎児または新生児) 「Hepatitis C virus (C型肝炎ウイルス)」 + XN1EZ Hepatitis C virus

No	ICD10 標準病名	代 表・ 同義	ICD10 コード	交換 コード	マツビツ情報 報(旧)	マツビツ情報 報2022	病名と して規 代では 不適切	確 信 度	確 信 関 係	ICD11 Foundation URI	確 信 度	確 信 関 係	MMS	備 考
36470	16 新生児ルーナス	L	P008	AU9L	下:KA00.2	下:KA00.2		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/213855225	1 =	<	KA07.0	KA07.0 Neonatal lupus erythematosus
36471	16 皮膚筋炎母体より出生した児	L	P008	BKUJ	下:KA00.2	下:KA00.2		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/128908879/ http://id.who.int/icd/entity/739030149	1 =	<	KA00 / 4A41.0	Foetus or newborn affected by unspecified maternal condition that may be unrelated to present pregnancy/KA00.Y 皮膚筋炎： Dermatomyositis + 4A41.0 Dermatomyositis
36472	16 皮膚筋炎母体児	S1	P008	BKUJ	下:KA00.2	下:KA00.2		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/128908879/ http://id.who.int/icd/entity/739030149	1 =	=	KA00 / 4A41.0	
36473	16 /セドツ病母体児	L	P008	K32G	下:KA00.2	下:KA00.2		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/128908879/ http://id.who.int/icd/entity/713028385	1 =	<	KA00 / 5A02.0	Foetus or newborn affected by unspecified maternal condition that may be unrelated to present pregnancy/KA00.Y /セドツ病： Basedow disease + 5A02.0 Thyrotoxicosis with diffuse goitre (Index term にある)
36474	16 ダリエー病母体より出生した児	L	P008	LSKF	下:KA00.2	下:KA00.2		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/128908879/ http://id.who.int/icd/entity/643994486	1 =	<	KA00 / EC20.2	unrelated to present pregnancy/KA00.Y (現在の妊娠とは無関係の場合もありうる詳細不明の母体の病態により影響を受けた胎児または新生児) ダリエー病： Darier's disease + EC20.2 Hereditary acantholytic dermatoses (Index term にある)
36475	16 DARIER病母体より出生した児	S1	P008	LSKF	下:KA00.2	下:KA00.2		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/128908879/ http://id.who.int/icd/entity/643994486	1 =	<	KA00 / EC20.2	
36476	16 DARIER病妊婦より出生した児	S1	P008	LSKF	下:KA00.2	下:KA00.2		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/128908879/ http://id.who.int/icd/entity/643994486	1 =	<	KA00 / EC20.2	unrelated to present pregnancy/KA00.Y (現在の妊娠とは無関係の場合もありうる詳細不明の母体の病態により影響を受けた胎児または新生児)
36477	16 ダリエー病妊婦より出生した児	S1	P008	LSKF	下:KA00.2	下:KA00.2		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/128908879/ http://id.who.int/icd/entity/643994486	1 =	<	KA00 / EC20.2	http://id.who.int/icd/entity/128908879/ http://id.who.int/icd/entity/749596428 Foetus or newborn affected by unspecified maternal condition that may be unrelated to present pregnancy/KA00.Y SLE： Systemic lupus erythematosus + 4A40.0 Systemic lupus erythematosus → SLE： systemic lupus erythematosus Foetus or newborn affected by maternal systemic lupus erythematosus (母性全身性エリテマトーデスの影響を受けた胎児または新生児⇒) に変更した
36478	16 S L E 母体児	L	P008	QN4T	下:KA00.2	下:KA00.2		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/531589442	1 =	<	KA00.Y	
36479	16 SLE母体児	S0	P008	QN4T	下:KA00.2	下:KA00.2		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/531589442	1 =	<	KA00.Y	Foetus or newborn affected by unspecified maternal condition that may be unrelated to present pregnancy/KA00.Y
36480	16 橋本病母体より出生した児	L	P008	TVFV	下:KA00.2	下:KA00.2		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/128908879/ http://id.who.int/icd/entity/972507934	1 =	<	KA00 / 5A03.20	橋本病： Hashimoto disease + 5A03.20 Hashimoto thyroiditis (Index term にある) / 除外欄の fetus and newborn affected by maternal endocrine and metabolic disorders ⇒は Transitory endocrine or metabolic disorders specific to fetus or newborn となるのでこれより変更した
36481	16 橋本病母体児	S1	P008	TVFV	下:KA00.2	下:KA00.2		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/128908879/ http://id.who.int/icd/entity/972507934	1 =	<	KA00 / 5A03.20	
36482	16 関節リウマチ母体より出生した児	L	P008	U97K	下:KA00.2	下:KA00.2		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/128908879/ http://id.who.int/icd/entity/576319925	1 =	<	KA00 / FA20	Foetus or newborn affected by unspecified maternal condition that may be unrelated to present pregnancy/KA00.Y 関節リウマチ： Rheumatoid arthritis + FA20 Rheumatoid arthritis
36483	16 関節リウマチ母体児	S1	P008	U97K	下:KA00.2	下:KA00.2		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/128908879/ http://id.who.int/icd/entity/576319925	1 =	<	KA00 / FA20	
36484	16 前置破水による新生児の障害	L	P011	GTTV	≒KA01.1	≒KA01.1		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1350867235	1 =	=	KA01.1	Fetus or newborn affected by premature rupture of membranes/KA01.1
36485	16 前置破水による胎児の障害	L	P011	TFDM	≒KA01.1	≒KA01.1		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1350867235	1 =	=	KA01.1	
36486	16 胎児腹膜炎	L	P014	J1AV	≒KA01.4	≒KA01.4		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/848074718	1 =	=	KA01.4	Fetus or newborn affected by ectopic pregnancy/ (子宮外妊娠により影響を受けた胎児または新生児) 腹膜炎： Abdominal pregnancy /KA01.4 の包含
36487	16 胎児腹膜炎	S1	P014	J1AV	≒KA01.4	≒KA01.4		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/848074718	1 =	=	KA01.4	
36488	16 三胎妊娠胎児	L	P015	AEG8	≒KA01.5	≒KA01.5		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/21187519	1 =	<	KA01.5	Fetus or newborn affected by multiple pregnancy/KA01.5 (多胎妊娠により影響を受けた胎児または新生児) 三胎妊娠： Triplet pregnancy

No	ICD10 標準病名	代 表・ 同義	ICD10 コード	交換 コード	マツペン 報(旧)	マツペン 報2022	病名と して現 代では 不適切	確 信 度	確 信 関 係	ICD11 Foundation URI	確 信 度	確 信 関 係	MMS	備 考
36489	16 双胎児		P015	DKS1	=KA01.5	=KA01.5		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/73279151	1 <	1 <	KA01.5	Fetus or newborn affected by multiple pregnancy/KA01.5 (多胎妊娠により影響を受けた胎児または新生児) 双胎児：Twin(s) (fetus)
36490	16 双胎妊娠新生児		P015	FTM1	=KA01.5	=KA01.5		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/73279151	1 <	1 <	KA01.5	Fetus or newborn affected by Twin pregnancy/KA01.5 (双胎妊娠により影響を受けた胎児または新生児)
36491	16 双生児		P015	MIES	=KA01.5	=KA01.5		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/73279151	1 <	1 <	KA01.5	Fetus or newborn affected by multiple pregnancy/KA01.5 (多胎妊娠により影響を受けた胎児または新生児) 双生児：Twin(s) (newborn)は、index termにある。
36492	16 五胎妊娠新生児		P015	MPL1	=KA01.5	=KA01.5		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/611053293	1 <	1 <	KA01.5	Fetus or newborn affected by multiple pregnancy/KA01.5 (多胎妊娠により影響を受けた胎児または新生児) 五胎妊娠：Quintuplet pregnancyは、index termにある。
36493	16 四胎妊娠胎児		P015	NBKS	=KA01.5	=KA01.5		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1896700494	1 <	1 <	KA01.5	Fetus or newborn affected by Twin pregnancy
36494	16 四胎妊娠新生児		P015	NGHV	=KA01.5	=KA01.5		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1896700494	1 <	1 <	KA01.5	Fetus or newborn affected by multiple pregnancy/KA01.5 (多胎妊娠により影響を受けた胎児または新生児) 四胎妊娠：Quadruplet pregnancyは、index termにある。
36495	16 三胎妊娠新生児		P015	QIQ1	=KA01.5	=KA01.5		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/21187519	1 <	1 <	KA01.5	Fetus or newborn affected by multiple pregnancy/KA01.5 (多胎妊娠により影響を受けた胎児または新生児) 三胎妊娠：Triplet pregnancy は、index termにある。
36496	16 五胎妊娠胎児		P015	U3JK	=KA01.5	=KA01.5		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/611053293	1 <	1 <	KA01.5	Fetus or newborn affected by multiple pregnancy/KA01.5 (多胎妊娠により影響を受けた胎児または新生児) 五胎妊娠：Quintuplet pregnancyは、index termにある。
36497	16 双胎妊娠胎児		P015	VM15	=KA01.5	=KA01.5		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/73279151	1 <	1 <	KA01.5	Fetus or newborn affected by Twin pregnancy/KA01.5 (双胎妊娠により影響を受けた胎児または新生児) 双胎は、index termにある
36498	16 自然流産胎児		P018	HKUL	下KA01.2	下KA01.2		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/162906636	1 <	1 <	KA01.Y	Foetus or newborn affected by unspecified maternal complication of pregnancy (詳細不明の母体の妊娠合併症に影響を受けた胎児または新生児) 自然流産、胎児：Spontaneous abortion, fetus/KA01.Y/index termにある
36499	16 胎盤早期剥離新生児		P021	HDQ7	=KA02.2	=KA02.2		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/862996958	1 <	1 <	KA02.Y	Fetus or newborn affected by premature separation of placenta
36500	16 分娩前出血新生児		P021	HRRY	=KA02.2	=KA02.2		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/212381468	1 =	1 =	KA01.8	胎盤早期剥離：Premature separation of placenta fetus and newborn affected by premature separation of placenta/KA02.Y
36501	16 分娩前出血胎児		P021	ND8K	=KA02.2	=KA02.2		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/212381468	1 =	1 =	KA01.8	分娩前出血：Antepartum haemorrhage ⇒Antepartum haemorrhage affecting fetus or newborn/KA01.8
36502	16 胎盤早期剥離胎児		P021	P112	=KA02.2	=KA02.2		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/862996958	1 <	1 <	KA02.Y	胎盤早期剥離：Premature separation of placenta fetus and newborn affected by premature separation of placenta/KA02.Y
36503	16 胎盤機能低下新生児		P022	FNFA	=KA02.2	=KA02.2		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1196343	1 <	1 <	KA02.Y	胎盤機能低下：胎盤機能不全？Placental dysfunction / insufficiency ⇒Fetus or newborn affected by placental dysfunction, not otherwise specified/KA02.Yのindex termにある
36504	16 胎盤梗塞新生児		P022	J066	=KA02.2	=KA02.2		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/2044238008	1 =	1 =	KA02.2	胎盤梗塞：Placental infarction ⇒Fetus or newborn affected by placental infarction/KA02.2
36505	16 胎児胎盤機能低下		P022	J214	=KA02.2	=KA02.2		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1196343	1 <	1 <	KA02.Y	胎盤機能低下：胎盤機能不全？Placental dysfunction / insufficiency ⇒Fetus or newborn affected by placental dysfunction, not otherwise specified/KA02.Yのindex termにある 胎盤機能障
36506	16 胎児胎盤機能不全		P022	J214	=KA02.2	=KA02.2		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1196343	1 <	1 <	KA02.Y	胎盤梗塞：Placental infarction ⇒Fetus or newborn affected by placental infarction/KA02.2
36507	16 胎児胎盤機能障害		P022	J214	=KA02.2	=KA02.2		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1196343	1 <	1 <	KA02.Y	胎盤梗塞：Placental infarction ⇒Fetus or newborn affected by placental infarction/KA02.2
36508	16 胎盤梗塞胎児		P022	U169	=KA02.2	=KA02.2		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/2044238008	1 =	1 =	KA02.2	胎盤梗塞：Placental infarction ⇒Fetus or newborn affected by placental infarction/KA02.2
36509	16 胎盤輸血症候群による新生児の障害		P023	CS5B	=KA02.4	=KA02.4		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1088791670	1 =	1 =	KA02.4	Fetus or newborn affected by placental transfusion syndromes/K02.4
36510	16 胎盤輸血症候群により影響を受けた新生児		P023	CS5B	=KA02.4	=KA02.4		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1088791670	1 =	1 =	KA02.4	Fetus or newborn affected by placental transfusion syndromes/K02.4
36511	16 胎盤輸血症候群による胎児の障害		P023	FS80	=KA02.4	=KA02.4		1 =	1 =	http://id.who.int/icd/entity/1088791670	1 =	1 =	KA02.4	Fetus or newborn affected by placental transfusion syndromes/K02.4

標準病名のICD-11コーディング作業結果

～ 第17章 標準病名 ～

(5ページのみ抜粋)

No	ICD10 章	標準病名	代表・同義	ICD10 コード	交換コード	マッピング情報(旧)	マッピング情報2022	病名として現用では不適切	確信度	関係	ICD11 Foundation URI	確信度	関係	MMS	備考
37037	17	無頭蓋症		0000	BO5Q	=:LA00.0Z	=:LA00.0Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1219021696	1 =	<	LA00.0Y	Acrania(無頭蓋症) LA00.0Y Other specified anencephaly
37038	17	脳欠損		0000	BV50	=:LA00.0Z	=:LA00.0Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1292761836	1 =	=	LA00.0Z	LA00.0Z Anencephaly, unspecified
37039	17	脳無形成		0000	BV50	=:LA00.0Z	=:LA00.0Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1292761836	1 =	=	LA00.0Z	LA00.0Z Anencephaly, unspecified
37040	17	脳欠損		0000	BV50	=:LA00.0Z	=:LA00.0Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1292761836	1 =	=	LA00.0Z	LA00.0Z Anencephaly, unspecified
37041	17	脳無発生		0000	BV50	=:LA00.0Z	=:LA00.0Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1292761836	1 =	=	LA00.0Z	LA00.0Z Anencephaly, unspecified
37042	17	半無脳症		0000	FOVG	=:LA00.0Z	=:LA00.0Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/605355634	1 =	<	LA00.0Y	LA00.0Y Other specified anencephaly
37043	17	無脳症		0000	TPM9	=:LA00.0Z	=:LA00.0Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1292761836	1 =	=	LA00.0Z	LA00.0Z Anencephaly, unspecified
37044	17	無脳児		0000	TPM9	=:LA00.0Z	=:LA00.0Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1292761836	1 =	=	LA00.0Z	Anencephaly LA00.0Z Anencephaly, unspecified
37045	17	無脊髄脳症		0000	V3RH	=:LA00.0Z	=:LA00.0Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/154698183	1 =	=	LA00.3	LA00.3 Amyelencephaly
37046	17	頭蓋脊椎破裂		0001	L22V	=:LA00.00	=:LA00.00		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/675690362	1 =	=	LA00.00	LA00.00 Craniorachischisis
37047	17	頭蓋脊椎破裂		0001	L22V	=:LA00.00	=:LA00.00		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/675690362	1 =	=	LA00.00	LA00.00 Craniorachischisis
37048	17	後頭孔脳脱出症		0002	E41D	=:LA00.1	=:LA00.1		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1375023725	1 =	=	LA00.1	後頭孔脳脱出症：Iniencephaly
37049	17	前頭部脳腫		0010	LMTV	=:LA01	=:LA01		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1375023725	1 =	<	LA01	LA01 Cephalocele
37050	17	鼻前頭部脳腫		0011	B5E1	=:LA01	=:LA01		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/884932601	1 =	<	LA01	LA01 Cephalocele
37051	17	後頭部脳腫		0012	DU7D	=:LA01	=:LA01		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1075031814	1 =	<	LA01	LA01 Cephalocele
37052	17	頭蓋底脳腫		0018	FDP	=:LA01	=:LA01		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/533416539	1 =	<	LA01	LA01 Cephalocele
37053	17	髄膜脳腫		0019	H333	=:LA01	=:LA01		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/2115894108	1 =	<	LA01	LA01 Cephalocele
37054	17	脳脊髄腫		0019	H333	=:LA01	=:LA01		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/2115894108	1 =	<	LA01	LA01 Cephalocele
37055	17	頭蓋髄膜腫		0019	H333	=:LA01	=:LA01		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1264577445	1 =	<	LA01	LA01 Cephalocele. 「Cranial meningocele」でとった。「cranial hydromeningocele」だと http://id.who.int/icd/entity/336484120 Hydroencephalocele の項になる
37056	17	脳髄膜腫		0019	H333	=:LA01	=:LA01		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/2115894108	1 =	<	LA01	LA01 Cephalocele
37057	17	脳のお腫		0019	H333	=:LA01	=:LA01		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/2115894108	1 =	<	LA01	LA01 Cephalocele
37058	17	脳髄膜腫		0019	H333	=:LA01	=:LA01		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/2115894108	1 =	<	LA01	LA01 Cephalocele
37059	17	脳腫		0019	H333	=:LA01	=:LA01		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/2115894108	1 =	<	LA01	LA01 Cephalocele. 「Encephalocele」でとった。「Fronto-ethmoidal encephalocele」だと http://id.who.int/icd/entity/1375023725 Frontal encephalocele の項になる
37060	17	脳嚢腫		0019	H333	=:LA01	=:LA01		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/2115894108	1 =	<	LA01	LA01 Cephalocele
37061	17	脳のお腫		0019	H333	=:LA01	=:LA01		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/2115894108	1 =	<	LA01	LA01 Cephalocele
37062	17	有蓋脳脱出体		0019	H333	=:LA01	=:LA01		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/2115894108	1 =	<	LA01	有蓋脳脱出体の意味は翻べられなかったが、脳髄膜腫の類義語と標準病名にあったのだからこれを選んだ
37063	17	頭蓋周囲静脈洞		0019	HPNR	=:LA01	=:LA01		1 <	<	http://id.who.int/icd/entity/2115894108	1 <	<	LA01	Encephalocele (脳嚢) * 頭蓋周囲静脈洞：sinus pericranii はICD-11に見当たらず
37064	17	頭蓋骨膜洞		0019	ND1A	=:LA01	=:LA01		1 <	<	http://id.who.int/icd/entity/2115894108	1 <	<	LA01	Encephalocele (脳嚢) * 頭蓋骨膜洞：sinus pericranii はICD-11に見当たらず
37065	17	水脳腫		0019	RUB1	=:LA01	=:LA01		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/336484120	1 =	<	LA01	LA01 Cephalocele
37066	17	水小頭症		002	AKR	=:LA05.0I =:LD20.2	=:LA05.0I =:LD20.2		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1559903352	1 =	<	LA05.0	LA05.0 Microcephaly

No	ICD10 標準病名	代表・同義	ICD10 コード	交換コード	マッピング情報(旧)	マッピング情報2022	病名として現用では不適切	確信度	関係	ICD11 Foundation URI	確信度	関係	MMS	備考
37067	17 小頭症	L	Q02	F6D0	=:LA05.0 下:LD20.2	=:LA05.0 下:LD20.2		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/179350437	1 =	=	LA05.0	LA05.0 Microcephaly
37068	17 先天性小脳髄症	S1	Q02	F6D0	=:LA05.0 下:LD20.2	=:LA05.0 下:LD20.2		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/179350437	1 =	=	LA05.0	LA05.0 Microcephaly
37069	17 小脳髄症	S1	Q02	F6D0	=:LA05.0 下:LD20.2	=:LA05.0 下:LD20.2		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/179350437	1 =	=	LA05.0	LA05.0 Microcephaly
37070	17 脳形成不全	S2	Q02	F6D0	=:LA05.0 下:LD20.2	=:LA05.0 下:LD20.2		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/179350437	1 =	=	LA05.0	LA05.0 Microcephaly. 脳形成不全 (brain hypoplasia) 交換コード F6D0の小脳症と同義であることからこれを選んだ 英訳 「brain aplasia」は http://id.who.int/icd/entity/1292761836 . 「Anencephaly」(脳無形成)の同義語となってしまう
37071	17 脳発育不全	S2	Q02	F6D0	=:LA05.0 下:LD20.2	=:LA05.0 下:LD20.2		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/179350437	1 =	=	LA05.0	LA05.0 Microcephaly. 脳発育不全 (brain hypoplasia)
37072	17 中脳水道先天異常	L	Q030	D3V3	=:LA04.0	=:LA04.0		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1284135636	1 =	=	LA04.0	* マッピング表によると、Hydrocephalus with stenosis of the aqueduct of Sylvius (中脳水道狭窄症を伴う水頭症) * 「先天性中脳水道狭窄症 (congenital stenosis of aqueduct of Sylvius)」 「中脳水道の異常 (anomaly of aqueduct of sylvius)」 は類義語にある。 中脳水道狭窄症は、先天性と後天性がある。 中脳水道先天異常は、先天性の中脳水道の異常と判断。 → 同義語にあるので関係を両方とも Y コールに変更した
37073	17 中脳水道の奇形	S1	Q030	D3V3	=:LA04.0	=:LA04.0		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1284135636	1 =	=	LA04.0	Hydrocephalus with stenosis of the aqueduct of Sylvius (中脳水道狭窄症を伴う水頭症) * 中脳水道狭窄症: Stenosis of the aqueduct of Sylvius は類義語にある → 索引語にあるのでMMSもYコールに訂正
37074	17 中脳水道狭窄症	L	Q030	L693	=:LA04.0	=:LA04.0		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1284135636	1 =	=	LA04.0	Stenosis of the aqueduct of Sylvius
37075	17 中脳水道狭窄	S1	Q030	L693	=:LA04.0	=:LA04.0		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1284135636	1 =	=	LA04.0	congenital obstruction of aqueduct of Sylvius
37076	17 中脳水道狭窄(症)	S1	Q030	L693	=:LA04.0	=:LA04.0		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1284135636	1 =	=	LA04.0	Dandy-Walker malformation
37077	17 先天性中脳水道閉塞	S2	Q030	L693	=:LA04.0	=:LA04.0		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1284135636	1 =	=	LA04.0	Dandy-Walker malformation (ダンゼイ・ウォーカー奇形) * Dandy-Walker syndrome (ダンゼイ・ウォーカー奇形) は類義語にある → 索引語にあるのでMMSもYコールに訂正
37078	17 カンパー・ウォーカー症候群	L	Q031	QN15	上:LA06.0	上:LA06.0		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/993088960	1 =	=	LA06.0	LA06.0 Dandy-Walker malformation
37079	17 カンパー・ウォーカー症候群	S1	Q031	QN15	上:LA06.0	上:LA06.0		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/993088960	1 =	=	LA06.0	LA06.0 Dandy-Walker malformation
37080	17 ダンディー・ウォーカー症候群	S1	Q031	QN15	上:LA06.0	上:LA06.0		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/993088960	1 =	=	LA06.0	LA06.0 Dandy-Walker malformation
37081	17 DANDY WALKER症候群	S1	Q031	QN15	上:LA06.0	上:LA06.0		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/993088960	1 =	=	LA06.0	LA06.0 Dandy-Walker malformation
37082	17 モンロー孔閉塞症	L	Q038	L6T7	下:LA04.Z	下:LA04.Z		1 <	<	http://id.who.int/icd/entity/1878746673	1 <	<	LA04.Y	* マッピング表によると、Congenital hydrocephalus (先天性水頭症) に分類 * モンロー孔閉塞症: obstruction of foramen of Monro / Monro's foramen ⇒ モンロー孔はICD11の項目には見当たらなかった
37083	17 モンロー孔閉塞(症)	S1	Q038	L6T7	下:LA04.Z	下:LA04.Z		1 <	<	http://id.who.int/icd/entity/1878746673	1 <	<	LA04.Y	

No	ICD10 標準病名	代表・同義	ICD10 コード	交換コード	マッピング情報(旧)	マッピング情報2022	病名として現では不適切	確信度	関係	ICD11 Foundation URI	確信度	関係	MMS	備考
37084	17 モンロー孔閉塞	S1	Q038	L6T7	下:LA04.Z	下:LA04.Z		1 <	=	http://id.who.int/icd/entity/1878746673	1 <	=	LA04.Y	LA04 Congenital hydrocephalus
37085	17 先天性水頭症	L	Q039	C5T1	下:LA04.Z	下:LA04.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1878746673	1 =	=	LA04	LA04 Congenital hydrocephalus (先天性水頭症) に分類 * X連鎖性遺伝性水頭症 (X-linked genetic hydrocephalus) はICD-11に該当ならず Congenital hydrocephalus 先天性水頭症 & Hereditary/遺伝性
37086	17 X連鎖性遺伝性水頭症	L	Q039	CR1B	下:LA04.Z	下:LA04.Z		2 <	<	http://id.who.int/icd/entity/1878746673 & http://id.who.int/icd/entity/789096057	1 <	<	LA04.Y / XB7K	「新生児水頭症」 Q039 で先天性水頭症、未指定とあったのでHydrocephalus in newborn(新生児の水頭症) LA04 Congenital hydrocephalus(A04 先天性水頭症) を選んだ Neonatal hydrocephalus」はICD11ではacquired hydrocephalus NOSと同義のKB05.Z Neonatal hydrocephalus, unspecified
37087	17 X連鎖性遺伝性水頭症	S0	Q039	CR1B	下:LA04.Z	下:LA04.Z		1 <	<	http://id.who.int/icd/entity/1878746673 & http://id.who.int/icd/entity/789096057	1 <	<	LA04.Y / XB7K	「新生児水頭症」 Q039 で先天性水頭症、未指定とあったのでHydrocephalus in newborn(新生児の水頭症) LA04 Congenital hydrocephalus(A04 先天性水頭症) を選んだ Neonatal hydrocephalus」はICD11ではacquired hydrocephalus NOSと同義のKB05.Z Neonatal hydrocephalus, unspecified
37088	17 新生児水頭症	L	Q039	MM4T	下:LA04.Z	下:LA04.Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1878746673	1 =	=	LA04.Z	「新生児水頭症」 Q039 で先天性水頭症、未指定とあったのでHydrocephalus in newborn(新生児の水頭症) LA04 Congenital hydrocephalus(A04 先天性水頭症) を選んだ Neonatal hydrocephalus」はICD11ではacquired hydrocephalus NOSと同義のKB05.Z Neonatal hydrocephalus, unspecified
37089	17 脳梁形成不全	L	Q040	GVBF	=:LA05.3	=:LA05.3		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/2012425106	1 =	=	LA05.3	LA05.3 Corpus callosum agenesis 脳梁形成不全(corpus callosum hypoplasia) → 索引語にあるのでMMSを「コ」に訂正
37090	17 脳梁部分欠損	S1	Q040	GVBF	=:LA05.3	=:LA05.3		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/2012425106	1 =	=	LA05.3	LA05.3 Corpus callosum hypoplasia
37091	17 脳梁欠形成	S1	Q040	GVBF	=:LA05.3	=:LA05.3		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/2012425106	1 =	=	LA05.3	LA05.3 Corpus callosum agenesis
37092	17 脳梁欠損症	L	Q040	VFKO	=:LA05.3	=:LA05.3		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/2012425106	1 =	=	LA05.3	LA05.3 Corpus callosum agenesis
37093	17 脳梁無形成	S1	Q040	VFKO	=:LA05.3	=:LA05.3		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/2012425106	1 =	=	LA05.3	LA05.3 Corpus callosum agenesis
37094	17 脳梁欠損症	S1	Q040	VFKO	=:LA05.3	=:LA05.3		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/2012425106	1 =	=	LA05.3	LA05.3 Corpus callosum agenesis
37095	17 脳梁の先天奇形	S2	Q040	VFKO	=:LA05.3	=:LA05.3		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/2012425106	1 =	=	LA05.3	LA05.3 Corpus callosum agenesis
37096	17 無嗅脳症	L	Q041	NB63	=:LA05.4	=:LA05.4		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/314107400	1 =	=	LA05.4	LA05.4 Arrhinencephaly congenital malformation of corpus callosum
37097	17 全前脳症	L	Q042	BE6K	=:LA05.21 下:LD20.3	=:LA05.21 下:LD20.3		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1712699129	1 =	=	LA05.2	LA05.2 Holoprosencephaly 全前脳症(holoprosencephaly: HPE)は 3 脳胞期〜5 脳胞期への移行時期に前脳胞が終胞と間脳胞に分化する過程で左右の半球性の脳へ分離しなかつたために生じた奇形 脳室も中隔がなく単脳室 英訳 『Aprosencephaly』のURLは http://id.who.int/icd/entity/1740361952 aprosencephaly→より重要で、前脳と間脳がない
37098	17 全前脳症	S1	Q042	BE6K	=:LA05.21 下:LD20.3	=:LA05.21 下:LD20.3		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1712699129	1 =	=	LA05.2	LA05.2 Holoprosencephaly 全前脳症(holoprosencephaly: HPE)は 3 脳胞期〜5 脳胞期への移行時期に前脳胞が終胞と間脳胞に分化する過程で左右の半球性の脳へ分離しなかつたために生じた奇形 脳室も中隔がなく単脳室 英訳 『Aprosencephaly』のURLは http://id.who.int/icd/entity/1740361952 aprosencephaly→より重要で、前脳と間脳がない
37099	17 単前脳症	S1	Q042	BE6K	=:LA05.21 下:LD20.3	=:LA05.21 下:LD20.3		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1712699129	1 =	=	LA05.2	LA05.2 Holoprosencephaly 全前脳症(holoprosencephaly: HPE)は 3 脳胞期〜5 脳胞期への移行時期に前脳胞が終胞と間脳胞に分化する過程で左右の半球性の脳へ分離しなかつたために生じた奇形 脳室も中隔がなく単脳室 英訳 『Aprosencephaly』のURLは http://id.who.int/icd/entity/1740361952 aprosencephaly→より重要で、前脳と間脳がない
37100	17 無脳回症	L	Q043	AU81	下:LA021.L: LD20.001.L: LD20.11.L: LD20.01	下:LA05.21 上:LD20.001 上:LD20.11 上:LD20.01		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/805385297	1 =	=	LD20.1	Syndromes with isencephaly as a major feature (無脳症を主な特徴とする症候群) 無脳回症: agyriaは類義語 *ただし、医学用語辞典によると、agyria/lisencephalyは、どちらも無脳回症/滑脳症の訳がある → URI MMS「コ」に訂正

No	ICD10 標準病名	代表・同義	ICD10 コード	交換コード	マッピング情報(旧)	マッピング情報2022	病名として現 代では不適切	確 信 度	関 係	ICD11 Foundation URI	確 信 度	関 係	MMS	備考
37101	17 滑脳症	L	Q043	CK98	下:LA0Z1上: LD20.001上: LD20.11上: LD20.01	下:LA05.Z1 上:LD20.001 上:LD20.11 上:LD20.01		1 =	http://id.who.int/icd/entitv/805385297	1 =	LD20.1		滑脳症： lissencephaly/agyria * Syndromes with lissencephaly as a major feature (滑脳症を主な特徴とする症候群) の類義語にagyriaがある。→ URI MMS-1コーンルに訂正	
37102	17 水頭症性無脳症	L	Q043	D055	下:LA0Z1上: LD20.001上: LD20.11上: LD20.01	下:LA05.Z1 上:LD20.001 上:LD20.11 上:LD20.01		1 =	http://id.who.int/icd/entitv/1963574608	1 =	LA05.62		Hydranencephaly：水頭症性無脳症(水無脳症) → URI MMS-1コーンルに訂正	
37103	17 水頭無脳症	S1	Q043	D055	下:LA0Z1上: LD20.001上: LD20.11上: LD20.01	下:LA05.Z1 上:LD20.001 上:LD20.11 上:LD20.01		1 =	http://id.who.int/icd/entitv/1963574608	1 =	LA05.62		Hydranencephaly：水頭症性無脳症(水頭無脳症)	
37104	17 小脳回症	L	Q043	D985	下:LA0Z1上: LD20.001上: LD20.11上: LD20.01	下:LA05.Z1 上:LD20.001 上:LD20.11 上:LD20.01		1 =	http://id.who.int/icd/entitv/2081858551	1 =	LA05.50		小脳回症： microgyria * Polymicrogyriaは通常「多少小脳回症」と訳されているようだが、医学用語辞典に「小脳回症」の訳あり → URI MMS-1コーンルに訂正	
37105	17 脳形成不全性水頭症	L	Q043	E235	下:LA0Z1上: LD20.001上: LD20.11上: LD20.01	下:LA05.Z1 上:LD20.001 上:LD20.11 上:LD20.01		2 =	http://id.who.int/icd/entitv/179350437 & http://id.who.int/icd/entitv/976604742	2 =	LA05.0 & XA1CW2		脳形成不全水頭症： hydroencephalody/splasiaだがICD-11には訳語見当たらず 水頭症： Hydrocephalus * 構造奇形による水頭症+脳の形成不全 とした。	
37106	17 皮質下帯状異所性灰白質	L	Q043	GB12	下:LA0Z1上: LD20.001上: LD20.11上: LD20.01	下:LA05.Z1 上:LD20.001 上:LD20.11 上:LD20.01		1 =	http://id.who.int/icd/entitv/525786944	1 <	LD20.1		LD20.1 Syndromes with lissencephaly as a major feature	
37107	17 二重皮質症候群	S1	Q043	GB12	下:LA0Z1上: LD20.001上: LD20.11上: LD20.01	下:LA05.Z1 上:LD20.001 上:LD20.11 上:LD20.01		1 =	http://id.who.int/icd/entitv/891064255	1 <	LD20.1		二重皮質症候群： double cortex syndrome Lissencephaly type 1 due to doublecortin gene mutation	
37108	17 有馬症候群	L	Q043	K13A	下:LA0Z1上: LD20.001上: LD20.11上: LD20.01	下:LA05.Z1 上:LD20.001 上:LD20.11 上:LD20.01		1 =	http://id.who.int/icd/entitv/397835469	1 <	LD20.0Y		LD20.0Y Other specified syndromes with cerebellar anomalies as a major feature	
37109	17 脳-眼-肝-腎症候群	S1	Q043	K13A	下:LA0Z1上: LD20.001上: LD20.11上: LD20.01	下:LA05.Z1 上:LD20.001 上:LD20.11 上:LD20.01		1 =	http://id.who.int/icd/entitv/397835469	1 <	LD20.0Y		脳-眼-肝-腎症候群 (Cerebro-Oculo-Hepato-Renal syndrome)	
37110	17 厚脳回症	L	Q043	LF10	下:LA0Z1上: LD20.001上: LD20.11上: LD20.01	下:LA05.Z1 上:LD20.001 上:LD20.11 上:LD20.01		1 =	http://id.who.int/icd/entitv/805385297	1 =	LD20.1		LD20.1 Syndromes with lissencephaly as a major feature	
37111	17 シュペール症候群	L	Q043	M19N	下:LA0Z1上: LD20.001上: LD20.11上: LD20.01	下:LA05.Z1 上:LD20.001 上:LD20.11 上:LD20.01		1 =	http://id.who.int/icd/entitv/1414756318	1 =	LD20.00		LD20.00 Joubert syndrome	
37112	17 シュペール症候群	S1	Q043	M19N	下:LA0Z1上: LD20.001上: LD20.11上: LD20.01	下:LA05.Z1 上:LD20.001 上:LD20.11 上:LD20.01		1 =	http://id.who.int/icd/entitv/1414756318	1 =	LD20.00		LD20.00 Joubert syndrome	

No	ICD10 章	標準病名	代表・同義	ICD10 コード	交換コード	マッピング情報(旧)	マッピング情報2022	病名として現用では不適切	確信度	関係	ICD11 Foundation URI	確信度	関係	MMS	備考
37113	17	JOUBERT症候群	S1	Q043	M19N	下:LA02 上:LD20.00 上:LD20.1 上:LD20.01	下:LA05.2 上:LD20.00 上:LD20.1 上:LD20.01		1 =	<	http://id.who.int/icd/entitv/1414756318	1 =	<	LD20.00	LD20.00 Joubert syndrome
37114	17	小脳形成不全	L	Q043	PLME	下:LA02 上:LD20.00 上:LD20.1 上:LD20.01	下:LA05.2 上:LD20.00 上:LD20.1 上:LD20.01		1 <	<	http://id.who.int/icd/entitv/2029581479	1 <	<	LA06.1	Cerebellar hypoplasia (小脳形成不全) ⇒脳の形成不全は、小脳症の Synonyms にある。
37115	17	小脳低形成	S1	Q043	PLME	下:LA02 上:LD20.00 上:LD20.1 上:LD20.01	下:LA05.2 上:LD20.00 上:LD20.1 上:LD20.01		1 <	<	http://id.who.int/icd/entitv/2029581479	1 <	<	LA06.1	LA06.1 Hypoplasia or agenesis of cerebellar hemispheres Cerebellar hypoplasia 小脳形成不全 「小脳形成不全は、小脳虫部および/または小脳半球を含む小脳構造の発育不全に対応し、部分的な無形成から完全な無形成までである。」との説明があったのでこれを選んだ
37116	17	多小脳回	L	Q043	R81P	下:LA02 上:LD20.00 上:LD20.1 上:LD20.01	下:LA05.2 上:LD20.00 上:LD20.1 上:LD20.01		1 =	<	http://id.who.int/icd/entitv/2081858551	1 =	<	LA05.50	LA05.50 Polymicrogyria
37117	17	小脳欠損	L	Q043	RPE9	下:LA02 上:LD20.00 上:LD20.1 上:LD20.01	下:LA05.2 上:LD20.00 上:LD20.1 上:LD20.01		1 <	<	http://id.who.int/icd/entitv/2029581479	1 <	<	LA06.1	LA06.1 小脳半球の形成不全または無形成
37118	17	小脳軟損	S1	Q043	RPE9	下:LA02 上:LD20.00 上:LD20.1 上:LD20.01	下:LA05.2 上:LD20.00 上:LD20.1 上:LD20.01		1 <	<	http://id.who.int/icd/entitv/2029581479	1 <	<	LA06.1	LA06.1 Hypoplasia or agenesis of cerebellar hemispheres Cerebellar agenesis (小脳無形成=小脳欠損) 小脳形成不全は、小脳虫部および/または小脳半球を含む小脳構造の発育不全に対応し、部分的な無形成から完全な無形成までである。」との説明があったのでこれを選んだ
37119	17	中隔視神経形成異常	L	Q044	D5R8	下:LA02 上:LD20.00 上:LD20.1 上:LD20.01	下:LA05.2 上:LD20.00 上:LD20.1 上:LD20.01		1 =	<	http://id.who.int/icd/entitv/1890642169	1 =	<	5A61.0	5A61.0 Hypopituitarism
37120	17	ドモルシク症候群	S1	Q044	D5R8	下:LA02 上:LD20.00 上:LD20.1 上:LD20.01	下:LA05.2 上:LD20.00 上:LD20.1 上:LD20.01		1 =	<	http://id.who.int/icd/entitv/1890642169	1 <	<	5A61.0	5A61.0 Hypopituitarism
37121	17	中隔視神経異常形成	S1	Q044	D5R8	下:LA02 上:LD20.00 上:LD20.1 上:LD20.01	下:LA05.2 上:LD20.00 上:LD20.1 上:LD20.01		1 =	<	http://id.who.int/icd/entitv/1890642169	1 =	<	5A61.0	5A61.0 Hypopituitarism
37122	17	視神経中隔形成異常	S1	Q044	D5R8	下:LA02 上:LD20.00 上:LD20.1 上:LD20.01	下:LA05.2 上:LD20.00 上:LD20.1 上:LD20.01		1 =	<	http://id.who.int/icd/entitv/1890642169	1 =	<	5A61.0	5A61.0 Hypopituitarism
37123	17	巨脳症	L	Q045	LKKD	下:LA02 上:LD20.00 上:LD20.1 上:LD20.01	下:LA05.1 上:LD20.00 上:LD20.1 上:LD20.01		1 =	<	http://id.who.int/icd/entitv/3687806553	1 =	<	LA05.1	LA05.1 Megalencephaly
37124	17	片側巨脳症	L	Q045	TS7C	下:LA02 上:LD20.00 上:LD20.1 上:LD20.01	下:LA05.1 上:LD20.00 上:LD20.1 上:LD20.01		1 =	<	http://id.who.int/icd/entitv/961229160	1 <	<	LA05.1	LA05.1 unilateral megalencephaly (片側巨脳症) Hemimegalencephaly
37125	17	裂脳症	L	Q046	AK7S	下:LA02 上:LD20.00 上:LD20.1 上:LD20.01	下:LA05.7 上:LD20.00 上:LD20.1 上:LD20.01		1 =	<	http://id.who.int/icd/entitv/1693546163	1 =	<	LA05.61	LA05.61 Schizencephaly
37126	17	孔脳症	L	Q046	QEMM	下:LA02 上:LD20.00 上:LD20.1 上:LD20.01	下:LA05.7 上:LD20.00 上:LD20.1 上:LD20.01		1 =	<	http://id.who.int/icd/entitv/137059367	1 =	<	LA05.60	LA05.60 Porencephaly (孔脳症、脳空洞症) LA05.60 Porencephaly Porencephalic cyst は(CD11ではacquired porencephalyと同義とあり)
37127	17	先天性脳のう胞	L	Q046	RUH8	下:LA02 上:LD20.00 上:LD20.1 上:LD20.01	下:LA05.7 上:LD20.00 上:LD20.1 上:LD20.01		1 =	<	http://id.who.int/icd/entitv/16933056148	1 <	<	LA05.7	Brain cystic malformations (脳のう胞性奇形) Congenital cerebral cysts : 先天性脳のう胞 は類義語
37128	17	先天性脳嚢胞	S1	Q046	RUH8	下:LA02 上:LD20.00 上:LD20.1 上:LD20.01	下:LA05.7 上:LD20.00 上:LD20.1 上:LD20.01		1 =	<	http://id.who.int/icd/entitv/16933056148	1 =	<	LA05.7	LA05.7 Brain cystic malformations
37129	17	ジクベール症候群関連疾患	L	Q048	BEGL	下:LA02 上:LD20.00 上:LD20.1 上:LD20.01	下:LA05.2 上:LD20.00 上:LD20.1 上:LD20.01		1 <	<	http://id.who.int/icd/entitv/1488858760	1 <	<	LD20.02	Joubert syndrome ジクベール症候群、有馬症候群、ゼーオール・ローケン症候群、COACH症候群、口顔指症候群など、精神運動発達遅延の遅れ、小脳虫部の欠損、遺伝性を特徴とする疾患をジクベール症候群関連疾患と総称 全て含めるのでこれを選んだ

標準病名のICD-11コーディング作業結果

～ 第18章 標準病名 ～

(5ページのみ抜粋)

No	ICD10 章	標準病名	代表・同義	ICD10 コード	交換コード	マッピング情報(旧)	マッピング情報2022	病名として現代では不適切	確信度	関係	ICD11 Foundation URI	確信度	関係	MMS	備考
40454	18	頻脈性不整脈		R000	DCVC	下:BC9Z 上:MC81.2			1 =	=	http://id.who.int/icd/entry/449943282	1 =	=	MC81.2	頻脈性不整脈には、Ventricular tachyarrhythmia (心室性頻脈性不整脈) と Supraventricular tachyarrhythmia (上室性頻脈性不整脈) がある。 →詳細不明の心拍の異常へ修正 →詳細不明の心拍の異常へ修正 →詳細不明の心拍の異常へ修正 →詳細不明の心拍の異常へ修正 →詳細不明の心拍の異常へ修正 →詳細不明の心拍の異常へ修正
40455	18	呼吸性不整脈		R000	FT04	下:BC9Z 上:MC81.2			1 =	=	http://id.who.int/icd/entry/449943282	1 =	=	MC81.2	
40456	18	呼吸性洞性不整脈		R000	FT04	下:BC9Z 上:MC81.2			1 =	=	http://id.who.int/icd/entry/449943282	1 =	=	MC81.2	
40457	18	頻脈症		R000	K67M	下:BC9Z 上:MC81.2			1 =	=	http://id.who.int/icd/entry/515681918	1 =	=	MC81.0	
40458	18	頻脈		R000	K67M	下:BC9Z 上:MC81.2			1 =	=	http://id.who.int/icd/entry/515681918	1 =	=	MC81.0	
40459	18	頻脈(症)		R000	K67M	下:BC9Z 上:MC81.2			1 =	=	http://id.who.int/icd/entry/515681918	1 =	=	MC81.0	
40460	18	癡拍症		R000	Q9EP	下:BC9Z 上:MC81.2			1 =	=	http://id.who.int/icd/entry/449943282	1 =	=	MC81.2	
40461	18	癡拍(症)		R000	Q9EP	下:BC9Z 上:MC81.2			1 =	=	http://id.who.int/icd/entry/449943282	1 =	=	MC81.2	
40462	18	癡拍		R000	Q9EP	下:BC9Z 上:MC81.2			1 =	=	http://id.who.int/icd/entry/449943282	1 =	=	MC81.2	
40463	18	洞性頻脈		R000	QD4P	下:BC9Z 上:MC81.2			1 =	=	http://id.who.int/icd/entry/1079046206	1 <	<	MC81.0	→他に分類されない洞性頻脈
40464	18	洞性頻脈		R000	QD4P	下:BC9Z 上:MC81.2			1 =	=	http://id.who.int/icd/entry/1079046206	1 <	<	MC81.0	
40465	18	徐脈性失神		R001	D72K	下:BC9Z 上:BC80.1			1 =	=	http://id.who.int/icd/entry/1840127321	1 <	<	MC81.1	Bradycardia syncope
40466	18	徐脈		R001	DCR8	下:BC9Z 上:BC80.1			1 =	=	http://id.who.int/icd/entry/2079810536	1 =	=	MC81.1	Bradycardia, unspecified
40467	18	徐拍		R001	DCR8	下:BC9Z 上:BC80.1			1 =	=	http://id.who.int/icd/entry/2079810536	1 =	=	MC81.1	
40468	18	徐脈発作		R001	FLDK	下:BC9Z 上:BC80.1			1 =	=	http://id.who.int/icd/entry/1457291912	1 <	<	BC9Z	徐脈性不整脈とほぼ同義
40469	18	徐脈性不整脈		R001	H1JN	下:BC9Z 上:BC80.1			1 =	=	http://id.who.int/icd/entry/1457291912	1 <	<	BC9Z	bradyarrhythmia : Cardiac arrhythmiaの同義語にある。
40470	18	洞徐脈		R001	SH0M	下:BC9Z 上:BC80.1			1 =	=	http://id.who.int/icd/entry/335965816	1 =	=	BC80.1	Sinus bradycardia
40471	18	洞性徐脈		R001	SH0M	下:BC9Z 上:BC80.1			1 =	=	http://id.who.int/icd/entry/335965816	1 =	=	BC80.1	Sinus bradycardia
40472	18	動悸		R002	F6DU	下:BC9Z 上:BC80.1			1 =	=	http://id.who.int/icd/entry/257569559	1 =	=	MC81.2	Palpitations
40473	18	心悸亢進(症)		R002	F6DU	下:BC9Z 上:BC80.1			1 =	=	http://id.who.int/icd/entry/257569559	1 =	=	MC81.2	
40474	18	心悸亢進		R002	F6DU	下:BC9Z 上:BC80.1			1 =	=	http://id.who.int/icd/entry/257569559	1 =	=	MC81.2	
40475	18	心悸亢進症		R002	F6DU	下:BC9Z 上:BC80.1			1 =	=	http://id.who.int/icd/entry/257569559	1 =	=	MC81.2	
40476	18	心下悸		R002	JHL5	下:BC9Z 上:MC81.2			1 =	=		1 =	=	MC81.2	漢方医に確認
40477	18	臍上悸		R002	JHL5	下:BC9Z 上:MC81.2			1 =	=		1 =	=	MC81.2	

No	ICD10 章	標準病名	代表・同義	ICD10 コード	交換コード	マッピング情報(旧)	マッピング情報2022	病名として現代では不適切	確信度	関係	ICD11 Foundation URI	確信度	関係	MMS	備考
40478	18	蹠旁悸		R002	K7EA	=:MC81.2	=:MC81.2	1	1						漢方医に確認
40479	18	蹠下悸		R002	K7EA	=:MC81.2	=:MC81.2	1							
40480	18	三段脈		R008	JN9S	下:MC81.2	下:MC81.2		1 =		http://id.who.int/icd/entity/2090425208	1 <		MC81.Y	Trigeminy
40481	18	二段脈		R008	M1UG	下:MC81.2	下:MC81.2		1 =		http://id.who.int/icd/entity/155273882	1 <		MC81.Y	Pulse, bigeminal
40482	18	心拍異常		R008	UTUD	下:MC81.2	下:MC81.2		1 =		http://id.who.int/icd/entity/449943282	1 =		MC81.Z	abnormal heart beat
40483	18	心拍の異常		R008	UTUD	下:MC81.2	下:MC81.2		1 =		http://id.who.int/icd/entity/449943282	1 =		MC81.Z	Abnormalities of heart beat
40484	18	機能性収縮期雑音		R010	CPRE	=:MC83.0	=:MC83.0		1 <		http://id.who.int/icd/entity/1236434473	1 <		MC83.0	
40485	18	機能性心雑音		R010	F9S7	=:MC83.0	=:MC83.0		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1236434473	1 <		MC83.0	Functional cardiac murmur : Benign and innocent cardiac murmursのindex termにある。
40486	18	生理的心雑音		R010	F9S7	=:MC83.0	=:MC83.0		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1236434473	1 <		MC83.0	
40487	18	無害性心雑音		R010	F9S7	=:MC83.0	=:MC83.0		1 =		http://id.who.int/icd/entity/2038535587	1 <		MC83.0	Innocent murmur
40488	18	拡張期雑音		R011	B6/A	下:MC83	下:MC83.Z		1 <		http://id.who.int/icd/entity/2140822372	1 <		MC83.Z	
40489	18	心雑音		R011	E5CJ	下:MC83	下:MC83.Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/2140822372	1 =		MC83.Z	Cardiac bruit : Cardiac murmurs and other cardiac soundsのsynonymsにある。 M:不等号を等号に修正
40490	18	器質性心雑音		R011	H8BV	下:MC83	下:MC83.Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/2140822372	1 =		MC83.Z	organic heart murmur
40491	18	器質的心雑音		R011	H8BV	下:MC83	下:MC83.Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/2140822372	1 =		MC83.Z	
40492	18	収縮期雑音		R011	SCH4	下:MC83	下:MC83.Z		1 =		http://id.who.int/icd/entity/2140822372	1 =		MC83.Z	F:M:不等号を等号に修正
40493	18	連縮性雑音		R011	SECK	下:MC83	下:MC83.Z		1 <		http://id.who.int/icd/entity/2140822372	1 <		MC83.Z	
40494	18	心濁音界縮小		R012	CL8Q	=:MC83.1	=:MC83.1		1 =		http://id.who.int/icd/entity/711397910	1 <		MC83.1	Decreased cardiac dullness : Other cardiac soundsのindex termにある。
40495	18	前胸部摩擦音		R012	EL0L	=:MC83.1	=:MC83.1		1 =		http://id.who.int/icd/entity/2053573781	1 <		MC83.1	Precordial friction : Other cardiac soundsのindex termにある。
40496	18	心濁音界拡大		R012	UBFC	=:MC83.1	=:MC83.1		1 =		http://id.who.int/icd/entity/16049927463	1 <		MC83.1	Increased cardiac dullness : Other cardiac soundsのindex termにある。
40497	18	耳介瘰疽		R02	A0SG	=:MC85	=:MC85		1 =		http://id.who.int/icd/entity/188156827 & http://id.who.int/icd/entity/2030796271	1 =		MC85 & XA4E71	Gangrene & Prina
40498	18	手指指瘰疽		R02	AM5R	=:MC85	=:MC85		1 =		http://id.who.int/icd/entity/188156827 & http://id.who.int/icd/entity/452671086	1 =		MC85 & XA8D16	Gangrene & Thumb
40499	18	手指指瘰疽		R02	AM5R	=:MC85	=:MC85		1 =		http://id.who.int/icd/entity/188156827 & http://id.who.int/icd/entity/452671086	1 =		MC85 & XA8D16	
40500	18	手指1指瘰疽		R02	AM5R	=:MC85	=:MC85		1 =		http://id.who.int/icd/entity/188156827 & http://id.who.int/icd/entity/452671086	1 =		MC85 & XA8D16	
40501	18	瘰疽		R02	ARDA	=:MC85	=:MC85		1 =		http://id.who.int/icd/entity/188156827	1 =		MC85	
40502	18	瘰疽		R02	ARDA	=:MC85	=:MC85		1 =		http://id.who.int/icd/entity/188156827	1 =		MC85	
40503	18	結節性壊死性皮膚炎		R02	DBH2	=:MC85	=:MC85		1 <		http://id.who.int/icd/entity/188156827	1 <		MC85	“結節性” 該当なし
40504	18	皮膚瘰疽		R02	EBBQ	=:MC85	=:MC85		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1159845363	1 <		MC85	Gangrene of skin
40505	18	壊死潰瘍		R02	G68D	=:MC85	=:MC85		1 =		http://id.who.int/icd/entity/188156827	1 =		MC85	Gangrenous ulcer : Gangreneのsynonymsにある。 M:不等号を等号に修正
40506	18	特発性瘰疽		R02	GN9D	=:MC85	=:MC85		1 =		http://id.who.int/icd/entity/188156827 & http://id.who.int/icd/entity/894194405	1 =		MC85 & XB5F	Gangrene & Idiopathic(特発性)

No	ICD10 章	標準病名	代表・同義	ICD10 コード	交換コード	マッピング情報(旧)	マッピング情報2022	病名として現代では不適切	確信度	関係	ICD11 Foundation URI	確信度	関係	MMS	備考
40507	18	潰瘍性壊疽	L	R02	GR0M	=:MC85	=:MC85		1 =		http://id.who.int/icd/entity/188156827	1 =		MC85	ulcerative gangrene : Gangreneのsynonymにある。 →M:不番号を等号に修正
40508	18	腹壁壊疽	L	R02	J2L2	=:MC85	=:MC85		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1817763182	1 =		MC85&XA6GV0	abdominal wall gangreneは、Abdominal Gangreneのsynonymにある。MMSでは、Gangrene & Abdominal wall (Abdominalのsynonym) としてコード付けされる。
40509	18	腹部壊疽	S1	R02	J2L2	=:MC85	=:MC85		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1817763182	1 =		MC85&XA6GV0	
40510	18	うつ血性壊疽	L	R02	JAS4	=:MC85	=:MC85		1 <		http://id.who.int/icd/entity/188156827	1 <		MC85	
40511	18	末梢壊死	L	R02	JVQP	=:MC85	=:MC85		1 =		http://id.who.int/icd/entity/188156827 & http://id.who.int/icd/entity/1756775526	1 =		MC85 & XA06U6	necrosis(壊死) + Peripheral nerve(末梢) necrosis : Gangreneのsynonymにある。 & Lower extremity →足の壊疽(同義語に下肢壊疽)に修正
40512	18	下腿壊死	L	R02	K1PQ	=:MC85	=:MC85		1 =		http://id.who.int/icd/entity/267962890	1 =		MC85 & XA45A6	
40513	18	血管神経性壊疽	L	R02	KMSC	=:MC85	=:MC85		1 <		http://id.who.int/icd/entity/188156827	1 <		MC85	
40514	18	水腫性壊疽	L	R02	L6F1	=:MC85	=:MC85		1 <		http://id.who.int/icd/entity/188156827	1 <		MC85	Gangrene & Oedema(浮腫)
40515	18	足壊疽	L	R02	LQ50	=:MC85	=:MC85		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1896004518 & http://id.who.int/icd/entity/1896004518	1 =		MC85 & XA47V8	Gangrene & foot
40516	18	神経原性壊疽	L	R02	M5DE	=:MC85	=:MC85		1 <		http://id.who.int/icd/entity/188156827	1 <		MC85	
40517	18	下肢趾脱疽	L	R02	MMJ5	=:MC85	=:MC85		1 ★		http://id.who.int/icd/entity/2093217246 OR http://id.who.int/icd/entity/1735902769	1 ★		MC85 & (XA45A6	下肢と趾の両方をORで表現 necrosis : Gangreneのsynonymにある。 & 【趾=Toes】 M:不番号を等号に修正
40518	18	趾壊死	L	R02	PL62	=:MC85	=:MC85		1 =		http://id.who.int/icd/entity/188156827 & http://id.who.int/icd/entity/1735902769	1 =		MC85 & XA41C9	necrosis : Gangreneのsynonymにある。 & 【趾=Toes】 M:不番号を等号に修正
40519	18	足指壊死	S1	R02	PL62	=:MC85	=:MC85		1 =		http://id.who.int/icd/entity/188156827 & http://id.who.int/icd/entity/1735902769	1 =		MC85 & XA41C9	
40520	18	足趾壊死	S1	R02	PL62	=:MC85	=:MC85		1 =		http://id.who.int/icd/entity/188156827 & http://id.who.int/icd/entity/1735902769	1 =		MC85 & XA41C9	
40521	18	壊死	L	R02	R5EA	=:MC85	=:MC85		1 =		http://id.who.int/icd/entity/188156827	1 =		MC85	necrosis : Gangreneのsynonymにある。 M:不番号を等号に修正
40522	18	下肢壊疽	L	R02	R8H1	=:MC85	=:MC85		1 =		http://id.who.int/icd/entity/267962890	1 =		MC85 & XA45A6	Gangrene & Lower extremity (Lower limbは、index termにある) →Gangrene of leg (synonymusにlower limb gangrene、lower extremity gangreneがある) necrosis : Gangreneのsynonymにある。 & foot
40523	18	足壊死	L	R02	RB16	=:MC85	=:MC85		1 =		http://id.who.int/icd/entity/188156827 & http://id.who.int/icd/entity/1896004518	1 =		MC85 & XA47V8	
40524	18	足部壊死	S1	R02	RB16	=:MC85	=:MC85		1 =		http://id.who.int/icd/entity/188156827 & http://id.who.int/icd/entity/1896004518	1 =		MC85 & XA47V8	
40525	18	手指脱疽	L	R02	RCPN	=:MC85	=:MC85		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1159845363 & http://id.who.int/icd/entity/822750113	1 =		MC85 & XA2593	手指は、手の指と捉えた。
40526	18	指脱疽	S1	R02	RCPN	=:MC85	=:MC85		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1159845363 & http://id.who.int/icd/entity/822750113	1 =		MC85 & XA2593	
40527	18	会陰壊疽	L	R02	RD48	=:MC85	=:MC85		1 =		http://id.who.int/icd/entity/640421277	1 =		MC85 & XA53N9	Gangrene & Perineum →Perineal gangreneに修正
40528	18	皮膚壊死	L	R02	S4U	=:MC85	=:MC85		1 =		http://id.who.int/icd/entity/1159845363	1 <		MC85	skin necrosis : Gangrene of skinのsynonymにある。

No	ICD10 標準病名	代表・ 同義	ICD10 コード	交換 コード	マッピング 情報(旧)	マッピング 情報2022	病名とし て現代で は不適切	確信 度	関係	ICD11 Foundation URI	確信 度	関係	MMS	備考
40529	18 壊死性炎症	L	R02	V3T1	=:MC85	=:MC85		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/118156827	1 =	=	MC85	necrosis : Gangrene のsynonymsにある
40530	18 趾脱疽	L	R02	VEP0	=:MC85	=:MC85		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1159845363 & http://id.who.int/icd/entity/1135902769	1 =	=	MC85 & XA4LC9	Gangrene & 【趾=Toes】 Gangrene & Vertebral column (spine)は、index termにある) → Spinal gangrene に修正 → Gangrene & Lower extremity → Gangrene of leg (synonymusにlower limb gangrene、 lower extremity gangreneがある) F:M:不等号を等号に修正
40531	18 脊椎壊疽	L	R02	VISS	=:MC85	=:MC85		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/695238047	1 <	=	MC85	
40532	18 下腿壊疽	L	R02	VT48	=:MC85	=:MC85		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/267962890	1 =	=	MC85 & XA45A6	
40533	18 非特異的血压上昇	L	R030	CR13	=:MC80.0Z	=:MC80.0Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/523963970	1 =	=	MC80.0Z	
40534	18 白衣高血圧	L	R030	TG4K	=:MC80.0Z	=:MC80.0Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/461779987	1 =	=	MC80.00	White coat hypertension
40535	18 白衣性高血圧	S1	R030	TG4K	=:MC80.0Z	=:MC80.0Z		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/461779987	1 =	=	MC80.00	
40536	18 非特異性低血圧症	L	R031	PID7	=:MC80.1	=:MC80.1		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/2054210520	1 =	=	MC80.1	Nonspecific low blood-pressure reading M:不等号を等号に修正
40537	18 非特異的な血圧低下	S1	R031	PID7	=:MC80.1	=:MC80.1		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/2054210520	1 =	=	MC80.1	
40538	18 非特異性低血圧	S1	R031	PID7	=:MC80.1	=:MC80.1		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/2054210520	1 =	=	MC80.1	
40539	18 特異性鼻出血	L	R040	L3Q1	=:MD20	=:MD20		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/608337668 & http://id.who.int/icd/entity/894194405	1 =	=	MD20 & XB5F	Epistaxis (鼻血) + Idiopathic (特発性) 習慣性は、無し。 類義語に鼻甲介出血があり M:不等号を等号に修正
40540	18 習慣性鼻出血	L	R040	MMKR	=:MD20	=:MD20		1 <	=	http://id.who.int/icd/entity/608337668	1 <	=	MD20	習慣性は、無し。
40541	18 鼻中隔出血	L	R040	PUOK	=:MD20	=:MD20		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/608337668	1 =	=	MD20	類義語に鼻甲介出血があり M:不等号を等号に修正
40542	18 鼻出血症	L	R040	R1T1	=:MD20	=:MD20		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/608337668	1 =	=	MD20	M:不等号を等号に修正
40543	18 鼻出血	S1	R040	R1T1	=:MD20	=:MD20		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/608337668	1 =	=	MD20	
40544	18 鼻出血症)	S1	R040	R1T1	=:MD20	=:MD20		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/608337668	1 =	=	MD20	
40545	18 鼻血	L	R040	SG2H	=:MD20	=:MD20		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/608337668	1 =	=	MD20	Nosebleed : Epistaxisのsynonymsにある。
40546	18 咽喉出血	L	R041	GP9P	=:MD21	=:MD21		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1091154582	1 =	=	MD21	Haemorrhage from throat
40547	18 喉頭出血	L	R041	H8HF	=:MD21	=:MD21		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1091154582	1 =	=	MD21	F:M:不等号を等号に修正
40548	18 声帯出血	L	R041	JDUH	=:MD21	=:MD21		1 <	=	http://id.who.int/icd/entity/1091154582	1 <	=	MD21	
40549	18 突発性咽頭出血	L	R041	MNSR	=:MD21	=:MD21		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1091154582 & http://id.who.int/icd/entity/1385443355	1 =	=	MD21 & XT3Z	pharyngeal haemorrhage : Haemorrhage from throatのsynonyms (咽頭出血) + Rapid onset (特発性)
40550	18 咽頭出血	L	R041	VNBE	=:MD21	=:MD21		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1091154582	1 =	=	MD21	bleeding of pharynx
40551	18 喉血	L	R042	BNNS	=:MD22	=:MD22		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/899998313	1 =	=	MD22	Haemoptysis
40552	18 血痰	L	R042	FLK0	=:MD22	=:MD22		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/899998313	1 =	=	MD22	Blood-stained sputum : Haemoptysisのsynonymsにある。 M:不等号を等号に修正
40553	18 血液混入喀痰	S1	R042	FLK0	=:MD22	=:MD22		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/899998313	1 =	=	MD22	
40554	18 気管内出血	L	R048	BUTH	=:MD23	=:MD23		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/2002615588	1 <	=	MD23	tracheal haemorrhage: Endotracheal haemorrhageのsynonymsにある。
40555	18 肺胞出血	L	R048	CB4D	=:MD23	=:MD23		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/2008581556	1 <	=	MD23	pulmonary alveolar haemorrhage
40556	18 肺胞内出血	S1	R048	CB4D	=:MD23	=:MD23		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/2008581556	1 <	=	MD23	
40557	18 気管支出血	L	R048	GKRC	=:MD23	=:MD23		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/54016416	1 <	=	MD23	bronchial haemorrhage

No	ICD10 章	標準病名	代表・ 同義	ICD10 コード	交換 コード	マッピング 情報(旧)	マッピング 情報2022	病名とし て現代で は不適切	確信 度	関係	ICD11 Foundation URI	確信 度	関係	MMS	備考
40558	18	上気道出血	L	R048	MAQ7	=:MD23	=:MD23		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1042575386	1 <	<	MD23	Upper airway haemorrhage
40559	18	肺出血	L	R048	VIOR	=:MD23	=:MD23		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/54016416	1 <	<	MD23	Pulmonary haemorrhage
40560	18	気道出血	L	R049	SQD9	下:MD22	下:MD22		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/496129435	1 <	<	MD22	Haemorrhage from respiratory passages
40561	18	湿性咳	L	R05	AEDT	=:MD12	=:MD12		1 <	<	http://id.who.int/icd/entity/2027526159	1 <	<	MD12	
40562	18	湿性せき	S1	R05	AEDT	=:MD12	=:MD12		1 <	<	http://id.who.int/icd/entity/2027526159	1 <	<	MD12	
40563	18	乾性咳	L	R05	B48F	=:MD12	=:MD12		1 <	<	http://id.who.int/icd/entity/2027526159	1 <	<	MD12	
40564	18	から咳	S1	R05	B48F	=:MD12	=:MD12		1 <	<	http://id.who.int/icd/entity/2027526159	1 <	<	MD12	
40565	18	乾性せき	S1	R05	B48F	=:MD12	=:MD12		1 <	<	http://id.who.int/icd/entity/2027526159	1 <	<	MD12	
40566	18	からせき	S1	R05	B48F	=:MD12	=:MD12		1 <	<	http://id.who.int/icd/entity/2027526159	1 <	<	MD12	
40567	18	アレルギー性咳嗽	L	R05	CM08	=:MD12	=:MD12		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/2027526159 & http://id.who.int/icd/entity/971190258	1 =	=	MD12 / 4A82	Cough (咳) + Allergic (アレルギー)
40568	18	アレルギー性咳嗽	S1	R05	CM08	=:MD12	=:MD12		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/2027526159 & http://id.who.int/icd/entity/971190258	1 =	=	MD12 / 4A82	
40569	18	アレルギー性咳	S1	R05	CM08	=:MD12	=:MD12		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/2027526159 & http://id.who.int/icd/entity/971190258	1 =	=	MD12 / 4A82	
40570	18	夜間咳	L	R05	E3R6	=:MD12	=:MD12		1 <	<	http://id.who.int/icd/entity/2027526159	1 <	<	MD12	
40571	18	カタリ性咳	L	R05	E6G8	=:MD12	=:MD12		1 <	<	http://id.who.int/icd/entity/2027526159	1 <	<	MD12	
40572	18	カタリ性咳嗽	S1	R05	E6G8	=:MD12	=:MD12		1 <	<	http://id.who.int/icd/entity/2027526159	1 <	<	MD12	
40573	18	遷延性咳嗽	L	R05	PIUV	=:MD12	=:MD12		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/2027526159	1 =	=	MD12 & XT6Z	Cough (咳嗽) + Persistent (遷延性)
40574	18	慢性咳嗽	L	R05	QUUA	=:MD12	=:MD12		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/2027526159 & http://id.who.int/icd/entity/131511357	1 =	=	MD12	Chronic cough
40575	18	アトピー性咳嗽	L	R05	S0S9	=:MD12	=:MD12		1 <	<	http://id.who.int/icd/entity/2027526159	1 <	<	MD12	
40576	18	アトピー性咳嗽	S1	R05	S0S9	=:MD12	=:MD12		1 <	<	http://id.who.int/icd/entity/2027526159	1 <	<	MD12	
40577	18	咳	L	R05	TFVU	=:MD12	=:MD12		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/2027526159	1 =	=	MD12	Cough
40578	18	せき	S1	R05	TFVU	=:MD12	=:MD12		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/2027526159	1 =	=	MD12	
40579	18	咳嗽	S1	R05	TFVU	=:MD12	=:MD12		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/2027526159	1 =	=	MD12	
40580	18	咳失神	L	R05	V5QH	=:MD12	=:MD12		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1647642651	1 <	<	MD12	Tussive syncope
40581	18	咳嗽失神	S1	R05	V5QH	=:MD12	=:MD12		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1647642651	1 <	<	MD12	
40582	18	感染後咳嗽	L	R05	VQGI	=:MD12	=:MD12		1 <	<	http://id.who.int/icd/entity/2027526159	1 <	<	MD12	
40583	18	発作性呼吸困難	L	R060	A98A	=:MD11.5	=:MD11.5		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/960305085	1 =	=	BD11.5	paroxysmal dyspnoea
40584	18	夜間呼吸困難	L	R060	BD09	=:MD11.5	=:MD11.5		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1625623389	1 <	<	MD11.5	Nocturnal dyspnoea
40585	18	呼吸困難発作	L	R060	NRPK	=:MD11.5	=:MD11.5		1 <	<	http://id.who.int/icd/entity/960305085	1 <	<	MD11.5	
40586	18	労作時呼吸困難	L	R060	P8GD	=:MD11.5	=:MD11.5		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1409318119	1 <	<	MD11.5	Exertional dyspnoea
40587	18	労作性呼吸困難	S1	R060	P8GD	=:MD11.5	=:MD11.5		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1409318119	1 <	<	MD11.5	
40588	18	息切れ	L	R060	PHHP	=:MD11.5	=:MD11.5		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/960305085	1 <	<	MD11.5	short of breath: Dyspnoeaのsynonyms
40589	18	呼吸促進	L	R060	T837	=:MD11.5	=:MD11.5		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/960305085	1 =	=	MD11.5	respiratory distress : Dyspnoeaのsynonymsにある。 M:不等号を等号に修正
40590	18	起坐呼吸	L	R060	UPN3	=:MD11.5	=:MD11.5		1 =	=	http://id.who.int/icd/entity/1076152687	1 <	<	MD11.5	Orthopnoea: Dyspnoeaのindex terms

No	ICD10 標準病名	代表・同義	ICD10 コード	交換コード	マッピング情報 (旧)	マッピング情報 2022	病名として現 代では不適切	確信 関係	ICD11 Foundation URI	確信 関係	MMS	備考
42407	19 頭部切創	L	S000	A7QL	=NA00.0Z	=NA00.0Z		1 =	http://id.who.int/icd/entity/103374449	1 =	NA00.Z	Superficial injury of head / cut NOS → NA00.Z Superficial injury of unspecified part of head 頭部の不特定の部分の表面損傷 表在損傷は開いた傷も含んでいる浅い傷ICD10で表在損傷としていたのだからに 做った
42408	19 頭部切傷	S1	S000	A7QL	=NA00.0Z	=NA00.0Z		1 =	http://id.who.int/icd/entity/103374449	1 =	NA00.Z	ICD10では切傷および切創は主に頭部では表在損傷に分類され頭部の一部や頭部以外は開いた傷として分類されている。ICD10での分類を尊重しマッピングに従って分類した。表在損傷は構造連続性の中断の有無にかかわらず、外力の直接的または間接的な結果として頭の表面または浅い組織に与える損傷。NA00.Z Superficial injury of unspecified part of head 頭部の不特定の部分の表面損傷
42409	19 頭皮切傷	S1	S000	A7QL	=NA00.0Z	=NA00.0Z		1 =	http://id.who.int/icd/entity/2055653544	1 =	NA00.0Z	NA00.0Z Superficial injury of scalp, type unspecified 頭皮の表面損傷、タイプ不明
42410	19 頭部の表在損傷	S2	S000	A7QL	=NA00.0Z	=NA00.0Z		1 =	http://id.who.int/icd/entity/103374449	1 =	NA00.Z	NA00.Z 頭部の不特定の部分の表面損傷 superficial head injury
42411	19 頭部虫刺傷	L	S000	A094	=NA00.0Z	=NA00.0Z		1 =	http://id.who.int/icd/entity/2055653544 & http://id.who.int/icd/entity/1704055292	1 <	NA00.0Z & X169A	Superficial injury of scalp & Insect bite, nonvenomous
42412	19 頭皮虫刺傷	S1	S000	A094	=NA00.0Z	=NA00.0Z		1 <	http://id.who.int/icd/entity/30749373	1 <	NA00.0Y	Superficial bite of scalp
42413	19 側頭部下血腫	L	S000	C5NP	=NA00.0Z	=NA00.0Z		1 =	http://id.who.int/icd/entity/125764542 & http://id.who.int/icd/entity/1642669190	1 <	NA00.0Y & XA9D20	Haematoma of scalp & Temporal scalp
42414	19 頭頂部擦過創	L	S000	CND9	=NA00.0Z	=NA00.0Z		1 =	http://id.who.int/icd/entity/1858655630 & http://id.who.int/icd/entity/116521274	1 =	NA00.00 & XA4W34	Abrasion of scalp & Vertex of scalp → Abrasion of parietal region
42415	19 頭頂部擦過傷	S1	S000	CND9	=NA00.0Z	=NA00.0Z		1 =	http://id.who.int/icd/entity/1858655630 & http://id.who.int/icd/entity/1165212746	1 =	NA00.00 & XA4W34	Abrasion of parietal scalp
42416	19 後頭部打撲傷	L	S000	DM2B	=NA00.0Z	=NA00.0Z		1 =	http://id.who.int/icd/entity/1290845313	1 =	NA00.01 & XA7JES	bruise of scalp & frontal scalp → Contusion of occipital region
42417	19 後頭部打撲挫傷	S1	S000	DM2B	=NA00.0Z	=NA00.0Z		1 =	http://id.who.int/icd/entity/1290845313	1 =	NA00.01 & XA7JES	XA7JES Occipital scalp
42418	19 頭部血腫	L	S000	E68R	=NA00.0Z	=NA00.0Z		1 <	http://id.who.int/icd/entity/125764542	1 <	NA00.0Y	Contusion of occipital region
42419	19 頭部外傷性皮下異物	L	S000	ENRA	=NA00.0Z	=NA00.0Z		1 =	http://id.who.int/icd/entity/2055653544 & http://id.who.int/icd/entity/2010469183	1 <	NA00.0Z & X106K	Superficial injury of scalp & Superficial injury of scalp
42420	19 側頭部打撲傷	L	S000	F568	=NA00.0Z	=NA00.0Z		1 =	http://id.who.int/icd/entity/429136267	1 =	NA00.01 & XA9D20	Contusion of occipital region → XA9D20 Temporal scalp 側頭部を追加訂正した
42421	19 側頭部打撲	S1	S000	F568	=NA00.0Z	=NA00.0Z		1 =	http://id.who.int/icd/entity/429136267	1 =	NA00.01 & XA9D20	Contusion of temporal region
42422	19 頭部外傷性皮下気腫	L	S000	FDPH	=NA00.0Z	=NA00.0Z		1 =	http://id.who.int/icd/entity/134353249 & http://id.who.int/icd/entity/1357976561	1 =	NFOA.7 & XA20Q1	Traumatic subcutaneous emphysema, not elsewhere classified & Head
42423	19 頭部皮下血腫	L	S000	GI21	=NA00.0Z	=NA00.0Z		1 =	http://id.who.int/icd/entity/125764542	1 <	NA00.0Y	Haematoma of scalp
42424	19 頭皮皮下血腫	S1	S000	GI21	=NA00.0Z	=NA00.0Z		1 =	http://id.who.int/icd/entity/125764542	1 <	NA00.0Y	Haematoma of scalp
42425	19 頭部下血腫	L	S000	H7FJ	=NA00.0Z	=NA00.0Z		1 =	http://id.who.int/icd/entity/2055653544 & http://id.who.int/icd/entity/2010469183	1 <	NA00.0Z & X106K	Superficial injury of scalp & Superficial injury of scalp
42426	19 外傷性瘻状腱膜下出血	L	S000	HA5T	=NA00.0Z	=NA00.0Z		1 =	http://id.who.int/icd/entity/122906336	1 <	NA00.Y	Subgaleal haematoma
42427	19 頭皮外傷性腫脹	L	S000	K4CP	=NA00.0Z	=NA00.0Z		1 <	http://id.who.int/icd/entity/103374449 / http://id.who.int/icd/entity/603422881	1 <	NA00.Y / ME61	Superficial injury of head / head swelling
42428	19 後頭部挫傷	L	S000	KMFB	=NA00.0Z	=NA00.0Z		1 =	http://id.who.int/icd/entity/1290845313	1 =	NA00.01 & XA7JES	Superficial injury of head / head swelling NA00.01 頭皮の挫傷 XA7JES 後頭頭皮

No	ICD10 標準病名	代表・同義	ICD10 コード	交換コード	マッピング情報 (旧)	マッピング情報 2022	病名として現 代では 不適切	確信 関係	ICD11 Foundation URI	確信 関係	MMS	備考
42429	19 頭部擦過創	L	S000	L6FC	=:NA00.0Z	=:NA00.0Z		1 =	http://id.who.int/icd/ent/hiv/864320047	1 =	NA00.Z & X652	Abrasion of scalp →頭皮以外も含む Abrasion of head NA00.Z Superficial injury of unspecified part of head X652 Abrasion
42430	19 頭部擦過傷	S1	S000	L6FC	=:NA00.0Z	=:NA00.0Z		1 =	http://id.who.int/icd/ent/hiv/864320047	1 =	NA00.Z & X652	Abrasion of head NA00.Z Superficial injury of unspecified part of head X652 Abrasion
42431	19 頭皮擦過傷	S1	S000	L6FC	=:NA00.0Z	=:NA00.0Z		1 =	http://id.who.int/icd/ent/hiv/1858655630	1 =	NA00.00	NA00.00 頭皮の摩擦
42432	19 頭部挫傷	L	S000	MUHA	=:NA00.0Z	=:NA00.0Z		1 =	http://id.who.int/icd/ent/hiv/609452693	1 =	NA00.01	Contusion of scalp
42433	19 頭頂部挫傷	L	S000	NHV6	=:NA00.0Z	=:NA00.0Z		1 =	http://id.who.int/icd/ent/hiv/1469680619	1 =	NA00.01 & XA4W34	NA00.01 頭皮の挫傷 XA4W34 頭頂頭皮
42434	19 頭部皮下出血	L	S000	PK18	=:NA00.0Z	=:NA00.0Z		1 =	http://id.who.int/icd/ent/hiv/1257764542	1 =	NA00.01	Superficial injury of scalp / Bleeding →bruise of scalp
42435	19 頭部打撲傷	L	S000	PV3A	=:NA00.0Z	=:NA00.0Z		1 =	http://id.who.int/icd/ent/hiv/609452693	1 =	NA00.01	bruise of scalp
42436	19 頭皮挫傷	S1	S000	PV3A	=:NA00.0Z	=:NA00.0Z		1 =	http://id.who.int/icd/ent/hiv/609452693	1 =	NA00.01	NA00.01 頭皮の挫傷
42437	19 頭部打撲挫傷	S1	S000	PV3A	=:NA00.0Z	=:NA00.0Z		1 =	http://id.who.int/icd/ent/hiv/1792984458	1 <	NA00.0Z & X19NV	Contusion of head NA00.0Z Superficial injury of scalp, type unspecified X19NV Contusion
42438	19 頭皮打撲傷	S2	S000	PV3A	=:NA00.0Z	=:NA00.0Z		1 =	http://id.who.int/icd/ent/hiv/6094526933	1 =	NA00.01	NA00.01 Contusion of scalp
42439	19 頭部打撲	L	S000	Q2VM	=:NA00.0Z	=:NA00.0Z		1 =	http://id.who.int/icd/ent/hiv/609452693	1 =	NA00.01	Contusion of scalp
42440	19 頭部打撲血腫	L	S000	R2JH	=:NA00.0Z	=:NA00.0Z		1 =	http://id.who.int/icd/ent/hiv/1257764542 & http://id.who.int/icd/ent/hiv/2040998541	1 <	NA00.0Y & X19NV	Haematoma of scalp & Contusion
42441	19 頭皮表在損傷	L	S000	RMF9	=:NA00.0Z	=:NA00.0Z		1 =	http://id.who.int/icd/ent/hiv/2055653344	1 =	NA00.0Z	NA00.0Z 頭皮の表面損傷、タイプ不明
42442	19 頭皮の表在損傷	S1	S000	RMF9	=:NA00.0Z	=:NA00.0Z		1 =	http://id.who.int/icd/ent/hiv/1992376390 OR http://id.who.int/icd/ent/hiv/609452693 & http://id.who.int/icd/ent/hiv/1992376390	1 =	NA00.01 & XA0WKO	bruise of scalp & Frontal scalp
42443	19 前頭部打撲傷	L	S000	RVV9	=:NA00.0Z	=:NA00.0Z		1 =	http://id.who.int/icd/ent/hiv/2055653344	1 =	NA00.02	NA00.02 頭皮の表面損傷、タイプ不明
42444	19 前頭部打撲擦過傷	S1	S000	RVV9	=:NA00.0Z	=:NA00.0Z		1 ★	http://id.who.int/icd/ent/hiv/609452693) & http://id.who.int/icd/ent/hiv/1992376390 OR http://id.who.int/icd/ent/hiv/1858655630	1 ★	NA00.00 or NA00.01 & XA0WKO	Frontal contusion abrasion NA00.00 Abrasion of scalp NA00.01 Contusion of scalp XA0WKO Frontal scalp
42445	19 頭皮下血腫	L	S000	T1EK	=:NA00.0Z	=:NA00.0Z		1 =	http://id.who.int/icd/ent/hiv/1257764542	1 <	NA00.0Y	Haematoma of scalp
42446	19 頭皮皮下出血	S1	S000	T1EK	=:NA00.0Z	=:NA00.0Z		1 =	http://id.who.int/icd/ent/hiv/1257764542	1 =	NA00.01	bruise of scalp
42447	19 前頭部挫傷	L	S000	TT16	=:NA00.0Z	=:NA00.0Z		1 =	http://id.who.int/icd/ent/hiv/609452693 & http://id.who.int/icd/ent/hiv/1992376390	1 =	NA00.01 & XA0WKO	Contusion of scalp & Frontal scalp
42448	19 頭頂部打撲傷	L	S000	VUE1	=:NA00.0Z	=:NA00.0Z		1 =	http://id.who.int/icd/ent/hiv/1469680619	1 =	NA00.01 & XA4W34	Contusion of parietal region → A4W34 Parietal scalp を追加した
42449	19 眼縁打撲傷	L	S001	B3U1	=:NA00.11	=:NA00.11		1 =	http://id.who.int/icd/ent/hiv/1505931447	1 =	NA00.11 & XA3RB1	Contusion (Bruise) of eyelid →XA3RB1 まぶたを足した
42450	19 眼縁皮下出血	L	S001	C1JE	=:NA00.11	=:NA00.11		1 =	http://id.who.int/icd/ent/hiv/533529906	1 =	NA00.11	Superficial injury of eyelid or periorcular area / Subcutaneous bleeding →black eye
42451	19 眼縁血腫	S1	S001	C1JE	=:NA00.11	=:NA00.11		1 =	http://id.who.int/icd/ent/hiv/54641652	1 =	NA06.01	まぶたの血腫
42452	19 眼縁挫傷	L	S001	CERP	=:NA00.11	=:NA00.11		1 =	http://id.who.int/icd/ent/hiv/1505931447	1 =	NA00.11 & XA3RB1	NA00.11 まぶたまたは眼周囲領域の挫傷 XA3RB1 まぶた
42453	19 眼縁部挫傷	S1	S001	CERP	=:NA00.11	=:NA00.11		1 =	http://id.who.int/icd/ent/hiv/1505931447	1 =	NA00.11 & XA3RB1	Contusion of eyelid
42454	19 眼周囲部皮下血腫	L	S001	DCNE	=:NA00.11	=:NA00.11		1 <	http://id.who.int/icd/ent/hiv/6727245559 / http://id.who.int/icd/ent/hiv/1767531314	1 <	NA00.1Z / ND56.0	Superficial injury of eyelid or periorcular area / Subcutaneous haematoma
42455	19 眼部下出血	L	S001	DOF8	=:NA00.11	=:NA00.11		1 =	http://id.who.int/icd/ent/hiv/533529906	1 =	NA00.11	Subcutaneous bleeding →NA00.11 まぶたまたは眼周囲領域の挫傷 Contusion of eyelid or periorcular area

No	ICD10 標準病名	代表・同義	ICD10 コード	交換コード	マッピング情報 (旧)	マッピング情報 2022	病名として現 代では 不適切	確信 関係	ICD11 Foundation URI	確信 関係	MMS	備考
42456	19 眼周囲部挫傷	L	S001	H96L	=:NA00.11	=:NA00.11		1 =	http://id.who.int/icd/entity/208191082	1 =	NA00.11 & XA29E7	NA00.11 または眼周囲領域の挫傷 XA29E7 眼周囲部
42457	19 眼周囲部皮下出血	L	S001	M0JH	=:NA00.11	=:NA00.11		1 =	http://id.who.int/icd/entity/2081910822	1 <	NA00.11 & XA29E7	Superficial injury of eyelid or periorcular area / Subcutaneous bleeding → Contusion of periorcular area XA29E7 Orbital region 眼窩部
42458	19 眼瞼様皮下出血	L	S001	MAEL	=:NA00.11	=:NA00.11		1 <	http://id.who.int/icd/entity/672745559/ http://id.who.int/icd/entity/940081636	1 <	NA00.12 / MG27	Superficial injury of eyelid or periorcular area / Subcutaneous bleeding
42459	19 前額部皮下血腫	L	S001	NUSE	=:NA00.11	=:NA00.11		1 =	http://id.who.int/icd/entity/672745559/ http://id.who.int/icd/entity/1767523134	1 <	NA00.7 / ND56.0	Contusion of supraorbital region / Subcutaneous haematoma
42460	19 眼瞼皮下血腫	L	S001	P944	=:NA00.11	=:NA00.11		1 <	http://id.who.int/icd/entity/672745559/ http://id.who.int/icd/entity/1767523134	1 <	NA00.12 / ND56.0	Superficial injury of eyelid or periorcular area / Subcutaneous haematoma
42461	19 眼部挫傷	L	S001	QD3E	=:NA00.11	=:NA00.11		1 =	http://id.who.int/icd/entity/2081291488/ http://id.who.int/icd/entity/5335292906	1 =	NA00.11	Contusion (Bruise) of eyelid or periorcular area
42462	19 前額部皮下出血	L	S001	QH3E	=:NA00.11	=:NA00.11		1 <	http://id.who.int/icd/entity/2081291488/ http://id.who.int/icd/entity/940081636	1 <	NA00.7 / MG27	Contusion of supraorbital region / Subcutaneous bleeding
42463	19 眼部打撲傷	L	S001	R272	=:NA00.11	=:NA00.11		1 =	http://id.who.int/icd/entity/5335292906	1 =	NA00.11	Contusion of eyelid or periorcular area
42464	19 眼周囲部打撲傷	L	S001	SS17	=:NA00.11	=:NA00.11		1 =	http://id.who.int/icd/entity/2081291488	1 <	NA00.7	Contusion (Bruise) of eyelid or periorcular area
42465	19 前額部挫傷	L	S001	SRMN	=:NA00.11	=:NA00.11		1 =	http://id.who.int/icd/entity/2081291488	1 <	NA00.7	NA00.7 頭部の他の部位または不特定の部位の挫傷
42466	19 額部挫傷	S1	S001	SRMN	=:NA00.11	=:NA00.11		1 =	http://id.who.int/icd/entity/799456171	1 =	NA00.7 & YA6TR8	Contusion of forehead
42467	19 前額挫傷	S1	S001	SRMN	=:NA00.11	=:NA00.11		1 =	http://id.who.int/icd/entity/799456172	1 =	NA00.7 & YA6TR8	Forehead contusion
42468	19 前額部打撲傷	L	S001	VX9B	=:NA00.11	=:NA00.11		1 <	http://id.who.int/icd/entity/2081291488	1 =	NA00.11 & XA5WP1	Contusion (Bruise) of supraorbital region → XA5WP1 眼窩上領域 Supraorbital region を足して眼窩上領域の打撲とした
42469	19 額部打撲	S1	S001	VX9B	=:NA00.11	=:NA00.11		1 =	http://id.who.int/icd/entity/799456171	1 =	NA00.7 & YA6TR8	Contusion of forehead
42470	19 前額部打撲挫傷	S1	S001	VX9B	=:NA00.11	=:NA00.11		1 =	http://id.who.int/icd/entity/799456171	1 =	NA00.7 & YA6TR8	Contusion of forehead
42471	19 眼部下血腫	L	S001	VNAE	=:NA00.11	=:NA00.11		1 <	http://id.who.int/icd/entity/672745559/ http://id.who.int/icd/entity/1767523134	1 <	NA00.12 / ND56.0	Superficial injury of eyelid or periorcular area / Subcutaneous haematoma
42472	19 眼周囲部外傷性腫脹	L	S002	APRN	=:NA00.12	=:NA00.12		1 <	http://id.who.int/icd/entity/672745559/ http://id.who.int/icd/entity/1531077719	1 <	NA00.12 / ME61	Superficial injury of eyelid or periorcular area / localised swelling
42473	19 眼瞼擦過創	L	S002	AHFT	=:NA00.12	=:NA00.12		1 =	http://id.who.int/icd/entity/43620373/ http://id.who.int/icd/entity/142633691	1 =	NA00.10 & XA3RB1	Abrasion of eyelid or periorcular area & Eyelids
42474	19 眼瞼擦過傷	S1	S002	AHFT	=:NA00.12	=:NA00.12		1 =	http://id.who.int/icd/entity/43620373/ http://id.who.int/icd/entity/142633691	1 =	NA00.10 & XA3RB1	Abrasion of eyelid or periorcular area & Eyelids
42475	19 眼瞼皮膚擦過傷	S1	S002	AHFT	=:NA00.12	=:NA00.12		1 =	http://id.who.int/icd/entity/43620373/ http://id.who.int/icd/entity/142633691	1 =	NA00.10 & XA3RB1	Abrasion of eyelid skin abrasion
42476	19 下眼瞼切創	L	S002	BP0U	=:NA00.12	=:NA00.12		1 =	http://id.who.int/icd/entity/187021486/ http://id.who.int/icd/entity/1488820019	1 =	NA00.12 & XA0V9	Abrasion of eyelid or periorcular area & lower eyelid / cut NOS 素在損傷は開いた傷も含んでいる浅い傷なのでcutは省いた NA00.12 Superficial injury of eyelid or periorcular area, unspecified XA0V9 下まぶた
42477	19 前額部外傷性腫脹	L	S002	ELPF	=:NA00.12	=:NA00.12		1 <	http://id.who.int/icd/entity/672745559/ http://id.who.int/icd/entity/1531077719	1 <	NA00.12 & XA5WP1 / ME61	Superficial injury of eyelid or periorcular area & Supraorbital region / localised swelling
42478	19 眼瞼虫刺傷	L	S002	FS1N	=:NA00.12	=:NA00.12		1 =	http://id.who.int/icd/entity/672745559/ http://id.who.int/icd/entity/142633691/ http://id.who.int/icd/entity/1704055292	1 =	NA00.12 & XA3RB1 & XJ06K	Superficial injury of eyelid or periorcular area & Eyelids & Insect bite, nonvenomous
42479	19 眼瞼利虫症	S1	S002	FS1N	=:NA00.12	=:NA00.12		1 =	http://id.who.int/icd/entity/672745559/ http://id.who.int/icd/entity/142633691/ http://id.who.int/icd/entity/1704055292	1 =	NA00.12 & XA3RB1 & XJ06K	Superficial injury of eyelid or periorcular area & Eyelids & Insect bite, nonvenomous

No	ICD10 標準病名章	代表・同義	ICD10 コード	交換コード	マッピング情報 (旧)	マッピング情報 2022	病名として現 代では 不適切	確信 関係	ICD11 Foundation URI	確信 関係	MMS	備考
42480	19 眼縁切創	L	S002	HAF1	=:NA00.12	=:NA00.12		1 =	http://id.who.int/icd/entity/1870214869	1 =	NA00.12 & XA3RB1	Superficial injury of eyelid or periorcular area / cut NOS Superficial injury of eyelid 表在損傷は開いた傷も含んで いる浅い傷なのでcutは省いた
42481	19 眼縁切傷	S1	S002	HAF1	=:NA00.12	=:NA00.12		1 =	http://id.who.int/icd/entity/6727245559_& http://id.who.int/icd/entity/1142633691	1 =	NA00.12 & XA3RB1	NA00.12 Superficial injury of eyelid or periorcular area, unspecified またはまたは眼周領域の表面損傷、不 特定 XA3RB1 Eyelids 眼縁
42482	19 眼縁表在損傷	S2	S002	HAF1	=:NA00.12	=:NA00.12		1 =	http://id.who.int/icd/entity/6727245559	1 =	NA00.12	NA00.12 まぶたまたは眼周領域の表面損傷、不特 定
42483	19 眼周面部外傷性皮下異物	L	S002	JEOP	=:NA00.12	=:NA00.12		1 =	http://id.who.int/icd/entity/6727245559_& http://id.who.int/icd/entity/2010469183	1 =	NA00.1Y & X106K	Superficial injury of eyelid or periorcular area & Superficial foreign body
42484	19 前額部外傷性皮下異物	L	S002	L4JV	=:NA00.12	=:NA00.12		1 =	http://id.who.int/icd/entity/216471431_& http://id.who.int/icd/entity/2010469183	1 =	NA00.1Y & XA5WP1 & X106K	Superficial injury of eyelid or periorcular area &supraorbital region & Superficial foreign body
42485	19 眼面部虫刺傷	L	S002	1965	=:NA00.12	=:NA00.12		1 =	http://id.who.int/icd/entity/6727245559_& http://id.who.int/icd/entity/170405292	1 =	NA00.1Y & X169A	Superficial injury of eyelid or periorcular area &insect bite, nonvenomous
42486	19 前額部擦過創	L	S002	MMFR	=:NA00.12	=:NA00.12		1 =	http://id.who.int/icd/entity/170405292_& http://id.who.int/icd/entity/216471431	1 =	NA00.10 & XA5WP1	Abrasion of eyelid or periorcular area & Supraorbital region
42487	19 前額部擦過傷	S1	S002	MMFR	=:NA00.12	=:NA00.12		1 =	http://id.who.int/icd/entity/862454798_& http://id.who.int/icd/entity/672454798	1 =	NA00.6 & XA6TR8	Forehead abrasion NA00.6 Abrasion of other or unspecified sites of head XA6TR8 Forehead 額
42488	19 前額部擦過傷	S1	S002	MMFR	=:NA00.12	=:NA00.12		1 =	http://id.who.int/icd/entity/174433175	1 =	NA00.6 & XA5WP1	NA00.6 Abrasion of other or unspecified sites of head XA5WP1 眼窩上領域
42489	19 前額部虫刺傷	L	S002	N2FK	=:NA00.12	=:NA00.12		1 =	http://id.who.int/icd/entity/6727245559_& http://id.who.int/icd/entity/216471431_& http://id.who.int/icd/entity/170405292	1 =	NA00.1Y & XA5WP1 & X106K	Superficial injury of eyelid or periorcular area &supraorbital region & insect bite, nonvenomous
42490	19 上眼縁切創	L	S002	NRKL	=:NA00.12	=:NA00.12		1 =	http://id.who.int/icd/entity/1870214869_& http://id.who.int/icd/entity/844452979	1 =	NA00.12 & XA9K79	Superficial injury of eyelid Abrasion of eyelid or periorcular area & upper eyelid/ cut NOS. 表在損傷は開いた傷も含んで浅い傷なので cutは省いた
42491	19 眼周面部虫刺傷	L	S002	PIU6	=:NA00.12	=:NA00.12		1 <	http://id.who.int/icd/entity/6727245559_& http://id.who.int/icd/entity/170405292	1 <	NA00.12 & X169A	Superficial injury of eyelid or periorcular area & insect bite, nonvenomous
42492	19 眼周面部切創	L	S002	QMV0	=:NA00.12	=:NA00.12		1 =	http://id.who.int/icd/entity/53857715	1 =	NA06.04	Superficial injury of eyelid or periorcular area / cut NOS → 頭の開いた傷とした NA06.04 Open wound of eyelid or periorcular area
42493	19 眼周面部切傷	S1	S002	QMV0	=:NA00.12	=:NA00.12		1 =	http://id.who.int/icd/entity/6727245559_& http://id.who.int/icd/entity/950703353	1 =	NA00.12 & XA05B3	NA00.12 Superficial injury of eyelid or periorcular area, unspecified またはまたは眼周領域の表面損傷、不 特定 XA05B3 眼窩周囲領域periorbital region
42494	19 眼周面部表在損傷	S2	S002	QMV0	=:NA00.12	=:NA00.12		1 =	http://id.who.int/icd/entity/6727245559	1 =	NA00.12	NA00.12 まぶたまたは眼周領域の表面損傷、不特 定
42495	19 眼周面部擦過創	L	S002	QSMW	=:NA00.12	=:NA00.12		1 =	http://id.who.int/icd/entity/43620373	1 =	NA00.10	Abrasion of eyelid or periorcular area
42496	19 眼周面部擦過傷	S1	S002	QSMW	=:NA00.12	=:NA00.12		1 =	http://id.who.int/icd/entity/43620373_& http://id.who.int/icd/entity/2115390722	1 =	NA00.10 & XA29E7	Abrasion of eyelid or periorcular area XA29E7 眼周面部
42497	19 外眼角部擦過傷	S2	S002	QSMW	=:NA00.12	=:NA00.12		1 =	http://id.who.int/icd/entity/470128558	1 =	NA00.10 & XA0403	NA00.10 Abrasion of eyelid or periorcular area XA0403 Lateral canthus
42498	19 眼面部外傷性腫脹	L	S002	RKL	=:NA00.12	=:NA00.12		1 <	http://id.who.int/icd/entity/6727245559_/ http://id.who.int/icd/entity/1531077719	1 <	NA00.Y / ME61	Superficial injury of eyelid or periorcular area /Subcutaneous swelling

No	ICD10 標準病名	代表・同義	ICD10 コード	交換コード	マッピング情報 (旧)	マッピング情報 2022	病名として現 代では 不適切	確信 関係	ICD11 Foundation URI	確信 関係	MMS	備考
42499	19 前額部切創	L	S002	RD19	=:NA00.12	=:NA00.12		1 =	http://id.who.int/icd/entity/1033724449 & http://id.who.int/icd/entity/862454798	1 =	NA00.Y & XA6TR8	Abrasion of eyelid or periorcular area & Supraorbital region / cut NOS 表在損傷は開いた傷も含んでいる浅い傷なのでcutは省いた
42500	19 前額部切傷	S1	S002	RD19	=:NA00.12	=:NA00.12		1 =	http://id.who.int/icd/entity/1033724449 & http://id.who.int/icd/entity/862454798	1 =	NA00.Y & XA6TR8	XA6TR8 Forehead 額
42501	19 肩部血腫	L	S002	SHOR	=:NA00.12	=:NA00.12		1 <	http://id.who.int/icd/entity/672745559 & http://id.who.int/icd/entity/466580295 / http://id.who.int/icd/entity/1767523134	1 <	NA00.1Z & XA11Z5 / ND56.0	Subcutaneous haematoma
42502	19 眼部切創	L	S002	TO4P	=:NA00.12	=:NA00.12		1 =	http://id.who.int/icd/entity/672745559	1 =	NA00.1Z	Abrasion of eyelid or periorcular area / cut NOS 表在損傷は開いた傷も含んでいる浅い傷なのでcutは省いた
42503	19 眼部切傷	S1	S002	TO4P	=:NA00.12	=:NA00.12		1 =	http://id.who.int/icd/entity/672745559	1 =	NA00.1Z	眼部=眼球でなく眼全体
42504	19 眼部外傷性皮下異物	L	S002	UEF9	=:NA00.12	=:NA00.1Z		1 <	http://id.who.int/icd/entity/2010469183 / http://id.who.int/icd/entity/1842783299	1 <	NA00.1Y & XJ06K / ND56.Z	Superficial injury of eyelid or periorcular area & Superficial foreign body /trauma NOS
42505	19 眼部擦過創	L	S002	U4GM	=:NA00.12	=:NA00.1Z		1 =	http://id.who.int/icd/entity/43620373	1 =	NA00.10	Abrasion of eyelid or periorcular area
42506	19 眼部擦過傷	S1	S002	U4GM	=:NA00.12	=:NA00.1Z		1 =	http://id.who.int/icd/entity/672745559	1 =	NA00.1Z	eye abrasion
42507	19 眼瞼外傷性皮下異物	L	S002	U4TK	=:NA00.12	=:NA00.1Z		1 =	http://id.who.int/icd/entity/672745559 & http://id.who.int/icd/entity/2010469183	1 <	NA00.1Y & XJ06K	Superficial injury of eyelid or periorcular area & Superficial foreign body
42508	19 眼瞼外傷性腫脹	L	S002	V9RS	=:NA00.12	=:NA00.1Z		1 <	http://id.who.int/icd/entity/1142633691 / http://id.who.int/icd/entity/1531077719	1 <	NA00.1Y & XA3R81 / ME61	Superficial injury of eyelid or periorcular area & Eyelids / localised swelling
42509	19 鼻部皮下出血	L	S003	BNQK	=:NA00.3	=:NA00.3		1 <	http://id.who.int/icd/entity/237738073 / http://id.who.int/icd/entity/940081636	1 <	NA00.3 / MG27	Superficial injury of nose / bleeding
42510	19 鼻部挫傷	L	S003	HGG0	=:NA00.3	=:NA00.3		1 =	http://id.who.int/icd/entity/700862257	1 =	NA00.3 & XJ9NV	Contusion of nose →XJ9NV挫傷を追加した
42511	19 鼻部外傷性皮下異物	L	S003	JCIM	=:NA00.3	=:NA00.3		1 =	http://id.who.int/icd/entity/237738073 & http://id.who.int/icd/entity/2010469183	1 =	NA00.3 & XJ06K	Superficial injury of nose & Superficial foreign body
42512	19 鼻部擦過創	L	S003	M4IS	=:NA00.3	=:NA00.3		1 =	http://id.who.int/icd/entity/2147041560	1 =	NA00.3 & XJ652	Superficial injury of nose & Abrasion
42513	19 鼻部擦過傷	S1	S003	M4IS	=:NA00.3	=:NA00.3		1 =	http://id.who.int/icd/entity/237738073 & http://id.who.int/icd/entity/37475788	1 =	NA00.3 & XJ652	NA00.3 鼻の表面的な損傷
42514	19 鼻部虫刺傷	L	S003	QD81	=:NA00.3	=:NA00.3		1 =	http://id.who.int/icd/entity/1704055292	1 =	NA00.3 & XJ69A	XA652摩擦
42515	19 鼻部切創	L	S003	S2D6	=:NA00.3	=:NA00.3		1 =	http://id.who.int/icd/entity/237738073	1 =	NA00.3	Superficial injury of nose & insect bite, nonvenomous
42516	19 鼻部切傷	S1	S003	S2D6	=:NA00.3	=:NA00.3		1 =	http://id.who.int/icd/entity/2006490446	1 =	NA01.Z & XA3H13	XA6TR8 Forehead 額
42517	19 鼻の表在損傷	S2	S003	S2D6	=:NA00.3	=:NA00.3		1 =	http://id.who.int/icd/entity/237738073	1 =	NA00.3	XA6TR8 Forehead 額
42518	19 鼻部外傷性腫脹	L	S003	TPK8	=:NA00.3	=:NA00.3		1 <	http://id.who.int/icd/entity/1531077719	1 <	NA00.3 / ME61	XA3H13 Nose
42519	19 鼻部皮膚剥離創	L	S003	TVHG	=:NA00.3	=:NA00.3		1 =	http://id.who.int/icd/entity/237738073 / http://id.who.int/icd/entity/707540125	1 =	NA00.3 / ED53	Open wound of nose
												NA01.Z Open wound of head, unspecified
												XA3H13 Nose
												NA00.3 鼻の表面的な損傷 Superficial injury of nose
												Superficial injury of nose / Cut NOS 表在損傷は開いた傷も含んでいる浅い傷なのでcutは省いた
												NA00.3 鼻の表面的な損傷
												Open wound of nose
												NA01.Z Open wound of head, unspecified
												XA3H13 Nose
												NA00.3 鼻の表面的な損傷 Superficial injury of nose
												Superficial injury of nose / localised swelling
												Superficial injury of nose / Skin peeling

III. 研究成果の刊行に関する一覧表

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
小川俊夫.	ICD-11国内適用の現状と課題.	医療情報学	42(Suppl.)	441-442	2022
小川俊夫、滝澤雅美、今井 健、小松雅代、向野雅彦、今村知明.	わが国の公的統計へのICD-11適用の影響に関する一考察：ICD-11準拠の疾病分類構築の試行と影響分析.	医療情報学	42(Suppl.)	450-455	2022
向野雅彦、小松雅代.	疾患統計におけるICD-11 V章の活用手法の検討.	医療情報学	42(Suppl.)	456-459	2022
今井 健.	ICD-11の用語集としての活用と国内用語集との整合性担保に向けた課題.	医療情報学	42(Suppl.)	462-467	2022

厚生労働大臣 殿

機関名 学校法人常翔学園 摂南大学

所属研究機関長 職 名 学長

氏 名 荻田 喜代一

次の職員の令和4年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 研究事業名 政策科学総合研究事業（政策科学推進研究事業）
- 研究課題名 社会構造の変化を踏まえた保健医療にかかる施策立案に資する国際疾病分類の国内導入のための研究
- 研究者名（所属部署・職名） 農学部食品栄養学科・教授
(氏名・フリガナ) 小川 俊夫・オガワ トシオ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称：)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---------------------------------------------------------------------

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由：)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関：)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由：)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容：)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和5年4月4日

厚生労働大臣 殿

機関名 国立大学法人東京大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 藤井 輝夫

次の職員の令和4年度 厚生労働科学研究費補助金 の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 研究事業名 政策科学総合研究事業(政策科学推進研究事業)
- 研究課題名 社会構造の変化を踏まえた保健医療にかかる施策立案に資する国際疾病分類の国内導入のための研究
- 研究者名 (所属部署・職名) 大学院医学系研究科疾患生命工学センター医工情報学部門・准教授
(氏名・フリガナ) 今井 健・イマイタケシ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---------------------------------------------------------------------

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (無の場合はその理由: 令和5年度の委員会で審査予定)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和5年2月1日

厚生労働大臣 殿

機関名 公立大学法人奈良県立医科大学

所属研究機関長 職 名 理事長

氏 名 細井 裕司

次の職員の令和4年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 研究事業名 政策科学総合研究事業（政策科学推進研究事業）
- 研究課題名 社会構造の変化を踏まえた保健医療にかかる施策立案に資する国際疾病分類の国内導入のための研究
- 研究者名 （所属部署・職名） 公衆衛生学講座・教授
（氏名・フリガナ） 今村 知明・イマムラ トモアキ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（※3）	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること （指針の名称：)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査の場合は、その理由を記載すること。

（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---------------------------------------------------------------------

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> （無の場合はその理由：)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> （無の場合は委託先機関：)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> （無の場合はその理由：)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> （有の場合はその内容：)

（留意事項） ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和5年3月14日

厚生労働大臣殿

機関名 北海道大学

所属研究機関長 職名 総長

氏名 實金 清博

次の職員の令和4年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 研究事業名 政策科学総合研究事業（政策科学推進研究事業）
- 研究課題名 社会構造の変化を踏まえた保健医療にかかる施策立案に資する国際疾病分類の国内導入のための研究
- 研究者名 （所属部署・職名）北海道大学病院・教授
（氏名・フリガナ）向野 雅彦・ムカイノ マサヒコ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（※3）	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	藤田医科大学倫理審査委員会	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称：)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査の場合は、その理由を記載すること。

（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---------------------------------------------------------------------

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由：)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関：)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由：)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容：)

（留意事項） ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

厚生労働大臣 殿

機関名 国立大学法人大阪大学

所属研究機関長 職 名 大学院医学系研究科長

氏 名 熊ノ郷 淳

次の職員の令和4年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 政策科学総合研究事業（政策科学推進研究事業）

2. 研究課題名 社会構造の変化を踏まえた保健医療にかかる施策立案に資する国際疾病分類の国内導入のための研究

3. 研究者名（所属部署・職名） 大学院医学系研究科・助教

（氏名・フリガナ） 小松 雅代・コマツ マサヨ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（※3）	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること （指針の名称： ）	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査の場合は、その理由を記載すること。

（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---------------------------------------------------------------------

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> （無の場合はその理由： ）
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> （無の場合は委託先機関： ）
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> （無の場合はその理由： ）
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> （有の場合はその内容： ）

（留意事項） ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

2023年5月7日

厚生労働大臣
(国立医薬品食品衛生研究所長) 殿
(国立保健医療科学院長)

機関名 国際医療福祉大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 鈴木 康裕

次の職員の令和4年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 研究事業名 政策科学総合研究事業（政策科学推進研究事業）
- 研究課題名 社会構造の変化を踏まえた保健医療にかかる施策立案に資する国際疾病分類の国内導入のための研究
- 研究者名 (所属部署・職名) 医療福祉学部 医療福祉・マネジメント学科 講師
(氏名・フリガナ) 滝澤 雅美 (タキザワ マサミ)

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---------------------------------------------------------------------

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。